

第IV章 擦文文化期の調査

擦文文化期の調査では、土坑6基、焼土20ヵ所、土器集中7ヵ所、礫集中10ヵ所が出土している。遺構・遺物はT₁・T₃面の両面から出土しているが、特にT₃面段丘先端部付近から多く出土している。T₃面の段丘平坦面の北東側縁辺には土器集中(ⅢPB-04~06)と焼土(ⅢF-42・45)を確認しているが、他の遺物の分布密度は薄くなっている。これらの土器集中は擦文土器の後期末~終末期のものと思われるもので、文様構成等の他に胎土も類似している。本遺跡の擦文文化期は後期が主体で、T₃面段丘先端部付近がその中心であるが、この頃には段丘平坦面の北東側縁辺に生活の場を移していくようである(図IV-16)。また、ヲチャラセナイチャシ跡の土塁より下位から黒色土を1cm以上挟んで遺構・集中遺物が出土しているものがある。これは、チャシ跡との時間差等を考えていく上で重要なことと考えられる。

表IV-1 擦文文化期遺構群一覧表

遺構名	主体部規模		グリッド	層位	長軸方向	付属遺構			関連遺構	備考
	長軸	短軸				焼土等	礫集中	獣骨集中		
集中区5	860	570	AK・AL-15・16	ⅢbL	N-46°E	ⅢF-30	ⅢSB-04~06	-	-	
集中区6	442	412	AA・AB-17・18	ⅢbL	N-62°E	ⅢF-17	ⅢSB-07	-	ⅢPB-02	

第1節 集中区

擦文文化期の遺構・遺物検出面であるⅢb層下位からは、多数の資料が得られた。その分布を見ると、調査区内において、ある程度の遺物分布密度の濃淡が認められる。特に焼土の一部(ⅢF-17・30)は集中遺物と共にまとまりをもって出土している。これらは遺物の分布密度が高く、焼土との関連性が伺えることから集中区として設定している。擦文文化期の集中区として2ヵ所を設定している。

集中区5 (図IV-2・3 図版30)

位置: AK・AL-15・16 規模: 860×570cm

関連遺構: 焼土 ⅢF-30 礫集中 ⅢSB-04~06

確認・調査: AK・AL-15・16区のⅢb層を調査した際、多数の礫とフレイクが出土した。特に密集して出土した範囲を集中遺物と捉え、礫集中3ヵ所(ⅢSB-04~06)を設定した。礫集中の出土状態についてはデジタル写真実測を委託し、記録を行なった。各礫集中の検出が終了した時点で、ⅢSB-04・05の西側に焼土(ⅢF-30)を検出したため、平面、断面図の作成及び撮影等の記録を行い、土壌サンプルを採取した。これらを報告書作成段階でⅢF-30と礫集中(ⅢSB-04~06)と合わせ集中区として設定した。

焼土(図IV-2): ⅢF-30の一部は根によって攪乱されており、残存部で(45)×40cmを測る焼土である。被熱層の厚さは4cmである。採取した土壌サンプルからは炭化種子、焼骨片ともに得られ

ていない。

礫集中(図IV-2・3) : 集中区に関連する礫集中はⅢSB-04~06の3カ所である。ⅢSB-04は欠損した大型扁平礫4点を中心に構成している礫集中である。この4点を中心に黒曜石の小型のフレイクが335点出土している。このフレイクの石質は、いわゆるナシ肌状のものである。この内の2点について黒曜石の原産地分析を行っており、丸瀬布系・厚和48林班?と同定されている。この集中及び周辺からは、同じ石質の石器等は出土していない。ⅢSB-05・06は共に棒状礫を主体とする礫集中である。

出土遺物(図IV-3) : 1・2は集中区範囲内でやや散逸して出土している。1・2はⅧB3c類の甕の同一個体片である。1は口縁部に矢羽状配置の刻みが廻り、横位の3本1組の沈線文で区画された中に、同じく2~3本1組の沈線文が縦位と斜位に施されている。2は底部片で、外面には弱いミガキが施されている。

表IV-2 集中区5焼土属性表

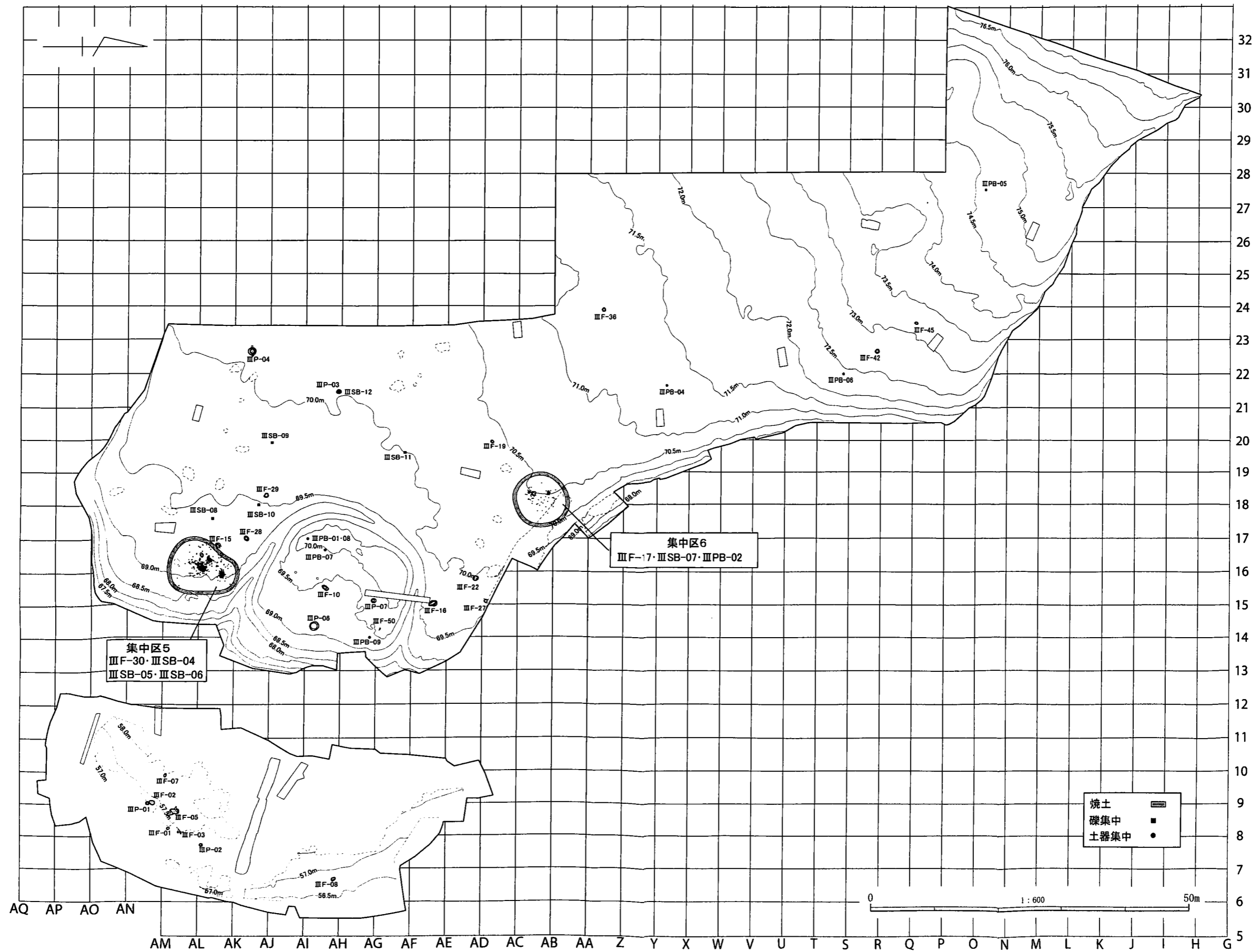
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	確認層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-2	30-2・3	ⅢF-30	AK-16	ⅢbL	楕円形	(45)	40	5	-	

表IV-3 集中区5出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器種	部位	器面調整		文様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部/胴部/底側面	口縁/頸部/胴部	口縁部/文様帯	
IV-3-1	112-1-1	SP007 B	ⅧB3c	ⅢSB-05	ⅢbL	6	甕	口縁部~胴部上半	ナデ/ナデ/縦ミガキ	横ミガキ/横ミガキ/縦ミガキ	沈線文、矢羽状刻み/縦位・斜位・横位沈線文	
				AK-16	ⅢbL	1						
				AL-16	ⅢbL	1						
IV-3-2	112-1-2	SP007 C	ⅧB3c	ⅢSB-05	ⅢbL	1	甕	底部	横ミガキ	ナデ	無文	
				AK-16	ⅢbL	1						

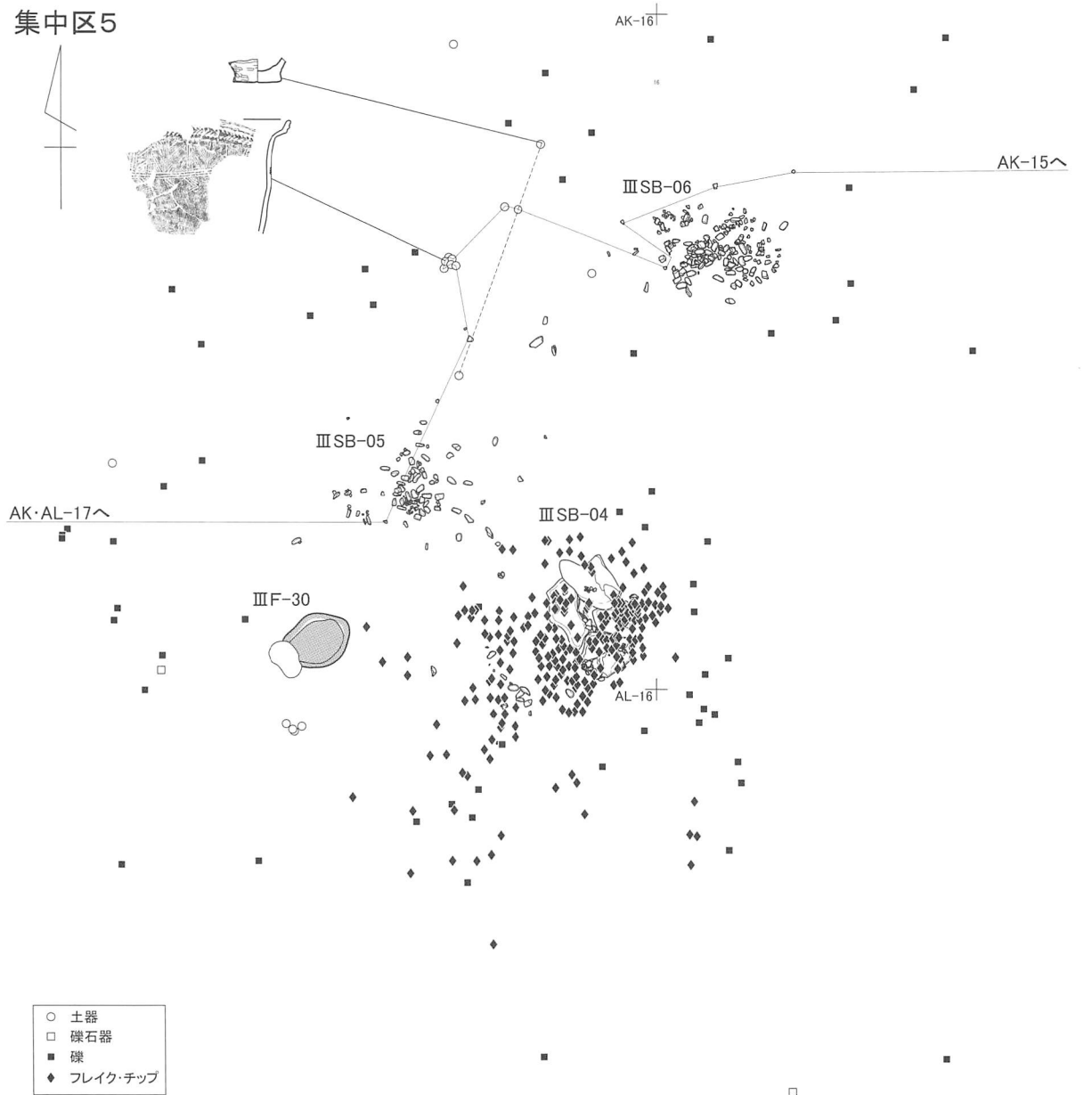
表IV-4 ⅢSB-04属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比標準偏差	重量(g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差						
-		-	7602	ⅢbL	完形	54.0	-43.8	23.0	-32.4	14.0	-8.7	2.3	0.3	27.8	-	Sa.	
-		-	7605	ⅢbL	完形	73.6	-24.2	71.9	16.5	24.1	1.4	1.0	-1.0	56.7	-	Sa.	
-		-	7612	ⅢbL	完形	73.6	-24.2	31.5	-24.0	24.9	2.3	2.3	0.3	64.9	-	Sa.	
-		-	7600	ⅢbL	完形	75.3	-22.5	37.6	-17.8	20.4	-2.3	2.0	0.0	59.4	-	Sa.	
-		-	7601	ⅢbL	完形	75.7	-22.1	42.8	-12.6	22.1	-0.6	1.8	-0.3	91.8	-	Sa.	
-		-	7610	ⅢbL	完形	79.5	-18.3	32.2	-23.2	20.3	-2.4	2.5	0.4	41.0	-	Mud.	
-	112-1	-	7603	ⅢbL	完形	85.1	-12.7	47.6	-7.9	21.2	-1.5	1.8	-0.2	98.0	-	Sa.	
-		ⅢS110	7607 7608	ⅢbL	完形	86.4	-11.4	42.6	-12.9	13.8	-8.9	2.0	0.0	51.1	-	Mud.	
-		-	7604	ⅢbL	完形	92.3	-5.5	38.9	-16.5	28.7	6.1	2.4	0.4	112.6	-	Sa.	
-		-	7606	ⅢbL	完形	93.5	-4.3	39.5	-15.9	25.1	2.5	2.4	0.3	80.9	-	Mud.	
-		-	7690	ⅢbL	完形	94.6	-3.2	37.5	-17.9	21.7	-0.9	2.5	0.5	114.9	-	Sa.	
-		-	7618	ⅢbL	完形	290.0	192.2	220.0	164.6	35.7	13.0	1.3	-0.7	3820.0	-	Sa.	
						97.8		55.4		22.7		2.0		384.9			
															完形12点		



図IV-1 擦文文化期遺構配置図

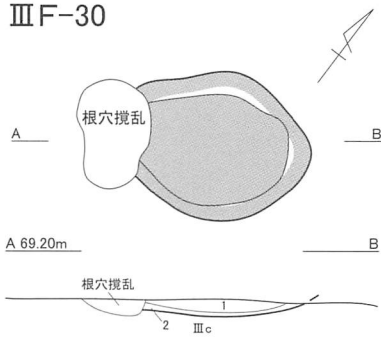
集中区5



- 土器
- 礫石器
- 礫
- ◆ フレイク・チップ

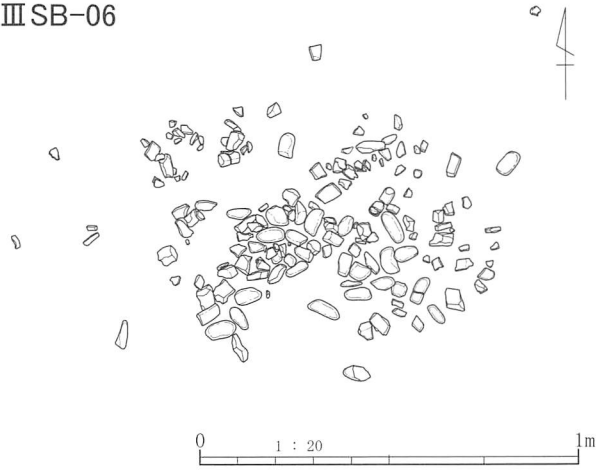


III F-30



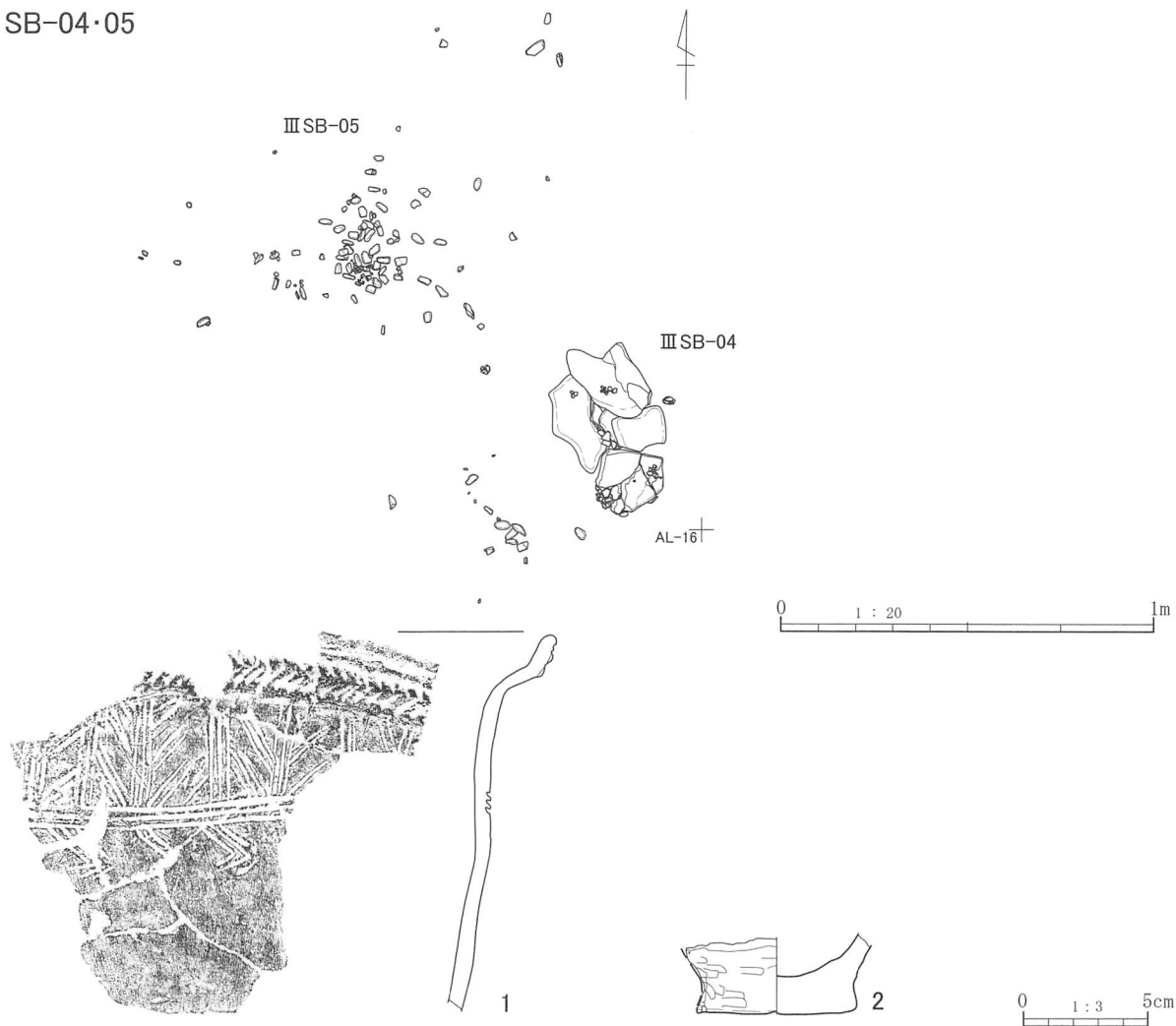
- III F-30
- 1 7.5YR6/8 橙色 IIIc被熱層
 - 2 7.5YR3/4 暗褐色 付帯黒色層

III SB-06



図IV-2 集中区5平面図及び関連遺構

ⅢSB-04・05



図Ⅳ-3 集中区5関連集石微細図及び出土遺物

表Ⅳ-5 ⅢSB-05属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被熱	材質	備考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	7787	ⅢbL	完形	36.7	-31.3	21.5	-12.4	11.7	-5.7	1.7	-0.3	13.9	○	Mud.	
-	-	-	7730	ⅢbL	完形	53.3	-14.7	37.7	3.8	27.1	9.8	1.4	-0.6	71.2	-	Sa.	
-	-	-	7897	ⅢbL	完形	53.9	-14.1	26.0	-7.9	19.3	2.0	2.1	0.0	37.3	-	Sa.	
-	-	-	7773	ⅢbL	完形	55.8	-12.2	31.6	-2.4	22.7	5.4	1.8	-0.3	48.5	○	Sa.	
-	-	-	7772	ⅢbL	完形	56.6	-11.4	30.4	-3.5	18.6	1.3	1.9	-0.2	37.8	-	Sa.	
-	-	ⅢS116	7763	ⅢbL	完形	58.5	-9.5	29.2	-4.7	21.6	4.3	2.0	0.0	52.7	-	Sa.	
-	-	-	7891	ⅢbL	完形	58.5	-9.5	29.2	-4.7	21.6	4.3	2.0	0.0	52.7	-	Sa.	
-	-	-	7751	ⅢbL	完形	58.9	-9.1	40.5	6.6	15.3	-2.0	1.5	-0.6	60.4	-	Sa.	
-	-	-	7894	ⅢbL	完形	59.8	-8.2	31.6	-2.3	9.7	-7.6	1.9	-0.2	21.9	-	Sa.	
-	-	-	7747	ⅢbL	完形	60.4	-7.6	42.1	8.2	26.1	8.8	1.4	-0.6	75.8	-	Sa.	
-	-	-	7734	ⅢbL	完形	61.2	-6.8	38.4	4.5	17.5	0.2	1.6	-0.5	63.9	-	Sa.	
-	112-1	-	7717	ⅢbL	完形	61.5	-6.5	40.6	6.7	10.7	-6.6	1.5	-0.5	39.3	○	Sa.	
-	-	-	7769	ⅢbL	完形	64.3	-3.7	38.5	4.6	26.5	9.2	1.7	-0.4	89.1	-	Sa.	
-	-	-	7732	ⅢbL	完形	64.5	-3.5	22.3	-11.6	18.3	1.0	2.9	0.8	34.4	-	Sa.	
-	-	-	7758	ⅢbL	完形	65.5	-2.5	39.1	5.2	18.0	0.7	1.7	-0.4	46.1	○	Sa.	
-	-	-	7725	ⅢbL	完形	66.2	-1.8	45.3	11.4	14.5	-2.8	1.5	-0.6	58.0	-	Sa.	
-	-	-	7749	ⅢbL	完形	66.3	-1.7	30.7	-3.2	21.8	4.5	2.2	0.1	57.9	-	Sa.	
-	-	-	7722	ⅢbL	完形	66.7	-1.3	31.6	-2.3	12.1	-5.2	2.1	0.1	33.2	-	Mud.	
-	-	-	7764	ⅢbL	完形	67.3	-0.7	35.6	1.7	17.3	0.0	1.9	-0.2	57.0	-	Sa.	
-	-	-	7895	ⅢbL	完形	67.3	-0.7	35.6	1.7	17.3	0.0	1.9	-0.2	57.0	-	Sa.	
-	-	-	7745	ⅢbL	完形	67.7	-0.3	48.9	15.0	20.3	3.0	1.4	-0.7	104.4	-	Sa.	
-	-	-	7729	ⅢbL	完形	68.0	0.0	39.3	5.4	18.4	1.1	1.7	-0.3	69.6	-	Sa.	

表IV-5 III SB-05属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	7789	IIIbL	完形	69.7	1.7	36.5	2.6	13.5	-3.8	1.9	-0.1	42.8	-	Sa.	
-	-	-	7766	IIIbL	完形	70.0	2.0	34.5	0.6	11.4	-5.9	2.0	0.0	39.6	-	Sa.	
-	-	-	7788	IIIbL	完形	70.2	2.2	25.3	-8.6	19.5	2.2	2.8	0.7	45.7	-	Sa.	
-	-	-	7739	IIIbL	完形	70.2	2.2	25.3	-8.6	19.5	2.2	2.8	0.7	45.7	-	Sa.	
-	-	-	7744	IIIbL	完形	70.6	2.6	29.2	-4.7	11.3	-6.0	2.4	0.4	31.1	-	Sa.	
-	-	-	7771	IIIbL	完形	70.6	2.6	29.2	-4.7	11.3	-6.0	2.4	0.4	31.1	-	Sa.	
-	-	-	7776	IIIbL	完形	71.4	3.4	28.2	-5.7	13.7	-3.6	2.5	0.5	26.8	-	Sa.	
-	-	-	7777	IIIbL	完形	71.4	3.4	28.2	-5.7	13.7	-3.6	2.5	0.5	26.8	-	Sa.	
-	-	-	7770	IIIbL	完形	71.7	3.7	29.8	-4.1	14.9	-2.4	2.4	0.4	45.8	-	Sa.	
-	-	-	7724	IIIbL	完形	72.1	4.1	32.0	-1.9	22.8	5.5	2.3	0.2	63.2	-	Sa.	
-	-	-	7757	IIIbL	完形	73.8	5.8	36.3	2.4	14.2	-3.1	2.0	0.0	51.6	-	Mud.	
-	-	-	7760	IIIcM	完形	73.9	5.9	31.3	-2.6	21.3	4.0	2.4	0.3	63.5	-	Sa.	
-	-	-	7761	IIIbL	完形	74.0	6.0	33.4	-0.5	18.1	0.8	2.2	0.2	59.5	-	Sa.	
-	-	-	7762	IIIbL	完形	74.0	6.0	33.4	-0.5	18.1	0.8	2.2	0.2	59.5	-	Sa.	
-	-	-	7743	IIIbL	完形	74.7	6.7	38.9	5.0	13.9	-3.4	1.9	-0.1	48.6	-	Mud.	
-	-	-	7786	IIIbL	完形	74.8	6.8	33.5	-0.4	19.1	1.8	2.2	0.2	68.6	-	Sa.	
-	-	-	7791	IIIbL	完形	75.1	7.1	27.1	-6.8	10.1	-7.2	2.8	0.7	23.9	-	Sa.	
-	-	-	7723	IIIbL	完形	75.5	7.5	36.7	2.8	18.5	1.2	2.1	0.0	63.1	-	Sa.	
-	-	-	7715	IIIbL	完形	82.2	14.2	33.3	-0.6	22.0	4.7	2.5	0.4	74.0	-	Sa.	
-	-	-	7716	IIIbL	完形	82.2	14.2	33.3	-0.6	22.0	4.7	2.5	0.4	74.0	-	Sa.	
-	-	-	7718	IIIbL	完形	83.4	15.4	36.8	2.9	18.1	0.8	2.3	0.2	64.4	-	Sa.	
-	-	-	7753	IIIbL	完形	85.9	17.9	33.3	-0.6	13.2	-4.1	2.6	0.5	47.8	-	Sa.	
-	-	-	7728	IIIbL	完形	102.6	34.6	32.2	-1.7	15.2	-2.2	3.2	1.1	88.9	-	Sa.	
-	-	-	7775	IIIbL	完形	102.6	34.6	32.2	-1.7	15.2	-2.2	3.2	1.1	88.9	-	Sa.	
						68.0		33.9		17.3		2.1		53.2			
完形38点																	

表IV-6 III SB-06属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	III S138	7258	IIIbL	完形	48.0	-22.3	36.8	0.4	17.5	-5.0	1.3	-0.7	46.2	-	Mud.	
-	-	-	7803	IIIbL	完形	48.0	-22.3	36.8	0.4	17.5	-5.0	1.3	-0.7	46.2	-	Mud.	
-	-	-	7244	IIIbL	完形	49.2	-21.1	29.7	-6.7	28.9	6.4	1.7	-0.3	57.2	-	Mud.	
-	-	-	7177	IIIbL	完形	56.5	-13.8	24.0	-12.4	21.5	-1.0	2.4	0.4	41.9	-	Sa.	
-	-	-	7250	IIIbL	完形	63.1	-7.2	26.3	-10.1	21.8	-0.7	2.4	0.4	47.9	-	Sa.	
-	-	-	7253	IIIbL	完形	64.0	-6.2	33.0	-3.4	50.1	27.6	1.9	0.0	50.1	-	Sa.	
-	-	-	7243	IIIbL	完形	64.3	-5.9	38.4	2.0	25.6	3.1	1.7	-0.3	72.4	-	Sa.	
-	-	-	7201	IIIbL	完形	64.8	-5.5	39.3	2.9	13.7	-8.8	1.6	-0.3	39.4	-	Sa.	
-	-	-	7271	IIIbL	完形	64.9	-5.4	29.4	-7.0	15.3	-7.3	2.2	0.2	39.2	-	Sa.	
-	-	-	7313	IIIbL	完形	65.0	-5.3	41.2	4.8	29.4	6.9	1.6	-0.4	95.7	-	Sa.	
-	-	-	7274	IIIbL	完形	67.8	-2.5	32.4	-4.1	24.2	1.7	2.1	0.1	69.4	-	Sa.	
-	-	-	7251	IIIbL	完形	70.7	0.5	34.7	-1.7	17.4	-5.2	2.0	0.1	50.4	-	Sa.	
-	-	III S122	7798	IIIbL	完形	70.7	0.5	34.7	-1.7	17.4	-5.2	2.0	0.1	50.4	-	Sa.	
-	-	-	7799	IIIbL	完形	70.7	0.5	34.7	-1.7	17.4	-5.2	2.0	0.1	50.4	-	Sa.	
-	-	-	7279	IIIbL	完形	70.8	0.6	36.1	-0.3	19.8	-2.7	2.0	0.0	58.4	-	Sa.	
-	-	III S135	7265	IIIbL	完形	71.0	0.7	36.2	-0.2	23.5	1.0	2.0	0.0	76.3	-	Sa.	
-	-	-	7804	IIIbL	完形	71.0	0.7	36.2	-0.2	23.5	1.0	2.0	0.0	76.3	-	Sa.	
-	-	-	7200	IIIbL	完形	71.8	1.5	44.8	8.3	23.1	0.6	1.6	-0.4	93.9	-	Sa.	
-	-	-	7184	IIIbL	完形	71.9	1.7	42.2	5.8	13.3	-9.3	1.7	-0.3	65.3	-	Mud.	
-	-	-	7247	IIIbL	完形	73.2	2.9	40.1	3.7	24.2	1.7	1.8	-0.1	91.2	-	Sa.	
-	-	-	7205	IIIbL	完形	73.2	2.9	42.0	5.5	20.9	-1.7	1.7	-0.2	90.3	-	Sa.	
-	-	-	7260	IIIbL	完形	73.3	3.0	39.8	3.4	21.3	-1.2	1.8	-0.1	85.9	-	Sa.	
-	-	-	7287	IIIbL	完形	74.5	4.3	29.8	-6.6	22.7	0.2	2.5	0.5	46.6	-	Mud.	
-	-	-	7278	IIIbL	完形	74.8	4.5	42.6	6.2	30.8	8.3	1.8	-0.2	106.5	-	Sa.	
-	-	III S124	7229	IIIbL	完形	77.3	7.0	32.5	-3.9	11.0	-11.5	2.4	0.4	41.5	-	Sa.	
-	-	III S129	7174	IIIbL	完形	82.4	12.1	41.3	4.9	26.4	3.9	2.0	0.0	101.0	-	Sa.	
-	-	-	7198	IIIbL	完形	82.4	12.1	41.3	4.9	26.4	3.9	2.0	0.0	101.0	-	Sa.	
-	-	-	7281	IIIbL	完形	84.2	13.9	43.8	7.4	16.9	-5.6	1.9	0.0	84.0	-	Sa.	
-	-	-	7206	IIIbL	完形	88.7	18.4	35.6	-0.9	17.5	-5.1	2.5	0.5	70.8	-	Sa.	
-	-	-	7215	IIIbL	完形	91.3	21.0	38.4	2.0	26.2	3.6	2.4	0.4	98.3	-	Sa.	
						70.3		36.4		22.5		2.0		68.8			
完形25点																	

集中区6 (図IV-4・5 図版 31)

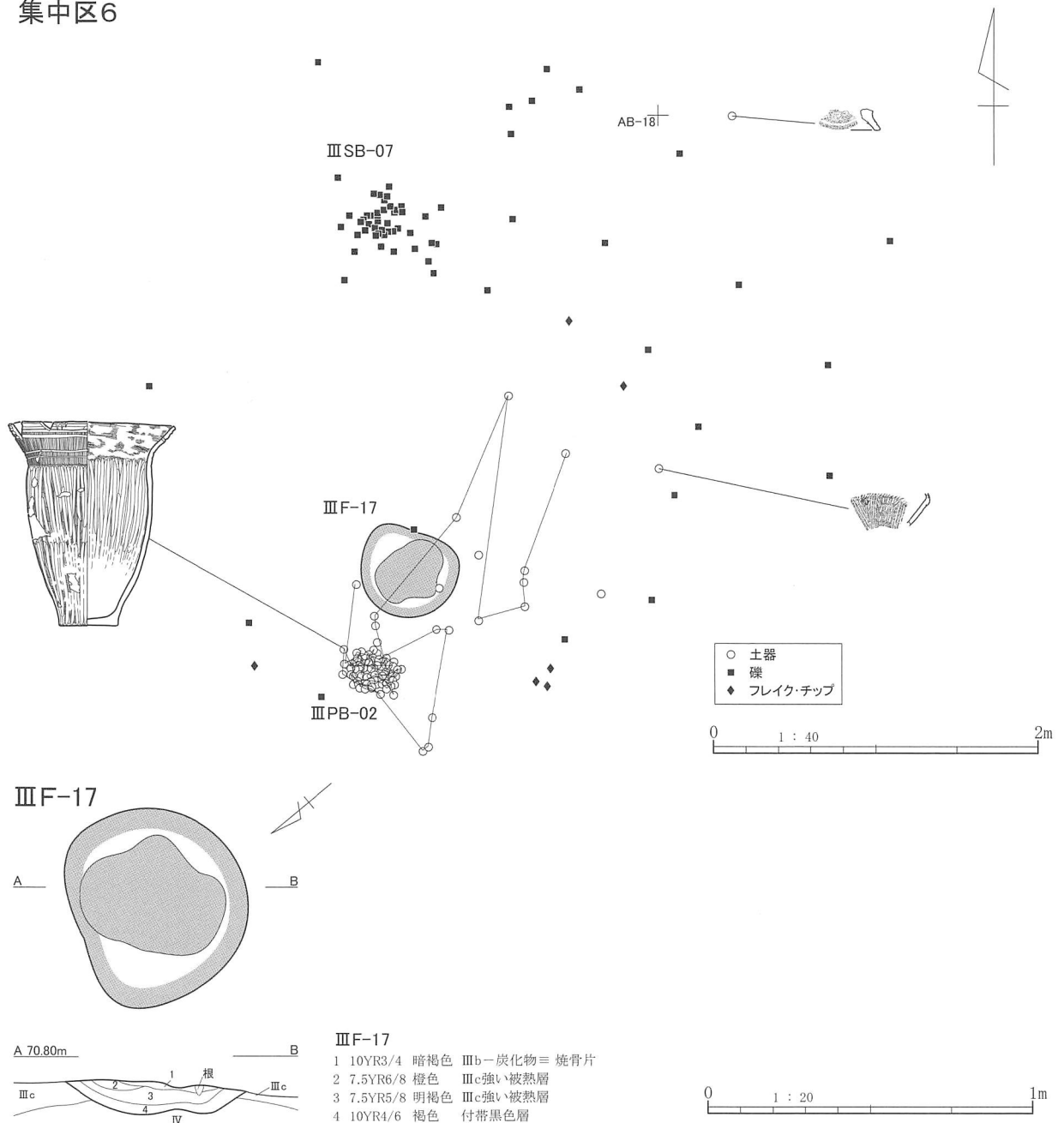
位置：AA・AB-17・18 規模：442×412cm

関連遺構：焼土 III F-17 土器集中 III PB-02 礫集中 III SB-07

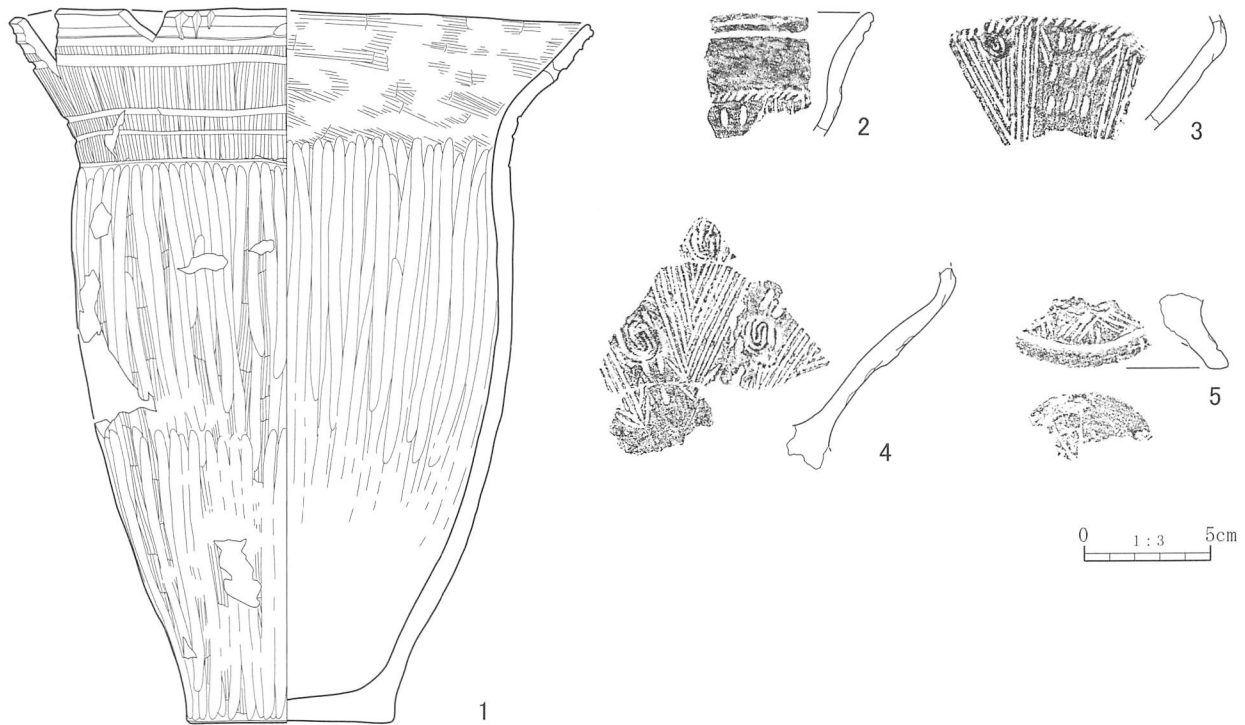
確認・調査：AA・AB-17・18 区のIII b層を調査した際、焼土1カ所(III F-17)と集中遺物(III PB-02・III SB-07)がまとまって出土したことから、この範囲を集中区として捉え撮影を行った。その後、集中遺物の微細図作成は行わず、トータルステーションで位置を記録しながら遺物の取上げを行なった。焼土は平面形、断面の記録を行い、土壌サンプルを採取した。

焼土(図IV-4)：III F-17は60×53cmを測る焼土である。被熱層の厚さは7cmである。土層3の被熱層の赤色化は著しい。フローテーションでキハダの炭化種子と焼骨片が得られている。

集中区6



図IV-4 集中区6平面図及び関連遺構



図IV-5 集中区6出土遺物

土器集中(図IV-4)：ⅢF-17の南側脇で、横に倒れ潰れた状態で検出している。92点の土器片が接合しており、VIC3類の1点を除き全てⅧB1b類の同一個体の破片である。

礫集中(図IV-4)：ⅢF-17の北側2m程に位置する。棒状礫とその破片43点で構成されている。

出土遺物(図IV-5)：1はⅧB1b類の甕である。口唇は角状で非常に浅い沈線文が巡る。口縁には明瞭な段状沈線文が横位に3条施される。胴部と頸部の境には細く明瞭な沈線文が1条巡り、その上位にはやや不明瞭な浅い段状沈線文が横位に2条施される。口唇から口縁にかけて3条1組の深い縦位の刻みが3カ所に施されている。外面の口縁～頸部は縦方向のハケメ、胴部は縦方向のハケメ調整の上からミガキ調整が行なわれている。内面の口縁は横方向のハケメ調整が顕著に残っており、頸部と胴部の境付近では部分的に斜め方向のミガキがある。胴部は縦方向のミガキ調整が行なわれている。2～5はVIC4b類の坏で、同一個体である。3・5がこの集中区から出土しているため、ここで掲載しているが、同一個体片は散逸しており、1と時期が異なるので集中区に関連しないものと考えられる。口唇は丸状で、口縁部は横方向にミガキ調整が施されている。胴部は沈線文、馬蹄形圧痕文、刻み等で文様が施されている。台部の上げ底の底面にも沈線文が施されているが、破片のため文様構成は不明である。内面は黒色処理が施されている。

表IV-7 集中区6焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	確認層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-4	31-2・3	ⅢF-17	AB-18	ⅢbL	円形	60	53	10	骨片	

表IV-8 集中区6出土土器属性表

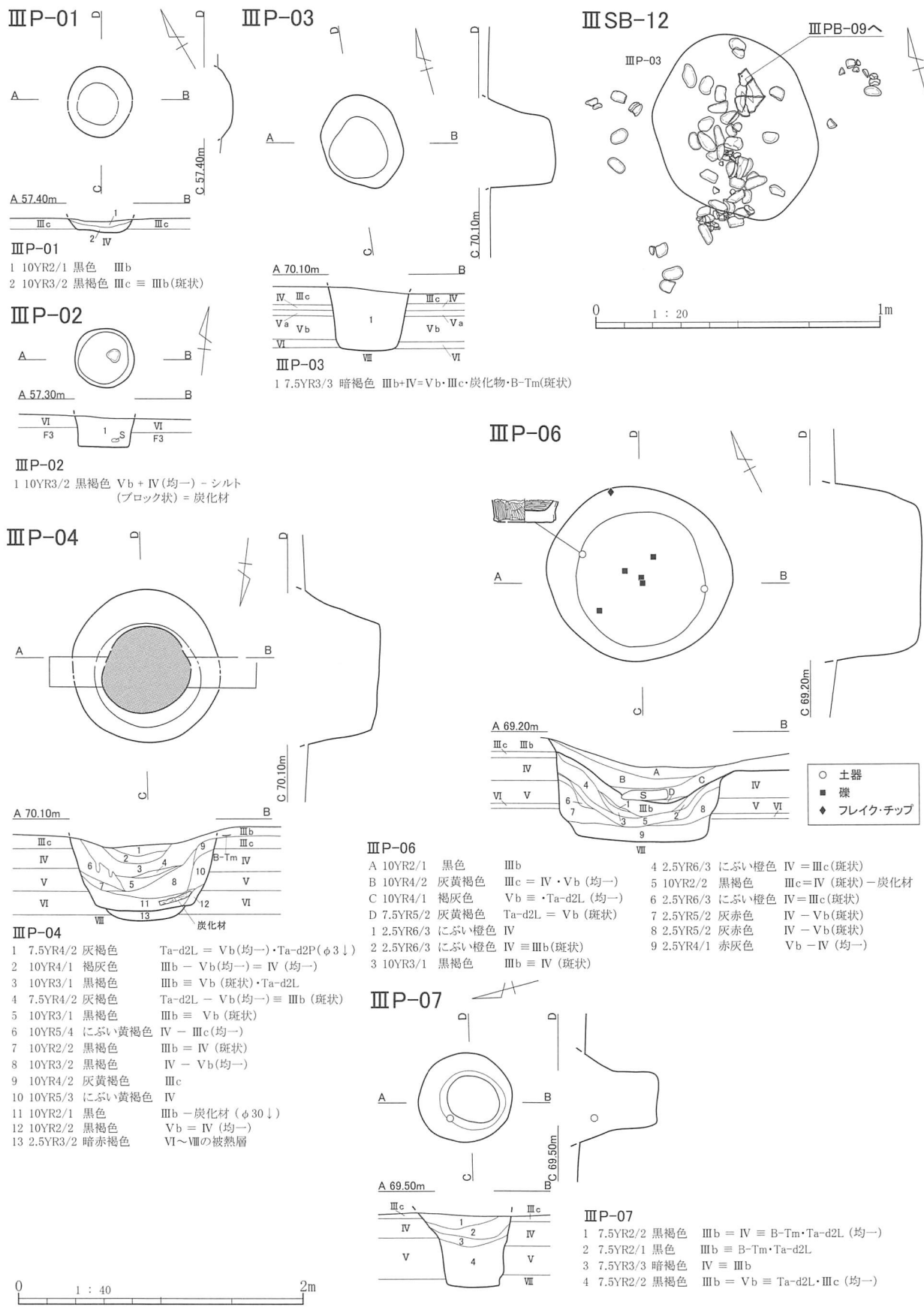
挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	器 種	部 位	器面調整		文 様	備 考
									外側	内側		
									口縁/頸部 /胴部/底側面	口縁/頸部 /胴部	口縁部/ 文様帯	
IV-5-1	112-2-3	SP001	VIIb1b	IIIbP-02	IIIbL	71	甕	口縁部～ 底部	縦ハケメ/縦ハ ケメ/縦ハケメ→ ミガキ/縦ハケメ →縦ミガキ	横ハケメ/横ハケ メ→斜めミガキ /縦ハケメ →縦ミガキ	縦位刻み・ 段状沈線文/ 段状沈線文	
				AB-18	IIIbL	12						
IV-5-2	112-2-4	SP003 A	VIIc4b	AD-19	IIIbM	1	坏	口縁部～ 胴部上半	横ミガキ	弱いミガキ	横位沈線文 /斜位刻み・ 斜位沈線文 /縦位刻み	
IV-5-3	112-2-5	SP003 C	VIIc4b	AD-19	IIIbL	1	坏	胴部	ナデ	弱いミガキ	斜位刻み・ 斜位沈線文・ 縦位刻み・ 馬蹄形押捺 +貼付文	
IV-5-4	112-2-6	SP003 B	VIIc4b	AD-19	IIIbL	1	坏	胴部	ナデ(上半)、縦ミ ガキ(下半)	弱いミガキ	斜位沈線文、 馬蹄形押捺+ 貼付文	
IV-5-5	112-2-7	SP003 D	VIIc4b	AD-19	IIIbM	2	坏	胴部	弱い縦ミガキ	弱いミガキ	斜位沈線文、 横位沈線文、 縦位沈線文	
				IIIH-02	IIIbM	1						
				CHASI	MOI	1						

表IV-9 III SB-07属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比		重量 (g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差	長短比	標準 偏差					
-	-	-	6154	IIIbL	完形	39.0	-19.5	26.4	-1.6	16.0	-0.3	1.5	-0.6	22.8	-	Sa.		
-	-	-	6150	IIIbL	完形	41.3	-17.2	21.5	-6.4	12.5	-3.9	1.9	-0.2	14.9	○	Sa.		
-	-	-	6138	IIIbL	完形	41.8	-16.7	17.4	-10.6	14.1	-2.2	2.4	0.3	15.2	○	Sa.		
-	-	-	6145	IIIbL	完形	46.1	-12.4	25.2	-2.7	9.9	-6.4	1.8	-0.3	16.5	-	Sa.		
-	-	-	6120	IIIbL	完形	46.3	-12.2	28.7	0.7	16.7	0.4	1.6	-0.5	27.9	-	Sa.		
-	-	-	6139	IIIbL	完形	47.2	-11.4	20.3	-7.7	10.4	-5.9	2.3	0.2	12.4	-	Sa.		
-	-	-	6148	IIIbL	完形	47.7	-10.8	25.7	-2.3	12.4	-3.9	1.9	-0.3	18.0	-	Sa.		
-	-	-	6119	IIIbL	完形	47.9	-10.6	27.2	-0.8	17.3	1.0	1.8	-0.4	17.3	-	Sa.		
-	-	-	6116	IIIbL	完形	52.8	-5.7	29.1	1.2	20.1	3.8	1.8	-0.3	37.4	-	Sa.		
-	-	-	6137	IIIbL	完形	57.6	-1.0	29.2	1.2	19.2	2.9	2.0	-0.2	49.5	-	Sa.		
-	-	-	6121	IIIbL	完形	58.6	0.1	32.9	5.0	15.8	-0.5	1.8	-0.4	40.3	-	Sa.		
-	-	-	6127	IIIbL	完形	64.1	5.6	42.1	14.2	15.2	-1.1	1.5	-0.6	49.1	-	Sa.		
-	112-2	-	6133-5	IIIbL	完形	62.6	4.1	19.7	-8.3	19.3	3.0	3.2	1.1	28.7	-	Mud.		
-		6136	IIIbL															
-		-	6130	IIIbL	完形	63.0	4.5	20.8	-7.2	14.1	-2.2	3.0	0.9	25.4	-	Mud.		
-		-	6125	IIIbL	完形	63.4	4.9	31.8	3.9	17.0	0.6	2.0	-0.1	47.7	-	Sa.		
-		-	6135	IIIbL	完形	65.4	6.9	32.1	4.1	22.3	6.0	2.0	-0.1	52.5	-	Sa.		
-		-	6141	IIIbL	完形	65.6	7.1	28.9	0.9	16.6	0.3	2.3	0.1	46.0	○	Sa.		
-		-	6140	IIIbL	完形	66.7	8.2	31.2	3.2	25.1	8.8	2.1	0.0	68.7	-	Sa.		
-		-	6143	IIIbL	完形	67.4	8.9	25.5	-2.5	10.1	-6.2	2.6	0.5	27.2	-	Sa.		
-		-	6118	IIIbL	完形	67.5	9.0	31.3	3.3	13.3	-3.0	2.2	0.0	40.8	-	Sa.		
-		-	6126	IIIbL	完形	68.8	10.3	27.5	-0.4	16.1	-0.2	2.5	0.4	32.4	-	Sa.		
-		-	6144	IIIbL	完形	72.3	13.8	35.7	7.7	21.9	5.6	2.0	-0.1	71.2	-	Sa.		
-		-	6115	IIIbL	完形	75.3	16.8	33.4	5.4	18.2	1.8	2.3	0.1	45.4	-	Mud.		
-		-	6142	IIIbL	完形	75.9	17.4	27.8	-0.1	18.2	1.9	2.7	0.6	46.1	-	Sa.		
						58.5		28.0		16.3		2.1		35.6	完形24点			

第2節 土 坑

III層で検出した土坑は6基である。覆土の内容・堆積状態、また周囲の出土遺物等から全て擦文化期のものと判断している。T₁面で2基、T₃面で4基を検出している。この内、III P-02・03・04は平面形・規模や、壁がほぼ垂直に立ち上がること、土坑内の堆積土が人為的な埋め戻しと考えられること等共通する点が多く、規格的である。



図IV-6 III P 平面図及び断面図

ⅢP-01 (図Ⅳ-6 図版 32-1)

位置：AM-9 規模：49×45×9cm 平面形：円形

確認・調査：T₁面のⅢc層上面で黒色土の落ち込みを確認した。土坑の可能性を考え、長軸上にトレンチを設定し調査したところ、土層断面で底面と壁の立ち上がりが明瞭であることから、土坑と判断し調査を行なった。

形態：平面形は円形で、浅いものである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

堆積状態：堆積土は2層に分層される。レンズ状に堆積することから自然に埋没したものと考えられる。

ⅢP-02 (図Ⅳ-6 図版 32-2・3)

位置：AK-7 規模：43×43×20cm 平面形：円形

確認・調査：T₁面で縄文時代の調査(V層)中に、IV層を含む黒色土の落ち込みを確認した。IV層を含むことから、Ⅲ層の調査で見落とししてしまった土坑と考え、長軸で半截したところ、底面は平坦で壁の立ち上がりも明瞭であったことから土坑と判断した。

形態：平面形は円形である。底面は平坦で、壁は垂直気味に立ち上がる。先述したように、確認が遅れたために土坑上部は削平されており、掘り込み面は20cm程上であったと思われる。

堆積状態：堆積土は1層である。V層主体に、IV層及びシルト層のブロックが均一に混入しており、人為的に埋め戻されたものと考えられる。

ⅢP-03 (図Ⅳ-6 図版 32-4~6)

位置：AH-21 規模：68×54×44cm 平面形：円形

確認・調査：Ⅲb層調査中に礫のまとまりを検出したことから、ⅢSB-12を付番し、全体の検出に努めた。礫集中は棒状礫で構成されている。また、この中から擦文土器の大きな破片も出土しており、これは約32m離れたⅢPB-09と接合し復元している。土器の実測図は図Ⅳ-12-8に掲載している。Ⅲc層近くまで礫を残し掘り下げたところ、不明瞭な黒色土の落ち込みが確認されたので、ⅢSB-12の出土状況図を作成し、遺物を取上げて精査を行った。Ⅲc層上面で明瞭な黒色土の落ち込みを確認し、長軸で半截したところ、底面が平坦で壁の立ち上がりも明瞭であったことから土坑と判断した。

形態：平面形は円形である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がるが、部分的に開口部がやや開くところがある。

堆積状態：堆積土は1層である。Ⅲb層主体の土層にIV・V層が均一に混入していることから、人為的に埋め戻されたと考えられる。上部の棒状礫もほぼ水平に出土していることから看取できる。また、堆積土中にはB-Tmが混入していることから、B-Tm堆積後に構築されたと考えられる。

ⅢP-04 (図Ⅳ-6 図版 32-7・8、33-1・2)

位置：AJ-22 規模：108×104×55cm 平面形：円形

確認・調査：Ⅲc層上面で明瞭な黒色土の落ち込みを確認したことから、土坑と考え調査を行った。長軸で半截し、調査を進めたところ、炭化材が多量に混入した土層を検出したことから、トレンチ

調査に切り替え、この層の把握に努めた。この層は厚く堆積しており、下位では被熱していることが判った。この後は面的に調査を進め、炭化材を多量に含む層と、被熱層の上面（坑底面）で、それぞれ撮影を行い、各種図面を作成している。また、この炭化材を含む層の土壌を 29.70 回収している。

形態：土坑の平面形は確認面・坑底面ともに円形で、底面は平坦で、壁はやや急角度に直線的に開きながら立ち上がっている。土坑底面で形成された焼土の平面形は円形である。規模は 60×64 cmで、厚さ 8 cmを測る。

堆積状態：土層 13 は坑底で形成された焼土である。土層 11 は形状を良好に残す炭化材も多く見られることから、この坑底の焼土に関連する炭化材の層であると考えられ、二次的に埋め戻されたもの等ではない。土層 12 はこの炭化材の層が形成される前に、壁面が崩落したものと考えられる。土層 5～9 は壁面の崩落土と考えられる。土層 1～4 はV層や Ta-d2 が混入した層である。これが人為的に堆積したものか、この土坑の掘り上げ土が周囲に盛られていて、壁面の崩落等と共に流れ込んだ自然堆積なのかは判断することができない。

性格：先述したことから、土坑の底面で火が焚かれたことは明らかで、その後人為的に埋め戻されることなく「穴」の状態であったことが想定される。この焼土は通常の炉跡とは出土状況が異なることから、特殊な機能が考えられる。ただし、フローテーションから得られた内容物（マメ科、キハダ属、ブドウ科、コナラ属等の炭化種子）からは通常の擦文文化期の炉跡との差はあまり見出されない。強いて言えば焼骨片が全く含まれていないことであるが、これが何に起因するのかは現段階では不明である。周囲にこの土坑と関連が考えられる遺構・遺物がないことなどから、類例の増加を待って検討したい。

ⅢP-06（図IV-6 図版 33-3・4）

位置：AH-14 規模：130×125×54cm 平面形：円形

確認・調査：チャシ跡の内郭土塁上面の検出中に、土塁（Ta-d 主体土）上面に黒色土の落ち込みが確認されたことから、チャシに関連する遺構と考え半截したところ、この黒色土の下にチャシの土塁が検出された。更に掘り進めたところ Ta-d2L を底面とする土坑であることが判った。土塁上面で検出した黒色土はこの土坑が完全に埋没しておらず、窪みに堆積したⅢb層であることが判った。この半截が終了した時点で、チャシの土塁に覆われていることからチャシ構築以前のものと判り、土塁と土坑覆土の間にⅢb層が堆積することから擦文文化期のものと想定し、チャシの調査が終了するまで断面図のみ作成し調査を一時中断した。チャシ跡の調査が終了した後、残り部分の調査を進めて完掘し、平面図等の記録を行った。

形態：平面形は円形である。底面は平坦で、壁はやや急角度で立ち上がる。

堆積状態：A～D はチャシ内郭の土塁である。この下にⅢb層が堆積している。堆積状況から土層 1～6 は壁面が崩落し自然に埋没したものと考えられる。土層 9 は底面で水平に堆積しており埋め戻し土のように捉えられるが、土層 7・8 と基本的には同じ性格であり、これも自然堆積と考えられる。また、1～9 の土層には土坑を構築した際に、深く掘ったⅧ層（Ta-d）が含まれていないことから人為的な埋め戻しではないと考えられる。

出土遺物（図IV-7）：1 はⅧb類の底部片である。底面には木の葉の圧痕がある。

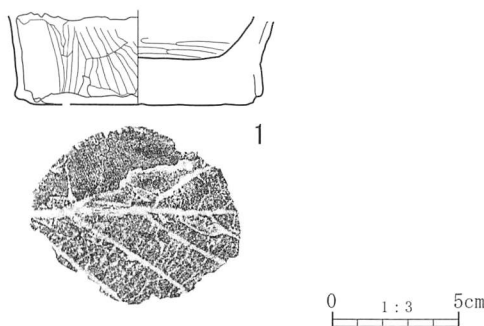
ⅢP-07 (図Ⅳ-6 図版 33-5・6)

位置：AG-16 規模：68×65×50cm 平面形：円形

確認・調査：Ⅲc層上面で明瞭な黒色土の落ち込みを確認し、長軸で半截したところ、平坦な床面と明瞭な壁の立ち上がりを確認したことから土坑と判断し調査を行った。

形態：平面形は円形である。底面は平坦で壁は垂直に立ち上がるが、開口部付近で一部を除き直線的に開く。

堆積状態：土層4はⅢb層にVb・Ⅲc・Ta-d層が均一に混入するもので、人為的な埋め戻しによるものと考えられる。土層3はレンズ状に堆積し、Ⅳ層主体であることから壁面の崩落土と考えられる。また、この土層3を境に壁面が屈曲し広がることから崩落により壁面の形状が変化したものと考えられる。土層1・2はⅢbにTa-d等が均一に混入した土層である。この土層は土坑がチャシ内郭土塁の下位で検出していることから、土塁に関する土層と考えられる。



図Ⅳ-7 擦文文化期土坑出土土器

表Ⅳ-10 擦文土坑属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ(cm)	長軸方向	調査面長短比	坑底面長短比	出土遺物	備考
					調査面/坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
IV-6	32-1	ⅢP-01	AM-9	Ⅲc	円形/円形	49	45	27	26	9	N-45°E	1.09	1.04	-	
IV-6	32-2・3	ⅢP-02	AK-7	Ⅵ	円形/楕円形	43	43	37	33	20	N-28°E	1.00	1.12	○	
IV-6	32-5・6	ⅢP-03	AH-21	Ⅲc	円形/円形	68	54	44	40	44	N-4°W	1.26	1.10	-	
IV-6	32-7・8	ⅢP-04	AJ-22	Ⅲc	円形/円形	108	104	60	54	55	N-15°W	1.04	1.11	-	
IV-6	33-3・4	ⅢP-06	AH-14	Ⅲb	円形/円形	130	125	95	90	54	N-30°E	1.04	1.06	○	
IV-6	33-5・6	ⅢP-07	AG-16	Ⅲc	円形/楕円形	68	65	38	34	50	N-40°E	1.05	1.12	-	

表Ⅳ-11 土坑出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	器種	部位	器面調整		文様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部/胴部/底側面	口縁/頸部/胴部	口縁部/文様帯	
IV-7-1	112-3・8	SP025	VB	ⅢP-06	2	1	甕	底部	縦ハケメ	横ミガキ	-	内面黒色処理、底面圧痕

表IV-12 III SB-12属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)					長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ							標準 偏差
-			6970	IIIbL	完形	49.9	-19.7	33.0	-7.0	16.1	-3.3	1.5	-0.3	36.0	-	Mud.	
-			6971	IIIbL	完形												
-			6967	IIIbL	完形	55.9	-13.7	39.0	-1.1	13.0	-6.5	1.4	-0.3	35.9	-	Sa.	
-			6933	IIIbL	完形	56.2	-13.4	32.0	-8.0	17.4	-2.1	1.8	0.0	33.2	-	Sa.	
-			6962	IIIbL	完形	56.5	-13.1	40.0	0.0	16.4	-3.1	1.4	-0.4	63.1	-	Sa.	
-			6942	IIIbL	完形	56.8	-12.8	36.5	-3.6	28.9	9.5	1.6	-0.2	58.7	-	Sa.	
-			6966	IIIbL	完形	58.8	-10.8	41.5	1.4	16.0	-3.4	1.4	-0.4	60.1	-	Sa.	
-			6974	IIIbL	完形	60.0	-9.6	36.0	-4.1	19.3	-0.2	1.7	-0.1	44.2	-	Sa.	
-			6934	IIIbL	完形	60.4	-9.2	33.2	-6.9	24.7	5.2	1.8	0.1	71.9	-	Sa.	
-			6975	IIIbL	完形	63.2	-6.4	23.4	-16.6	23.2	3.8	2.7	0.9	35.4	-	Sa.	
-			6952	IIIbL	完形	63.2	-6.4	39.2	-0.9	22.0	2.5	1.6	-0.2	61.2	-	Sa.	
-			6924	IIIbL	完形	63.9	-5.7	45.3	5.3	19.8	0.4	1.4	-0.4	74.9	-	Sa.	
-			6946	IIIbL	完形	63.9	-5.7	35.1	-5.0	18.1	-1.4	1.8	0.1	45.4	-	Sa.	
-			6941	IIIbL	完形	65.1	-4.5	44.7	4.6	23.5	4.1	1.5	-0.3	79.0	-	Sa.	
-			6957	IIIbL	完形	65.6	-4.0	34.5	-5.6	11.9	-7.5	1.9	0.1	31.2	-	Sa.	
-			6923	IIIbL	完形	67.2	-2.4	36.9	-3.2	17.8	-1.6	1.8	0.1	59.8	-	Sa.	
-			6945	IIIbL	完形	67.6	-2.0	67.6	27.6	21.0	1.6	1.0	-0.8	86.4	-	Sa.	
-			6960	IIIbL	完形	67.7	-1.9	41.9	1.9	22.1	2.7	1.6	-0.2	66.8	-	Sa.	
-			6958	IIIbL	完形	68.0	-1.6	42.8	2.8	21.6	2.1	1.6	-0.2	67.7	-	Mud.	
-	112-3		6954	IIIbL	完形	69.0	-0.6	48.7	8.7	21.6	2.2	1.4	-0.4	78.0	-	Mud.	
-			6939	IIIbL	完形	69.0	-0.6	40.0	0.0	20.4	1.0	1.7	0.0	61.9	-	Mud.	
-			6986	IIIbL	完形	69.0	-0.6	42.1	2.1	18.4	-1.1	1.6	-0.1	67.4	-	Sa.	
-			6994	IIIbL	完形	70.4	0.8	33.7	-6.4	13.9	-5.5	2.1	0.3	32.6	-	Sa.	
-			6920	IIIbL	完形	71.1	1.6	46.0	6.0	16.8	-2.7	1.5	-0.2	70.8	-	Sa.	
-			6944	IIIbL	完形	71.9	2.3	42.8	2.8	17.9	-1.5	1.7	-0.1	73.2	-	Sa.	
-			6937	IIIbL	完形	72.1	2.5	36.5	-3.5	15.4	-4.0	2.0	0.2	44.1	-	Sa.	
-			6936	IIIbL	完形	72.3	2.7	36.5	-3.5	24.7	5.2	2.0	0.2	61.0	○	Sa.	
-			6963	IIIbL	完形	73.1	3.5	44.3	4.3	15.6	-3.9	1.6	-0.1	60.3	-	Sa.	
-			6929	IIIbL	完形	74.1	4.5	36.5	-3.6	26.5	7.1	2.0	0.3	89.1	-	Sa.	
-			6949	IIIbL	完形	74.2	4.6	40.2	0.2	18.4	-1.0	1.8	0.1	56.9	-	Mud.	
-			6965	IIIbL	完形	74.9	5.3	50.2	10.2	15.9	-3.5	1.5	-0.3	64.6	○	Mud.	
-			6987	IIIbL	完形	75.3	5.7	44.0	4.0	15.9	-3.6	1.7	-0.1	65.5	-	Sa.	
-			6947	IIIbL	完形	76.2	6.6	36.8	-3.2	23.0	3.5	2.1	0.3	63.0	○	Mud.	
-			6948	IIIbL	完形	77.6	8.0	40.0	-0.1	22.7	3.2	1.9	0.2	92.6	-	Mud.	
-			6985	IIIbL	完形	83.3	13.7	38.6	-1.4	16.9	-2.6	2.2	0.4	72.5	-	Sa.	
-			6943	IIIbL	完形	84.1	14.5	37.1	-2.9	19.7	0.3	2.3	0.5	60.5	-	Mud.	
-			6956	IIIbL	完形	85.4	15.8	41.4	1.3	24.5	5.1	2.1	0.3	94.5	-	Sa.	
-			6961	IIIbL	完形	85.9	16.3	39.3	-0.8	23.7	4.3	2.2	0.4	108.3	-	Sa.	
-			6964	IIIbL	完形	87.3	17.7	47.1	7.1	11.0	-8.5	1.9	0.1	61.2	-	Sa.	
-			6955	IIIbL	完形	88.0	18.4	37.2	-2.9	22.6	3.2	2.4	0.6	93.6	-	Sa.	
						69.6		40.0		19.4		1.8		63.6			
						完形39点											

第3節 焼土

IIIb層下位～IIIc層上面において検出し、集中区として捉えられない単独の焼土は合計18カ所確認した。内訳はT₁面で6カ所、T₃面で12カ所である。T₃面では遺物の分布と同じく段丘先端部付近で検出するものが多い。

III F-01 (図IV-8 図版33-7・8)

AL-8区でアイヌ文化期の集石III SB-01の下位で検出した。集石と焼土の燃焼面には黒色土を1cm程挟むことから、擦文文化期の焼土として捉えた。平面形はやや歪な楕円形で、被熱層は厚さ6cmで赤色化が著しい。土層断面で僅かに焼骨片を確認している。フローテーションの結果、クルミ等の炭化種子と哺乳綱の焼骨片が得られている。

ⅢF-02 (図IV-8 図版 34-1・2)

AM-8・9 区のⅢb 層下位で検出した。平面形はやや歪な楕円形である。被熱層は厚さ 10cm を測り、赤色化は著しい。土層 1 はⅢb 層もしくは土壌化した灰層に焼土ブロックが斑状に含まれていることから、灰の掻き出し等により攪拌されたと考えられる。フローテーションの結果、ブドウ科、コナラ属、ミズキ属、クルミ等の炭化種子と哺乳綱の焼骨片が得られている。

ⅢF-03 (図IV-8 図版 34-5・6)

AL-8 区のⅢb 層下位で検出した。焼土の中央部は根穴により攪乱され、平面形は不整形である。被熱層の厚さは 2 cm 程で、赤色化も弱い。フローテーションの結果、ササ属、キハダ属の炭化種子が得られ、現場段階で焼骨片を僅かに確認していたが、回収されていない。

ⅢF-05B (図IV-8 図版 34-5・6)

AL-8 区でアイヌ文化期の 1 号平地式住居跡の炉跡 (ⅢF-05A) と重複して検出した。土層断面で新旧関係が明らかとなり、古いⅢF-05B を擦文文化期のものと捉えた。平面形は不整形である。被熱層は 4cm と薄い、赤色化は著しい。フローテーションから回収されたものは重複するⅢF-05A と帰属が不明瞭であることから、ⅢF-05A で記載している。

ⅢF-07 (図IV-8 図版 34-7・8)

AL-9 区のⅢc 層上面で検出した。平面形は歪な楕円形である。被熱層は 4cm 程と薄い、赤色化は著しい。土層 1 はⅢb 層もしくは土壌化した灰層に焼土ブロックが斑状に含まれている層で、灰の掻き出し等により攪拌された可能性がある。

ⅢF-08 (図IV-8 図版 35-1・2)

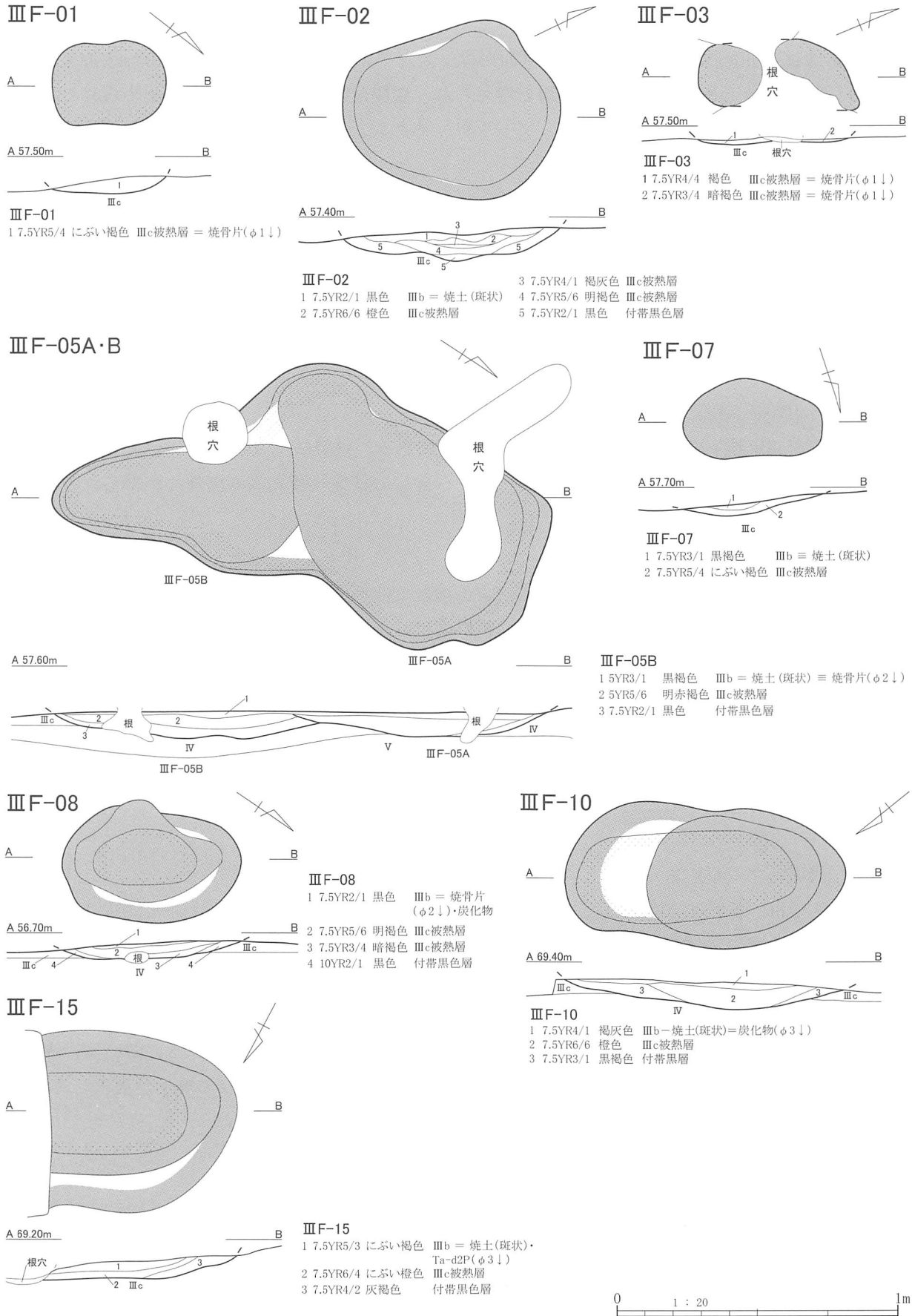
AH-06 区のⅢc 層上面で検出した。平面形は楕円形である。被熱層は 6 cm 程で、赤色化は著しい。フローテーションからは冬芽の炭化種子と哺乳綱の焼骨片が得られている。

ⅢF-10 (図IV-8 図版 35-3・4)

AH-15 区でチャシの内郭平地式建物跡の柱穴を確認する為に、Ⅲb 層の精査を行なっていたところ、Ⅲb 層下位で検出した。平面形は非常に細長い楕円形である。被熱層は 10cm と厚く、赤色化が著しい。土層 1 はⅢb 層もしくは土壌化した灰層に焼土ブロックが斑状に含まれていることから灰の掻き出し等により攪拌されたと考えられる。フローテーションの結果、焼骨片が僅かに得られている。

ⅢF-15 (図IV-8 図版 35-5・6)

AK-16 区のⅢb 層下位で検出した。東側は根穴により攪乱している。平面形は楕円形である。被熱層の厚さは 6 cm 程で赤色化は著しい。土層 1 はⅢb 層もしくは土壌化した灰層に焼土ブロックが斑状に含まれていることから灰の掻き出し等により攪拌されたと考えられる。但し、この土層に Ta-d2 パミスが僅かに含まれているが、これが何に起因するのかわからない。フローテーションの結果、魚綱と哺乳綱の焼骨片が得られている。



図IV-8 擦文文化期焼土平面図及び断面図(1)

ⅢF-16 (図IV-9 図版 36-1・2)

AE-14・15 区のⅢb 層下位で検出した。平面形は長大な不整形である。被熱層は 10 cm と厚く、赤色化が著しい。土層 1・2 は土壌化した灰層と考えられ、現場段階でも魚骨等が多く認められた。フローテーションの結果、ササ属、マメ科、ブドウ科、モクレン属、コナラ科、クルミ属等の炭化種子と魚網と哺乳網の焼骨片が得られている。

ⅢF-19 (図IV-9 図版 36-1・2)

AC-19 区のⅢb 層下位で検出した。平面形は不整形である。被熱層は 6 cm 程で、平面の規模が小さいが厚く形成されている。フローテーションの結果、キハダ属、ブドウ科の炭化種子とサケ科の歯が得られている。

ⅢF-22 (図IV-9 図版 36-3・4)

AD-15 区のⅢb 層下位で検出した。平面形は円形である。被熱層は 9 cm で、赤色化は著しい。土層 3 の被熱層は中央部で窪んでいる。フローテーションの結果、哺乳網の焼骨片が得られている。

ⅢF-27 (図IV-9)

AC-15 区のⅢb 層下位で検出した。根穴による攪乱で北西側は大きく壊されている。平面形は残存部の形状から楕円形であったと思われる。被熱層は 6 cm である。大きく攪乱されていたため土壌の回収は行っていない。

ⅢF-28 (図IV-9 図版 36-5・6)

AJ-16・17 区のⅢb 層下位で検出した。平面形は楕円形である。被熱層は 3 cm と非常に薄い、赤色化は著しい。土壌の回収は行っていない。

ⅢF-29 (図IV-9 図版 36-7・8)

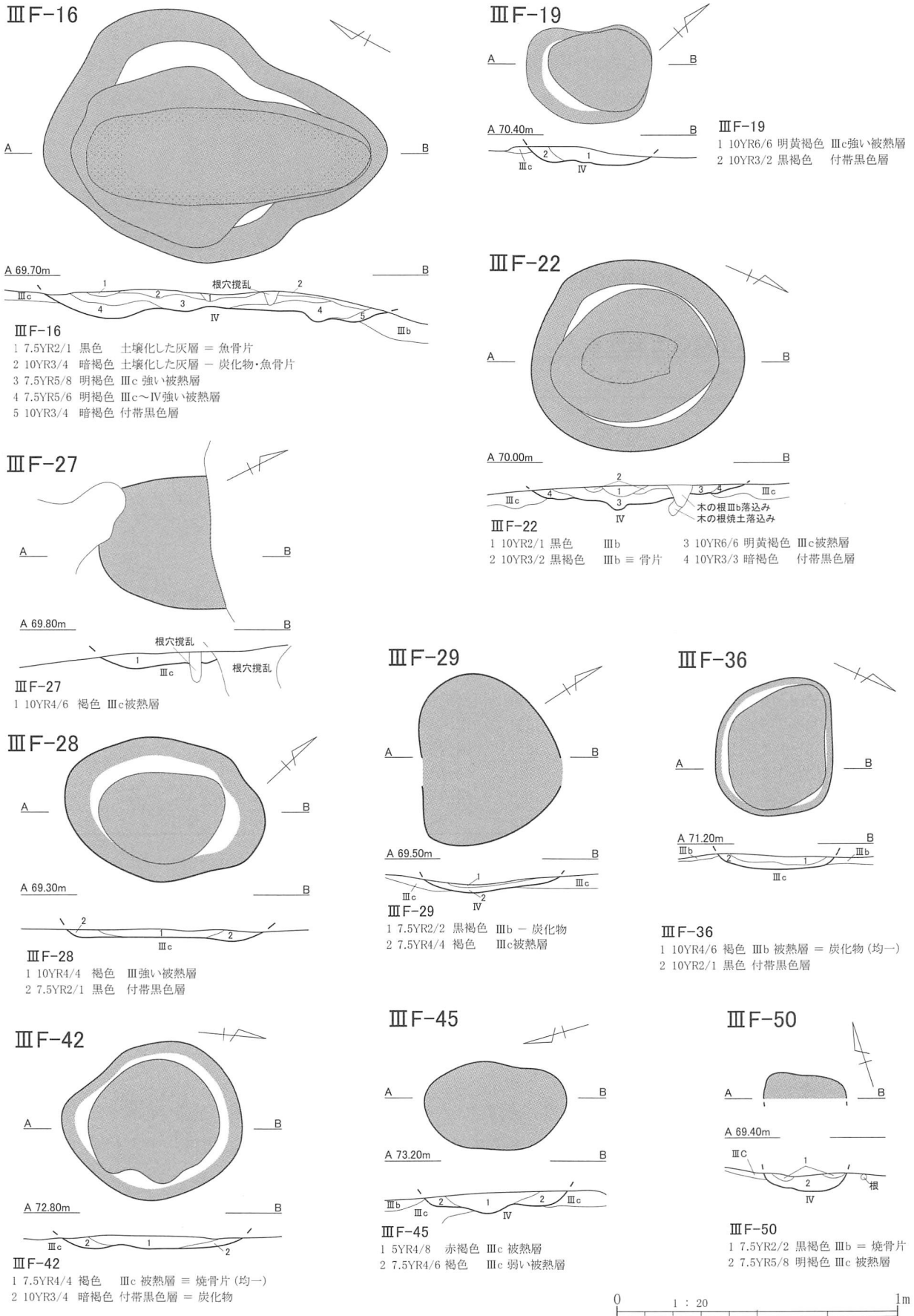
AJ-18 区のⅢb 層下位で検出した。平面形は楕円形である。被熱層は 2 cm と非常に薄い、赤色化は著しい。土層 2 の被熱層は中央部が浅く窪んでいる。哺乳網の骨が僅かに得られている。

ⅢF-36 (図IV-9 図版 37-1・2)

Z-23 区のⅢb 層下位で検出した。平面形は楕円形である。被熱層は 3 cm と非常に薄い、赤色化は著しい。上面には非常に薄くⅢb 層もしくは土壌化した灰層にブロック状の焼土が混入している。フローテーションの結果、キハダ属、クルミ属の炭化種子が得られている。

ⅢF-42 (図IV-9 図版 37-3・4)

R-22 区のⅢc 層上面で検出した。平面形は円形である。被熱層は 4 cm とやや薄い、赤色化は著しい。土層 1 の被熱層上面には焼骨片が僅かに認められる。フローテーションの結果でも、焼骨片が得られている。



図IV-9 擦文文化期焼土平面図及び断面図(2)

ⅢF-45 (図IV-9 図版 37-5・6)

P-23 区のⅢc 層上面で検出した。平面形は楕円形である。被熱層は 8 cm と厚く、赤色化も非常に著しい。回収した土壌のフローテーションを行ったが、動植物の遺存体は得られていない。

ⅢF-50 (図IV-9 図版 37-7・8)

AF-14 区でチャシ内郭土塁の下位のⅢc 層上面で検出した。南側はチャシ跡調査時のトレンチにより掘削している。残存部から平面形は判断できない。被熱層は 6 cm 程あるが、赤色化は乏しい。フローテーションの結果、哺乳綱の焼骨片が得られている。

表IV-13 擦文文化期焼土属性表

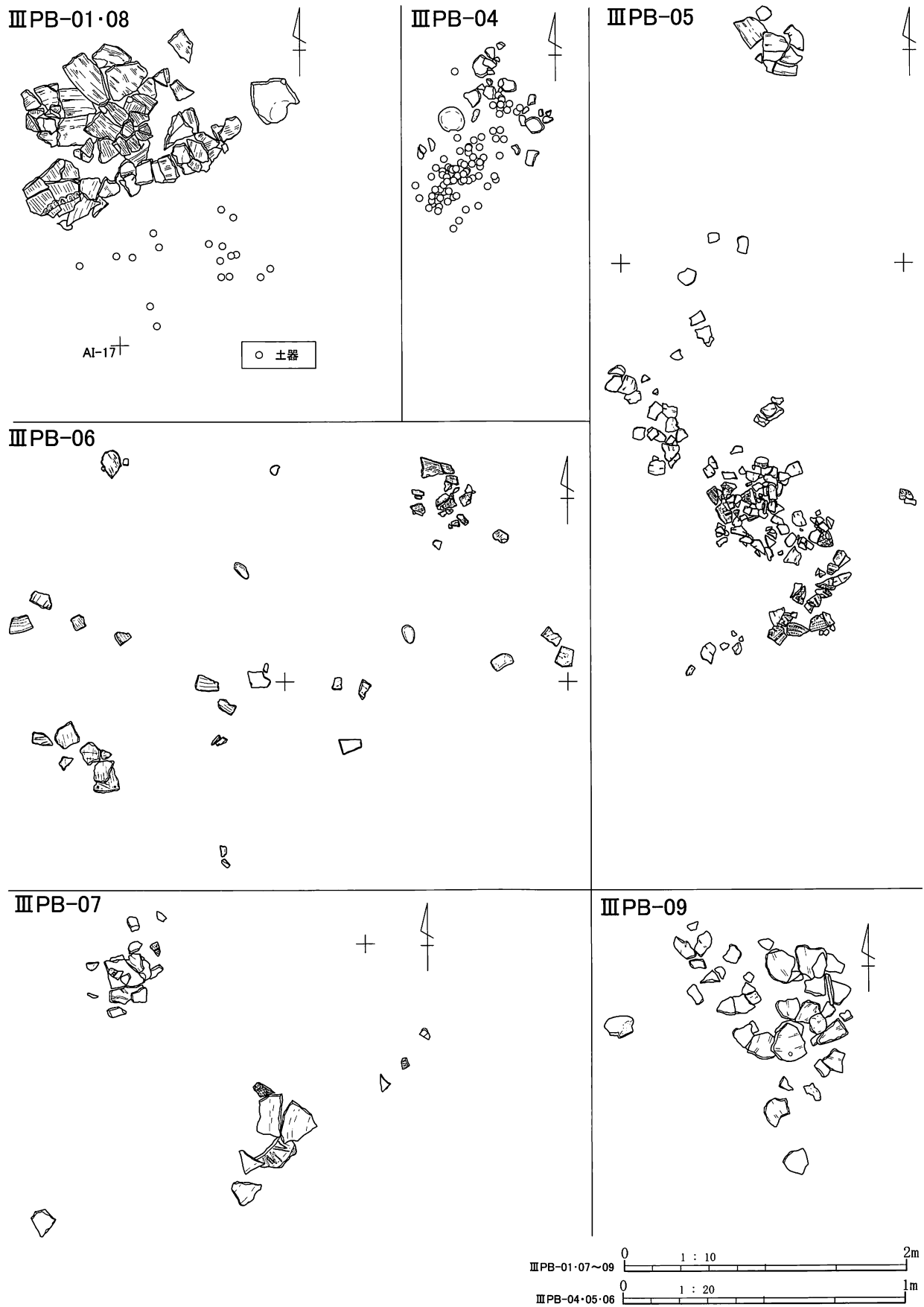
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	確認層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
IV-8	33-7・8	ⅢF-01	AL-8	ⅢbL	楕円形	41	30	6	骨片	
IV-8	34-1・2	ⅢF-02	AM-8・9	ⅢbL	楕円形	77	63	10	-	
IV-8	34-3・4	ⅢF-03	AL-8	ⅢbL	不整形	59	20	2	骨片	
IV-8	34-5・6	ⅢF-05B	AL-8	ⅢbM	不整形	(86)	61	10	骨片	
IV-8	34-7・8	ⅢF-07	AL-9	ⅢcU	楕円形	50	28	4	-	
IV-8	35-1・2	ⅢF-08	AH-6	ⅢbL	楕円形	64	43	6	骨片	
IV-8	35-3・4	ⅢF-10	AH-15	ⅢbL	楕円形	100	50	10	-	
IV-8	35-5・6	ⅢF-15	AK-16	ⅢbL	楕円形	(67)	64	7	-	
IV-9	35-7・8	ⅢF-16	AE-14・15	ⅢbL	不整形	125	88	10	骨片	
IV-9	36-1・2	ⅢF-19	AC-19	ⅢbL	不整形	45	35	6	-	
IV-9	36-3・4	ⅢF-22	AD-15	ⅢbL	円形	77	68	9	骨片	
IV-9	-	ⅢF-27	AC-15	ⅢbL	楕円形?	(40)	47	6	-	
IV-9	36-5・6	ⅢF-28	AJ-16・17	ⅢbL	楕円形	72	51	3	-	
IV-9	36-7・8	ⅢF-29	AJ-18	ⅢbL	楕円形	60	50	3	-	
IV-9	37-1・2	ⅢF-36	Z-23	ⅢbL	楕円形	48	42	5	-	
IV-9	37-3・4	ⅢF-42	R-22	Ⅲc	円形	65	57	5	骨片	
IV-9	37-5・6	ⅢF-45	P-23	Ⅲc	楕円形	50	30	8	-	
IV-9	37-7・8	ⅢF-50	AF-14	Ⅲc	不明	30	(10)	6	骨片	

第4節 集中遺物

集中区に含まれず、単独で検出した土器集中はⅢPB-01・04～09 である。但しⅢPB-01・08 は同一の土器集中に調査年度がまたがり重複して付番したもので、6 カ所である。礫集中はⅢSB-08～11 の 4 カ所である。以下で個別に記載する。

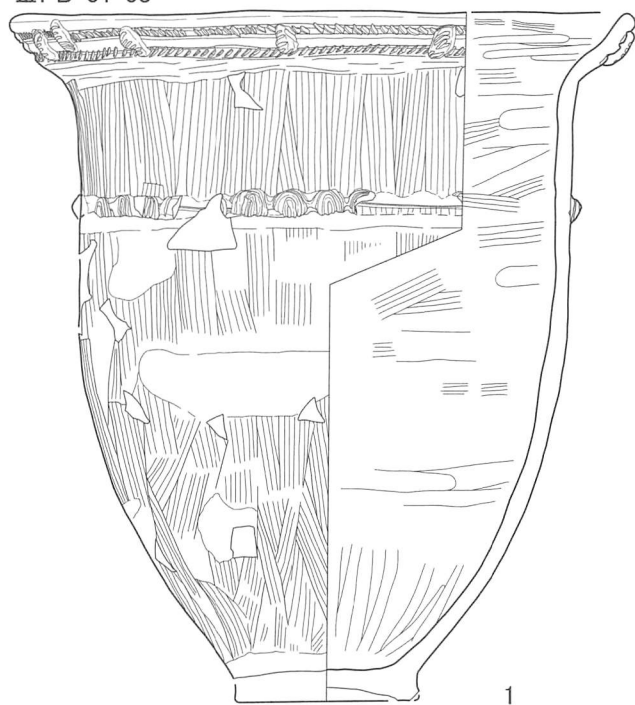
ⅢPB-01・08 (図IV-10、11-1 図版 38-1・2)

AH-16・17 区で検出した。平成 20 年度の調査でチャシ内郭の土塁の堆積状態を確認する為に設定したトレンチの調査中に、土塁下のⅢb 層下位で土器のまとまりを確認し、ⅢPB-01 と付番した。土層の堆積状況の確認を優先させるため、土器の広がりを確認することなく位置を記録して取り上げている。平成 22 年度の調査でチャシ跡の土塁の調査を進めたところ、土塁下のⅢb 層下位で土器のまとまりを検出しⅢPB-08 と付番し調査をしたが、後で出土位置等からⅢPB-01 と一体をなすものであると判った。土器集中は斑状に堆積する B-Tm 層より上で検出し、チャシ内郭土塁の土層との間にⅢb 層を 1cm 程挟む。50×50cm の範囲から SP054 の個体片で構成される 93 点の土器が出土している。

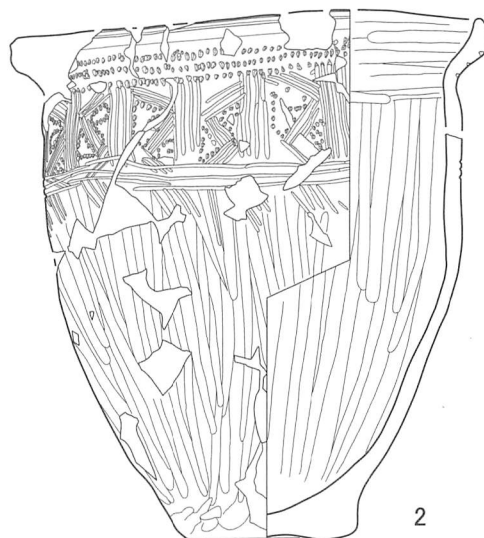


図IV-10 擦文文化期土器集中微細図

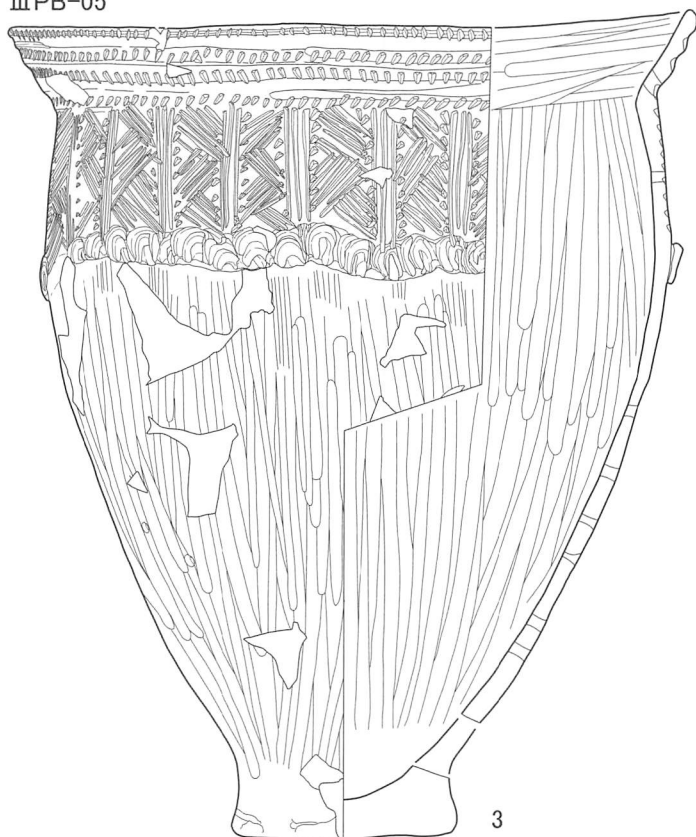
ⅢPB-01・08



ⅢPB-04

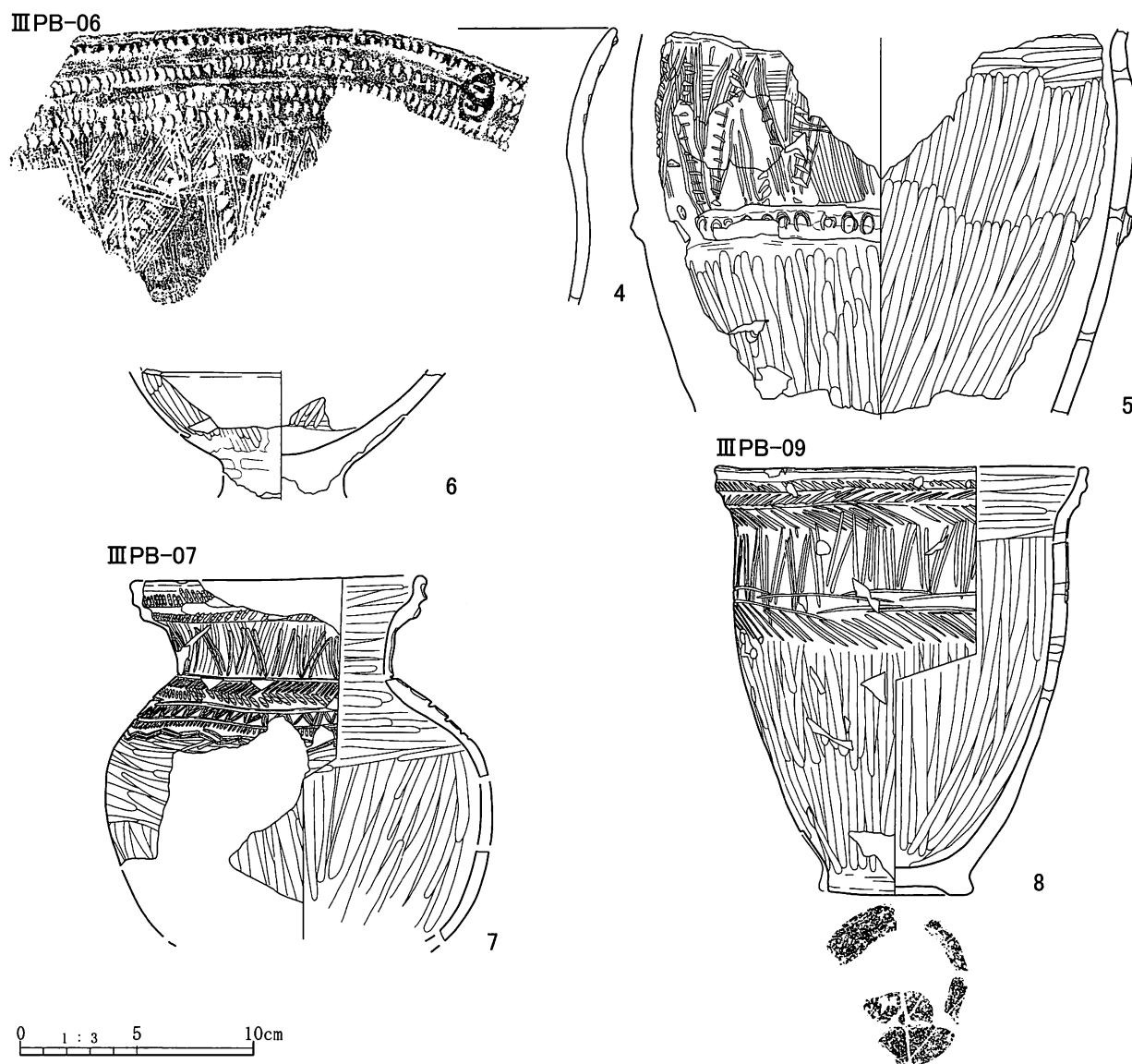


ⅢPB-05



0 1 3 5 10cm

図IV-11 擦文文化期土器集中出土遺物(1)



図IV-12 擦文文化期土器集中出土遺物(2)

1はVIII B3類の甕である。口縁はやや屈曲して立ち上がる。口唇の断面形状は丸状である。口唇には矢羽根状の刻みが施されており、上段の刻みは横走沈線文に挟まれている。また、馬蹄形押捺文が施された貼付文が不規則に配置されている。胴部と頸部の境界には馬蹄形押捺文が施された貼付圍繞帯が施されている。この貼付帯が剥がれた部分では器面に横走沈線文が施されている。圍繞帯に区画された文様帯内は無文となっている。器外面のハケメ調整痕は顕著で、頸部から胴部にかけて基本的に縦方向に調整を行っているが、胴部では部分的に横方向の調整を重ねている。

III PB-04 (図IV-10、11-2 図版 38-3)

X-21区で検出した。ここはアイヌ文化期の集中区3の範囲内に位置する。集中区3を構成するIII SB-16・18の基底面を検出した段階で、この間から土器片の一部が検出した。土器片全体を検出したところ、土器片は傾斜して分布しており、下に遺構の可能性を考えトレンチを設け調査した結果、IV層を切る風倒木痕を確認した。古い風倒木痕の窪みに廃棄されたものと考えられる。土器集中は

70×44cmの範囲から SP50 の同一個体片が 125 点出土している。2 は VII B3c 類の甕である。頸部はやや内傾しており、口縁部は屈曲してほぼ直角に立ち上がる。口唇の断面形状は尖状である。口唇の直下には沈線文が 2 条施されている。その下位には先端の尖る棒状工具で刺突文を施している。胴部と頸部の境界には横走する 3 条の沈線文で文様帯を区画している。文様帯内には 3 条 1 組の縦位の沈線文があり、この間に斜位の沈線文を鋸歯状に施す。また、この間に刺突文を施す。

III PB-05 (図 IV-10、11-3 図版 38-4)

N-27 区の III b 層下位で検出した。周囲では遺構・遺物はほとんど出土していない。235×120cm の範囲から SP51 の同一個体片が 171 点出土している。3 は VII B3c 類の甕である。頸部は強く内傾し、口縁との境で屈曲して、口縁は直線的に開く。口唇の断面形は丸状で、直下に三角形の刺突が施された隆起帯が巡る。その下位には矢羽根状の刻みが施される。胴部と頸部の境には馬蹄形押捺文が

施された貼付圍繞帯が巡る。これに区画された文様帯内には 3 条 1 組の縦位の沈線が施され、この外側に平行して刺突文が施されている。この間に斜位の沈線文を鋸歯状に施す。

III PB-06 (図 IV-10、12-4~6 図版 38-5)

S-21・22 区の III bL で検出した。200×148cm の範囲から SP52 の同一個体片が 45 点出土している。土器片はこの範囲内で散逸して出土している。4~6 は VII B3c 類の甕の同一個体片である。口唇の断面形は丸状で、直下には刻みの施された隆起帯が巡る。下位には刺突文が巡る。文様帯は馬蹄形押捺文の施された貼付圍繞帯で区画されており、文様帯内には不規則な単位の斜位沈線文が鋸歯上に施されており、部分的に並行する刺突列を重ねている。文様帯内にハケメによる調整痕を残す。

III PB-07 (図 IV-10・12-7 図版 38-6)

AH-16 区のチャシ跡内郭土塁の下で検出している。また、この集中の脇にチャシに付属する溝跡 2 があり、この埋土中からも出土している。この溝跡 2 は溝の構築後に板を配して埋め戻したと考えられることから、溝の掘り上げ土に土器片が含まれ、この掘り上げ土で埋め戻した為に埋土中から出土したと考えられる。80×55cm の範囲から SP53 の同一個体片が 29 点出土している。7 は VII 類の壺形の土器である。明瞭な肩部をもつもので、頸部は直角に立ち上がり、口縁は屈曲して直角に立ち上がる。口唇の断面形状は丸状で、直下に矢羽根状の刻みを施す。頸部～肩部にかけて横走する沈線文で区切られ複段文様となる。時期は文様から後葉と考えられる。煤等は付着していないことと、器形から貯蔵用に使用されたと思われる。

III PB-09 (図 IV-10、12-8 図版 38-7)

AG-13・14 区のチャシ内郭土塁下の III b 層下位で検出した。50×45cm の範囲から SP55 の同一個体片が 47 点出土している。第 2 節で先述したように III P-03 の土器片と接合している。III P-03 の土器と III PB-09 の土器片では色調が異なり、III P-03 の破片は破損後に被熱し、内面の黒色処理が抜けている。8 は VII B3c 類の甕である。頸部はやや内傾している。口唇の断面形は丸状で、下に矢羽根状の刻みが施される。胴部と頸部の境には 3 条の沈線文が施されるが、短い単位で途切れ、粗雑に施文されている。底面には木の葉の圧痕がある。

表IV-14 土器集中出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	器 種	部位	器面調整	文 様	備 考
									内側 口縁/頸部 /胴部	口縁部/ 文様帯	
IV-11-1	113-1	SP054	VII B3	III PB-01	III bL	15	甕	口縁～底 部	横ハケメ→横ミ ガキ/横ハケメ→ 横ミガキ/横ハケ メ→横ミガキ	矢羽根状刻み ・横位沈線文/ 馬蹄形押捺 +貼付圍繞帯	
				III PB-08	III bL	62					
				AH-17	III bL	4					
				AI-17	III bL	2					
				U-22	III bM	1					
IV-11-2	113-2	SP050 A	VII B3c	III PB-04	III bL	80	甕	口縁～底 部	横ミガキ/縦ミガ キ/縦ミガキ	沈線文・刺突文/横位沈線 文・縦位沈線文・斜位沈線 文・刺突文	内面黒 色処理
IV-11-3	113-3	SP051	VII B3c	III PB-05	III bL	153	甕	口縁～底 部	横ミガキ/縦ミガ キ/縦ミガキ	沈線文・矢羽根状刻み/縦位 沈線文・斜位沈線文・刺突 文・馬蹄形押捺+貼付圍繞帯	内面黒 色処理
IV-12-4	114-4	SP052 A	VII B3c	III PB-06 S-22	III bL III bL	7 1	甕	口縁～頸 部	横ミガキ/縦ミガ キ	刺突・馬蹄形押捺+貼付文/ 斜位沈線文・刺突文	
IV-12-5	114-5	SP052 B	VII B3c	III PB-06	III bL	15	甕	頸～胴部	横・縦ミガキ/ 縦ミガキ	斜位沈線文・刺突文・馬蹄形 押捺+貼付圍繞帯	
IV-12-6	114-6	SP052 C	VII B3c	R-23	III bU	1	甕	胴下半～ 底部	縦ミガキ	矢羽根状刻み・沈線文/横位 沈線文・斜位沈線文・矢羽根 状刻み・刻み	内面黒 色処理
				R-22	III c	1					
				R-22	III bL	2					
				R-22	III bU	4					
IV-12-7	114-7	SP053	VII D	III PB-07	III bL	13	壺 ?	口縁～胴 部下半	横ミガキ/ 横ミガキ/ 横ミガキ(上半)・ 縦ミガキ(下半)	矢羽根状刻み/斜位沈線文・ 矢羽根状刻み・刻み	内面黒 色処理
				CHA.M Z-02	III bL	1					
				CHA.M Z-02		1					
IV-12-8	114-8	SP055	VII B3c	III PB-09	III bL	40	甕	口縁～底 部	横ミガキ/縦ミガ キ/縦ミガキ	矢羽根状刻み/斜位沈線文・ 横位沈線文	内面黒 色処理 底面に 木の葉 圧痕
				AG-13	MO3	2					
				AG-13	MO1	1					
				AF-16	III bL	1					
				III SB-12	III bL	6					
				AH-22	III bL	3					
III PB-08	III bL	1									

III SB-08 (図IV-13 図版 39-1)

AK-17 区の III b 層下位で検出した。170×115cm の範囲から棒状礫を中心に 132 点の礫が出土した。その内、完形は 48 点である。

III SB-09 (図IV-13 図版 39-2)

AI-19 区の III b 層下位で検出した。78×67cm の範囲から棒状礫を中心に 37 点の礫が出土した。その内完形は 7 点である。欠損率が高い。

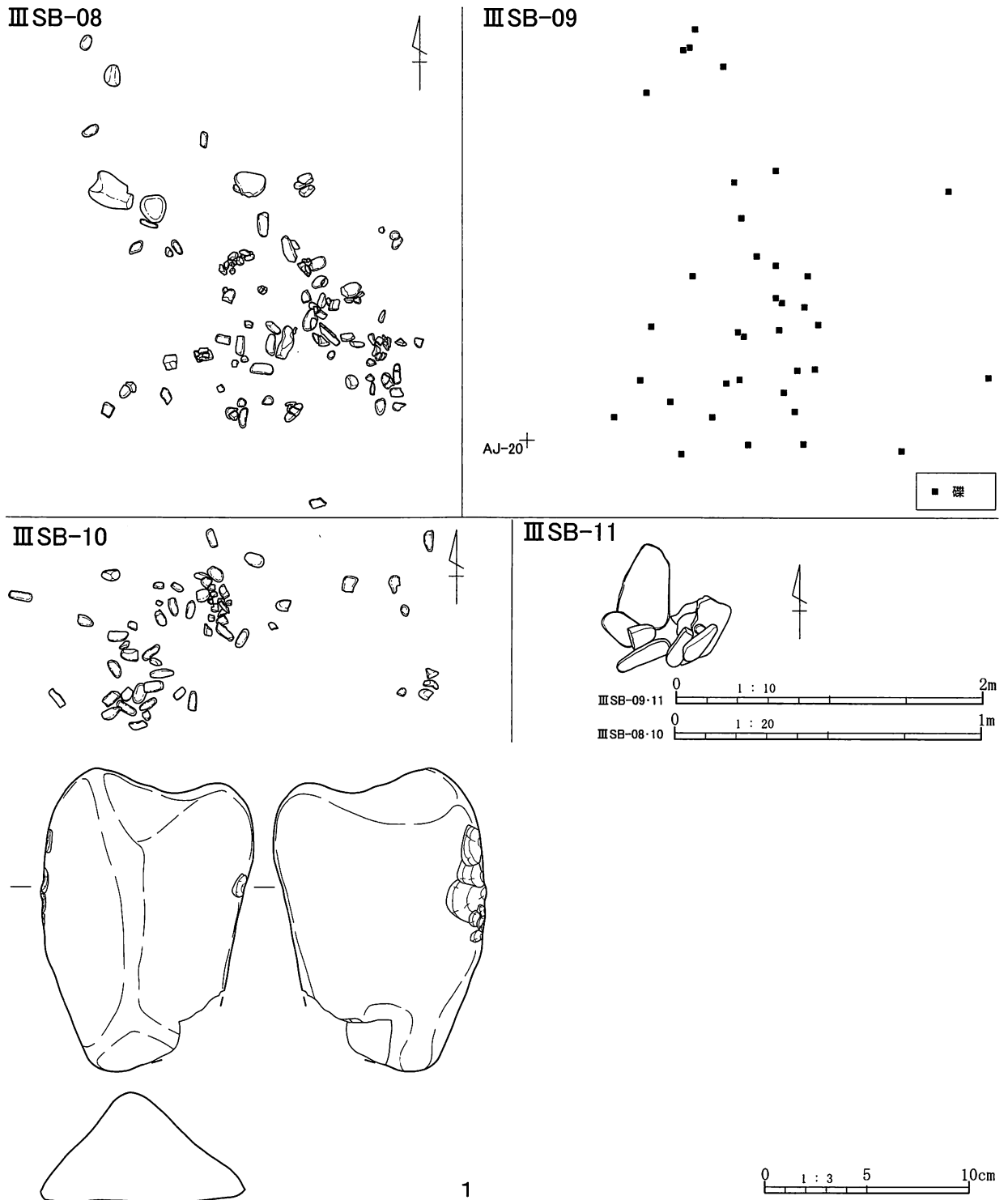
III SB-10 (図IV-13 図版 39-3)

AJ-17・18 区の III b 層下位で検出した。141×75cm の範囲から棒状礫を中心に 55 点の礫が出土した。その内、完形は 23 点である。

III SB-11 (図IV-13 図版 39-4)

AF-19 区で検出した。20×20cm の範囲から扁平な大型礫と棒状礫が重なった状態で出土している。9 点の礫で構成されており、点数は少ないが出土状況から集石として扱った。棒状礫を主に構成さ

れる集石とは性格が異なると想定される。



図IV-13 擦文文化期磔集中微細図及び出土遺物

表IV-15 III SB-08属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差					
-	-	-	4299	IIIbL	完形	26.5	-36.8	18.6	-15.3	11.9	-9.6	1.4	-0.5	8.6	-	Che.
-	-	-	7592	IIIbL	完形	33.2	-30.1	28.2	-5.6	22.9	1.4	1.2	-0.7	26.1	-	Sa.
-	-	-	7538	IIIbL	完形	34.0	-29.3	25.5	-8.4	24.1	2.6	1.3	-0.6	27.0	-	Sa.
-	-	-	4278	IIIbL	完形	34.2	-29.1	27.6	-6.2	21.5	-0.1	1.2	-0.7	25.9	-	Gra.
-	-	-	7573	IIIbL	完形	44.4	-18.9	37.0	3.2	15.4	-6.2	1.2	-0.7	31.3	-	Sa.
-	-	-	4276	IIIbL	完形	45.4	-17.9	25.0	-8.8	13.6	-7.9	1.8	-0.1	21.2	-	Sa.
-	-	-	4255	IIIbL	完形	46.7	-16.6	36.7	2.9	14.5	-7.1	1.3	-0.6	31.8	-	Sa.
-	-	-	7571	IIIbL	完形	47.1	-16.3	26.6	-7.3	9.1	-12.4	1.8	-0.1	14.7	-	Mud.
-	-	-	4254	IIIbL	完形	47.8	-15.5	27.0	-6.9	23.0	1.5	1.8	-0.1	39.0	-	Sa.
-	-	-	7515	IIIbL	完形	48.1	-15.2	34.6	0.8	19.2	-2.3	1.4	-0.5	39.5	-	Sa.
-	-	-	4273	IIIbL	完形	48.3	-15.1	39.6	5.7	11.2	-10.4	1.2	-0.7	25.8	-	Sa.
-	-	-	4256	IIIbL	完形	48.4	-14.9	26.4	-7.4	14.3	-7.2	1.8	-0.1	23.4	-	Sa.
-	-	-	7504	IIIbL	完形	50.2	-13.1	26.6	-7.3	14.3	-7.3	1.9	0.0	18.7	-	Sa.
-	-	-	7501	IIIbL	完形	50.8	-12.5	33.1	-0.7	19.0	-2.5	1.5	-0.4	41.0	-	Sa.
-	-	-	7507	IIIbL	完形	52.3	-11.0	25.7	-8.2	15.2	-6.3	2.0	0.1	32.7	-	Sa.
-	-	-	4260	IIIbL	完形	52.5	-10.8	35.4	1.5	22.2	0.7	1.5	-0.4	48.4	-	Sa.
-	-	-	4271-2	IIIbL	完形	52.6	-10.7	34.3	0.5	12.4	-9.1	1.5	-0.4	24.4	-	Sa.
-	-	-	7576	IIIbL	完形	52.6	-10.7	35.7	1.9	14.2	-7.3	1.5	-0.4	30.0	-	Sa.
-	-	-	7510	IIIbL	完形	53.0	-10.3	22.7	-11.1	19.7	-1.8	2.3	0.4	30.8	-	Sa.
-	-	-	7554	IIIbL	完形	53.0	-10.3	33.5	-0.4	18.1	-3.4	1.6	-0.3	39.8	-	Sa.
-	-	-	7508	IIIbL	完形	55.1	-8.2	30.4	-3.5	14.2	-7.3	1.8	-0.1	21.2	-	Sa.
-	-	-	7531	IIIbL	完形	55.5	-7.8	30.3	-3.6	19.5	-2.0	1.8	-0.1	33.4	-	Sa.
-	-	-	7557	IIIbL	完形	56.4	-6.9	31.5	-2.3	20.5	-1.0	1.8	-0.1	46.9	-	Sa.
-	-	-	7562	IIIbL	完形	56.4	-6.9	31.5	-2.3	20.5	-1.0	1.8	-0.1	46.9	-	Sa.
-	-	-	7503	IIIbL	完形	56.7	-6.6	30.2	-3.7	22.3	0.8	1.9	0.0	46.2	-	Sa.
-	-	-	7582	IIIbL	完形	57.5	-5.8	32.4	-1.4	16.6	-4.9	1.8	-0.1	42.1	-	Sa.
-	-	III S141	4268	IIIbL	完形	59.2	-4.1	26.6	-7.3	24.3	2.8	2.2	0.3	39.0	-	Sa.
-	-	III S141	4301	IIIbL	完形	59.2	-4.1	26.6	-7.3	24.3	2.8	2.2	0.3	39.0	-	Sa.
-	-	115-1	4275	IIIbL	完形	61.5	-1.8	31.9	-1.9	21.1	-0.4	1.9	0.0	55.7	-	Sa.
-	-	115-1	7534	IIIbL	完形	64.2	0.9	23.8	-10.1	14.9	-6.7	2.7	0.8	22.2	-	Sa.
-	-	115-1	7536	IIIbL	完形	64.2	0.9	23.8	-10.1	14.9	-6.7	2.7	0.8	22.2	-	Sa.
-	-	115-1	7580	IIIbL	完形	62.6	-0.8	35.0	1.2	26.0	4.5	1.8	-0.1	68.4	-	Sa.
-	-	115-1	7560	IIIbL	完形	64.2	0.9	25.4	-8.4	18.8	-2.7	2.5	0.6	27.1	-	Sa.
-	-	115-1	7585	IIIbL	完形	64.2	0.9	25.4	-8.4	18.8	-2.7	2.5	0.6	27.1	-	Sa.
-	-	115-1	4264	IIIbL	完形	64.6	1.3	35.2	1.4	25.8	4.3	1.8	-0.1	66.0	-	Sa.
-	-	115-1	7558	IIIbL	完形	64.8	1.5	30.2	-3.7	12.9	-8.6	2.1	0.2	29.0	-	Sa.
-	-	115-1	7564	IIIbL	完形	64.8	1.5	30.2	-3.7	12.9	-8.6	2.1	0.2	29.0	-	Sa.
-	-	115-1	4266	IIIbL	完形	67.2	3.9	28.9	-5.0	23.1	1.6	2.3	0.4	58.4	-	Sa.
-	-	115-1	7543	IIIbL	完形	67.4	4.1	29.8	-4.0	25.2	3.7	2.3	0.3	58.0	-	Sa.
-	-	115-1	7502	IIIbL	完形	69.1	5.8	51.6	17.7	20.7	-0.8	1.3	-0.6	107.4	-	Sa.
-	-	115-1	7546	IIIbL	完形	71.5	8.2	40.2	6.3	20.2	-1.3	1.8	-0.1	67.9	-	Sa.
-	-	115-1	7559	IIIbL	完形	72.0	8.7	39.5	5.7	18.8	-2.7	1.8	-0.1	60.7	-	Sa.
-	-	115-1	7550	IIIbL	完形	72.7	9.4	40.9	7.0	14.8	-6.7	1.8	-0.1	55.1	-	Sa.
-	-	115-1	7555	IIIbL	完形	72.7	9.4	40.9	7.0	14.8	-6.7	1.8	-0.1	55.1	-	Sa.
-	-	115-1	7567	IIIbL	完形	72.7	9.4	40.9	7.0	14.8	-6.7	1.8	-0.1	55.1	-	Sa.
-	-	115-1	7541	IIIbL	完形	73.0	9.7	35.1	1.2	74.5	53.0	2.1	0.2	56.0	-	Sa.
-	-	115-1	4269	IIIbL	完形	76.0	12.7	37.8	4.0	12.4	-9.2	2.0	0.1	29.8	-	Mud.
-	-	115-1	7516	IIIbL	完形	78.8	15.5	36.6	2.8	20.9	-0.6	2.2	0.2	73.7	-	Sa.
-	-	115-1	7506	IIIbL	完形	86.9	23.6	83.7	49.8	49.7	28.2	1.0	-0.9	530.0	-	Gra.
-	-	115-1	7568	IIIbL	完形	88.1	24.8	24.4	-9.4	10.6	-10.9	3.6	1.7	34.8	-	Sa.
-	-	115-1	7517	IIIbL	完形	89.6	26.3	32.4	-1.5	26.5	5.0	2.8	0.8	84.2	-	Mud.
-	-	115-1	7518	IIIbL	完形	89.6	26.3	32.4	-1.5	26.5	5.0	2.8	0.8	84.2	-	Mud.
-	-	III S137	7532	IIIbL	完形	89.9	26.6	36.9	3.0	23.1	1.6	2.4	0.5	73.9	-	Sa.
-	-	III S137	7549	IIIbL	完形	89.9	26.6	36.9	3.0	23.1	1.6	2.4	0.5	73.9	-	Sa.
-	-	115-1	7548	IIIbL	完形	108.6	45.3	53.2	19.4	45.5	24.0	2.0	0.1	270.0	-	Sa.
-	-	115-1	7784	IIIbL	完形	108.6	45.3	53.2	19.4	45.5	24.0	2.0	0.1	270.0	-	Sa.
-	-	115-1	7785	IIIbL	完形	108.6	45.3	53.2	19.4	45.5	24.0	2.0	0.1	270.0	-	Sa.
-	-	115-1	4280	IIIbL	完形	125.6	62.3	28.4	-5.5	37.3	15.8	4.4	2.5	129.2	-	Sa.
-	-	115-1	4258	IIIbL	完形	160.1	96.8	62.4	28.6	35.5	14.0	2.6	0.7	620.0	-	Sa.
						63.3		33.8		21.5		1.9		70.5		
						完形48点										

表IV-16 III SB-09属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	重量(g)	被熱	材質	備考														
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差																			
-	-	-	5629	IIIbL	完形	44.4	-17.2	31.3	-6.9	20.1	2.3	1.4	-0.2	33.4	-	Sa.														
-	-	-	5612	IIIbL	完形	46.6	-14.9	26.6	-11.6	22.4	4.6	1.8	0.1	41.1	-	Sa.														
-	-	-	5620	IIIbL	完形	63.9	2.3	35.2	-3.0	15.6	-2.2	1.8	0.2	33.7	-	Sa.														
-	115-2	III S148	5613	IIIbL	完形	64.6	3.0	42.5	4.3	21.7	3.9	1.5	-0.1	76.0	-	Sa.														
-			5617	IIIbL																										
-			5624	IIIbL																										
-			5610	IIIbL														完形	64.9	3.4	38.8	0.6	13.4	-4.3	1.7	0.0	47.9	-	Mud.	
-			5615	IIIbL														完形	71.8	10.2	50.2	12.0	17.4	-0.4	1.4	-0.2	88.7	-	Sa.	
-	5604	IIIbL	完形	74.7	13.1	42.6	4.5	13.8	-3.9	1.8	0.1	65.2	-	Sa.																
						61.6		38.2		17.8		1.6		55.1	完形7点															

表IV-17 III SB-10属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	重量(g)	被熱	材質	備考			
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差								
-	-	-	7048	IIIbL	完形	38.7	-27.6	26.2	-3.9	17.4	-2.5	1.5	-0.8	23.1	-	Che.			
-	-	-	7006	IIIbL	完形	58.7	-7.6	31.4	1.3	22.8	2.9	1.9	-0.4	50.7	-	Sa.			
-	-	-	7026	IIIbL	完形	59.2	-7.1	30.0	-0.1	18.3	-1.6	2.0	-0.3	40.9	-	Sa.			
-	-	-	7019	IIIbL	完形	61.8	-4.5	31.8	1.6	21.5	1.6	1.9	-0.3	50.1	-	Sa.			
-	-	-	7036	IIIbL	完形	62.0	-4.3	38.2	8.1	19.4	-0.5	1.6	-0.6	65.8	-	Sa.			
-	-	-	7044	IIIbL															
-	-	-	7038	IIIbL	完形	63.7	-2.5	24.5	-5.6	21.2	1.3	2.6	0.3	36.3	-	Mud.			
-	-	-	7004	IIIbL	完形	64.8	-1.4	23.4	-6.8	18.2	-1.7	2.8	0.5	36.5	-	Sa.			
-	-	-	7043	IIIbL	完形	65.1	-1.2	43.2	13.0	21.5	1.6	1.5	-0.8	71.0	-	Sa.			
-	-	-	7032	IIIbL	完形	65.8	-0.5	29.3	-0.8	18.8	-1.2	2.2	0.0	46.5	-	Sa.			
-	-	-	7010	IIIbL	完形	65.8	-0.5	26.6	-3.5	19.4	-0.5	2.5	0.2	45.3	-	Sa.			
-	-	-	7017	IIIbL	完形	65.9	-0.4	22.7	-7.5	17.4	-2.5	2.9	0.6	30.7	-	Mud.			
-	-	-	7005	IIIbL	完形	67.3	1.0	32.2	2.1	15.7	-4.3	2.1	-0.2	39.3	-	Sa.			
-	115-3	III S154	7012	IIIbL	完形	67.4	1.2	39.4	9.3	23.6	3.7	1.7	-0.5	87.8	-	Sa.			
-			7002	IIIbL	完形	67.5	1.2	22.3	-7.9	22.8	2.9	3.0	0.8	39.4	-	Mud.			
-			7022	IIIbL	完形	67.7	1.4	30.9	0.7	15.3	-4.7	2.2	-0.1	44.6	-	Sa.			
-			7015	IIIbL	完形	68.5	2.2	27.9	-2.3	25.1	5.2	2.5	0.2	66.3	-	Sa.			
-			7047	IIIbL															
-			7034	IIIbL	完形	69.8	3.5	38.2	8.0	23.5	3.6	1.8	-0.4	74.0	-	Sa.			
-			7035	IIIbL															
-			-	-	7008	IIIbL	完形	70.3	4.1	27.7	-2.5	17.5	-2.4	2.5	0.3	44.9	-	Sa.	
-			-	-	7013	IIIbL	完形	71.1	4.9	33.4	3.2	19.3	-0.6	2.1	-0.1	59.4	-	Sa.	
-			-	-	7023	IIIbL	完形	71.2	5.0	27.8	-2.4	26.2	6.3	2.6	0.3	60.0	-	Sa.	
-			-	-	7024	IIIbL													
-	-	-	7031	IIIbL	完形	76.6	10.4	32.1	2.0	12.3	-7.6	2.4	0.1	29.1	-	Mud.			
-	-	-	7014	IIIbL	完形	77.3	11.0	27.9	-2.3	21.0	1.1	2.8	0.5	54.2	-	Sa.			
-	-	-	7001	IIIbL	完形	78.0	11.8	26.7	-3.4	19.8	-0.1	2.9	0.7	68.5	-	Sa.			
						66.3		30.2		19.9		2.3		50.6	完形23点				

表IV-18 III SB-11属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	重量(g)	被熱	材質	備考														
						長軸	標準偏差	短軸	標準偏差	厚さ	標準偏差																			
-	-	-	4759	IIIbL	完形	78.2	-24.1	48.8	0.3	14.9	-4.8	1.6	-0.8	86.0	-	Sa.														
-	-	-	4762	IIIbL	完形	81.8	-20.4	31.1	-17.4	21.8	2.2	2.6	0.2	66.0	-	Sa.														
-	115-4	-	4763	IIIbL	完形	85.2	-17.0	30.7	-17.7	19.7	0.0	2.8	0.4	71.3	-	Sa.														
-			4764	IIIbL																										
-			4761	IIIbL														完形	113.7	11.4	31.5	-16.9	22.1	2.5	3.6	1.2	120.3	-	Sa.	
-			4760	IIIbL														完形	152.4	50.1	100.2	51.7	19.7	0.1	1.5	-0.9	415.0	-	Sa.	
						102.3		48.5		19.6		2.4		151.7	完形5点															

表IV-19 礫集中出土遺物属性表

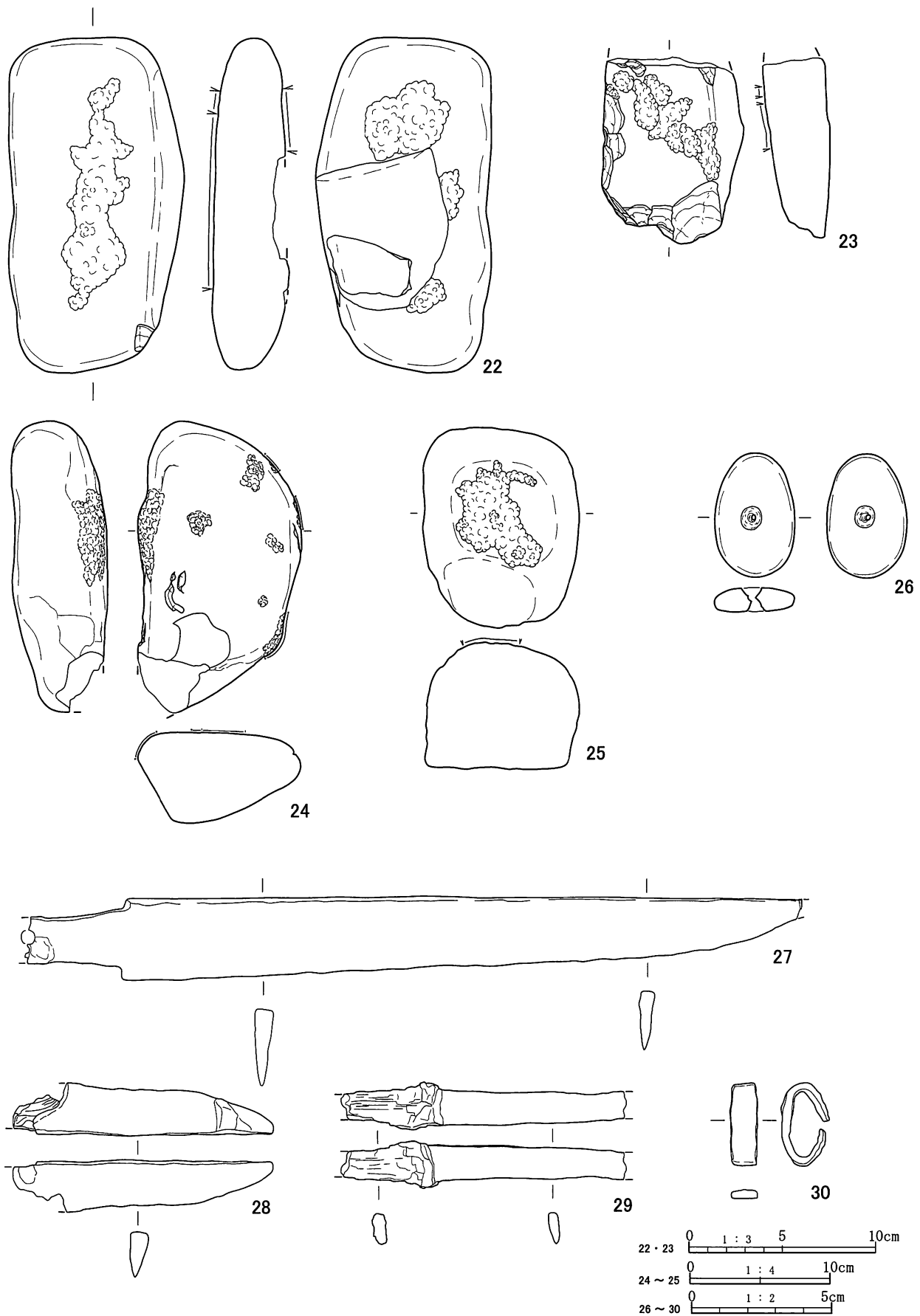
挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-13-1	-	-	7505	加工痕のある礫	-	IIIbL	III SB-08	-	142.0	99.0	54.0	870.0	Sa.	

第5節 擦文文化期包含層出土遺物 (図IV-14・15 図版 116・117)

1~3 はVII B3c 類の口縁部片である。いずれも口縁には矢羽根状の刻みが施されている。3 の口縁断面形状は頸部から横に広がり屈曲して直角に立ち上がる。2 は6・7 と同一個体である。文様帯内



図IV-14 擦文文化期包含層出土土器



図IV-15 擦文文化期包含層（チャシ盛土下含む）出土遺物

表IV-20 擦文文化期包含層出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	器 種	部位	器面調整		文 様	備 考
									外側	内側		
									口縁/頸部 /胴部/底側面	口縁/頸部 /胴部	口縁部/ 文様帯	
IV-14-1	116-1	SP006	VII B3c	AD-16	III bL	4	甕	口縁～頸部	ナデ/ナデ	横ミガキ /横ミガキ	矢羽根状 刻み/斜位 沈線文	内面黒 色処理
				AC-17	III bL	1						
IV-14-2	116-2	SP010A	VII B3c	AL-10	III bL	1	甕	口縁～ 頸部上半	横ミガキ /ナデ	横ミガキ /横ミガキ	浅い沈線文、 矢羽状刻み/ 縦位・斜位 沈線文	内面黒 色処理
IV-14-3	116-3	SP060	VII B3c	O-28	III bL	9	甕	口縁～胴 部	ナデ/縦ハケメ/ 縦ハケメ	横ハケメ→横ミ ガキ/横ミガキ/ 横ミガキ	刺突文/ 斜位沈線文・ 横位沈線文・ 刺突文	
IV-14-4	116-4	SP022A	VII B3c?	AH-06	III bL	1	甕	頸部	縦ハケ	横ミガキ	横走沈線文、 斜格子状沈 線文、鋸歯状 沈線文	補修孔 あり、施 文順序 重要
IV-14-5	116-5	SP023A	VII B3c?	AL-08	III bL	3	甕	頸部～ 胴部上半	?/ナデ	横ミガキ /横ミガキ	縦位沈線文・ 斜位沈線文・ 貼付圍繞帯?	
IV-14-6	116-6	SP010C	VII B3c	III F-04	III bL	1	甕	頸部	ナデ	横ミガキ(上半)、 縦ミガキ(下半)	縦位沈線文・ 斜位沈線文+ 短刻線文	内面黒 色処理
IV-14-7	116-7	SP010B	VII B3c	AK-09	III bL	6	甕	頸部～ 胴部上半	ナデ/横ミガキ (上半)、縦ミガキ (下半)	横ミガキ /縦ミガキ	斜位沈線文、 矢羽状短刻 線文	内面黒 色処理
				AL-09	III bL	1						
IV-14-8	116-8	SP009	VII B3c	AF-14	III b	2	甕	口縁下半 ～胴部上 半	ナデ/ナデ/縦ミ ガキ	横ミガキ /横ミガキ /縦ミガキ	刻み/ 横位沈線文・ 斜位沈線文・ 馬蹄形押捺+ 貼付圍繞帯	内面黒 色処理
				AG-15	III bL	1						
IV-14-9	116-9	SP008 A	VII B3c	AF-18	III bL	7	甕	頸～胴部	ナデ/ミガキ	縦ミガキ /縦ミガキ	縦位沈線文・ 横位沈線文・ 斜位格子状 沈線文	内面黒 色処理
IV-14-10	116-10	SP011A	VII B	AH-06	III bL	6	甕	底部	横ミガキ	ナデ	-	底面圧 痕有り
				AI-07	III bL	1						
				AJ-06	III bM	1						
IV-14-11	116-11	SP008 B	VII B	AH-17	III b	1	甕	底部	縦ミガキ	ナデ	-	
				AH-18	III b	2						
IV-14-12	116-12	SP017	VII B	AC-16	III bL	3	甕	底部	縦ミガキ	ナデ	-	
				AB-17	III bL	1						
				AD-17	III c	1						
IV-14-13	116-13	SP018	VII B	AG-13	MO	1	甕	底部	縦ミガキ	縦ミガキ	-	内面黒 色処理
IV-14-14	116-14	SP014A	VII C	III AS-01	III bM	1	坏	口縁～ 胴部上半	横ミガキ -横ミガキ	横ミガキ /横ミガキ	縦位沈線文?	内外面 黒色処 理
IV-14-15	116-15	SP059	VII C	AG-16	III bL	1	坏	口縁～胴 部	横ミガキ/ナデ	横ミガキ /縦ミガキ	縦位沈線文・ 斜位沈線文	
IV-14-16	116-16	SP012	VII C	AM-8	III bL	1	坏	口縁～胴 部	横ミガキ/縦ナデ	横ミガキ /横ミガキ		
				AJ-18	III bL	1						
				AJ-16	III bL	1						
IV-14-17	116-17	SP058	VII C	AF-16	III bL	3	坏	口縁～胴 部	横ミガキ/ナデ	横ミガキ、横ミガ キ	斜位沈線文	内面黒 色処理
				AF-16-2	表採	3						
IV-14-18	116-18	SP004 B	VII C	AE-14	III bL	1	坏	口縁～胴 部	横ミガキ/ナデ	横ミガキ /縦ミガキ	刻み/ 斜位沈線文	内面黒 色処理
IV-14-19	116-19	SP014B	VII C	AL-09	III bL	1	坏	口縁部 下半～ 胴部上半	横ミガキ	横ミガキ /横ミガキ	縦位沈線文?	内外面 黒色処 理
IV-14-20	116-20	SP004 A	VII C	AD-15	III c	1	坏	胴部	ナデ	縦ミガキ	斜位沈線文、 横位沈線文	
				AC-14	III bL	1						

には3条1組の縦位沈線文が施され、この間に斜位の沈線文を施す。また部分的に刺突文を施す。口縁部外面に横方向のミガキ調整を行う唯一のものである。3は3条1組の横位沈線で文様帯を区画し、不規則な単位の斜位沈線文を鋸歯状に施し、これに沿う刺突文を施す。4・5は甕の頸部片で、4は横位沈線文で区画され、複段となる。8は口縁下半から胴部上半の破片である。口縁の刻みは重複する部分があり、粗雑に施されている。補修孔は未貫通である。文様帯内には横位の沈線文で区画した中に縦位の沈線文を施しており、一部横位沈線文を切っている。10～13は甕の底部片である。10は底面に笹の葉の圧痕がある。14～18は坏の口縁部片である。口縁にはいずれも横方向のミガキ調整が施され、また全て内面黒色処理が行われているが、17は二次被熱により、器外面は赤く、内面の黒色処理も一部色が抜けている。19は14と、20は18と同一個体片である。21は底面が上げ底の高坏である。底面には深い沈線で刻印を施している。

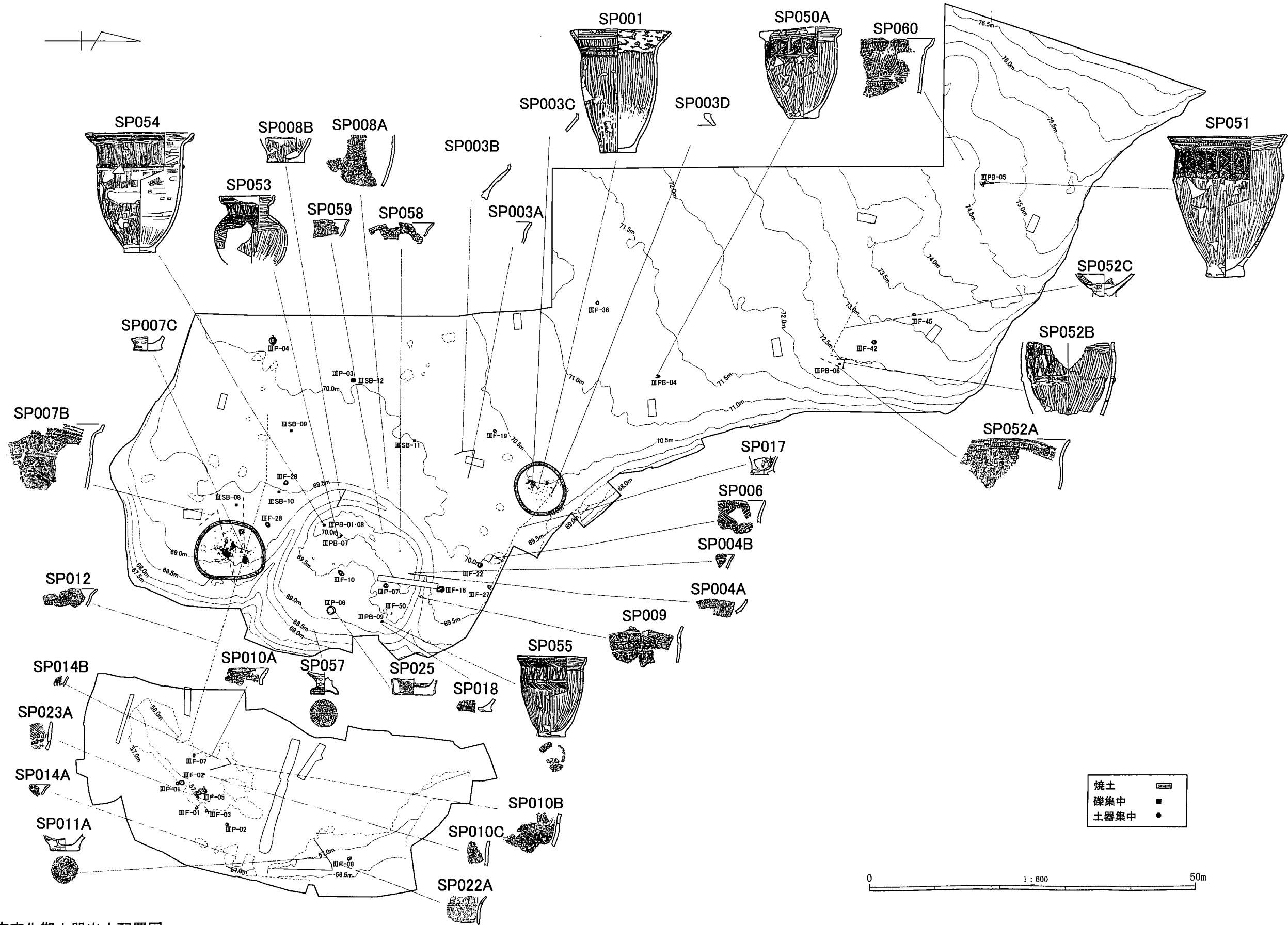
22・23はたたき石で、平坦面に敲打痕をもつものである。また、23は周縁を部分的に打ち欠いている。24は滑沢面と敲打痕のある礫で被熱している。表面の滑沢面は敲打に切られている。また、側縁の稜にも敲打痕があり、大型の礫であるが敲打の位置より、たたき石として使用されたと考えられる。側縁の敲打は被熱後に行われている。25は花崗岩製の台石である。平坦面に敲打痕をもつことと、重量から台石として分類しているが、平坦面が狭いことや把握可能な形状であることから、たたき石として使用された可能性もある。26は垂飾で、扁平な楕円礫の両面から穿孔を行っている。27は刀身長243mmの平棟平造りの小刀である。切先は折れ曲り、欠損している。両区で茎の断面形は方形である。28・29は刀子である。28はチャシ跡の土壘中から出土したものであり、チャシ跡構築以前のものであることから、擦文文化期のものと捉えて、ここで掲載している。棟区は確認できるが、刃側は刃部の一部から茎にかけて欠損している。29は柄に木質部が残っている。切先と柄は欠損している。30は金具である。

表IV-20 擦文文化期包含層出土土器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	器 種	部位	器面調整		文 様	備考
									外側	内側		
									口縁/頸部 /胴部/底側面	口縁/頸部 /胴部	口縁部/ 文様帯	
IV-14-21	116-21	SP057	VIC4	AI-13 AI-13- 1-1	MO4 IIIbL	1 1	坏	胴部下半 ~底部	ナデ/ナデ	縦ミガキ/ナデ	斜位沈線文/ 矢羽根状 刻み	底面刻 印有り

表IV-21 擦文文化期包含層出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-15-22	116-22	-	17179	たたき石	I A1	IIIbL	-	Y-24	180.0	90.5	40.0	792.0	Sa.	
IV-15-23	116-23	-	18890	たたき石	I A1	IIIbL	-	AG-14	100.0	60.0	30.3	345.0	Sa.	
IV-15-24	116-24	-	37246	たたき石	I A2	IIIbL	-	D-28	208.4	117.6	68.7	1855.0	Sa.	
IV-15-25	116-25	-	19783	たたき石	II B2	IIIc	-	AF-14	140.3	110.2	90.2	2300.0	Gra.	
IV-15-26	116-26	-	17271	石製品(垂飾)	-	IIIbL	-	T-23	44.4	28.8	9.0	17.0	Sa.	
IV-15-27	117-1-1	-	17115	小刀	-	IIIbL	-	P-22	(279.0)	31.0	10.0	155.5	Irn.	
IV-15-28	117-1-2	-	15145	刀子	-	MO4	-	AF-15	(94.0)	23.0	9.0	16.8	Irn.	
IV-15-29	117-1-3	-	17114	刀子	-	IIIc	-	V-21	(109.0)	16.0	16.0	10.2	Irn.	
IV-15-30	117-1-4	-	17225	金具	-	IIIbL	-	X-22	62.0	11.0	11.0	3.5	Irn.	



図IV-16 擦文文化期土器出土配置図

第V章 続縄文文化期の調査

続縄文文化期の遺構は検出しておらず、遺物が僅かに出土しているのみである。遺物はすべて高位段丘面のT₃面からである。土器は土器集中(ⅢPB-03)から1個体と、包含層から土器片が2個体出土している。いずれもⅢc層中位からの出土である。Ⅲc層中位で取り上げた遺物は217点で、この内の107点はⅢPB-03の土器の同一個体片である。遺物の分布傾向はⅢPB-03を検出したAJ-20区とその周囲から散逸して出土している。

片岩製石鏃が3点出土している。近接する上幌内モイ遺跡(2009)やオニキシベ2遺跡(2011)ではこの製作跡が見つかっており、多量の完成品等が出土している。本遺跡ではフレイクも含め製作に関連する遺物が出土しておらず、広範囲に散逸して出土することから、使用されたものと考えられる。片岩製石鏃は副葬されている例が多いことから、非実用的なものと思えることも多いが、主体的に使用されたのかは別としても、本地域では実用品としての側面も伺える。

第1節 続縄文文化期包含層出土遺物 (図V-1 図版117-2)

1は土器集中(ⅢPB-03)から出土しており、VIc3類の倒鐘形の深鉢土器である。口縁部の突起は4カ所あり、突起部外の口唇の断面形は外削ぎの隅丸切り出し状である。口唇の刻みは丸い棒状の工具で口唇に直交して施されている。文様帯は胴部中央付近まであり、隆起線文を円弧状に配する。隆起線文の他に刺突文が施されており、下方向から刺突している。オニキシベ2遺跡(2011)、上幌内モイ遺跡(2009)出土のVIc3類と比較すると、オニキシベ2遺跡のものと同じ特徴を示すもので、古手の後北C₁式土器と考えられる。2はVIc3類の口縁部片である。2個1対の突起となるもので、突起部外の断面形状は隅丸角状である。口唇の刻みはへら状の工具で口唇に直交して施されている。隆起線文と刺突文が施されている。3はVIc類の口縁部片である。2個1対の突起となるもので、突起部外の断面形状は隅丸角状である。口唇の刻みは丸い棒状の工具で直交に施されている。地文はRLの縄文を横方向と縦方向から回転施文し斜行縄文となっている。擬縄貼付文、隆起線文が施されていないことから、分類をVIc類に留めているが、他の2個体がVIc3類であることから後北C₁式土器の可能性が高いと思われる。

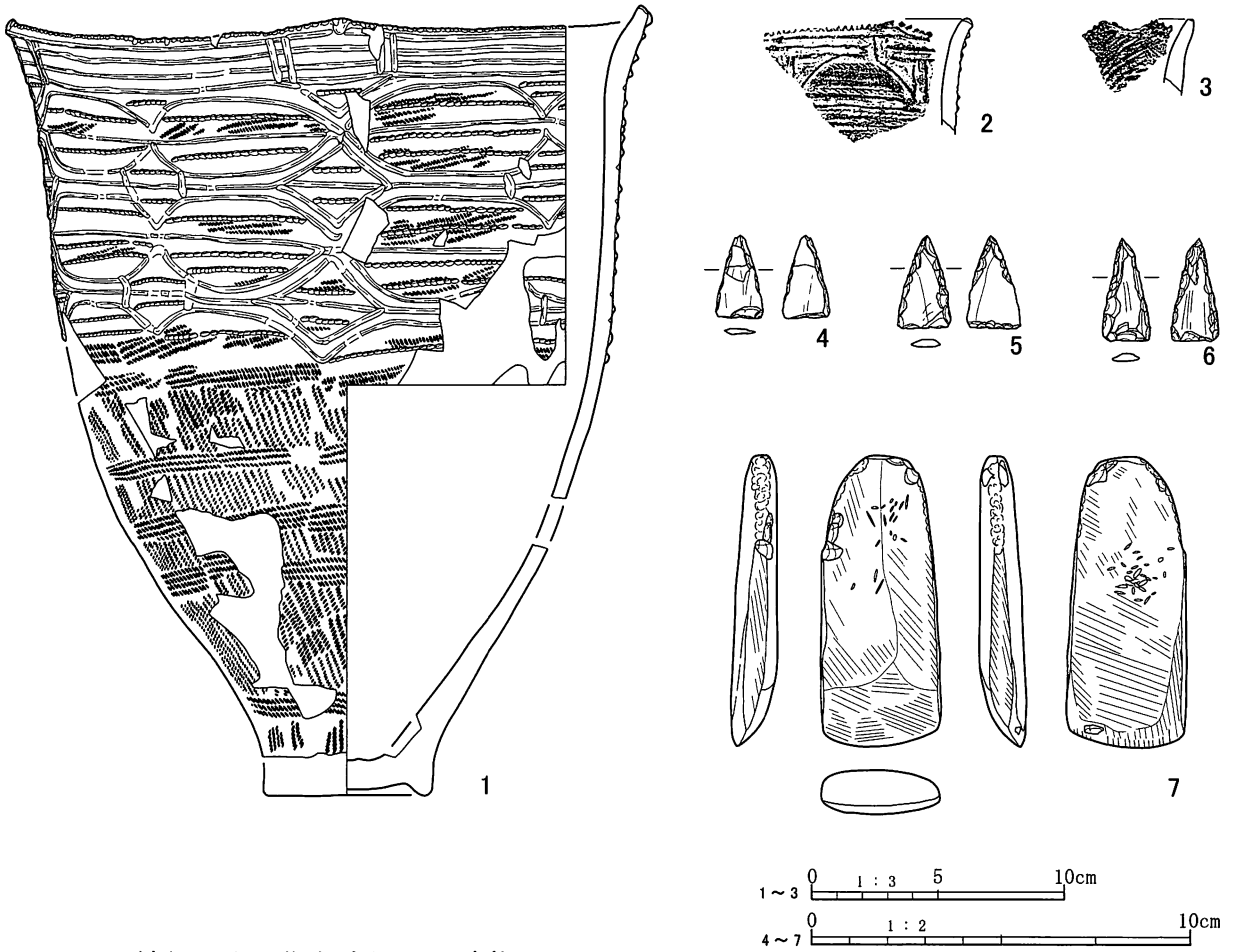
4~6は片岩製の石鏃である。いずれも基部は平坦である。5・6は周縁を連続して丁寧に調整されているが、4の周縁は打点等が不明であり、折り取られたような調整である。7は緑色泥岩製の石斧である。刃部には使用による線条痕が明瞭に認められる。

表V-1 続縄文文化期包含層出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	胎土	備考
V-1-1	117-2-5	ZP01A	VIc3	ⅢPB-03	ⅢcM	100	口縁~底部	砂粒少量混入	
				AJ-20	ⅢcM	27			
V-1-2	117-2-6	ZP02A	VIc3	AI-19	ⅢcM	1	口縁部	砂粒少量混入	
V-1-3	117-2-7	ZP03A	VIc3	AK-18	ⅢcM	1	口縁部	砂粒少量混入	

表V-2 続縄文文化期包含層出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量 (g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
V-1-4	117-2-8	-	18921	石鏃	A5	IIIc	-	AG-15	21.4	11.9	1.2	0.5	Sch.	
V-1-5	117-2-9	-	7760	石鏃	A5	IIIbL	-	Q-21	26.6	12.3	1.9	0.9	Sch.	
V-1-6	117-2-10	-	18616	石鏃	A5	IIIbL	-	W-25	24.0	14.1	2.1	0.9	Sch.	
V-1-7	117-2-11	-	4393	石斧	A	IIIc	-	AK-19	77.0	30.0	54.0	50.0	Gr-Mud.	



図V-1 続縄文文化期包含層出土遺物

第VI章 縄文時代の調査

ヲチャラセナイ遺跡における平成20～22年度の縄文時代の調査では、主な遺構として竪穴住居跡5軒、土坑墓24基、土坑13基、Tピット59基、焼土49カ所、獣骨集中6カ所、土器集中43カ所、剥片石器集中3カ所、フレイク・チップ集中15カ所、石斧集中1カ所、礫石器集中2カ所、礫集中5カ所が出土している。また、廃絶した住居跡のくぼみを利用した捨て場跡を2カ所確認している。これらの遺構・遺物はT₁・T₃面の两段丘面で検出している。

T₁面では、縄文時代早期・前期・後期の遺物が出土している。主体は早期で段丘崖裾に沿って、土器集中及びフレイク・チップ集中が検出している。次に多いのは前期の遺物で、縄文尖底土器が1個体出土している以外は、T₃面と同じ前期後葉のものである。この時期のものと考えられる剥片石器集中、礫石器集中を各1カ所検出している。後期は土器が数個体出土しているのみである。遺構はTピットを29基検出しており、分布密度が高くなっている。各種形態のものがあることから、多時期にわたり狩猟場として利用されていたと考えられる。

T₃面では、縄文時代早期～晩期の遺物が出土しているが、早期・中期・晩期は土器が1～2個体ずつで、後期も10個体に満たない土器が出土しているのみである。主体は前期後半で、ほぼこの時期の単純遺跡といえる。遺構は竪穴住居跡等の時期が明らかなものは、この時期のものである。特徴的な遺構として、大型住居跡3軒と「シカ塚」等があげられる。また、集落の構造は居住区、墓域、捨て場跡等分けられていることが明らかになってきている。遺物は、前期後半の土器は円筒下層d式土器や大麻V式が主体を占めるが、道北地方のシュブノツナイ式、十勝地方の宮本式、後志地方のフゴッペ貝塚式、日高地方からと思われる胎土に蛇紋岩を含む土器等の搬入土器も出土しており、活発な交流・交易の様子が伺える。石器は石槍の比率の高さが特徴となっている。

表VI-1 平成20～22年度V層地区別検出遺構・遺物一覧表

	T1	T3	計	備 考
遺 構				
竪穴住居跡	0	5	5	
土坑墓	0	24	24	
土 坑	4	9	13	
Tピット	29	30	59	
焼 土	0	49	49	
獣骨集中	0	6	6	VBB-03はシカ塚
土器集中	9	34	43	
剥片石器集中	1	2	3	
剥片集中	4	11	15	
石斧集中	0	1	1	
礫石器集中	1	1	2	
礫集中	0	5	5	
遺 物				
土 器	903	15,234	16,137	
剥片石器	113	1,792	1,905	
礫石器	288	1,547	1,835	
剥 片	3,762	34,710	38,472	
礫	1,642	16,978	18,620	
土製品	0	215	215	
その他	1	1	2	
遺物総点数			77,186	

第1節 竪穴住居跡

住居跡は T₃面 で 5 軒を検出した。時期はいずれも前期後葉である。分布は大きく 2 つに分かれ、調査区南側に 1 軒 (VH-01)、北側に 4 軒 (VH-02~05) である。VH-01 は覆土の堆積状態から、屋根に Ta-d2 パミスを主体とする土が厚く葺かれていたと考えられる。VH-02~04 は長軸長が 10m を越すもので、いわゆる大型住居跡である。VH-03 は覆土の堆積状態から屋根の裾部分に掘り上げ土を厚く葺いていたと考えられる。また、VH-01・03 は住居廃絶後の窪みを捨て場として利用しており、報告の際には、覆土上層捨て場跡として別に記載を行っている。また、近接する VH-02・03 は掘り上げ土など重複しておらず、直接的に新旧関係は把握できないが、遺物の出土状態から VH-02 が新しく、VH-03 が古いと想定できる。VH-03 と 05 は重複しており、VH-05 が古いことが判っている。

1号竪穴式住居跡〔VH-01〕 (図VI-2・3、図版40・41)

位置：AK-18、AL・AM-17~20、AN-18・19 平面形：隅丸長方形

規模：竪穴本体 762×646 cm 掘り上げ土 1099×932 cm

確認・調査：現地表面の伐採終了後の地形として浅く大きな窪みを確認していた。Ta-b テフラを重機で除去し、Ⅲ層上面を精査した時点で、擦文文化期の竪穴住居跡である可能性も考えられたので、十字にトレンチを設定し、V層上面まで掘り下げたところ、Ⅲ層及びⅣ層は窪みなりに自然堆積している事が確認できた。これよりV層中の縄文時代の竪穴住居跡と想定し調査を中断した。

その後、Ⅳ層 Ta-c テフラを重機で除去し、V層上面を精査したところ、さらに深く広い窪みを確認した。この時点で窪みを含めた周囲の地形測量を行っている。この等高線図から楕円形のプランが想定できたので、十字にベルトを設定した。このベルトに沿うトレンチ調査を先行し、床面と壁面の把握に努めた。結果、床面及び壁面と竪穴外に広がる掘り上げ土を確認し、大まかに規模を把握できた。また、土層断面観察の結果、床面直上に Ta-d2 パミス主体の土層が厚く堆積している事が判り、屋根に葺いていた屋根土と判断した。この屋根土の上面で大量に遺物が出土することを確認し、廃絶後の住居跡の窪みを捨て場として利用していると思われた。このような状況から、竪穴の調査は屋根土の上面で一度検出し、ここで遺物の出土状態の撮影と図化を行っている。これらの遺物を取り上げた後で床面と壁面の検出を行っており、この際東側の壁面で段差が確認されたので、この部分で土層観察用のベルト (E-F) を追加している。これと平行して、竪穴の周囲に広がる掘り上げ土の検出を行っている。床面の検出が終了した時点で、土層断面の記録とベルト部分の調査を行い、床面の遺物出土状況と掘り上げ土の検出状況の撮影を行っている。床面で炉跡 (HF-01)、土坑 4 基 (HP-01~04)、柱穴 3 基 (KP-01~03) を検出している。柱穴はこの 3 基のみとは考えがたく、精査を繰り返したが落ち込みを確認することは出来なかった。床面は Ta-d2 パミスに作られており、柱穴には屋根土の Ta-d2 パミスが流れ込んだために落ち込みの確認が困難であったと考えられる。これらの付属遺構の調査を終了し、掘り上げ土を掘削し、完掘状態の撮影を行い調査は終了した。また、掘り上げ土を掘削した際、その下から VFCB-10 を検出している。

形態：竪穴の平面形は隅丸長方形である。床面は水平で、壁面は東側を除き急角度である。東側のベンチ上の段は、堆積状況の項で後述するが、人為的なものではなく壁面が崩落したものと考えられる。

掘り上げ土：竪穴の周囲 60~120 cm程に主体があり、更にこれが外側に流れて広がっている。竪

穴は西側から東側へ下る緩やかな傾斜に作られている。掘り上げ土は下り傾斜側の東側に厚く、幅広く盛られている。また地形図から東側掘り上げ土の範囲で等高線は開き比較的平坦な部分があることが看取できる。現場段階でも読み取れ、ここが出入り口になるのではないかと思われた。これに付属する遺構がないか各段階で精査を行ったが、検出されなかった。

堆積状態：土層 19 は生活面の汚れと考えられ、この下が竪穴の掘り方である。土層 17・18 は付属遺構の覆土である。土層 12～16 は壁面の際に三角堆積している。この上は土層 6 の屋根土で覆われている事から、屋根土崩落時に壁面が僅かに崩れ、それが堆積したものと思われる。土層 7～11 は東側のテラス状の部分の堆積状態である。土層 7～10 は基本土層がブロック状にずれ下がっており、これと壁面の間に堆積する土層 11 はこの隙間に流れ込んだものと考えられる。土層 6 は Ta-d2 パミスを中心とする土層で、その上面はレンズ状に堆積せずに起伏に富んでいる。このような状態から周囲からの流れ込み等による堆積の可能性は低く、屋根土と考えられる。この中に遺物は全く含まれていない。この直上に堆積する土層 4・5 は起伏に富んだ屋根土の低い窪みに堆積している。住居廃絶後に自然堆積する Vb 層に屋根土上面の土が流入した土層と考えられる。土層 3 は土層 6 の屋根土と一体となすもので竪穴の外側に堆積するもので屋根土の裾部分に葺かれていた土層である。土層断面 C-D の南側と断面 A-B の東側では土層 6 との間に土層 4 が堆積しているが、土層 3 が屋根土崩落後に二次的に流れ込んだものと考えられる。土層 1 は炭化物や焼骨片を含む土層で、この廃絶後の窪みに灰等を廃棄したものと思われる。

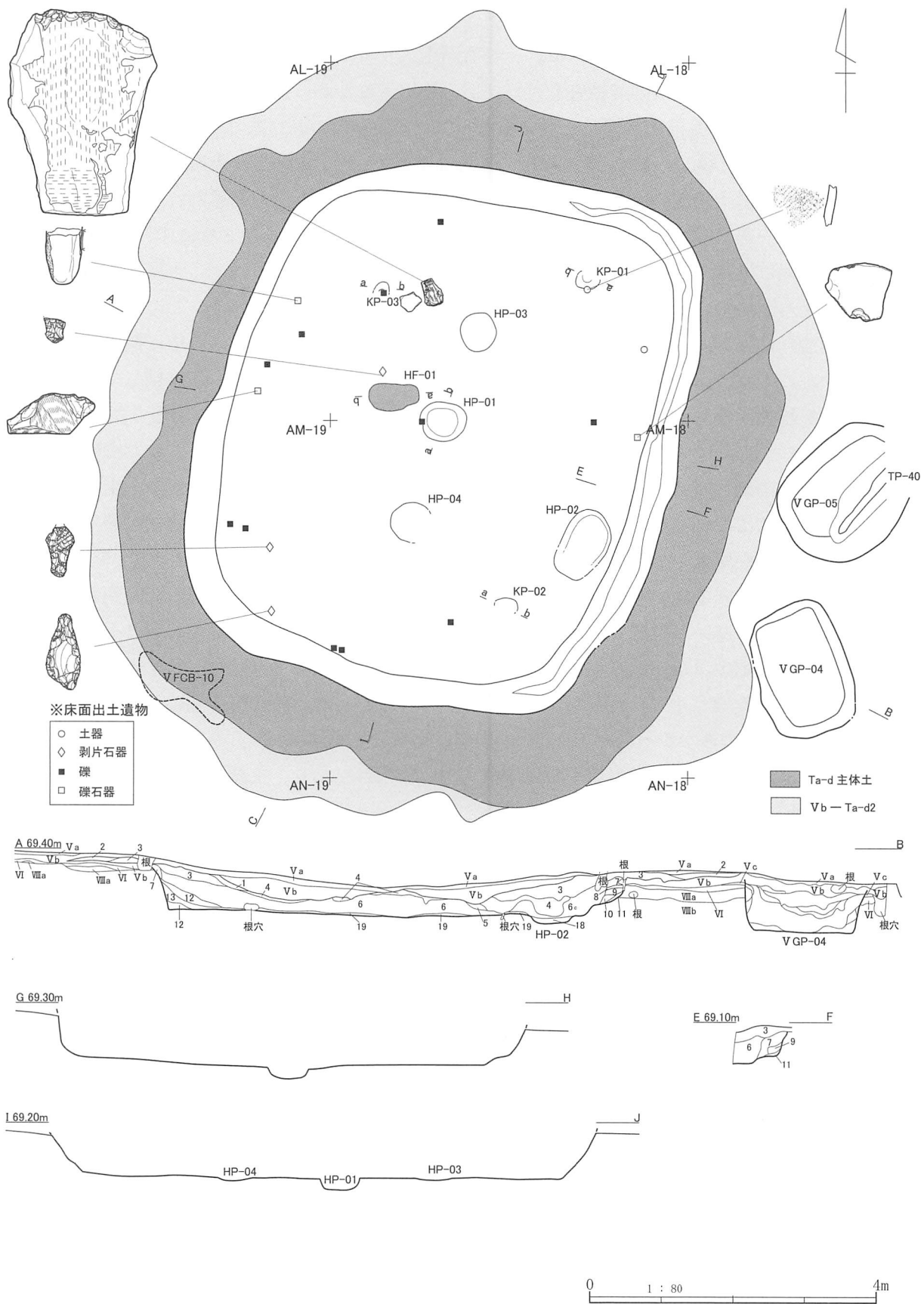
炉跡 (HF-01)：竪穴中央のやや西側で検出した。床面に炭化材が僅かに散逸した範囲があった。平面では色調による違いが確認できなかったが、炉跡の可能性を考え炭化材の範囲にトレンチを掘削した。断面でも地山 (Ta-d2 パミス) との色調による違いは確認できなかった。但し、全面を散水後この部分だけ乾燥が速く、色調が白色化することを確認した。これが被熱による変化であるのか、現時点では判断できなかったが、炭化材の検出状態から、可能性のあるものとして報告を行う。他の住居跡でも床は Ta-d2 (明褐色～明赤褐色) 中に作られており、色調の変化による炉跡の検出はされていない。

土坑及び柱穴：土坑は 4 基出土している。長軸上に 3 基が並んでおり、中央の HP-01 は深さ 16 cm を測るが、両脇の HP-03・04 は深さ 4 cm ほどの浅い窪みである。HP-01 は土層 2 に焼骨片と炭化物が含まれている。HP-02 は東側壁面近くに構築されている。前述したように確認できた柱穴は 3 本のみである。配置等から支柱穴は明らかではない。覆土は全て Ta-d2 である。

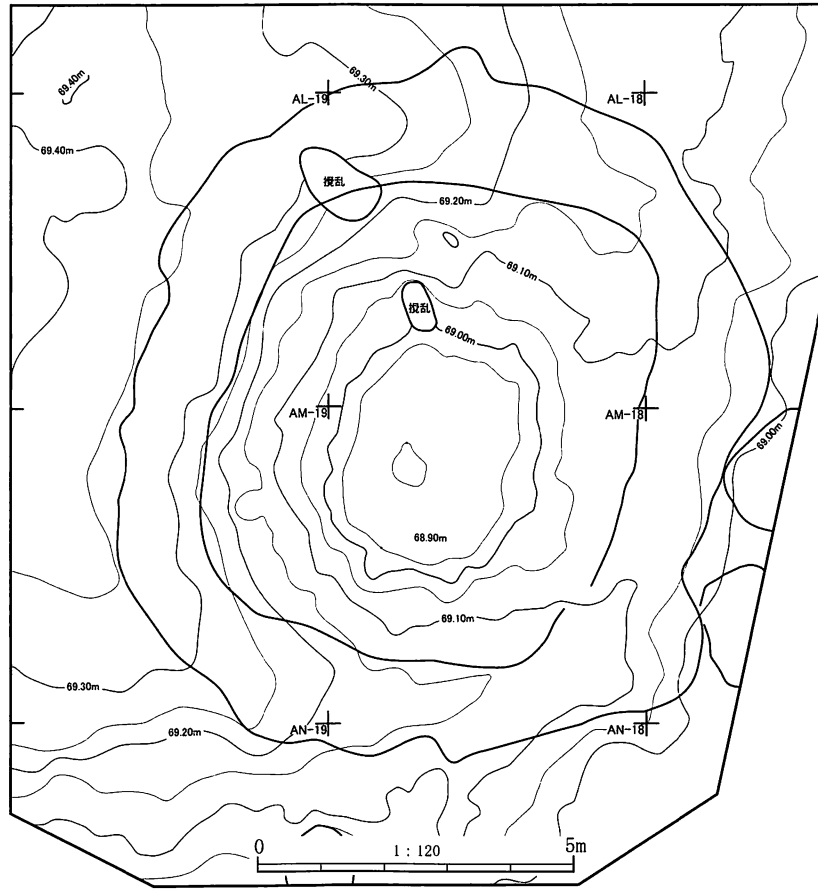
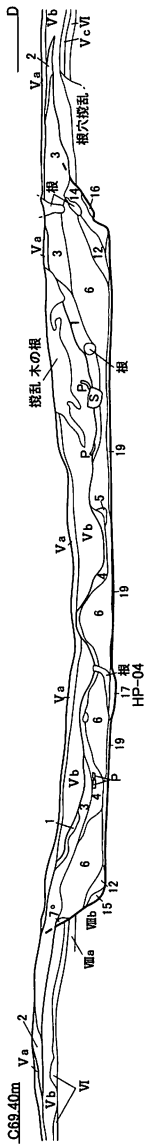
遺物出土状態：床面からは 22 点の遺物が出土している。内訳は土器 2 点、剥片石器 3 点、礫石器 4 点、フレイク 1 点、礫 12 点である。また、床よりやや上から、礫と礫石器が各 1 点ずつ出土している。基本的には壁面近くで遺物は出土している。石皿は使用面を上にした状態で出土している。

出土遺物：(図 VI-3) 1 は II B2 d 類の胴部片である。RL・LR の縄を縦回転し羽状縄文となっている。また結縛痕も確認できる。2 は石槍の基部片で、破断面に微細な剥離がある。破損部のエッジを利用したものと考えられる。3 は石槍で基部側縁に岩屑面を残す。4 は頁岩製のつまみ付きナイフである。つまみ部は形状からはやや不明瞭であるが、剥離の状態からつまみ付ナイフに分類した。5 は側縁を利用したたたき石である。6・7 は石鋸である。6 は扁平な板状の礫を素材とし、四辺全てを使用している。右側縁の中央部は礫の破断面を残している。7 は砥石を転用したものである。8 は石皿、9 は加工痕のある礫と分類したものである。

VH-01



図VI-2 VH-01 平面図及び断面図・付属遺構断面図

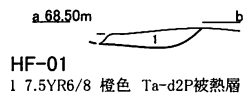


※ Va 層上面で地形測量

VH-01

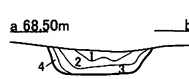
- | | | | |
|----------------|-------------------------|-----------------|-----------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | Vb - Ta-d2P ≡ 炭化物・焼骨片 | 10 5YR4/8 暗赤褐色 | Ta-d2P |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | Vb - Ta-d2P | 11 10YR5/6 黄褐色 | Ta-d1スコリア ≡ Vb |
| 3 10YR6/8 明黄褐色 | Ta-d1スコリア + Ta-d2P ≡ Vb | 12 10YR4/6 褐色 | Ta-d1スコリア = Ta-d2P・Vb |
| 4 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ Ta-d2P | 13 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P |
| 5 10YR2/3 黒褐色 | Vb = Ta-d2P | 14 10YR5/6 黄褐色 | Ta-d1スコリア ≡ Vb・Ta-d2P |
| 6 7.5YR5/8 明褐色 | Ta-d2 = Ta-d1スコリア ≡ Vb | 15 7.5YR5/8 明褐色 | Ta-d2L - Ta-d2P = Vb |
| 7 10YR2/1 黒色 | Vb | 16 10YR5/6 黄褐色 | Ta-d1スコリア = Vb |
| 8 10YR3/4 暗褐色 | VI | 17 10YR2/3 黒褐色 | Vb = Ta-d2P |
| 9 10YR5/6 黄褐色 | Ta-d1スコリア | 18 7.5YR5/8 明褐色 | Ta-d2 - Ta-d1スコリア・Vb |
| | | 19 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2L = Vb |

HF-01



HF-01
1 7.5YR6/8 橙色 Ta-d2P被熱層

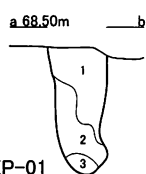
HP-01



HP-01

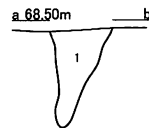
- 1 10YR2/2 黒褐色 Vb - Ta-d2P (斑状)
 2 10YR4/4 褐色 Vb = Ta-d2L・Ta-d2P・炭化物・焼骨片
 3 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P = Vb
 4 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P - Vb

KP-01



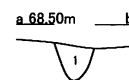
KP-01
1 5YR5/6 明赤褐色 Ta-d2L - Ta-d2P (斑状)
 2 5YR5/6 明赤褐色 Ta-d2L = Ta-d2P (斑状)
 3 5YR5/6 明赤褐色 Ta-d2L・Ta-d2P ≡ En-a

KP-02

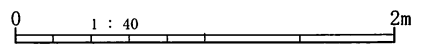


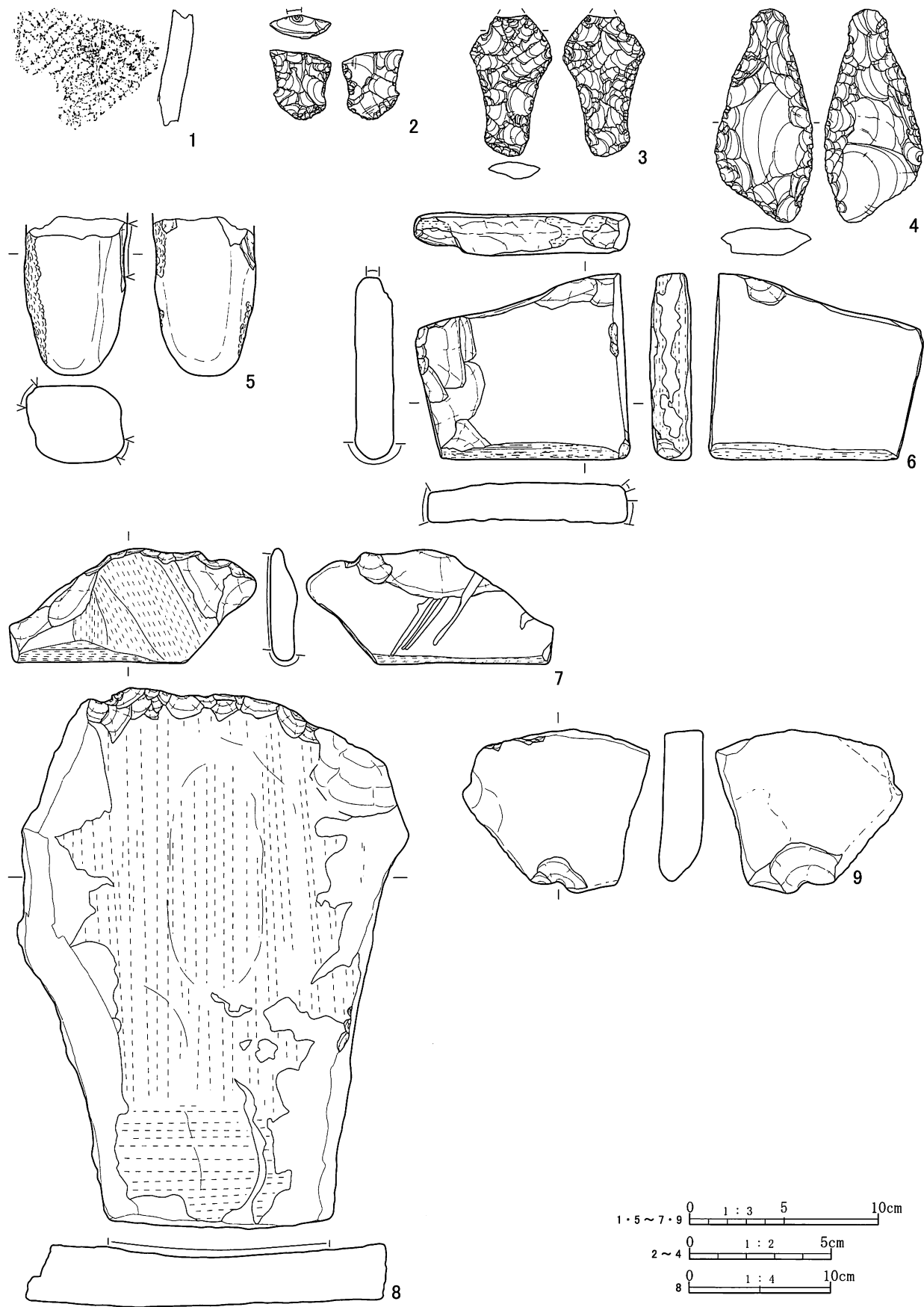
KP-02
1 5YR5/6 明赤褐色 Ta-d2L - Ta-d2P

KP-03



KP-03
1 5YR5/6 明赤褐色 Ta-d2L - Ta-d2P





図VI-3 VH-01 出土遺物

表VI-2 VH-01属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸 方向	調査面規模		坑底面規模		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
VI-2	40	VH-01	AK-18, AL-17~20, AM-17~20, AN-18・19	VbL	N-20°E	762	646	671	568	61	III層上面に おいて窪みで 確認
VI-2		屋根土		VbL	-	1099	932	-	-	-	

表VI-3 VH-01付属炉属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	確認 層位	平面形	規模(cm)			灰・骨片 の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
VI-2	41-3・4	HF-01	AL-18	床面	不整形	70	35	9	-	

表VI-4 VH-01付属土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
VI-2	41-5	HP-01	AL-18	床面	円形/円形	66	54	44	40	16	N-90°	1.22	1.10	-	
VI-2	41-2	HP-02	AM-18	床面	楕円形/楕円形	100	65	-	50	12	N-33°E	1.54	-	-	
VI-2	-	HP-03	AL-18	床面	円形/-	54	50	-	-	4	N-90°	1.08	-	-	
VI-2	-	HP-04	AL-18	床面	円形?/-	55	-	-	-	4	-	-	-	-	

表VI-5 VH-01柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			備考
			上端	下端	深さ	
VI-2	41-7	KP-01	31	15	67	
VI-2	41-6	KP-02	34	5	52	
VI-2	41-8	KP-03	22	8	18	

表VI-6 VH-01出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-3-1	118-1-1	JP122A	II B2d	VH-01	4	1	胴部	やや外傾	2段異原体羽状 縄文(縦回転)	φ2~6mm滑 石多量混入	

表VI-7 VH-01出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-3-2	118-1-2	-	11648	ポイント類	B1a	4	VH-01	-	24.2	22.3	8.4	4.1	Obs.	再加工
VI-3-3	118-1-3	-	11649	ポイント類	B1a	4	VH-01	-	(50.4)	28.8	9.6	11.1	Obs.	
VI-3-4	118-1-4	-	11650	ナイフ・スクレイパー類	A3	4	VH-01	-	75.7	34.7	11.9	26.9	Sh.	
VI-3-5	118-1-5	-	11745	たたき石	IV	4	VH-01	-	(83.9)	54.6	41.1	230.0	Sa.	
VI-3-6	118-1-6	-	11734	石鋸	-	3	VH-01	-	110.2	98.0	21.2	355.0	Sa.	
VI-3-7	118-1-7	-	11742	石鋸	-	4	VH-01	-	130.8	59.6	14.0	125.0	Sa.	
VI-3-8	118-1-8	-	11748	石皿	-	4	VH-01	-	380.0	277.0	42.0	5800.0	Sa.	
VI-3-9	118-1-9	-	11736	加工痕のある礫	-	4	VH-01	-	98.7	86.9	21.6	225.0	Sa.	

時期：後述する住居跡廃絶後の窪みを利用した捨て場からは円筒下層 d 式土器と II B2d 類の土器集中が共伴して出土している。床面からは II B2d 類の土器片が出土している。このような状態から、円筒下層 d 式よりもやや古いか、同じ頃のものと考えられる。

1号竪穴式住居跡覆土上層捨て場跡 (図VI-4~7、図版42)

1号竪穴住居跡の廃絶後の窪みから多量の遺物と、焼骨片を含む土層を検出したことから、捨て

場として利用されたと考えられる。ここで扱う出土遺物は堅穴内の窪みから出土したもので、屋根土上面よりも上のVa～Vb層で出土したものである。土器は大半が前期後葉のⅡB類のものであるが、後期Ⅳ群のものもVa層主体に出土している。その他の遺物も後期のものが混入している可能性はあるが、土器の出土状態から僅かであると思われる。

遺物は2,224点出土している。層位毎の内訳はVa層84点、Vb層上位482点、Vb層下位1,486点、V層で一括して取り上げたもの222点である。屋根土に近くなる程出土点数が多くなる。分類ごとの内訳は土器386点、剥片石器68点、礫石器44点、フレイク・チップ1,219点、礫413点である。土器の分類ごとの出土点数はⅡB2a類161点、ⅡB2b類34点、ⅡB2d類135点、ⅣA2類49点、分類不明の細片7点である。礫石器は16点が石皿で、本捨て場跡の礫石器の約37%を占める。遺跡全体の礫石器の比率から考えると多い傾向が伺える。

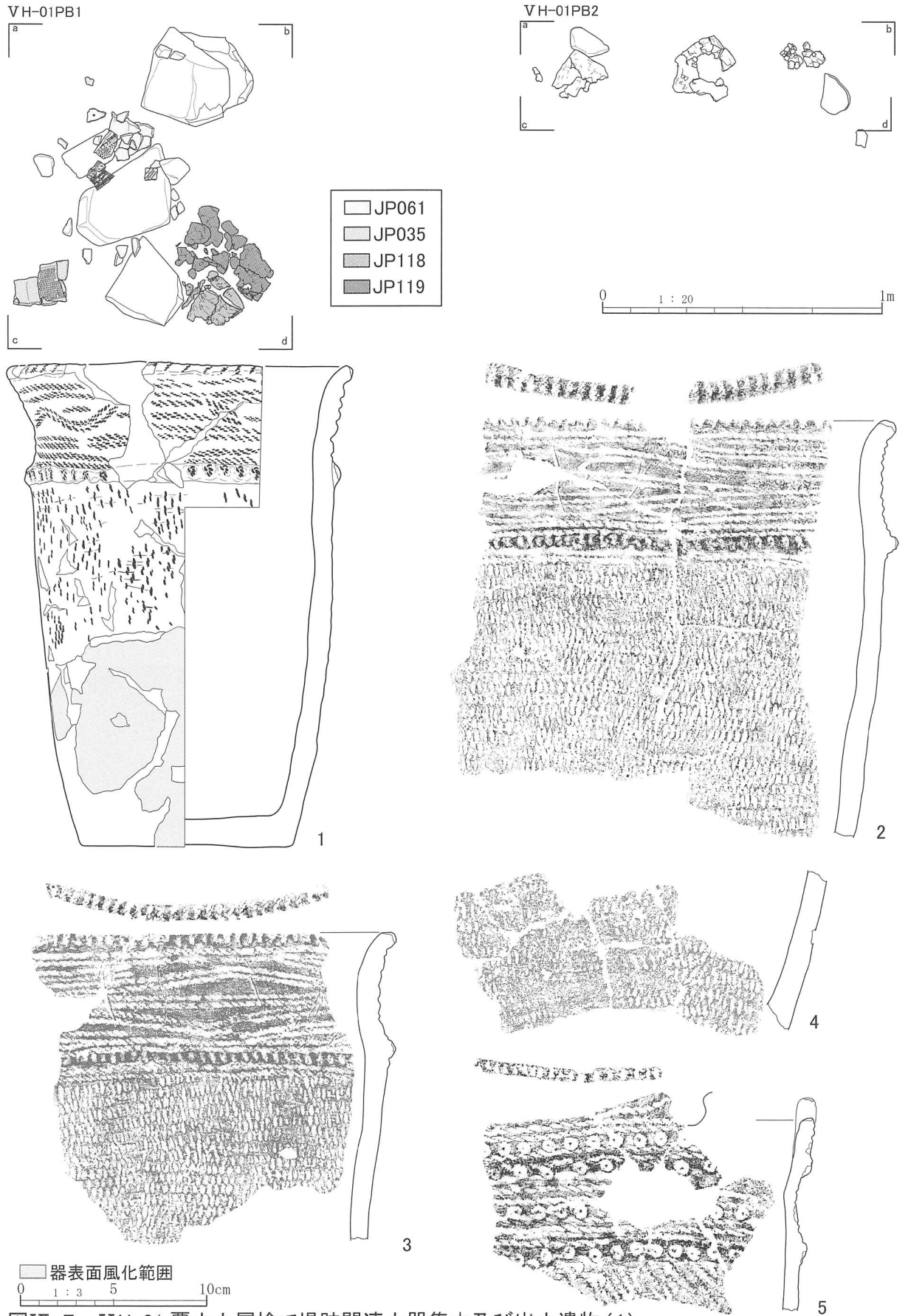
遺物等出土状態：土器集中を2ヵ所検出している。遺物は特に屋根土の起伏に富んだ窪み中に濃く分布している。後述する土器集中もこの窪み中で出土している。VH-01.PB-01は3個の石皿の間で近接して4個体の土器が横に倒れて潰れた状態で出土している。このような出土状態からこれらは共伴関係にあると考えられる。図VI-5-1(JP061)と図VI-5-2～4(JP035)がⅡB2aの円筒下層d式で、図VI-6-7・8(JP118)と図VI-6-9(JP119)がⅡB2d類で胎土に蛇紋岩を含む土器である。ⅡB2d類は現在型式設定されている土器ではないが、この共伴関係から、本遺跡のものはこの時期のものとして捉えられる。VH-01.PB-02は図VI-6-10でⅡB2d類である。また、北西側では炭化材と共に焼骨片を確認している。焼骨片だけを廃棄したとは考えにくいことから、灰層を廃棄したためと考えられる。灰は土壌化してしまい確認できないものと思われる。

出土遺物：(図VI-5～7) 1～5はⅡB2a類の円筒下層d式土器である。1は平縁で口唇は丸状である。隆帯で文様帯は区画されており、文様帯には縄線文が施される。縄線文はやや不規則であるが、上下に横位の縄線文が配され、その間の縄線文は一部波状になっている。内面の調整は横方向のミガキが施されているがやや不明瞭である。2～4は同一個体である。平縁で口唇の断面は隅丸角状である。隆帯で文様帯は区画されている。隆帯の直下と文様帯に縄線文が施されている。5は口縁部片で、口唇は隅丸角状で、刺突が施されている。隆帯は上下2ヵ所あり、下のものは文様帯を区画している。隆帯上には円形刺突文が施されている。6はⅡB2b類の大麻V式土器である。口唇の角と口縁に縄線文が施される。7～10はⅡB2d類である。非常に脆く、細片化しており接合は困難であった。7・8は同一個体である。平縁で口唇断面形状は隅丸角状である。口唇にはRLの縄文が施されている。口縁部は地文が施されておらず、幅が広く、やや浅い指頭様の沈線文が施されている。胴部は器面が剥落しており文様等は不明である。9は口縁がやや内湾する器形である。口縁には縄線文が施された隆帯が横環する。胴部の大半は器面が剥落しているが僅かに地文が確認できる部分があり、RL・LRの原体を縦回転した羽状縄文である。10は口縁が直立するものである。地文はやや判別しにくいだが、RLを縦回転した斜行縄文と思われる。11は石鏃、12・13は石槍である。14～16はつまみ付きナイフで14・15は頁岩である。17・18は使用面が窪むたたき石である。19は北海道式石冠である。使用面から頂部にかけて大きく欠損した後も、頂部付近を打ち欠いて再加工し、利用している。20・21は砂岩製の石皿で、すり面は窪んでいる。また、すり面の周縁には敲打痕が残っているが、これはする前に敲打整形で粗面を作り出したためと考えられる。

VH-01覆土上層捨て場跡



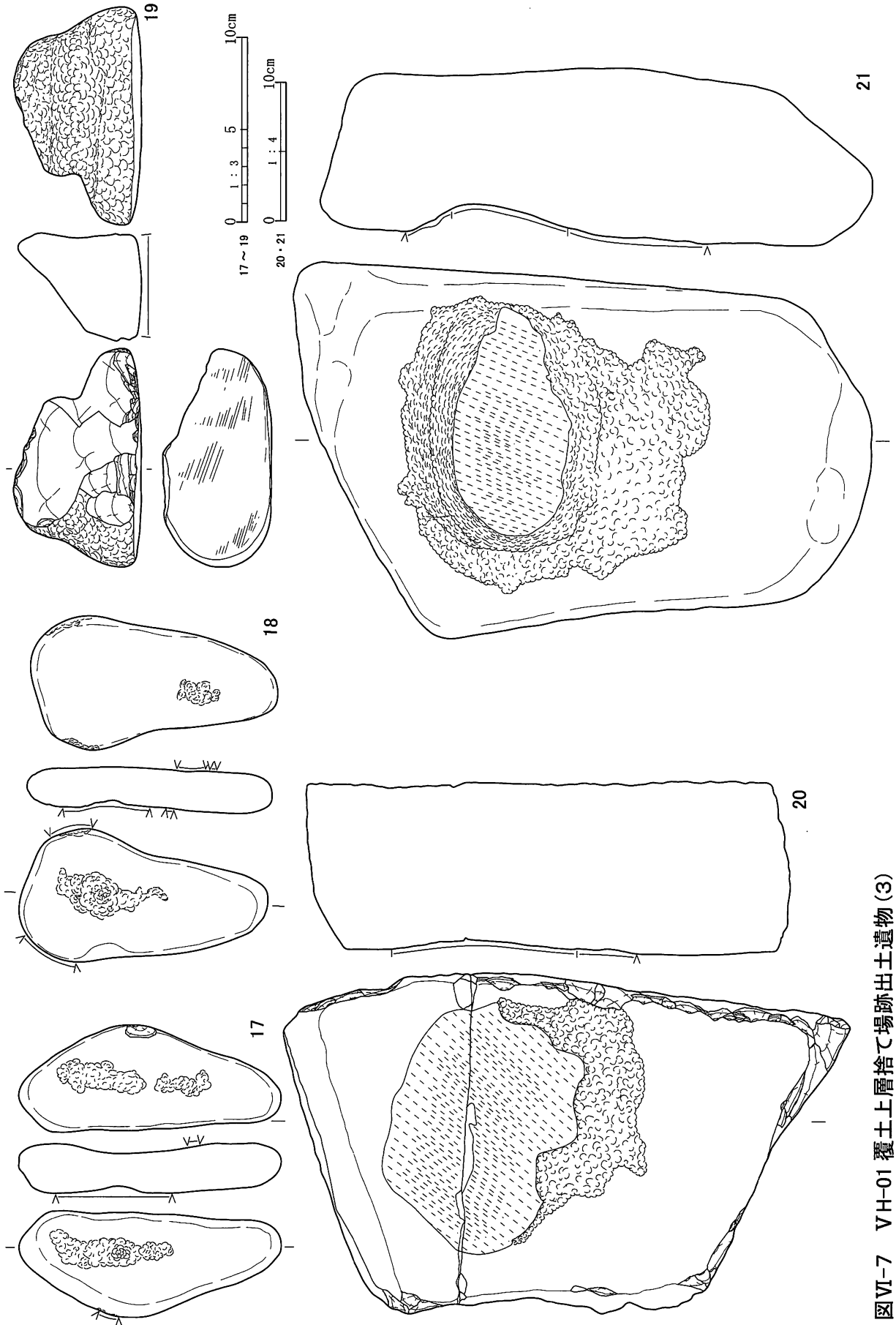
図VI-4 VH-01 覆土上層捨て場跡



図VI-5 VH-01 覆土上層捨て場跡関連土器集中及び出土遺物(1)



図VI-6 VH-01 覆土上層捨て場跡出土遺物(2)



図VI-7 VH-01 覆土上層捨て場跡出土遺物(3)

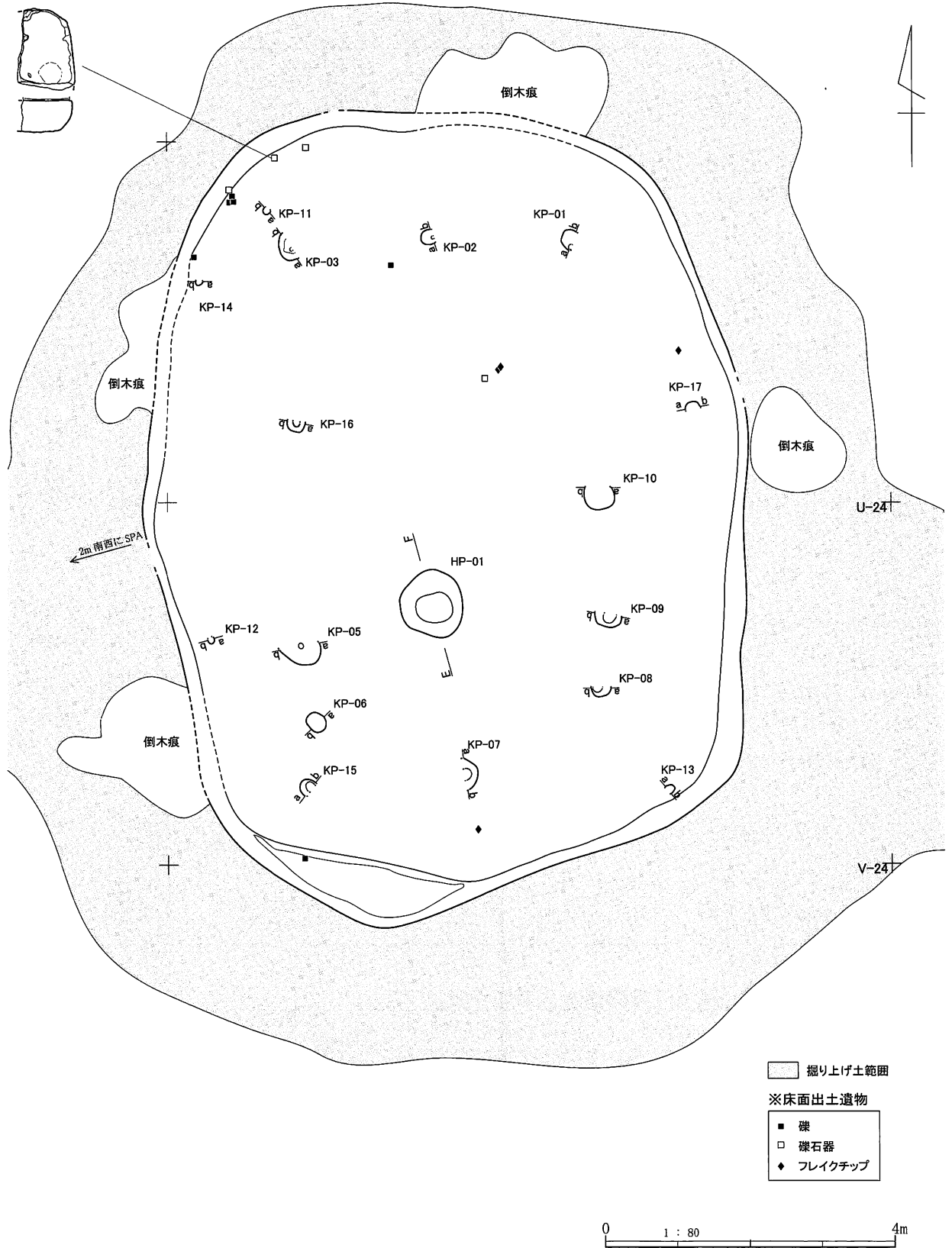
表VI-8 VH-01覆土上層捨て場跡出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-5-1	118-2-10	JP061	II B2a	VH-01	V	1	口縁 ~ 底部	平縁・外反-丸/や や外傾/外傾-角 状-平底	縄の圧痕-隆帯1+ 縄の圧痕・縄線文/ 縄線文・撚糸文(多 軸絡条体)	φ2~4mm礫 少量、繊維 多量混入	内面:口 縁 弱い 横ミガキ
				VH-01	VbL	25					
				VH-01PB1	VbL	11					
VI-5-2	118-2-11	JP035A	II B2a	VH-01	VbL	3	口縁 ~ 胴部	平縁・外反-隅丸 角状/やや外傾	縄の圧痕-隆帯1+ 縄の圧痕・縄線文/ 縄線文・撚糸文(多 軸絡条体)	φ1~2mm石 英・繊維少 量、繊維微 量混入	内面:口 縁~胴 部横ミガ キ
				VH-01PB1	VbL	5					
VI-5-3	119-1-1	JP035B	II B2a	VH-01	VbL	2	口縁 ~ 胴部	平縁・外反-隅丸 角状/やや外傾	縄の圧痕-隆帯1+ 縄の圧痕・縄線文/ 縄線文・撚糸文(多 軸絡条体)	φ1~2mm 石英・繊維 少量混入	内面:口 縁~胴 部横ミガ キ
VI-5-4	119-1-2	JP035C	II B2a	VH-01	VbL	1	胴部 下半	外傾	撚糸文 (多軸絡条体)	φ1~2mm石 英・繊維少 量混入	内面: 胴部横ミ ガキ
				AM-19	VbM	2					
				AN-19	VbL	1					
VI-5-5	119-1-3	JP043	II B2a	VH-01	Va	1	口縁 ~ 胴部上 半	突起(2ヶ1対)・直 立-隅丸角状/や や外傾	刺突文-隆帯2+円 形刺突文・縄線文・ 円形刺突文/RL斜 行縄文	φ1~3mm石 英・砂粒多 量、繊維微 量混入	内面:口 縁横ミガ キ強
				VbL	1						
				VH-01PB1	VbL	1					
				AI-19	VbL	1					
				AJ-21	V	1					
				AK-20	Va	1					
VI-6-6	119-1-4	JP065A	II B2b	VH-01	VbL	1	口縁 部	平縁・やや外傾- 角状	RL斜行縄文-異原 体羽状縄文・縄線 文(同一条異原体)	繊維極多量 混入	内面:横 ナデ調 整痕強
VI-6-7	119-1-5	JP118C	II B2d	VH-01PB1	VbL	17	口縁 ~ 胴部上	平縁・やや外傾- 角状/やや外傾	RL縄文-沈線文- LR・RL斜行縄文	φ2~8mm 蛇紋岩多量 混入	表面剝 落著
VI-6-8	119-1-6	JP118A	II B2d	VH-01PB1	VbL	23	口縁 ~ 胴部上	平縁・やや外傾- 角状/やや外傾	RL縄文-沈線文- LR斜行縄文	φ2~8mm 蛇紋岩多量 混入	表面剝 落著
VI-6-9	119-1-7	JP119A	II B2d	VH-01PB1	VbL	18	口縁 ~ 胴部下 半	平縁・やや内湾- 角状/外傾	RL縄文-LR斜行縄 文-隆帯1+縄線文 /2段異原体羽状縄 文(縦回転)	φ2~12mm 蛇紋岩多量 混入	表面剝 落著
VI-6-10	119-1-8	JP129A	II B2d	VH-01PB2	VbL	4	口縁 ~ 胴部上	平縁・やや内湾- 角状/外傾	RL縄文-LR縄文? (縦回転?)	φ2~8mm 蛇紋岩多量 混入	表面剝 落著

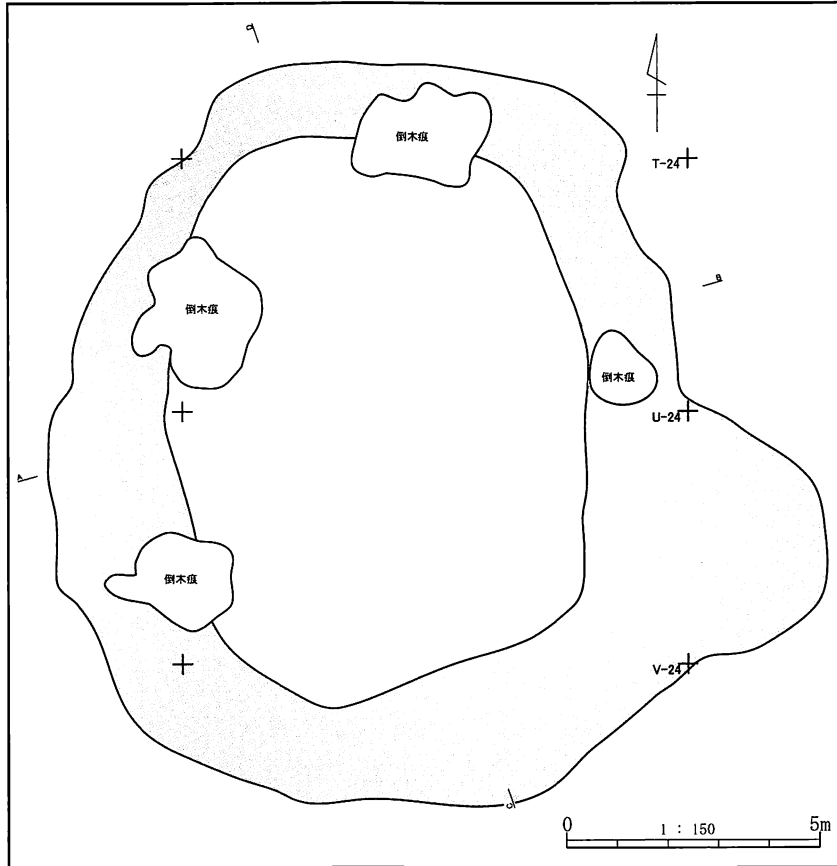
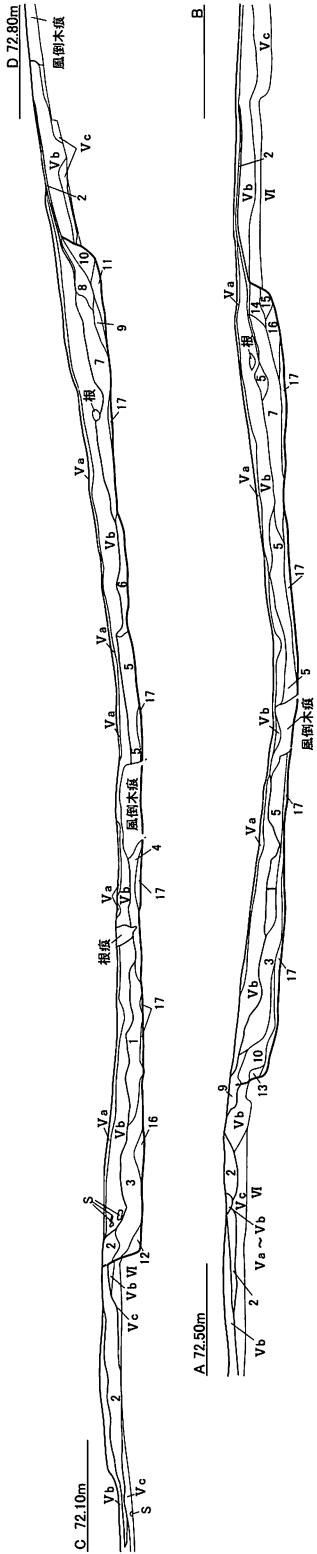
表VI-9 VH-01覆土上層捨て場跡出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-6-11	120-1-1	-	11099	ポイント類	A4	VbL	VH-01	-	33.0	16.4	4.5	1.3	Obs.	
VI-6-12	120-1-2	-	10816	ポイント類	B1a	VbL	VH-01	-	49.1	33.5	11.5	14.5	Obs.	
VI-6-13	120-1-3	-	10918	ポイント類	B1a	VbL	VH-01	-	59.6	32.6	11.2	14.7	Obs.	
VI-6-14	120-1-4	-	10817	ナイフ・スクレイパー類	A1	VbL	VH-01	-	80.3	25.1	9.1	15.1	Sh.	
VI-6-15	120-1-5	-	11659	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbU	VH-01	-	48.8	21.1	8.2	7.5	Sh.	
VI-6-16	120-1-6	-	10881	ナイフ・スクレイパー類	A3	VbL	VH-01	-	80.1	35.8	9.4	19.2	Obs.	
VI-7-17	120-1-7	-	10903	たたき石	I A1	VbL	VH-01	-	141.2	57.1	25.4	260.0	Sa.	
VI-7-18	120-1-8	-	10781	たたき石	I A3	VbL	VH-01	-	134.1	72.1	22.0	270.0	Sa.	
VI-7-19	120-1-9	-	11661	すり石	IV	VbL	VH-01	-	117.2	68.4	58.0	482.0	Sa.	
VI-7-20	120-1-10	VST508	11071	石皿	-	VbL	VH-01	-	401.0	248.0	125.0	17760.0	Sa.	
VI-7-21	120-1-11	-	11072	石皿	-	VbL	VH-01	-	416.0	270.0	102.0	19740.0	Sa.	

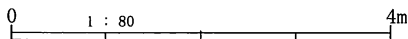
VH-02



図VI-8 VH-02 平面図及び断面図・付属遺構断面図



- | | | | |
|----|-----------|------|---|
| 1 | 10YR2/3 | 黒褐色 | V~VI = Ta-d2P(φ5↓) (斑状) シルト岩(φ3↓) |
| 2 | 10YR3/4 | 暗褐色 | VI = Ta-d2P(φ3↓)・Ta-d1スコリア(均一) |
| 3 | 10YR3/4 | 暗褐色 | VI - Ta-d2P(φ5↓)・Ta-d1スコリア(均一) = Vb(斑状) |
| 4 | 7.5YR2/3 | 極暗褐色 | Ta-d2L + VI(均一) = Ta-d2P(φ3↓) (斑状)・Vb |
| 5 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb + VI = Ta-d2P(φ10↓) (斑状) |
| 6 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d2P(φ5~10) Ta-d2L主体 = Vb(均一) |
| 7 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-d2P(φ3↓) (斑状) ≡ VI・Ta-d1スコリア |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb = Ta-d1スコリア・VI(均一) |
| 9 | 10YR1.7/1 | 黒色 | Vb = VI ≡ Ta-d2P(φ5~10) (斑状) |
| 10 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = VI・Ta-d2P(φ5↓) Ta-d1スコリア(斑状) |
| 11 | 10YR3/4 | 暗褐色 | Ta-d1 ≡ Ta-d2P(φ3↓)・Vb(均一) しまり弱 |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb = Ta-d1スコリア・VI(均一) |
| 13 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb = VI ≡ Ta-d2P(φ5~10) (斑状) |
| 14 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb主体 ≡ Ta-d2P(φ5~10) (斑状) |
| 15 | 10YR5/6 | 黄褐色 | VI 主体 |
| 16 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb + VI = Ta-d1スコリア ≡ Ta-d2P(φ5↓) |
| 17 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d2P(φ5↓) ≡ Vb しまり強 |



2号竪穴式住居跡〔VH-02〕（図VI-8～11、図版43～44）

位置：S-24・25、T～V-23～26 平面形：隅丸長方形

規模：竪穴本体 1136×824 cm 掘り上げ土 1288×1192 cm

確認・調査：伐採後現在の表面で浅い窪みを確認していた。Ta-b テフラを重機で除去し、Ⅲ層上面を精査した時点で、更に大きな窪みを確認していた。この時点で、窪みの規模等から縄文時代の竪穴住居跡であると想定していたが、Ⅲ層の遺構である可能性も考えられたので、トレンチの掘削を行っている。トレンチ調査ではⅢ層及びⅣ層は自然堆積と判断できたので、ここで作業を一時中断している。Ⅳ層 Ta-c テフラを重機で除去し、Ⅴ層上面の精査を行い、窪みを検出した。この北側にも大きな窪みを確認していたので、ベルトの設定はこの2カ所の窪みを通る部分で1本設定し、これと直交する短軸にもう1本設定している。ベルトに沿うトレンチ調査を先行して行い、床面及び壁面からおおよその規模を把握した。その後ベルトを残し、床面・壁面の検出を行った。これと並行して、竪穴周囲の掘り上げ土の検出を行っている。土層断面の記録を行い、ベルト部の調査をして、床面全体を検出した時点で柱穴等の付属遺構の調査を行っている。これらの記録を行い、掘り上げ土を調査掘削して調査を終了した。

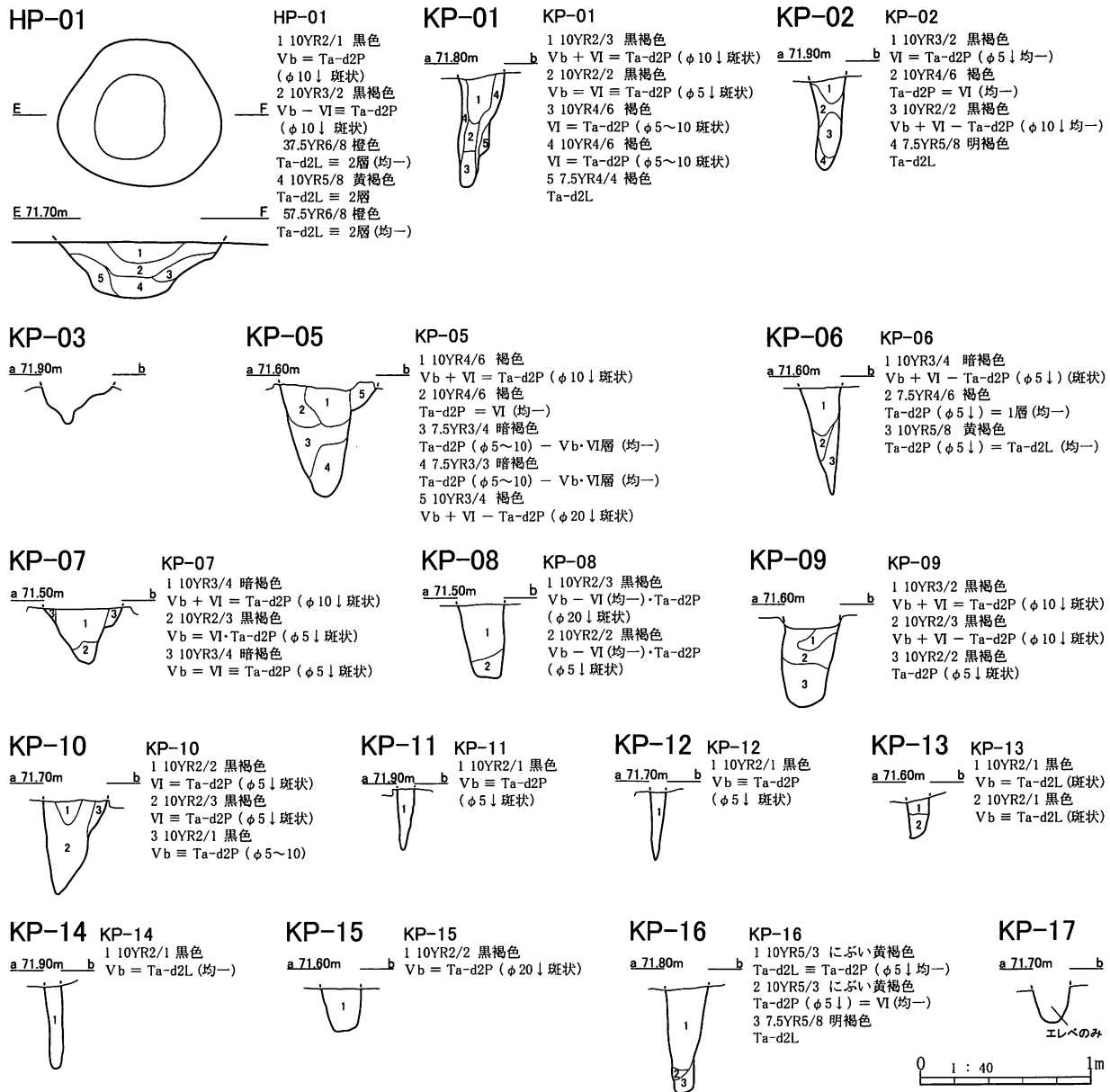
形態：竪穴の規模は10mを超えるもので、大型住居跡である。平面形は隅丸長方形を基調とするが、南側壁面の西側で僅かに張り出しており、床面は段状になる。高い段の部分はTa-d2の上面を床としている。この部分を掘り進める際はベルト等を残しておらず、掘りすぎであった可能性もある。床面は地山の傾斜と同じく北から南側への下り傾斜である。壁面の立ち上がりは急角度である。

掘り上げ土：床面はTa-d2を僅かに掘削しているのみであり、掘り上げ土にはTa-d2はあまり含まれていない。竪穴の周縁80～480cmの幅で広がる。上り斜面側の北～北西側で幅が狭く、南半で幅が厚くなる。また、U-23区で特に幅が広がっているが、掘り上げ土の範囲に一部重なってTP-51が出土しており、この掘り上げ土が重なっていた可能性もある。

堆積状態：土層2・9は竪穴外に広がる掘り上げ土及び、二次的に竪穴内に流入したものである。土層17はTa-d2パミスに黒色土がやや混じる汚れた土層で、堅くしめることから生活面と考えられる。その他の土層は周囲からの流入土や壁面崩落もしくは屋根の裾を葺いていた屋根土の崩落土と考えられるが土層および堆積状態からは不明瞭である。

土坑及び柱穴：床面中央よりやや南側で土坑（HP-01）を検出している。平面形は開口部でやや不正形であるが、底面は楕円形となっている。主柱穴は配置からKP-01～03・05～10・16の10本と思われる。KP-01は掘り方が明瞭なもので、土層1～3が柱痕で、土層4・5は掘り方埋土である。また、KP-08・09は底面が平坦で硬くしめることから、掘り方は不明瞭であるが掘立柱であったと思われる。KP-11～14は比較的細く、先端は尖るもので、覆土はVb主体のものである。これらは壁面の際で検出している。

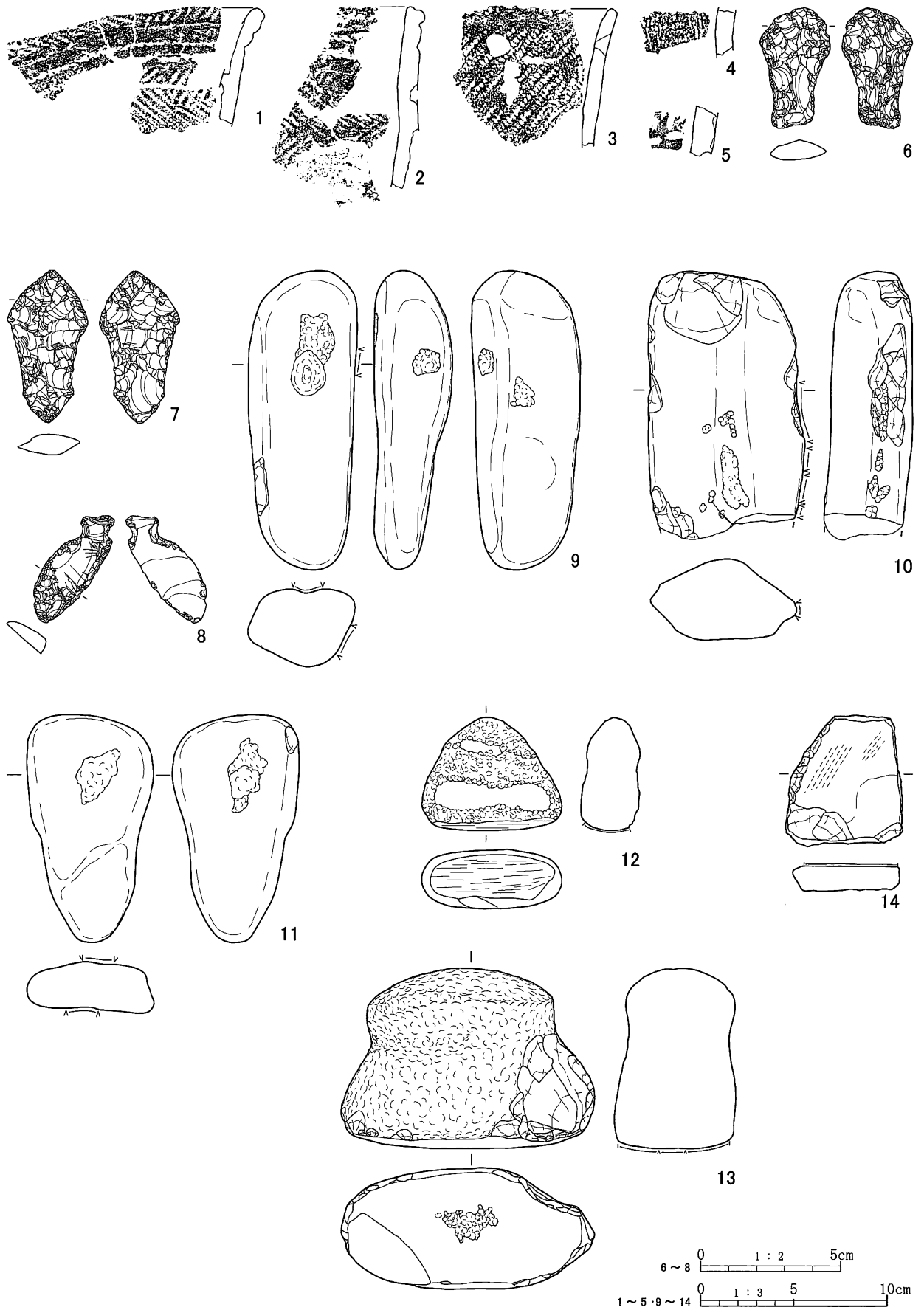
遺物出土状態：出土状態を図化しているのは床面出土の15点のみである。これを含めて竪穴内からは1,395点が出土している。層位ごとの内訳はVa層381点、Vb層上位339点、Vb層下位25点、覆土上層204点、覆土下層88点、床面15点、V層一括で取り上げたもの343点である。床面以外の遺物の出土分布はやや南半に多い傾向がある。遺物の分類ごとの内訳は土器64点、土製品12点、剥片石器27点、礫石器57点、フレイク・チップ1,033点、礫202点である。土器は大半がⅡB類の縄文前期後半のものである。剥片石器及び礫石器は器種による偏りは特に認められない。



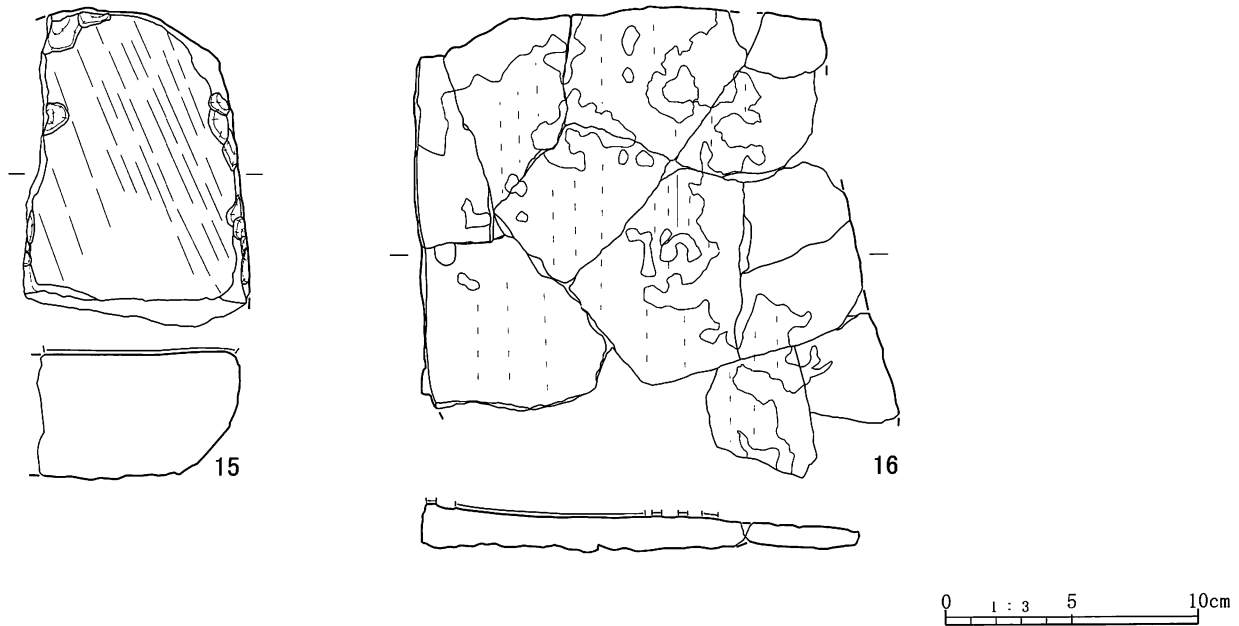
図VI-9 VH-02 柱穴断面

出土遺物 (図VI-10) : 1・2 はⅡB2b 類の大麻V式土器である。口唇の断面形は共に外削ぎの隅丸角状である。口唇には1は縄文、2は縄線文を施している。3・4 はⅡB2a 類である。3は口唇が丸状のもので、文様帯がなく、地文のみのものである。内面のミガキは著しく、光沢がある。4は小破片で判りにくい、多軸絡条体回転文の地下に条痕が施されている。5はⅡB2c 類のシュブノツナイ式土器である。刺突の方向が変わっており、頸部付近の破片と思われる。6・7は黒曜石製の石槍である。6は先端部欠損後の再加工品と考えられる。8は頁岩製のつまみ付きナイフである。9~11はたたき石で、9・11は平坦面に窪んだ敲打痕がある。12・13は北海道式石冠である。12は非常に小型のものであるが、明瞭にすり面が形成されており、実用品と考えられる。14~16は砥石である。

時期：床面から土器は出土していないが、覆土中から出土するものは前期後半の土器である。また、住居跡の形態は時期の明らかなVH-01・03と類似することからも前期後半のものと考えられる。



図VI-10 VH-02 出土遺物 (1)



図VI-11 VH-02 出土遺物 (2)

表VI-10 VH-02属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸 方向	調査面規模		坑底面規模		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
VI-8	43	VH-02	S-24・25, T-23~26, U-23~26, V-23~26	VbL	N-9° E	1136	824	1096	792	48	現地表面で 窪みを確認
VI-8		掘り上 げ土		VbL	-	1288	1192	-	-	-	

表VI-11 VH-02付属土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面 /坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
VI-8	44-1・2	HP-01	U-25	VbL	不整形/楕円形	64	56	48	40	32	N-77° E	1.14	1.20	-	

表VI-12 VH-02柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			備考
			上端	下端	深さ	
VI-9	44-3	KP-01	13.5	4.5	34.0	
VI-9	44-4	KP-02	10.5	4.0	28.0	
VI-9	-	KP-03	21.0	4.0	11.0	
VI-9	44-5	KP-05	29.0	6.5	34.0	
VI-9	-	KP-06	13.0	2.0	31.5	
VI-9	-	KP-07	23.5	6.0	16.0	
VI-9	44-7	KP-08	14.0	8.0	11.5	
VI-9	-	KP-09	16.5	10.0	26.0	
VI-9	44-6	KP-10	19.0	3.5	27.0	
VI-9	44-8	KP-11	5.0	2.0	18.0	
VI-9	44-9	KP-12	4.5	2.0	10.0	
VI-9	44-10	KP-13	11.0	5.0	12.0	
VI-9	44-11	KP-14	9.0	24.0	3.0	
VI-9	-	KP-15	7.0	6.5	12.5	
VI-9	44-12	KP-16	12.0	5.5	31.0	
VI-9	-	KP-17	11.5	5.0	11.0	

表VI-13 VH-02出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-10-1	121-1	JP229A	II B2b	VH-02	VbU	6	口縁部～ 胴部 上半	平縁・外傾一 外削隅丸角状/ やや外傾	RL・LR縄文一縄線文 (同一条異原体)/ 2段異原体羽状縄文	繊維、砂粒 少量混入	
VI-10-2	121-2	JP234A	II B2b	VH-02	VbU	5	口縁部～ 胴部 上半	平縁・やや外傾一 外削隅丸角状/ やや外傾	縄線文一縄線文/ 1段異原体羽状縄文	繊維多量、 φ1mm砂粒 少量混入	
VI-10-3	121-3	JP255	II B2a	VH-02	1	1	口縁部～ 胴部 上半	平縁?・やや外傾 一丸状/直立	LR縄文一LR斜行 縄文/LR斜行縄文	φ1mm砂粒 少量、繊維 微量混入	内面:口 縁ヨコミ ガキ強、 胴部タ テミガキ 強、補修 孔有り
VI-10-4	121-4	JP264	II B2a	VH-02	VbU	1	胴部	直立	撚糸文(多軸絡条体)	φ1～2mm 石英、砂粒 少量、繊維 微量混入	内面: ミガキ弱
VI-10-5	121-5	JP117G	II B2c	VH-02	1	1	胴部	直立	刺突文	φ1～5mm 石英、砂粒 少量	

表VI-14 VH-02出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-10-6	121-6	-	20561	ポイント類	B1a	1	VH-02	-	43.8	25.7	9.3	9.4	Obs.	
VI-10-7	121-7	-	20892	ポイント類	B2b	VbU	VH-02	-	54.7	29.0	11.2	12.8	Obs.	
VI-10-8	121-8	-	20883	ナイフ・スクレイパー類	A1	VbU	VH-02	-	44.2	15.9	5.7	4.9	Sh.	
VI-10-9	121-9	-	20704	たたき石	I A3	VbU	VH-02	-	160.0	58.0	40.0	460.0	Sa.	
VI-10-10	121-10	-	20875	たたき石	I B2	1	VH-02	-	(139.9)	83.2	44.5	680.0	Sa.	
VI-10-11	121-11	-	20941	たたき石	II A1	1	VH-02	-	68.0	123.0	28.0	320.0	Sa.	
VI-10-12	121-12	-	19945	すり石	D	VbU	VH-02	-	61.0	76.0	32.0	19.0	Sa.	
VI-10-13	121-13	-	20629	すり石	D	VbU	VH-02	-	133.5	91.4	64.9	1196.0	Sa.	
VI-10-14	121-14	-	27112	砥石	B	2	VH-02	-	71.0	63.0	14.0	90.0	Sa.	
VI-11-15	121-15	-	25508	砥石	B	2	VH-02	-	125.0	90.0	49.0	785.0	Sa.	
VI-11-16	121-16	-	20525	砥石	B	VbU	VH-02	-	(191.2)	188.5	16.5	615.0	Sa.	

3号竪穴式住居跡[VH-03] (図VI-12～16、図版45・46)

位置: P-25～27、Q・R-24～27、S-25・26 平面形: 隅丸長方形

規模: 竪穴本体 1, 318×892 cm 掘り上げ土 1, 774×1, 482 cm

確認・調査: ベルトの設定までは2号竪穴住居跡と同様の調査経過である。ベルトに沿うトレンチ調査を先行し、床面と壁面の把握に努めた。結果、おおよその竪穴規模を把握できた。また、土層断面の観察から C-D ラインの西側で別の遺構を切っている事を確認している。トレンチ掘削中Vb層と覆土の上層から大量の遺物が出土している事を確認した。これはVH-01のように竪穴住居跡廃絶後の窪みを捨て場として利用していると考えられた。このような状況から、調査は遺物が多量に出土する覆土上層で一度検出し、ここで遺物の出土状態の撮影と図化を行っている。また、この面で遺物の他に焼骨片を含む炭化材の集中範囲を3カ所(VCB-01～03)検出している。これらの調査が終了した時点で床面と壁面全体の検出、土層断面の記録を行っている。この後でベルト部の調査を行い、床面付属遺構の検出を行った。床面及び壁中で付属土坑(HP-01～03)3基と柱穴34本を

検出し調査を行った。その後で周囲の掘り上げ土を掘削し、VH-03の西側から南側にかけて別の落ち込みを確認している。これはVH-05とVMZ-01の落ち込みであり別に記載している。

形態：平面形は隅丸長方形である。規模は長軸長13mを超えるもので、いわゆる「大型住居跡」である。床面は南西方向に向かって、緩く下り傾斜となっている。壁面は一部急角度で立ち上がる部分が見られるが、殆どは緩やかな傾斜である。

掘り上げ土：西側の一部は、次年度以降の調査予定範囲に広がる。堅穴の周囲40～200cm程に分布している。掘り上げ土は北側で幅が狭く、厚さは薄い。

堆積状態：土層1～23はVH-03、土層24～33はVMZ-01、土層34～37はVH-05に関連する土層であり、VMZ-01とVH-05については後述する。土層1～9は周囲からの流れ込みや、掘り上げ土が二次的に流れ込んだものと考えられる。土層10～15・17・18はTa-dテフラを主体とするもので、掘り上げ土と考えられる。壁面際で厚く堆積し、堅穴中央部へは広がらないことから屋根の裾部分を葺いていた可能性がある。土層16・19・20もこの可能性があるが、壁面で三角状に堆積することから壁面の崩落土の可能性もある。土層21・22はHP-01の覆土である。土層23は掘り上げ土で、堆積後二次的に移動していないと考えられる。

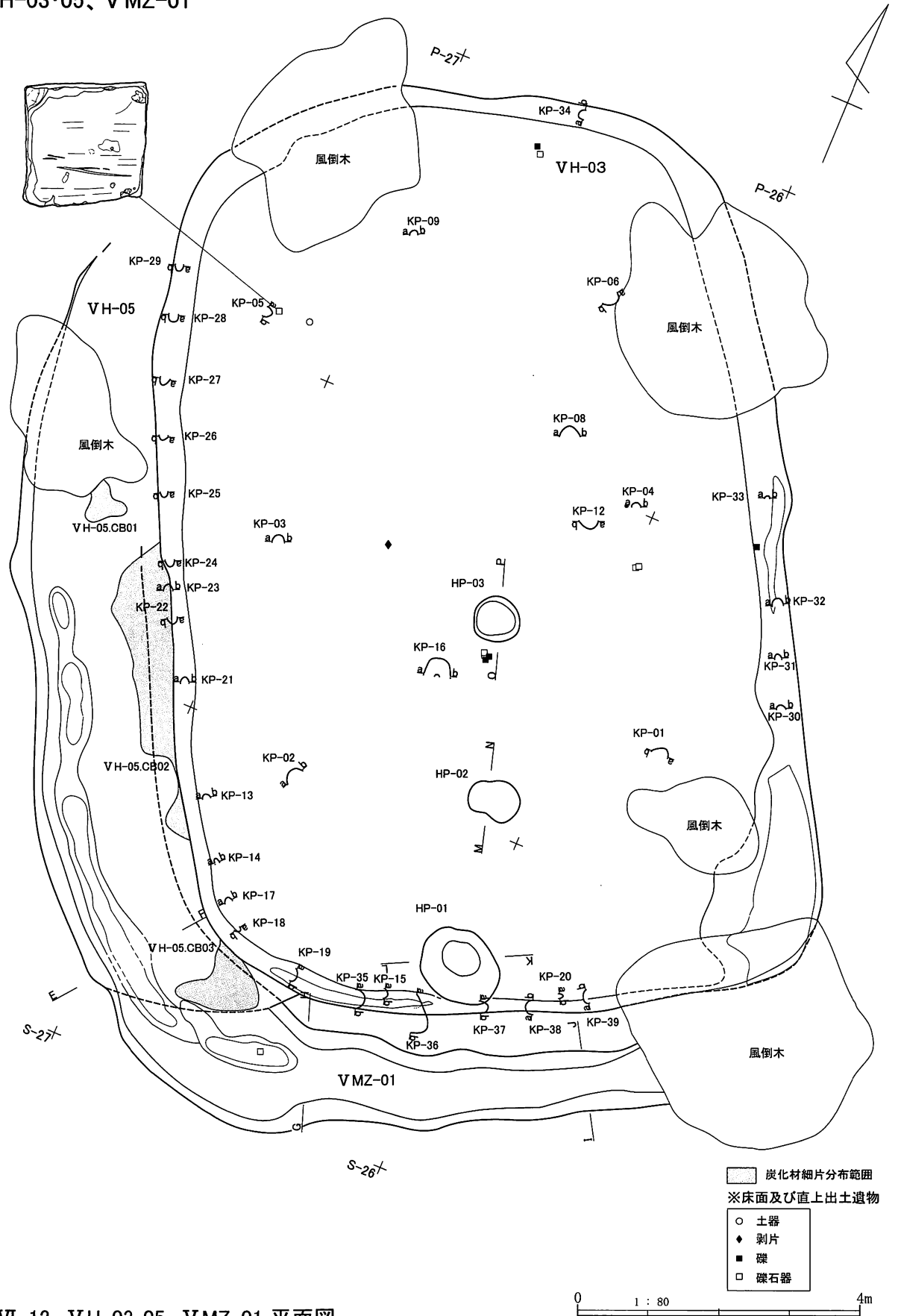
土坑及び柱穴：土坑は3基（HP-01～03）検出し、長軸上に並んでいる。HP-01は南壁に接している。土層は非常に堅くしまっており、底面及び壁面も堅くしまる。HP-02・03は浅いものである。共に覆土には焼骨片が含まれている。この下層で色調による被熱層等は確認できなかったが、この住居跡では炉が確認できていないことから、これらが炉跡であった可能性もある。この焼骨片を含む土壌を回収し、フローテーションを行っているが、整理作業の段階で覆土のCB-01～03とまとめてしまっている。そのため、3号堅穴住居跡覆土上層捨て場跡の項でまとめて記載している。柱穴は34本検出しているが、VH-05と重複しているため、これの柱穴も含まれているものと考えられる。但し、覆土の堆積状態からは所属が明らかではないため、ここで記載する。柱穴の配置から主柱穴はKP-01～06の6本と考えられる。KP-02は新旧2本ある。KP-02bは土層2～4が柱痕で、土層5が掘り方埋土の可能性もある。これ以外に掘り方が確認できたものはない。KP13～15・17～19・21～39は壁面及び床面の壁面際に沿うものである。これ以外のもはKP-08・09・12・16がある。これらはVH-05のものかもしれない。KP-08は掘り方が明瞭なもので土層1・2は柱痕、土層3は掘り方埋土である。深さも104cmと深いものである。

遺物出土状態：ここでは土層10～20で出土したものを扱う。これより上から出土した遺物については3号堅穴住居跡覆土上層捨て場跡の項で図示、記載を行う。出土遺物は覆土から69点（剥片石器3点、礫石器3点、フレイクチップ63点）、床面直上から12点（土器1点、礫石器6点、フレイクチップ1点、礫4点）が出土している。分布には特に偏りは見られない。

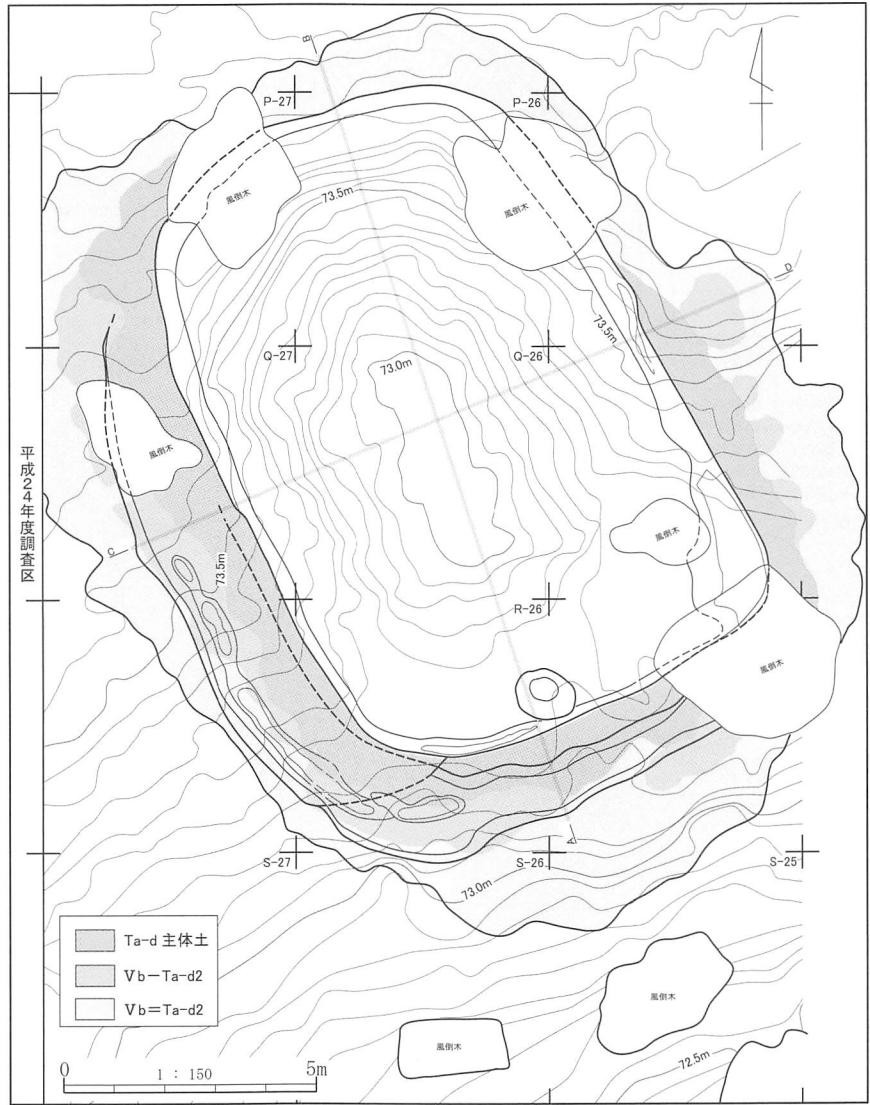
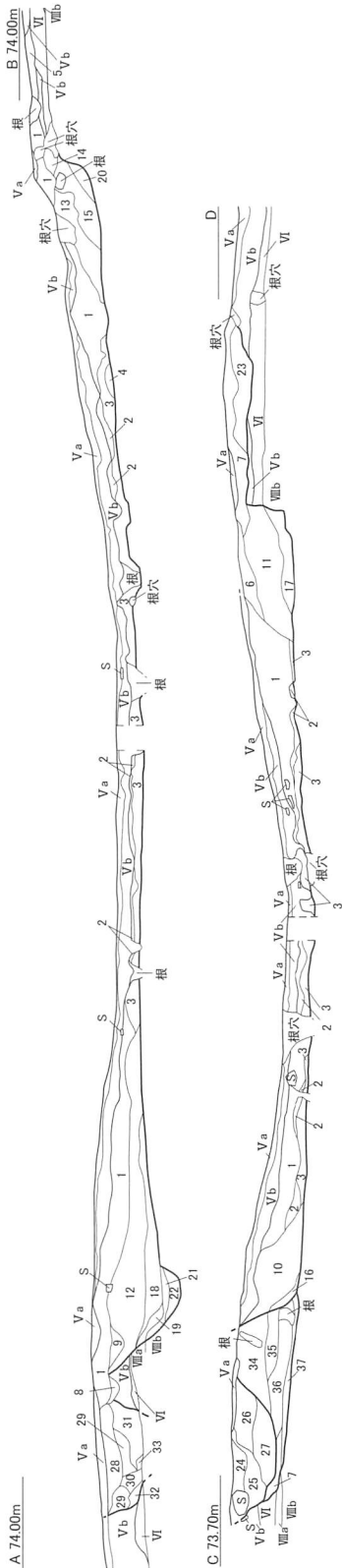
出土遺物：(VI-16)1は平坦面にくぼみのあるたたき石である。2は石皿で使用面は比較的平坦である。

時期：後述する住居跡廃絶後の窪みを利用した捨て場から出土した遺物より、前期後葉と考えられる。

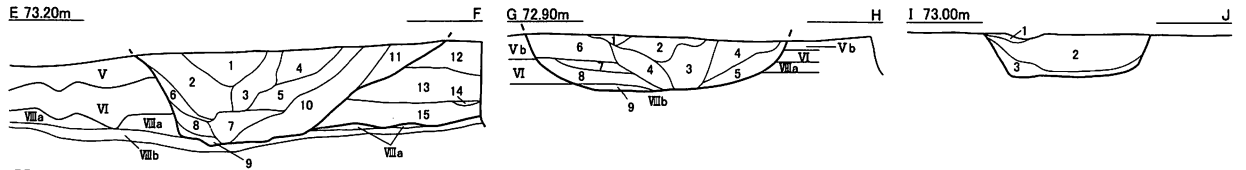
VH-03・05、VMZ-01



図VI-12 VH-03・05、VMZ-01 平面図



- | | | | |
|-----------------|---------------------------------------|-----------------|---------------------------------|
| 1 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-dP (φ5~10) (斑状) 焼骨片・FC | 22 10YR4/4 褐色 | Ta-d1 = Ta-dP (φ5~10) (斑状) |
| 2 10YR3/4 暗褐色 | Vb = Ta-dL = Ta-dP (φ5~10) (斑状) | 23 10YR4/4 褐色 | Ta-dL = Ta-dP (φ3~5)・Ta-d1 ≡ Vb |
| 3 7.5YR5/6 明褐色 | Ta-dL = Ta-dP (φ5~10) ≡ Vb (斑状) | 24 10YR3/4 暗褐色 | Ta-dL + Vb = Ta-dP (φ3~5) (斑状) |
| 4 5YR5/8 明赤褐色 | Ta-dP (φ5~20) | 25 7.5YR5/8 明褐色 | Ta-dP ≡ Vb |
| 5 7.5YR3/4 暗褐色 | Ta-dP (φ5~20) = Vb・Ta-d1 (斑状) | 26 7.5YR4/6 褐色 | Ta-dL = Ta-d1 ≡ Vb |
| 6 10YR2/2 黒褐色 | Vb ≡ Ta-dP (φ3~5) (斑状) | 27 10YR2/3 黒褐色 | Vb - Ta-d1 = Ta-dP (φ5~10) (斑状) |
| 7 10YR3/2 黒褐色 | Vb = Ta-d1 | 28 7.5YR3/2 黒褐色 | Vb = Ta-dL ≡ Ta-dP (φ5~10) (斑状) |
| 8 10YR2/1 黒色 | Vb - Ta-dP (φ5~10)・焼骨片・FC | 29 7.5YR4/4 褐色 | Ta-dP (φ10~30) = Vb (斑状) |
| 9 10YR2/1 黒色 | Vb - Ta-dP (φ5~10)・焼骨片・FC | 30 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ Ta-dP (φ3~5) (斑状) |
| 10 10YR4/6 褐色 | Ta-dL - Ta-dP (φ5~10)・Ta-d1 ≡ Vb (斑状) | 31 10YR3/4 暗褐色 | Vb - Ta-d1 ≡ Ta-dP (φ3~5) (斑状) |
| 11 10YR4/4 褐色 | Ta-dL - Ta-dP (φ5~10) = Vb (斑状) | 32 10YR2/1 黒色 | Vb しまり弱 |
| 12 5YR5/8 明赤褐色 | Ta-dP (φ5~20) = Ta-dL | 33 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 13 7.5YR3/4 暗褐色 | Ta-dP (φ5~10) + Vb = Ta-d1 (斑状) | 34 10YR4/6 褐色 | Ta-dL - Ta-dP (φ3~5)・Ta-d1 ≡ Vb |
| 14 10YR4/6 褐色 | Ta-d1 しまり弱 (根の影響か?) | 35 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 15 7.5YR4/4 褐色 | Vb - Ta-d1 = Ta-dP (φ5~20) (斑状) | 36 10YR2/2 黒褐色 | Vb = Ta-d1 |
| 16 10YR2/1 黒色 | Vb | 37 10YR2/2 黒褐色 | Ta-d1 ≡ Vb・炭化物 |
| 17 10YR4/4 褐色 | Ta-d1 - Vb ≡ Ta-dP (φ5~10) (斑状) | | |
| 18 10YR4/4 褐色 | Ta-d1 = Vb・Ta-dP (φ5~10) (斑状) しまり強 | | |
| 19 10YR4/4 褐色 | Ta-d1 しまり強 | | |
| 20 7.5YR4/6 褐色 | Ta-dP (φ3~5) - Ta-d1 | | |
| 21 5YR5/8 明赤褐色 | Ta-dP (φ3~5) | | |



VH-05、VMZ-01

- 1 10YR6/8 明黄褐色 Ta-d1 = Ta-d2P
- 2 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P ≡ Ta-d1
- 3 10YR6/8 明黄褐色 Ta-d1
- 4 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P
- 5 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P
- 6 10YR2/3 黒褐色 Vb ≡ Ta-d2P
- 7 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-d2P
- 8 10YR6/8 明黄褐色 Ta-d1 しまりやなし
- 9 10YR4/8 黒褐色 Vb = Ta-dスコリア
- 10 10YR3/4 暗褐色 Vb + Ta-d1 = Ta-dスコリア・Ta-d2P
- 11 10YR6/8 明黄褐色 Ta-d1 + Ta-d2P
- 12 10YR6/8 明黄褐色 Ta-d1 = Vb
- 13 10YR2/3 黒褐色 Vb + Ta-dスコリア
- 14 10YR2/1 黒色 Vb
- 15 10YR2/3 黒褐色 Vb + Ta-dスコリア ≡ Ta-d2P・炭化物

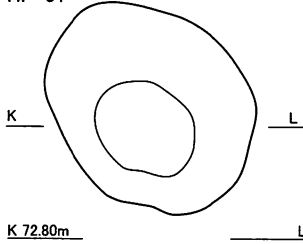
VMZ-01

- 1 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P ≡ Vb
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 Vb = Ta-d2P = VI
- 3 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P
- 4 10YR3/4 暗褐色 VI = Ta-dスコリア ≡ Ta-d2P
- 5 10YR2/3 黒褐色 Ta-dスコリア = Vb = Ta-d2P
- 6 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-d2P
- 7 10YR3/4 暗褐色 Ta-dスコリア ≡ Vb
- 8 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-dスコリア
- 9 10YR3/4 暗褐色 Ta-dスコリア ≡ Ta-d2P・炭化物

VMZ-01

- 1 5YR5/8 明褐色 Ta-d2P = Vb
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 Vb = Ta-d2P
- 3 10YR3/4 暗褐色 Ta-dスコリア・Ta-d2P

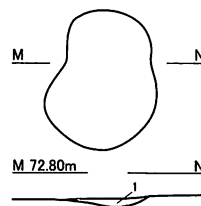
HP-01



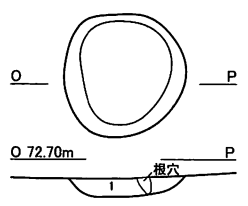
HP-01

- 1 7.5YR4/3 褐色 Ta-dP (φ5~10) + Ta-d1 ≡ Vb (斑状) しまり強
- 2 10YR3/3 暗褐色 Ta-d1 = Ta-dP (φ5~10) ≡ Vb (斑状) しまり強
- 3 5YR4/8 赤褐色 Ta-dP (φ5~10) = Ta-dスコリア (斑状)
- 4 10YR3/4 暗褐色 Ta-d1 + Ta-dスコリア ≡ Ta-dP (φ5~10)・Vb (斑状)
- 5 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d1 ≡ Ta-dスコリア (斑状)
- 6 5YR4/8 赤褐色 Ta-dP (φ5~10) ≡ Ta-dスコリア (斑状)

HP-02



HP-03

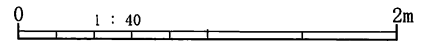


HP-02

- 1 10YR2/2 黒褐色 Vb - Ta-d2P ≡ 焼骨片

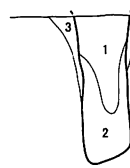
HP-03

- 1 10YR3/3 暗褐色 Vb - Ta-d2P ≡ 焼骨片



KP-01

a 72.90m b

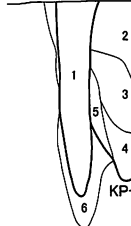


KP-01

- 1 7.5YR4/4 褐色 Vb - Ta-dP (φ20) (斑状) しまり弱
- 2 7.5YR3/2 黒褐色 Vb = Ta-dP (φ10~20) (斑状) しまり弱
- 3 5YR5/8 明赤褐色 Ta-dP しまり強

KP-02

a 72.70m b

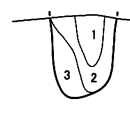


KP-02

- 1 10YR2/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-dP (φ10) (斑状)
- 2 10YR2/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-dP (φ5~10) (斑状)
- 3 10YR2/2 黒褐色 Vb - Ta-dP (φ5~10) (斑状)
- 4 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-dP (φ5~10) (斑状)
- 5 10YR2/3 黒褐色 Ta-dP (φ5~10) (斑状) しまり強
- 6 5YR5/8 明赤褐色 Ta-dP しまり強

KP-03

a 72.80m b

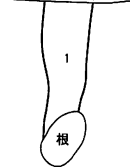


KP-03

- 1 5YR5/8 明赤褐色 Ta-dP (φ5~20) = Vb (斑状) しまり強
- 2 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-dP (φ3~5) (斑状) しまり強
- 3 10YR3/3 暗褐色 Vb = Ta-d1 (斑状) しまり強

KP-04

a 72.90m b

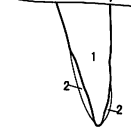


KP-04

1 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P

KP-05

a 73.00m b

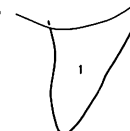


KP-05

1 10YR2/1 黒色 Vb しまり弱
2 5YR4/8 赤褐色 Ta-dP つぶれ

KP-06

a 73.00m b

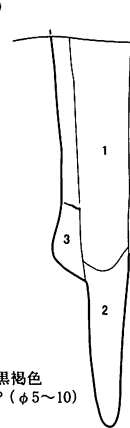


KP-06

1 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-dP (φ5~20) (斑状)

KP-08

a 73.00m b

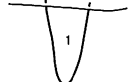


KP-08

- 1 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-dP (φ5~10) しまり弱
- 2 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-dP (φ5~10) しまりなし
- 3 5YR5/8 明赤褐色 Ta-dP (φ5~10)

KP-09

a 73.00m b

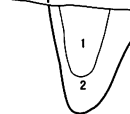


KP-09

1 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-dP (φ5~10) 焼骨片・炭化物

KP-12

a 72.80m b

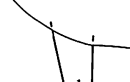


KP-12

- 1 10YR2/3 黒褐色 Vb - Ta-dP (φ3~5) (斑状) しまり弱
- 2 10YR3/3 暗褐色 Ta-dP (φ5~10) - Vb (斑状)

KP-13

a 72.80m b

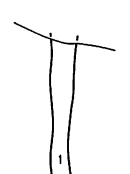


KP-13

1 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-dP (φ5~10) (斑状)

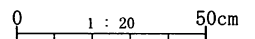
KP-14

a 72.80m b

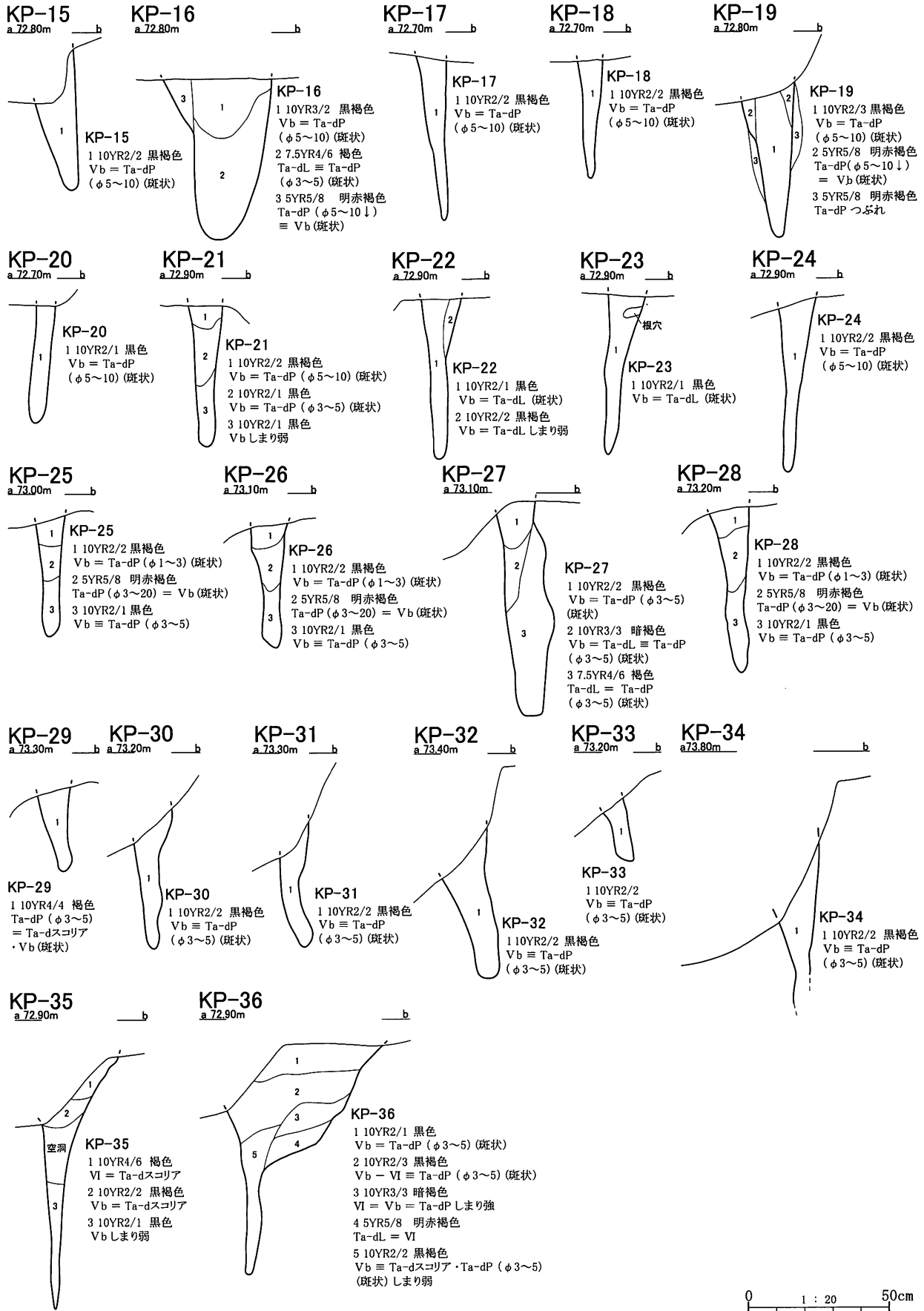


KP-14

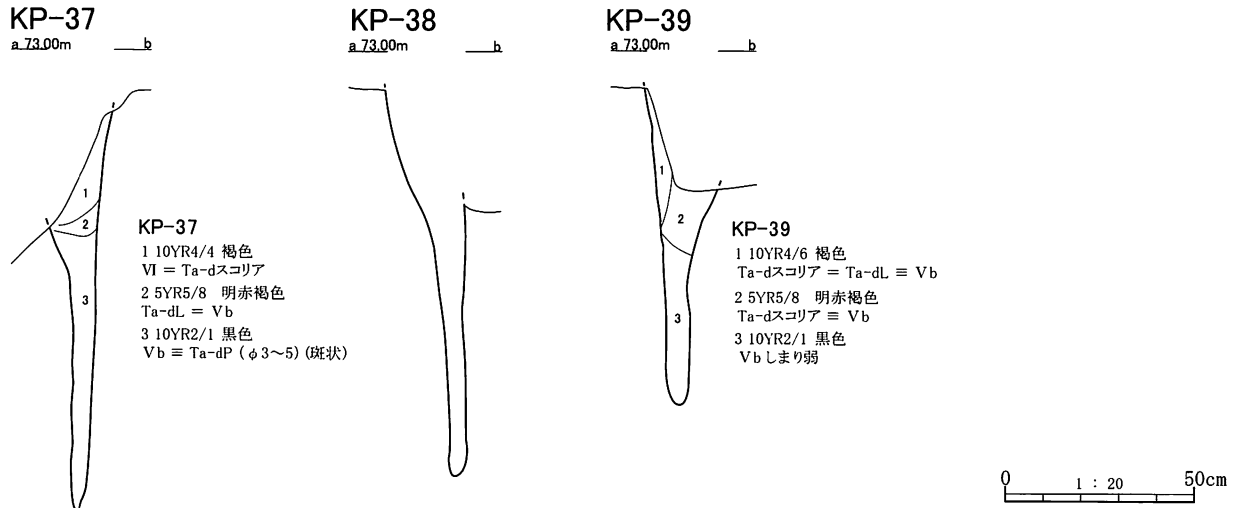
1 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-dP (φ5~10) (斑状)



図VI-13 VH-03 断面図及び柱穴断面(1)



図VI-14 VH-03 断面図及び柱穴断面(2)



図VI-15 VH-03 断面図及び柱穴断面(3)

表VI-15 VH-03属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸 方向	調査面規模		坑底面規模		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
VI-12	45	VH-03	P-25~27, Q-24~27, R-24~27, S-25・26	VbL	N-30° W	1318	892	1263	811	71	
VI-12		掘り上げ土		VbL	-	1774	1482	-	-	-	

表VI-16 VH-03付属土坑属性表

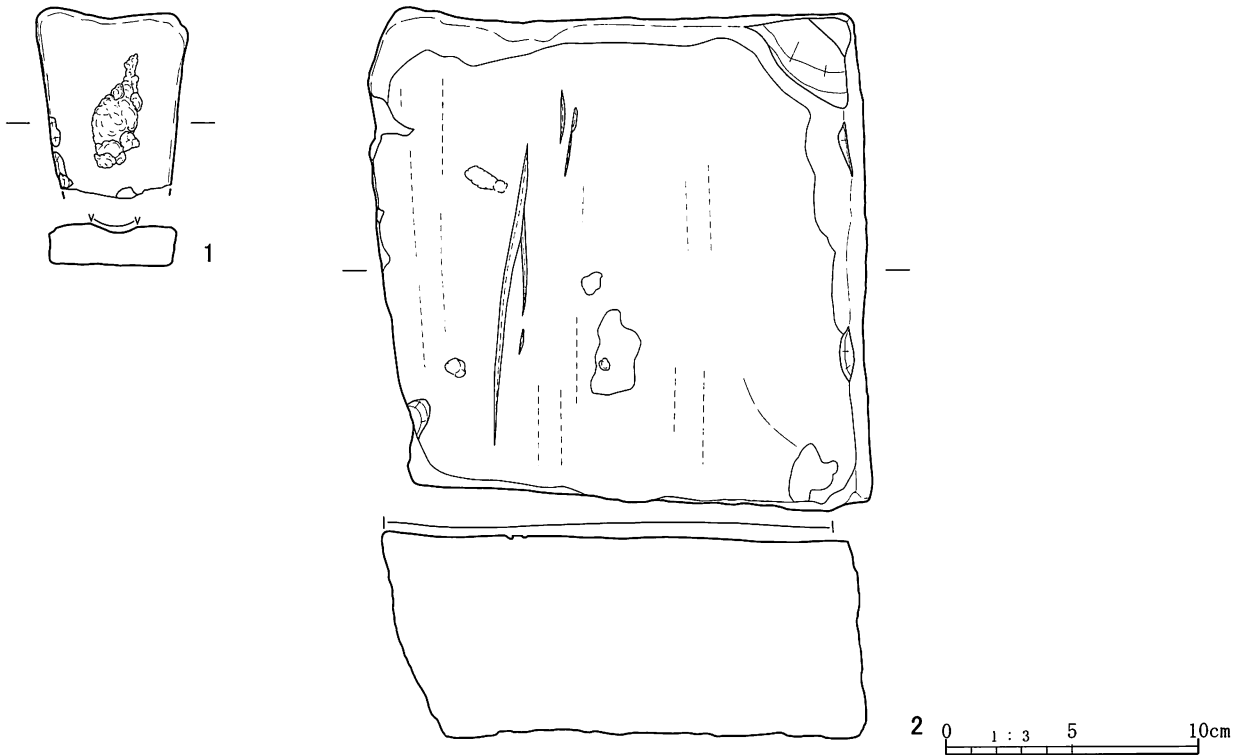
挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
VI-12	46-1	HP-01	R-25・26	床面	楕円形/楕円形	123	99	50	47	46	N-51° W	1.24	1.06	-	
VI-12	46-2	HP-02	Q-26	床面	不整形/-	72	56	-	-	5	N-88° W	1.29	-	-	
VI-12	46-3・4	HP-03	Q-26	床面	円形/円形	66	66	53	49	10	N-25° W	1.00	1.08	-	

表VI-17 VH-03柱穴属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			備考
			上端	下端	深さ	
VI-13	46-5	KP-01	14	10	39	
VI-13	46-6	KP-02a	11	2	51	
VI-13	46-6	KP-02b	14	4	48	
VI-13	-	KP-03	18	11	22	
VI-13	46-7	KP-04	13	-	(32)	
VI-13	-	KP-05	15	3	32	
VI-13	-	KP-06	25	4	29	
VI-13	46-8	KP-08	30	3	13	
VI-13	-	KP-09	11	4	21	
VI-13	-	KP-12	27	9	30	
VI-13	-	KP-13	12	2	39	
VI-13	-	KP-14	7	2	59	
VI-14	-	KP-15	14	4	51	
VI-14	-	KP-16	40	14	58	
VI-14	-	KP-17	11	2	59	
VI-14	-	KP-18	9	3	42	
VI-14	-	KP-19	20	4	57	
VI-14	46-9	KP-20	7	4	42	
VI-14	-	KP-21	13	6	50	
VI-14	46-10	KP-22	15	4	57	
VI-14	-	KP-23	14	3	57	

表VI-17 VH-03柱穴属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	遺構名	規模(cm)			備考
			上端	下端	深さ	
VI-14	-	KP-24	13	2	63	
VI-14	-	KP-25	11	5	44	
VI-14	-	KP-26	13	3	46	
VI-14	-	KP-27	13	7	76	
VI-14	46-11	KP-28	15	3	59	
VI-14	-	KP-29	12	4	30	
VI-14	46-12	KP-30	13	3	51	
VI-14	-	KP-31	11	4	46	
VI-14	-	KP-32	17	7	56	
VI-14	-	KP-33	8	6	23	
VI-14	-	KP-34	14	-	(55)	
VI-14	-	KP-35	3	29	92	
VI-14	-	KP-36	58	2	82	
VI-15	-	KP-37	17	3	15	
VI-15	-	KP-38	21	3	10	
VI-15	-	KP-39	20	3	83	



図VI-16 VH-03 出土遺物

表VI-18 VH-03出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-16-1	122-1-1	-	22066	たたき石	IIA1	1	VH-03	-	(77.0)	58.9	16.3	110.0	Sa.	
VI-16-2	122-1-2	-	25515	砥石	-	3	VH-03	-	199.8	194.1	83.1	5320.0	Sa.	

5号竪穴式住居跡[VH-05] (図VI-12~13、図版47)

位置：Q-27、R-26~27 平面形：不明

規模：竪穴本体 (1,086) × (214) cm

確認・調査：VH-03 の掘り上げ土を除去したところで落ち込みを検出した。土層断面からVH-03に東側を、VMZ-01 に西側の一部を切られている事を確認していた。ベルトを残し床面及び壁面の検出を行ったところ残存部は僅かであった。また、床面では炭化物の集中を検出しており、V

表VI-19 VH-05属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	長軸 方向	調査面規模		坑底面規模		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
VI-12	47	VH-05	Q-27,R-26・27	VbL	N-30°W	(1086)	(214)	(1086)	(168)	42	

H-05. CB-01～03 を付番した。この炭化物集中については範囲を記録した後で、土壌を回収している。床面では柱穴等の付属遺構は検出できなかった。また、遺物も出土していない。

形態：残存部が僅かであり、平面形は不明である。Ta-d1 スコリア中を床面としている。

堆積状況：C-D ラインの土層 34～37 と、E-F ラインの土層 12～15 が覆土である。土層 34～36 (C-D) と土層 12～14 (E-F) は Ta-d2 を殆ど含まないことから VH-03 の掘り上げ土とは考えにくい。VH-05 は Ta-d2 上面を床面としている事から、Ta-d2 を含まないこれらの土層は VH-05 の掘り上げ土、もしくは屋根土であった可能性がある。ただし残存部が僅かであり不明瞭である。土層 37 (C-D) と土層 15 (E-F) は炭化材を含む層である。

炭化物集中：3 ヲ所確認している。大きな炭化材は殆ど見られず、細片化したものばかりである。肉眼では焼骨片等は確認していない。回収した土壌からはブドウ科の炭化種子が得られている。

時期：VH-03 は前期後葉で、これに切られている事からそれよりも古い、前期後葉よりも古い遺物は出土していないことから、VH-03 と同じく前期後葉と考えられる。

溝跡 1〔VMZ-01〕 (図VI-12・13、図版 47)

位置：Q-27、R-25～27 平面形：L 字状？

規模：外縁 1, 536 cm 幅 73～194 cm 深さ 48 cm

確認・調査：VH-03 の掘り上げ土を除去したところで、VH-05 と重複して検出している。落ち込みを確認した段階では、VH-05 との関係が不明瞭であったことから、ベルトを新たに設定し調査を行っている。ベルトの E-F では VH-05 と重複しており、G-H・I-J では重複していないことを確認した。土層断面からは VH-05 よりも新しいことが判っている。その後ベルトを残し VH-05 と VMZ-01 の調査を同時に進めた。そのため VH-05 と重複している部分は推定の範囲である。また、北端は C-D のベルトまでを土層断面で確認しているが、その延長部についてはベルトを設定していなかったため不明である。東端は風倒木痕で切られており、延長は不明である。

形態：平面形は北端及び東端は不明であるが L 字状である。VH-03 の南西壁面に沿う形状である。溝幅は一定ではなくコーナー付近で幅広くなっている。また、この付近で溝の底は二段になっている部分が見られる。底面はコーナー付近でもっともレベルが低くなっている。

堆積状態：5 ヲ所の土層断面で確認できる。いずれも底面付近は壁面の崩落土と思われ、覆土の大半は VH-03 の掘り上げ土と考えられる。

遺物出土状況：覆土中からは 22 点の遺物が出土している。

性格：VH-03 の壁面に沿う形状であることや、覆土は底面近くまで VH-03 の掘り上げ土が堆積している事を考えると、VH-03 に関連する遺構の可能性はある。また、土層断面 C-D の土層 22 の直下は Vb 層と VI 層が僅かに削平されていることから、位置的に溝跡 1 の東端が浅くなりながら、ここまで延長していた可能性も考えられる。現場段階では掘り上げ土除去の段階でやや深く削ってしまい、この部分について確認することは出来なかった。関連があるものとしても、どのような機能

をもっていたかは現段階では不明である。

時期：遺構間の重複よりVH-05（前期後葉）より新しく、VH-03（前期後葉）と同時期かそれよりやや古いことから、前期後葉である。

3号竪穴式住居跡覆土上層捨て場跡（図VI-17～21、図版48）

3号竪穴住居跡の廃絶後の窪みから多量の遺物と、焼骨片・炭化物を含む土層の範囲（VH-03.BB-01、VH-03.CB-01・02）を検出したことから、捨て場として利用されたと考えられる。ここで扱う出土遺物は竪穴内の窪みから出土したもので、土層1～9とVa～Vb層で出土したものである。土器は大半が前期後葉のⅡB類のものであるが、後期Ⅳ群のものもVa層主体に出土している。別に記載しているがVPB-29（後期前葉）も検出している。その他の遺物も後期のものが混入している可能性はあるが、その出土層位はVaが主体である。

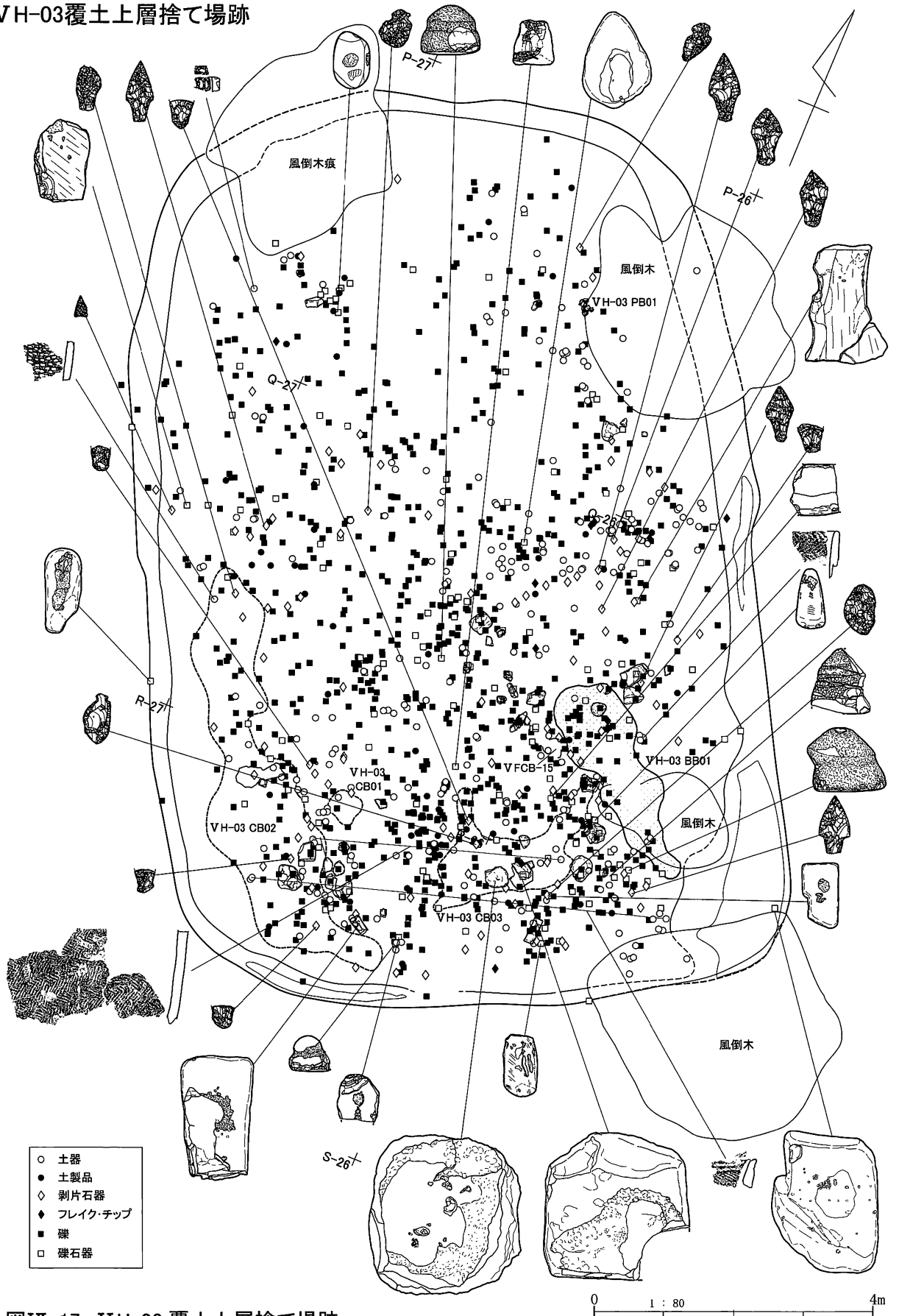
遺物は9,018点出土している。層位毎の内訳はVa層1,516点、Vb層上位2,445点、Vb層下位4,307点、攪乱15点、V層で一括して取り上げたもの416点、土層1～9出土のもの321点である。Vb層下位で最も点数が多い。分類ごとの内訳は土器485点、剥片石器152点、礫石器178点、土製品56点、フレイク・チップ7,210点、礫937点である。土器の分類ごとの出土点数はⅡB2a類79点、ⅡB2b類40点、ⅡB2c類2点、ⅡB2d類287点、ⅣB1類73点、分類不明の細片3点である。剥片石器・礫石器共に器種による偏りは看取できない。被熱した礫石器・礫が114点出土している。

遺物等出土状態：フレイク・チップは竪穴を4分割にして、一括して取り上げているため分布図では図化していない。土器集中（VH-03.PB-01）は1ヵ所検出している。遺物は特に南半で密集して出土しており、大型の礫石器もここから主に出土している。また、焼骨片集中（VH-03.BB-01）や炭化物集中（VH-03.CB-01・02）も、こちら側に分布している。このような出土状態から主に南側からの投棄により形成された捨て場跡と考えられる。南側にはVH-02が位置しており、VH-02の覆土中から遺物がほとんど出土していないことから、直接的な重複関係はないがVH-02が新しく、VH-03が古い可能性が考えられる。

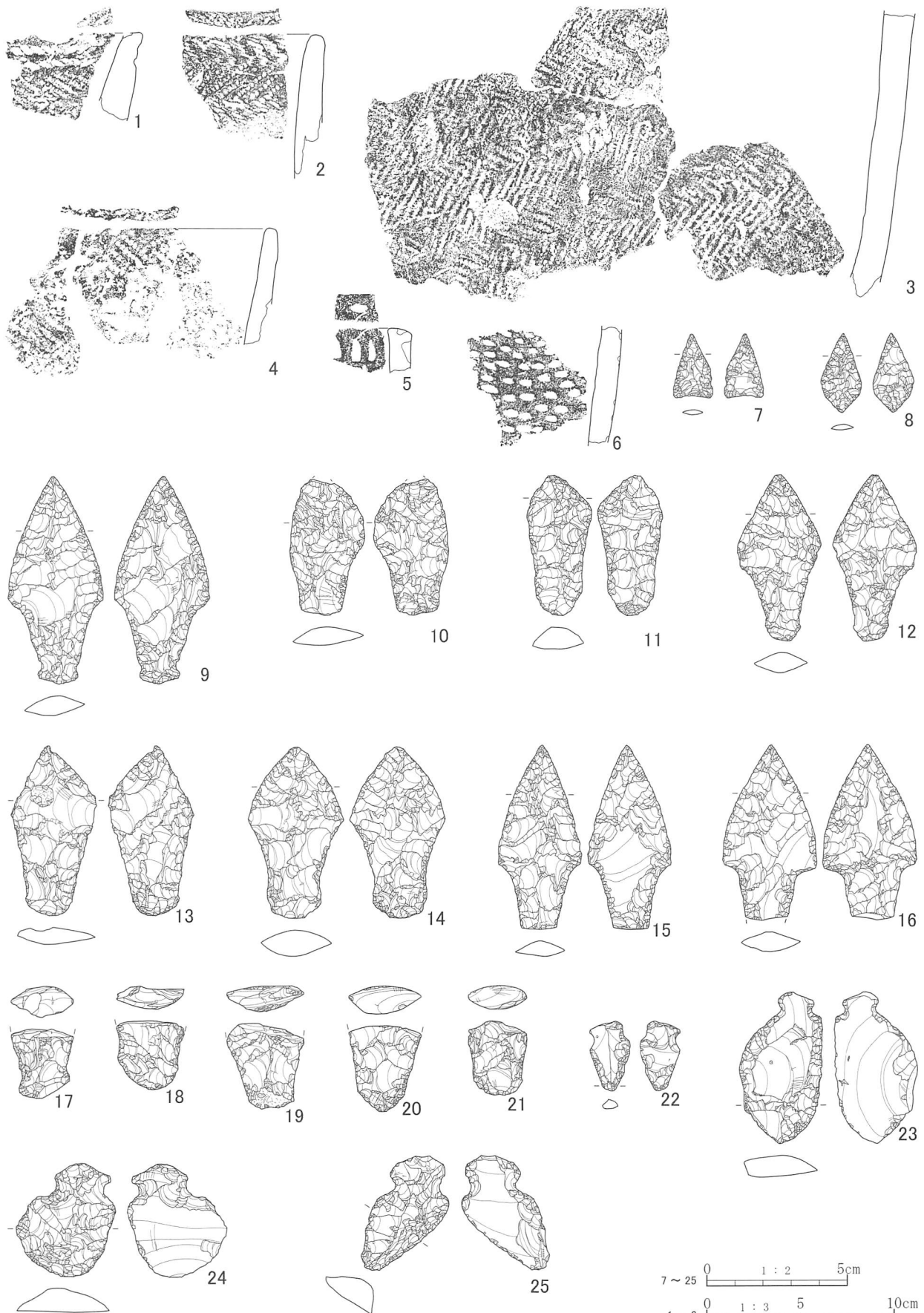
焼骨片集中及び炭化物集中：いずれも竪穴中心に向かっての下り傾斜で検出している。これらの土壌を回収し、フローテーションを行っている。3号竪穴住居跡の項で先述したように、VH-03.HP-02・03のものと混入してしまっているが、回収した土量から考えると大半はこのものである。フローテーションの結果、シカの骨を中心に約429gと炭化したクルミ属を回収している。

遺物：（図VI-18～21）1～3はⅡB2b類である。1・2は口縁部片で口唇の断面形状は隅丸角状で、共に口唇は施文されている。4はⅡB2d類である。器形は口縁が僅かに内湾するものと考えられる。口唇は不明瞭であるがLRの縄文が施文されていると思われる。5・6はⅡB2c類のシュブノツナイ式土器の同一個体片である。7・8は石鏃で、7は無茎で基部は内湾している。8は木の葉形の基部が不明瞭なものである。9～16は石槍である。9は頁岩製で基部につまみがある。11は茎部に比べ、鏃身部が極端に小さいもので、先端部欠損後に再加工したためと考えられる。10も鏃身部は左右非対称であり、剥離調製の順序より再加工の可能性がある。17～21は石槍の基部片である。17は基部につまみがある。21は破断面側から加工がある。22は頁岩製の石錐でつまみ付きナイフからの転用と考えられる。23～25はつまみ付きナイフである。24は下端部に急角度の調整が行われている。26はスクレイパーで片面全面が加工されたものである。27・28は石斧である。27は黒色片岩製のもの

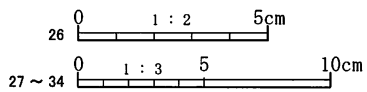
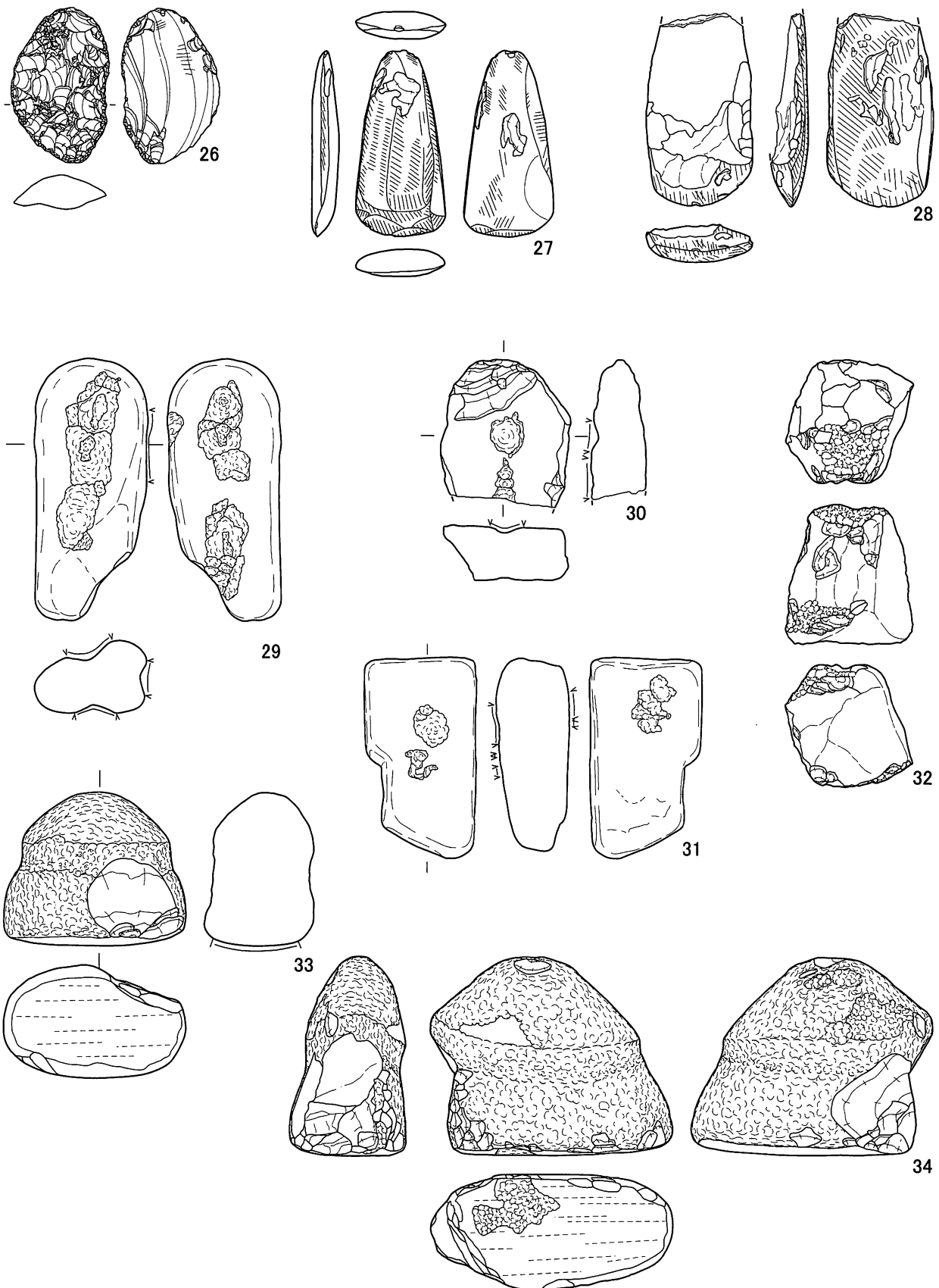
VH-03覆土上層捨て場跡



図VI-17 VH-03 覆土上層捨て場跡



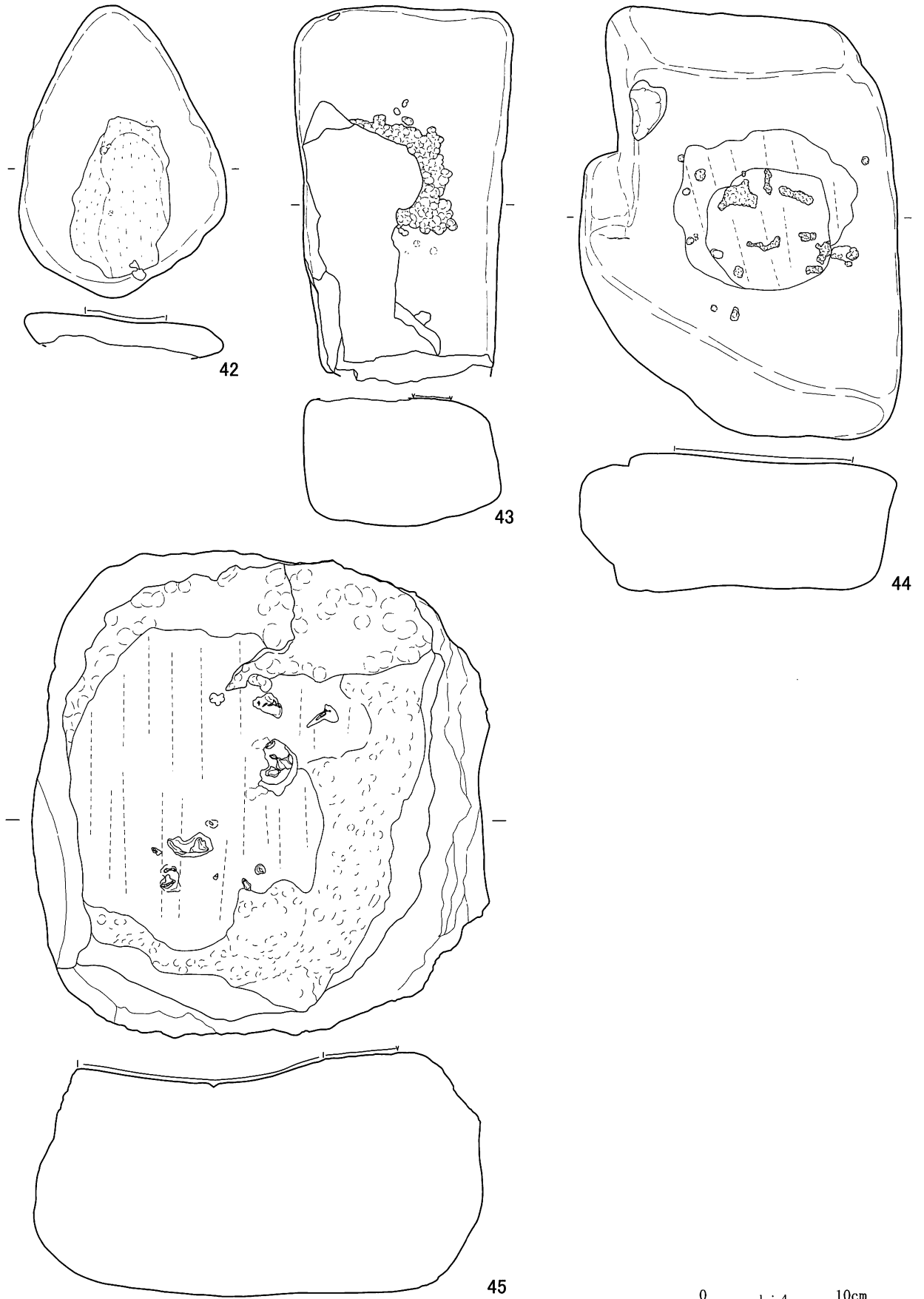
図VI-18 VH-03 覆土上層捨て場跡出土遺物 (1)



図VI-19 VH-03 覆土上層捨て場跡出土遺物 (2)



図VI-20 VH-03 覆土上層捨て場跡出土遺物 (3)



図VI-21 VH-03 覆土上層捨て場跡出土遺物 (4)

0 1 : 4 10cm

で、基部も刃部状に尖るものである。使用による線条痕は確認できないが、刃部として使用された可能性もある。また、裏面の刃部では一部稜を強く残し、角度の変わる部分があるが、刃部欠損後に再度研磨整形したものと考えられる。29～31はたたき石で、平坦面に窪み状の敲打痕をもつものである。32は不整形な礫の稜を使用するものである。33～36は北海道式石冠である。34・35は被熱しており、35は欠損後である。34は使用面からの欠損後も破断面を再調整し、破断面の角を敲打で潰している。36は小型の泥岩製のもので、溝状の敲打痕が回る。また、溝の中には溝と並行する線刻が数条確認できる。37はすり石でたたき石と併用しているものである。器体中央の三面には窪み状の敲打痕をもつ。すり面はほぼ全面に形成されており、擦りの単位ごとに明瞭な稜を作っており、多面体状になっている。すり面は平坦なもの、湾曲するものがある。すり面にはベンガラが付着している部分がある。38は砂岩製の石鋸である。両側縁に研磨面をもつ。39～41は砥石である。いずれも大きさより置き砥石と考えられる。43は台石である。42・44～46は石皿である。45は周縁を打ち欠いて整形している。すり面の周縁には粗面を作り出すためと思われる敲打痕が残る。また、すり面には数カ所穴があいており、深いものでは3cm程ある。これについては機能、加工方法等不明である。

時期：出土土器より前期後葉と考えられる。またVH-03.CBより得られた炭化したクルミをAMS年代測定の実験を行ったところ、前期末～中期初頭頃の年代が得られており、大きくは矛盾しない結果となっている。

表VI-20 VH-03覆土上層捨て場跡出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-18-1	122-2-1	JP224A	II B2b	VH-03	VbL	2	口縁部～胴部上半	平縁・やや外傾 一隅丸角状 /やや外傾	LR縄文-縄線文 (同一条異原体)/ RL斜行縄文	φ1mm砂粒 多量、繊維 少量混入	
VI-18-2	122-2-2	JP231A	II B2b	VH-03	VbL	2	口縁部	平縁・直立一 隅丸角状	LR縄文-異原体羽 状縄文(RR・LR)	φ1mm砂粒 多量、繊維 少量混入	
VI-18-3	122-2-3	JP220C	II B2b	VH-03	Va VbL	1 1	胴部	やや外傾	2段異原体羽状縄文	繊維多量 混入	
VI-18-4	122-2-4	JP206A	II B2d	VH-03. PB01	VbL	1	口縁部	平縁・やや内反一 隅丸角状	LR?縄文- RL斜行縄文	φ1～10mm 蛇紋岩片 少量混入	
VI-18-5	122-2-5	JP117F	II B2c	VH-03	Va	1	口縁部	平縁・直立一 隅丸角状	刺突文-刺突文	φ1～3mm 石英・砂粒 多量混入	
VI-18-6	122-2-6	JP117H	II B2c	VH-03	VbL	1	胴部	やや外傾	刺突文	φ1～3mm 石英・砂粒 多量混入	

表VI-21 VH-03覆土上層捨て場跡出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-18-7	122-2-7	-	22231	ポイント類	A2	VbL	VH-03	-	21.9	13.6	2.2	0.6	Obs.	
VI-18-8	122-2-8	-	35344	ポイント類	A4	VbL	VH-03	-	27.9	13.3	3.5	1.0	Obs.	
VI-18-9	122-2-9	-	20085	ポイント類	B1c	VbU	VH-03	-	74.0	33.5	7.7	16.8	Sh.	
VI-18-10	122-2-10	-	21045	ポイント類	B1a	VbU	VH-03	-	49.0	27.3	8.9	9.7	Obs.	
VI-18-11	122-2-11	-	35337	ポイント類	B1b	VbL	VH-03	-	50.1	22.8	10.4	10.2	Obs.	
VI-18-12	122-2-12	-	21556	ポイント類	B1c	VbL	VH-03	-	59.4	29.8	10.9	12.4	Obs.	
VI-18-13	122-2-13	-	20348	ポイント類	B1b	Va	VH-03	-	61.5	30.7	10.7	13.1	Obs.	
VI-18-14	122-2-14	-	22917	ポイント類	B1b	Va	VH-03	-	61.5	34.4	11.8	19.3	Obs.	
VI-18-15	122-2-15	-	22230	ポイント類	B1a	VbL	VH-03	-	65.5	29.6	8.3	12.1	Obs.	
VI-18-16	122-2-16	-	22072	ポイント類	B1a	VbL	VH-03	-	62.8	33.4	8.9	15.9	Sh.	
VI-18-17	123-1	-	21939	ポイント類	B1c	VbL	VH-03	-	25.4	22.4	10.8	4.8	Obs.	
VI-18-18	123-2	-	21941	ポイント類	B1b	VbL	VH-03	-	25.0	24.1	8.8	4.7	Obs.	
VI-18-19	123-3	-	21639	ポイント類	B1a	VbL	VH-03	-	(30.5)	27.5	9.8	7.7	Obs.	
VI-18-20	123-4	-	21126	ポイント類	B1b	VbU	VH-03	-	(30.4)	26.0	9.9	7.0	Obs.	
VI-18-21	123-5	-	21536	ポイント類	B1b	VbL	VH-03	-	(26.3)	21.0	8.5	4.8	Obs.	
VI-18-22	123-6	-	35335	石鏃	A1	VbL	VH-03	-	23.8	13.9	5.0	2.1	Sh.	
VI-18-23	123-7	-	21554	ナイフスクレイパー類	A1	VbL	VH-03	-	54.2	28.9	8.1	12.6	Sh.	
VI-18-24	123-8	-	22928	ナイフスクレイパー類	A2	VbL	VH-03	-	40.5	32.6	8.4	11.9	Obs.	
VI-18-25	123-9	-	21913	ナイフスクレイパー類	A2	VbL	VH-03	-	45.0	23.6	8.8	8.9	Obs.	
VI-19-26	123-10	-	22019	ナイフスクレイパー類	C1a	VbL	VH-03	-	53.9	33.0	12.5	22.0	Obs.	
VI-19-27	123-11	-	22127	石斧	A	VbL	VH-03	-	98.0	47.0	14.0	95.0	Gr-Mud.	
VI-19-28	123-12	-	20343	石斧	B	Va	VH-03	-	100.0	55.0	19.0	132.0	Bi-Sch.	
VI-19-29	123-13	-	21044	たたき石	I A3	VbU	VH-03	-	137.0	60.0	39.0	3500.0	Sa.	
VI-19-30	123-14	-	22458	たたき石	II B1	VbL	VH-03	-	77.0	68.0	29.0	185.0	Sa.	
VI-19-31	123-15	-	22141	たたき石	II B1	V	VH-03	-	105.0	59.0	38.0	375.0	Sa.	
VI-19-32	123-16	-	19457	たたき石	II B2	Va	VH-03	-	73.0	67.0	64.0	370.0	Aga.	
VI-19-33	123-17	-	19481	すり石	D	VbU	VH-03	-	60.0	75.0	59.0	610.0	Sa.	
VI-19-34	123-18	-	22101	すり石	D	VbL	VH-03	-	131.8	14.5	59.9	100.0	Sa.	
VI-20-35	123-19	-	22109	すり石	D	VbL	VH-03	-	(13.0)	98.5	63.3	183.0	Sa.	
VI-20-36	123-20	-	22462	すり石	D	VbL	VH-03	-	63.7	57.5	36.2	126.0	Sa.	
VI-20-37	123-21	-	20407	たたき石	V	VbU	VH-03	-	93.0	59.0	48.0	430.0	Gni.	
VI-20-38	123-22	-	21199	石鋸	-	VbL	VH-03	-	83.0	78.0	9.0	78.3	Sa.	
VI-20-39	123-23	-	22035	砥石	B	VbL	VH-03	-	132.0	89.0	41.0	5700.0	Sa.	
VI-20-40	123-24	VST-12	21812	砥石	A	VbL	VH-03	-	135.5	98.3	45.4	6850.0	Sa.	
VI-20-41	124-1-1	-	22328	砥石	B	VbL	VH-03	-	257.0	177.0	43.0	20200.0	Sa.	
VI-21-42	124-1-2	-	22968	石皿	-	V	VH-03	-	208.0	149.0	32.0	890.0	Sa.	
VI-21-43	124-1-3	-	22063	台石	-	VbL	VH-03	-	207.2	155.6	90.0	6360.0	Sa.	
VI-21-44	124-1-4	-	22448	石皿	-	VbL	VH-03	-	320.6	220.8	12.0	10340.0	Sa.	
VI-21-45	124-1-5	-	22235	石皿	-	VbL	VH-03	-	347.1	328.9	180.0	28800.0	Sa.	

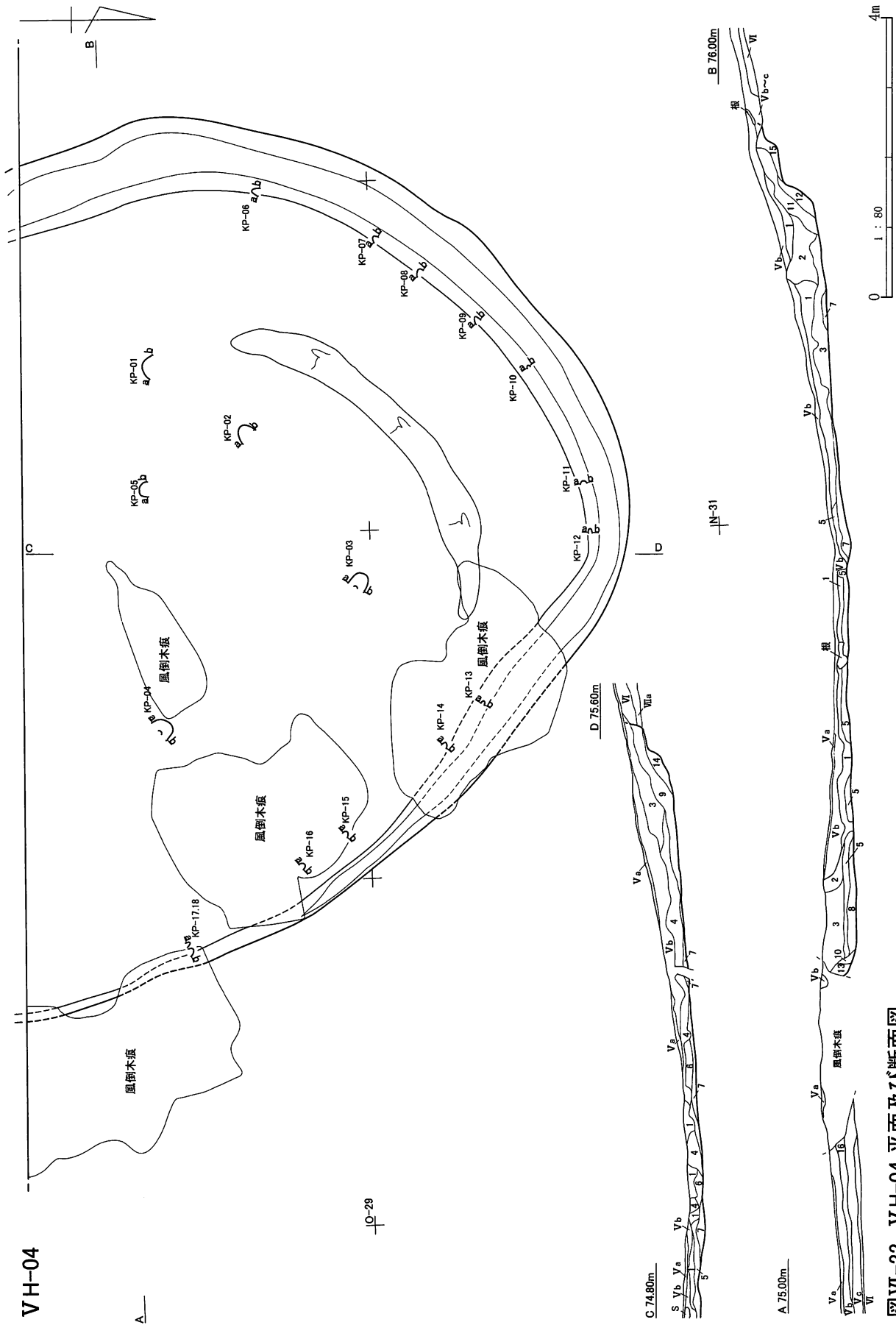
4号竪穴式住居跡[VH-04] (図VI-22~26、図版49)

本報告書作成段階では竪穴及び掘り上げ土の一部を調査した状態であり、残りについては次年度以降に調査予定であることから、今回は確認・調査と出土遺物の項のみ記載し、詳細については次年度以降に完掘が終了した段階で報告を行う。

位置：N-30~33、O-29~33 平面形：隅丸長方形？

規模：竪穴本体(883)×1124 cm 掘り上げ土 1237×442 cm

確認・調査：Ta-b テフラを重機で除去し、Ⅲ層上面を精査した時点で、調査区壁面にかかる浅く大きな窪みを確認していた。この面で調査区壁面に沿うトレンチを掘削したが、Ⅲ層・Ⅳ層は自然堆積していることから、V層の竪穴住居跡の窪みである可能性が考えられ、作業を一旦中断した。Ⅳ層(Ta-c テフラ)を重機で除去後、V層上面で精査を行い、調査区にかかる半円形の窪みを明瞭に確認した。この段階で周辺の地形図を作製している。この窪みに対し十字にベルトを設定し、これに沿うトレンチ調査を先行して行った。このトレンチ調査により、床面と壁面の一部を確認し、大ま



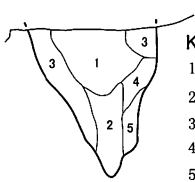
図VI-22 VH-04 平面及び断面図

VH-04

- 1 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P (φ3 ↓ 斑状)
- 2 10YR5/8 黄褐色 Vb = VI ≡ Ta-d2P (φ10 ↓ 斑状)
- 3 10YR5/8 黄褐色 VI ≡ Ta-d2P (φ10 ↓ 斑状)
- 4 10YR3/4 暗褐色 VI - Ta-d2P・Ta-d2L (φ5 ↓ 斑状) ≡ Vb (均一)
- 5 7.5YR6/8 橙色 Ta-d2L ≡ Vb (均一)
- 6 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L - Ta-d2P (φ5 ↓ 斑状) = Vb (均一)
- 7 7.5YR6/8 橙色 Ta-d2P ≡ Vb (均一)
- 8 10YR3/3 暗褐色 Vb + VI = Ta-d2P (φ5 ↓ 斑状)
- 9 10YR3/2 黒褐色 VI = Vb・Ta-d2P (φ5 ↓ 斑状)
- 10 10YR4/2 灰黄褐色 VI ≡ Ta-d1スコリア(均一)
- 11 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2P (φ5 ↓) = Ta-d2L ≡ VI (均一)
- 12 10YR4/2 灰黄褐色 VI - Ta-d2P ブロック
- 13 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P (φ10 ↓ 均一)
- 14 10YR2/2 黒褐色 Vb - VI = Ta-d2P (φ10 ↓ 斑状)
- 15 10YR2/3 黒褐色 Vb - VI = Ta-d1スコリア(均一)
- 16 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P (φ10 ↓ 斑状) 掘り上げ土

KP-01

a 74.40m

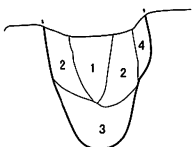


KP-01

- 1 10YR3/4 暗褐色 Vb・VI = Ta-d2P (φ5 ↓ 斑状)
- 2 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2P (φ20 ↓ 斑状) = VI (均一)
- 3 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L
- 4 10YR2/3 黒褐色 Vb・VI = Ta-d2P (φ5 ↓ 斑状)
- 5 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L

KP-02

a 74.30m

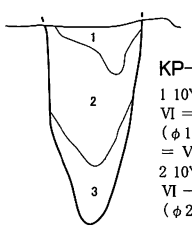


KP-02

- 1 10YR3/4 暗褐色 VI - Ta-d2L (均一)
- 2 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L = VI (均一)
- 3 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L - VI (均一)
- 4 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L

KP-03

a 74.40m

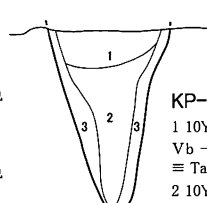


KP-03

- 1 10YR3/4 暗褐色 VI = Ta-d2P (φ10 ↓ 斑状) = Vb (斑状)
- 2 10YR2/3 黒褐色 VI - Ta-d2P (φ20 ↓ 斑状)
- 3 7.5YR4/4 褐色 Ta-d2L ≡ VI (均一)

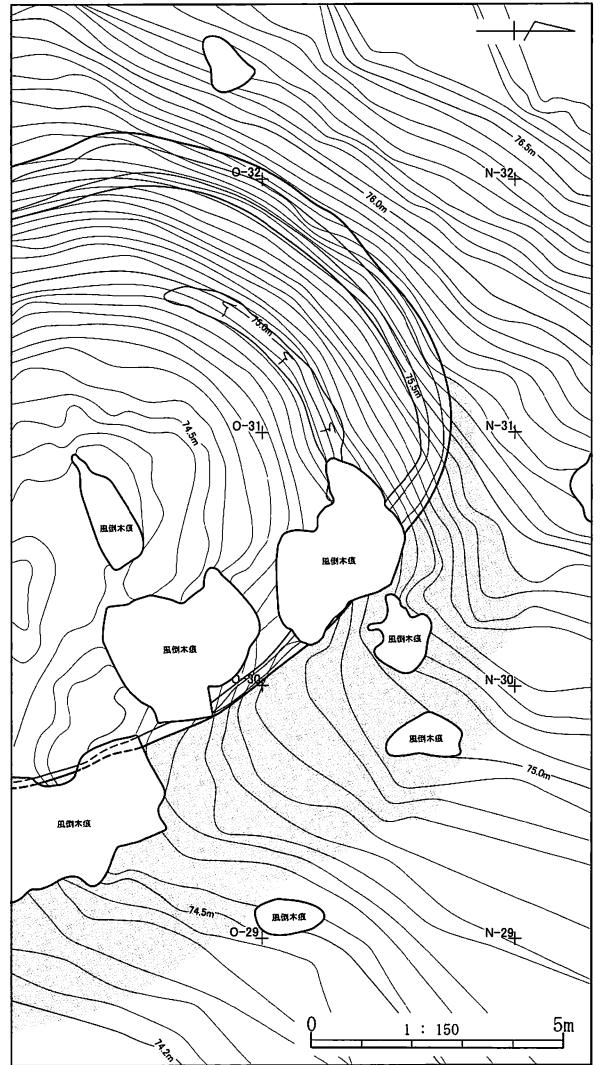
KP-04

a 75.10m



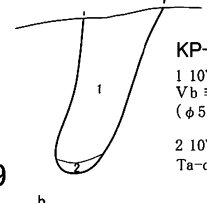
KP-04

- 1 10YR2/2 黒褐色 Vb - VI (均一) ≡ Ta-d2L (均一)
- 2 10YR2/3 黒褐色 Vb = VI・Ta-d2P (φ5 ↓ 均一)
- 3 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L



KP-05

a 74.20m



KP-05

- 1 10YR1.7/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P (φ5 ↓ 斑状)
- 2 10YR4/6 褐色 Ta-d2L = Vb (斑状)

KP-06

a 75.10m

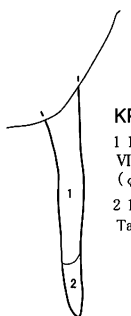


KP-06

- 1 10YR2/2 黒褐色 VI - Ta-d2P (φ5 ↓ 均一)

KP-07

a 75.10m

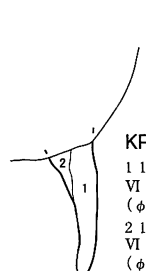


KP-07

- 1 10YR2/3 黒褐色 VI - Ta-d2P (φ5 ↓ 均一)
- 2 10YR6/8 明黄褐色 Ta-d2P = VI (均一)

KP-08

a 75.10m



KP-08

- 1 10YR2/3 黒褐色 VI - Ta-d2P (φ5 ↓ 均一)
- 2 10YR2/2 黒褐色 VI - Ta-d2P (φ5 ↓ 均一)

KP-09

a 75.10m

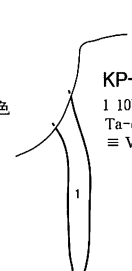


KP-09

- 1 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2P (φ5 ↓) ≡ VI (均一)
- 2 10YR2/1 黒色 Vb

KP-10

a 75.10m



KP-10

- 1 10YR4/6 褐色 Ta-d2P (φ5 ↓) ≡ VI (均一)

KP-11

a 75.10m

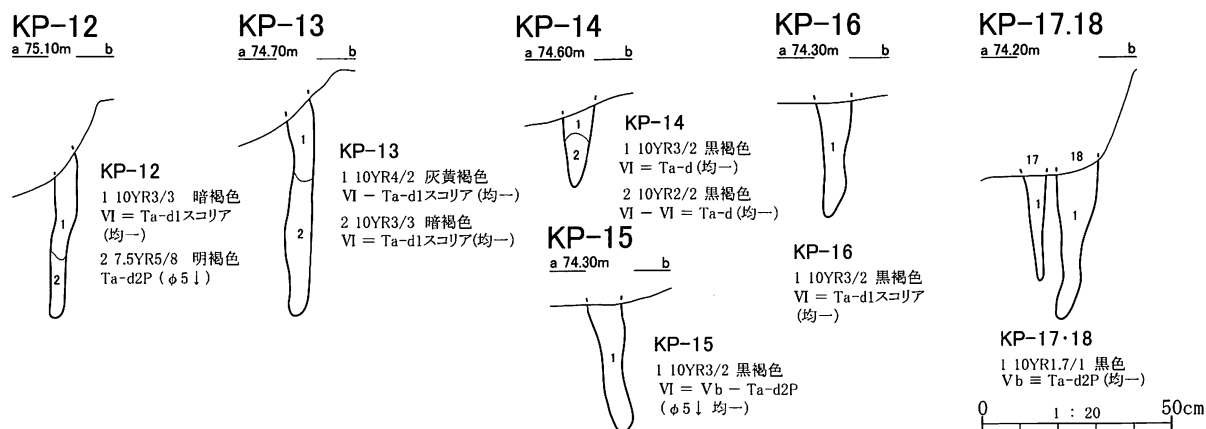


KP-11

- 1 10YR4/2 灰黄褐色 VI = Ta-d2P (φ5 ↓ 均一)

0 1 : 20 50cm

図VI-23 4号竪穴住居跡平面図及び断面図・付属遺構断面図



図VI-24 VH-04 柱穴断面図

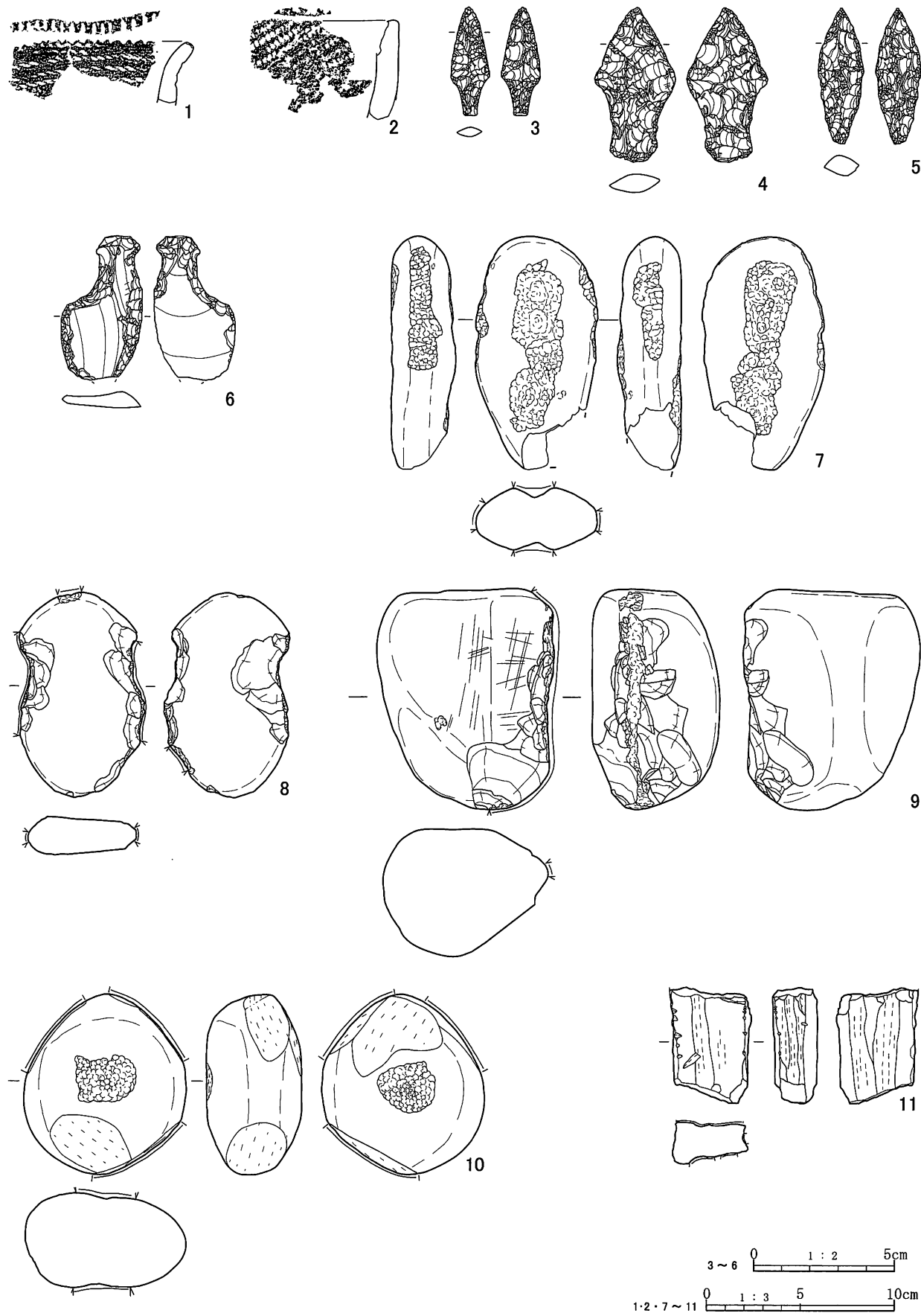
かな規模を把握した。また、西側と東側でベンチ状の構造を確認した。この後、ベルトを残し床面及び壁面の検出を行い、これと並行し周辺の堅穴の掘り上げ土の検出を行った。掘り上げ土は上り斜面の西側では確認できず、下り斜面の東側で検出した。床面及び壁面を検出した時点で、土層断面の記録を行い、ベルト部分の調査を行った。床面及び壁面で柱穴を確認し、それぞれ調査を行った。最後に掘り上げ土の調査掘削を行い調査は終了している。

表VI-22 VH-04属性表

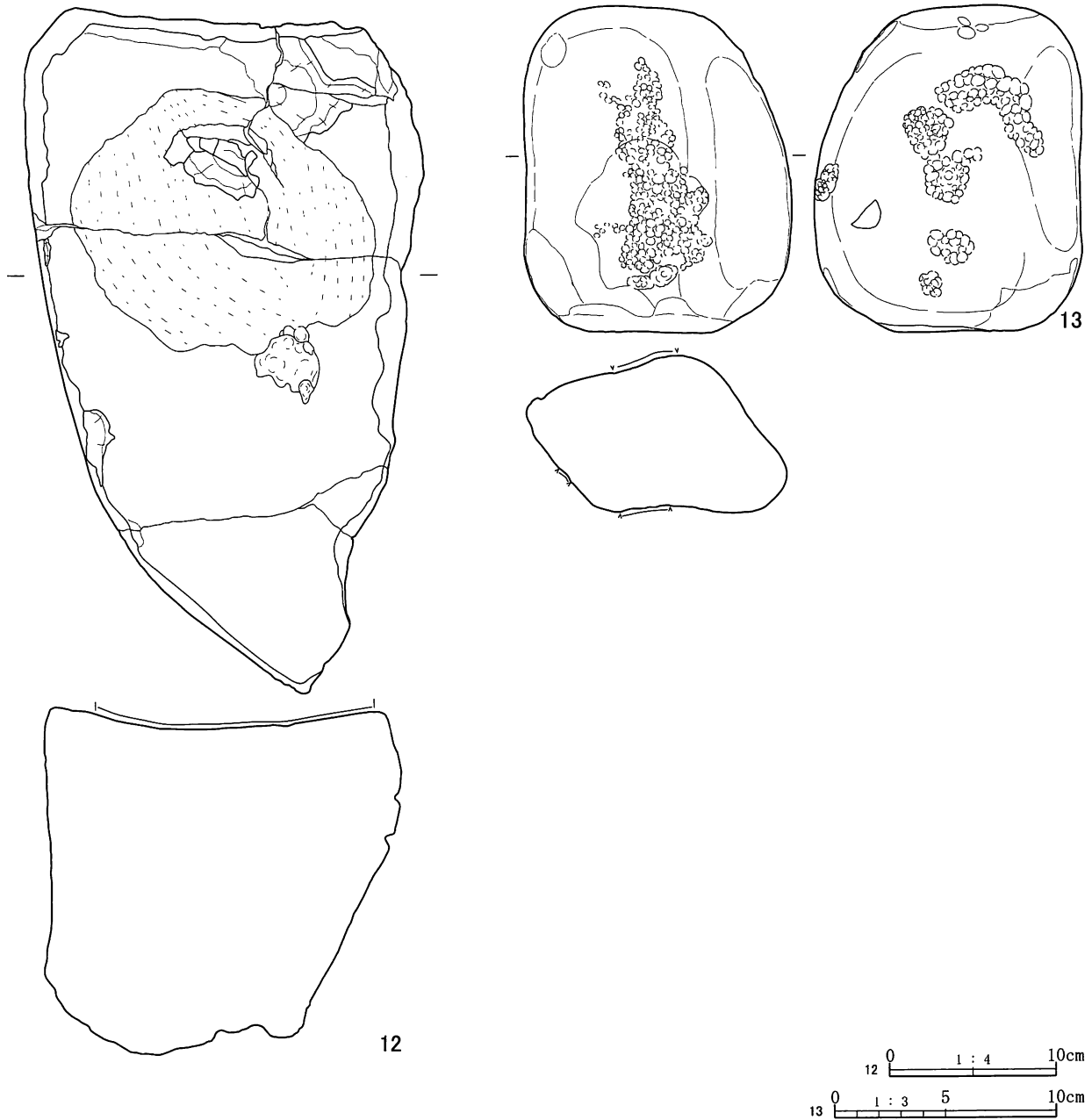
挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	長軸方向	調査面規模		坑底面規模		深さ (cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
VI-22	49	VH-04	N-30~33, O-29~33	VbL	N-35°W	(883)	1124	(804)	996	47	
VI-23		掘り上げ土		VbL	-	(1237)	442	-	-	-	

表VI-23 VH-04柱穴属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	規模(cm)			備考
			上端	下端	深さ	
VI-23	49-3	KP-01	34	1	39	
VI-23	-	KP-02	27	5	30	
VI-23	-	KP-03	25	1	52	
VI-23	49-4	KP-04	32	2	48	
VI-23	49-5	KP-05	22	5	41	
VI-23	-	KP-06	11	1	18	
VI-23	-	KP-07	9	1	61	
VI-23	49-6	KP-08	12	1	35	
VI-23	-	KP-09	9	1	34	
VI-23	49-7	KP-10	4	1	51	
VI-23	-	KP-11	9	1	42	
VI-24	49-8	KP-12	5	2	37	
VI-24	-	KP-13	6	2	53	
VI-24	-	KP-14	8	1	19	
VI-24	49-9	KP-15	9	1	34	
VI-24	-	KP-16	10	1	30	
VI-24	-	KP-17	6	1	28	
VI-24	-	KP-18	11	1	38	



図VI-25 VH-04 出土遺物 (1)



図VI-26 VH-04 出土遺物 (2)

出土遺物：1はⅡB2a類円筒下層d式土器である。口縁は緩い波状を呈するかもしれないが、残存部が少なく不明瞭である。2はⅡB2d類の口縁部片である。3は黒曜石製の石鏃で、有茎鏃である。4・5は石槍である。5は基部が不明瞭なものである。6は頁岩製のつまみ付きナイフで周縁に調整を行っている。7～9はたたき石である。7は両面に深く窪む敲打痕があり、側縁にも敲打痕がある。8は両側縁に打ち欠きによる抉れがあり、縁辺は敲打により潰れている。10はすり石で、たたき石と併用しているものである。両面の中央には窪む敲打痕を、側縁と面の一部にすり面をもつものである。側縁の2カ所のすり面は平坦で、すり面との境界には明瞭な稜を残す。11は砥石で、幅10mm前後の溝状の研磨面を3面にもつものである。12は石皿、13は台石である。

時期：現段階では覆土の出土遺物より前期後葉と考えられる。

表VI-24 VH-04出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等 文 様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-25-1	124-2-1	JP263	II B2a	VH-04	VbU	1	口縁 部	平縁?・外傾一 丸状	刻み-縄線文	φ1~2mm 石英、砂粒 少量、繊維 微量混入	内面:ヨ コミガキ 強
VI-25-2	124-2-2	JP207A	II B2d	VH-04	1	1	口縁 部	平縁・やや内反一 隅丸角状?	RL縄文-LR斜行 縄文	φ1~10mm 蛇紋岩片 多量混入	

表VI-25 VH-04出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-25-3	124-2-3	-	25513	ポイント類	A3	2	VH-04	-	38.4	13.3	3.9	18.0	Obs.	
VI-25-4	124-2-4	-	23626	ポイント類	B1a	2	VH-04	-	55.0	28.6	9.5	107.0	Obs.	
VI-25-5	124-2-5	-	23627	ポイント類	B2	2	VH-04	-	(48.4)	16.3	9.7	61.0	Obs.	
VI-25-6	124-2-6	-	22539	ナイフ・スクレイパー類	A1	4	VH-04	-	52.6	26.6	6.4	97.0	Sh.	
VI-25-7	125-1-1	-	23541	たたき石	I A3	VbL	VH-04	-	124.0	65.0	33.0	280.0	Sa.	
VI-25-8	125-1-2	-	25511	たたき石	II A2	2	VH-04	-	109.0	68.0	21.0	194.0	Sa.	
VI-25-9	125-1-3	-	23625	たたき石	II B2	2	VH-04	-	117.0	98.0	68.0	876.0	Sa.	
VI-25-10	125-1-4	-	23587	たたき石	II B3	1	VH-04	-	95.1	86.4	49.8	685.0	Gni.	
VI-25-11	125-1-5	-	22538	砥石	A	IV	VH-04	-	59.0	55.0	23.0	75.0	Sa.	
VI-26-12	125-1-6	-	26924	石皿	-	VbL	VH-04	-	444.0	255.0	27.9	24060.0	Sa.	
VI-26-13	125-1-7	-	26925	台石	-	VbL	VH-04	-	145.6	117.9	78.8	1595.0	Sa.	

第2節 土坑墓 (図VI-27~36、図版 50~56)

人骨が検出されたものはないが、堆積状態が人為的な埋め戻し土と考えられるものを全て土坑墓として扱っている。その結果、後述のように形態等に規格性が見られる。時期については、大半は土器が出土しておらず、土坑墓内出土遺物から時期が特定できたものは少ないが、土坑墓内出土土器から前期後葉と特定されたものもある。また、24基のすべてが段丘面 T₃面出土しており、ここで主体となる時代は前期後葉であることから、これらは前期後葉のものと考えられる。

ここでは検出および調査、形態、堆積状況、分布、重複関係、その他、出土遺物の項目ごとにとめて記載を行い、特筆すべき例を除き個別の記載は行わないので、図と表を参照されたい。

検出および調査

VI~VIII層で検出したものが殆どである。基本的には落ち込みに対して十字にベルトを設定し、これを残し調査を行い、土層断面の記録を行っている。その後ベルト部分の調査を行って、完掘している。また、必要に応じて出土遺物の微細図、炭化材の範囲の記録等を行っている。

形態

数値等による形態分類は行っておらず、平面形状から主観的に分類したものだが、隅丸長方形、円形、楕円形、不整形の4種類を確認している。隅丸長方形16基、円形2基、楕円形5基、不整形1基である。圧倒的に隅丸長方形を呈するものが多い。規模は開口部の長軸長で180~220cmのものが殆どである。その中でVGP-01は長軸長が282cmと極端に大きなものである。

堆積状態

前述したように人為的な埋め戻し土(以下、埋土)と考えられるものを土坑墓として扱っており、以下の点で主に埋土であるか判断を行っている。

- ① 壁面の崩落や周囲からの流れ込みではありえない位置に Ta-d2 パミスや Ta-d2 ローム主体の土層があるもの。
- ② 掘り出された基本土層が均一に混じりあっている土層が主体を占めるもの。

①、②のどちらか一方でも満たすものを埋土とした。埋土の特徴として、土坑中央部で窪んでいることが挙げられ、11基確認できる。(VGP-01・03・04・07～10・12～14・20)これは遺体等が腐って空洞となり、その部分に土が沈むためと考えられる。確認できなかったものも遺構確認面が低くなり、埋土上面を削平してしまっているためと考えられる。

分布

すべて高位段丘面 T₃面を確認されている。分布には偏りが認められ、段丘南東部の1号竪穴住居跡周辺に20基がまとまっている。その内の14基は段丘縁辺に密集している。このような分布のあり方から、この段丘南東部は墓域として捉えられる。これだけ分布密度が濃く出土しているにも係わらず、1号竪穴住居跡やその掘り上げ土と切り合い関係がないことから、土坑墓を構築する際にはすでに竪穴住居跡が廃絶し、ここを避けていた可能性が考えられる。また、墓域中のもので近接する2基が長軸方向をほぼ同じにしているものがある。(VGP-08と15、07と16、04と11、14と18、10と19)これらは更に、形態や規模も類似することからそれぞれが非常に近い時期に作られた結果かもしれない。もしくは葬送儀礼等に係わることである可能性もある。この墓域に含まれないものは4基あり、それらは散逸した分布状態である。

重複関係

土坑墓同士で切り合い関係にあるものは1組で、VGP-12と15である。開口部が僅かに切りあうもので、VGP-12の方が新しいと判断した。その他の遺構と重複関係にあるものは2組で、VGP-05とTP-40、VGP-21とTP-41である。それぞれVGP-05が古く、VGP-21が新しい。

その他

土坑墓の特徴として底面付近で炭化材を検出するものが多く見られ、本土坑墓群の特徴と捉えられる。VGP-03・07・09・11・12・18・20・23の8基は底面でまとまった範囲を検出している。その他にもVGP-13・14・17・24の4基は底面付近で散逸した状態で検出している。この炭化材の周辺では焼土及び焼土粒等は検出されない。この炭化材にどのような性格があるのかは不明であるが、土坑墓の半数近くに共通するものであることから埋葬方法等に係わるものと思われる。またVGP-24の炭化材を含む土を回収しフローテーションを行ったところ、シカの歯冠片が得られている。これについては1例のみであり、現場段階での混入はなかったものと考えられるが乾燥、選別等の段階でサンプルNo.間違い等の可能性は否定できず、類例等の増加をまって検討を行いたい。

VGP-03では炭化材の上に微量であるがベンガラを検出している。本遺跡のすり石、石皿等にベンガラが付着しているものが複数出土している事から、一定量のベンガラが遺跡内で利用されてい

る可能性があるが、土坑墓内で検出された1例のみである。本遺跡の土坑墓は底が色調の赤い Ta-d2 パミス中に作られていることから、確認が困難であり潜在的にはベンガラが散布されたものがあると思われる。

遺物出土状況

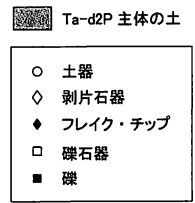
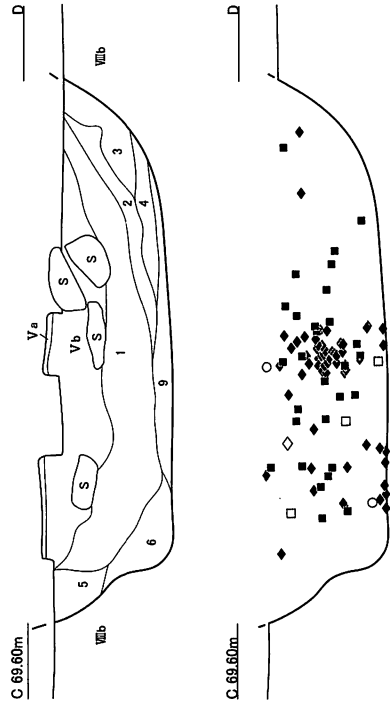
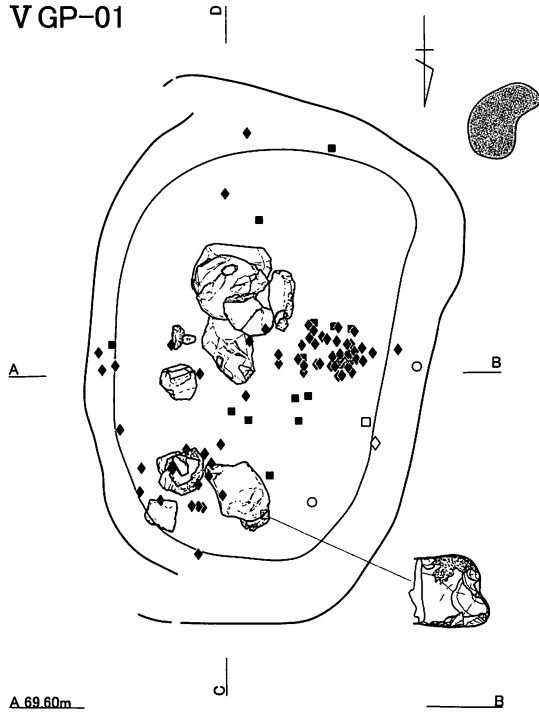
遺物は確認面や、底面及び底面付近、埋土中から出土したものがあ。このうち埋土上面で大型の礫・礫石器が出土したものが VGP-01・03・06・07・22 の 5 基ある。VGP-01・06 は複数の大型礫を重ねている。それ以外については単体の出土であり明確に伴うものかは不明瞭だが、VGP-01・06 は副葬された可能性が高い。VGP-20 は確認上面で大麻 V 式土器がややまとまって出土している。同一個体の破片が広く散逸していることから直接的に伴うものとは考えにくい。出土状態から土坑墓はこれと同時期かそれよりも新しいと考えられる。

坑底面から遺物が出土したものは VGP-09・14 の 2 基で共に礫石器である。出土状態から考えると副葬品と考えられる。これらの他は埋土中からの出土で、VGP-05・06・09・11・15・21 からは土器が出土している。これらが出土した土坑墓はそれぞれ出土した土器と同時期か、それよりも古いと考えられる。

出土遺物 (図 VI-33~36)

1 は扁平礫を素材とし、一辺に連続的な打ち欠きが見られることから扁平打製石器と分類を行った。一端は欠損しているが、残存している方には打ち欠きと敲打により抉れている。2 は黒曜石製のつまみ付きナイフである。一側縁に刃部が作出されている。3 は台石で平坦面の一部に僅かだが敲打痕が残されている。4 は II B2d 類の胴部片である。RL と LR の縄を器外面は縦、器内面は横回転で施文し羽状縄文となっている。5 は II B2d 類の口縁部片で、縦位の貼付文を施している。6~8 は VGP-06 の上面で重なって出土したものである。6 は砥石である。7 は台石で、割れた後も敲打使用を続け、破断面の角は潰れている。8 は石皿である。使用面の形状から、北海道式石冠ではなく球状に近い形状のすり石を使用したと考えられる。9 はたたき石である。10 は大型礫の一側縁に連続した打ち欠きを行っている。11 はたたき石で 3 面を利用している。12 は II B2d 類の胴部片である。RL・LR の縄を縦回転し羽状縄文を施している。一部に縄の結縛痕が観察できる。13 は北海道式石冠である。ただし使用されておらず、擦り面が確認できないことから未成品と考えられる。14 はすり石である。すり面の他にほぼ全面を敲打しており、たたき石と併用していたものと考えられる。すり面にはベンガラが付着している。また、擦る前に敲打を行っており、その僅かに残る小さな窪みにベンガラが詰まっている。15・18 は II B2a 類の胴部片で、共に撚糸文を縦回転で施文した後に横回転で撚糸文を施している。16・17 は北海道式石冠である。共に破損後に使用面から敲打し、破断面の角を整形している。19 は II B2b 類の大麻 V 式土器である。器形は歪んでおり、特に口縁は著しい。口唇は尖状でその直下に撚りの異なる RL と LR の縄原体で縄線文を施している。その直下はやや肥厚しその下に 2 条の縄線文を施している。20 は II B2b 類の胴部片である。胎土には繊維が殆ど含まれていないもので、19 のような一般的な大麻 V 式土器とは異なる胎土である。

VGP-01



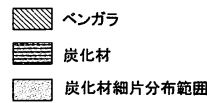
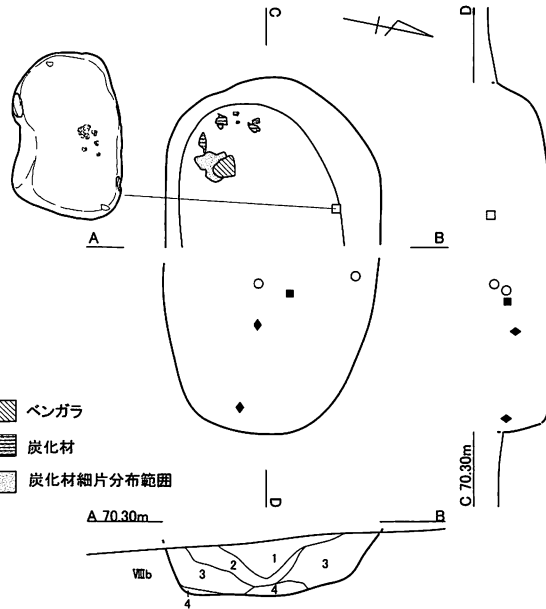
VGP-01

- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1 10YR4/2 灰黄褐色 | Vb = Ta-d2L(均-) ≡ Ta-d2P |
| 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 | Vb-Ta-d2L(均-) = Ta-d2P |
| 3 10YR4/2 灰黄褐色 | Vb = Ta-d2L(均-) ≡ Ta-d2P |
| 4 10YR5/2 灰黄褐色 | Vb = Ta-d2L(均-) - Ta-d2P しまり強 |
| 5 7.5YR5/4 にぶい褐色 | Ta-d2L ≡ Vb(均-) |
| 6 10YR4/1 灰褐色 | Vb ≡ Ta-d2L(均-)・Ta-d2P |
| 7 7.5YR4/3 褐色 | Ta-d2L = Vb(斑状) ≡ Ta-d2P |
| 8 10YR3/1 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2L(斑状) |
| 9 10YR2/2 黒褐色 | Vb-Ta-d2P(φ20 ↓) ≡ Ta-d2L(均-) しまり強 |

A 69.60m

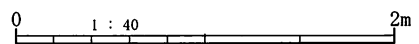
A 69.60m

VGP-03

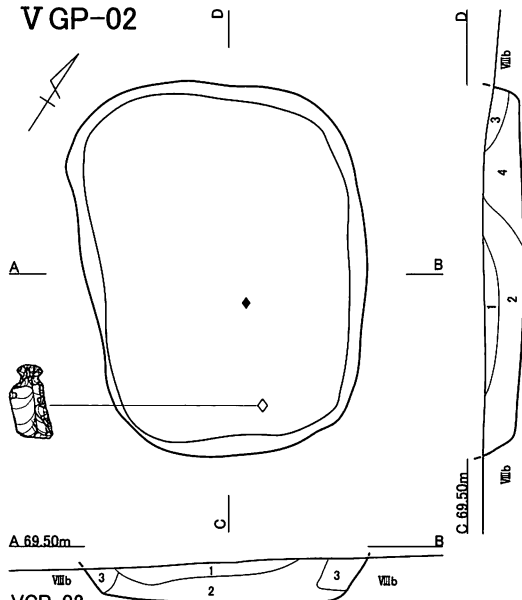


VGP-03

- | | |
|---------------|-------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2P しまり強 |
| 2 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2P = Vb |
| 3 10YR2/3 黒褐色 | Vb - Ta-d2P しまり強 |
| 4 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P しまり無し |



VGP-02

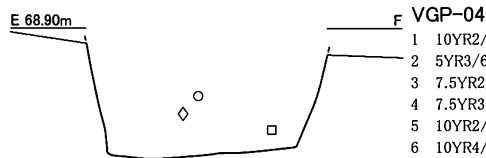
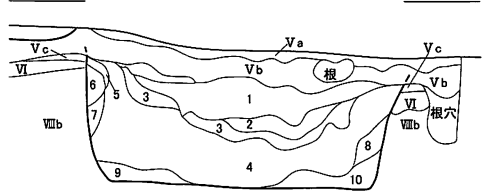
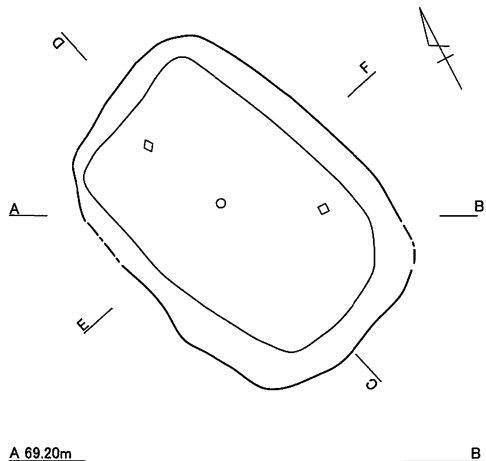


VGP-02

- | | |
|------------------|--------------------------|
| 1 10YR4/2 灰黄褐色 | Vb = Ta-d2L(均-)・Ta-d2P |
| 2 10YR3/1 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 3 10YR5/2 灰黄褐色 | Vb - Ta-d2L(均-) = Ta-d2P |
| 4 7.5YR5/3 にぶい褐色 | Ta-dL - Vb(均-) ≡ Ta-d2P |

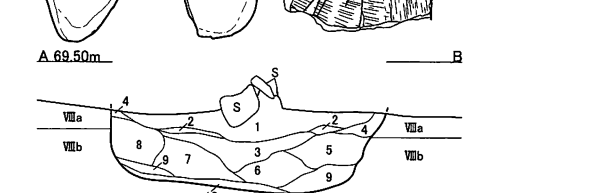
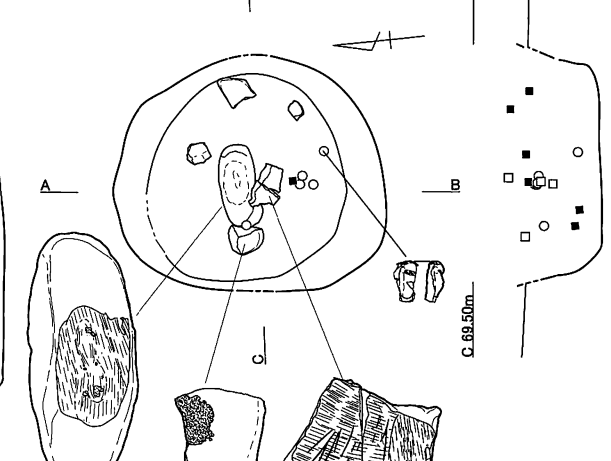
図VI-27 VGP-01 ~ 03

V GP-04



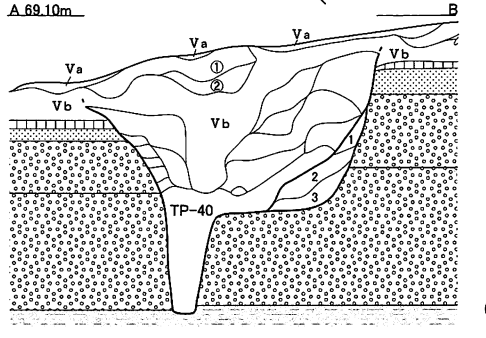
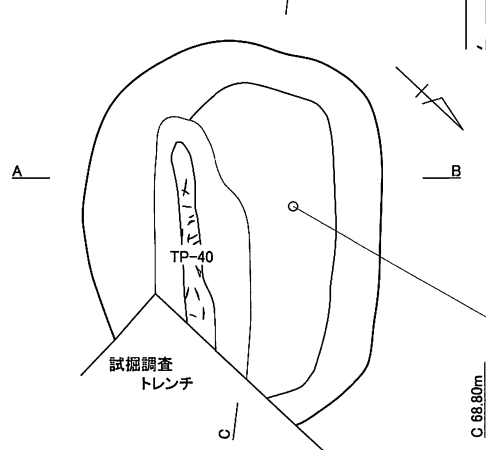
- VGP-04**
- | | |
|----------------|----------------------|
| 1 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P |
| 2 5YR3/6 暗赤褐色 | Ta-d2L ≡ Vb |
| 3 7.5YR2/2 黒褐色 | Vb - Ta-d2P = 炭化物 |
| 4 7.5YR3/3 暗褐色 | Vb - Ta-d2L = Ta-d2P |
| 5 10YR2/1 黒色 | Vb(ブロック状) |
| 6 10YR4/6 褐色 | VI(ブロック状) |
| 7 7.5YR3/3 暗褐色 | Vb - Ta-d2L |
| 8 5YR5/8 明赤褐色 | Ta-d2L(ブロック状) |
| 9 10YR2/1 黒色 | Vb - Ta-d2P |
| 10 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ Ta-d2P |

V GP-06

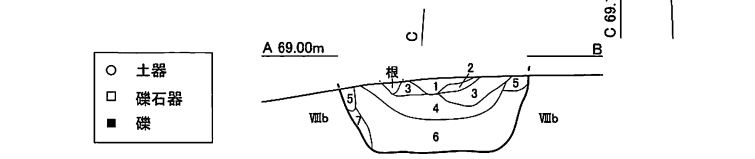
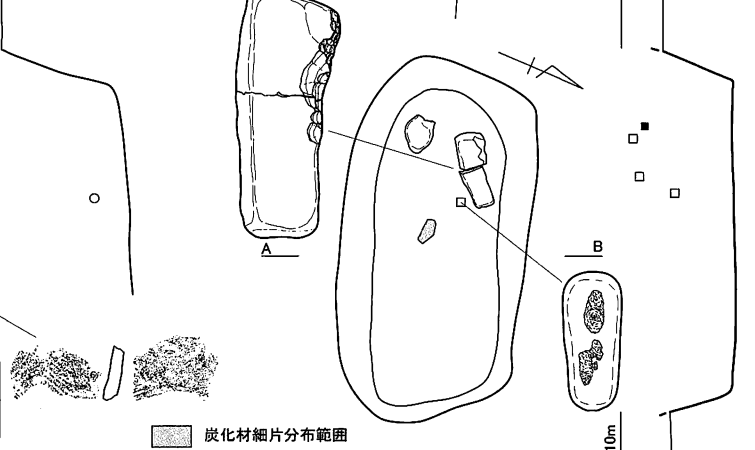


- VGP-06**
- | | |
|----------------|----------------------|
| 1 10YR3/3 暗褐色 | Vb - Ta-d2L = Ta-d2P |
| 2 10YR5/6 黄褐色 | Ta-d2L = Ta-d2P |
| 3 10YR3/4 褐色 | Vb - Ta-d2L ≡ Ta-d2P |
| 4 10YR4/4 褐色 | VI ≡ Ta-d2P |
| 5 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P しまり無し |
| 6 10YR3/4 褐色 | Vb - Ta-d2L = Ta-d2P |
| 7 5YR5/8 明赤褐色 | Ta-d2P = Ta-d2L・Vb |
| 8 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P しまり無し |
| 9 10YR2/3 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2L ≡ Ta-d2P |
| 10 5YR5/8 明赤褐色 | Ta-d2P = Vb |

V GP-05



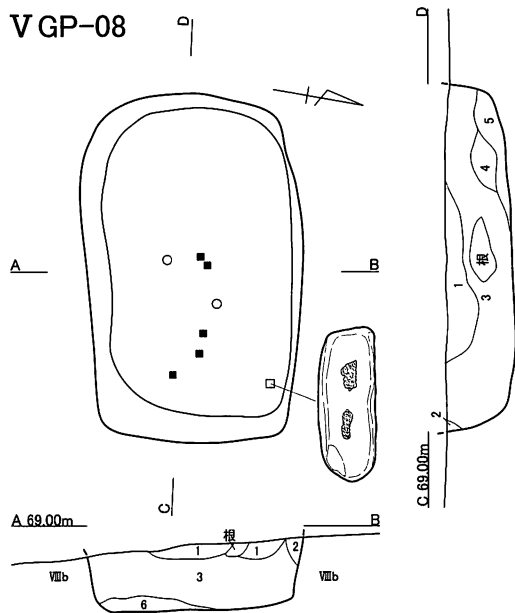
V GP-07



- VGP-05**
- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 7.5YR5/6 明褐色 | Ta-d2L = Ta-d1L |
| 2 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 3 7.5YR5/6 明褐色 | Ta-d2L = Vb しまり無し |
- VGP-07**
- | | |
|---------------|----------------------|
| 1 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 2 10YR2/3 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 3 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2L = Vb・Ta-d2P |
| 4 10YR3/4 暗褐色 | Vb - Ta-d2L = Ta-d2P |
| 5 10YR5/6 黄褐色 | Ta-d2L(ブロック) |
| 6 10YR3/4 褐色 | Vb - Ta-d1L・Ta-d2P |
| 7 10YR5/8 黄褐色 | Ta-d1L |

図VI-28 V GP-04 ~ 07

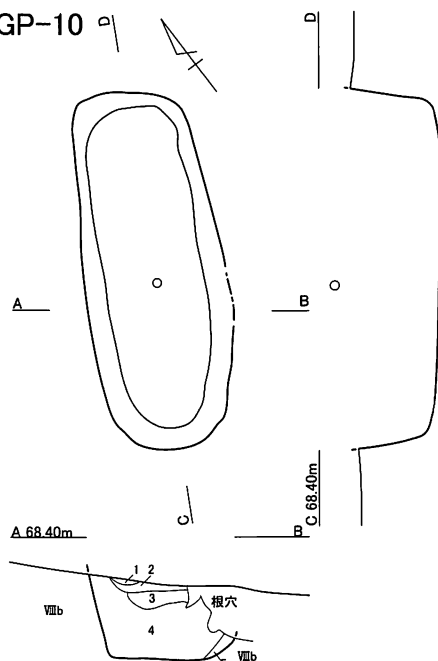
VGP-08



VGP-08

- 1 10YR2/1 黒色 Vb
- 2 10YR5/6 黄褐色 Ta-d1L(ブロック)
- 3 10YR5/6 黄褐色 Vb + Ta-d2L = Ta-d2L
- 4 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L + Ta-d2P
- 5 7.5YR3/4 暗褐色 Vb - Ta-d2L・Ta-d2P
- 6 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L + Ta-d2P ≡ Vb しまり無し

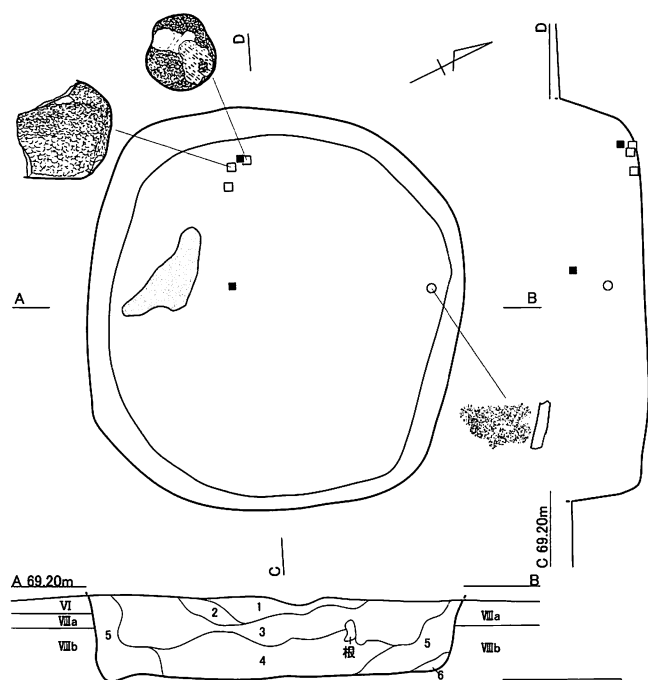
VGP-10



VGP-10

- 1 10YR2/1 黒色 Vb
- 2 10YR3/3 暗褐色 Vb = VI
- 3 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L ≡ Vb・Ta-d2P
- 4 10YR3/3 暗褐色 Vb - Ta-d2L = Ta-d2P
- 5 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P ≡ Vb

VGP-09

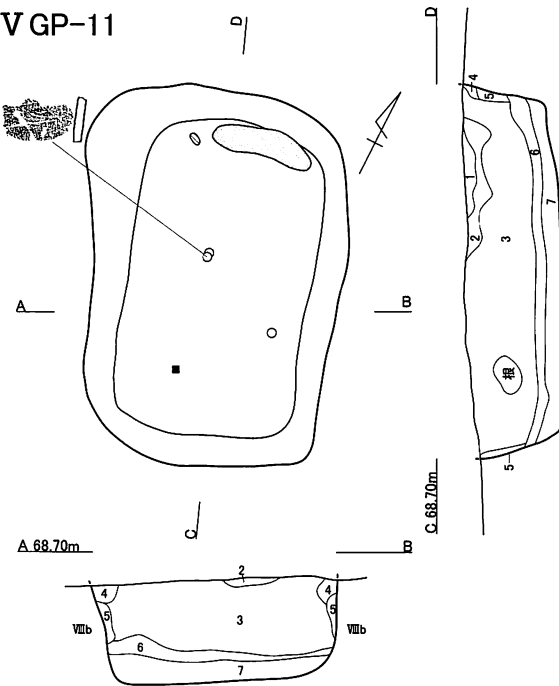


VGP-09

- 1 10YR2/1 黒色 Vb
- 2 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P
- 3 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L + Ta-d2P = Vb
- 4 10YR3/3 暗褐色 Vb = Ta-d2P・Ta-d1L ≡ 炭化物
- 5 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-d1L ≡ Ta-d2P
- 6 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L + Ta-d1L

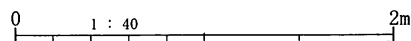
- 土器
- 礫石器
- 礫
- ▨ ペンガラ
- ▨ 炭化材細片分布範囲

VGP-11



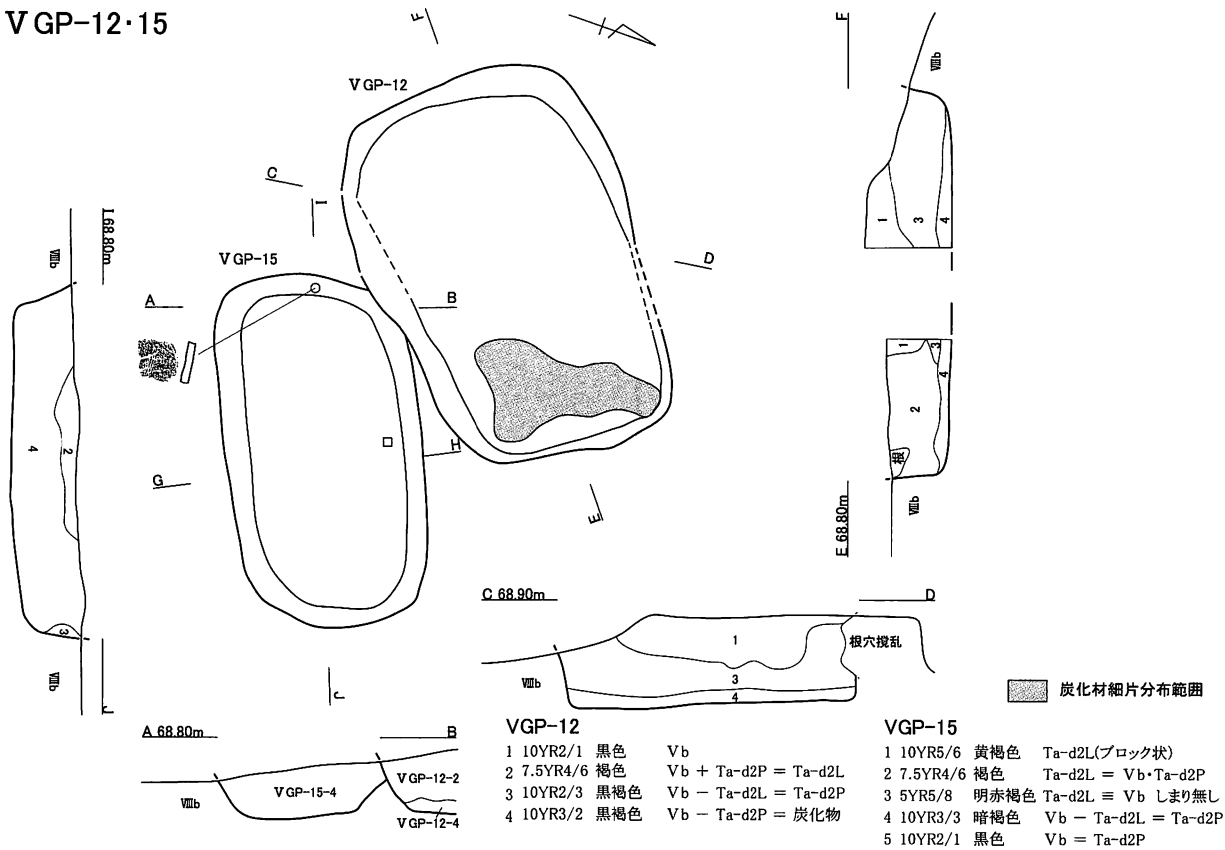
VGP-11

- 1 7.5YR3/3 暗褐色 Vb = Ta-d2L・Ta-d2P
- 2 10YR2/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-d2L・Ta-d2P
- 3 7.5YR3/3 暗褐色 Vb ≡ Ta-d2L・Ta-d2P ≡ Ta-d1L(ブロック)
- 4 10YR5/6 黄褐色 Ta-d2L(ブロック)
- 5 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P(ブロック)
- 6 10YR2/2 黒褐色 Vb・炭化物 ≡ Ta-d2P しまり強
- 7 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P ≡ Vb しまり強

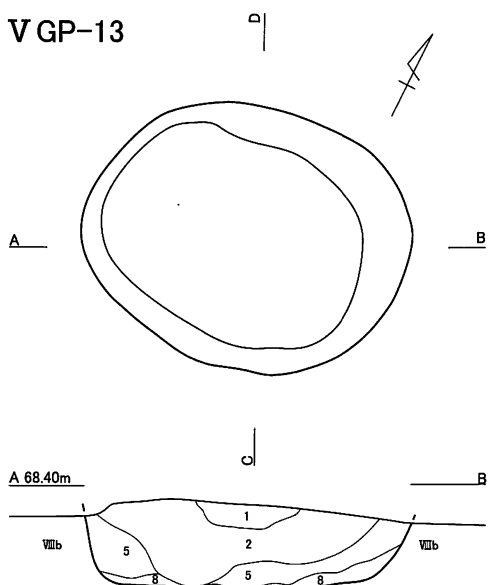


図VI-29 VGP-08 ~ 11

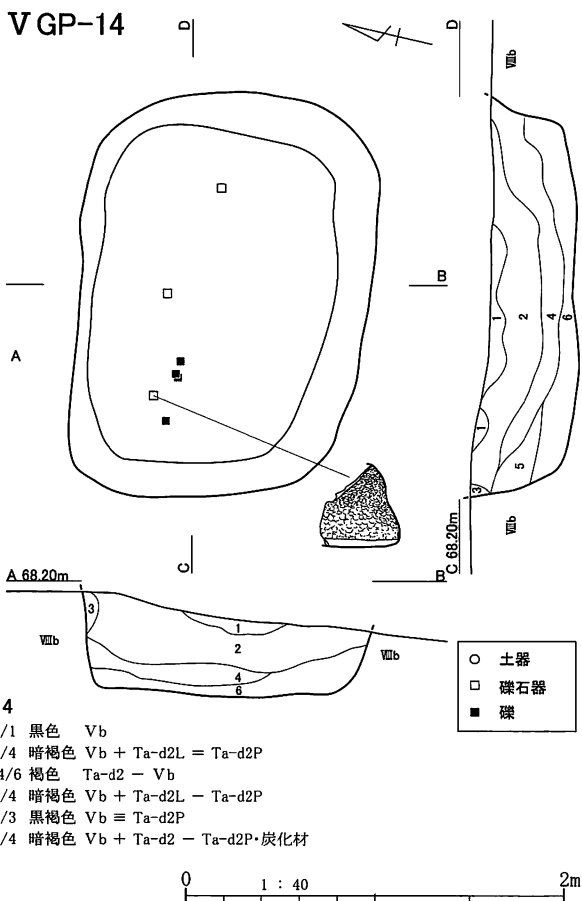
VGP-12・15



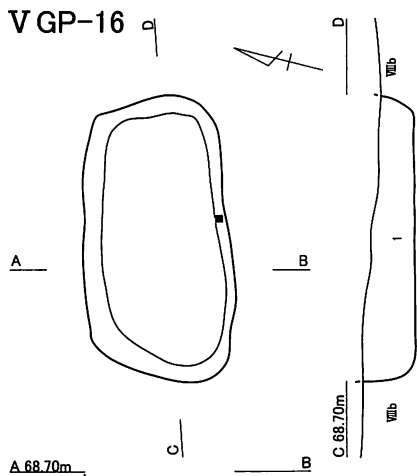
VGP-13



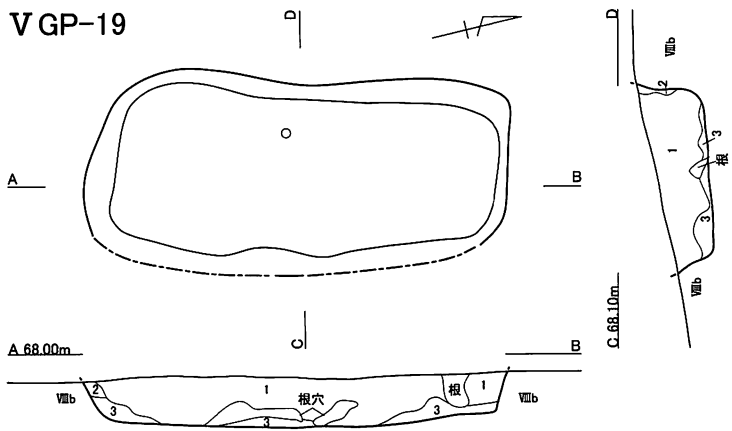
VGP-14



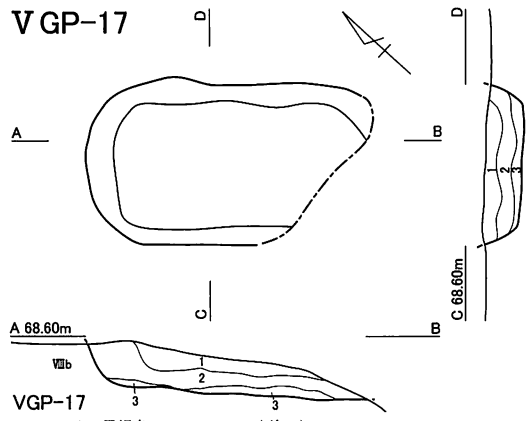
図VI-30 VGP-12 ~ 15



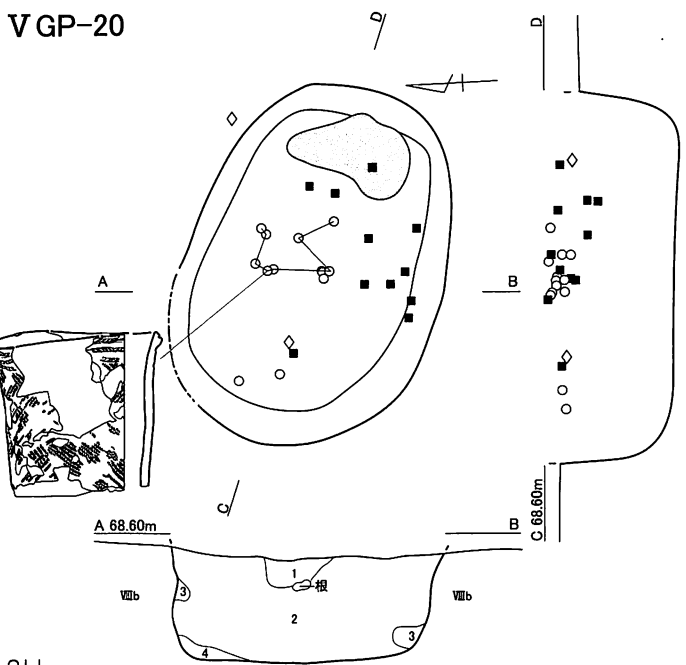
VGP-16
1 7.5YR4/4 褐色 Vb + Ta-dL = Ta-d2L・Ta-d2P



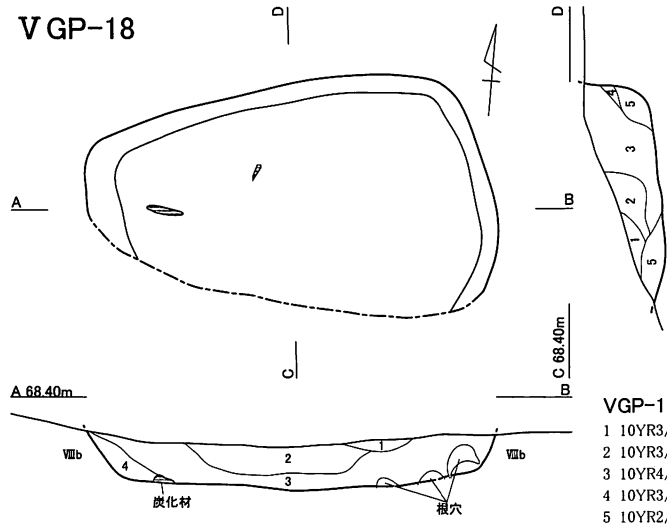
VGP-19
1 10YR3/3 暗褐色 Vb + Ta-d2L = Ta-d2P
2 7.5YR4/4 褐色 Ta-d2L = VbLまり無し
3 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2P = Vb - Ta-d2L



VGP-17
1 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-d2L(均一)
2 10YR3/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-d2P・炭化材
3 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L = Vb

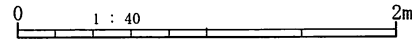


VGP-20
1 10YR2/1 黒色 Vb
2 10YR3/3 暗褐色 Vb - Ta-d2P ≡ Ta-d1・Ta-d2L(斑状)・炭化物
3 10YR5/6 黄褐色 Ta-d2L(ブロック状)
4 7.5YR5/6 明褐色 Ta-d2P = Vb



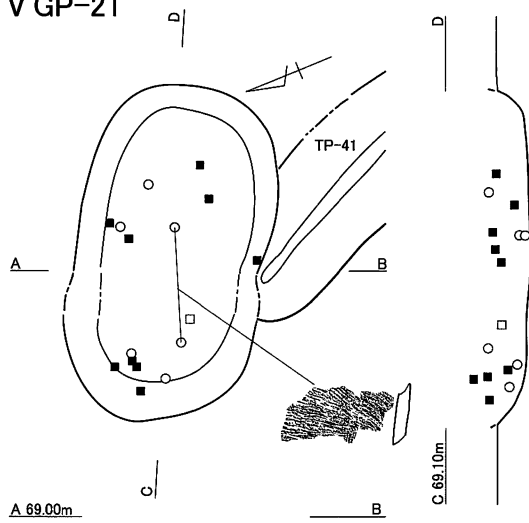
VGP-18
1 10YR3/1 暗褐色 Vb - Ta-d2L ≡ Ta-d2P
2 10YR3/3 暗褐色 Vb - Ta-d2L = Ta-d2P
3 10YR4/6 褐色 Ta-d2L + Vb - Ta-d2P
4 10YR3/4 暗褐色 Vb - Ta-dL + Ta-dL = Ta-d2P
5 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-d2L ≡ Ta-d2P

	土器
	剥片石器
	礫石器
	礫
	炭化材
	炭化材細片分布範囲



図VI-31 VGP-16 ~ 20

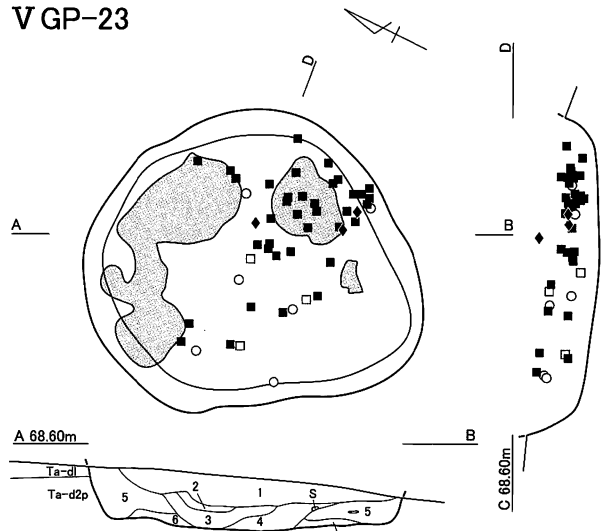
V GP-21



V GP-21

- 1 10YR2/1 黒色 Vb
- 2 10YR3/4 暗褐色 VI - Vb・Ta-dL

V GP-23

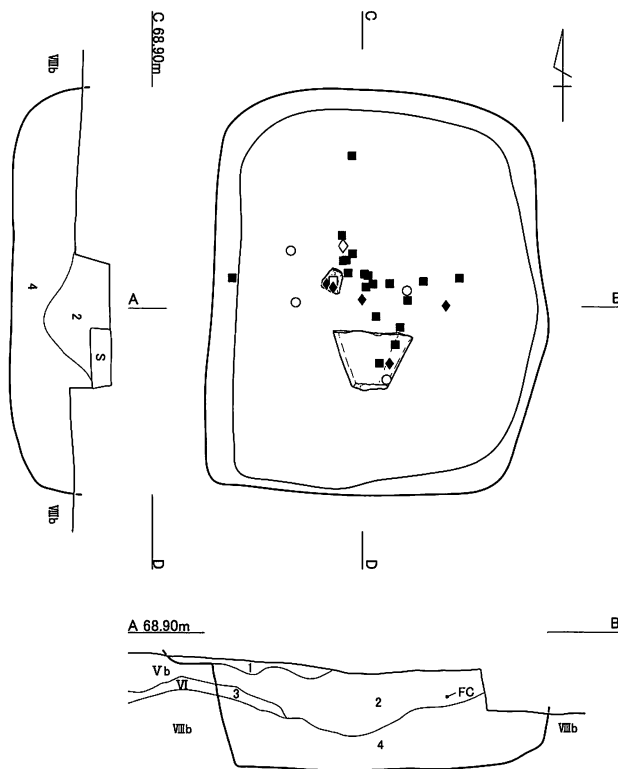


V GP-23

- 1 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-dP (φ5~10) (斑状)
- 2 5YR5/8 明赤褐色 Ta-dL + Ta-dP (φ5~10) (斑状)
- 3 5YR5/8 明赤褐色 Ta-dP (φ5~10) = Vb (斑状)
- 4 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-dP (φ5~10) (斑状) 炭化物
- 5 7.5YR4/4 褐色 Ta-dL ≡ Vb・Ta-dP (φ5~10) (斑状)
- 6 10YR2/1 黒色 Vb + 炭化物

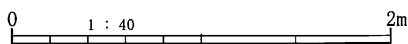
炭化材細片分布範囲

V GP-22

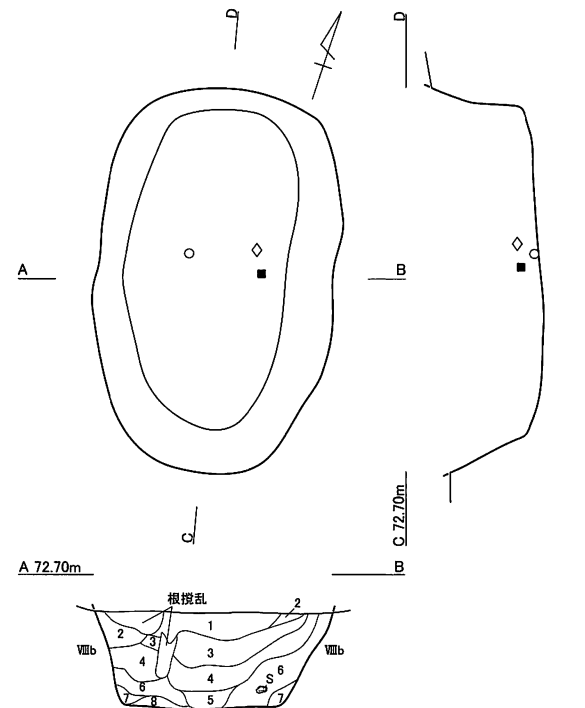


V GP-22

- 1 10YR4/4 褐色 Ta-d2L - Ta-d2P (φ10~20) (斑状) ≡ Vb
- 2 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-d2P (φ10~20) (斑状)
- 3 10YR3/4 暗褐色 Vb - Ta-d1L
- 4 10YR4/4 褐色 Vb + Ta-d2L (均一) - Ta-d2P (φ5~10) (斑状)



V GP-24

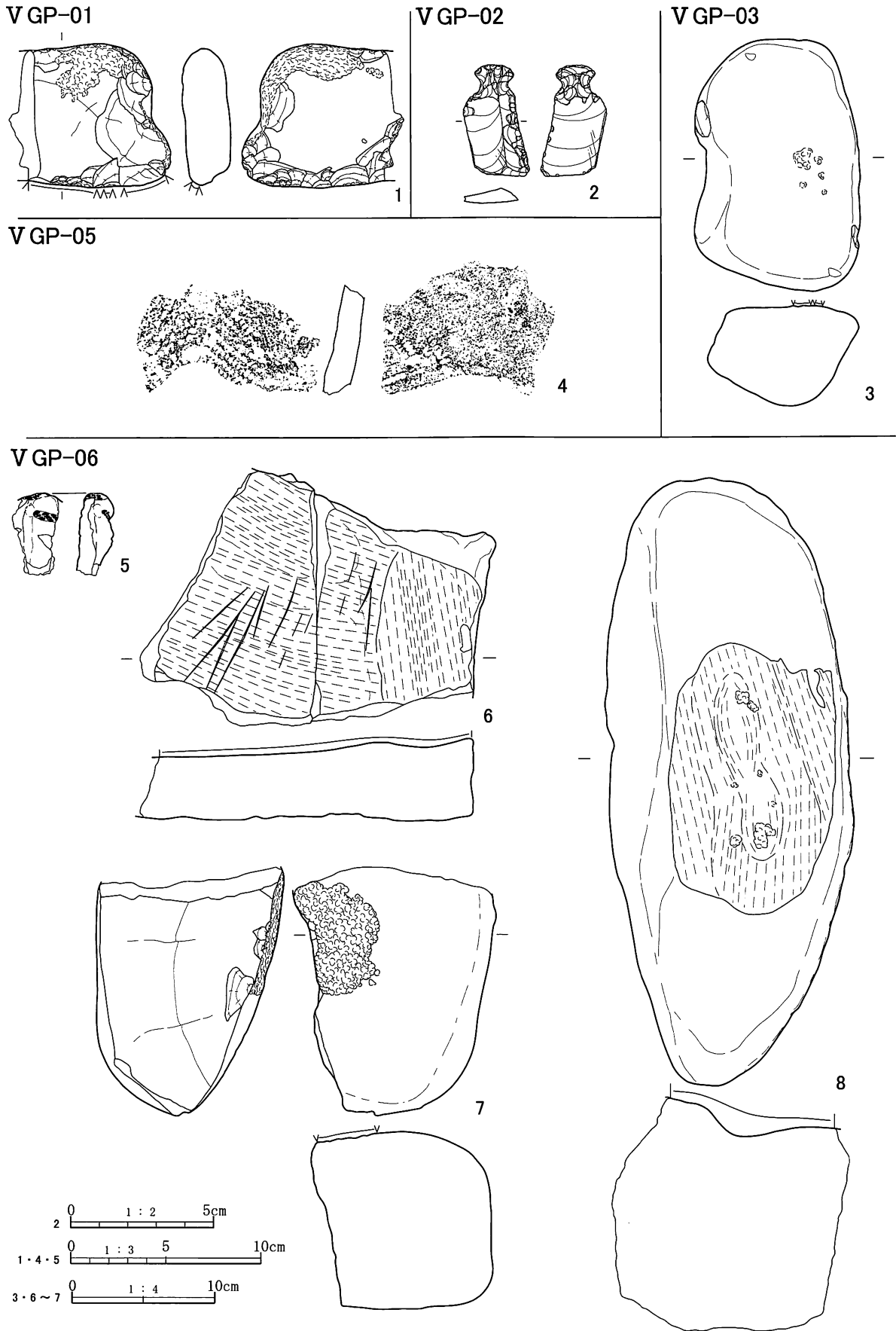


V GP-24

- 1 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P (φ3~5) (斑状)
- 2 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-d2P (φ3~5) (斑状)
- 3 10YR4/4 褐色 Ta-d1L - Vb = Ta-d2P (φ3~5) (斑状)
- 4 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ5~10) = Vb (斑状)
- 5 5YR5/8 明黄褐色 Ta-d2P - Vb (φ5~20) (斑状)
- 6 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P (φ3~5) (斑状)
- 7 2.5Y5/4 明赤褐色 Ta-d1L
- 8 10YR2/1 黒色 Ta-d2P (φ5~10) (斑状) ≡ Vb 炭化物

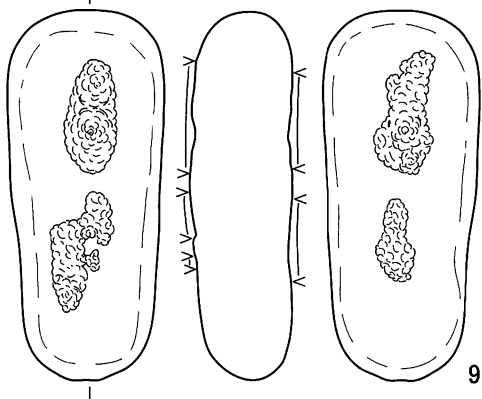
- 土器
- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- 礫

図VI-32 V GP-21 ~ 24

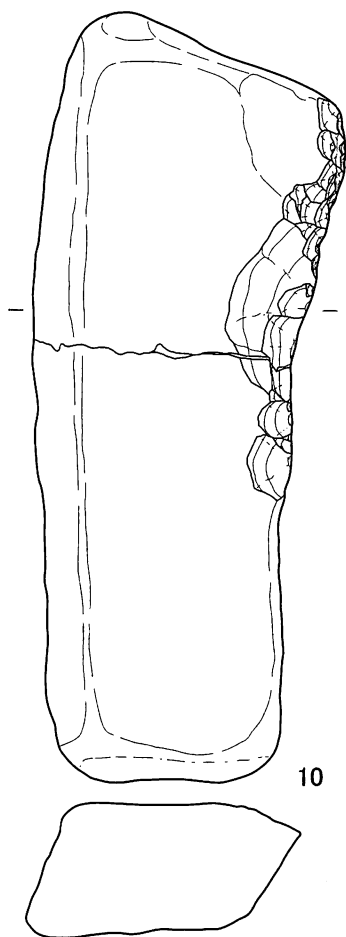
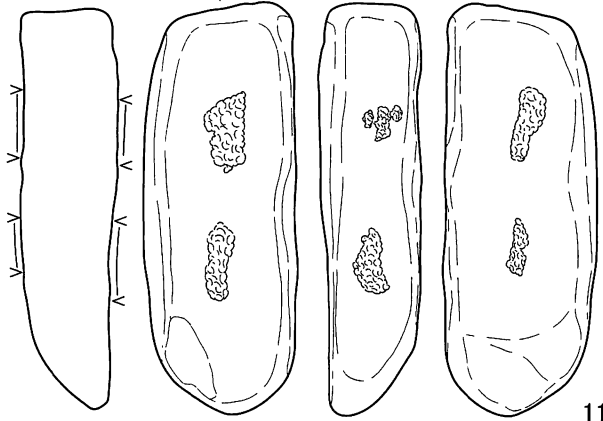


図VI-33 VGP 出土遺物(1)

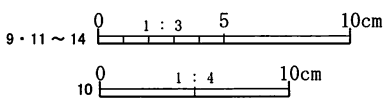
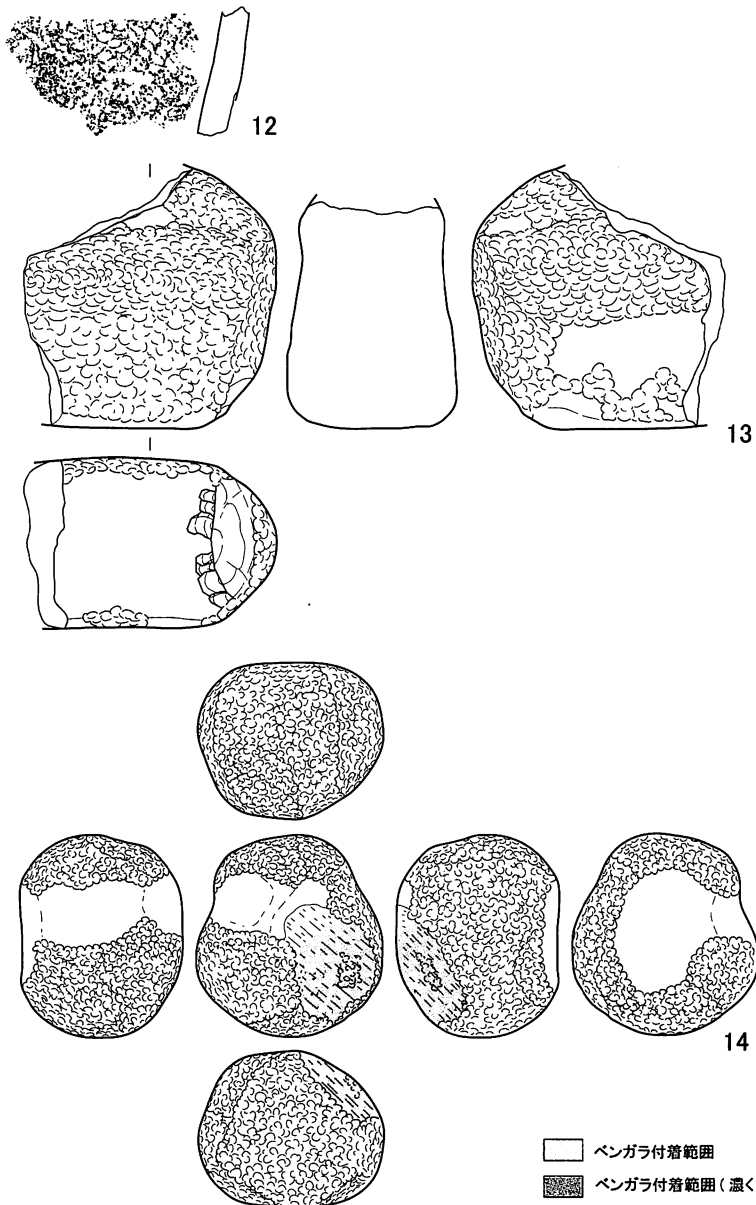
V GP-07



V GP-08



V GP-09



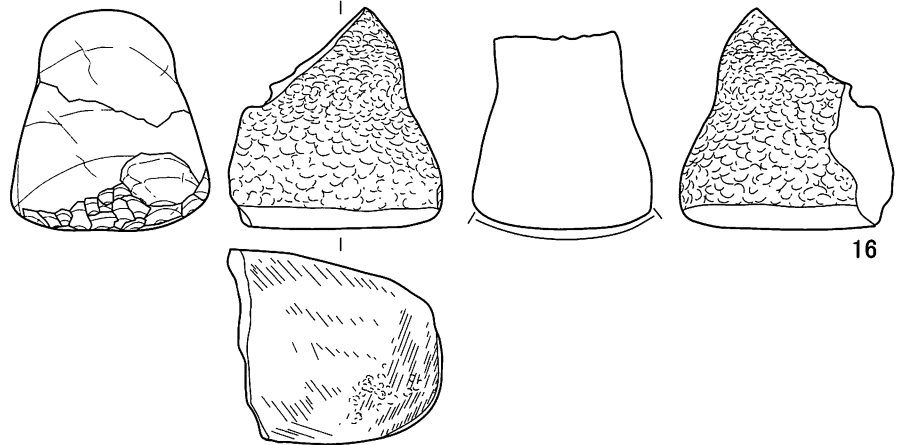
□ ベンガラ附着範囲
 ■ ベンガラ附着範囲(濃く)

図VI-34 V GP 出土遺物(2)

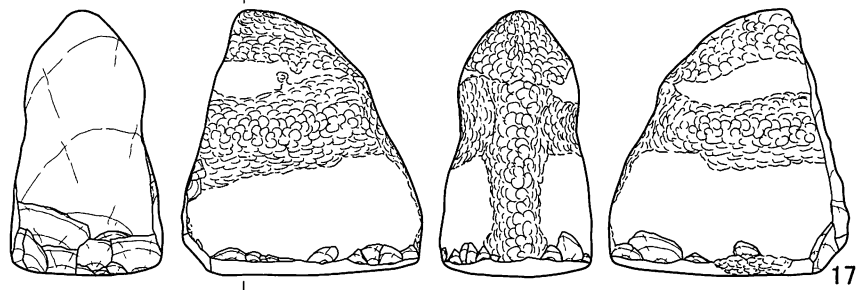
VGP-11



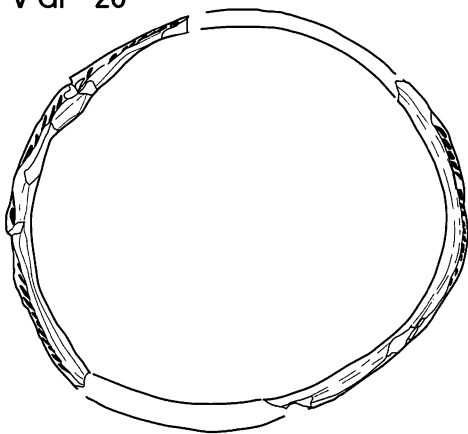
VGP-14



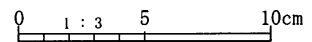
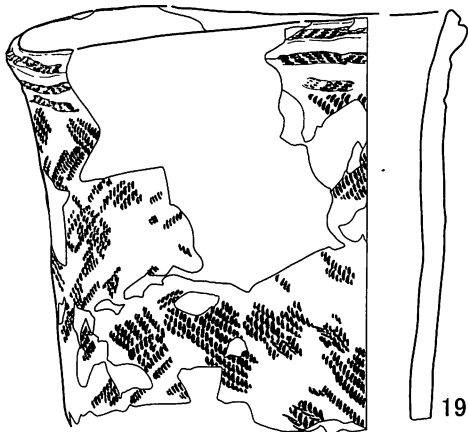
VGP-15



VGP-20

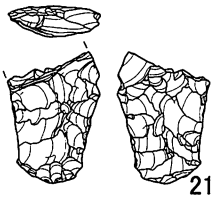


VGP-21

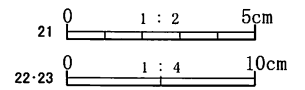
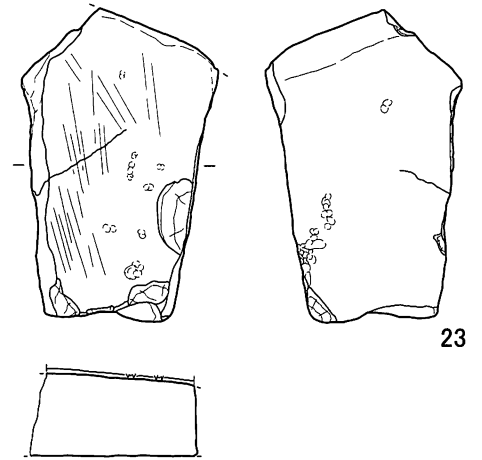


図VI-35 VGP 出土遺物(3)

VGP-22



VGP-23



図VI-36 VGP 出土遺物(4)

時期

時期が特定できるものは、先述したVGP-20のみである。但し、土器片が出土したVGP-05・06・09・11・15・21の6基では、いずれもⅡB類の前期後葉のものである。また遺跡の主体は前期後葉である

ことから、規格性の強いこの土坑墓群は前期後葉のものと考えられる。ただし、共伴する土器型式までは判断できない。

個別記載

VGP-01 (図VI-27 図版 50-1~3)

遺跡の土層断面をV層の調査に先行して記録するために、21ラインに沿ってトレンチを掘削したところ、AJ・AKで断面に落ち込みを確認した。当初規模から小型の住居跡と想定していたが、土層の堆積状態が人為的な埋め戻しによるものと捉え土坑墓とした。土層1~9は埋土で上面は土坑墓中央で浅くレンズ状に窪んでいる。この上面に大型の礫が重なった状態で出土している。埋土中から遺物が多く出土しているが、出土状態から意図的なものではなく、墓坑掘削時に掘り上げたものが埋土に混入したためと思われる。この墓坑の南西側でVb層調査中にTa-d2パミスを中心とする土層の小さな範囲を検出している。これは検出層位及び位置的に墓坑掘り上げ土の一部である可能性があり、構築面層位の可能性がある。

VGP-11 (図VI-29 図版 53-3~5)

土層堆積状態が特殊なものである。土層7はTa-d2パミスに黒色土が微量混入しているもので、水平に堆積しており非常に硬くしまっている。この上に炭化物を多量に含む厚さ5~10cmほどの埋土が堆積している。このような状況と他の土坑墓では坑底に炭化物を含む土層が堆積しているものが多いことを併せて考えると、土層7は掘削後すぐに埋め戻され、土層1~6とは異なるタイミングで埋め戻されたと考えられる。それが何に起因するのかは不明である。

表VI-26 縄文時代土坑墓属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形 調査面/ 坑底面	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸						
VI-27	50-1~3	GP-1	AJ・AK-20・21	Vc	隅丸長方形/隅丸方形	282	(184)	220	146	68	N-12°E	-	1.51	○	
VI-27	50-4~6	GP-2	AC-15	VIII	隅丸方形/隅丸長方形	203	152	188	134	23	N-51°W	1.34	1.40	○	
VI-27	50-7~9	GP-3	AA・AB-22	VIII	楕円形/楕円形	(188)	112	(61)	87	30	N-79°E	-	-0.70	○	
VI-28	51-1~2	GP-4	AM-17	VI	隅丸長方形/隅丸長方形	186	132	156	96	72	N-21°W	1.41	1.63	○	
VI-28	51-3~5	GP-5	AM-17	VI	楕円形/隅丸長方形	(195)	158	(153)	(97)	(23)	N-48°E	-	-	○	
VI-28	51-6~8	GP-6	AI・AJ-19	VIII	円形/円形	148	131	104	114	44	N-24°E	1.13	0.91	○	
VI-28	52-1~3	GP-7	AN-18	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	193	98	164	65	40	N-68°E	1.97	2.52	○	
VI-29	52-4~7	GP-8	AN-19	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	184	114	162	96	36	N-82°E	1.61	1.69	○	
VI-29	52-8~9	GP-9	AK-19	VI	円形/円形	231	216	199	185	46	N-76°E	1.07	1.08	○	
VI-29	53-1~2	GP-10	AM-15・16	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	190	78	170	52	42	N-30°E	2.44	3.27	○	
VI-29	53-3~5	GP-11	AN-17	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	198	138	168	91	54	N-22°W	1.43	1.85	○	
VI-30	53-6~8	GP-12	AN-19	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	208	146	190	(118)	50	N-52°E	1.42	-1.61	-	
VI-30	54-1~3	GP-13	AM・AN-16	VIII	楕円形/楕円形	168	140	140	106	48	N-90°	1.20	1.32	-	
VI-30	54-4~6	GP-14	AN-15・16	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	214	158	176	124	51	N-82°E	1.35	1.42	○	
VI-30	53-9~10	GP-15	AN-18・19	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	186	104	164	80	36	N-69°E	1.79	2.05	○	
VI-31	54-7~9	GP-16	AN-18	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	148	80	128	62	26	N-76°E	1.85	2.06	○	
VI-31	54-10~12	GP-17	AN-17	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	(144)	88	(131)	66	24	N-45°W	-	-	-	
VI-31	55-1~3	GP-18	AN-16・17	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	214	188	186	(118)	25	N-85°E	-	-	-	
VI-31	55-4~6	GP-19	AM-15	VIII	隅丸長方形/隅丸長方形	222	(108)	200	88	27	N-13°E	-	2.27	○	
VI-31	55-7~8	GP-20	AL-16	VIII	楕円形/楕円形	194	135	160	109	56	N-68°W	1.44	1.47	○	
VI-32	55-9~10	GP-21	AK・AJ-17・18	VIII	楕円形/楕円形	180	100	145	78	20	N-55°W	1.80	1.86	○	
VI-32	56-1~3	GP-22	AJ・AK-16	Vb	隅丸長方形/隅丸長方形	212	176	200	164	56	N-90°	1.20	1.22	○	
VI-32	56-4~6	GP-23	AI-13・14	VIII	不整形/不整形	180	168	164	143	28	N-90°	1.07	1.15	○	
VI-32	56-7~8	GP-24	S-26	VIII	楕円形/楕円形	204	126	168	84	50	N-17°W	1.62	2.00	○	

表VI-27 VGP出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 / 底側面-変換点	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-33-4	126-1-4	JP121A	II B2d	VGP-05	1	1	胴部	やや外傾	2段異原体羽状縄文 (縦回転)-2段異原 体羽状縄文 (横回転)	φ2~12mm 滑石多量 混入	
VI-33-5	126-1-5	JP125A	II B2d	VGP-06	1	1	口縁 部	平縁・直立-角状	LR縄文-縦位貼付文 +縄の圧痕文 -LR斜行縄文	φ2~6mm 滑石多量 混入	
VI-34-12	126-1-12	JP123A	II B2d	VGP-09	3	1	胴部	やや外傾	2段異原体羽状縄文 (縦回転)	φ2~6mm滑 石多量混入	
VI-35-15	127-1-1	JP055A	II B2a	VGP-11	1	1	胴部	やや外傾	重複撚糸文	φ2~4mm 石英・繊維 少量混入	内面: 横ミガ キ
				AH-20	VbL	1					
				AI-21	V	1					
VI-35-18	127-1-4	JP055B	II B2a	VGP-15	2	1	胴部	やや外傾	重複撚糸文	φ2~4mm 石英・繊維 少量混入	内面: 横ミガ キ
VI-35-19	127-1-5	JP088A	II B2b	VGP-20	VbL	10	口縁 ~ 胴部 下半	平縁・やや外傾- 尖状/直立・やや 外傾	縄線文(同一条異原 体)・肥厚帯-2段異 原体羽状縄文/2段 異原体羽状縄文	繊維多量・ 砂粒少量 混入	表面剥 落著
					Va	1					
				AL-16	VbL	17					
VI-35-20	127-1-6	JP098	II B	VGP-21	VbL	1	胴部	やや外傾	撚糸文	砂粒多量・織 維微量混入	
					2	1					

表VI-28 VGP出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-33-1	126-1-1	-	8229	扁平打製石器	-	1	VGP-01	-	(87.8)	76.2	29.9	280.0	Gr-Mud.	
VI-33-2	126-1-2	-	8500	ナイフ・スクレイパー類	A1	2	VGP-02	-	41.0	18.5	4.8	8.4	Obs.	
VI-33-3	126-1-3	-	8491	台石	-	1	VGP-03	-	176.0	115.1	69.1	1770.0	Sa.	
VI-33-6	126-1-6	-	11995	砥石	-	VbL	VGP-06	-	250.0	189.0	55.7	2900.0	Sa.	
VI-33-7	126-1-7	-	11994	台石	-	VbL	VGP-06	-	175.0	141.2	125.5	3400.0	Sa.	
VI-33-8	126-1-8	-	11996	石皿	-	VbU	VGP-06	-	425.0	172.0	162.0	15080.0	Sa.	
VI-34-9	126-1-9	-	12012	たたき石	I A1	1	VGP-07	-	146.2	60.4	38.5	560.0	Sa.	
VI-34-10	126-1-10	VST507	12005	加工痕のある礫	-	VbL	VGP-07	-	406.0	165.0	70.7	6620.0	Sa.	
VI-34-11	126-1-11	-	12086	たたき石	I A1	1	VGP-08	-	163.0	60.5	39.4	630.0	Sa.	
VI-34-13	126-1-13	-	12106	すり石	IV	3	VGP-09	-	102.6	99.4	67.4	970.0	Sa.	未製品
VI-34-14	126-1-14	-	12105	すり石	V	3	VGP-09	-	79.1	72.5	60.3	570.0	Gr-Mud.	ベンガラ付着
VI-35-16	127-1-2	-	12403	すり石	IV	2	VGP-14	-	85.8	83.7	69.8	610.0	Sa.	被熱
VI-35-17	127-1-3	-	13072	すり石	IV	1	VGP-14	-	105.1	94.9	59.3	740.0	Sa.	
VI-36-21	127-1-7	-	15517	ポイント類	B1b	3	VGP-22	-	(35.3)	24.5	7.6	5.7	Obs.	
VI-36-22	127-1-8	-	15501	石皿	-	-	VGP-22	-	435.0	312.4	128.0	22380.0	Sa.	
VI-36-23	127-1-9	-	27035	石皿	-	1	VGP-23	-	160.0	165.0	43.0	10300.0	Sa.	

第3節 土坑

13基検出している。段丘面毎の内訳はT₁面で4基、T₃面で9基である。VP-02・06は形態が非常に類似するもので、T₃-T₁段丘崖に並列する配置であることから、一つのグループとして報告を行った。(Aグループ)。また、VP-08~10は形態が類似しておりグループBとして併せて記載する。それ以外については形態の特徴や分布から類似性は看取できず個別に記載する。明確に土器を伴うものがないことから、時期はいずれも不明である。

グループA (VP-02・06) (図VI-37 図版57-3~5、57-7・8)

T₁面のT₃-T₁の段丘崖の裾に位置し、VII層上面で検出した。同じ長軸方向で、T₃-T₁段丘崖に

並列している。形態は非常に類似しており、共に平面形は開口部、底面ともに隅丸長方形である。底面から壁面の立ち上がりは急角度である。底面で杭孔の確認を行っているが検出されなかった。確認面及び断面での自然堆積層との境界は非常に明瞭であり、比較的短期間で埋没したものと考えられる。これらは厚幌1遺跡(2004)でも類似のものが列を成して出土している。また、列を成さず単体での検出例は上幌内モイ遺跡(2006、2009)、オニキシベ2遺跡(2011)ある。着実に検出例が増加しており、性格についてもこの先、言及することが可能になってくるものと思われる。

グループB (VP-08~10) (図VI-37 図版 57-10・11、58-1~4)

T₃面のⅧ層上面で検出している。3基は形態が類似しており、平面形は楕円形である。VP-08・10の底面の平面形は若干長辺が直線状に近く、隅丸長方形に近い形状である。断面は底面が平坦で壁面は急角度で立ち上がる。分布にまとまり等は見られない。

VP-01 (図VI-37 図版 57-1・2)

T₁面のⅥ層上面で検出した。非常に小型のものである。この上では礫が立って出土している。これは本来覆土内の遺物と思われる。

VP-05 (図VI-37 図版 57-6)

T₁面のⅦ層上面で検出した。平面形は楕円形で、断面形状は浅い皿状となっている。

VP-07 (図VI-37 図版 57-9)

T₃面のⅧ層上面で検出した。平面形は楕円形である。底面は平坦であり土坑と判断した。現場で土層断面の図化を取り忘れてしまっている。

VP-13 (図VI-37 図版 58-5~7)

T₃面のⅧ層上面で検出した。半截を行ったところ、中央は大きく根跡による攪乱を受けている事が判ったが、その脇では平坦な底面と壁の立ち上がりが確認できたことから土坑と判断した。

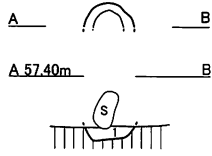
VP-14 (図VI-38 図版 59-1・2)

T₃面のⅧ層上面で検出した。平面形は楕円形である。底面は皿状となっており、壁面は緩やかな角度で立ち上がる。

VP-15 (図VI-38 図版 59-3・4)

T₃面のⅥ層上面で検出した。平面形は開口部で溝状となっており、底面は歪な不整形となっている。底面は皿状となっており、壁面は緩やかな角度で立ち上がる。土層断面で自然堆積層との境界が明瞭であることから土坑と判断した。

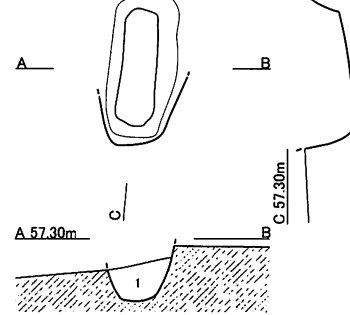
VP-01



VP-01

1 10YR2/1 黒色 Vb

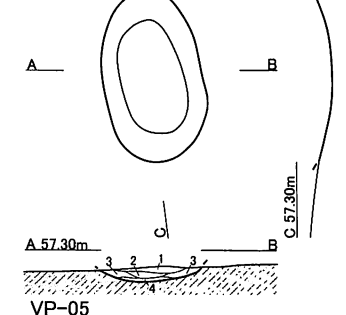
VP-02



VP-02

1 10YR2/1 黒色 Vb - Ta-d2P・シルト岩

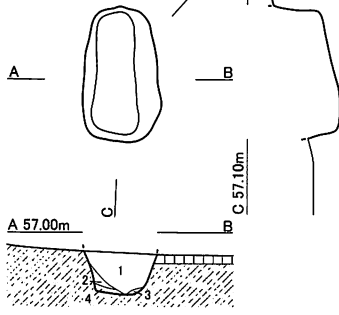
VP-05



VP-05

1 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P
2 10YR2/1 黒色 Vb + Ta-d2P
3 10YR2/2 黒褐色 Vb = シルト
4 10YR2/1 黒色 Vb

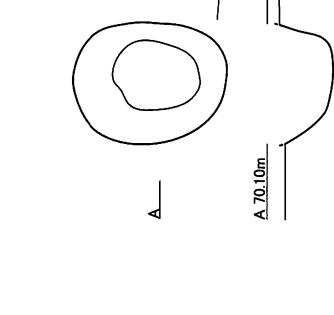
VP-06



VP-06

1 10YR2/1 黒色 Vb - シルト岩
2 10YR5/6 黄褐色 シルト ≡ Vb
3 10YR5/6 黄褐色 シルト
4 10YR2/1 黒色 Vb = シルト岩

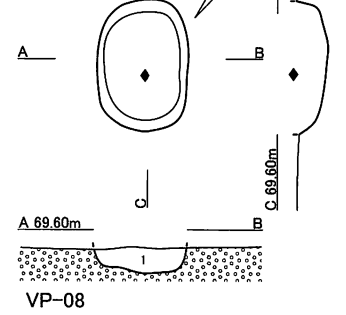
VP-07



VP-07

1 10YR2/1 黒色 Vb = シルト岩

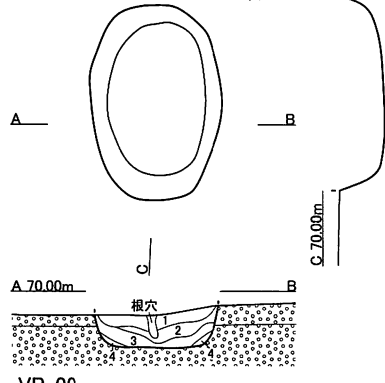
VP-08



VP-08

1 10YR3/2 黒褐色 Vb = Ta-d2P

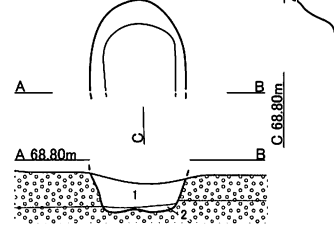
VP-09



VP-09

1 10YR3/2 黒褐色 Vb
2 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P ≡ Vb
3 10YR3/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-d2P
4 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P しまり無し

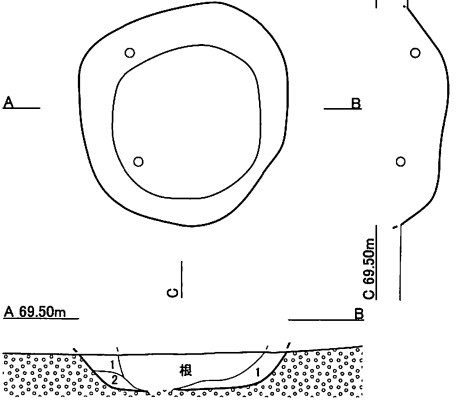
VP-10



VP-10

1 10YR2/1 黒色 Vb
2 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-d2P

VP-13

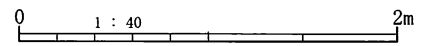


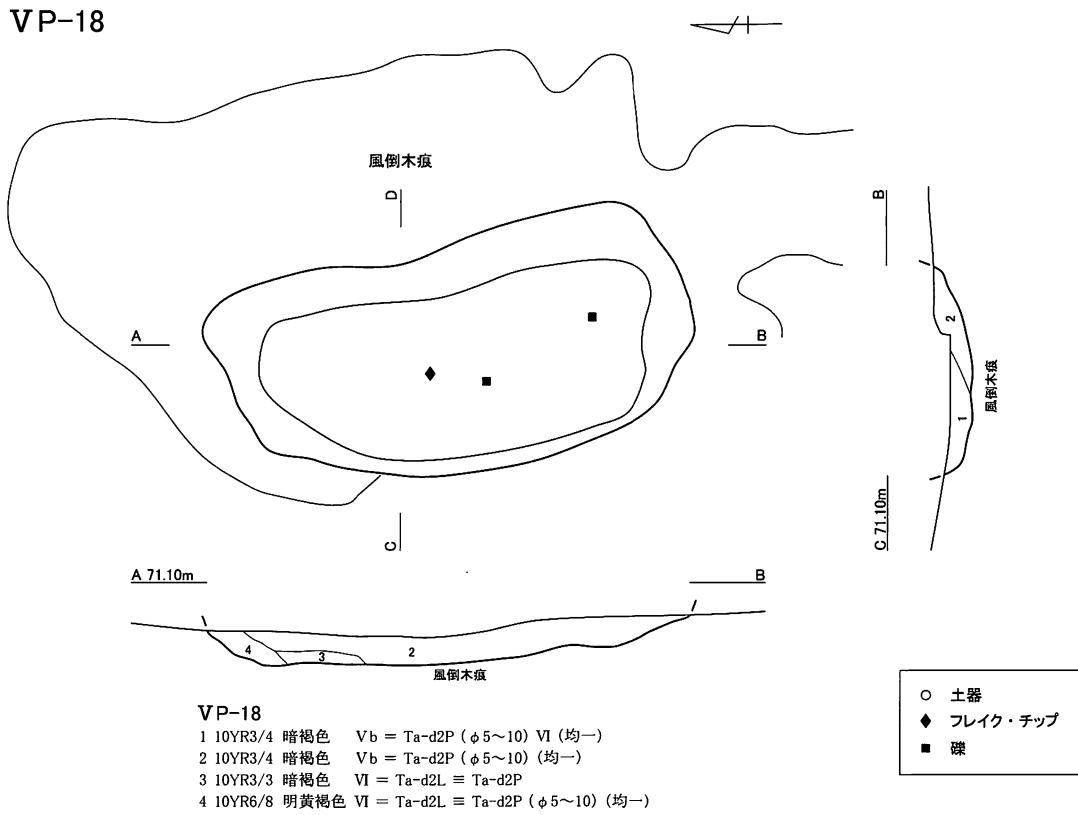
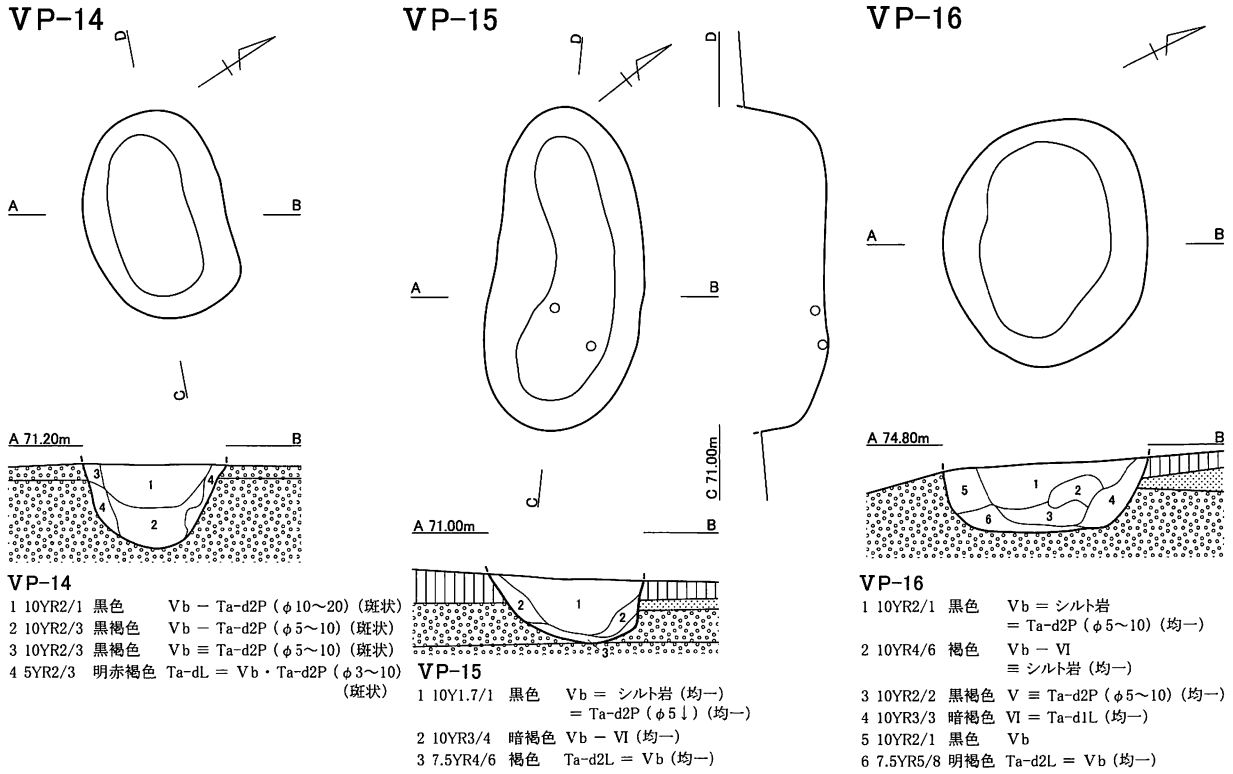
VP-13

1 10YR3/3 暗褐色 Vb - Ta-d1L = Ta-d2P
2 10YR4/6 褐色 Ta-d2L ≡ Vb

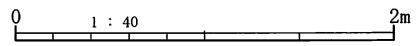
○ 土器
◆ フレイク・チップ

☒ VI-37 VP-01・02・05 ~ 10・13





図VI-38 VP-14 ~ 18



VP-16 (図VI-38 図版 59-5・6)

T₃面のVI層上面で検出した。平面形は楕円形である。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がる。底面が平坦であることと、土層断面で自然堆積層との境界が明瞭であることから土坑と判断した。

VP-18 (図VI-38 図版 59-7・8)

T₃面のVI層上面で大きな風倒木痕を検出した。この風倒木痕にV層と Ta-d2 の混土層の落ち込みを確認した。当初風倒木痕の窪みに二次的に周囲の土層が流れ込んだものと考えていたが、十字にベルトを残し、落ち込みの調査を行ったところ、平坦な底面と明瞭な壁の立ち上がりを確認したことから、古い風倒木痕を切って作られた土坑と判断した。平面形は不整形である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。

表VI-29 縄文時代土坑属性表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	調査 面長 短比	坑底 面長 短比	出土 遺物	備考
					調査面/ 坑底面	長軸	短軸	長軸	短軸						
VI-37	57-1・2	VP-01	AL-8	VI	円形/円形?	28	(12)	16	(8)	7	N-67°E	-	-	-	
VI-37	57-3~5	VP-02	AN-11	F3	隅丸長方形/隅丸長方形	(82)	38	59	20	20	N-40°W	-	2.95	-	
VI-37	57-6	VP-05	AL-10	F3	楕円形/楕円形	90	52	60	30	8	N-70°E	1.73	2.00	-	
VI-37	57-7・8	VP-06	AO-9・12	VI	隅丸長方形/隅丸長方形	70	42	64	24	22	N-48°W	1.67	2.67	-	
VI-37	57-9	VP-07	AB・AC-20	VIII	楕円形/楕円形	80	64	46	36	28	N-86°E	1.25	1.28	-	
VI-37	57-10・11	VP-08	AF-22	VIII	楕円形/楕円形	70	49	56	40	12	N-30°W	1.43	1.40	○	
VI-37	58-1・2	VP-09	AC-20	VIII	楕円形/楕円形	104	70	80	52	20	N-85°E	1.49	1.54	-	
VI-37	58-3・4	VP-10	AL-17	VIII	楕円形/楕円形	(48)	50	(35)	36	18	N-90°	-	-	-	
VI-37	58-5~7	VP-13	AD-16	VIII	不整形/円形	116	110	80	74	19	N-60°W	1.05	1.08	○	
VI-38	59-1・2	VP-14	M-21	VIII	楕円形/楕円形	110	74	86	42	44	N-70°W	1.49	2.05	-	
VI-38	59-3・4	VP-15	U・V-21	VI	溝状/不整形	172	80	140	48	34	N-50°W	2.15	2.92	○	
VI-38	59-5・6	VP-16	M-28	VI	楕円形/楕円形	130	108	101	68	36	N-61°W	1.20	1.49	-	
VI-38	59-7・8	VP-18	Z-AA-26・27	VI	不整形/不整形	244	124	208	88	20	N-14°W	1.97	2.36	○	

第4節 Tピット

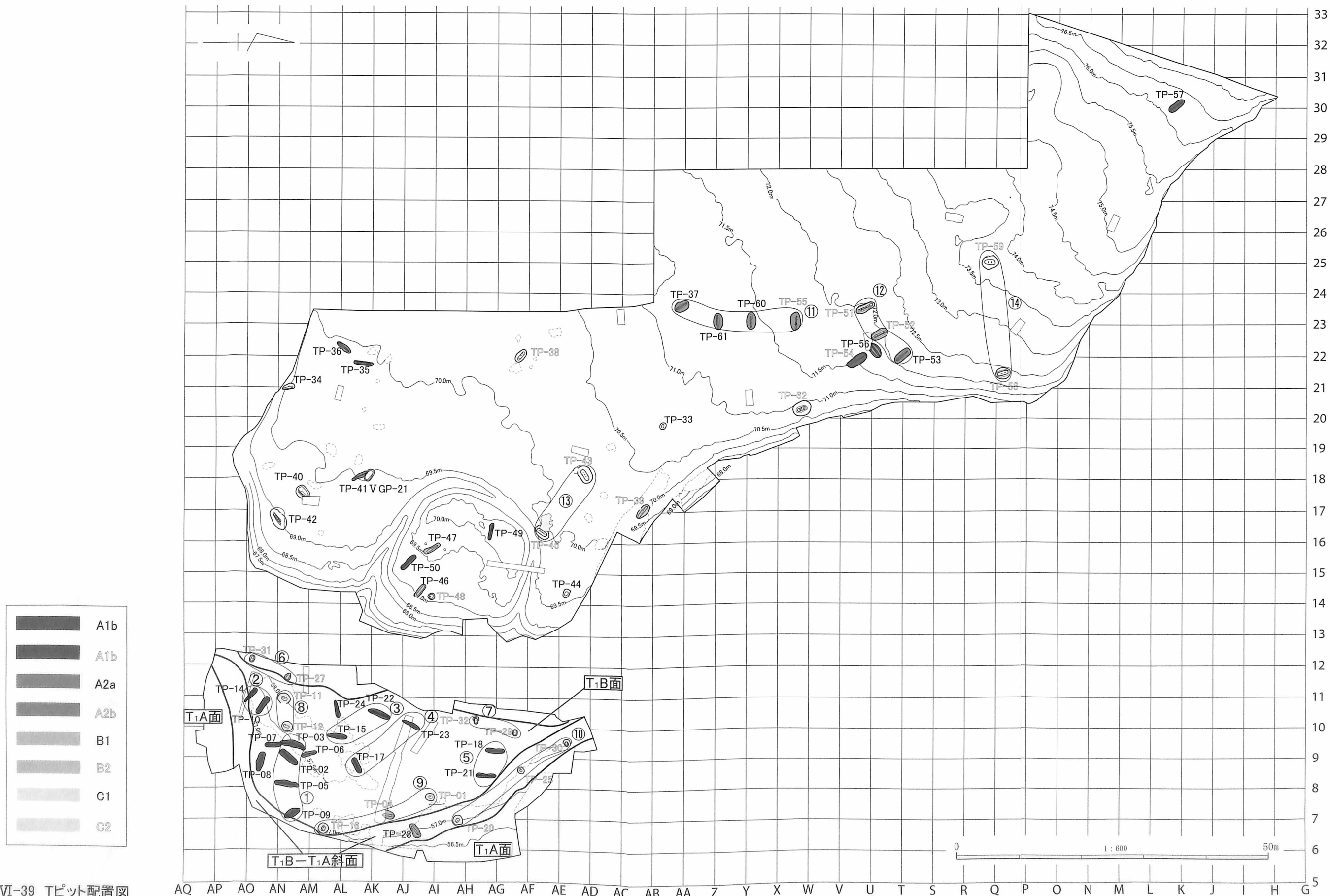
T₁面で29基、T₃面で30基の合計59基を検出した。ここでは形態、堆積状態、分布と配列、掘り具痕、重複関係、その他の項目ごとにまとめて記載を行い、特筆すべき例を除き個別の記載は行わないので、図と表を参照されたい。

検出および調査

T₁面ではVI層上面で黒色土等の落ち込みを確認しているものが殆どであるが、B2型(TP-04)や、C2型(TP-11・12・16・20)の一部はIV層を除去した段階で窪むものや、V層黒色土中でシルトの落ち込みとして確認できるものがあり、比較的早い段階で確認している。調査は検出平面形長軸の中間付近で、長軸方向に対し直交する位置にセクションラインを設定し半截を行っていたが、水が湧き出してくるものが殆どであり、調査に支障をきたすことから、セクションラインに沿ってトレンチをTピット底面よりも深く掘削し、排水ポンプ等で排水を行いながら調査を進めた。半截後、堆積状態の撮影・実測を行った。実測終了後、残り半分を調査し、完掘平面形の撮影・実測、およびエレベーション実測を行った。また、坑底で杭穴を検出したものは同様の手順で調査を行っている。

T₃面ではVI層~VIII層上面で黒色土の落ち込みを確認したものが殆どである。C2型(TP-44・45・59・62)の一部はIV層除去後に窪みとして確認できるものがあり、比較的早い段階で確認している。調査の手順はT₁面と同様であるが、T₃面で水が湧くものはない。

形態分類



図VI-39 TPピット配置図

Tピットの形態分類は、坑底面平面形の長短比および杭穴の有無を基準とする『苫小牧東部工業地帯の遺跡群II』（佐藤・宮夫他 1987）での分類案を基に、長短比数値に若干の変更を加えた厚幌1遺跡(2004)での分類を補足し、細分を含め8タイプに分けた。

A型：長短比が8以上で、長さに対して幅が狭い溝状のタイプ。

A1a型 長軸が2m以上のもの(杭穴がないもの)

A1b型 長軸が2m以上のもの(杭穴があるもの)

A2a型 長軸が2m未満のもの(杭穴がないもの)

A2b型 長軸が2m未満のもの(杭穴があるもの)

B型：長短比が4以上、8未満のもので、長楕円形のタイプ。

B1型 杭穴がないもの

B2型 杭穴があるもの

C型：長短比が4未満のもので、楕円形から円形に近いもの。

C1型 杭穴がないもの

C2型 杭穴があるもの

形態

分類毎の検出数はA1a型18基、A1b型1基、A2a型9基、A2b型1基、B1型3基、B2型4基、C1型3基、C2型18基、不明2基である。段丘面毎の内訳はT₁面ではA1a型15基、A2a型1基、B1型1基、B2型1基、C2型11基である。T₃面ではA1a型3基、A1b型1基、A2a型8基、A2b型1基、B1型2基、B2型3基、C1型3基、C2型7基、不明2基である。T₁面ではA1a・C2型が多く、T₃面ではA2a・C2型が多く、その他のものも一定数見られる。

堆積状態

Tピットの堆積状態は、基本的に覆土上位にV層の自然堆積層、覆土中位～下位にTピット壁面の崩落層及び周囲から流れ込んだ土が堆積している。また多くの例で坑底部に厚さ2～5cm程の黒色土の堆積を確認した。

T₁面で特徴的なのはF1・F2のシルト層の堆積状態である。以下の3つのパターンがある。

① 覆土中に自然堆積のシルト層が確認できないもの。

② 覆土上位でF2がレンズ状に僅かに堆積するもの。

③ 覆土中位でF2がレンズ状に厚く堆積し、F1が覆土上位でレンズ状に僅かに堆積するもの。

①～③の違いは、各シルト層堆積当時のTピットの埋没状態の違いを示すものである。①についてはF1・F2のシルト層堆積直前には完全に埋没していたか、遺構確認面時には上部に堆積するシルト層を掘削しており確認できなかったものと思われる。②はF2シルト層が堆積する直前にはほぼ埋没しており、僅かに上面が窪む程度であったと思われる。(TP-01・02・03・08・09・25) そのためF1堆積時には完全に埋没しており、F1は水平に堆積している。(TP-08・09) ③はF2シルト層が堆積する直前大きな窪みとなっており(TP-04・11・12・16・22)、F2シルトが堆積した後も埋没せずに窪んだ状態で、その後も自然堆積のVb1(縄文時代後期前葉の包含層)が厚く堆積するが埋没せず、F1シルト層が堆積してほぼ埋没したのと考えられる。②と③の違いは諸条件に左右されるものと思われるが、時間差によるものが大きいと考えられる。その場合②よりも③が新しいと考えられる。形態別では、②はA1a型4基、C2型2基で、③はA1a型1基、B1型1基、C2型4基である。A1a型よりもC2型が新しい傾向が看取できる。ただし、前述したように諸条件に左右されるものであり、明確な

遺構間の新旧を示すものではない。

T₃面で特徴的なのは Ta-d2 パミスが覆土上位で堆積するものである。(TP-35~38・42・43・45・47・50~55・59・62) これらは堆積状態より壁面の崩落土の可能性がないものである。この成因が明らかなのは TP-43・45 である。個別記載の項で詳しく記載するが、Tピットを掘った際の排土を周囲に堆積しており、これが壁面の崩落等と共に Tピット内に流れ込んだものである。前述したものの大半も掘り上げ土の流入によるものと考えられるが、TP-43・45 のように範囲を確認できていないことから明確ではない。周囲に他の遺構があるものは、それらの掘り上げ土等の可能性もある。

分布と配列

T₁面、T₃面共に列を構成するものが検出している。配列が認められると認定したものは、立地・位置・長軸方向・形態等から判断している。※T₁面はさらにIV層 (Ta-c) が水成二次堆積の段丘面を T₁A、IV層 (Ta-c) が一次堆積の段丘面を T₁B に分けている。(図VI-39) V層上面で等高線図は記録しておらず、現地でトータルステーションによって段丘面の範囲を記録している。

T₁面で列を構成するものは①~⑩、T₃面では⑪~⑭である。

- ① TP-02・03・05・09 の 4 基で構成する。T₁B 面に位置し、T₁A 面から T₃面に向かって直線的に配置する。全て A1a 型である。
- ② TP-10・14 の 2 基で構成する。T₁B 面に位置し、T₃-T₁段丘崖に平行して配置する。共に A1a 型である。
- ③ TP-15・22 の 2 基で構成する。T₁B 面に位置し、T₃-T₁段丘崖に直行して配置する。共に A1a 型である。
- ④ TP-17・23 の 2 基で構成する。T₁B 面に位置し、T₃-T₁段丘崖に直行して配置する。共に A1a 型である。
- ⑤ TP-18・21 の 2 基で構成する。T₁B 面に位置し、T₃-T₁段丘崖に直行して配置する。共に A1a 型である。
- ⑥ TP-27・31 の 2 基で構成する。T₁B 面の T₃-T₁段丘崖裾に位置し、T₃-T₁段丘崖に平行して配置する。共に C2 型である。
- ⑦ TP-29・32 の 2 基で構成する。T₁B 面の T₃-T₁段丘崖裾に位置し、T₃-T₁段丘崖に平行して配置する。共に C2 型である。
- ⑧ TP-11・12 の 2 基で構成する。T₁B 面に位置し、T₃-T₁段丘崖に直行して配置する。共に C2 型である。
- ⑨ TP-01・16 の 2 基で構成する。T₁B 面の縁辺に位置し、段丘縁辺に平行して配置する。共に C2 型である。間隔が約 20m あり、明確に列を構成するかは判断に悩むものであるが、立地を考慮し列を構成するものとした。
- ⑩ TP-20・25・30 の 3 基で構成する。T₁B-T₁A 斜面中に位置し、段丘縁片に平行して配置する。全て C2 型である。
- ⑪ TP-37・55・60・61 の 4 基で構成する。T₃面の平坦面に位置し、東西方向に配置する。A2a 型 3 基、A2b 型 1 基である。
- ⑫ TP-51・52・56 の 3 基で構成する。T₃面の平坦面に位置し、縁辺から段丘面中央に向かって直

- ⑬ TP-43・45 の 2 基で構成する。T₃面の平坦面に位置する。共に C2 型である。この 2 基は掘り上げ土や掘具痕が確認できたことも共通する。
- ⑭ TP-58・59 の 2 基で構成する。T₃面の平坦面に位置し、縁辺から段丘面中央に向かって直線的に配置する。共に C2 型である。

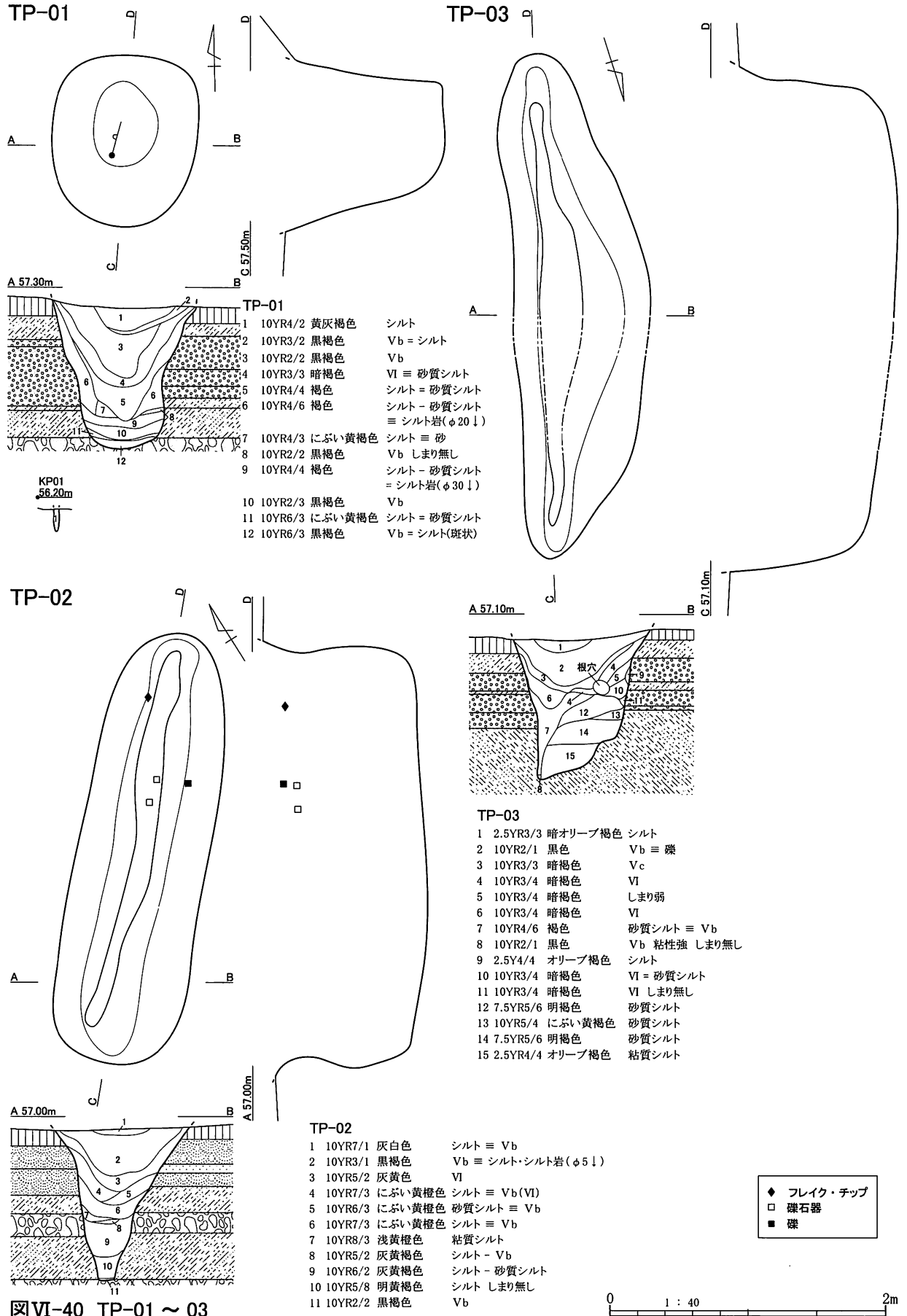
T₃面については全面の調査は終了しておらず、残りの部分については次年度以降の報告となることからここで詳細については触れないが、T₁面は全面の調査が終了している事から分布についてまとめたい。①～⑤はいずれも A1a 型で構成されるものである。このうち②を除くものは T₃-T₁段丘崖に直行して配置する。特に、列を構成するものもしないものも T₁面の南側に多く配置しているが、これはこの部分の T₃-T₁段丘崖が比較的緩やかな勾配のためと考えられる。⑥～⑩はいずれも C2 型で構成される。このうち⑧を除くものは、段丘崖および段丘縁辺に平行して配置している。これらの配置から A1a 型のもは主に、シカが T₁面から T₃面へ上り下りする道に配されていると考えられ、C2 型は段丘崖裾や段丘縁辺に沿って移動する道に配されていると思われる。A1a 型と C2 型では配置が異なることが明らかである。この違いについてはまず時間差があげられる。堆積状態の項で先述したが、覆土のシルト層の堆積状態から A1a 型が古く、C2 型が新しいという傾向が読み取れている。この時間差による周辺環境の変化や、狩猟方法の違いがこのような結果となっていると思われる。

掘り具痕

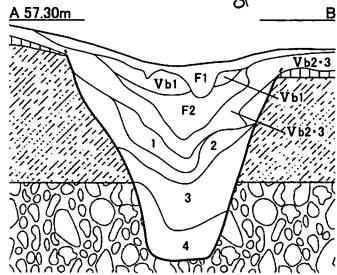
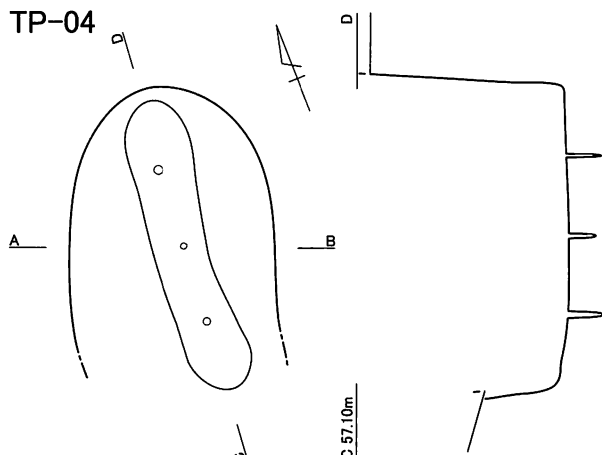
T ピット底面に掘り具の痕跡を残すものを検出している。TP-40・43・45・58 の 4 基である。TP-40 は試掘調査トレンチで壊されており形態分類は行っていないが、A 型の溝状のものと考えられる。このタイプの掘り具痕は近接する上幌内モイ遺跡 (2009) やオニキシベ 2 遺跡 (2011) でも検出している。先端部がへら状の工具を使用しており、掘削方法も同様である。TP-43・45・58 は C2 型である。また、いずれも底の平面形が隅丸長方形という共通点がある。図では TP-43 については各掘り具痕記録を行っているが、TP-45・58 は写真のみで記録を行った。詳細については個別記載の項で後述するが、それからは先端が尖がる棒状工具が想定される。掘削方法については判然としないが、壁面に沿って工具を深く突き刺し、内側の土を何らかの方法で崩し構築していると思われる。以上のように A 型と C2 型では工具が異なり、それにより掘削方法も異なることが判る。これは A 型と C2 型では時間差が考えられることから、形態の変化に伴いこれらも変化したと考えられる。T ピットの形態毎の時間差及び変遷過程についてはまだ不明瞭な部分が多いが、掘り具痕から捉えられる工具・掘削方法を検討していくことは、これらを明らかにしていく上での助けになるかもしれない。

重複関係

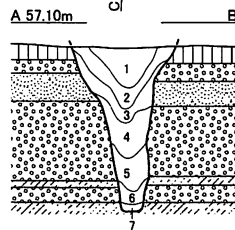
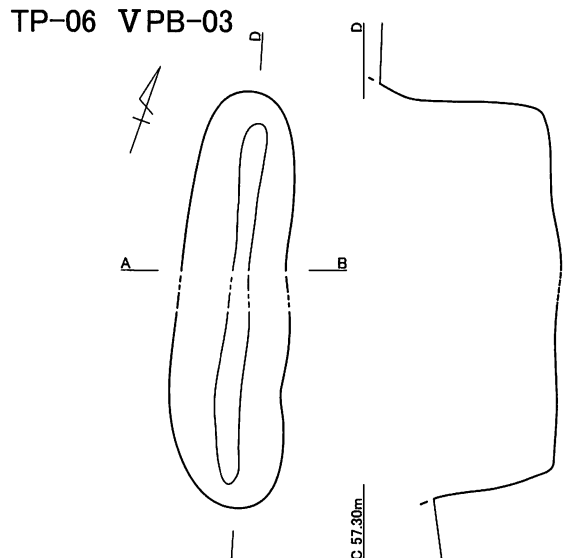
T ピット同士で重複しているものはない。縄文時代前期後半と思われる土坑墓と重複しているものが 2 基ある。TP-40 (A 型) は VGP-05 を切っており、TP-41 (A2a 型) は VGP-21 を切っている。また、土器集中と新旧関係が判るものは 3 基ある。TP-05 (A1a 型) は前期前葉の土器集中 (VPB-03) を切っている。TP-11 (C2 型) ・42 (A 型) は後期前葉の土器集中が T ピットの埋没した窪みで検出している事からこれよりも古い。



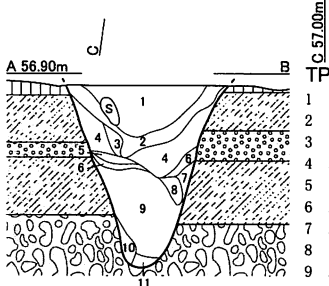
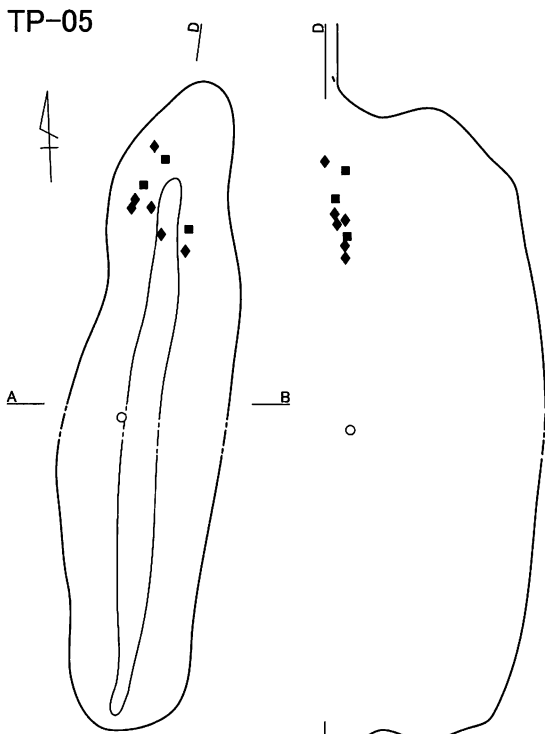
図VI-40 TP-01 ~ 03



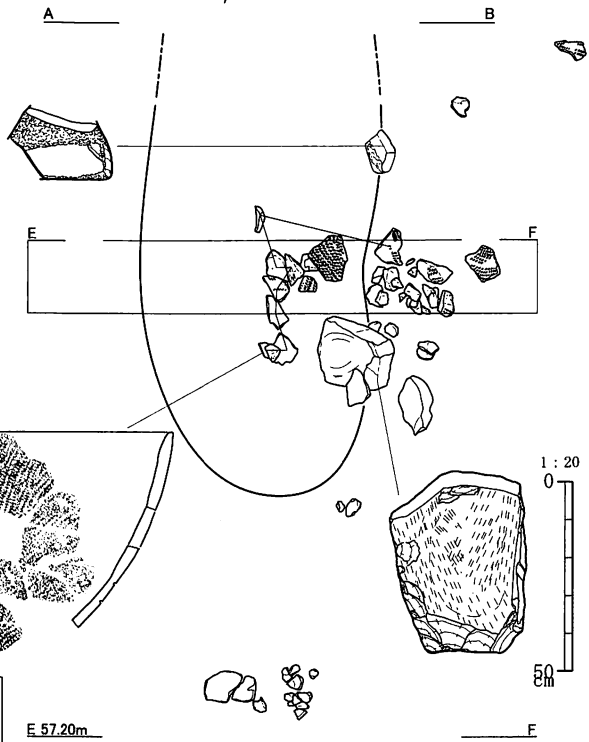
- TP-04
- 1 10YR6/1 褐灰色
Vb-シルト(斑状)
 - 2 10YR7/2 にぶい黄褐色
シルト ≡ Vb(斑状)
 - 3 10YR8/2 灰色
シルト ≡ Vb(斑状)
 - 4 10YR5/2 灰黄褐色
Vb = シルト(斑状)



- TP-06
- 1 10YR2/1 黒色 Vb
 - 2 10YR3/2 黒褐色 Vb = シルト
 - 3 10YR2/3 黒褐色 Vb ≡ シルト
 - 4 10YR4/6 褐色 砂質シルト
 - 5 10YR5/6 黄褐色 シルト
 - 6 10YR4/6 褐色 砂質シルト
 - 7 10YR2/1 黒色 Vb しまり無し

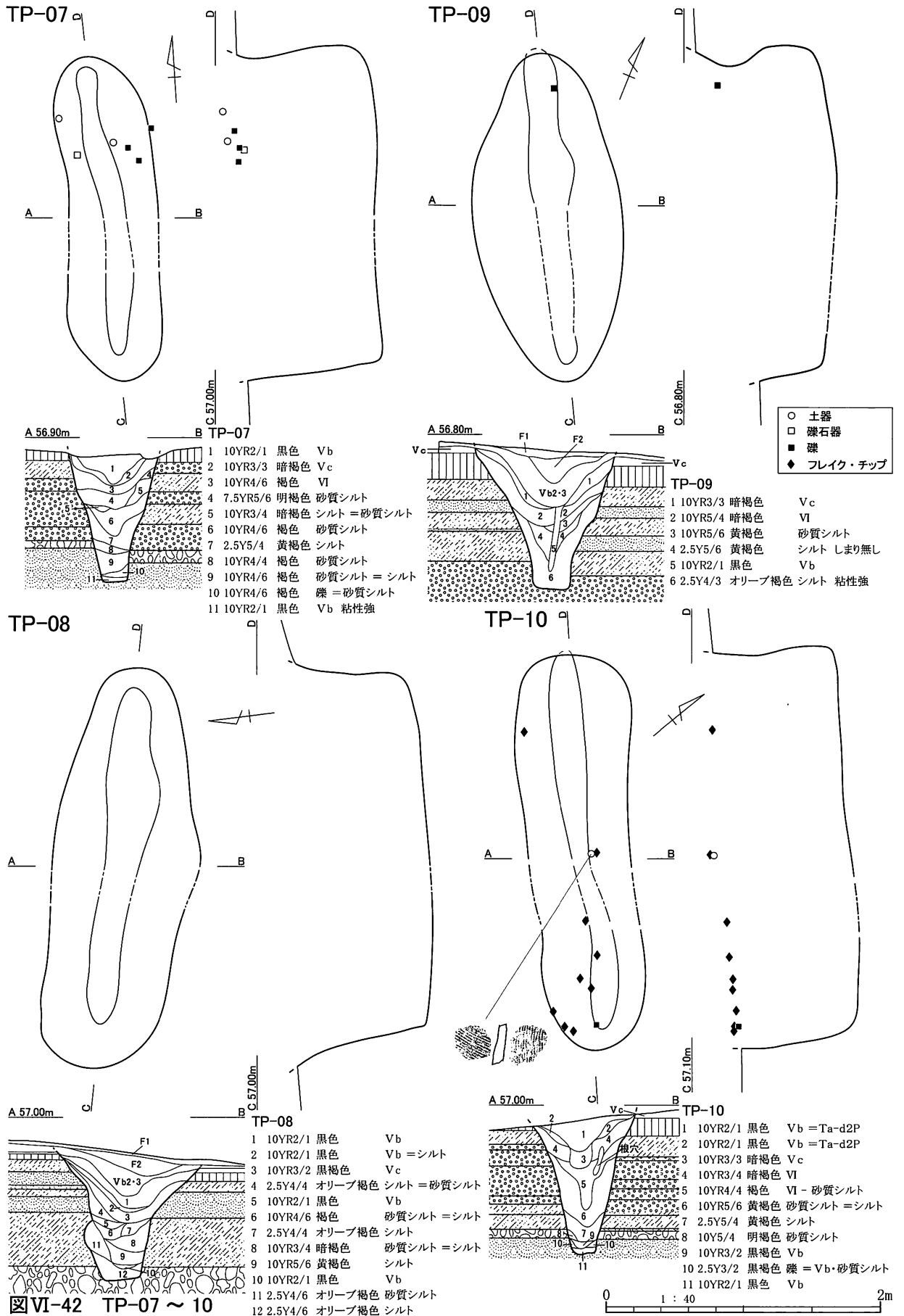


- TP-05
- 1 10YR2/1 黒色 Vb
 - 2 10YR3/3 暗褐色 Vc = VI
 - 3 10YR4/4 褐色 VI
 - 4 2.5Y4/3 オリーブ褐色 シルト
 - 5 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト ≡ Vb
 - 6 2.5Y5/4 黄褐色 シルト
 - 7 2.5Y5/6 黄褐色 粘質シルト
 - 8 10YR4/4 褐色 砂質シルト しまり無し
 - 9 2.5Y5/6 黄褐色 粘質シルト-シルト
 - 10 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト しまり無し
 - 11 2.5Y5/6 黄褐色 シルト 粘性強



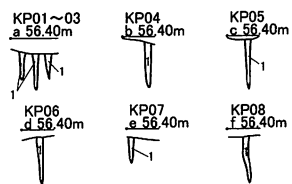
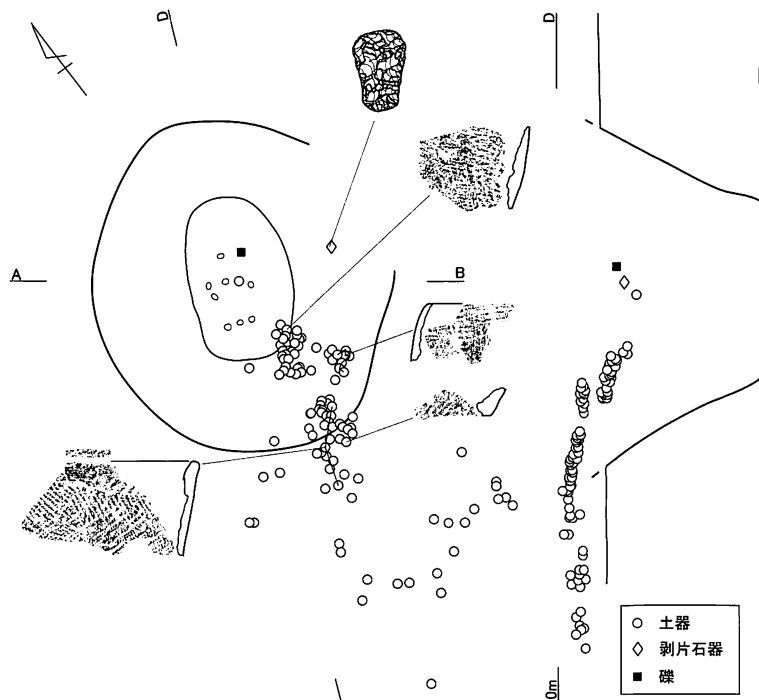
- 土器
- ◆ フレイク・チップ
- 碟

図VI-41 TP-04 ~ 06、VPB-03



図VI-42 TP-07 ~ 10

TP-11、VPB-01・04



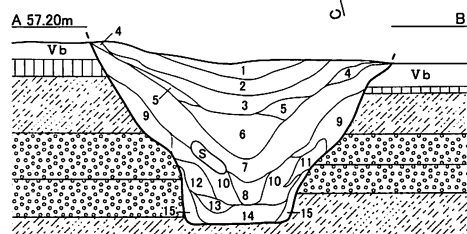
TP-11

- | | | |
|----|-----------------|-------------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | シルト - Vb・砂礫 |
| 2 | 10YR2/1 黒色 | Vb = 礫 |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 | シルト ≡ Ta-d2P |
| 4 | 2.5YR4/3 オリーブ褐色 | シルト |
| 5 | 2.5YR4/3 オリーブ褐色 | シルト = Vb |
| 6 | 2.5YR4/4 オリーブ褐色 | 粘質シルト |
| 7 | 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P・礫 |
| 8 | 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P しまり無し |
| 9 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色 | シルト |
| 10 | 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 11 | 7.5YR5/5 明褐色 | 砂質シルト |
| 12 | 2.5YR4/6 オリーブ褐色 | シルト |
| 13 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色 | シルト = Vb |
| 14 | 10YR2/1 黒色 | Vb しまり無し |
| 15 | 2.5YR4/6 オリーブ褐色 | シルト しまり無し |

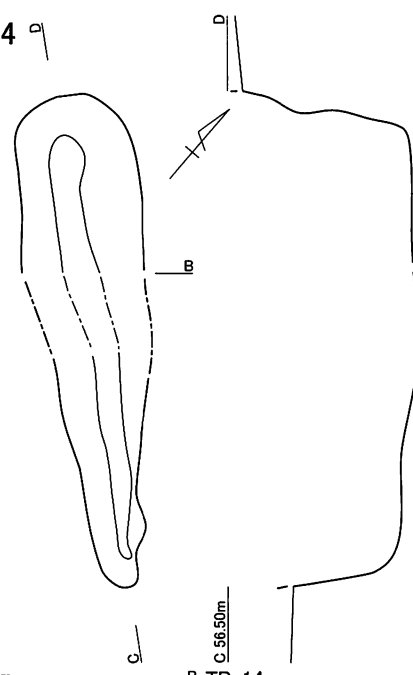
TP-11 KP

- | | | |
|---|------------|--------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | Vb シルト |
|---|------------|--------|

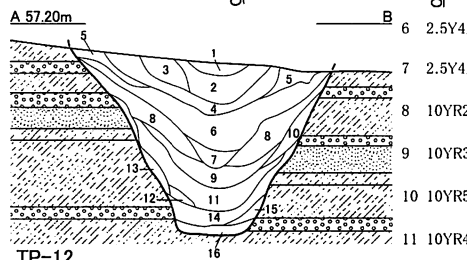
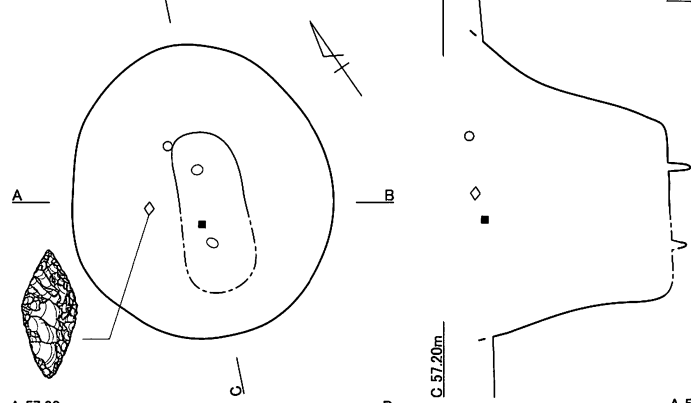
○ 土器
◇ 剥片石器
■ 礫



TP-14



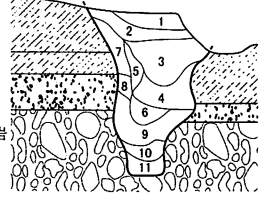
TP-12



TP-12

- | | |
|----|-------------------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐色 F1 |
| 2 | 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-d2L |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 Vb = Ta-d2L |
| 4 | 10YR3/3 暗褐色 Vb = 岩盤礫 ≡ Ta-d2L |
| 5 | 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2L |
| 6 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト |
| 7 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト しまり無し |
| 8 | 10YR2/1 黒色 Vb ≡ シルト岩 |
| 9 | 10YR3/3 暗褐色 Vb = Ta-d2L・シルト岩 |
| 10 | 10YR5/6 黄褐色 シルト |
| 11 | 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb + シルト |
| 12 | 7.5YR5/6 明褐色 シルト - Vb |
| 13 | 7.5YR5/6 明褐色 砂質シルト しまり無し |
| 14 | 7.5YR5/6 明褐色 シルト - 粘質シルト |
| 15 | 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト |
| 16 | 10YR2/1 黒色 Vb しまり無し |

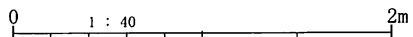
TP-14

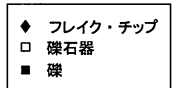
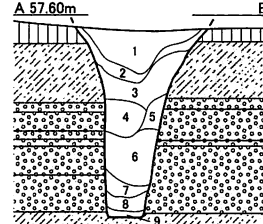
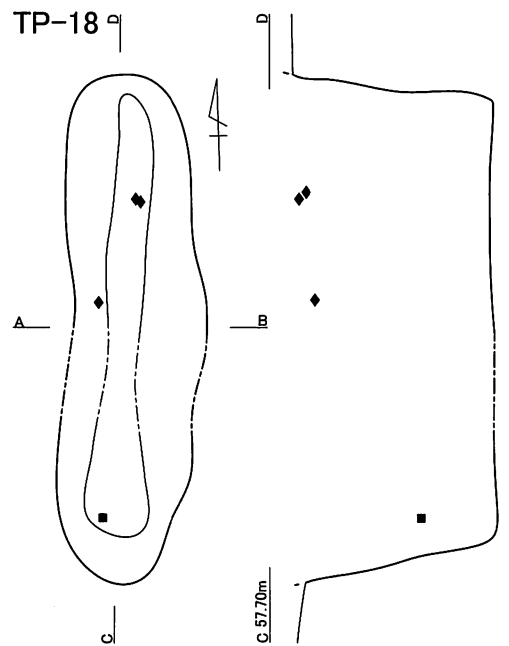
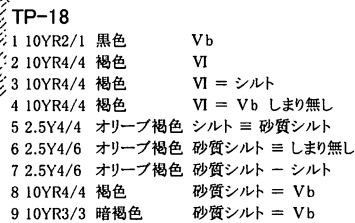
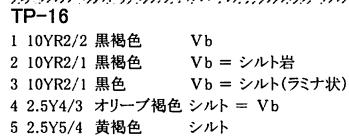
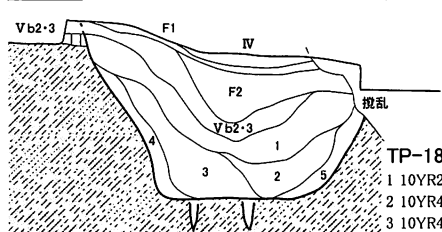
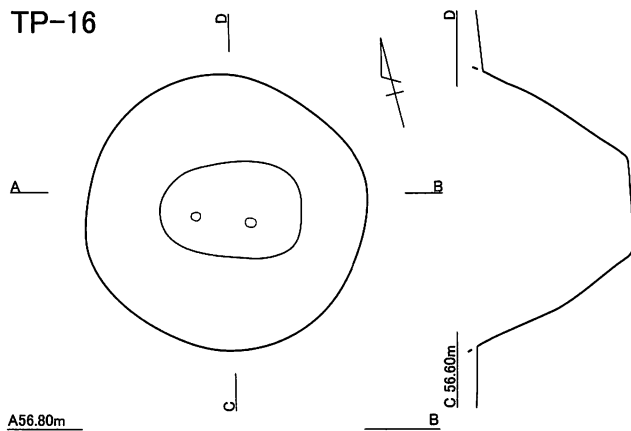
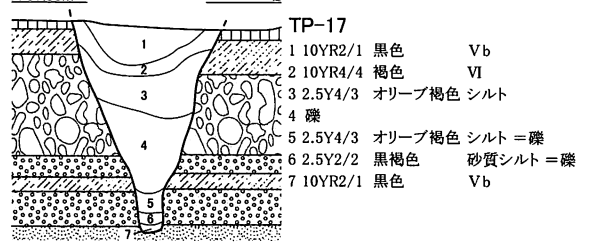
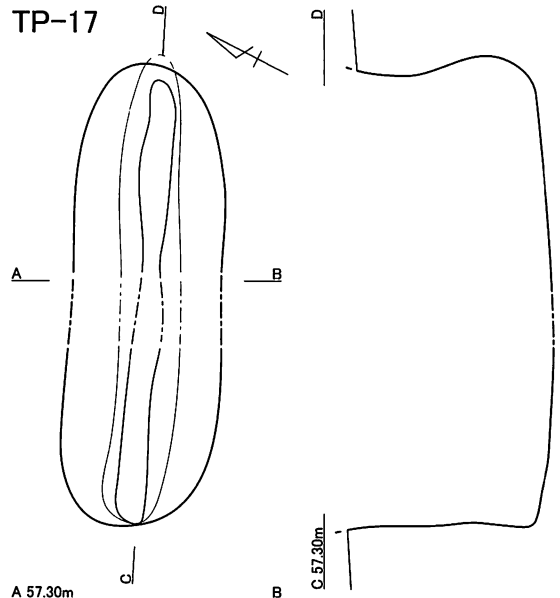
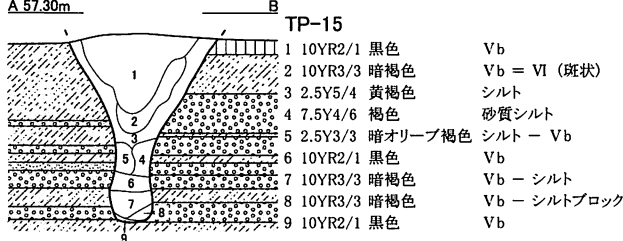
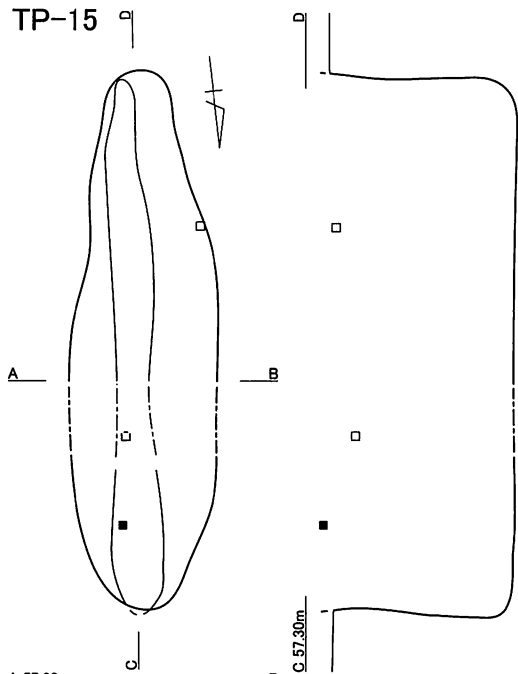


TP-14

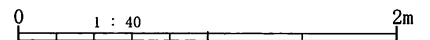
- | | | |
|----|-------------|-------------------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 2 | 10YR3/3 暗褐色 | Vb = シルト |
| 3 | 10YR3/3 暗褐色 | Vb = シルト ≡ Ta-d2P |
| 4 | 10YR2/1 黒色 | Vb = シルト しまり無し |
| 5 | 10YR2/1 黒色 | Vb = シルトブロック (斑状) |
| 6 | 10YR2/1 黒色 | Vb = シルト しまり無し |
| 7 | 10YR5/4 黄褐色 | シルト |
| 8 | 2.5Y5/4 黄褐色 | シルト = Vb しまり無し |
| 9 | 10YR2/1 黒色 | Vb = シルトブロック (斑状) しまり無し |
| 10 | 10YR5/8 黄褐色 | シルト = Vb |
| 11 | 10YR2/1 黒色 | Vb |

図VI-43 TP-11・12・14、VPB-01・04

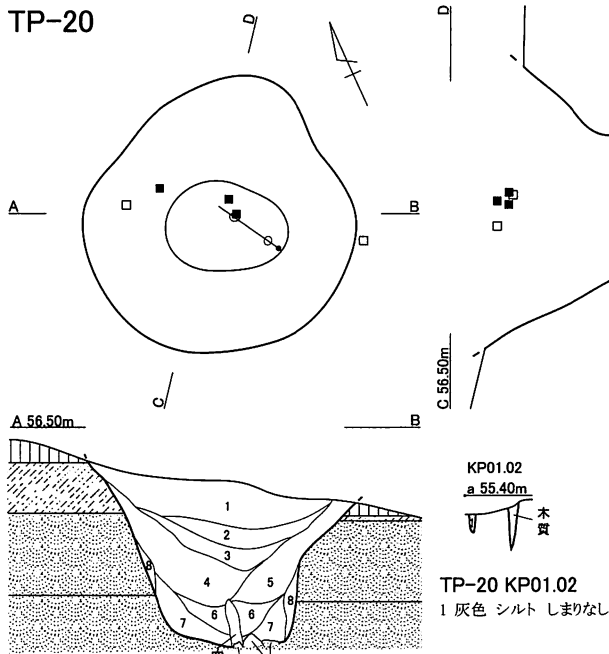




図VI-44 TP-15 ~ 18

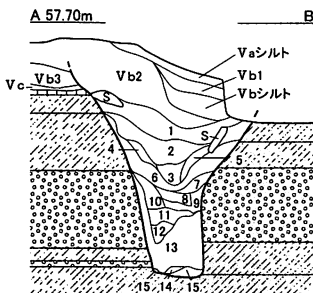
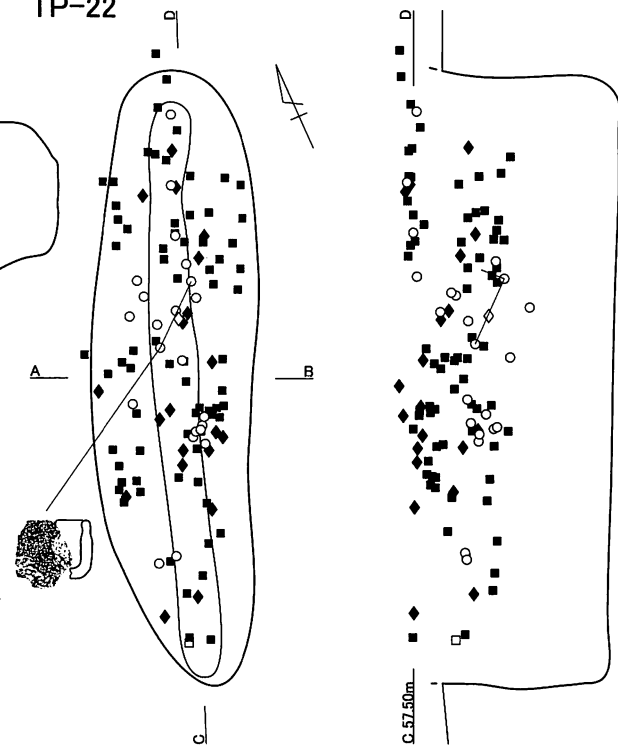


TP-20



- TP-20
- 1 10YR3/4 暗褐色 砂質シルト
 - 2 10YR4/3 にぶい黄褐色 砂質シルト
 - 3 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト
 - 4 10YR2/1 黒色 Vb = シルト(ラミナ状)
 - 5 10YR2/1 黒色 Vb
 - 6 10YR2/1 黒色 Vb = 粘シルト(斑状)
 - 7 2.5Y6/1 黄灰色 グライ化シルト = Vb(ラミナ状)
 - 8 10YR5/6 黄褐色 粘質シルト

TP-22

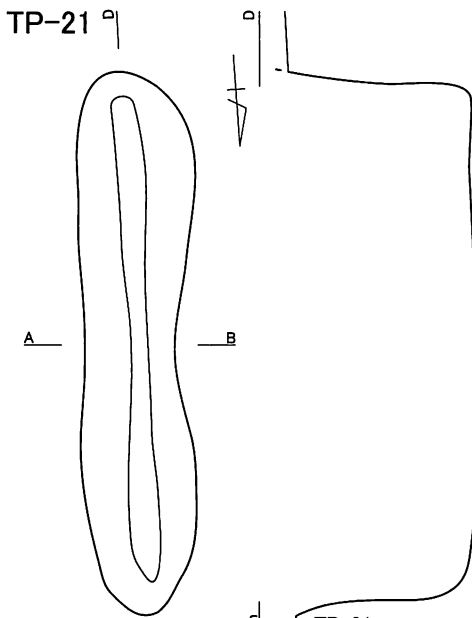


- 土器
- ◆ 剥片石器
- 礫石器
- ◇ フレイク・チップ
- 礫

TP-22

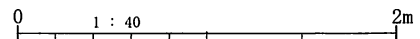
- 1 10YR2/1 黒色 Vb ≡ 礫・シルト岩(φ10mm↑)
- 2 10YR2/1 黒色 Vb = 礫・シルト岩(φ10mm↑)
- 3 10YR3/2 黒褐色 Vb = シルト しまり無し
- 4 10YR4/4 褐色 黄シルト = Vb
- 5 10YR3/4 暗褐色 シルト = Vb
- 6 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト
- 7 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト
- 8 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト = Vb
- 9 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト
- 10 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト = Vb
- 11 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルトブロック ≡ Vb
- 12 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト ≡ Vb
- 13 10YR5/6 黄褐色 砂質シルト
- 14 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト ≡ Vb
- 15 10YR2/1 黒色 Vb

TP-21

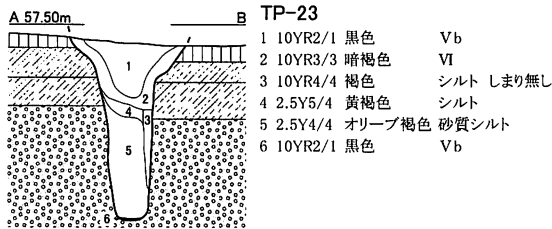
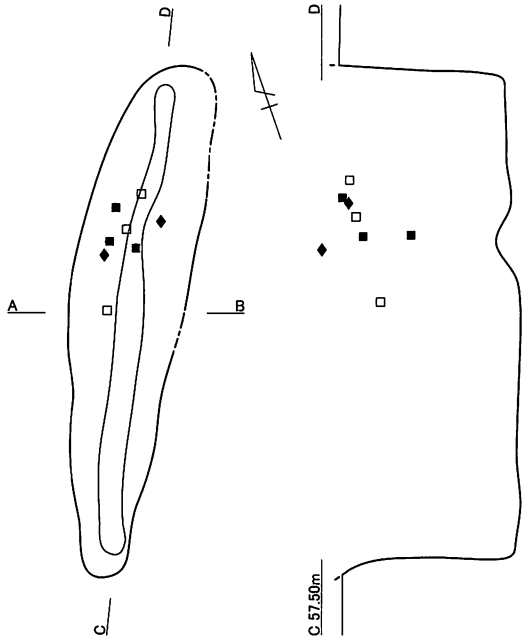


- TP-21
- 1 10YR2/1 黒色 Vb
 - 2 10YR3/4 暗褐色 VI
 - 3 2.5YR4/4 オリーブ褐色 シルト
 - 4 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト ≡ Vb しまり無し
 - 5 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト
 - 6 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト
 - 7 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト = Vb(斑状)
 - 8 2.5Y4/6 オリーブ褐色 シルト = 砂質シルト
 - 9 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト - シルト
 - 10 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト ≡ 砂質シルト
 - 11 10YR2/1 黒色 Vb しまり無し
 - 12 2.5Y4/4 オリーブ褐色 シルト
 - 13 10YR2/1 黒色 Vb

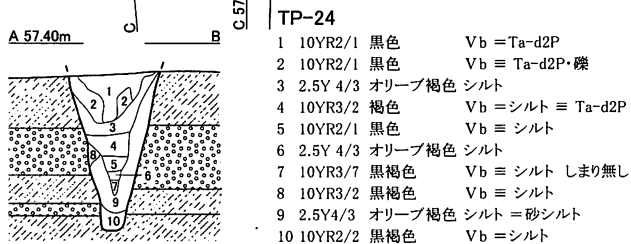
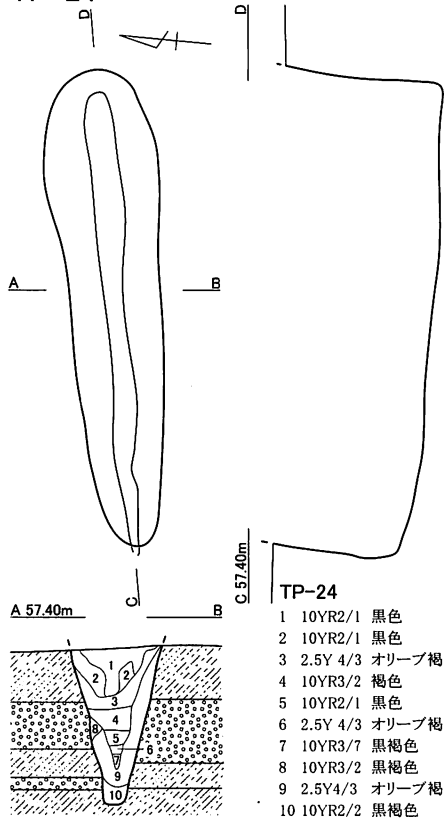
図VI-45 TP-20 ~ 22



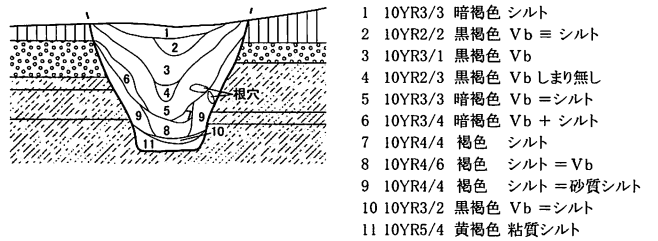
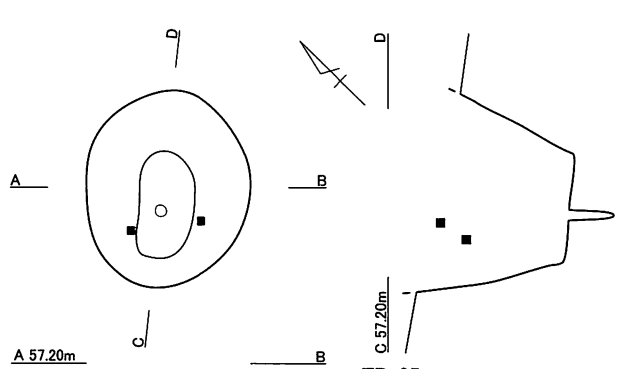
TP-23



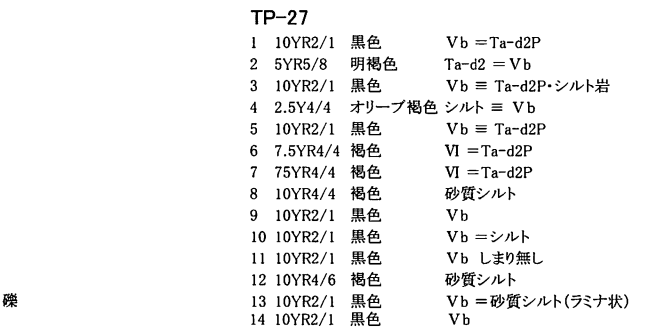
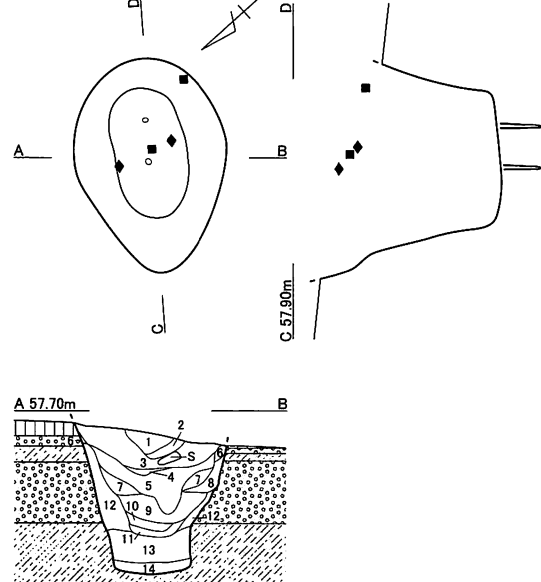
TP-24



TP-25



TP-27

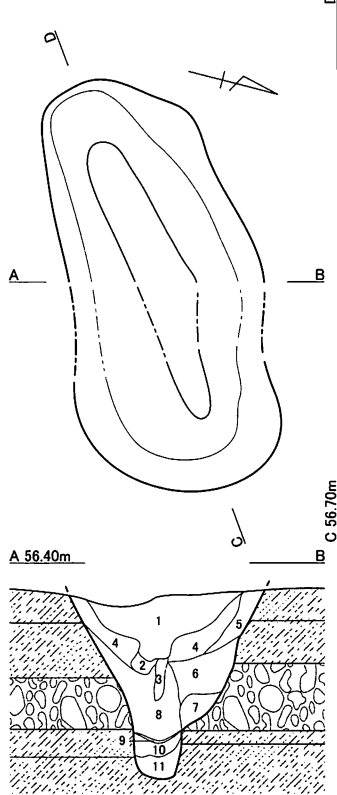


◆ フレイク・チップ
□ 礫石器
■ 礫

図VI-46 TP-23 ~ 25・27

0 1 : 40 2m

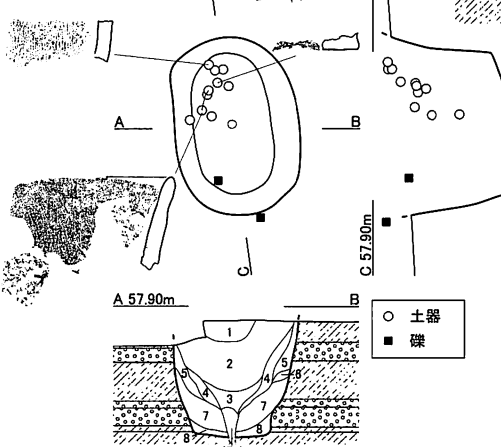
TP-28



TP-28

- | | | |
|----|-----------------|----------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 2 | 10YR2/1 黒色 | Vb シルト |
| 3 | 10YR2/1 黒色 | Vb - シルト しまり無し |
| 4 | 2.5YR5/3 黄褐色 | シルト |
| 5 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色 | シルト(ブロック状) |
| 6 | 2.5Y5/6 黄褐色 | シルト(ブロック状) |
| 7 | 礫 | |
| 8 | 2.5Y5/6 黄褐色 | シルト ≡ Vb |
| 9 | 10YR3/1 黒褐色 | Vb |
| 10 | 2.5G4/1 暗オリーブ灰色 | グライ化シルト = 礫 |
| 11 | 10YR3/1 黒褐色 | Vb - グライ化シルト |

TP-29

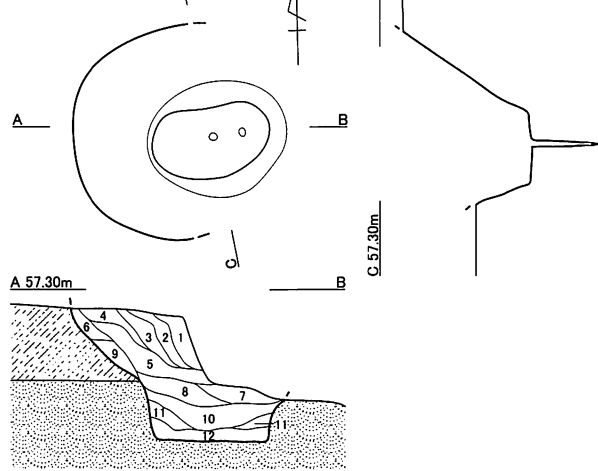


TP-29

- | | | |
|---|-----------------|------------------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | Vb - シルト岩 φ3~5mm |
| 2 | 10YR2/1 黒色 | Vb = シルト岩 φ3~5mm |
| 3 | 10YR2/1 黒色 | Vb = シルト岩 φ3~5mm しまり無し |
| 4 | 10YR4/4 褐色 | VI |
| 5 | 2.5YR4/3 オリーブ褐色 | シルト |
| 6 | 2.5Y5/6 黄褐色 | シルト |
| 7 | 2.5Y4/4 オリーブ褐色 | 砂質シルト |
| 8 | 10YR3/4 暗褐色 | Vb = 砂質シルト(ラミナ状) |

図VI-47 TP-28 ~ 32

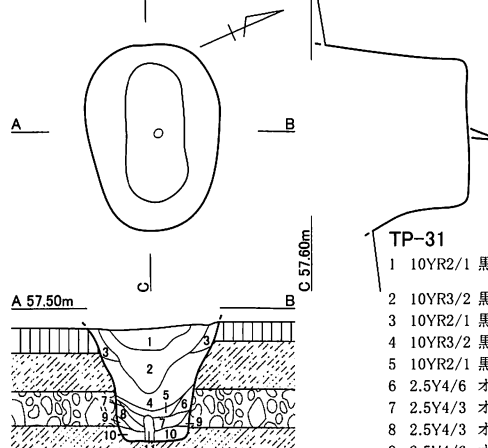
TP-30



TP-30

- | | | | |
|---|---------------------------------|----|-------------------------------------|
| 1 | 10YR2/2 黒褐色 Va | 7 | 10YR2/3 黒褐色 Vb(保水性強) |
| 2 | 10YR3/3 暗褐色 シルト | 8 | 10YR2/1 黒色 Vb - シルト岩・礫 φ10~50mm ↑ |
| 3 | 10YR4/6 褐色 シルト | 9 | 2.5Y5/6 黄褐色 シルト |
| 4 | 10YR2/2 黒褐色 Vb - シルト | 10 | 10YR2/3 黒褐色 Vb ≡ シルト岩 φ5~10mm(保水性強) |
| 5 | 10YR2/1 黒色 Vb - シルト岩 φ10~50mm ↑ | 11 | 10YR2/1 黒色 Vb ≡ 礫 |
| 6 | 10YR3/3 暗褐色 Vc | 12 | 10YR2/1 黒色 Vb(保水性強) |

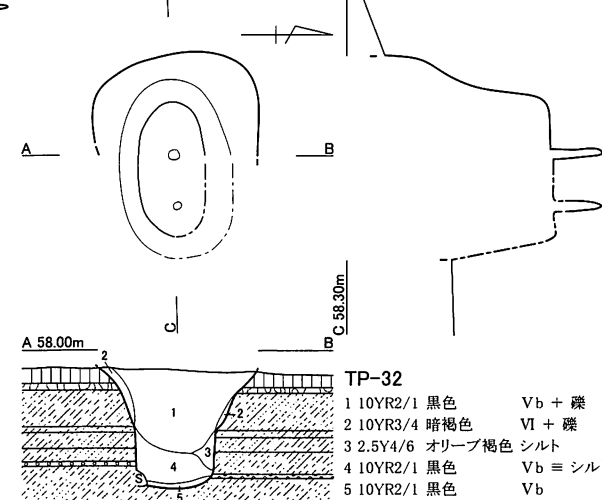
TP-31



TP-31

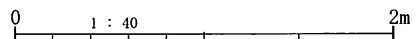
- | | | |
|----|----------------|------------------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P ≡ シルト岩・炭化物 |
| 2 | 10YR3/2 黒褐色 | Vb - Ta-d2P |
| 3 | 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 4 | 10YR3/2 黒褐色 | Vb = Ta-d2P |
| 5 | 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 6 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色 | シルト ≡ Vb |
| 7 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色 | 砂利 = シルト・Vb |
| 8 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色 | 砂利 = シルト・Vb |
| 9 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色 | シルト |
| 10 | 10YR2/1 黒色 | Vb = Ta-d2P |
| 11 | 2.5Y4/3 オリーブ褐色 | 砂利 = シルト・Vb しまり無し |

TP-32

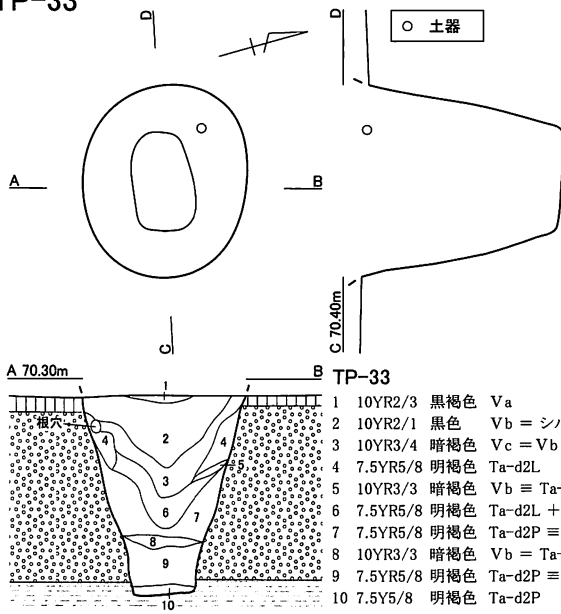


TP-32

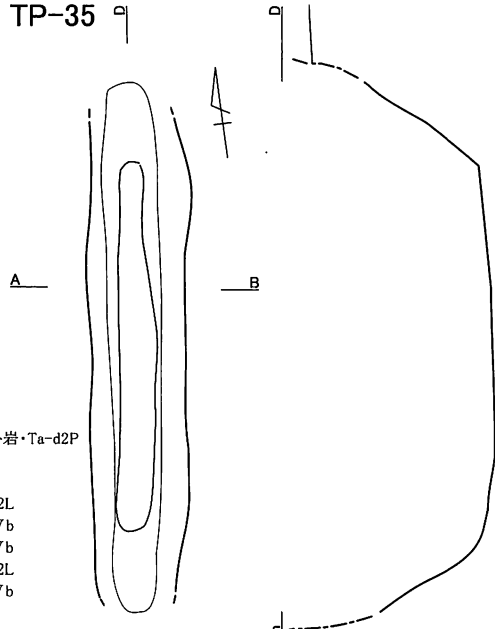
- | | | |
|---|----------------|------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | Vb + 礫 |
| 2 | 10YR3/4 暗褐色 | VI + 礫 |
| 3 | 2.5Y4/6 オリーブ褐色 | シルト |
| 4 | 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ シルト・礫 |
| 5 | 10YR2/1 黒色 | Vb |



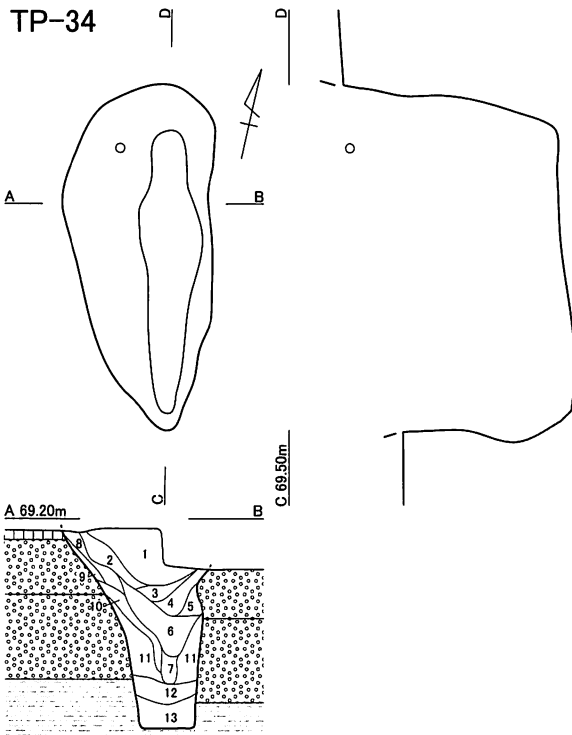
TP-33



TP-35



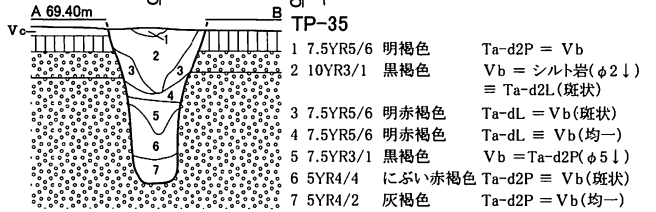
TP-34



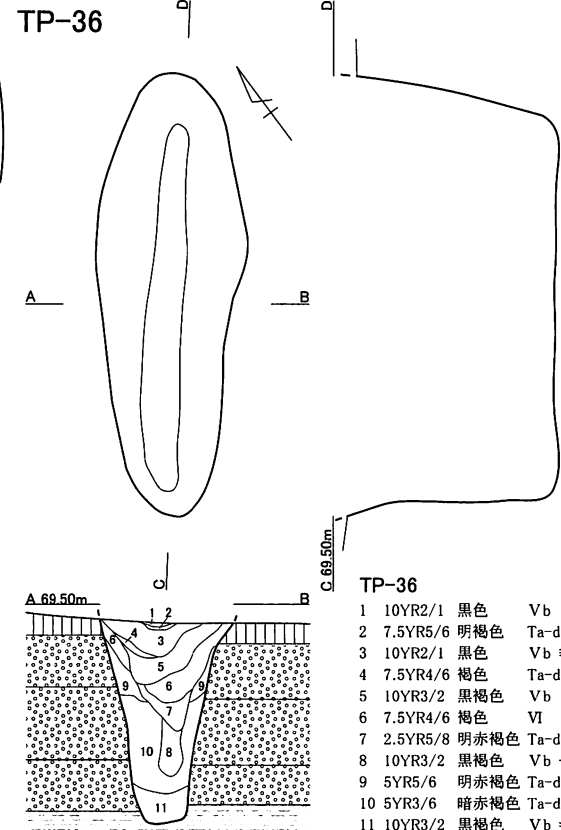
TP-34

- | | | |
|----|-----------------|-----------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ Ta-d2L |
| 2 | 10YR4/1 褐灰色 | Vc ≡ Ta-d2L |
| 3 | 10YR3/2 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2L |
| 4 | 10YR5/2 灰黄褐色 | Vc = Ta-d2L |
| 5 | 5YR3/3 にぶい赤褐色 | Ta-d2L ≡ Vc |
| 6 | 7.5YR3/1 黒褐色 | Vb = Ta-d2L |
| 7 | 2.5YR4/3 にぶい赤褐色 | Ta-d2L ≡ Vb |
| 8 | 7.5YR5/3 にぶい褐色 | Ta-d2L = Vc |
| 9 | 5YR5/6 明赤褐色 | Ta-d2L ≡ V |
| 10 | 2.5YR4/6 赤褐色 | Ta-d2L = Ta-d2P |
| 11 | 2.5YR4/6 赤褐色 | Ta-d2P ≡ Vb |
| 12 | 2.5YR4/6 赤褐色 | Ta-d2P = Vb |
| 13 | 5YR5/3 にぶい赤褐色 | Ta-d2P-Ta-d2L |

TP-35



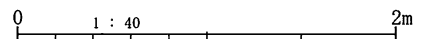
TP-36



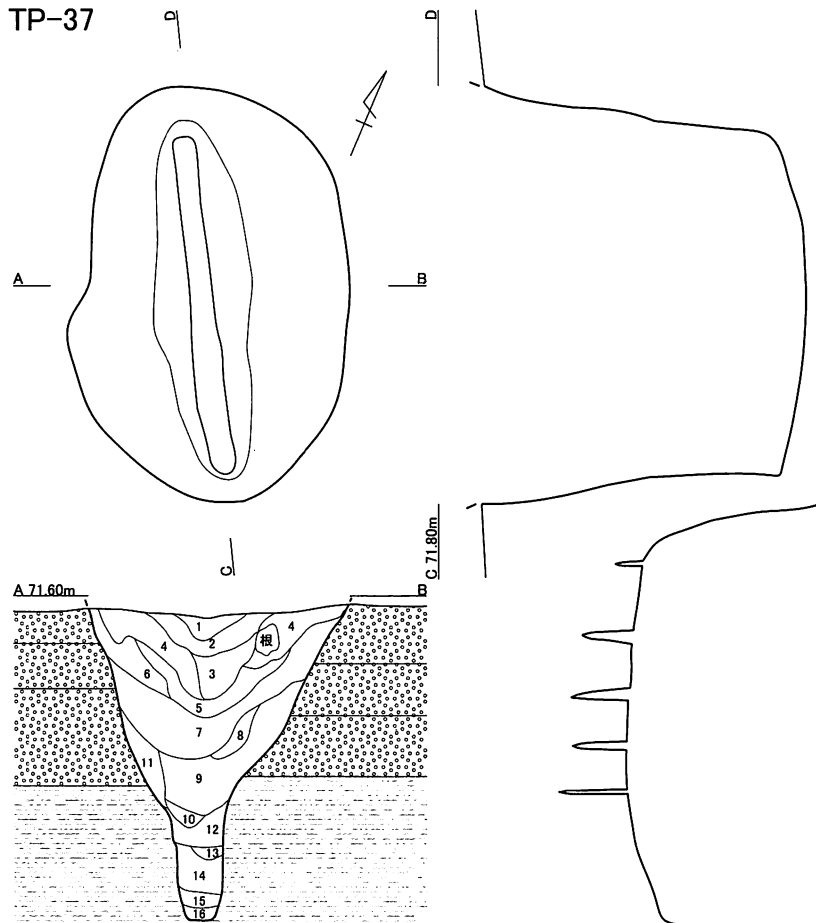
TP-36

- | | | |
|----|---------------|-------------|
| 1 | 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 2 | 7.5YR5/6 明褐色 | Ta-d2P = Vb |
| 3 | 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ シルト |
| 4 | 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2P - Vb |
| 5 | 10YR3/2 黒褐色 | Vb |
| 6 | 7.5YR4/6 褐色 | VI |
| 7 | 2.5YR5/8 明赤褐色 | Ta-d2P = Vb |
| 8 | 10YR3/2 黒褐色 | Vb + Ta-d2P |
| 9 | 5YR5/6 明赤褐色 | Ta-d2L ≡ Vb |
| 10 | 5YR3/6 暗赤褐色 | Ta-d2P ≡ Vb |
| 11 | 10YR3/2 黒褐色 | Vb = Ta-d2P |

図VI-48 TP-33 ~ 36



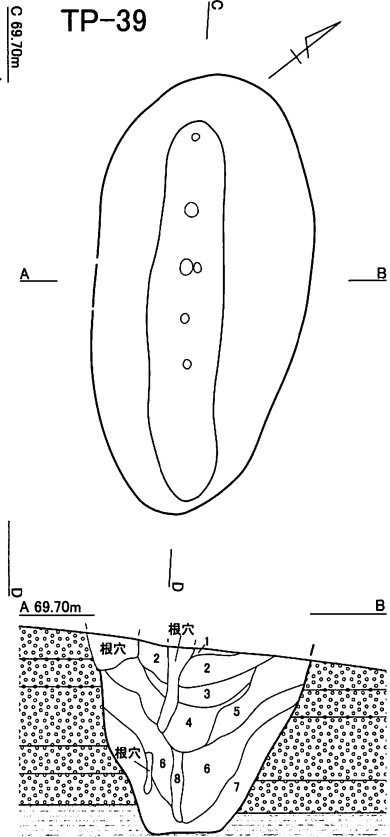
TP-37



TP-37

- | | | | |
|----|----------|-------|------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ シルト |
| 2 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb + Ta-d2P |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-d2P |
| 4 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 5 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb = Vc |
| 6 | 7.5YR4/6 | 褐色 | VI = Ta-d2P = Vb |
| 7 | 5YR5/8 | 明赤褐色 | Ta-d2P = Vb |
| 8 | 10YR3/2 | 黒褐色 | Vb + Ta-d2P |
| 9 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P(φ5↓) |
| 10 | 5YR5/8 | 黄褐色 | Ta-d2P |
| 11 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 12 | 5YR3/6 | 暗赤褐色 | Ta-d2P(φ5↓) |
| 13 | 10YR4/6 | 褐色 | IX |
| 14 | 5YR5/6 | 明赤褐色 | Ta-d2P = Vb - IX |
| 15 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ta-d2P - IX |
| 16 | 7.5YR5/4 | にぶい褐色 | Ta-d2P = IX = Vb |

TP-39

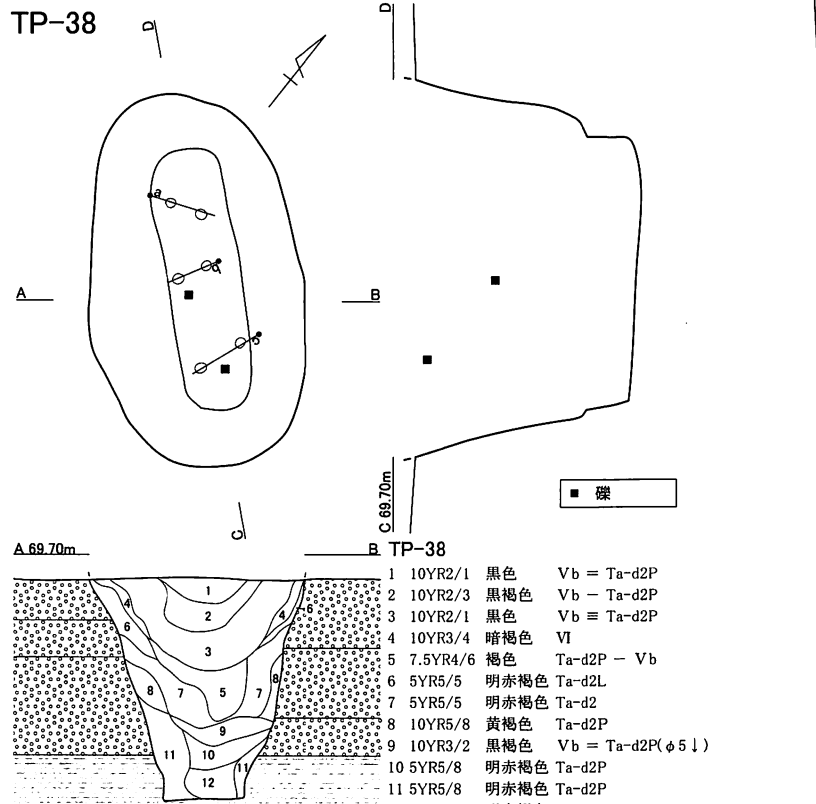


TP-39

- | | | | |
|---|----------|-----|--------------------------|
| 1 | 10YR2/1 | 黒色 | Va |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 3 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb = シルト岩(φ3↓) |
| 4 | 10YR3/1 | 黒褐色 | Vb - Ta-d2P ≡ Ta-d2L(均一) |
| 5 | 7.5YR4/2 | 灰褐色 | V - Ta-d2L ≡ Ta-d2P(均一) |
| 6 | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ta-d2L = Ta-d2P ≡ Vb(斑状) |
| 7 | 5YR4/6 | 赤褐色 | Ta-d2P = V(斑状) |
| 8 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb しまり無し |



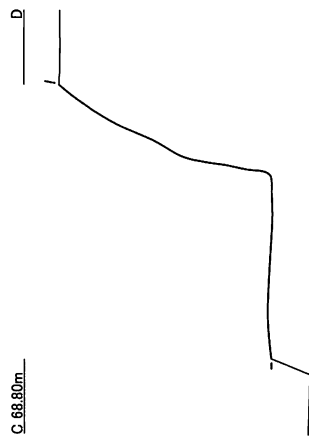
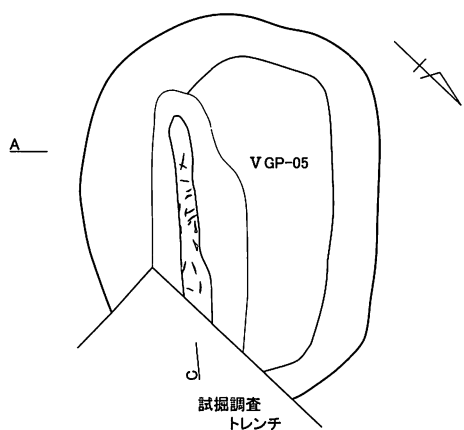
TP-38



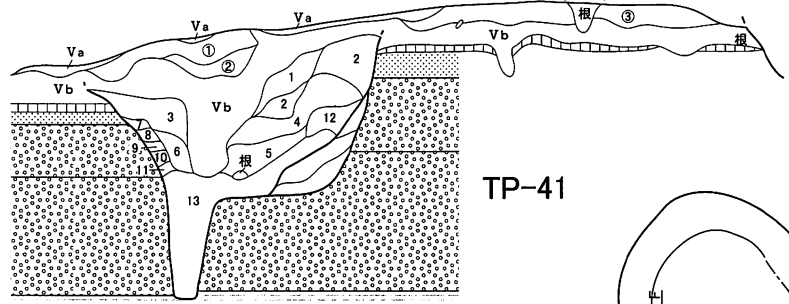
図VI-49 TP-37 ~ 39



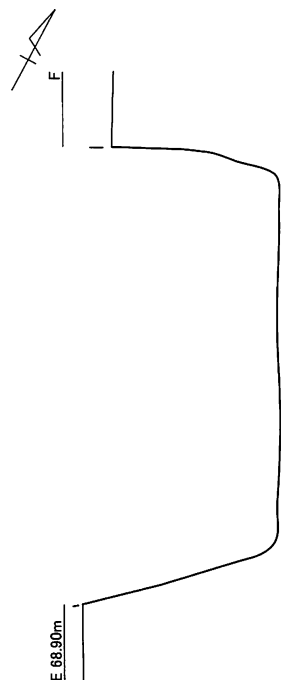
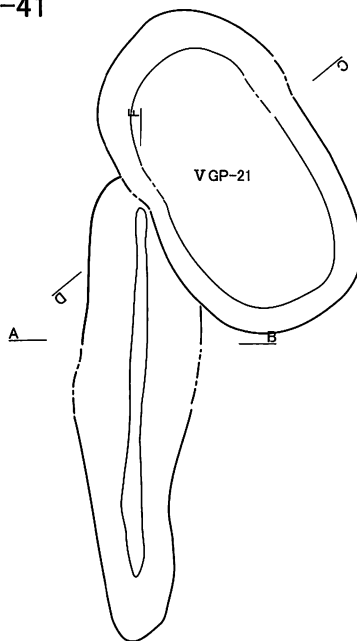
TP-40



A 69.10m



TP-41

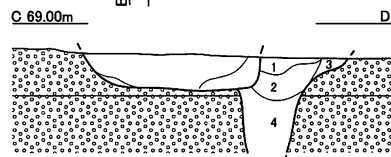
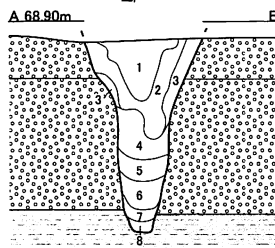


TP-40

- ① 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2 = Ta-dP・Vb
- ② 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-d2P
- ③ 10YR3/3 暗褐色 Vb - Ta-d2P
- 1 10YR3/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-d2P
- 2 10YR3/2 黒褐色 Vb - Ta-d2P
- 3 10YR3/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-d2P
- 4 5YR4/8 赤褐色 Ta-d2P ≡ Vb
- 5 5YR3/6 暗赤褐色 Ta-d2P = Vb
- 6 7.5YR2/3 極暗褐色 Ta-d2L = Vb・Ta-d2P
- 7 10YR6/6 明黄褐色 Ta-dL(ブロック状)
- 8 5YR4/8 赤褐色 Ta-d2P(ブロック状)
- 9 10YR2/1 黒色 Vb(ブロック状)
- 10 10YR6/6 明黄褐色 Ta-d2L(ブロック状)
- 11 5YR4/8 赤褐色 Ta-d2P(ブロック状)
- 12 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-d2
- 13 7.5YR3/4 暗褐色 Vb + Ta-d2P(斑状)

TP-41

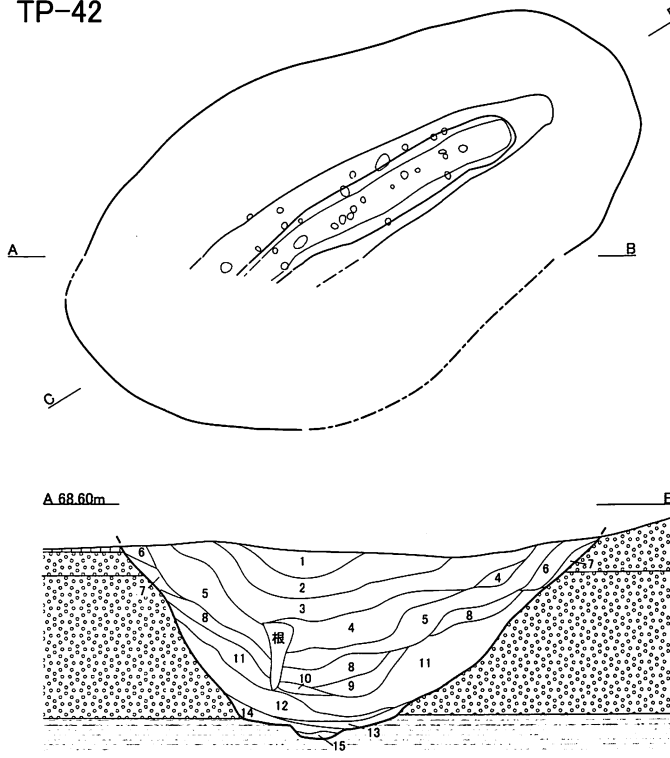
- 1 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P
- 2 10YR3/4 暗褐色 VI
- 3 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L
- 4 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P
- 5 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P
- 6 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P = Vb
- 7 10YR2/1 黒色 Vb
- 8 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P = IX



図VI-50 TP-40・41

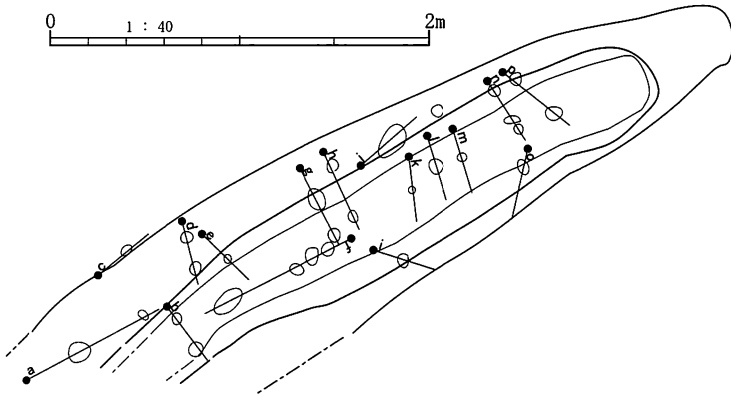
0 1 : 40 2m

TP-42

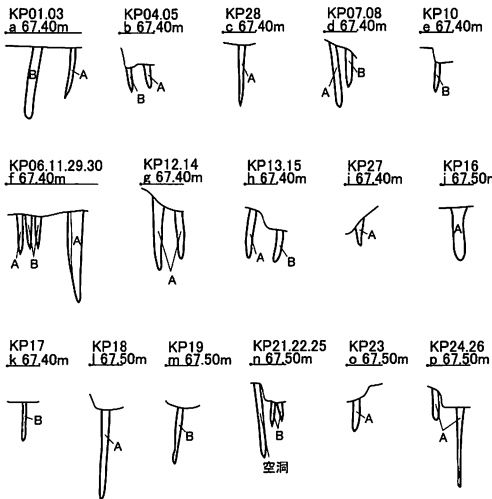
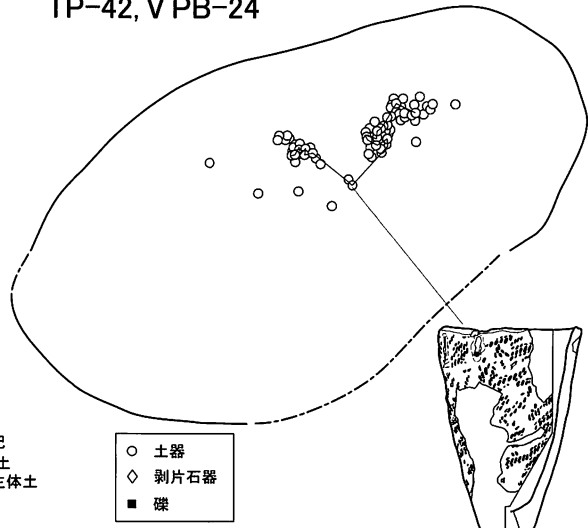


TP-42

- | | | | |
|----|----------|------|----------------------|
| 1 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb - Ta-d2P |
| 2 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 3 | 7.5YR4/6 | 褐色 | Ta-d2P = Ta-d2L・Vb |
| 4 | 5YR5/8 | 明赤褐色 | Ta-d2P ≡ Vb |
| 5 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 6 | 10YR5/6 | 黄褐色 | Ta-d1L(崩落) |
| 7 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-d2L(崩落) |
| 8 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 9 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-d2P = Vb |
| 10 | 10YR2/2 | 黒褐色 | Vb = Ta-d2P |
| 11 | 7.5YR5/8 | 明褐色 | Ta-d2P ≡ Vb |
| 12 | 10YR2/3 | 黒褐色 | Vb = Ta-d2P |
| 13 | 10YR2/1 | 黒色 | Vb |
| 14 | 10YR3/3 | 暗褐色 | Vb ≡ Ta-d2P |
| 15 | 7.5Y4/8 | 褐色 | Ta-d2P + Ta-d2L - Vb |



TP-42, VPB-24

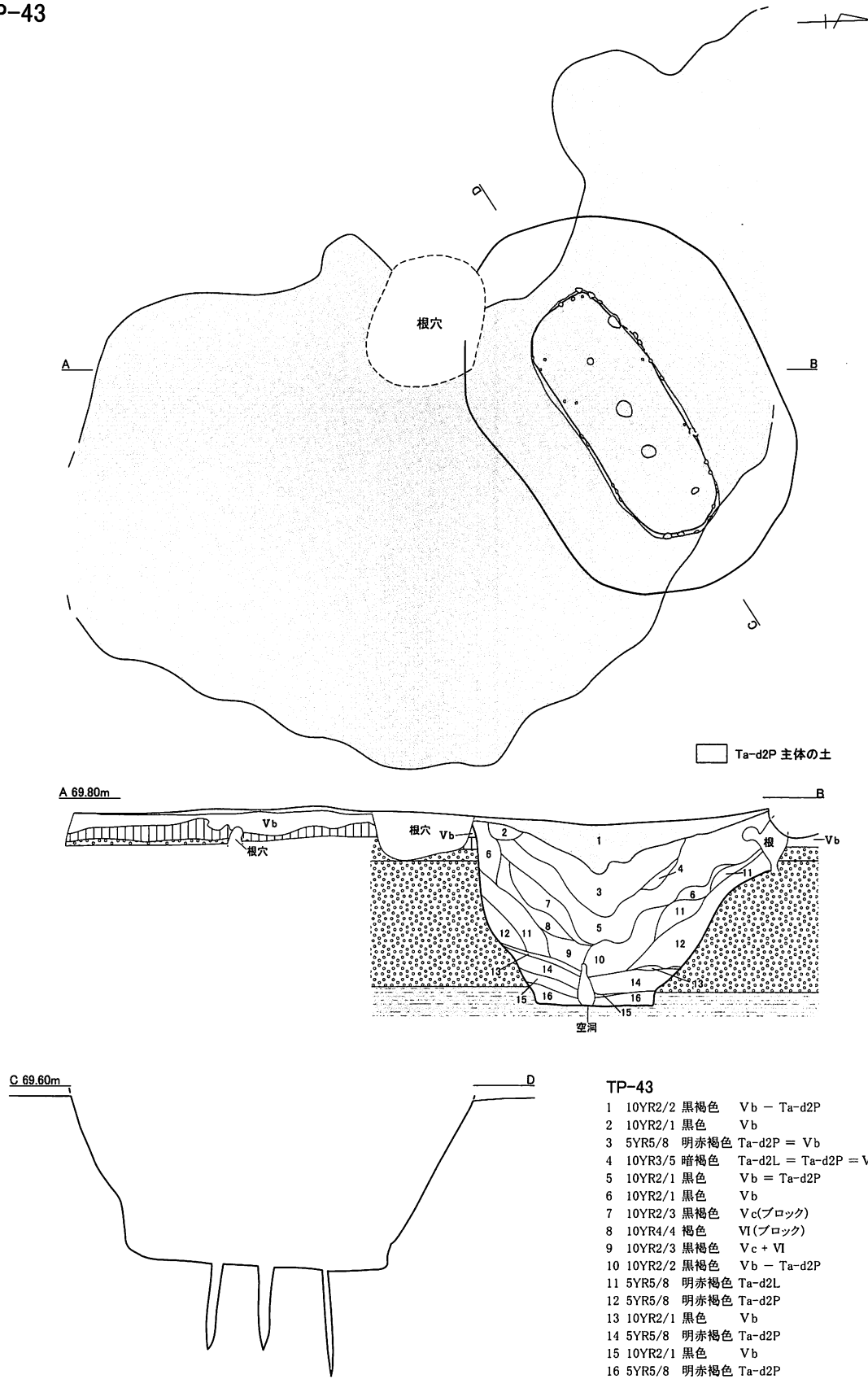


柱穴土層注記
A Vb 主体土
B Ta-d2P 主体土

○ 土器
◇ 剥片石器
■ 礫

図VI-51 TP-42, VPB-24

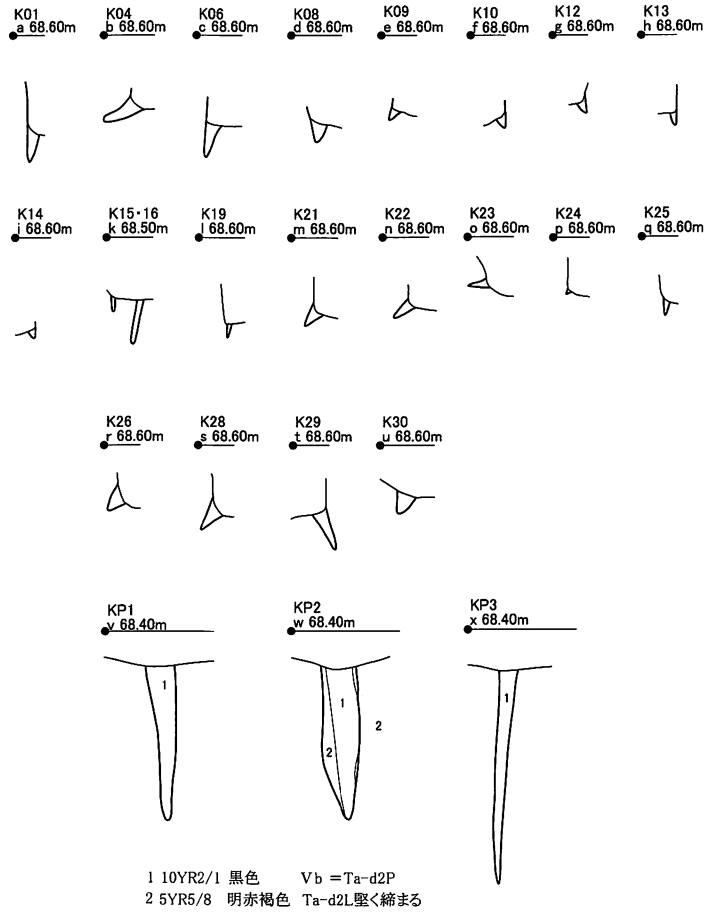
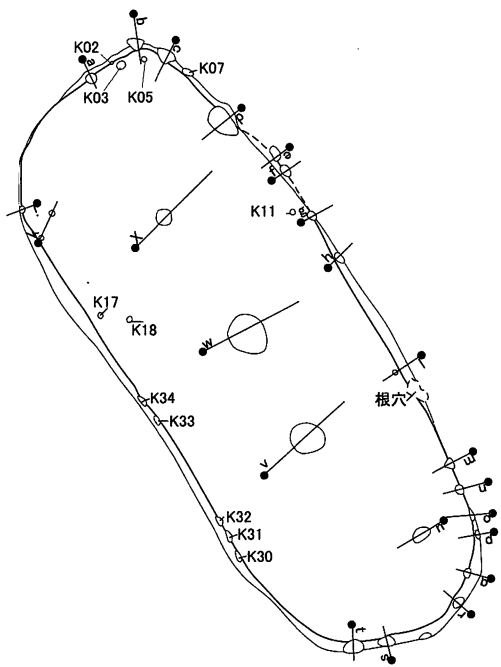
TP-43



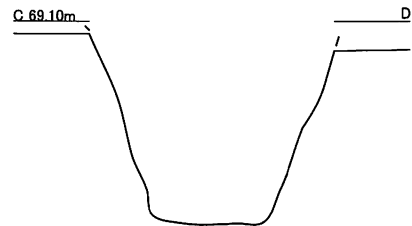
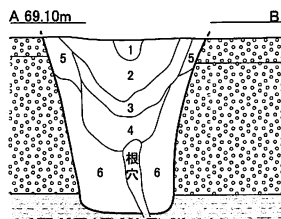
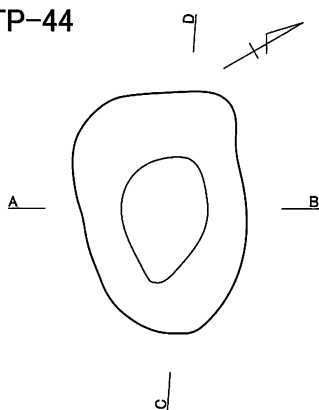
図VI-52 TP-43

0 1 : 40 2m

TP-43



TP-44



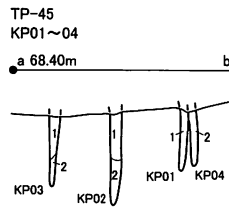
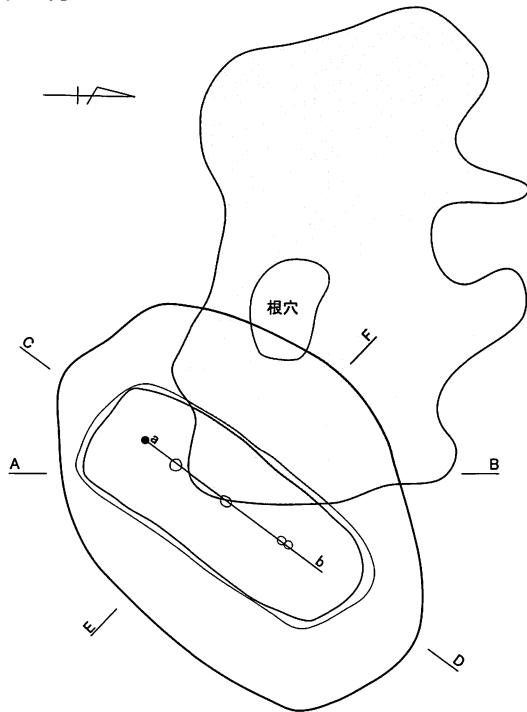
- TP-44
- 1 10YR2/1 黒色 Vb
 - 2 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P
 - 3 10YR2/3 黒褐色 Vc-Ta-d2P
 - 4 10YR3/3 暗褐色 Vb+VI+Ta-d2L = Ta-d2P
 - 5 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L
 - 6 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L = Ta-d2P

図VI-53 TP-44

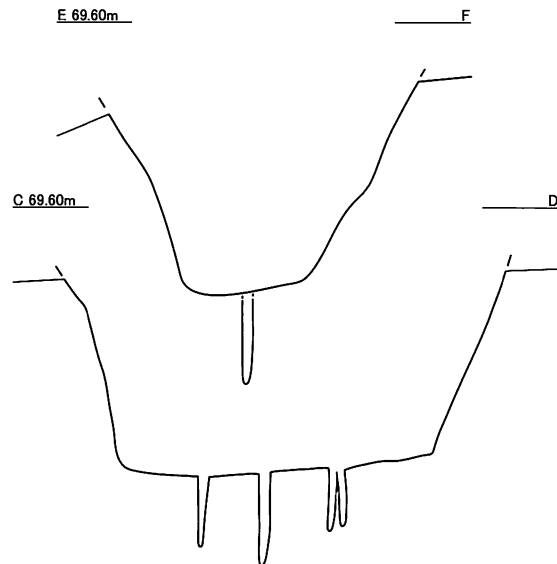
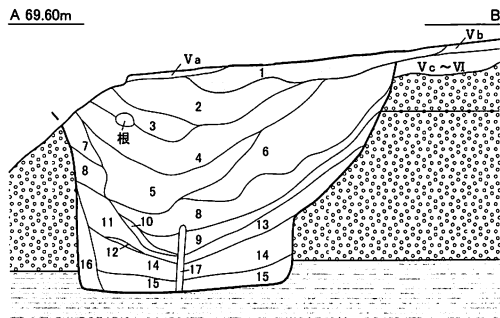
その他

TP-20・30はC2型で、杭穴から杭が出土している。TP-20のKP-01で出土した杭は遺存状態が比較的良好であったのでAMS年代測定の委託を行った。暦年較正年代(2σ)で3,900~3,700年前、後期前半頃の年代が得られている。同じC2型のTP-11で後期前葉の土器集中はTピットの埋没しきらない窪地から出土しており、その状況から考えると矛盾しない結果と思われる。

TP-45

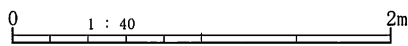


TP-45 KP01
 1 10YR2/1 黒色 Vb しまりなし
 2 2.5YR4/6 赤褐色 Ta-dL - Ta-dP (φ3~5) (斑状)



- TP-45
- 1 10YR7/6 明赤褐色 Vb - Ta-d2P (φ10↑) (斑状)
 - 2 10YR2/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-d2P (φ5↑) Vb相当
 - 3 10YR3/3 暗褐色 Ta-d2P + Vb (φ3~5)
 - 4 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P ≡ Vb (斑状)
 - 5 10YR3/2 黒褐色 Vb = Ta-d2P (φ5~10) (斑状)
 - 6 10YR2/3 黒褐色 Vb ≡ VI
 - 7 7.5YR3/4 暗褐色 VI
 - 8 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2Lの崩落土
 - 9 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P
 - 10 10YR2/2 黒褐色 Vb
 - 11 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (斑状)
 - 12 10YR2/2 黒褐色 Vb
 - 13 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P
 - 14 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ10~30) (斑状)
 - 15 10YR3/2 黒褐色 Vb = Ta-d2P (φ3~5) (斑状)
 - 16 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ3~5)
 - 17 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-d2P (φ1~3) (斑状) しまりなし

Ta-d2P 主体の土



図VI-54 TP-45

個別記載

TP-06 (図VI-41・62 図版 61-4~6)

T₁面の平坦面のVI層で落ち込みを確認した。このすぐ脇にはVPB-03が検出しており、この一部の土器片が黒色土落ち込み内の際で垂直気味に刺さって出土している。このような出土状態から、Tピットの廃絶した窪みに土器集中が形成されたのではなく、土器集中を切ってTピットが構築され、壁面の崩落土に伴って、土器片等がTピット内に流れ込んだものと想定された。土器等の出土層を

明確にするために、VPB-03 から延長するベルトを設定し、これを残しながら調査を進めた。結果遺物の大半は土層 2・3 から出土していることが判った。また壁面近くでも壁面に沿って垂直に出土したものがある。これらの状況から土器集中を切ってTピットが構築されたと考えられる。この土器集中内から北海道式石冠と石皿が出土しており、共伴するものと考えられる。

出土遺物：(図VI-62) 1はIIA2類でトビノ式である。本遺跡ではこの類は唯一の個体である。口唇は平坦で、断面形は角状である。口唇に向かって器体は薄くなる。口縁部付近はLRの縄文が縦走気味に施されている。2は北海道式石冠である。底面は敲打整形のままの状態、使用されていない。3は石皿である。

TP-11 (図VI-43・62 図版 62-7・8)

T₁面の平坦面でVb層の黒色土でシルトの落ち込みを検出した。土層 7~15は壁面の崩落土及び周囲からの流入土である。土層 1はF1シルト、土層 3~6はF2シルトに相当する。この2層のシルト層に挟まれた土層 2はVbL層に相当する。この土層 2からVPB-01の一部とVPB-04が出土している。この2カ所の土器集中は後期前葉のものであり、整理作業段階で同一個体であることが判った。出土状態等からTピットの埋没しきらない窪地に廃棄されたものと考えられる。

出土遺物：(図VI-62) 5~9はIVA2類の同一個体片である。小突起をもつもので、突起下には縦位に縄線文が施される。口縁部は口唇の下3cm程の幅で無文帯となり、地文は2段の異原体で羽状構成になっている。また地文施文後に器表面にナデ調整を施している。口唇及び内面にも縄文が施されている。10は石槍の再加工品で、先端部欠損後に調整を加えている。

TP-20 (図VI-45 図版 65-1~4)

T₁B-T₁A段丘斜面中のVI層上面で検出した。底面近くの調査中に、底面中央付近で空洞になっている部分を確認した。さらに調査を進め底面全体を検出し、木が埋まっていた。また、これ以外に底面で杭跡と思われる落ち込みを確認していたので、この2カ所を通るトレンチを設定し半截を行った。木が埋まっていた部分は、先端の尖った木が刺さっており、逆茂木であると判断しKP-01と付番した。保水性のあるグライ化した青色粘土層に刺さっていたため木質が残存したと考えられる。この逆茂木を慎重に取り上げたが先端は崩れてしまった。また、加工の痕跡がないか確認を行ったが、スポンジ状になっており、表面の観察は困難であった。残存部で長さ約20cm、径は5cm程であった。もう一つの落ち込みも断面の観察の結果杭跡であった。こちらも木質部が僅かに残っていた。KP-01の杭の一部を切り取り、AMS年代測定を行っている。結果等についてはその他の項で前述している通りである。

TP-40 (図VI-50 図版 70-1~3)

T₃面で検出した。試掘調査時のトレンチの壁面で本遺構を確認していた。またこの周囲では1号竪穴住居跡の掘り上げ土が確認できていたことから、新旧関係を確認するために掘り上げ土と本遺構に合わせてベルトを設定した。調査を進め堆積断面を観察したところ、住居跡の掘り上げ土とは重複しておらず、新旧関係は確認できなかった。しかし、土坑墓としたVGP-05と重複しており、土層断面からTP-40が新しいと判断できた。土層③は住居跡の掘り上げ土であるが、土層①、②は

これとは分断されており一連のものかは不明である。土層①、②の扱い方により遺構の新旧関係に大きく係わるが、不明瞭なことから成因不明の二次堆積土として扱った。底面では前述したように掘り具痕を確認している。

TP-42 (図VI-51・63 図版 70-5~12)

T₃面で検出した。IV層を重機で除去した段階で大きく窪んでいる事を確認していた。部分的にトレンチを設け、深さ 30 cm程まで掘削し確認を行った段階で風倒木痕と誤認していた。周囲をⅧ層上面まで調査した段階で、落ち込みが明瞭となり調査を再開した。また、この面で落ち込みの中央付近からVPB-24 とした後期前葉の土器集中が検出している。トレンチを底面まで掘削した段階で、底面は二段になっており、新旧 2 期が想定された。土層断面の観察からは、一段低いほうが古く、高いほうが新しいと考えられる。また、全面の調査が終了した段階で共に長軸方向が同じであることから、全く別の時期のものが切りあっているのではなく、埋没したものを掘り返したものと思われる。また、底面の状態から新旧 2 期を想定したが、確認できた杭跡が 27 基と多いことから更に複数回掘り返された可能性もある。土層 3・4 は Ta-d2 パミス主体の土層であり、位置的に壁面の崩落土ではない。この遺構の掘り上げ土が壁面の崩落と共に流れ込んだ可能性があるが、確認が遅れたため、上部でこの土層の広がりを確認できなかったことから不明瞭である。

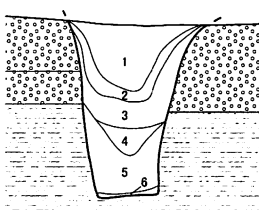
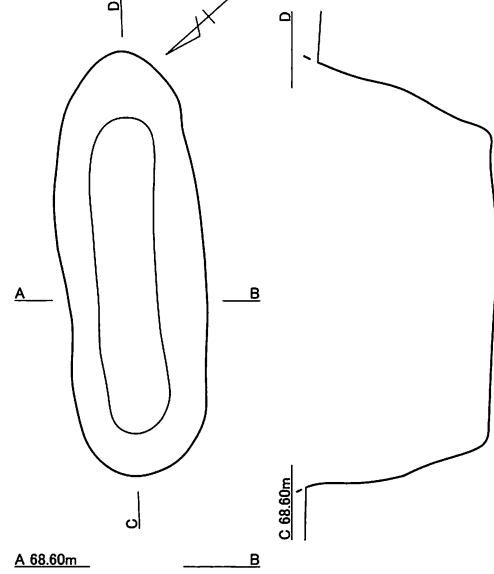
出土遺物：(図VI-63) 16 はIVA2 類である。口径に比べ底径が極端に小さいものである。口縁には縄を上から下に向かってスリップさせて押し付けた刺突文が施されている。地文はLRの斜行縄文を施し、条間にナデ調整を施している。地文施文後に刺突文を施している。口唇にも同様にLRの縄文を施している。

TP-43 (図VI-52 図版 71-1~17)

T₃面でVb層調査中 Ta-d2 パミスを含む土層の範囲を検出した。Tピットの掘り上げ土と想定されたので、この範囲の記録を行った後にこれを横断するトレンチを3本設け、Ⅷ層上面まで調査を行った。このトレンチ調査により落ち込みの範囲を想定することが出来たので、この中央付近を通るトレンチの壁面をベルトとして残しTピットの調査を進めた。Ta-d2 パミスを含む土層は、このTピットを中心に分布している事が判り、本Tピットの掘り上げ土と考えられる。また、壁面の崩落に伴い土層3のようにTピット内に流入することが捉えられた。これにより土層4と5の境界がTピット構築時の面だと考えられ、土層5の性格はTピット構築以前の遺物包含層であると捉えることができる。今回はこの土層から遺物は出土していないが、土層の性格が明らかなので、時期の捉えにくいTピットの調査において重要なものと思われる。

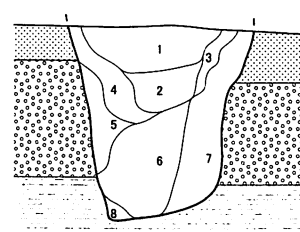
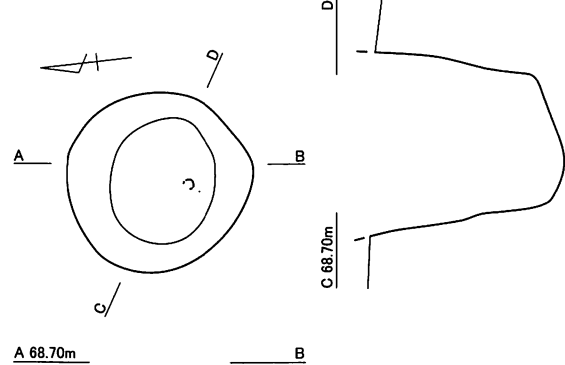
底面はローム層中に作られており、壁際で複数の小さな Ta-d2 パミスの落ち込みを確認した。慎重に調査を行わないと、清掃時のロームが被さり落ち込みが不明瞭になることから、ハケ等を利用し検出に努めた。その結果、壁面際で逆茂木跡の杭穴とは異なる 32 カ所の小さな円形の落ち込みを検出した。このような例は管見の限り例がないもので、大部分のものを半截して断面を確認した。その結果、落ち込みの平面形は円形のもので大半で、長軸長は 2~10 cm である。断面形は先端が尖り、底面からの深さは 10 cm 未満の浅いものが殆どである。垂直のものと、内から外へ傾くものがある。

TP-46



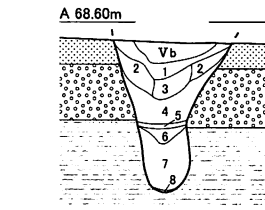
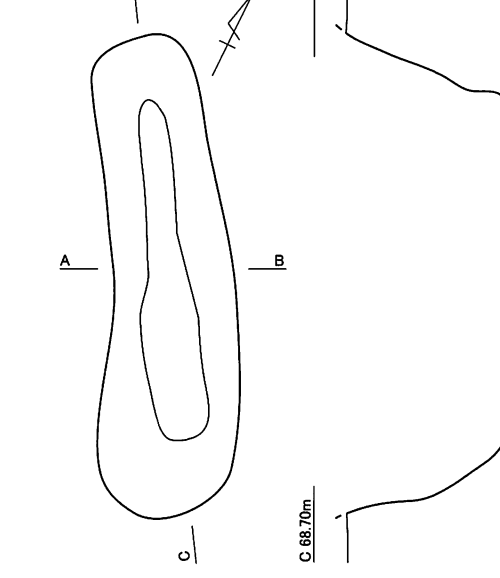
- TP-46**
- 1 10YR2/1 黒色 V ≡ Ta-d2P (φ5↓) (斑状) = VI (均一)
 - 2 10YR3/1 黒褐色 VI ≡ Ta-d2L (φ5↓) (斑状)
 - 3 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L ≡ Ta-d2P (φ5~10) (斑状)
 - 4 10YR3/4 暗褐色 V = Ta-d2P (φ10↓) (均一)
 - 5 7.5YR3/4 暗褐色 Ta-d2P 集積 ≡ VI (均一)
 - 6 10YR2/2 黒色 V ≡ VI (均一)

TP-48



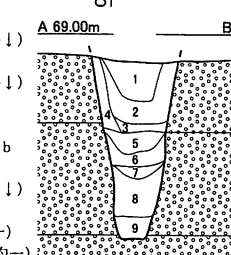
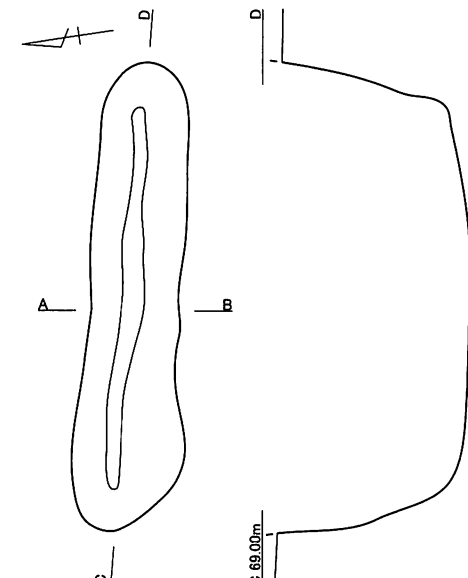
- TP-48**
- 1 10YR5/8 黄褐色 Ta-d2L = Vb (斑状)
 - 2 10YR4/6 褐色 Ta-d1スコリア = Ta-d2L (斑状)
 - 3 10YR3/2 黒褐色 Vb = VI・Ta-d2P (φ3~5) (斑状)
 - 4 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L = Ta-d2P (φ5~10)
 - 5 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L ≡ Ta-d2P (φ5~10) (斑状)
 - 6 7.5YR4/6 褐色 Ta-d1スコリア = Ta-d2L
 - 7 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L ≡ Ta-d2P (φ10~20) (斑状)
 - 8 7.5YR4/6 褐色 Ta-d1スコリア = Ta-d2L - IX

TP-47

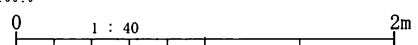


- TP-47**
- 1 10YR4/2 灰黄褐色 VI - Ta-d2P (φ20↓) (斑状)
 - 2 10YR3/2 黒褐色 VI = Ta-d2P (φ20↓) (斑状)
 - 3 10YR2/2 黒褐色 Vb = VI (均一)
 - 4 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2Pの集積 ≡ Vb (均一)
 - 5 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P (φ5↓) (均一)
 - 6 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L ≡ Vb (均一)
 - 7 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2P (φ10↓) (均一)
 - 8 10YR2/1 黒色 Vb

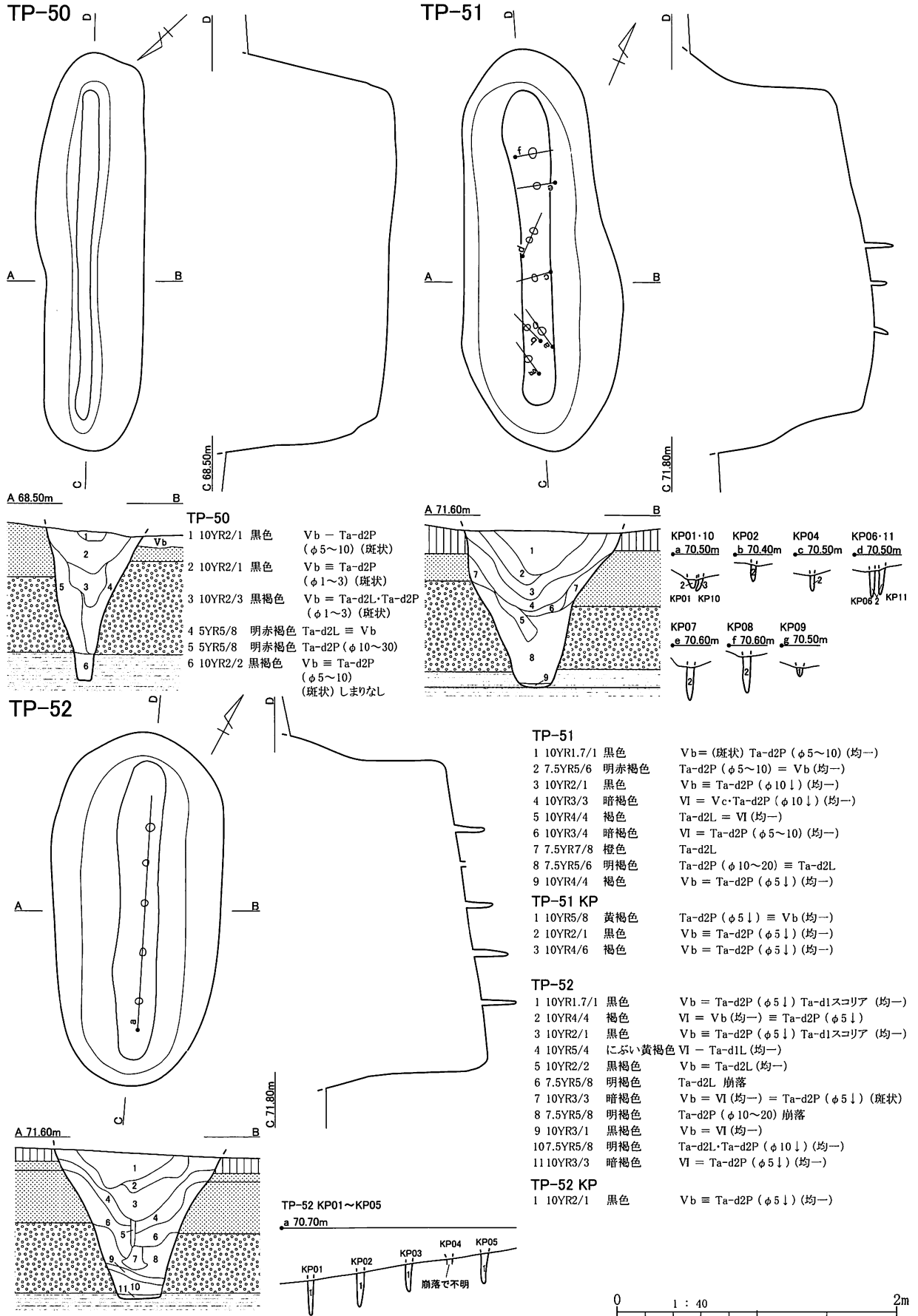
TP-49



- TP-49**
- 1 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P (φ1~3) (斑状)
 - 2 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-d2L・Ta-d1L (斑状)
 - 3 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ5~10) ≡ Vb (斑状)
 - 4 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L
 - 5 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P (φ5~10) (斑状)
 - 6 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ10~20) = Vb (斑状)
 - 7 10YR3/3 暗褐色 Vb + Ta-d2L (均一)
 - 8 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ5~20)
 - 9 10YR2/1 黒色 Vb しまりなし

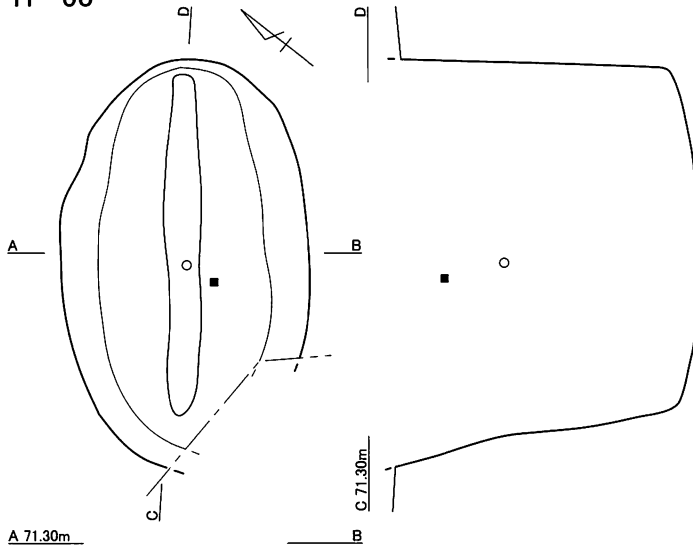


図VI-55 TP-46 ~ 49



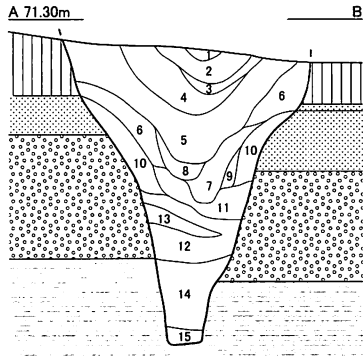
図VI-56 TP-50 ~ 52

TP-53

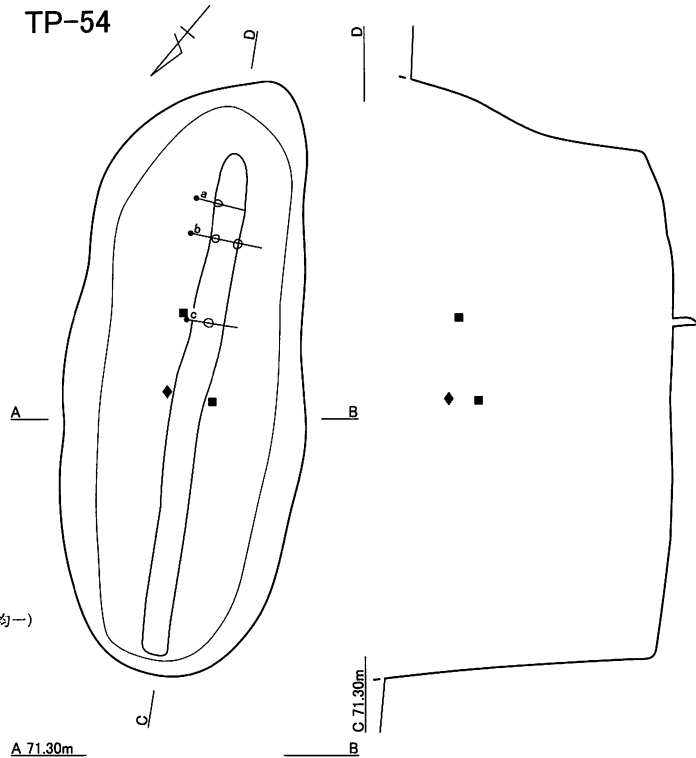


TP-53

- | | |
|------------------|------------------------------|
| 1 7.5YR6/8 橙色 | Ta-d2L = VI (均一) |
| 2 10YR3/4 暗褐色 | Vb = シルト岩 (φ5↓) = VI (均一) |
| 3 7.5YR6/8 橙色 | Ta-d2P (φ5↓) = VI (均一) |
| 4 10YR3/4 暗褐色 | Vb = VI・シルト岩 (φ5↓) (均一) |
| 5 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ VI = Ta-d21 ≡ (均一) |
| | Ta-d2P (φ5↓) シルト岩 |
| 6 10YR4/3 にぶい黄褐色 | VI = Ta-d21 ≡ (均一) |
| 7 10YR3/3 暗褐色 | VI ≡ Ta-d2P (φ5↓) (均一) |
| 8 10YR2/3 黒褐色 | Vb = Ta-d2P (φ10↓) VI (均一) |
| 9 10YR4/3 にぶい黄褐色 | VI - Ta-d2P (φ20↓) (均一) |
| 10 7.5YR6/8 橙色 | Ta-d2L = Ta-d2P (φ5↓) |
| 11 10YR4/4 褐色 | VI - Ta-d1L (均一) |
| 12 10YR2/2 黒褐色 | Vb - VI ≡ Ta-d2P (φ10↓) (均一) |
| 13 10YR5/8 黄褐色 | Ta-d2L-Ta-d2P (φ10↓) |
| 14 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2L ≡ Vb (均一) |
| 15 10YR2/3 極暗褐色 | Vb - Ta-d2P (φ5↓) (均一) |



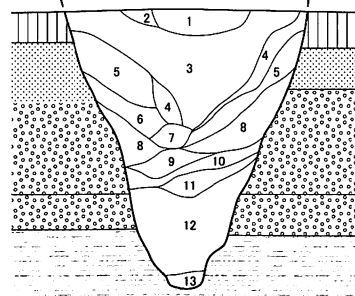
TP-54



TP-54

- | | |
|----------------|-------------------------------------|
| 1 7.5YR5/8 明褐色 | Ta-d2P (φ10↓) ≡ VI (均一) |
| 2 10YR3/3 暗褐色 | Vb = Ta-d2L・VI (均一) |
| 3 10YR1.7/1 黒色 | Vb = シルト岩 (均一) ≡ Ta-d2P |
| 4 10YR2/2 黒褐色 | Vb = シルト岩 (均一) |
| 5 10YR2/3 黒褐色 | VI = シルト岩 (均一) ≡ Ta-d2P (φ10↓) (均一) |
| 6 10YR3/4 暗褐色 | VI + Ta-d1L (均一) |
| 7 10YR3/2 黒褐色 | VI - Ta-d1L = Ta-d2P (φ10↓) (均一) |
| 8 7.5YR5/8 明褐色 | Ta-d2P ≡ (φ5↓) VI (互層) |
| 9 10YR4/6 褐色 | VI = Ta-d2P (φ10↓) (均一) |
| 10 10YR3/1 黒褐色 | VI ≡ Ta-d2P (φ10↓) |
| 11 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2L ≡ VI (均一) |
| 12 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2L ≡ VI (均一) |
| 13 10YR2/3 黒褐色 | V ≡ Ta-d2L (均一) |

- 土器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫

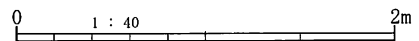


TP-54

- | | | |
|------------|------------|------------|
| KP01 | KP03-04 | KP05 |
| ● a 69.80m | ● b 69.80m | ● c 69.70m |
| | | |
| | KP03 KP04 | |

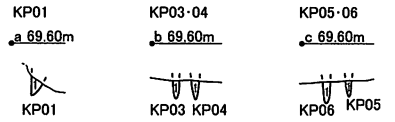
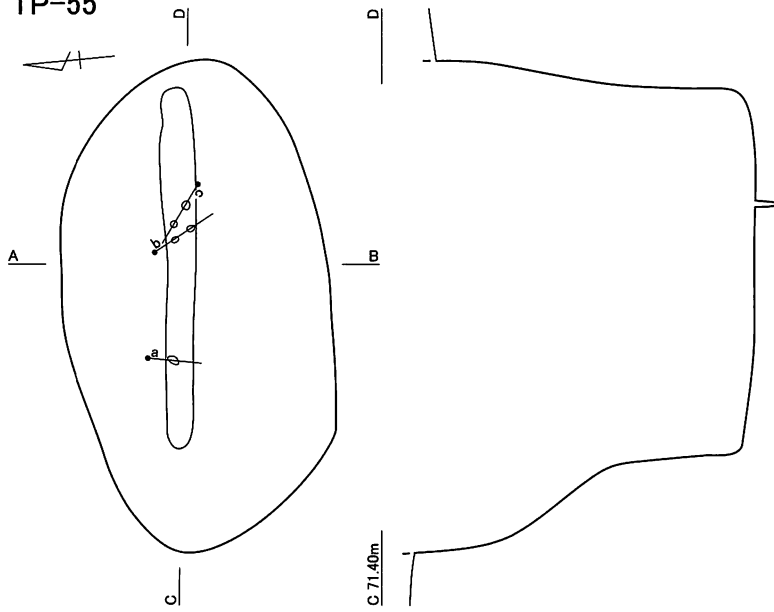
TP-54KP

- | | |
|---------------|------------------------|
| 1 10YR5/8 黄褐色 | Ta-d2L + IX |
| 2 10YR4/6 褐色 | Vb = Ta-d2P (φ5↓) (均一) |



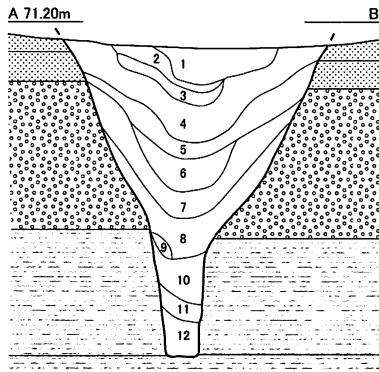
図VI-57 TP-53-54

TP-55

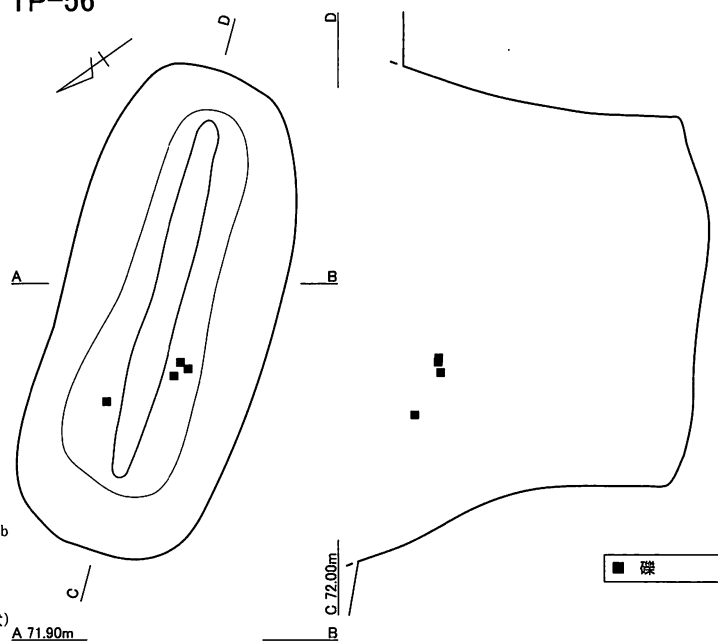


TP-55 KP

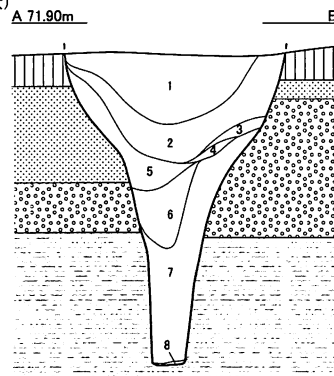
1 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-dP (φ 1~3) (斑状)



TP-56



■ 碟



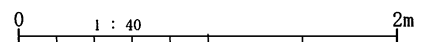
TP-56

- 1 10YR2/1 黒色 Vb ≡ シルト岩 - Ta-d2P (φ 5~10) (斑状)
- 2 10YR2/2 黒褐色 Vb = VI - Ta-d2P (φ 5~10) (均一)
- 3 10YR4/6 褐色 Ta-d2L = Vb (均一)
- 4 10YR2/3 黒褐色 Vb = VI・シルト岩 (均一)
- 5 10YR4/3 にぶい黄褐色 VI = Ta-d2L・シルト岩 (均一)
- 6 10YR4/6 褐色 Ta-d2P (φ 5~10) = Vb (均一)
- 7 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2P 崩落
- 8 10YR3/3 暗褐色 Vb ≡ Ta-d2P (φ 10 ↓) (均一)

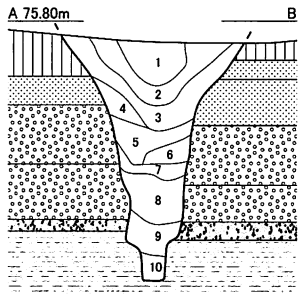
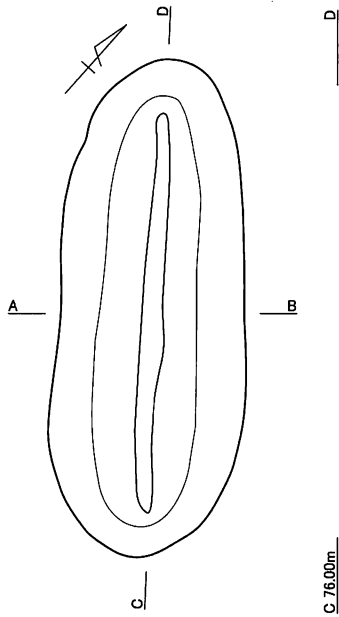
TP-55

- 1 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P (φ 1~3) (斑状)
- 2 10YR2/2 黒褐色 Vb - Ta-d2P (φ 5~10) (斑状)
- 3 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ 5~20) = Ta-d1スコリア ≡ Vb (斑状)
- 4 10YR2/1 黒色 Vb - Ta-d2P (φ 5~10) (斑状)
- 5 10YR2/3 黒褐色 VI = Vb ≡ Ta-d2P (φ 5~10) (斑状)
- 6 7.5YR5/6 明褐色 Ta-d2P (φ 5~10) - Ta-d2L = Vb (斑状)
- 7 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L = Ta-d2P (φ 10~20) (斑状)
- 8 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P
- 9 7.5YR5/6 明褐色 IX (ブロック状)
- 10 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L + Ta-d2P (φ 10~20) ≡ IX (斑状)
- 11 7.5YR5/6 明褐色 IX = Ta-d2P (φ 3~5) (斑状)
- 12 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ 1~3) ≡ IX (斑状)

図VI-58 TP-55-56



TP-57



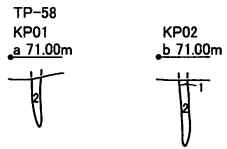
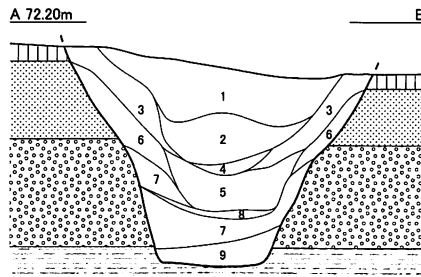
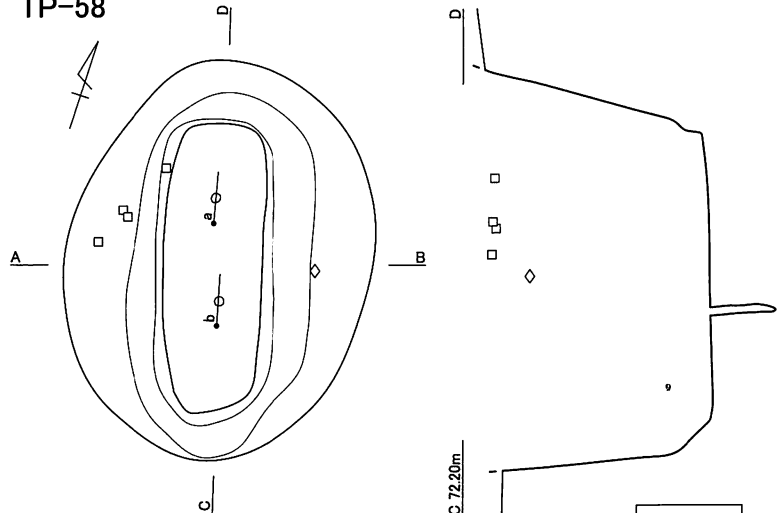
TP-57

- 1 10YR4/3 にぶい黄褐色 Vb ≡ Ta-d2P (φ 10 ↓)
= VI (均一)
- 2 10YR2/1 黒色 Vb ≡ シルト岩 (均一)
- 3 10YR3/2 黒褐色 VI = Ta-d1L (均一)
- 4 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L
- 5 10YR3/1 黒褐色 VI = シルト岩 (均一)
≡ Ta-d2P (φ 5~10) (均一)
- 6 10YR4/4 褐色 VI ≡ Ta-d2P (φ 10 ↓) シルト岩
(均一)
- 7 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2P (φ 10 ↓) ≡ VI (均一)
- 8 10YR3/3 暗褐色 Vb ≡ Ta-d2P (φ 5~10)
- 9 10YR4/4 褐色 Vb - Ta-d2L・Ta-d2P (φ 10 ↓)
(均一)
- 10 10YR2/2 黒褐色 Vb ≡ Ta-d2L (均一)

TP-58

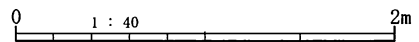
- 1 10YR2/1 黒色 Vb - シルト岩 ≡ Ta-d2P
(φ 5~10) (均一)
- 2 10YR2/3 黒褐色 Vb = VIブロック・Ta-d2P
(φ 10 ↓) (均一)
- 3 10YR5/4 にぶい黄褐色 VI ≡ シルト岩 (均一)
- 4 10YR5/8 黄褐色 Ta-d2L ≡ Vb (均一)
- 5 10YR2/2 黒褐色 Vb = VI・Ta-d2P
(φ 5~10) (均一)
- 6 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L
- 7 7.5YR5/6 明褐色 Ta-d2P (φ 5~10)
- 8 10YR3/4 暗褐色 Vb = Ta-d2L (均一)
- 9 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2L (均一)

TP-58



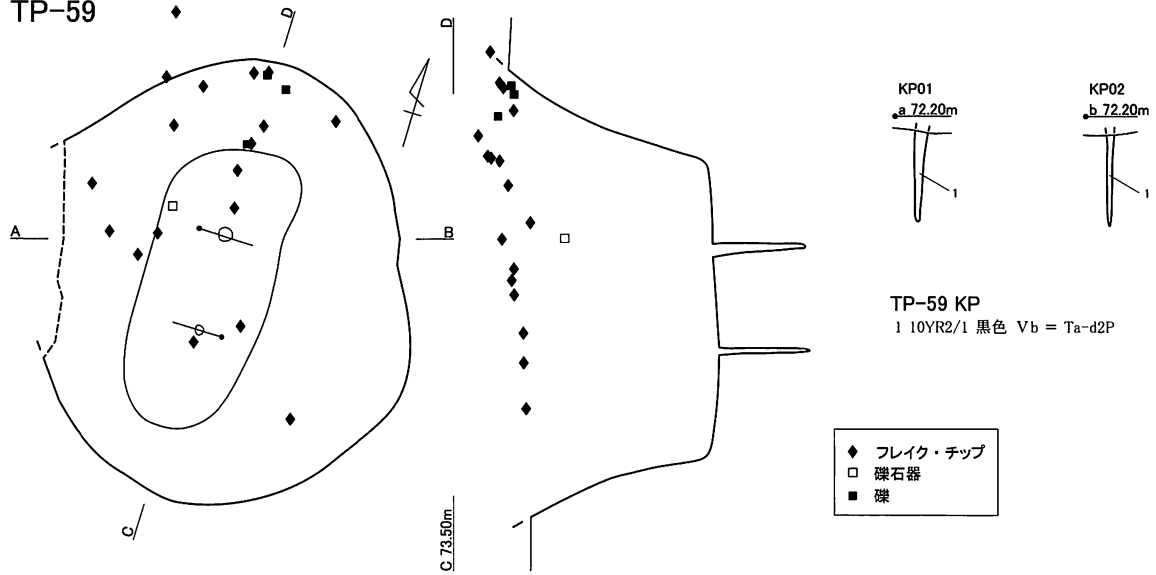
TP-58KP

- 1 10YR3/3 暗褐色 IX = Vb・Ta-d2P
≡ (φ 5 ↓) (均一)
- 2 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P (φ 5 ↓) (均一)



図VI-59 TP-57・58

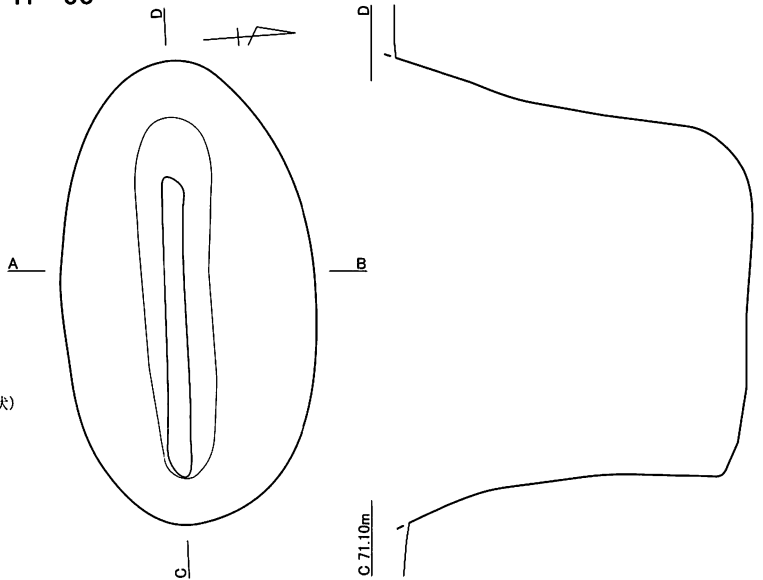
TP-59



TP-59

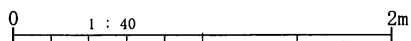
- 1 10YR2/2 黒褐色 Va
- 2 10YR2/1 黒色 Vb
- 3 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P (φ 3~5) (斑状)
- 4 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P (φ 1~3) (斑状)
- 5 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ 5~10) = Vb (斑状)
- 6 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P
- 7 10YR3/3 暗褐色 VI = Ta-d2P (φ 3~5) (斑状)
- 8 10YR2/1 黒色 Vb
- 9 10YR2/3 黒褐色 VI = Ta-d1スコリア (φ 3~5) (斑状)
- 10 10YR4/6 褐色 VI = Ta-d1スコリア・Ta-d2P (φ 3~5) (斑状)
- 11 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d1スコリア = Ta-d2P (φ 3~5) (斑状)
- 12 10YR2/2 黒褐色 Vb = Ta-d1スコリア
- 13 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P (φ 5~10) (斑状)
- 14 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2L = Vb
- 15 5YR3/4 暗赤褐色 Ta-d2P = Vb
- 16 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P
- 17 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P
- 18 10YR2/1 黒色 Vb
- 19 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P
- 20 5YR5/8 明赤褐色 Ta-d2P
- 21 10YR2/1 黒色 Vb = Ta-d2P

TP-60



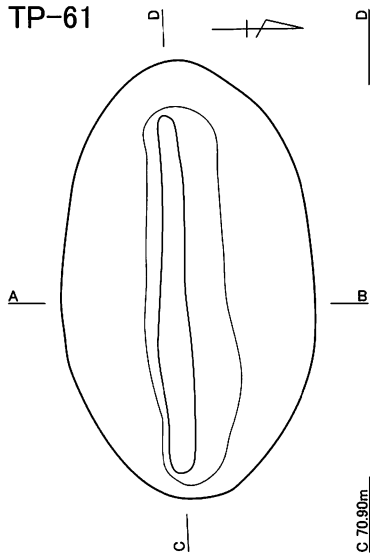
TP-60

- 1 10YR2/1 黒色 Vb ≡ Ta-d2P (φ 5~10) シルト岩 (斑状)
- 2 10YR3/3 暗褐色 Vb ≡ Ta-d2P (φ 10) シルト岩 (均一)
- 3 10YR3/4 暗褐色 VI = Ta-d2P (φ 10 ↓) (均一)
- 4 10YR4/6 褐色 VI = Ta-d2L (均一)
- 5 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L
- 6 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2P (φ 5~10)
- 7 10YR3/3 暗褐色 Vb = Ta-d2P (φ 5 ↓) (均一)
- 8 7.5YR5/8 明褐色 Ta-d2L = VI (均一)
- 9 10YR2/1 黒色 Vb
- 10 7.5YR4/6 褐色 Ta-d2L = IX (均一)
- 11 10YR5/4 にぶい黄褐色 IX
- 12 10YR7/6 明黄褐色 Ta-d2P (φ 5~10) (均一)
- 13 10YR4/6 褐色 Ta-d2L ≡ VI (均一)



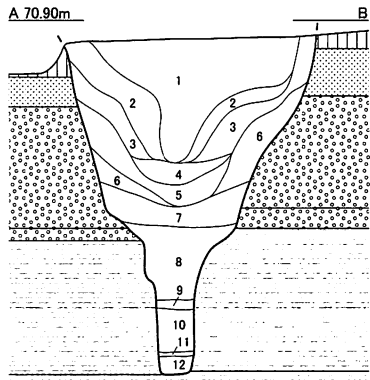
図VI-60 TP-59-60

TP-61

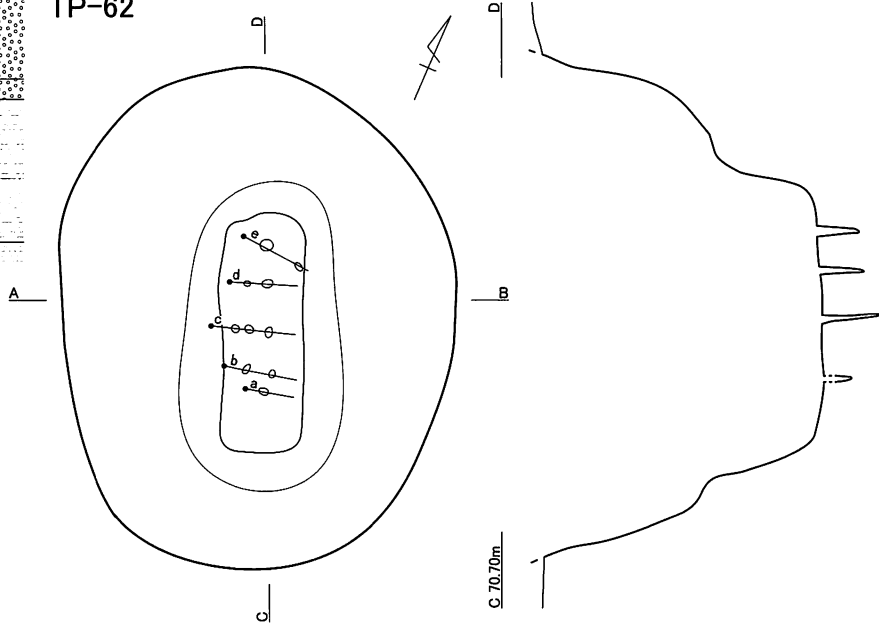


TP-61

- | | |
|-------------------|--|
| 1 10YR2/1 黒色 | Vb - シルト岩 ≡ Ta-d2P (φ 10 ↓) (均一) |
| 2 10YR2/2 黒褐色 | Vb = シルト岩・VI ≡ (均一) ≡ Ta-d2P (φ 10 ↓) (均一) |
| 3 10YR4/4 褐色 | VI - Ta-d1L (均一) = Ta-d2P (φ 5~10) |
| 4 10YR2/1 黒色 | Vb = VIブロック・Ta-d2P (φ 10 ↓) (均一) |
| 5 7.5YR5/6 明褐色 | Ta-d2L = Vb (均一) |
| 6 7.5YR5/8 明褐色 | Ta-d2P (φ 10~20) 崩落 |
| 7 10YR3/2 黒褐色 | Vb - Ta-d2P (φ 10~20) (均一) |
| 8 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2L集積 |
| 9 7.5YR5/6 明褐色 | Ta-d2L = IX (均一) |
| 10 10YR5/4 にぶい黄褐色 | IX = Ta-d2P (φ 10~20) (均一) |
| 11 10YR3/4 暗褐色 | Vb = Ta-d2L (均一) |
| 12 10YR5/8 黄褐色 | Ta-d2L = Vb (均一) |

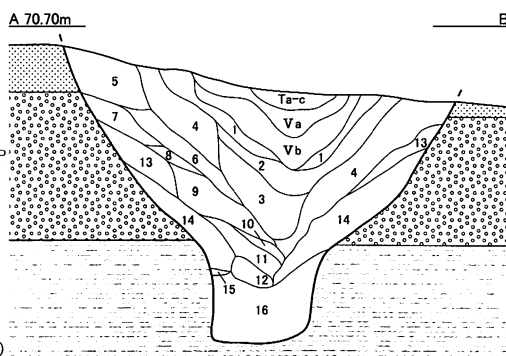


TP-62

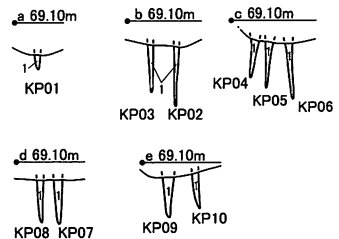


TP-62

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐色 | Vb = Ta-d2L・Ta-d2P (φ 5~10) (斑状) |
| 2 7.5YR6/6 橙色 | Ta-d2P (φ 10~30) ≡ Vb |
| 3 10YR2/3 黒褐色 | Vb = Ta-d2L・Ta-d2P (φ 10~20) (斑状) |
| 4 10YR2/3 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2L |
| 5 10YR2/2 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2L |
| 6 10YR2/3 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2L |
| 7 10YR2/3 黒褐色 | Vb = Ta-d2L・Ta-d2P (φ 3~5) (斑状) |
| 8 10YR2/1 黒色 | Vb ≡ Ta-d2P (φ 3~5) (斑状) |
| 9 7.5YR4/6 褐色 | Ta-d2L + Vb = Ta-d2P (φ 3~5) (斑状) |
| 10 10YR2/1 黒色 | Vb |
| 11 7.5YR5/6 明褐色 | Ta-d2P (φ 1~5) = Vb (斑状) |
| 12 10YR2/2 黒褐色 | Vb ≡ Ta-d2L しまりなし |
| 13 7.5YR5/8 明褐色 | Ta-d2L = Ta-d1スコリア |
| 14 7.5YR6/8 橙色 | Ta-d2P |
| 15 10YR4/6 褐色 | IX |
| 16 7.5YR6/8 明褐色 | Ta-d2P (φ 5~10) (斑状) |



TP-62.KP



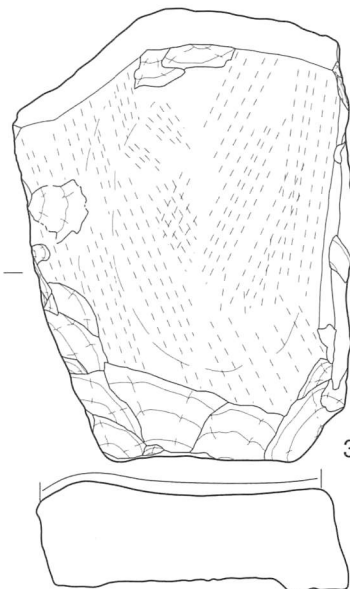
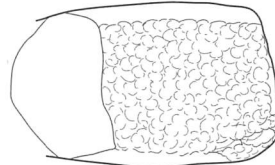
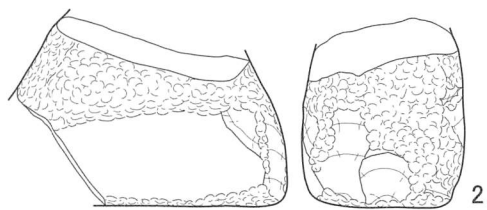
TP-62 KP

- 1 10YR2/1 黒色 Vb

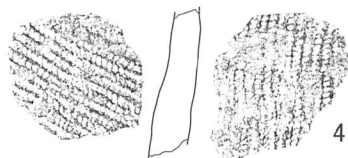


図VI-61 TP-61・62

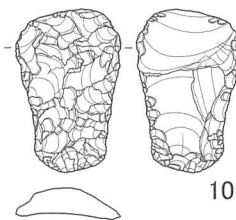
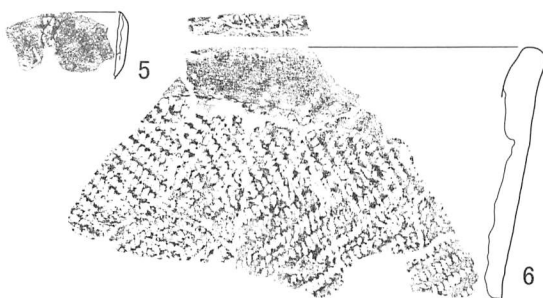
TP-05、VPB-03



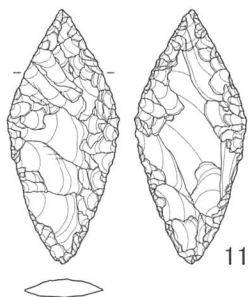
TP-10



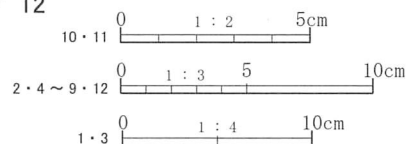
TP-11、VPB-01・04



TP-12

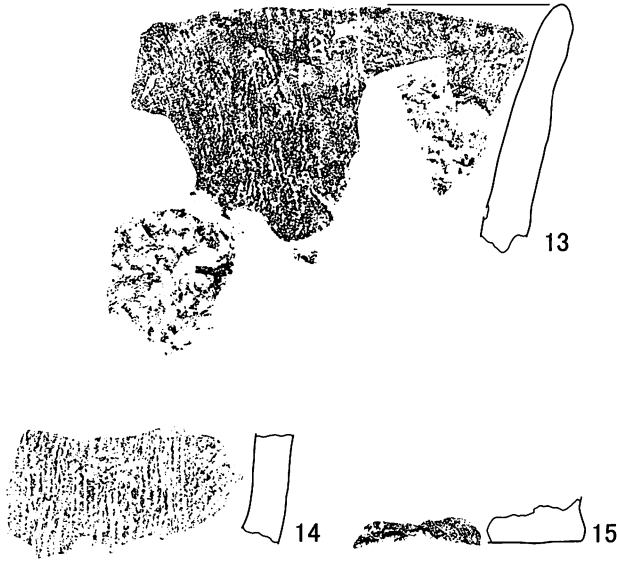


TP-22

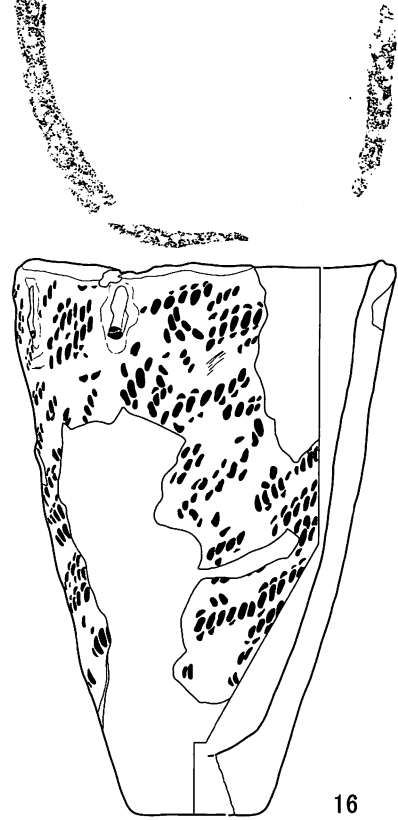


図VI-62 TP 出土遺物(1)

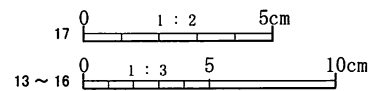
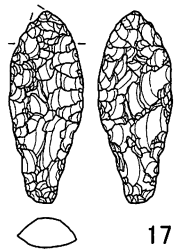
TP-29



TP-42、VPB-24



TP-58



図VI-63 TP 出土遺物 (2)

る。このような状態から、杭のようなものを立てていたとは想定しがたく、非常に浅いものがあることからも、偶発的に残った痕跡と捉えられる。これらのことから掘り具痕と考えられる。断面形状等から先細りの棒状の工具が想定できる。また、底面中央付近では殆ど確認できず、壁面の際で良好に残されているのは崩落等の埋没速度の違いも考えられるが、掘削方法として輪郭に沿って強く切れ込みをいれている可能性も考えられる。

表VI-30 Tピット計測一覧表

挿図 番号	図版 番号	遺構名	分類	グリッド	平面形 調査面/ 坑底面	調査 面層 位	調査面規模(cm)		坑底面規模(cm)		深さ (cm)	長軸 方向	杭 跡	重複	調査面 長短比	坑底面 長短比
							長軸	短軸	長軸	短軸						
VI-40	60-1-2	TP-01	C2	AI-7	楕円形/楕円形	VI	126	104	62	46	102	N-4°E	1	-	1.21	1.35
VI-40	60-3-4	TP-02	A1a	AM-8-9	楕円形/溝状	VI	314	96	250	10	110	N-45°E	-	-	3.27	25.00
VI-40	60-5-6	TP-03	A1a	AM-9	楕円形/溝状	VI	366	98	306	30	100	N-15°E	-	-	3.73	10.20
VI-41	60-7-8	TP-04	B2	AJ-6-7	楕円形/長楕円形	VI	(164)	110	158	20	102	N-7°E	3	-	-	7.90
VI-41	61-1-2	TP-05	A1a	AM-7-8 AN-8	長楕円形/溝状	VI	348	86	237	18	98	N-11°E	-	-	4.05	13.17
VI-41	61-3-6	TP-06	A2a	AL-AM-9	楕円形/溝状	VI	220	60	190	12	86	N-15°W	-	-	3.67	15.83
VI-42	61-7-8	TP-07	A1a	AM-AN-9	楕円形/溝状	VI	238	70	210	18	92	N-3°W	-	-	3.40	11.67
VI-42	62-1-2	TP-08	A1a	AN-8-9	楕円形/溝状	Vc	290	108	208	29	98	N-71°W	-	-	2.69	7.17
VI-42	62-3-4	TP-09	A1a	AM-6-7	楕円形/溝状	Vc	238	108	230	22	100	N-28°W	-	-	2.20	10.45
VI-42	62-5-6	TP-10	A1a	AN-10	楕円形/溝状	Vc	289	82	277	23	99	N-55°W	-	-	3.52	12.04
VI-43	62-7-8, 63-1-2	TP-11	C2	AM-10-11	楕円形/楕円形	Vc	178	158	88	50	88	N-24°E	8	-	1.13	1.76
VI-43	63-3-5	TP-12	C2	AM-9-10	楕円形/楕円形	F3	156	140	85	36	92	N-21°E	2	-	1.11	2.36
VI-43	63-6-7	TP-14	A1a	AN-10-11, AO-10	楕円形/溝状	F3	262	68	224	20	88	N-49°W	-	-	3.85	11.20
VI-44	64-1-2	TP-15	A1a	AK-AL-9	楕円形/溝状	VI	284	80	282	20	100	N-5°E	-	-	3.55	14.10
VI-44	64-3-4	TP-16	C2	AL-6	円形/楕円形	F3	146	146	72	50	84	N-75°W	2	-	1.00	1.44
VI-44	64-5-6	TP-17	A1a	AK-8	楕円形/溝状	VI	242	80	234	12	108	N-65°E	-	-	3.03	19.50
VI-44	64-7-8	TP-18	A1a	AF-AG-9	楕円形/溝状	VI	270	72	230	16	100	N-0°	-	-	3.75	14.38
VI-45	65-1-4	TP-20	C2	AH-6-7	不整形/楕円形	VI	150	140	48	62	88	N-42°W	2	-	1.07	0.77
VI-45	65-5-6	TP-21	A1a	AG-8	長楕円形/溝状	VI	288	60	250	14	100	N-0°	-	-	4.80	17.86
VI-45	65-7-8	TP-22	A1a	AJ-AK-10	楕円形/溝状	Vc	324	86	293	24	112	N-18°E	-	-	3.77	12.21
VI-46	65-9-10	TP-23	A1a	AI-9-10	長楕円形/溝状	VI	270	62	250	14	92	N-25°E	-	-	4.35	17.86
VI-46	66-1-4	TP-24	A1a	AL-10	長楕円形/溝状	VI	254	60	244	16	84	N-79°E	-	-	4.23	15.25
VI-46	66-5-7	TP-25	C2	AF-8	円形/楕円形	VI	106	88	56	29	68	N-50°E	1	-	1.20	1.93
VI-46	66-8-9	TP-27	C2	AM-11	楕円形/楕円形	VI	112	80	68	38	74	N-52°W	2	-	1.40	1.79
VI-47	67-1-2	TP-28	B1	AI-6	楕円形/長楕円形	F3	226	104	156	30	98	N-56°E	-	-	2.17	5.20
VI-47	67-3-5	TP-29	C2	AF-9	楕円形/楕円形	F3	96	66	76	40	62	N-88°W	1	-	1.45	1.90
VI-47	67-6-9	TP-30	C2	AD-9	楕円形?/楕円形	F3	(113)	114	58	36	68	N-89°W	2	-	-	1.61
VI-47	68-1-2	TP-31	C2	AN-12	楕円形/楕円形	VI	98	70	72	31	60	N-68°W	1	-	1.40	2.32
VI-47	68-3-5	TP-32	C2	AG-10	楕円形?/楕円形	VI	(108)	86	72	28	62	N-88°E	2	-	-	2.57
VI-48	-	TP-33	C1	AA-19	円形/楕円形	VI	102	88	50	32	106	N-79°W	-	-	1.16	1.56
VI-48	68-6-7	TP-34	C1	AM-20-21	楕円形/楕円形	VI	183	78	149	28	106	N-13°W	-	-	2.35	5.32
VI-48	68-8-9	TP-35	A2a	AJ-AK-21	長楕円形?/溝状	Vc	(279)	52	194	17	82	N-8°E	-	-	-	11.41
VI-48	-	TP-36	A2a	AK-AL-22	楕円形/溝状	VI	232	80	194	18	108	N-39°E	-	-	2.90	10.78
VI-49	69-1-3	TP-37	A2a	Z-AA-23	楕円形/溝状	VIII	220	152	178	12	160	N-31°W	-	-	1.45	14.83
VI-49	69-4-8	TP-38	C2	AF-21-22	楕円形/楕円形	VIII	198	117	140	38	118	N-51°W	6	-	1.69	3.68
VI-49	69-9-10	TP-39	B2	AB-16-17	楕円形/長楕円形	VIII	232	114	181	32	100	N-50°W	6	-	2.04	5.66
VI-50	70-1-3	TP-40	-	AL-AM-17	-/溝状	VI	(110)	50	(96)	10	140	N-45°E	-	-	-	-
VI-50	70-4-5	TP-41	A2a	AK-17-18	長楕円形/溝状	VIII	(230)	64	184	8	104	N-28°W	-	-	-	23.00
VI-51	70-6-12	TP-42	B2?	AM-AN-16-17	楕円形/長楕円形	VI	(316)	186	(160)	24	98	N-54°E	28	-	-	-
VI-52	71-1-17	TP-43	C2	AC-18, AD-17-18	楕円形/楕円形	VIII	261	182	161	65	117	N-53°E	3	-	1.43	2.48
VI-53	71-18-19	TP-44	C1	AD-14	楕円形/楕円形	VIII	127	88	62	46	92	N-63°W	-	-	1.44	1.35
VI-54	72-1-3	TP-45	C2	AE-16	楕円形/楕円形	Vc	224	168	156	62	116	N-29°E	4	-	1.33	2.52
VI-55	72-4-5	TP-46	B1	AI-14	楕円形/長楕円形	VIII	224	77	166	32	92	N-50°W	-	-	2.91	5.19
VI-55	-	TP-47	B1	AH-AI-15	楕円形/長楕円形	VIII	254	72	176	30	80	N-31°W	-	-	3.53	5.87
VI-55	72-6-7	TP-48	C2	AI-14	円形/円形	VIII	96	96	68	56	102	N-59°W	1	-	1.00	1.21
VI-55	73-1-2	TP-49	A1a	AG-16	長楕円形/溝状	VIII	248	52	199	12	96	N-78°W	-	-	4.77	16.58
VI-56	73-3-4	TP-50	A1a	AI-AJ-15	楕円形/溝状	VIII	284	78	234	12	108	N-45°W	-	-	3.64	19.50
VI-56	73-5-6	TP-51	B2	T-U-23	楕円形/長楕円形	VI	286	114	224	20	112	N-26°W	9	-	2.51	11.20
VI-56	73-7, 74-1-2	TP-52	B2	T-U-22	楕円形/長楕円形	VI	252	123	213	27	106	N-25°W	5	-	2.05	7.89
VI-57	74-3-4	TP-53	A2a	T-21-22, U-22	楕円形/溝状	VI	216	130	169	20	159	N-53°E	-	-	1.66	8.45
VI-57	74-5-6	TP-54	A1b	U-22-23	楕円形/溝状	VI	317	130	268	20	150	N-30°W	4	-	2.44	13.40
VI-58	75-1-2	TP-55	A2b	W-22-23	楕円形/溝状	VIII	256	142	189	14	164	N-86°W	5	-	1.80	13.50
VI-58	75-3-4	TP-56	A2a	S-T-21-22	楕円形/溝状	VI	263	112	192	16	166	N-40°W	-	-	2.35	12.00
VI-59	75-5-6	TP-57	A1a	J-30K-29-30	楕円形/溝状	VI	260	100	210	12	126	N-40°W	-	-	2.60	17.50
VI-59	75-7, 76-1-2	TP-58	C2	P-21	楕円形/楕円形	VI	212	164	152	52	106	N-15°W	2	-	1.29	2.92
VI-60	76-3-4	TP-59	C2	P-Q-24-25	楕円形/楕円形	VI	237	(190)	151	68	108	N-0°	2	-	-	2.22
VI-60	76-5-6	TP-60	A2a	X-Y-22-23	楕円形/溝状	VI	244	133	158	12	186	N-90°W	-	-	1.83	13.17
VI-61	77-1-2	TP-61	A2a	Y-Z-22-23	楕円形/溝状	VI	231	134	188	14	176	N-88°E	-	-	1.72	13.43
VI-61	77-3-4	TP-62	C2	V-W-20	楕円形/楕円形	VIII	264	210	128	44	140	N-20°W	9	-	1.26	2.91

表VI-31 TP出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-62-1	128-1-1	JP130A	II A	VPB-03	VbL	11	口縁 ~ 胴部 下半	平縁・直立-角状/ 外傾	LR斜行縄文	繊維極多量 混入	
VI-62-4	128-1-4	JP009B	IVB1	TP-10	1	1	胴部	やや外傾	RL斜行縄文- RL縦走縄文	砂礫多量 混入・ φ2~3mm石 英	富良野 盆地系 土器
VI-62-5	128-1-5	JP008B	IVB1	VPB-01	VbU	66	口縁 部	小突起・直立 -隅丸角状	無文帯+縦位縄線 文	φ1~3mm 砂礫混入	
VI-62-6	128-1-6	JP008A	IVB1	VPB-01	VbU	7	口縁 ~ 胴部	平縁・直立- 隅丸角状/ やや外傾	RL斜行縄文-無文帯 -RL?斜行縄文/ 2段異原体羽状縄文	φ1~3mm 砂礫混入	施文後 ナデ 調整
				AM-10	VbL	2					
VI-62-7	128-1-7	JP008C	IVB1	VPB-01	VbU	3	口縁 部	平縁・直立 -隅丸角状	LR斜行縄文 -LR横走縄文 +RL縦走縄文	φ1~3mm 砂礫混入	土器外 面全面 剥落
VI-62-8	128-1-8	JP008D	IVB1	VPB-04	VbU	1	胴部 下半	外傾	重複縄文	φ1~3mm 砂礫混入	施文後 ナデ調 整頭著
VI-62-9	128-1-9	JP008E	IVB1	VPB-01	VbU	1	底部	外傾-隅丸角状 -平底	LR斜行縄文	φ1~3mm 砂礫混入	施文後 ナデ 調整
VI-62-12	128-1-12	JP095	II B	TP-22	1	1	口縁 ~ 底部	平縁・やや外傾 -丸状/やや外傾 /やや外傾-丸状 -平底	無文	繊維多量 混入	内面: 縦ナデ 調整
VI-63-13	128-1-13	JP106A	II B	TP-29	1	3	口縁 ~ 胴部 上半	平縁・やや外傾 -丸状/やや外傾	撚糸文/撚糸文	繊維多量 混入	内面:指 頭によ る縦ナ デ調整
				AF-10	VbL	1					
VI-63-14	128-1-14	JP106C	II B	TP-29	6	1	胴部 下半	やや外傾	撚糸文	繊維多量 混入	
VI-63-15	128-1-15	JP106B	II B	TP-29	6	1	底部	直立-張出し-平 底	無文	繊維多量 混入	
VI-63-16	129-1-1	JP006	IVB1	VPB-24	VbL	21	口縁 ~ 底部	平縁・やや外傾 -隅丸角状/外傾 /外傾-隅丸角状 ・平底	LR斜行縄文-刺突文 (縄文)・LR斜行縄文 /LR斜行縄文	砂粒極多量 混入	施文後 ナデ調 整

表VI-32 TP出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-62-2	128-1-2	-	1522	すり石	IV	VbL	VPB-03	-	(105.6)	(75.0)	64.2	716.0	Sa.	
VI-62-3	128-1-3	-	1521	台石	-	VbL	VPB-03	-	(240.0)	177.0	55.3	3550.0	Sa.	
VI-62-10	128-1-10	-	1722	ポイント類	-	1	TP-11	-	(43.0)	27.4	8.4	18.0	Obs.	
VI-62-11	128-1-11	-	1554	ポイント類	B2	1	TP-12	-	67.8	29.1	7.4	19.2	Obs.	
VI-63-17	129-1-2	-	27533	ポイント類	B2	1	TP-58	-	(51.3)	19.7	7.2	7.3	Obs.	

第5節 焼土

焼土は49カ所検出している。全てT₃面で検出されており、T₁面からは出土していない。焼土の分布はある程度のまとまりをもって出土しているものが多いことから、このまとまりを8カ所のグループに分けて記載を行う。ただし、各焼土について時期を特定できたものは殆どなく、このグループ内のものが全て同時期を示すものではない。また、本来検出層位が時期を推察する1つの指標となるが、調査時に発見が遅れ、燃焼面を削平してしまっているものも少ないことから、検出層位

は判断材料となりにくくなってしまっている。このような状態ではあるが、T₃面の主体は前期後葉であることから大半のものはこの時期のものと思われる。

これらのグループに含まれるものも、含まれないものについても特筆すべきものを除いて個別の記載は行っていないので、各図と表を参照されたい。

グループ A (VF-18~26、28~32) (図VI-66・67 図版 80~83)

1742×1190 cmの範囲から 14 ヲ所の焼土が検出されている。西側にはVSB-01~03の集石が分布しており、南側にはVH-01があり、これらとは重複せずに検出している。VSB-01~03を検出した面で大半のものは検出しており、当初この集石と関連するものと考えていたが、整理作業の段階で集石の構成礫のほぼ全てに被熱の痕跡が見られないことから直接的な関連性はないと判断した。平面形は不整形を呈するものが多い。規模は長軸が35~70 cm程のもので、平面規模が大きいものほど被熱層は厚く形成されている傾向がある。また、被熱層が厚いものほど赤色化は著しい。特徴的なものとして、VF-23・24の燃焼面が中央で浅く窪んでいることが上げられる。各焼土で回収した土壌のフローテーションを行った結果、VF-28でクルミ属、VF-29で不明の焼骨片が得られている。この範囲内からは土器集中が3 ヲ所(VPB-17・21・22)検出している。この内、VPB-17はVa層で検出した晩期の土器で時期が全く異なるものである。VPB-21・22は共にII B2b類の大麻V式土器である。このような出土状態から、本グループの主体となる時期は大麻V式頃と思われる。

グループ B (VF-01・11) (図VI-65 図版 80~78・80)

465×46 cmの範囲から 2 ヲ所の焼土が検出されている。東側にはVSB-01~03が出土している。平面形は共に不整形である。VF-11は被熱層の厚さは8 cmと厚い。VF-11を中心として土器集中が1 ヲ所(VPB-15)検出している。VPB-15からはII B2a類の円筒下層d式が2 個体出土している。本グループの主体となる時期は円筒下層d式頃と思われる。

グループ C (VF-02・10・12) (図VI-65 図版 78~80)

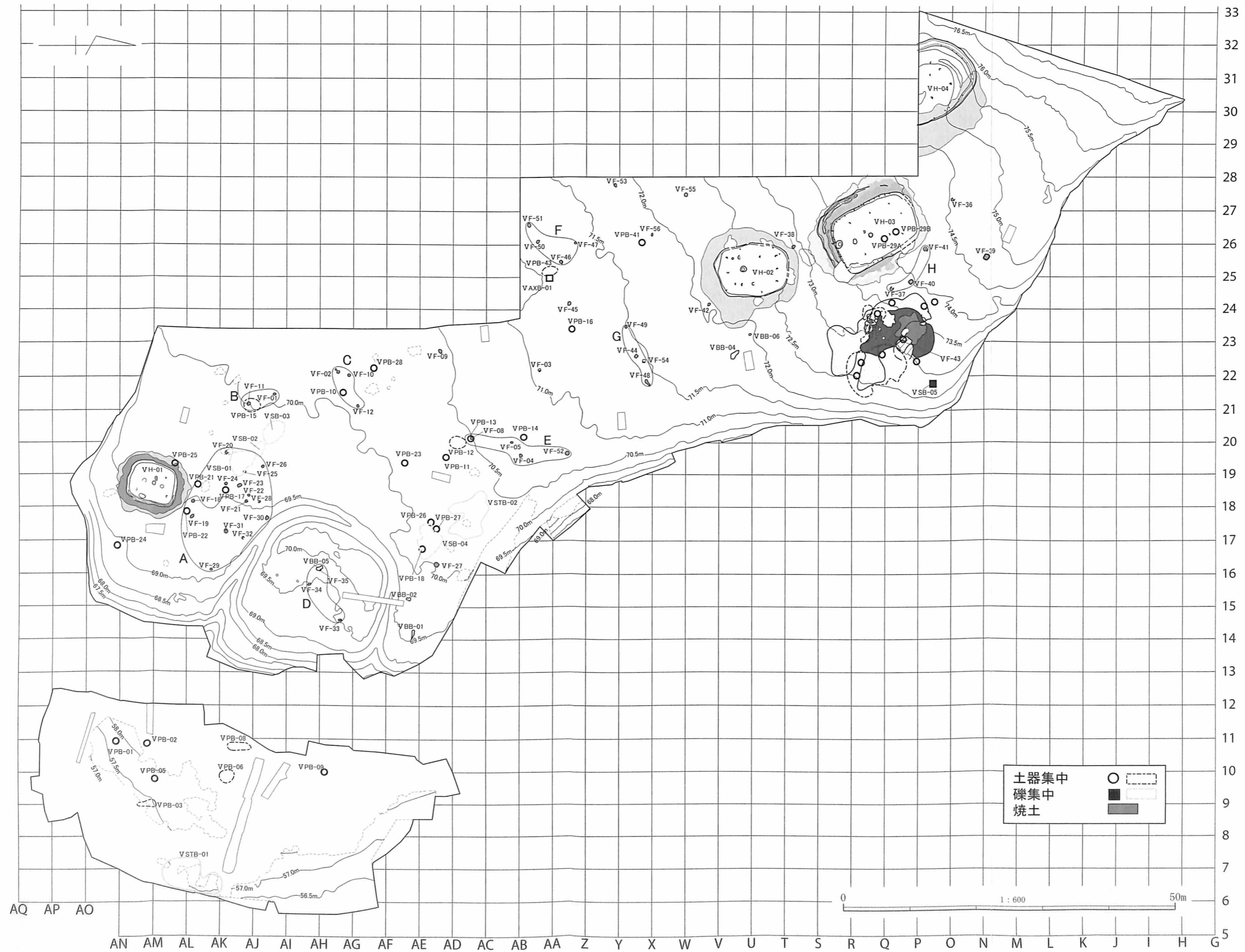
668×163 cmの範囲から 3 ヲ所の焼土が検出されている。南側にはグループ Bの焼土群がある。平面形はVF-02・10が不整形、VF-12が楕円形を呈する。被熱層の厚さは4~6 cmである。この範囲内からは土器集中が1 ヲ所(VPB-10)と、この範囲に近接してVPB-28が出土している。VPB-10・28は共に大麻V式土器である。本グループの主体となる時期は大麻V式頃と思われる。

グループ D (VF-33~35) (図VI-67 図版 83・84)

852×281 cmの範囲から 3 ヲ所の焼土が検出されている。平面形はVF-35が不明で、VF-33・34は細長い楕円形で規模も非常に似ている。被熱層の厚さはいずれも7~9 cmと厚く形成されている。また、VF-33・35は燃焼面が浅く窪んでいる。この周囲から土器集中は出土していない。

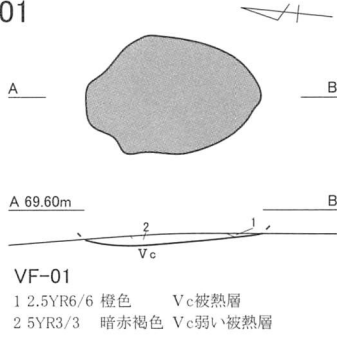
グループ E (VF-04・05・08・52) (図VI-65・69 図版 78・79・88)

1515×218 cmの範囲から 4 ヲ所の焼土が検出されている。平面形は円形、楕円形、不整形と多様で、被熱層の厚さは5~10 cm程である。平面規模の小さいVF-05が被熱層の厚さが10 cmと厚

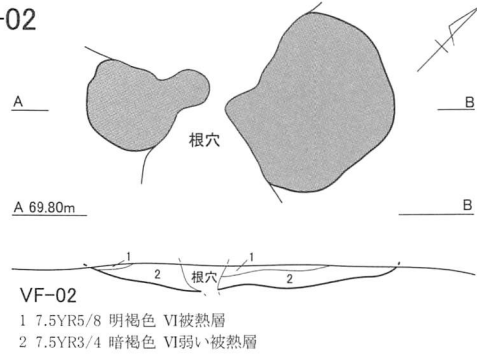


図VI-64 焼土配置図

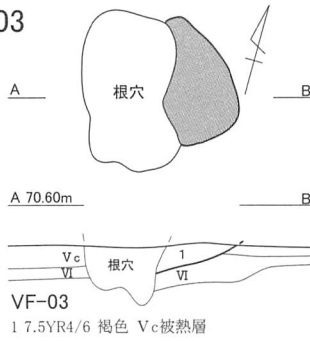
VF-01



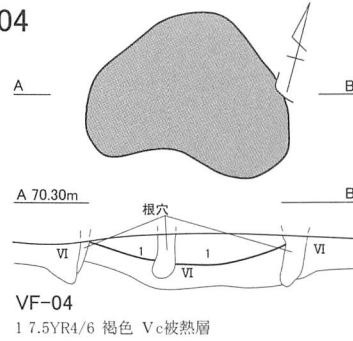
VF-02



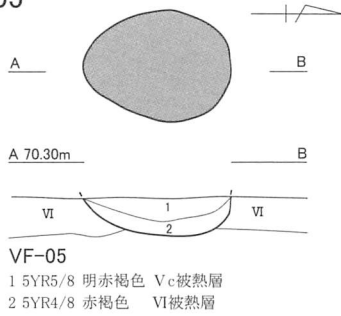
VF-03



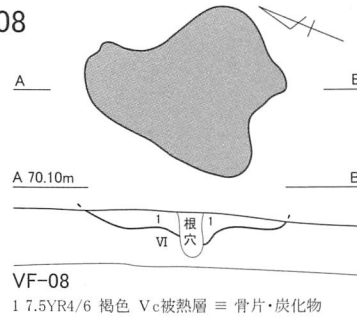
VF-04



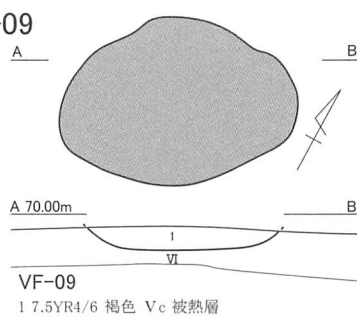
VF-05



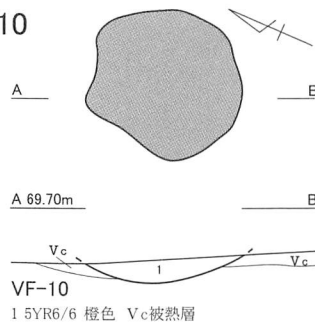
VF-08



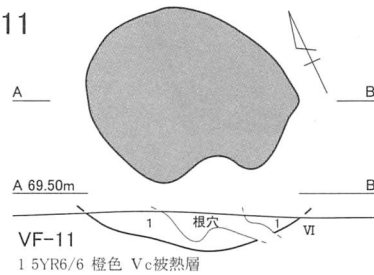
VF-09



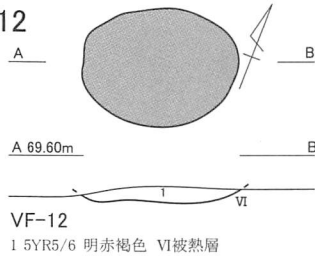
VF-10



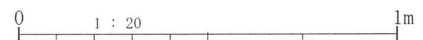
VF-11



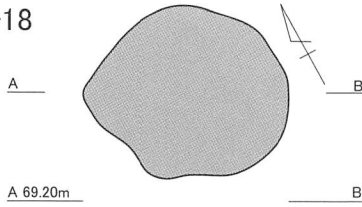
VF-12



図VI-65 VF-01 ~ 05・08 ~ 12

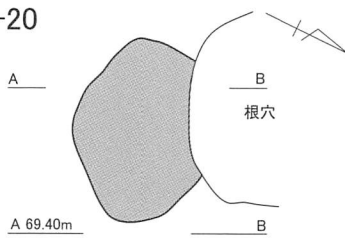


VF-18



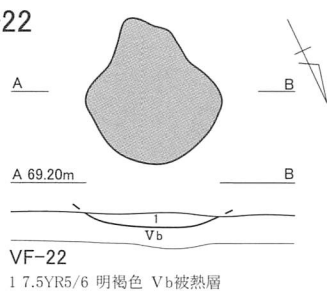
VF-18
1 7.5YR6/8 橙色 Vb被熱層

VF-20



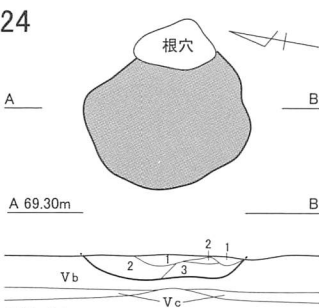
VF-20
1 7.5YR4/6 褐色 Vb被熱層
2 7.5YR4/4 暗褐色 Vb被熱層

VF-22



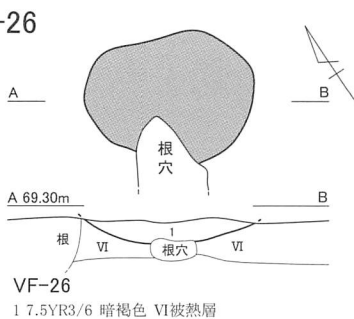
VF-22
1 7.5YR5/6 明褐色 Vb被熱層

VF-24



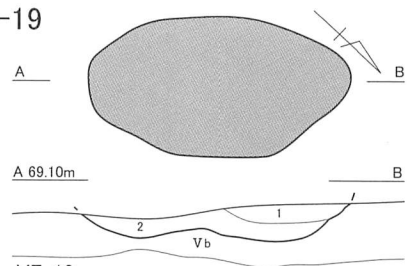
VF-24
1 7.5YR3/3 暗褐色 Vb = 焼土・炭化物
2 7.5YR4/6 褐色 Vb被熱層
3 7.5YR4/3 暗褐色 Vb弱い被熱層

VF-26



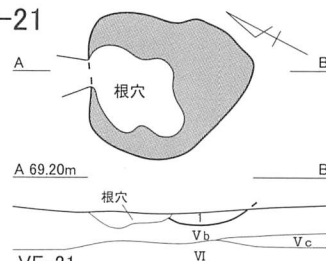
VF-26
1 7.5YR3/6 暗褐色 VI被熱層

VF-19



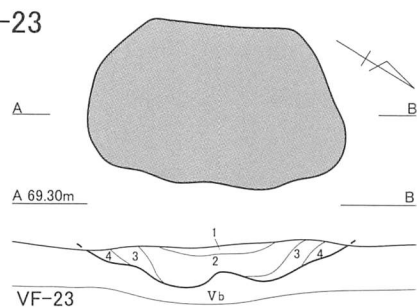
VF-19
1 7.5YR6/8 橙色 Vb地山被熱層

VF-21



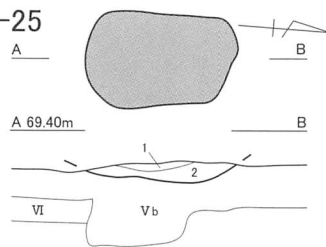
VF-21
1 7.5YR4/6 褐色 Vb被熱層

VF-23



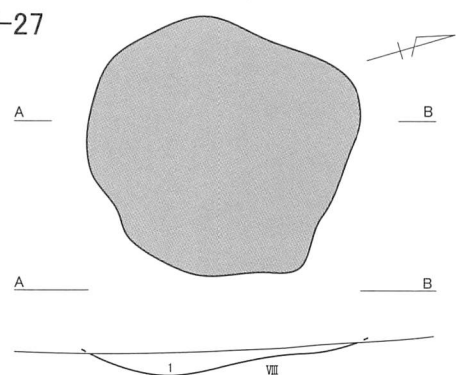
VF-23
1 7.5YR4/4 褐色 Vb = 焼土粒
2 7.5YR5/6 明褐色 Vb被熱層
3 7.5YR4/6 褐色 Vb弱い被熱層
4 7.5YR2/3 極暗褐色 Vb弱い被熱層

VF-25



VF-25
1 7.5YR5/6 明褐色 Vb被熱層
2 7.5YR4/8 褐色 Vb弱い被熱層

VF-27

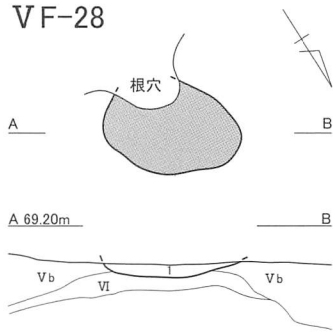


VF-27
1 2.5YR5/8 明赤褐色 VII被熱層

図VI-66 VF-18 ~ 27



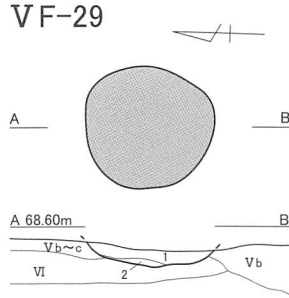
VF-28



VF-28

1 5YR5/8 明赤褐色 Vb 被熱層

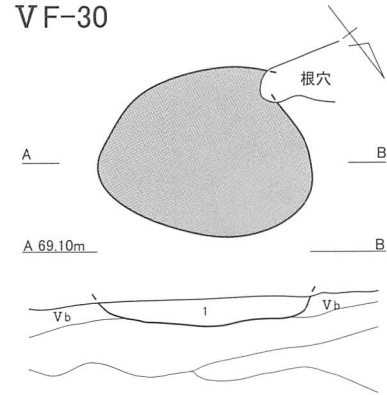
VF-29



VF-29

1 7.5YR5/6 明褐色 Vb 被熱層 上に焼骨片 微量含む
2 7.5YR6/8 橙色 VI 被熱層

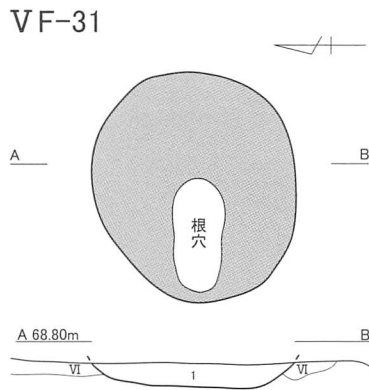
VF-30



VF-30

1 7.5YR5/8 明褐色 Vb 被熱層

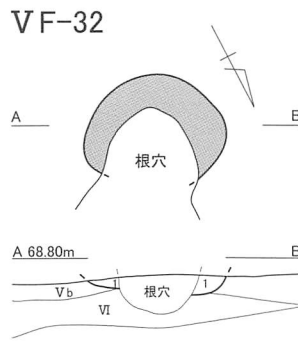
VF-31



VF-31

1 7.5YR5/8 明褐色 VI 被熱層

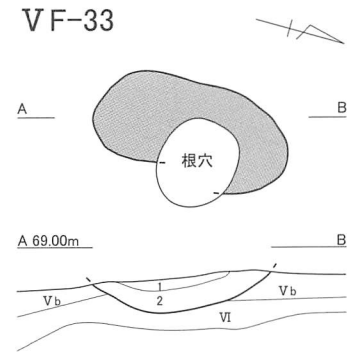
VF-32



VF-32

1 7.5YR4/6 褐色 Vb 被熱層

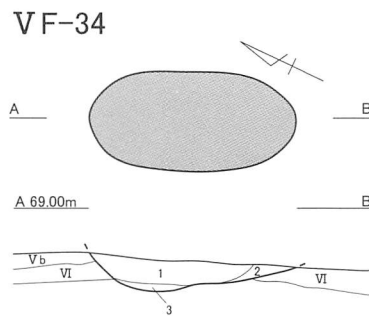
VF-33



VF-33

1 7.5YR4/6 褐色 Vb = 焼骨片
2 7.5YR5/8 明褐色 Vb 被熱層

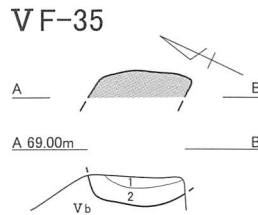
VF-34



VF-34

1 7.5YR5/8 明褐色 Vb 被熱層
2 7.5YR4/3 褐色 Vb 弱い被熱層
3 7.5YR3/3 暗褐色 VI 弱い被熱層

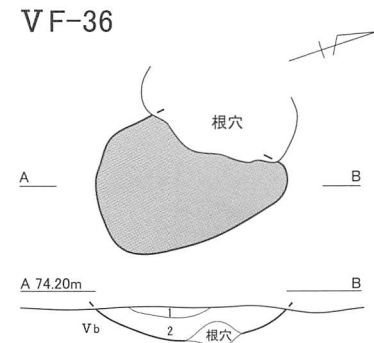
VF-35



VF-35

1 10YR3/2 黒褐色 Vb - 焼骨片
2 5YR5/8 明赤褐色 Vb 被熱層

VF-36



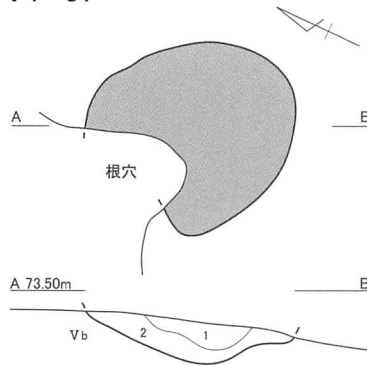
VF-36

1 10YR3/3 暗褐色 Vb = 焼土
2 5YR5/8 明赤褐色 Vb 被熱層



図VI-67 VF-28 ~ 36

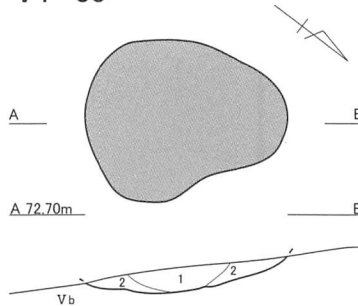
VF-37



VF-37

- 1 10YR4/4 褐色 Vb = 焼骨片
- 2 5YR5/8 明赤褐色 Vb 被熱層

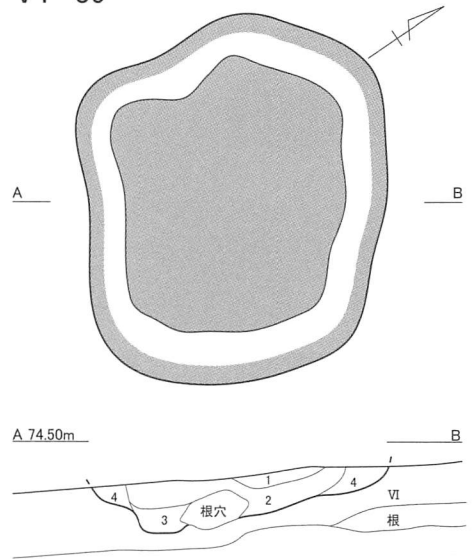
VF-38



VF-38

- 1 10YR4/6 褐色 Vb 強い被熱層
- 2 10YR3/4 暗褐色 Vb 弱い被熱層

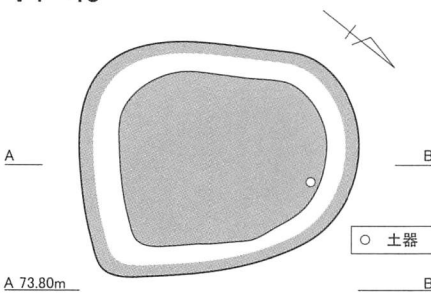
VF-39



VF-39

- 1 7.5YR2/3 極暗褐色 土壌化した灰層 = 炭化物
- 2 7.5YR5/8 明褐色 Vb 強い被熱層
- 3 7.5YR3/4 暗褐色 Vb 弱い被熱層
- 4 10YR2/1 黒色 付帯黒色層

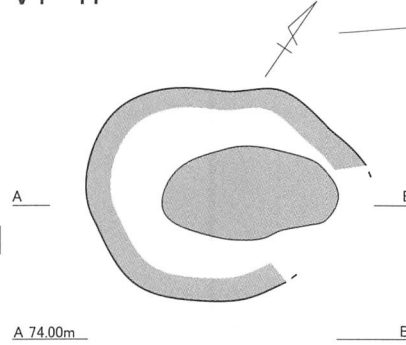
VF-40



VF-40

- 1 10YR2/3 黒褐色 Vb
- 2 10YR3/3 暗褐色 土壌化した灰層 ≡ 焼骨片
- 3 7.5YR5/8 明褐色 Vb 強い被熱層
- 4 10YR2/1 黒色 付帯黒色層
- 5 10YR2/3 黒褐色 Vb = Ta-dP 根穴か?

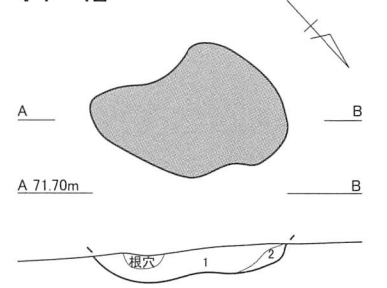
VF-41



VF-41

- 1 7.5YR5/8 明褐色 Vb 被熱層
- 2 10YR2/3 黒褐色 付帯黒色層

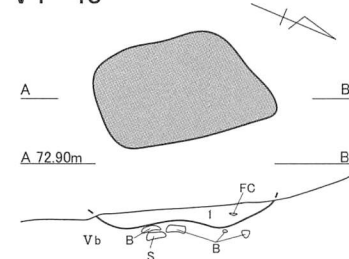
VF-42



VF-42

- 1 7.5YR5/8 明褐色 Vb 強い被熱層
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 Vb 弱い被熱層

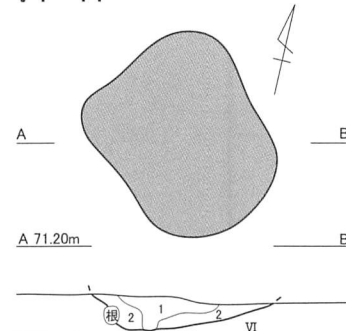
VF-43



VF-43

- 1 10YR4/4 褐色 Vb 強い被熱層

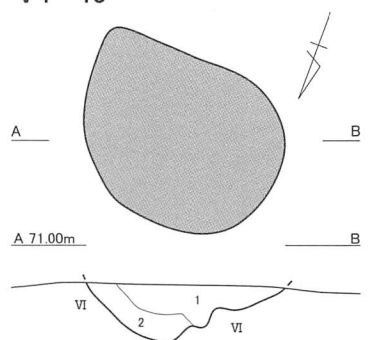
VF-44



VF-44

- 1 10YR3/4 暗褐色 VI 被熱層 ≡ 炭化物(均一)
- 2 7.5YR5/8 明褐色 VI 被熱層 ≡ 炭化物(均一)

VF-45

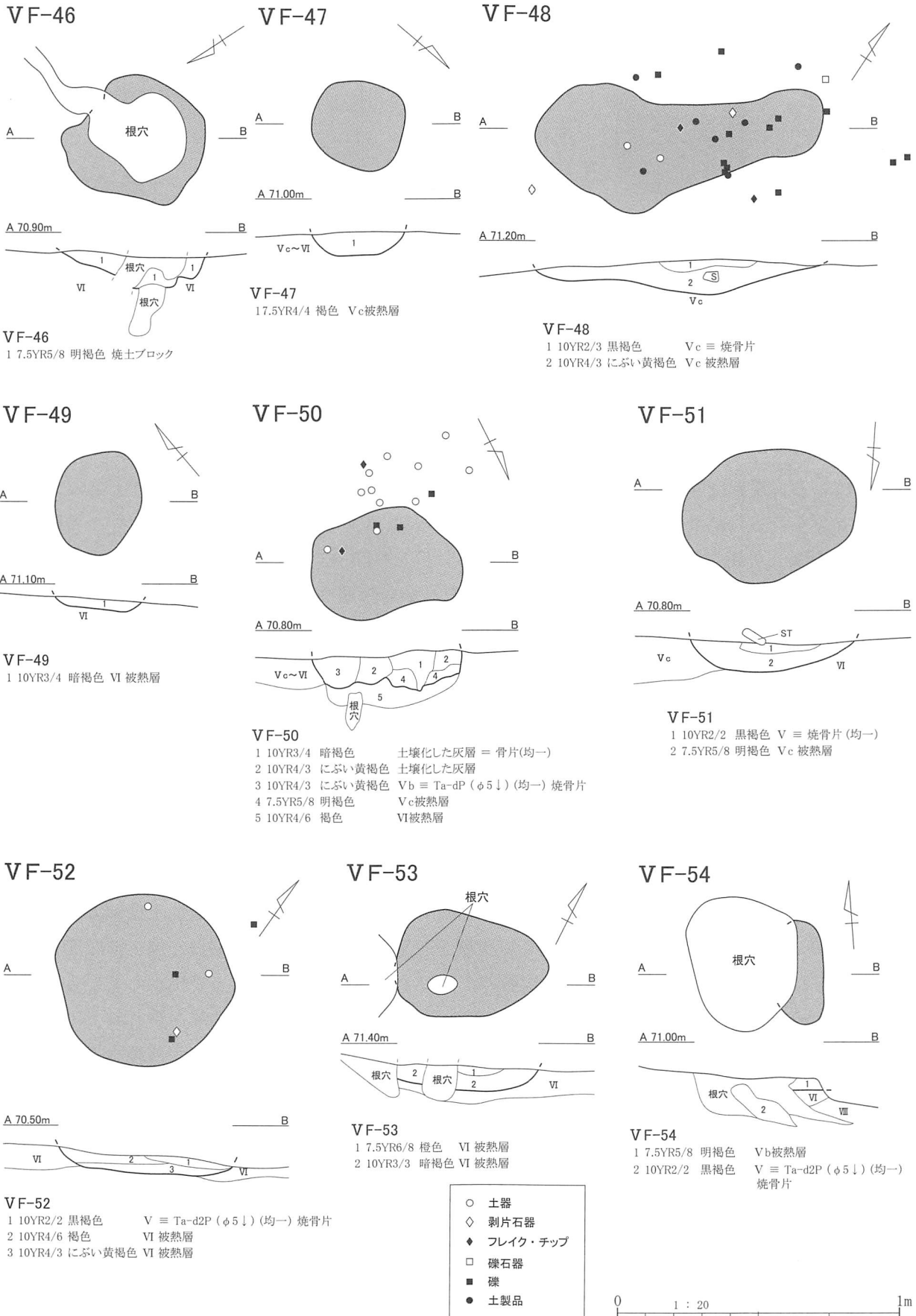


VF-45

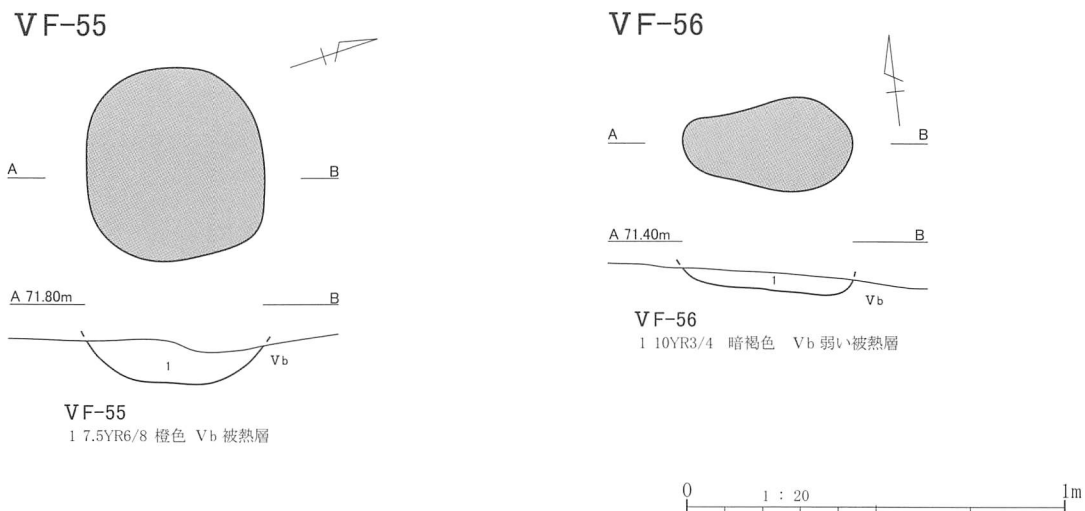
- 1 10YR2/1 黒色 Vb 被熱層
- 2 10YR5/8 黄褐色 VI 被熱層

図VI-68 VF-37 ~ 45





図VI-69 VF-46 ~ 54



図VI-70 VF-55・56

くなっている。現場段階ではVF-08・52で上に焼骨片を確認していたが、回収した土壌のフローテーションを行った結果、VF-52で哺乳綱の骨が得られ、VF-08では得られていない。この範囲内で土器集中は2カ所（VPB-13・14）検出している。但しVPB-13は後期中葉の土器集中で、この基底面から15cm程下層でVF-08が検出していることから時期は全く異なるものと考えられる。VPB-14は円筒下層d式土器である。本グループの主体となる時期は円筒下層d式土器頃と思われる。

グループF（VF-46・47・50・51）（図VI-69・71 図版86・87・88）

812×268cmの範囲から4カ所の焼土が検出されている。平面形は隅丸方形、楕円形、不整形のものがある。被熱層の厚さは7～14cmと比較的厚く形成されているものが多い。VF-46は中央が大きな根穴で攪乱されており、土層断面でも根穴により焼土が押し込まれている。VF-50は縄文時代の焼土で唯一灰層が良好に残存していたものである。Vb層下位で焼骨片とにぶい黄褐色を呈する範囲を確認していた。この長軸に沿ってトレンチを掘削したところ、この下層で焼土を確認したことからVF-50とし、焼骨片を含む色調の明るい土層を灰層として捉えた。灰層は、焼土形成面を示しており良好な層位的データとなる。この灰層の上で土器片がややまとまって出土している。この土器は図VI-71-1で円筒下層d式土器である。VF-52からは種別不明の焼骨片が得られている。このグループに近接してVPB-43の土器集中が検出している。これはII B2a類の土器集中である。VF-50の土器の出土状態と合わせて考えると、このグループの主体となる時期は円筒下層d式頃と思われる。

グループG（VF-44・48・49・54）（図VI-68・69 図版86～88）

949×150cmの範囲から4カ所の焼土が検出されている。平面形は楕円形、不整形のものがあり、被熱層の厚さは4～10cmである。VF-54は根穴により大きく攪乱されており、この根によって焼土は押し込まれている。VF-48からは種別不明の焼骨片が得られている。なお、この周囲から土器集中は出土していない。

グループH (VF-37・40・41) (図VI-68 図版 84・85)

857×216 cmの範囲から3カ所の焼土が検出されている。西側にVH-03、東側には「シカ塚」(VBB-03)を検出している。平面形は不整形、楕円形のものがあり、被熱層の厚さは5~13 cmである。VF-40は断面で被熱層の下に黒色土の落ち込みが見られることから、根痕の窪みを利用したものと考えられる。燃焼面の上には焼骨片を含む色調の明るい土層が堆積しており、土壌化した灰層と思われる。燃焼面は中央で浅く窪んでいる。現場段階ではVF-37・40で骨片を確認しており、これらの焼土の土壌を回収し、フローテーションを行ったが同定可能な焼骨片は得られていない。

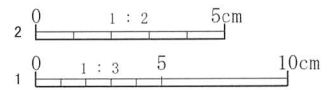
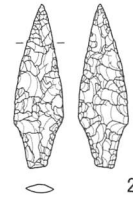
その他 (VF-03・09・27・36・38・39・42・43・45・53・55・56) (図VI-65~70 図版 78・79・84~86・88・89)

グループに含まれなかったものは12カ所ある。特筆すべきものにVF-43がある。VF-43はシカ塚(VBB-03)の縁辺で検出している。被熱層に黒色土が混入しないことから、廃棄された焼土ではなく、地床炉と考えられる。この上面、被熱層中、被熱層の下でもシカの歯冠片が出土することから、シカ塚形成中に利用されたものだと考えられる。このことからシカ塚は前期後半のもので、VF-43もこの時期のものと考えられる。

VF-50



VF-52



図VI-71 VF出土遺物

表VI-33 縄文時代焼土属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	確認層位	平面形	規模 (cm)			灰・骨片の有無	備考
						長軸	短軸	厚さ		
VI-65	78-1・2	VF-01	AI-21	Vc	不整形	47	31	3	-	
VI-65	78-3・4	VF-02	AG-22	VI	不整形	81	47	7	-	
VI-65	78-5・6	VF-03	AA-22	Vc	-	33	(20)	7	-	
VI-65	78-7・8	VF-04	AA・AB-19	VI	不整形	51	41	8	-	
VI-65	79-1・2	VF-05	AB-19・20	VI	楕円形	39	29	10	-	
VI-65	79-3・4	VF-08	AC-20	VI	不整形	52	45	8	-	
VI-65	79-5・6	VF-09	AD-22	VI	楕円形	63	45	6	-	
VI-65	79-7・8	VF-10	AG-21・22	Vc	不整形	41	40	6	-	
VI-65	80-1・2	VF-11	AJ-21	VI	不整形	56	46	10	-	
VI-65	80-3・4	VF-12	AF-21	VI	楕円形	41	32	5	-	
VI-66	80-5・6	VF-18	AK-18	Vb	不整形	54	45	6	-	
VI-66	80-7・8	VF-19	AK-17	Vb	楕円形	69	37	10	-	
VI-66	-	VF-20	AJ-19	Vb	楕円形	49	(31)	4	-	
VI-66	81-2・3	VF-21	AJ-18	Vb	不整形	(22)	38	3	-	
VI-66	81-4・5	VF-22	AJ-18	Vb	不整形	37	35	4	-	
VI-66	82-1・2	VF-23	AJ-18	Vb	不整形	67	43	11	-	
VI-66	82-3・4	VF-24	AJ-18	Vb	不整形	44	(33)	6	-	
VI-66	82-5・6	VF-25	AJ-19	Vb	不整形	39	26	4	-	
VI-66	82-7・8	VF-26	AI-19	VI	不整形	45	35	6	-	
VI-66	-	VF-27	AD-16	VII	不整形	71	69	5	-	
VI-67	-	VF-28	AI-18	Vb	不整形	36	26	4	-	
VI-67	83-1・2	VF-29	AK-16	Vb	円形	34	32	4	骨片	
VI-67	83-3・4	VF-30	AI-17	Vb	楕円形	56	46	8	-	
VI-67	-	VF-31	AJ-17	VI	楕円形	62	54	6	-	
VI-67	83-5・6	VF-32	AJ-17	Vb	楕円	36	(9)	4	-	
VI-67	83-7・8	VF-33	AG-14	Vb	楕円形	52	26	10	骨片	
VI-67	84-1・2	VF-34	AH-15	Vb	楕円形	56	26	8	-	
VI-67	-	VF-35	AG-16	Vb	不整形?	26	(7)	8	骨片	
VI-67	84-3・4	VF-36	N-27	Vb	不整形	50	36	8	-	
VI-68	84-5・6	VF-37	P-24	Vb	不整形	55	50	10	骨片	
VI-68	84-7・8	VF-38	S-25	Vb	不整形	54	42	6	-	
VI-68	85-1・2	VF-39	M-25	VI	不整形	98	82	14	灰?	
VI-68	85-3・4	VF-40	P-24	Vb	不整形	80	68	22	灰?骨片	
VI-68	85-5・6	VF-41	O-25	Vb	楕円	(67)	56	8	-	
VI-68	85-7・8	VF-42	V-24	Vb	不整形	52	36	8	-	
VI-68	86-1・2	VF-43	P-22・23	Vb	不整形	50	30	6	-	
VI-68	86-3・4	VF-44	X-22	VI	不整形	54	50	10	-	
VI-68	86-5・6	VF-45	Z-24	VI	不整形	62	48	16	-	
VI-69	86-7・8	VF-46	Z-25	VI	不整形	52	46	11	-	
VI-69	87-1・2	VF-47	Z-26	Vc	隅丸方形	36	34	8	-	
VI-69	87-3・4	VF-48	X-21	Vc	不整形	102	46	12	骨片	
VI-69	87-5・6	VF-49	X-23	VI	楕円形	38	30	4	-	
VI-69	87-7・8	VF-50	AA-26	Vc	不整形	54	42	15	灰・骨片	
VI-69	88-1・2	VF-51	AA-26	Vc	楕円形	62	46	10	骨片	
VI-69	88-3・4	VF-52	Z-19	VI	円形	66	60	6	骨片	
VI-69	88-5・6	VF-53	Y-27	VI	楕円形	54	38	8	骨片	
VI-69	88-7・8	VF-54	X-22	Vc	-	36	(15)	4	骨片	
VI-70	89-1・2	VF-55	V・W-27	Vc	円形	54	52	12	-	
VI-70	89-3・4	VF-56	X-26	Vc	楕円形	45	24	6	-	

表VI-34 焼土出土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点- 底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-71-1	129-2・3	JP272A	II B2a	VF-50	I	1	口縁部~ 胴部 上半	2個1対小突起・ 外傾一丸状/直立	LR斜行縄文/ LR斜行縄文	φ1~2mm 石英・砂粒 多量、繊維 微量混入	補修孔 あり、内 面:ヨコミ ガキ強
				TP-61	I	2					
				R-23	VI	1					
				Y-23	VbU	2					

表VI-35 焼土出土石器属性表

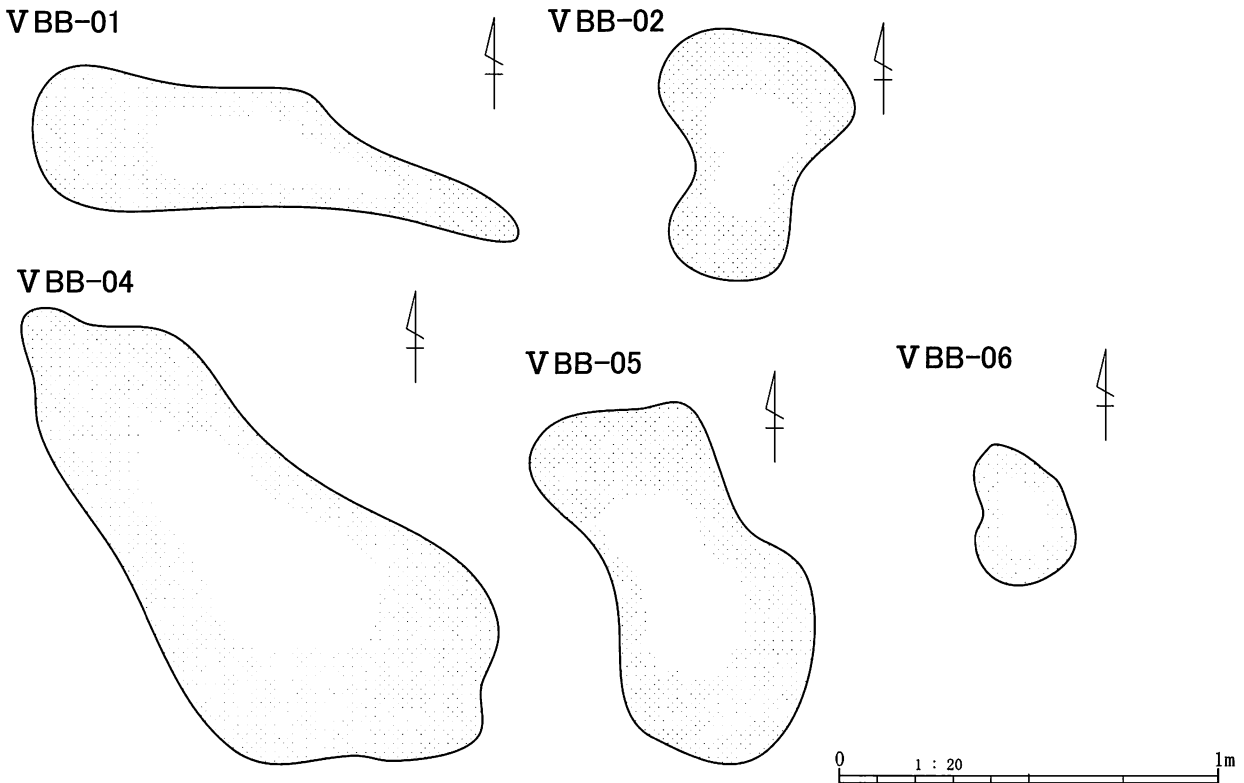
挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-71-2	129-2-4	-	30997	ポイント類	A4	VbL	VF-52	-	42.2	12.6	3.5	1.6	Obs.	

第6節 獣骨集中

獣骨集中は6カ所検出している。この内、焼骨片の集中は5カ所(VBB-01・02・04~06)検出している。VBB-03はシカの未被熱の多量な歯冠片と、シカを主体とする焼骨片、灰集中の下で糊状に検出したもので構成されている。これらは分布密度の濃淡を異にしながらも重なり合っているもので、規模は長軸長16mを越す範囲に広がっている。これまで国内において縄文時代での検出例がないものと思われ、ほぼシカの遺存体で構成されることから「シカ塚」として呼称し報告を行う。

焼骨片集中 (図VI-72 図版 89-5~8)

5カ所検出している。調査はいずれも検出した時点で長軸にトレンチを設けて掘削し、下に焼土の有無を確認している。焼土を確認できなかったものはここで扱っている。調査は平面範囲の記録と、土壌サンプルの回収を行って調査は終了している。検出層位はVb層上位~下位であり、基底面はいずれもVb層下位である。分布は段丘平坦面の縁に位置する傾向がある。平面形は全て不整形である。回収した土壌をフローテーションした結果、VBB-01・05・06からは哺乳綱及び不明の焼骨片が得られ、VBB-02・04からはシカ歯冠片と哺乳綱と同定されたものが出土している。また、VBB-02からはミズキ属の炭化種子、VBB-04・05は炭化したクルミ属が得られている。これらは焼骨片のみを集めていたとは考えにくいことから、灰を廃棄した跡と思われる。灰層は黒色に土壌化し



図VI-72 VBB-01・02・04 ~ 06 平面図

焼骨片のみが確認できる状態になったものと考えられる。特筆すべきものはVBB-04 で骨片と共に二次被熱し、非常に細かく碎片化した土器片が 55 点出土している。非常に細かい破片のため図化していないが、全て大麻V式に相当するものである。このような状態からVBB-04 は前期後葉のものと考えられる。他の焼骨片集中からは伴出遺物はないが、周辺の出土土器より前期後葉と思われる。

表VI-36 焼骨片集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模 (cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
VI-72	89-5	VBB-01	AE-14	VbL	不整形	132	37	哺乳綱	被熱	-	
VI-72	89-6	VBB-02	AE-15	VbL	不整形	65	51	シカ歯冠片	被熱	-	
VI-72	89-7	VBB-04	U-22	VbL	不整形	163	79	シカ歯冠片	被熱	-	
VI-72	89-8	VBB-05	AG・AH-16	VbL	不整形	99	52	哺乳綱	被熱	-	
VI-72	-	VBB-06	U-23	VbL	不整形	38	31	哺乳綱	被熱	-	

シカ塚〔VBB-03〕 (図VI-73～86、図版 90～92)

シカ塚は以下のもので構成されている

VBB-03A : シカの歯冠片 (未被熱)

VBB-03B : 糊状化した骨片

VBB-03C : 焼骨片

VAS-01 : 灰集中

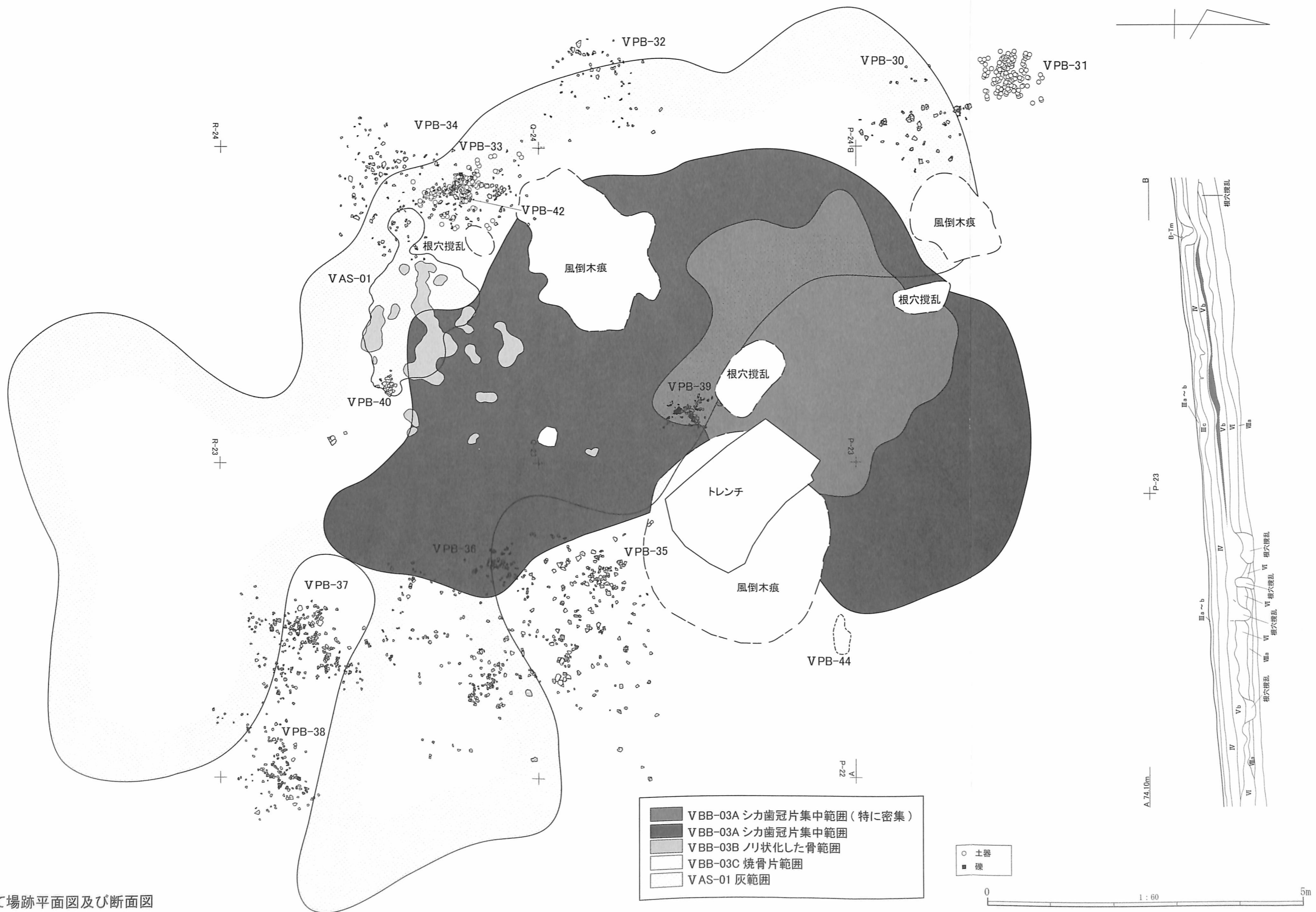
VPB-30～40・42 : 土器集中

位置 : 0-22～24、P～R-21～24 平面形 : 不整形

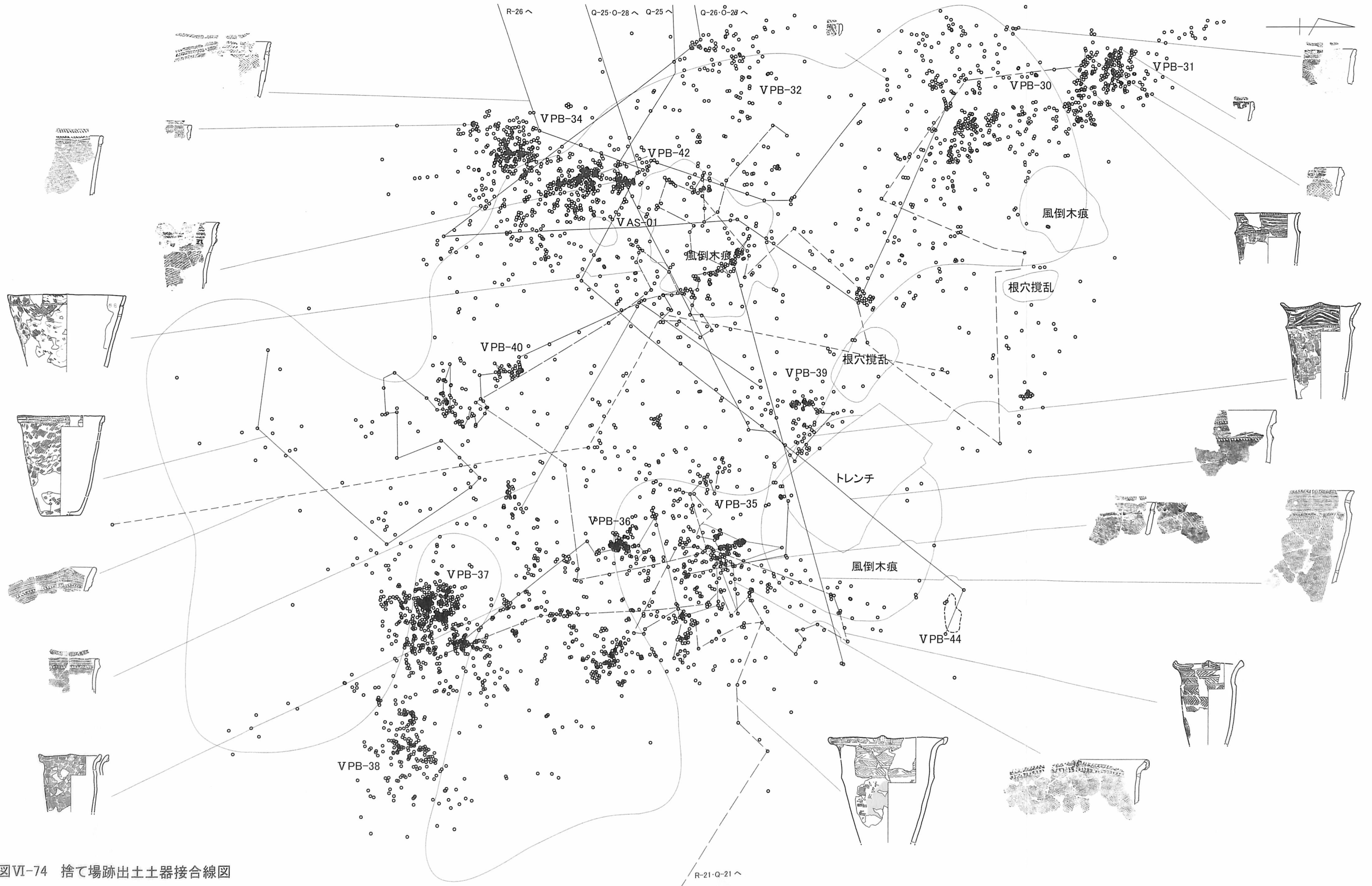
規模 : 全体 1,746×1,044 cm VBB-03A 1,126×746cm VBB-03B 431×223 cm

VBB-03C 1,746×1,095 cm VAS-01 296×171 cm

確認・調査: 遺跡確認の試掘調査の段階で風倒木痕中に多量のシカの歯冠片があることが確認されていた。IV層 (Ta-c テフラ) を重機で除去し、V層上面で精査したところ、P-23 区でシカの歯冠片が僅かに検出した。ここでPラインの東西にベルトを設定し、分布範囲を確認するために歯冠片を極力残しつつ調査を進めた。これと併せて酢酸ビニル系ボンドを希釈したものを塗布し、保存強化作業を行っている。調査を進むにつれて、歯冠片の検出範囲が広がり、一部で焼骨片と混在する状態が確認できた。さらにVb層上位を面的に広げると、歯冠片を含まず焼骨片のみが検出する範囲も確認できた。この時点で、これらを一括してVBB-03 と付番し、大まかな範囲を把握した。この長軸は北西-南東方向で、この概ね東側と西側に長軸と並行して、多量の土器片を確認した。この段階で0～R-21～24について、フレイク・チップを除くすべての出土遺物をトータルステーションで位置情報を記録して取り上げることとした。また、動物遺存体についても分布の濃淡を明らかにするために、歯冠と1cm大の焼骨片については可能な限り出土位置を記録することとし、主体部を検出するまでは、これらを残しながら調査を進めることとした。また、これらの焼骨片や炭化種子、微細遺物や炭化種子等を回収する目的で、一部のグリッドを9分割し土壌の回収を行いながら調査を進めた。VBB-03の主体部の検出と並行し、西側土器片と東側土器片の検出作業を進め土器集中番号を付番している。これらの作業が終了した時点で本遺構の撮影を行っている。撮影後、土器集中は

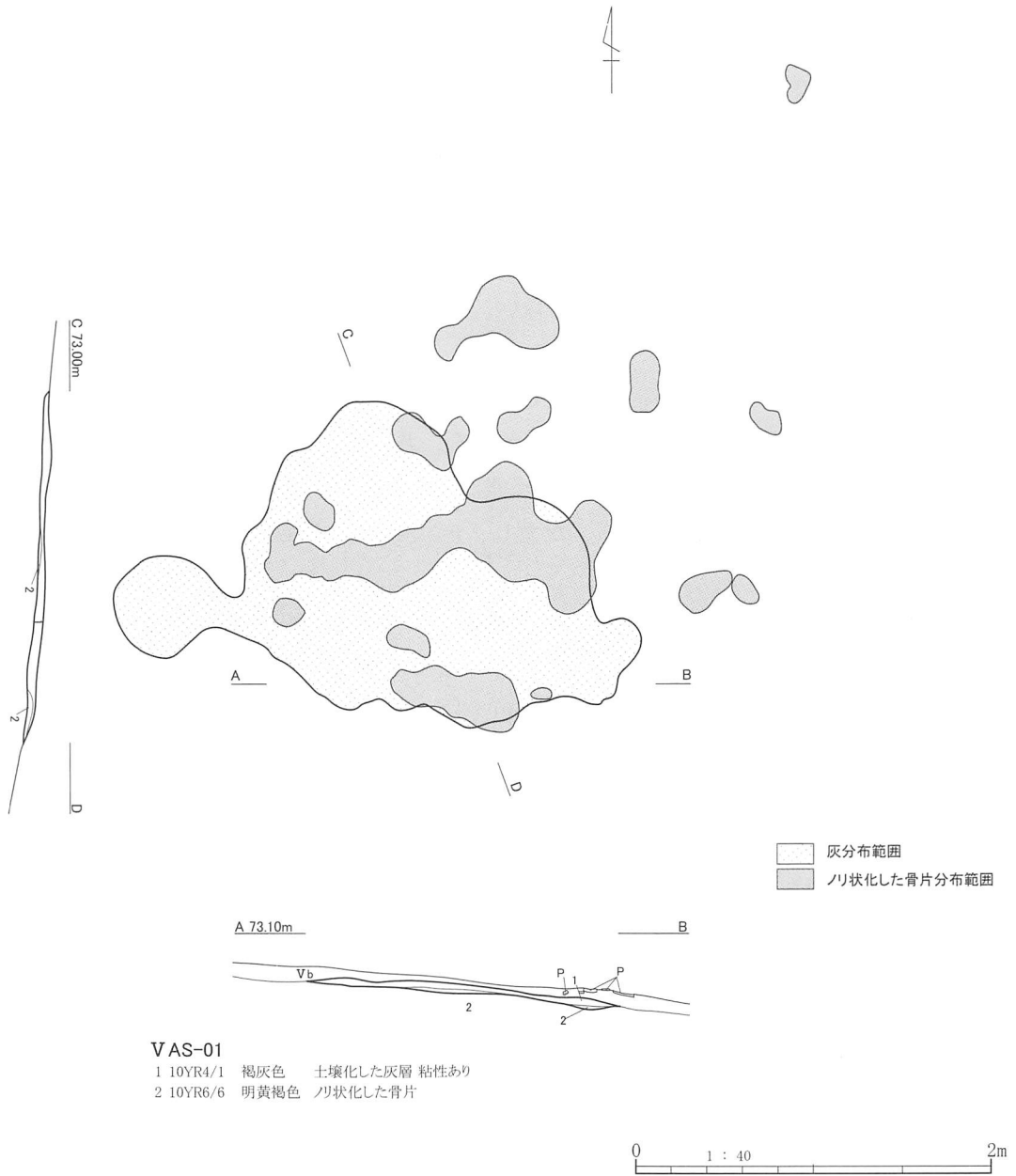


図VI-73 捨て場跡平面図及び断面図



図VI-74 捨て場跡出土土器接合線図

VAS-01



図VI-75 VAS-01

必要に応じ図化し、焼骨片は位置を記録し取り上げている。歯冠は歯列で確認できるものや、遺存状態が良く上顎、下顎の同定可能な試料のみを残して、位置を記録しながら取り上げている。焼骨片の取り上げ、調査を進めている段階でQ-22区においてやや灰白色の土壌を確認した。色調から灰集中と考えられ、範囲の検出作業を行った。範囲確認後、堆積確認のためのベルトを設定し、土壌をVAS-01として回収している。灰層の下層からは糊状化した骨を確認し、範囲の記録を行っている。この後、土層断面の記録等を行い、VAS-01の調査を終了した。良好な歯冠のみを残したところ、P-23区を中心に密集して分布することが判明し、特に密集している部分については今後の普及活用を考え、出土位置を保った状態で土壌ごと切り取りった。最後に土層断面の記録を行って調査を終了している。

立地：段丘平坦面の北西側に位置する。段丘の縁辺には広がっておらず、斜面にも広がりは見られない。西側には同時期のVH-02～05の住居跡が分布している。苫小牧市静川22遺跡（苫小牧市埋蔵文化財センター、2002）では前期後葉の貝塚が調査されている。本遺跡と同時期であり、動物遺存体の集積という点で共通するが、その立地は異なり、斜面中で形成されるものが主体である。

VBB-03A：平面形は南北に長軸をもつ不整形なものである。一部試掘調査時のトレンチと風倒木痕で壊されている。歯冠が密集しているのはP-23区付近で、4.5×4.5mの範囲で平面形は不整形である。歯列及び歯冠の形状を良好に残すものは、この密集範囲に多い。これ以外の範囲では歯冠片が殆どで、歯冠の形状を残すものも殆どない。また、上顎・下顎歯が出土しているが、分布等に特に偏りは見られない。

VBB-03B：灰層の下層を中心に糊状化した骨片の小ブロックを検出している。これらは431×223cmの範囲内に14ヵ所の小ブロックで構成される。基本的にVBB-03Aでは歯列で検出したものも頭骨・下顎骨は残存していない。このような状態から、灰層の下層のみ変質した土壌の性質から歯冠以外の骨が残存したものと考えられる。ただし、形状等は全く残しておらず、取り上げは出来なかったため、部位等は不明である。

VBB-03C：最も広範囲に分布しており、規模は1,746×1,095cmである。特に分布密度の濃い範囲はVBB-03Aの密集範囲とVAS-01に挟まれた範囲である。焼骨片のみを廃棄したとは考えにくく、本来は灰に含まれていたものが、灰層は黒色土に土壌化して焼骨片だけが残存したと思われる。

堆積状態：土層断面よりVb層下位に基底面があることが分かる。

灰集中：平面形は不整形で、規模は296×171cmである。厚さは厚い部分で6cm程である。炭化物等は肉眼では確認できなかった。

遺存体：動物遺存体はハンドピック及びフローテーションによって回収されている。また、同じく植物遺存体もフローテーションにより回収されている。ハンドピックで取り上げたものは歯冠及び歯冠片が3,833点、焼骨片は1,682点である。フローテーション用に回収した土量は538.780である。これはVBB-03A、VBB-03B、VBB-03C、VAS-01、1グリッド9分割毎に取り上げたものの総量である。

動物遺存体はシカと思われる陸棲哺乳綱が圧倒的に多いが、クマが2点ほど出土している。魚類はニシン科、サケ属、コイ科が僅かに得られている。詳細は第VII章4節を参照下さい。炭化種子はマメ科、タデ科、タラノキ属、ニワトコ属、キイチゴ属、ブドウ科、キハダ属、モクレン科、クルミ属、コナラ属等の野生種実各種が得られている。詳細は第VII章3節を参照下さい。

土器集中：「シカ塚」に関連する土器集中としてVPB-30～40・42・44の13ヵ所がある。集中の設定は現場段階で個体毎に付番を試みたが、個体同士の分布が重なり合って大きく括ったもの（VPB-35）もある。これらの集中からは複数の土器型式が出土しているが、層位等から共伴関係を明らかにすることは出来ていない。土器集中の分布は大きく3つに分けられる。①VBB-03の西側に並行し、帯状に分布するVPB-30～34・42の6ヵ所。②VBB-03の東側縁辺に並行し、帯状に分布するVPB-35～38・44の4ヵ所。③VBB-03内を主体に分布するVPB-39・40の2ヵ所である。以下①～③毎に詳細を記載する。

①VPB-30は179×146cmの規模で、69点で構成される。図IV-79-10・13・14（同一個体）のⅡB2b類大麻V式土器と、35のⅡB2a類円筒下層d式土器の2個体の破片を主体に構成する。VPB-31は119

×78 cmの規模で、222 点で構成される。IV-82-39~41 (同一個体) のⅡB2c 類シュブノツナイ式土器 1 個体の破片でほぼ構成される。VPB-32 は 193×166 cmの範囲において 43 点で構成され、図化していないがⅡB2a 類の撚糸文が施された胴部の土器片を主体に構成される。VPB-33 は 246×120 cmの規模で 101 点の土器片で構成される。集中 23 と 33 はⅡB2a 類の 2 個体を主体に構成される。VPB-34 は 187×131 cmの規模で、80 点で構成される。集中 29 はⅡB2a 類の胴部片で構成される。VPB-42 は 178×100 cmの規模で、91 点で構成される。VPB-33 を取り上げた後の下層で検出している。VPB-33 と同じくIV-82-33 のⅡB2a 類の個体片でほぼ構成される。①ではⅡB2a 類円筒下層 d 式が 5 個体、ⅡB2b 類大麻 V 式が 1 個体、ⅡB2c 類シュブノツナイ式が 1 個体の計 7 個体の破片を主体に構成されている。

②VPB-35 は複数の土器集中が重複し、現地において個体毎の区別が不可能であったものである。そのため規模は 774×435 cmと広範囲で、462 点と点数が多い。この中からは少なくとも 22 個体を確認しているが、主体をなすのは以下のものである。

7、27、28 の 3 個体を図化した。7、28 の 2 個体がⅡB2a 類である。6、7 の 2 個体がⅡB2a 類フゴッペ貝塚式土器。12・17、15 の 2 個体がⅡB2b 類大麻 V 式。11・18・19 が同一個体でⅡB2b 類のものである。VPB-36 は 119×91 cmの規模で、64 点で構成される。VPB-35 と同じく 7 のⅡB2a 類を主体に構成される。VPB-37 は 291×167 cmの規模で、406 点で構成される。VPB-35 と同じく 12・17 の大麻 V 式と図化していない円筒下層 d 式 2 個体の計 3 個体が主体を占める。VPB-38 は 381×128 cmの規模で、206 点で構成される。VPB-37 と同じ図化を行っていない円筒下層 d 式の胴部破片 1 個体で主に構成される。VPB-44 は 64×28 cmの規模で、290 点と多いものの非常に細かい破片で構成される。43 のⅡB2d 類宮本式土器の 1 個体分の破片資料で構成される。②ではⅡB2a 類が 5 個体、ⅡB2a 類のフゴッペ貝塚式が 2 個体、ⅡB2b 類が 2 個体、ⅡB2b 類の宮本式に相当するものが 1 個体、ⅡB2d が 1 個体の計 11 個体である。

③VPB-39 は歯冠片の密集範囲中で検出したもので、この土器集中の上下で良好な歯冠を確認している。土器集中の範囲は 122×53 cmの規模で、69 点で構成される。3 のⅡB2a 類の 1 個体でほぼ構成されている。VPB-40 は VAS-01 の上で検出されており、基底面も VAS-01 よりも 3 cm程上である。土器集中の範囲は 148×22 cmの規模で、27 点で構成される。2 のⅡB2a 類の 1 個体でほぼ構成されている。

遺物出土状況: シカ塚内の各付属遺構を合わせると出土遺物は 10, 102 点である。細分は土器 6, 436 点、剥片石器 377 点、礫石器 110 点、土製品 161 点、フレイク・チップ 1, 585 点、礫 1, 433 点である。土器の各分類の内訳はⅡB2a 類類 3, 483 点、ⅡB2b 類類 1, 229 点、ⅡB2c 類 241 点、ⅡB2d 類 836 点、ⅡB 類の細片 563 点、IVB1 類 84 点である。ⅡB 類の細片としたものはフローテーションによって回収されたものが殆どで、本類が主体となっている。このほか僅かに後期のものが含まれているが、1 個体のみである。分布は、土器は土器集中の中で述べた分布状態と同様の傾向である。剥片石器は土器集中に挟まれた遺構中央部に分布がややまとまる傾向があるものの明瞭ではない。礫石器や礫は特に分布による偏りは看取できない。フレイク・チップは西側土器集中と分布を同じ傾向にある。剥片石器及び礫石器は特定器種の数量や破損率の偏在等の傾向は、他の遺構や包含層出土のものと比較して、特に看取できない。ただし、本遺構からは大型礫素材の台石・石皿などは 2 点と少ない。

頭数: これまで述べてきたようにシカの歯冠片が多量に出土している。これについては第七章 4

節の表にデータが記載されており、これより最少個体数の算出を試みた。算出方法は下記の①と②の方法を用いて各個体数の合計を最少個体数として捉えた。なお、算出方法は高橋理氏に助言を頂いた。

①フローテーション法によって得られた歯の測定重量の合計を各歯種の重量の合計で割って、重量から個体数の算出を行う。各歯種の重量は表VI-39による。本来であれば同遺構で得られたものを元に算出を行えばよいが、遺存状態が不良であったことから、Ⅲ層出土の遊離歯で、Ⅴ層のものと同じく歯根部が脱落した試料を用いた。Ⅲ層とⅤ層のものでは経年変化により重量が異なるものと考えられたので、Ⅲ層出土の下顎 M3 (3.69g) とⅤ層出土の下顎 M3 (2.08g) の重量比 (0.5637) を各歯種に適応し、Ⅴ層 (VBB-03) 出土時の重量と推計している。また、上顎の PM1 は一部欠失しているが残存状況より 1.4 倍した数値とした。

表VI-39 より VBB-03 出土時の一頭分の歯冠推定重量は 15.42 g である。VBB-03 から歯冠片は 2,596.82g が得られており、これを一頭分の歯冠推定重量で割ると 168.4 で、169 頭となる。

②ハンドピックで取り上げたものの内、第七章 4 節の同定結果より歯の種類で最も多いものをハンドピックで取り上げたものの最少個体数と捉える。下顎臼歯 M3 の右側が 46 点得られており、最小個体数は 46 個体と考えられる。

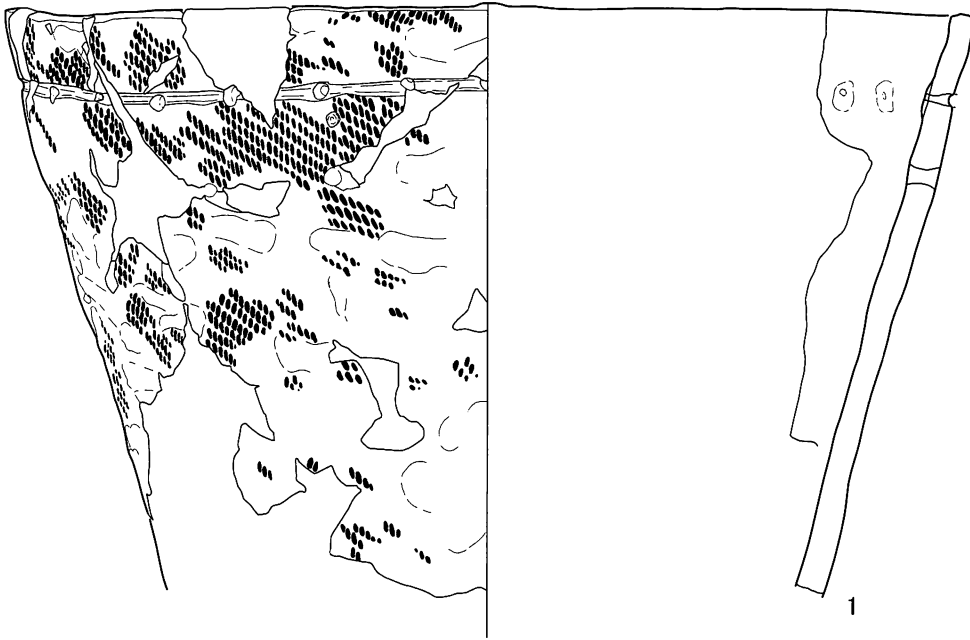
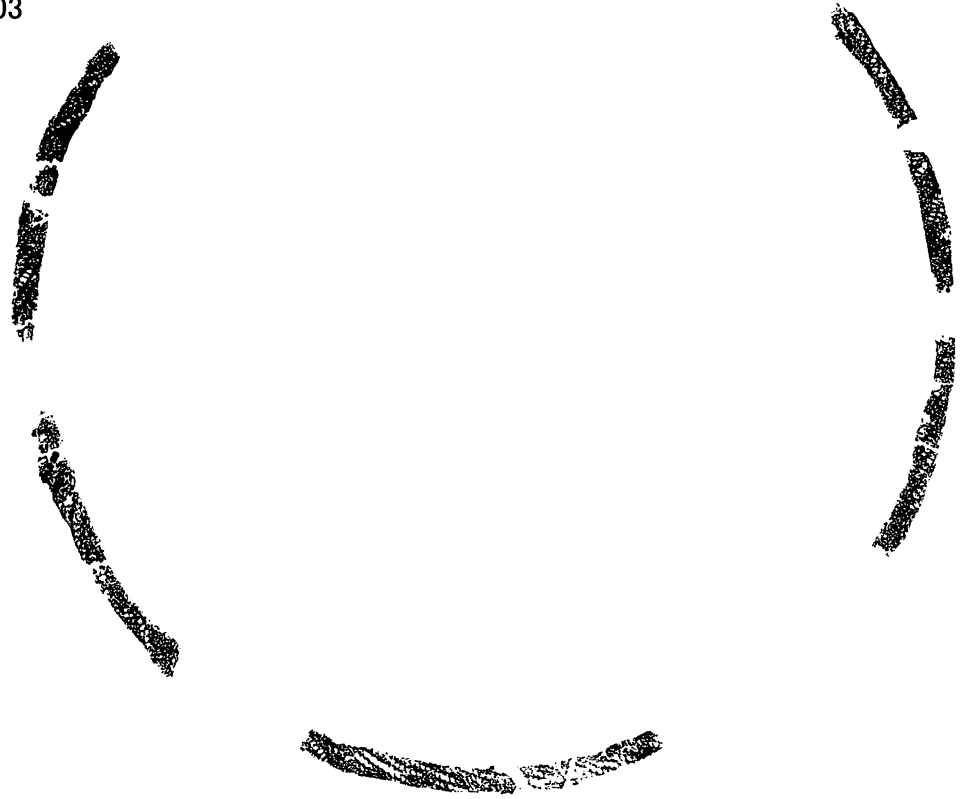
①と②の合計は 215 個体となり、これが本遺構の最少個体数と考えられる。この数値は、あくまでも最少個体数であり、調査では歯冠片も全てを回収できたわけではなく、遺存状態が不良であったことや、一部試掘調査で損壊していることなども考慮すると、300 個体数以上が本遺構に廃棄されていたものと思われる。

出土遺物：(図VI-76～86) 土器は 43 点を図示しており、点数が多いので分類ごとに記載を行う。

ⅡB2b 類は 1・8～19 である。口縁の文様で大きく 2 つに分かれ、①縄線文を施すものと②円形刺突文を施すものである。①は 8～10 で、8・9 は口唇の断面形が隅丸角状で、口唇に縄文が施されている。10 は口唇断面が三角形で、縄線文が施されている。13・14 は 10 の、16 は 8 の同一個体片である。胴部はいずれも羽状縄文である。12 は口唇が欠損しているが、ここに含まれる。②は 1・11・18・19 である。11・18・19 は同一個体である。1 は口縁に横環する沈線文があり、この上から円形刺突を重ねて施している。11 は口縁に隆帯があり、この直上に円形刺突文を施している。口唇の断面形は共に隅丸角状で、縄文が施されている。また、11 は内面にも縄文が施されている。胴部の地文は共に RL の斜行縄文であるが、部分的に縄文が施されず、無文となっている部分が目立つ。これらの特徴より宮本式土器に相当するものと考えられる。1 と類似のものは清水町東松沢 2 遺跡図IV-13-51 (北海道埋蔵文化財センター1992) や帯広市宮本遺跡 (帯広市教育委員会 1995) 図 26-35 で見られ、11 と類似のものは地文が異なるが帯広市三の沢 1 遺跡 (帯広市教育委員会 2000) 等があげられる。また、胎土は本地域出土の土器とは大きく異なるものと思われたので、胎土中の礫等を携帯型実体鏡 (×20) での同定委託を行っている。(第七章 5 節) その結果からも、本地域の地質とは異なることが判り、搬入品と考えられる。搬出地についてはこれからの課題として残される。

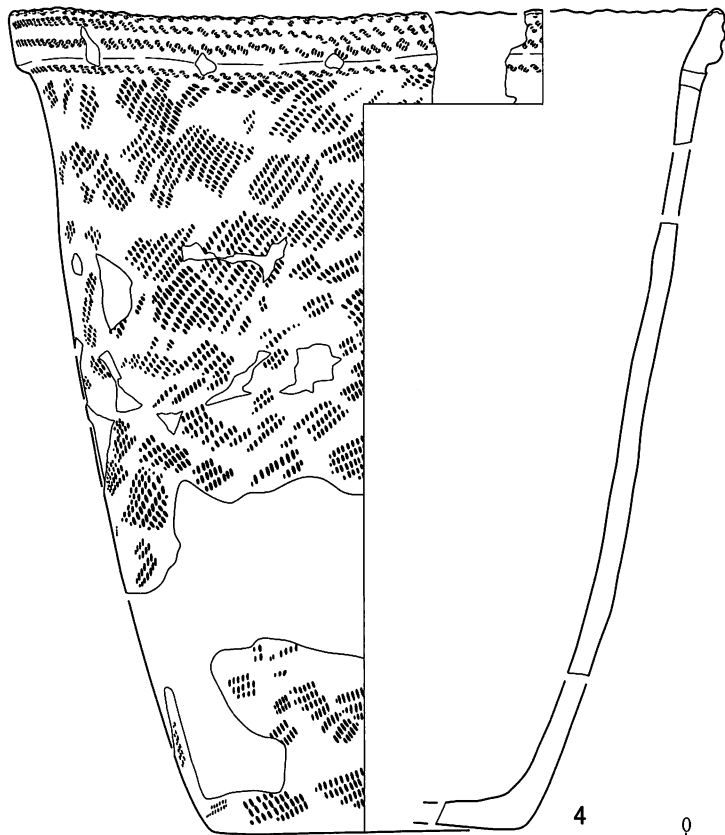
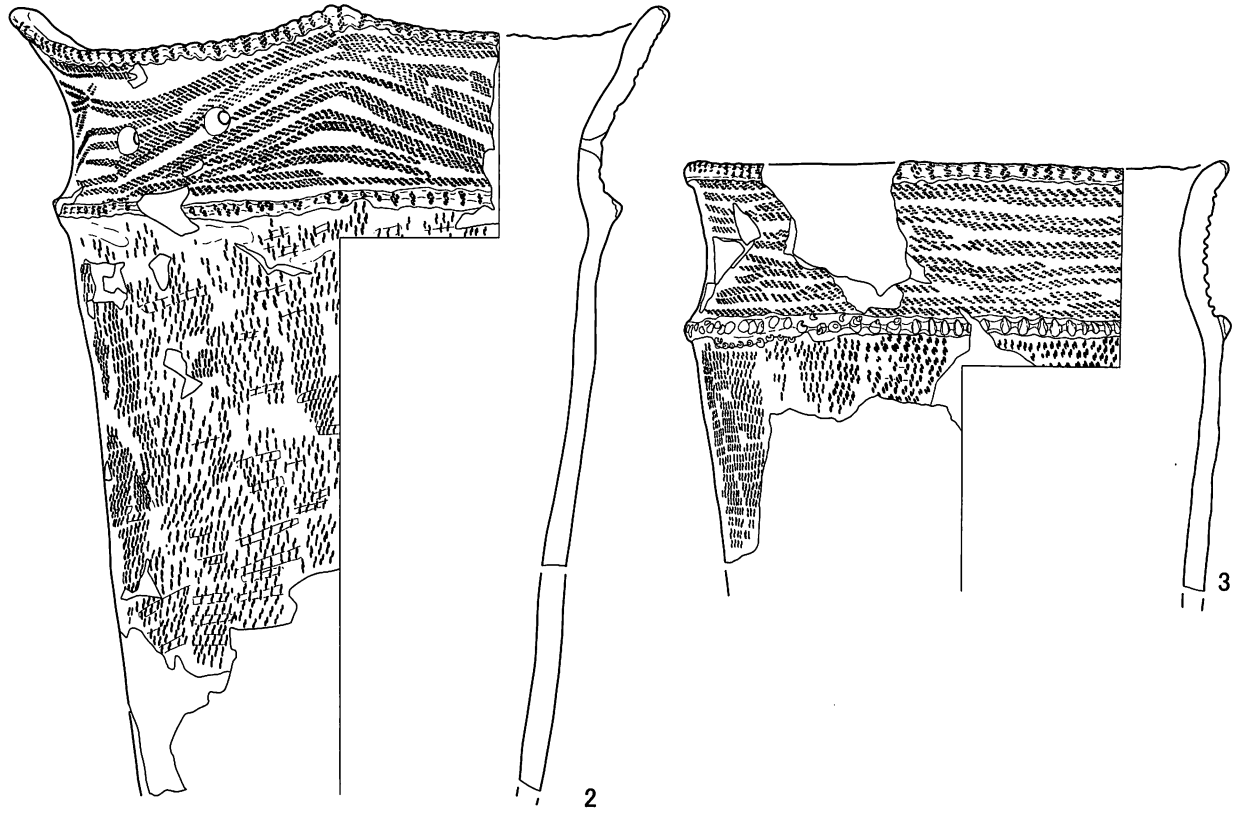
ⅡB2a 類は 2～7・20～38 である。口唇の形状により大きく 3 つに分けると、①口唇の断面形が尖り状、丸状、隅丸角状を呈するもの。②口唇から幅の狭い文様帯にかけて肥厚するもの。③口唇の断面形が三角形を呈するものの 3 つがある。①は 2・3・5・20～27 である。口縁部文様帯のあるものもないものがある。文様帯のあるものは 2・3・20～26 である。2 は 4 ヲ所に突起のあるもので、口唇と

VBB-03



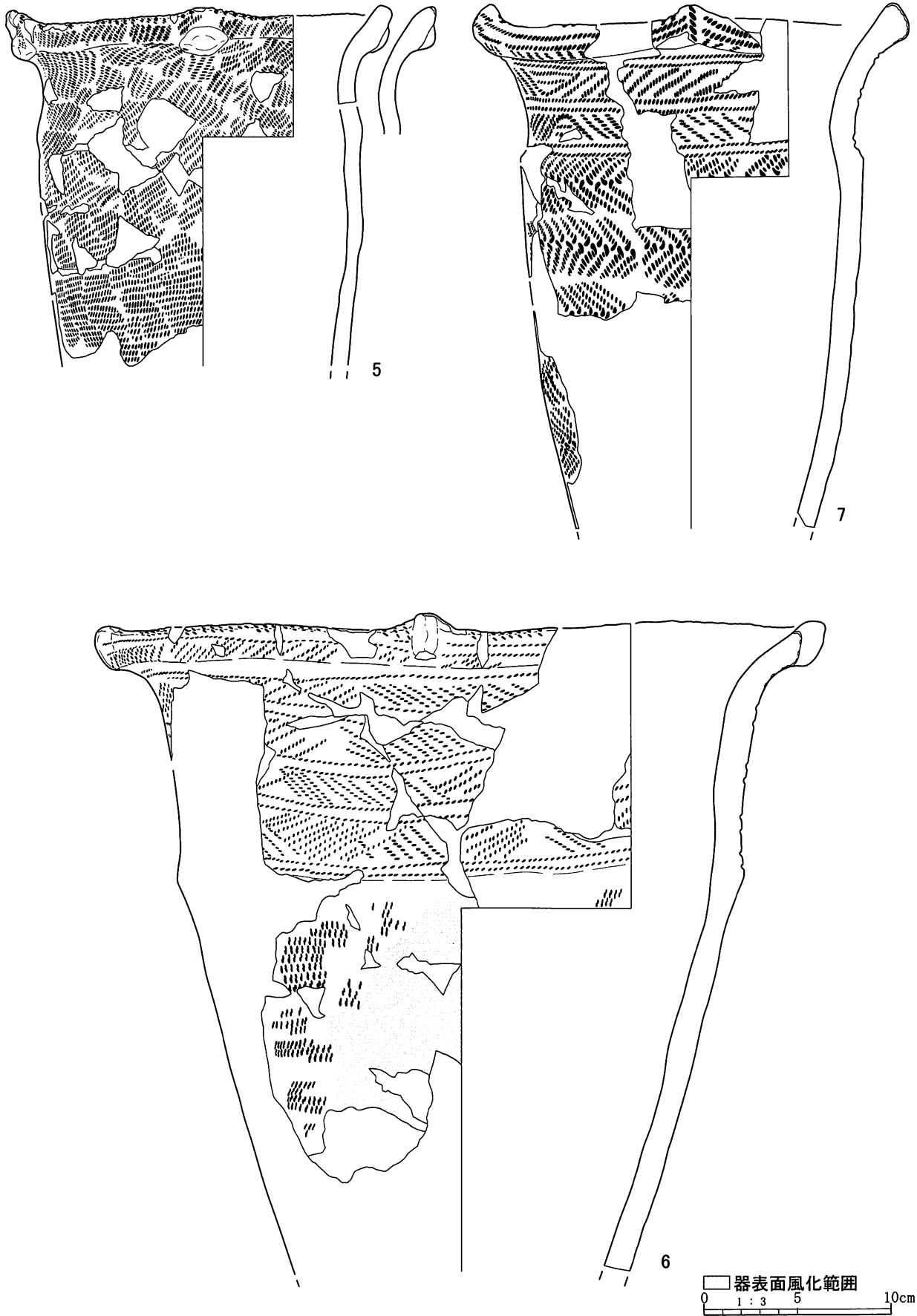
0 1 3 5 10cm

図VI-76 VBB-03 出土遺物 (1)

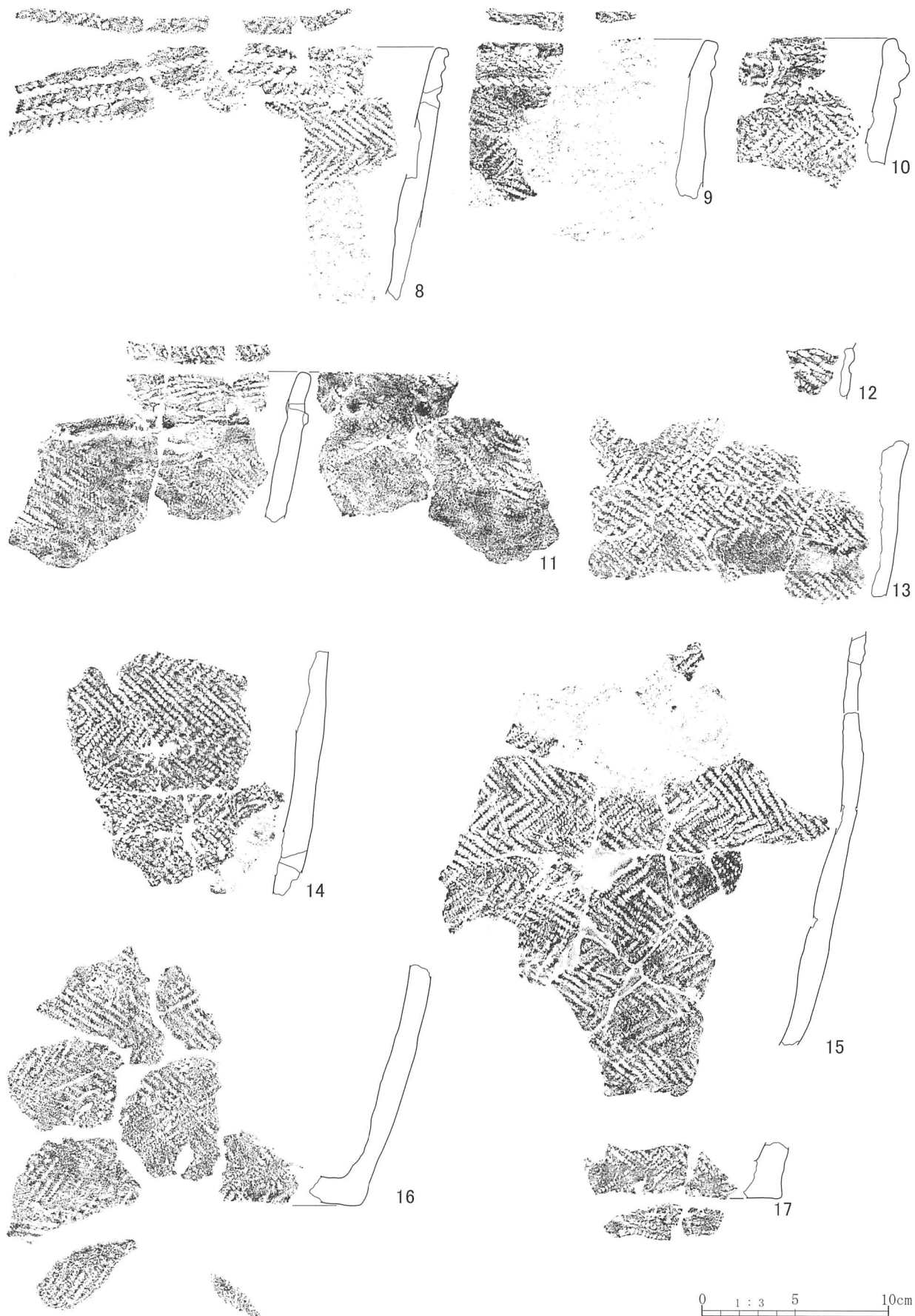


0 1 3 5 10cm

図VI-77 VBB-03 出土遺物 (2)



图VI-78 VBB-03 出土遺物 (3)

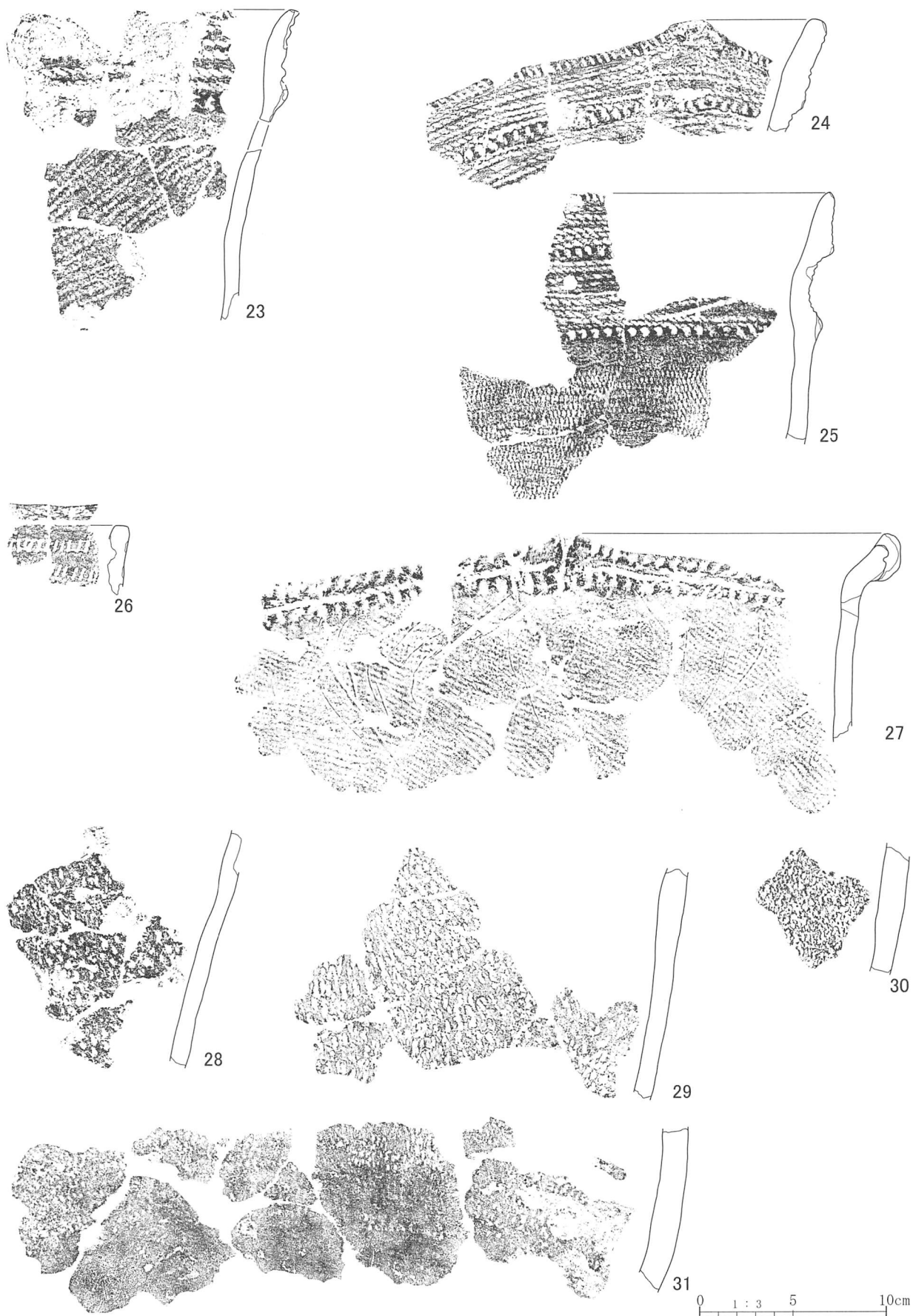


図VI-79 VBB-03 出土遺物 (4)

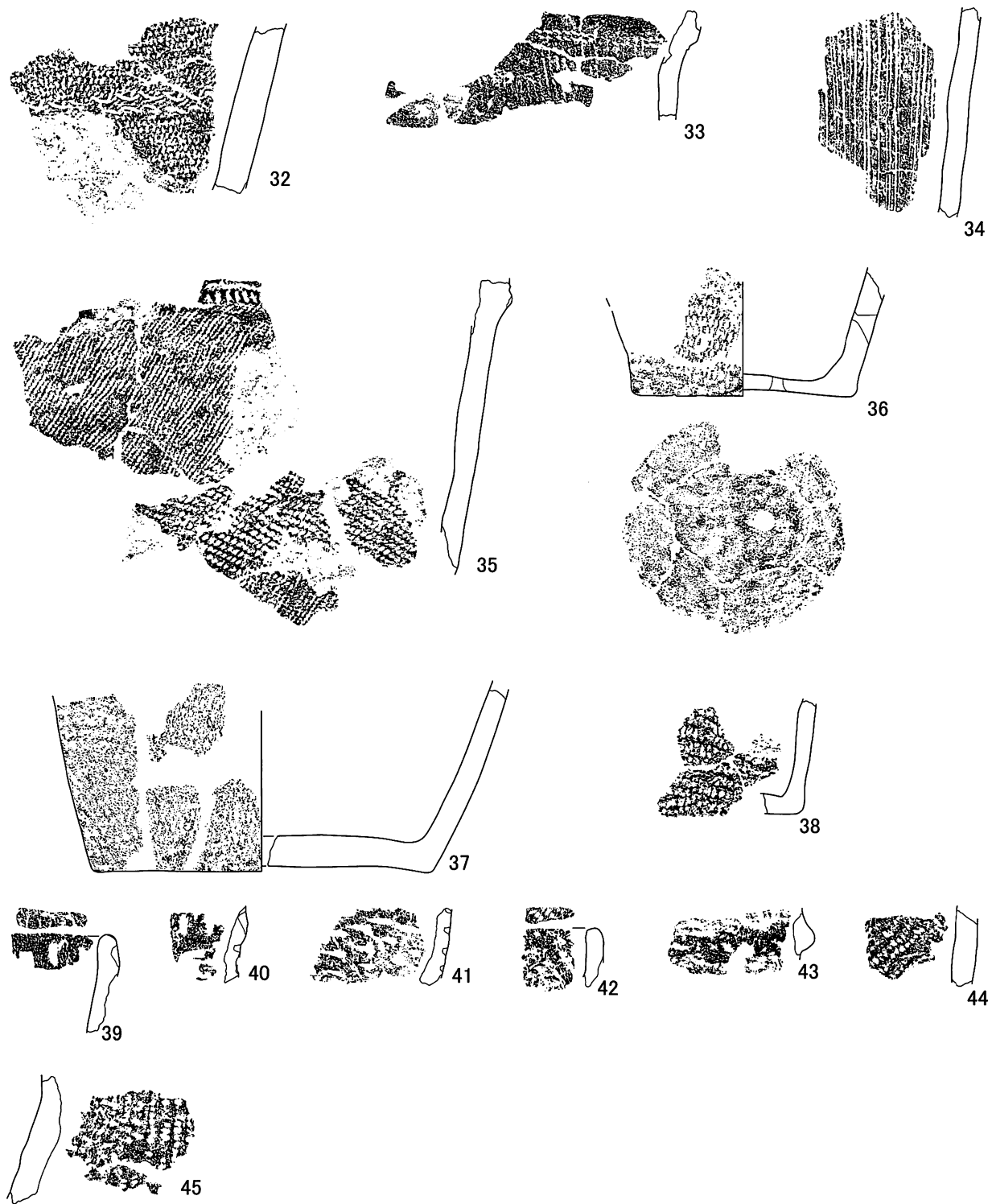


図VI-80 VBB-03 出土遺物 (5)

隆帯には縄の圧痕を施す。文様帯内には2条1対の縄線文が施されるが不規則な配置である。内面は丁寧にミガキ調整が施されている。3は隆帯に同一と思われる棒状工具で刻みと刺突を施す。文様帯内の縄線文は基本的には2条1対で施す。内面は丁寧にミガキ調整が施されている。20・21は文様帯の幅が狭い。20は口唇と隆帯上に半截竹管状の工具を施すが、大きさが異なることから別の工具と考えられる。胎土に蛇紋岩片を含むものである。表面の質感はヌメリがあり、比重が軽いものである。蛇紋岩を胎土に含む土器はⅡB2d類に分類しているが、型式の特徴は円筒下層d式であるためここに分類している。また、ⅡB2d類とは異なり、表面の剥落等はないものである。胎土の特徴より搬入品と考えられる。第Ⅶ章5節でこの土器の同一個体片の胎土分析を行っているが、ⅡB2dとは搬出地が異なりそうである。21は突起をもつものと思われ、隆帯には横方向から先細りの工具で刺突が施されている。22は隆帯が僅かに認められるもので、この上に浅く縄で圧痕を施している。胴部には多軸絡条体で撚糸文を施すが、胴部上半では滑らせながら施文しているようで、縄は縦方向に間延びしている。胎土には石英結晶粒をやや多く含む。23は口唇が部分的に確認できる場所があり、半截竹管状の工具で刺突文を施している。隆帯も同じ工具で施文している。大半のⅡB2a類の土器と異なり、繊維を多量に含むもので、本遺跡出土の大麻V式土器と類似する。また器面の剥落の状態等も似ている。24・25は同一個体片である。突起を有し、隆帯は胴部-口縁部文様帯の区画の他に、口縁部文様帯内に1条も巡る。文様帯のないものは5・27である。共に口唇が肥厚している。5は6ヵ所に突起をもつと思われるもので、内2個1対のものが2ヵ所である。突起下にはボタン状の貼付帯が施される。頸部は括れており、胴部は円筒形である。文様帯はないが頸部の括れた部分では縦走気味、胴部上半は斜行、胴部下半は横走気味に縄文を施している。27は突起をもつもので、突起下は縦位の短い貼付帯が施され、その上から縄線文を施す。口唇にも縄で圧痕を施し、その直下には縄線文を施す。肥厚部の下位には縄の圧痕を施す。捉え方によっては、この部分が隆帯で②の幅の狭い文様帯が肥厚するものに含まれるが、極端に幅が狭いことから文様帯とは捉えず、後述する6・7の断面三角形の口唇の文様に類似するものと考えてここに含めている。②は4である。幅の狭い文様帯には縄線文、口唇には縦に縄の圧痕が施されている。胴部にはLRの斜行状文が施されている。内面はナデ調整が行われている。胎土には繊維が非常に多く含まれている。胴部の破片のみでは胎土、内面の調整、縄文の状態からⅡB2b類との分類が困難なものである。文様帯に地文が施されないこと、口唇に縄による圧痕の刻みがあることと、縄線文が同一条のみで施されている事、別個体であるが類似のものが胴部に縦に縦位の撚糸文を施すものがあることからⅡB2a類としている。③は6・7である。共に4ヵ所に突起をもつものである。文様帯の区画に隆帯は見られないが明瞭な段となっている。断面三角形の口唇には上下端に縄の圧痕を施し、その間に縄線文を施す。6は突起下に縦位の貼付文、7は縦位の縄線文を施す。6は文様帯が広く横環する2条1組の縄線文で4段に区画し、この中に縄線文を鋸歯状に配置する。胴部の文様は6が多軸絡条体の撚糸文で、7は結束第一種の羽状縄文である。口唇の断面形状や文様構成からフゴッペ貝塚式と思われる。型式設定されたフゴッペ貝塚遺跡出土の中に胴部の文様が多軸絡条体の撚糸文のものは含まれていないが、口唇の断面形状を優先しここに含めた。また、6・7の胎土は似ており、白色の岩片を多量に含むもので、本地域出土の土器とは大きく異なるものである。余市町フゴッペ貝塚遺跡(北海道埋蔵文化財センター1989)の資料を実見したが、胎土や器表面の風化の状態等非常に類似しており、ここから搬入された可能性がある。今後自然化学分析等により胎土の比較を行いたい。



図VI-81 VBB-03 出土遺物 (6)



図VI-82 VBB-03 出土遺物 (7)

28～35は胴部片で、28～31は多軸絡条体回転文、32は多軸絡条体回転文の上に結節回転文、33は撚糸文、34は櫛歯状工具による縦の条痕を施すものである。29は26と31は6と同一個体である。35はRLとLRの原体を縦回転し施している。36～38は底部片である。36は底面に補修孔がある。38は横走気味に縄文が施されているものである。

II B2c 類シュブノツナイ式土器で、39～41はすべて同一個体である。VPB-31の中でまとまって出土したものだが、土器片は非常に細片化しており接合は殆ど出来なかった。口唇は丸状で、細く浅

い刻みが施されている。口縁は下から上への、胴部は左から右への刺突を施す。当初土器表面がⅡB2dのようにややヌメリのある触感であり、比重が軽く、土器の色調も黒～灰色を呈することからⅡB2d類と同様に胎土に蛇紋岩を含む土器と考え、同一個体の胎土分析を行ったが結果は異なるものであることが判った。(第VII章5節参照)胎土が本遺跡出土の土器と異なることから搬入品と考えられる。

ⅡB2d類は42～45である。この類の土器は非常に脆く、器表面が剥落しているものや土器片が細片化しているものが多く、接合できないものが多い。そのため各土器片からは断片的な属性しか得られない。42は口縁部片で、口唇の断面形は隅丸角状でRLの縄文が施されている。43は隆帯片で、隆帯上にLRの縄文を横走気味に施している。45は器表面が全面剥落している。内面はRLの縄文が施されている。

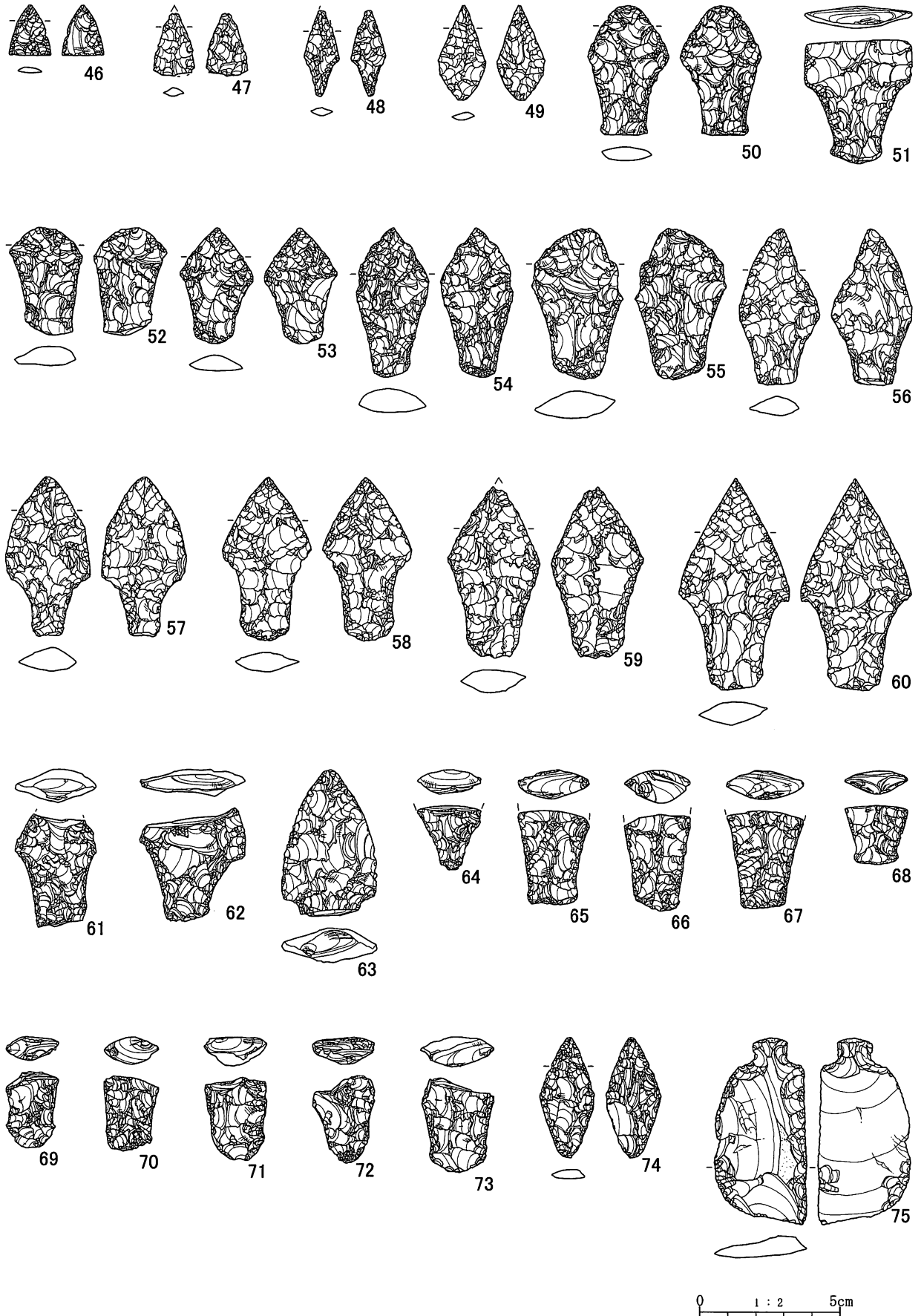
剥片石器は46～80である。46～49は黒曜石製の石鏃で、46・47は平基無茎、48は有茎のものである。49は基部が不明瞭なもので、木葉形のものである。50～74は黒曜石製の石槍で基部が明瞭なものである。50・51は基部の両側縁の対向する位置に抉れがある。52～60は基部端が平坦なものである。52～56は基部に対して鏃身部が極端に小さいものや明らかに左右非対称であるもの等で、剥離調整の状態からも欠損後に再加工を行ったものと思われる。61・62は鏃身部が大きく欠損しているものである。62は欠損後破断面側から再調整が施されている。63は基部が欠損したものである。64～73は基部片である。68～73は破断面に調整を施すものや、破断面から調整を施すもので、欠損後に再加工しているものである。やや連続する剥離が見られるものもある。74は基部の不明瞭なものである。75～79はつまみ付きナイフである。黒曜石製のものは77のみである。75は周縁のみを加工するもの、76～78は片面全面を加工するもの、79は両面全面を加工するものである。76は小型のものである。80はスクレイパーである。

礫石器は81～95である。81は両刃の石斧。82～86はたたき石で平坦面に窪む敲打痕をもつ。83は上端にも僅かに敲打痕が残る。87は扁平打製石器である。周縁を打ち欠き、両端に抉れをもつものである。下面のすり面は長軸方向でやや湾曲している。88は北海道式石冠である。すり面以外のほぼ全面を敲打整形している。頂部は平面及び断面で尖り状である。89は石鋸である。両側縁に研磨面がある。また、両面にも研磨面があり、砥石から転用したものと思われる。90～94は砥石である。90・91は幅5mm前後の溝状の研磨面をもつ。90はその他に幅の広い研磨面がある。92・93は2mm未満の線状の研磨面をもつ。94は欠損後に被熱している。95は石皿である。

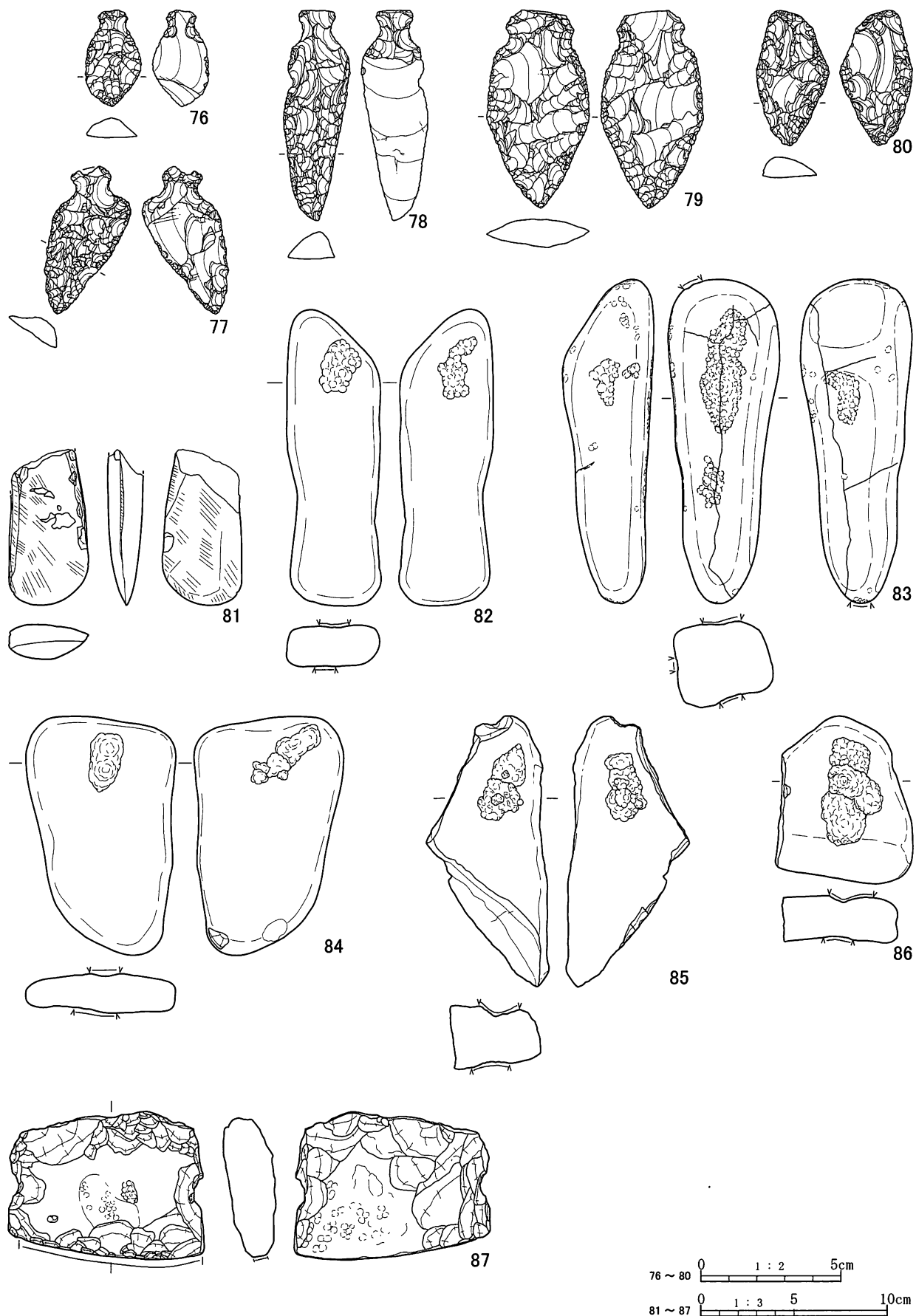
土製品は96～100である。96は土玉である。97～100は土製品で、いわゆる「サツマアゲ状土製品」である。完形品のものはない。また、風化が著しく破断面は磨滅している。全体の形状が把握できそうなものは100で、扁平な楕円形を呈すると思われる。97は表面に断面が丸い棒状の工具を4条平行に施している。

性格：本遺構は多量の土器や、シカの歯冠破片、灰及び焼骨片の出土から捨て場跡といえるが、単なる廃棄場所ではない側面が伺えることから、それについて以下に記す。

- ①未被熱の頭骨や下顎骨と焼骨片を含む灰は明確に場所を分けて集積していること。
- ②土器集中は獣骨の集積の東側と西側で帯状に分布していること。
- ③土器集中や獣骨の集積内から出土した土器の中に搬入系の土器が多く見られること。(宮本式、フゴッペ貝塚式、シュブノツナイ式、胎土に蛇紋岩を含む土器)



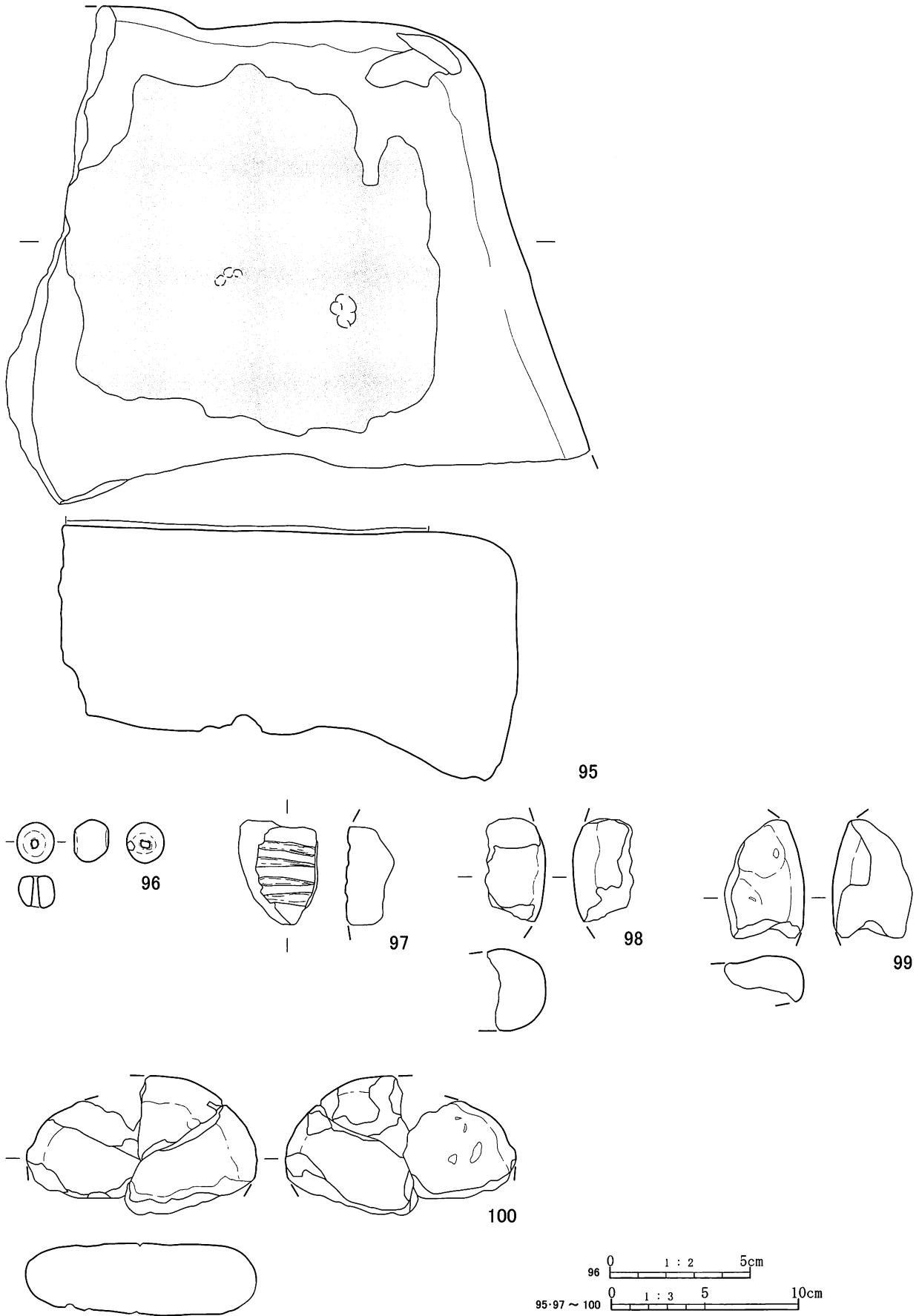
図VI-83 VBB-03 出土遺物 (8)



図VI-84 VBB-03 出土遺物 (9)



図VI-85 VBB-03 出土遺物 (10)



図VI-86 VBB-03 出土遺物 (11)

ことが看取できる。③からは廃棄もしくは設置にあたり、特殊なものはより優先的に扱われた可能性が想定できる。このようなことから、アイヌ文化期の「送り」がイメージされるが、同様の精神文化を有していたとは現段階ではいえないと思われる。ただし、何らかの儀礼行為が行われた可能性は高いと考えられる。

時期：出土土器から縄文時代前期後半と考えられる。複数の土器型式が見られ、この遺構の存続期間を示すものと考えられる。フローテーションで回収した炭化材のAMS年代測定を行ったところ後期初頭～前葉の年代が得られており、大きく矛盾した結果となっている。回収したグリッドはP-23グリッドの中央付近で回収した土壌から出土したものである。ここは大きな風倒木痕の脇に位置する場所で、IVB1の土器が僅かであるが出土しているグリッドである。このような状態であるこ

表VI-37 VBB-03属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		主体部位	被熱の有無	関連遺構	備考
						長軸	短軸				
VI-73	90～92	VBB-03	O-22～24、 P～R-21～ 24	Vb	不整形	1746	1044	シカ下 顎歯・ 上顎歯	一部焼 骨片	VAS-01、 VPB-30～ 40・42	

表VI-38 VAS-01属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)			灰・骨 片の有	備考
						長軸	短軸	厚さ		
VI-75	91-5・6	VAS-01	Q-23	Vb	不整形	296	171	7	灰・骨片	

表VI-39 シカ歯冠の歯種別重量表

遺構名		部位	実重量(g)	備考	経年変化に よる重量比	VBB-03出土時 の推定重量	
ⅢBB-03	B.456	上顎	PM1	0.56	W=0.40g×1.4	0.5637	0.32
ⅢBB-03			PM2	0.79		0.5637	0.45
ⅢBB-03			PM3	0.67		0.5637	0.38
ⅢBB-03			M1	1.02		0.5637	0.57
ⅢBB-03			M2	1.07		0.5637	0.60
ⅢBB-03			M3	2.03		0.5637	1.14
ⅢBB-03	B.413～415	下顎	M1	0.59		0.5637	0.33
ⅢBB-03			M2	2.11		0.5637	1.19
ⅢBB-03			M3	3.69		0.5637	2.08
ⅢBB-03			PM1	0.04		0.5637	0.02
ⅢBB-03			PM2	0.33		0.5637	0.19
ⅢBB-03			PM3	0.78		0.5637	0.44
シカ片側歯列重量計						7.71	
シカ一頭分の歯冠重量計						15.42	

遺構名		部位	実重量(g)
VBB-03	B.3630	下顎 M3	2.08

表VI-40 VBB-03出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考		
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
VI-76-1	130-1	JP213A	II B2b	VBB-03		VbU	46	口縁部 ~胴部	平縁・やや外傾- 隅丸角状/外傾	RL縄文-RL縄文・ 沈線文+刺突文/ RL斜行縄文	φ3~10mm 円礫多量、 φ1~3mm石英 粒微量入	補修孔 あり	
						VbL	31						
						Vc	1						
						KR	10						
						VPB-32	VbL						1
						VPB-35	VbU						5
						VH-02	VbU						1
						P-23	VI						1
S-22	VbU	1											
T-27	VbL	1											
VI-77-2	130-2	JP226A	II B2a	VBB-03		VbL	25	口縁部 ~胴部	突起・外反-丸状 /やや外傾	縄の圧痕文・ 縄線文・隆帯1+ 縄の圧痕文/捺糸文 (多軸絡条体)	繊維、砂粒 微量混入	内面:ヨ コミガキ	
						KR	1						
						VPB-39	VbL						66
VH-03	-	3											
VI-77-3	130-3	JP227A	II B2a	VBB-03		VbU	12	口縁部 ~胴部	平縁・外反-丸状 /やや外傾	縄の圧痕文-隆帯+ 刺突文+刻み・ 縄線文/捺糸文 (多軸絡条体)	砂粒微量 混入	内面:ヨ コミガキ	
						VbL	8						
						KR	3						
						O-23	V						3
VI-77-4	130-4	JP300A	II B2a	VBB-03		VbU	23	口縁部 ~底部	平縁・直立-丸状 /やや外傾- 隅丸角状-平底	縄の圧痕文 -縄線文/ LR斜行縄文	繊維多量 混入		
						VbL	20						
						Vc	1						
						VI	2						
						VPB-40	VbL						14
Q-23	V	1											
VI-78-5	131-5	JP212A	II B2a	VBB-03		VbU	22	口縁部 ~胴部	突起・外反- 隅丸角状+肥厚/ 直立	縄の圧痕文・ LR斜行縄文・ 貼付文/LR斜行縄文 ・LR横走縄文	φ1~3mm 石英多量 混入	内面:ヨ コミガキ	
						VbL	11						
						VPB-36	V						1
VI-78-6	131-6	JP290B	II B2a	VBB-03		VbU	2	口縁部 ~胴部	突起・外反- 三角形状 /やや外傾	貼付文・縄の圧痕・ 縄線文-縄線文/ 捺糸文(多軸絡条体)	φ10mm↓ 白色岩片 多量混入		
						VI	2						
						VbL	32						
						VPB-41	VbL						2
						VI	1						
R-21	IIIbM	1											
Q-21	KR	1											
VI-78-7	131-7	JP221A	II B2a	VBB-03		VbU	8	口縁部 ~胴部	突起・外反- 三角形/やや外傾	貼付文-縦位 縄線文・縄線文・ 縄の圧痕文- 縄線文/ 第1種結束羽状縄文	φ10mm↓ 白色岩片 多量混入	内面:ヨ コミガキ	
						VbL	6						
						Vc	2						
						KR	4						
						VPB-35	VbU						16
						V	1						
VPB-37	VbL	1											
W-26	Vc	2											
VI-79-8	132-8	JP237A	II B2b	VBB-03		VbU	3	口縁部 ~胴部	平縁・外傾- 隅丸角状/外傾	LR縄文-縄線文 (同一条異原体)/ 2段異原体羽状縄文	砂粒多量、 繊維少量 混入	補修孔 あり	
						VbL	4						
						VI	1						
VH-03	Va	1											
VI-79-9	132-9	JP228A	II B2b	VBB-03		V	1	口縁部 ~胴部	平縁・直立- 隅丸角状/直立	RL縄文-縄線文/ 2段異原体羽状縄文	繊維多量、 砂粒微量 混入		
						O-24	V						4
VI-79-10	132-10	JP238A	II B2b	VPB-31		VbL	2	口縁部 ~胴部 上半	平縁・やや内反- 三角形/外傾	縄線文(同一条 異原体)-縄線文 (同一条異原体)/ 2段異原体羽状縄文	繊維多量、 砂粒少量 混入		
VI-79-11	132-11	JP225A	II B2b	VBB-03		KR	4	口縁部 ~胴部 上半	平縁・直立-隅丸角 状/やや外傾	RL縄文-隆帯1 ・円形刺突文・RL 横走縄文-RL斜行 縄文/RL斜行縄文	φ1~3mm礫 量、φ1~3mm 石英粒 少量混入		
						VPB-35	VbL						1
VI-79-12	132-12	JP220A	II B2b	VPB-37		VbL	1	口縁部 下半	直立	縄線文・RL斜行線文	繊維 多量混入		

表VI-40 VBB-03出土土器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考	
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面			
VI-79-13	132-13	JP238B	II B2b	VPB-30	Va	1	胴部	やや外傾	2段異原体羽状縄文	繊維多量・ 砂粒少量 混入		
					VbU	4						
					VbL	4						
VI-79-14	132-14	JP238C	II B2b	VBB-03	VbL	1	胴部	外傾	2段異原体羽状縄文	繊維多量・ 砂粒少量 混入	補修孔 あり	
					VI	2						
					VPB-30	VbL						2
VI-79-15	132-15	JP224B	II B2b	VPB-35	VbU	12	胴部 上半～ 下半	直立(上半)・ 外傾(下半)	2段異原体羽状縄文	繊維多量・ 砂粒少量 混入		
					VPB-37	VbL						4
VI-79-16	132-16	JP237C	II B2b	VBB-03	VbU	1	胴部 下半～ 底部	外傾/外傾- 角状-やや上底	2段異原体羽状 縄文/2段異原体 羽状縄文-RL縄文	砂粒多量、 繊維少量 混入		
					VbL	5						
VI-79-17	132-17	JP220B	II B2b	VPB-35	VbU	1	底部	やや外傾- 隅丸角状-平底	2段異原体羽状縄文 -LR縄文	繊維多量 混入		
					VPB-37	VbL						1
VI-80-18	132-18	JP225B	II B2b	VBB-03	VbL	8	胴部	外傾	RL斜行縄文	φ1～3mm礫 量、φ1～3mm 石英粒 少量混入		
					Vc	1						
					KR	5						
					VPB-35	VbU						32
					VPB-41	VbL						1
VI-80-19	133-19	JP225C	II B2b	VBB-03	VbU	1	胴部 下半～ 底部	外傾/外傾-角状-平 底	RL斜行縄文	φ1～3mm礫 量、φ1～3mm 石英粒 少量 混入		
					VPB-35	VbU						7
VI-80-20	133-20	JP216A	II B2a	VBB-03	VbU	5	口縁部 ～胴部 下半	平縁・内傾- 隅丸角状/直立	刺突文- 縄線文・隆帯1+ 刺突文/擦糸文 (多軸絡条体)	φ1～5mm 蛇紋岩片 少量混入	内面:ヨ コミガキ (口縁)、 タテミガ キ(胴部)	
					VbL	1						
VI-80-21	133-21	JP257	II B2a	VBB-03	VbU	1	口縁部 ～胴部	突起?・ やや外傾-隅丸角 状/やや外傾	縄の圧痕-縄線文 隆帯1+刺突文/ 擦糸文(多軸絡条体)	砂粒少量、 繊維微量 混入	内面:ヨ コミガキ (口縁) タテミガ キ(胴部)	
					VbL	3						
					VPB-32	VbL						1
VI-80-22	133-22	JP253A	II B2a	VBB-03	VbL	3	口縁部 ～胴部 下半	平縁・外反-丸状/や やや外傾	縄の圧痕-縄線文 隆帯1+縄の圧痕 少量、繊維 (多軸絡条体)	φ1～3mm 石英、砂粒 少量、繊維 微量混入	内面:ヨ コミガキ	
					KR	9						
VI-81-23	133-23	JP270A	II B2a	VPB-33	VbL	6	口縁部 ～胴部	平縁・やや外反- ?/直立	刺突文-縄線文・ 隆帯+刺突文/ LR斜行縄文	繊維多量、 砂粒少量 混入		
					V	1						
VI-81-24	133-24	JP273A	II B2a	VBB-03	VbU	4	口縁部	突起・内傾(上半)、 外反(下半)-丸状	刻み-隆帯2+ 縄の圧痕・縄線文	φ1～3mm 石英、繊維 微量混入	内面:ヨ コミガキ 強	
VI-81-25	133-25	JP273B	II B2a	VBB-03	VbU	1	口縁部 ～胴部 上半	平縁・内傾(上半)、 外反(下半)- 丸状/直立	刻み-隆帯2+ 縄の圧痕・縄線文/ 擦糸文(多軸絡条体)	φ1～3mm 石英、繊維 微量混入	内面: ヨコミガ キ、未貫 通補修 孔有り	
					VbL	4						
					VPB-39	VbL						1
					VH-03	VbL						1
VI-81-26	133-26	JP289A	II B2a	VBB-03	VbL	2	口縁部	平縁・直立- 隅丸角状	絡条体圧痕?・ 絡条体圧痕文	繊維、 砂粒少量 混入	内面:ヨ コミガキ 強	
					V	1						
VI-81-27	133-27	JP252A	II B2a	VBB-03	Vc	2	口縁部 ～胴部 上半	突起・外傾- 隅丸角状+肥厚/ やや外傾	縄の圧痕-縄線文 ・貼付文+縦位縄 線文・縄の痕文 /RL斜行縄文	φ2～3mm 石英混入	内面:ヨ コミガキ	
					KR	1						
					VPB-35	VbU						14
					VPB-36	VbL						1
					VPB-41	VbL						2

表VI-40 VBB-03出土土器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考	
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面			
VI-81-28	133-28	JP260A	II B2a	VBB-03	Vc	1	胴部	外傾	撚糸文(多軸絡条体)	φ1~3mm 石英・砂粒・ 繊維微量混入	内面: ミガキ	
					VPB-30	VbU						4
VI-81-29	134-29	JP289B	II B2a	VBB-03	VbL	2	胴部	外傾	撚糸文(多軸絡条体)	φ10mm↓礫、 φ1~3mm 石英少量混入		
					VPB-33	VbL						1
					VPB-34	VbL						5
VI-81-30	134-30	JP265A	II B2a	VAS-01	1	1	胴部	やや外傾	撚糸文(多軸絡条体)	φ1~3mm 石英・砂粒 少量混入	内面:ヨ コミガキ 強、二次 被熱	
VI-81-31	134-31	JP290A	II B2a	VBB-03	VbU	1	胴部 下半	やや外傾	撚糸文(多軸絡条体)	φ10mm↓ 白色岩片 多量混入		
					VPB-35	VbL						2
					VPB-41	VbL						6
VI-82-32	134-32	JP278A	II B2a	VBB-03	VbU	1	胴部	外傾	撚糸文(多軸絡条体) +結節回転文	φ1~3mm石 英、砂粒混入	内面: ミガキ弱	
VI-82-33	134-33	JP282A	II B2a	VPB-33	VbL	2	口縁部 下半~胴 部上半	外傾?/直立	隆帯・縄線文/ 撚糸文	繊維少量、 砂粒微量 混入	内面: ミガキ弱	
					VPB-42	VbL						3
					VAS-01	1						1
VI-82-34	134-34	JP277A	II B2a	VPB-37	VbL	2	胴部	やや外傾	条痕(楯状工具)	φ1~4mm石 英・礫・砂粒 少量混入		
VI-82-35	134-35	JP271B	II B2a	VBB-03	VbL	5	口縁部 下半~胴 部	?/やや外傾	縄線文・隆帯+縄の 圧痕/RL・LR斜行縄文 (縦回転)	繊維少量、 φ1~2mm 石英微量 混入	内面:ヨ コミガキ	
					VPB-30	VbL						2
VI-82-36	134-36	JP274A	II B2a	VBB-03	VbU	3	底部	やや外傾- 隅丸角状-平底	撚糸文(多軸絡条体)	φ1~3mm 石英、砂礫 少量混入	内面:ミ ガキ弱 底面:ミ ガキ強、 補修孔 有り	
					Vc	1						
					KR	1						
					Va	2						
					V	1						
O-24	VbL	1										
O-25	VbL	1										
VI-82-37	134-37	JP293A	II B2a	VBB-03	VbU	1	底部	外傾-隅丸角状 -やや上底	撚糸文(多軸絡条体)	繊維多量 混入		
					KR	5						
					Va	1						
					AA-26	VbU						5
VI-82-38	134-38	JP275A	II B2a	VPB-36	VbL	3	底部	やや外傾- 隅丸角状-平底	LR横走縄文	φ1~3mm 石英・砂粒 少量混入		
VI-82-39	134-39	JP204A	II B2c	VPB-31	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-丸 状	刻み-刺突文	φ1~10mm 泥岩片多量、 繊維微量 混入		
VI-82-40	134-40	JP204B	II B2c	VPB-31	VbL	1	胴部	やや外傾	刺突文	φ1~10mm 泥岩片多量、 繊維微量 混入		
VI-82-41	134-41	JP204C	II B2c	VPB-31	VbL	2	胴部	やや外傾	刺突文	φ1~10mm 泥岩片多量、 繊維微量 混入		
VI-82-42	134-42	JP210	II B2d	VBB-03	VbL	1	口縁部	平縁・内反- 隅丸角状	RL縄文	φ1~5mm 蛇紋岩片 多量混入		
VI-82-43	134-43	JP205A	II B2d	VPB-44	VbL	1	口縁部 下半	不明	隆帯+LR縄文	蛇紋岩片 微量混入		
VI-82-44	134-44	JP209	II B2d	VBB-03	VbL	1	胴部	直立	LR斜行縄文	φ1~5mm 蛇紋岩片 多量混入		
VI-82-45	134-45	JP208	II B2d	VBB-03	VbL	1	胴部	やや外傾	RL斜行縄文	φ1~10mm 蛇紋岩片 多量混入		

表VI-41 VBB-03出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-83-46	134-18	-	26565	ポイント類	A2	Vbu	VPB-35	-	17.8	14.5	2.0	0.5	Obs.	
VI-83-47	134-19	-	30355	ポイント類	A2	VbL	VBB-03	-	(22.5)	12.8	3.2	0.9	Obs.	
VI-83-48	134-20	-	25482	ポイント類	A3	Vbu	VBB-03	-	(30.5)	11.4	2.7	1.0	Obs.	
VI-83-49	134-21	-	24602	ポイント類	A4	Vbu	VBB-03	-	32.7	16.3	3.5	1.4	Obs.	
VI-83-50	134-22	-	24605	ポイント類	B1c	Vbu	VBB-03	-	45.9	28.8	10.4	11.2	Obs.	
VI-83-51	134-23	-	30367	ポイント類	B1c	VbL	VBB-03	-	44.0	39.3	8.5	13.0	Obs.	
VI-83-52	134-24	-	26761	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	38.6	26.2	9.1	8.4	Obs.	再加工 被熱
VI-83-53	134-25	-	26561	ポイント類	B1a	Vbu	VPB-35	-	41.2	26.0	10.6	7.1	Obs.	
VI-83-54	134-26	-	24610	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	53.1	25.9	8.9	10.4	Obs.	
VI-83-55	135-1	-	24621	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	54.0	31.1	12.3	17.5	Obs.	再加工
VI-83-56	135-2	-	23975	ポイント類	B1a	VbL	VBB-03	-	55.3	28.6	8.2	10.2	Obs.	
VI-83-57	135-3	-	27381	ポイント類	B1a	VbL	VBB-03	-	56.9	30.9	10.3	14.3	Obs.	
VI-83-58	135-4	-	24615	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	58.0	31.6	8.7	11.7	Obs.	
VI-83-59	135-5	-	29927	ポイント類	B1a	VbL	VBB-03	-	(60.3)	32.6	11.4	16.7	Obs.	
VI-83-60	135-6	-	24603	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	75.6	39.3	10.4	23.1	Obs.	
VI-83-61	135-7	-	27383	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	(40.1)	28.6	11.8	11.9	Obs.	刃部欠
VI-83-62	135-8	-	30528	ポイント類	B1a	Vc	VBB-03	-	(40.2)	37.4	8.6	10.3	Obs.	刃部欠
VI-83-63	135-9	-	24617	ポイント類	B1	Vbu	VBB-03	-	(52.8)	34.0	12.3	16.9	Obs.	基部欠
VI-83-64	135-10	-	30365	ポイント類	B1a	VbL	VBB-03	-	(23.0)	23.0	8.3	3.3	Obs.	基部片
VI-83-65	135-11	-	24601	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	(33.6)	25.6	9.7	7.5	Obs.	基部片
VI-83-66	135-12	-	25469	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	(34.3)	23.6	11.8	8.9	Obs.	基部片
VI-83-67	135-13	-	25347	ポイント類	B1a	Vbu	VBB-03	-	(34.6)	27.6	10.0	8.4	Obs.	基部片
VI-83-68	135-14	-	29677	ポイント類	B1a	Vc	VBB-03.FCB1	-	21.1	22.6	8.4	3.9	Obs.	基部片
VI-83-69	135-15	-	26755	ポイント類	B1c	Vbu	VBB-03	-	27.2	19.2	7.8	3.8	Obs.	基部片
VI-83-70	135-16	-	26575	ポイント類	B1a	Vbu	VPB-35	-	26.5	19.4	9.6	4.9	Obs.	基部片
VI-83-71	135-17	-	31259	ポイント類	B1a	KR	VBB-03	-	29.8	22.1	9.9	6.1	Obs.	基部片
VI-83-72	135-18	-	28995	ポイント類	B1a	VbL	VBB-03	-	30.8	22.5	9.5	5.5	Obs.	基部片
VI-83-73	135-19	-	27755	ポイント類	B1a	VbL	VBB-03	-	32.5	25.4	9.9	7.9	Obs.	基部片
VI-83-74	135-20	-	25466	ポイント類	B2	Vbu	VBB-03	-	43.2	19.3	5.0	3.2	Obs.	
VI-83-75	135-21	-	25372	ナイフ・スクレーパー類	A1	Vbu	VBB-03	-	67.7	32.0	6.7	18.1	Sh.	
VI-84-76	135-22	-	30108	ナイフ・スクレーパー類	A2	I	VAS-01	-	34.1	19.6	6.1	3.9	Sh.	
VI-84-77	135-23	-	23981	ナイフ・スクレーパー類	A2	VbL	VBB-03	-	54.9	24.1	75.5	9.7	Obs.	
VI-84-78	135-24	-	23977	ナイフ・スクレーパー類	A2	VbL	VBB-03	-	74.9	21.2	9.7	17.9	Aga.	
VI-84-79	135-25	-	31261	ナイフ・スクレーパー類	A3	KR	VBB-03	-	69.2	35.6	9.5	27.0	Sh.	
VI-84-80	135-26	-	30524	ナイフ・スクレーパー類	C1a	VbL	VBB-03	-	48.4	25.3	8.2	9.2	Obs.	
VI-84-81	135-27	-	25480	石斧	A	Vbu	VBB-03	-	84.0	43.0	9.0	89.4	Gr-Mud.	
VI-84-82	135-28	-	26179	たたき石	I A1	Vbu	VBB-03	-	159.0	51.0	23.0	300.0	Sa.	
VI-84-83	135-29	-	26112	たたき石	I A3	Vbu	VBB-03	-	173.0	59.0	48.0	530.0	Sa.	
VI-84-84	135-30	-	26804	たたき石	II A1	VbL	VBB-03	-	128.0	81.0	21.0	333.0	Sa.	
VI-84-85	135-31	-	26086	たたき石	II B1	Vbu	VBB-03	-	137.0	62.0	34.0	315.0	Sa.	
VI-84-86	135-32	-	27640	たたき石	V	VbL	VBB-03	-	90.0	74.0	26.0	250.0	Sa.	
VI-84-87	135-33	-	31100	扁平打製石器	-	VbL	VBB-03	-	104.6	80.2	25.6	300.0	Sa.	
VI-85-88	136-1	-	24776	すり石	D	Vbu	VBB-03	-	118.6	82.0	56.0	780.0	Gni.	
VI-85-89	136-2	-	30510	すり石	C	VbL	VBB-03	-	155.0	41.0	15.0	144.8	Sa.	
VI-85-90	136-3	-	29740	砥石	A	Vc	VBB-03	-	210.0	119.0	49.0	1280.0	Sa.	
VI-85-91	136-4	-	26492	砥石	A	Vbu	VPB-35	-	78.0	56.0	12.0	67.0	Sa.	
VI-85-92	136-5	-	29469	砥石	B	Vc	VBB-03	-	85.0	73.0	14.0	128.1	Sa.	
VI-85-93	136-6	-	31296	砥石	B	VbL	VBB-03	-	144.6	75.4	38.9	135.3	Sa.	
VI-85-94	136-7	VST-02	31201	砥石	B	VbL	VBB-03	-	121.0	167.0	49.0	710.0	Sa.	被熱
VI-86-95	136-8	-	27958	石皿	-	VbL	VBB-03	-	264.0	30.3	149.0	13300.0	Sa.	
VI-86-96	136-9	-	37238	土玉	-	I	VAS-01	-	14.5	13.3	11.2	4.2	Cray.	
VI-86-97	136-10	-	28679	土製品	-	VbL	VBB-03	-	(57.3)	(52.1)	(24.1)	11.7	Cray.	
VI-86-98	136-11	-	31166	土製品	-	VbL	VBB-03	-	(54.3)	(31.5)	55.5	15.0	Cray.	
VI-86-99	136-12	-	30455	土製品	-	VbL	VBB-03	-	(63.0)	(42.9)	(23.4)	11.0	Cray.	
VI-86-100	136-13	-	29718	土製品	-	VbL	VBB-03	-	123.0	(74.1)	39.1	52.6	Cray.	

第7節 集中遺物

集中遺物は土器集中、剥片石器集中、フレイク・チップ集中、石斧集中、礫石器集中、礫集中を検出している。以下、項目ごとに記載を行う。

土器集中 (図VI-87～98 図版 93)

単独で検出した土器集中は 25 ヲ所である。早期 I B3 類 4 ヲ所 (VPB-05・07～09)、前期後葉 II B2a 類 5 ヲ所 (VPB-14～16・23・43)、II B2b 類 8 ヲ所 (VPB-22・25～28)、中期中葉 III B1 類 1 ヲ所 (VPB-41)、後期 IV B1・IV C1 類 5 ヲ所 (VPB-02・11～13・29)、晩期中葉 V B1 類 1 ヲ所 (VPB-17) である。以下分類ごとに記載する。

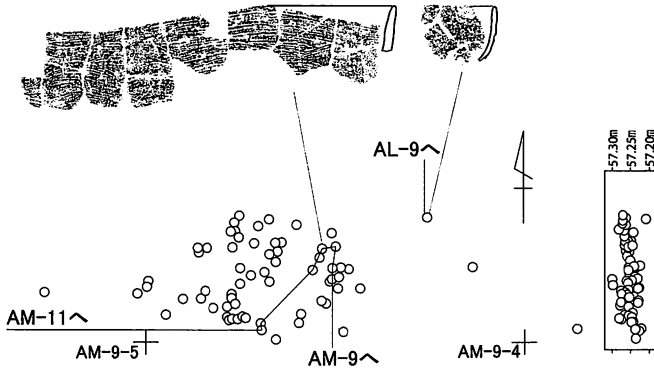
I 群 B3 類 (VPB-05・07～09)

4 ヲ所の集中はいずれも T_1 面で検出したものである。VPB-08・09 は T_3 - T_1 の段丘崖裾に位置する。出土層位は VPB-05・07 が Vb 層下位～Vc 層で、VPB-08・09 は共に VI 層 (漸移層) 中である。VPB-05・08・09 は横に倒れて潰れた状態で検出している。VPB-07 は非常に細片化したものがまとめて検出している。器表面や破断面は風化により磨耗している。VPB-08・09 の古手のものは段丘崖裾に沿って並行に分布する。1・2 は同一個体である。非常に脆いもので、取り上げ後バインダーを塗布しているが、表面の剥落したものも多い。口縁は波状で、口唇の断面形は尖り状である。底部の角は丸く立ち上がる。微隆起線文を波状に施し、微隆起線文間に短縄文を施すものであるが、微隆起線文は非常に幅が狭く、高さが低いもので断面図には表れていない。また、短縄文も浅く施されている。3 は小型のもので無文である。口唇の断面形状と出土状態から、ここに分類している。胎土には大粒の石英を多く含むもので、「富良野盆地系土器」と思われる。4・5 と 6・7 はそれぞれ同一個体で、共に微隆起文が施されるものである。4・5 は斜行縄文、6・7 は絡条体圧痕文を施している。8・9 は同一個体である。波状口縁で口唇の断面形は尖り状である。微隆起線文の上から微隆起線文間にかけて短縄文が施されるもので、古手のものと思われる。10・11 は微隆起線文の上に浅い刻みを施し、微隆起線文間に羽状縄文を施すものである。口唇形状は尖り状である。微隆起線文上に刻みを施すことから、I B2 類のコッタロの可能性も考えられたが、口唇形状・微隆起線文等から古手の中茶路式と捉えた。

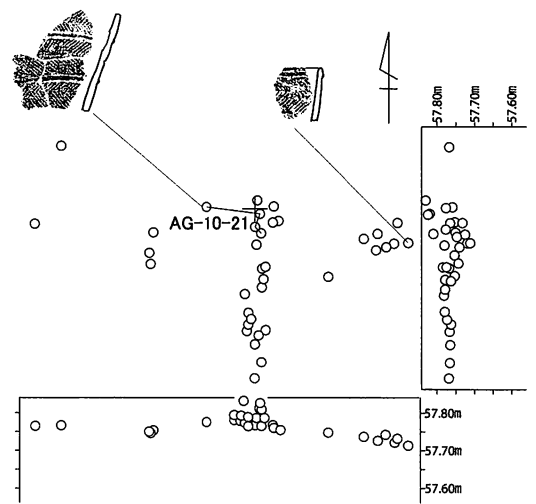
II 群 B2a 類 (VPB-14～16・23・43)

5 ヲ所の集中はいずれも T_3 面で検出している。いずれも Vb 層下位で検出している。VPB-23 は大きな土器片がそのまま潰れた状態で検出したものである。それ以外のものは垂直分布にややレベル差がある。14～16 は同一個体である。最大径は文様帯の区画部で口径は小さい。ミガキ調整は内面の他に、文様帯内の縄線文間や底部側面にも行っており光沢がある。VPB-15 からは 15・16 と 17～20 の 2 個体が出土している。これらは胴部文様がほぼ同じで、口縁部文様が類似する。胴部は多軸絡条体回転文を施した上から、櫛状工具で条痕を施している。15・16 は隆帯がないが 17～20 では僅かに認められる。胎土は 17～20 は石英が少量混入している。21 は平縁で口唇は隅丸角状である。口縁はやや外傾するが、胴部は変化に乏しい円筒状である。文様帯はなく地文のみのもので全面に LR 斜行縄文が施されている。内面は横方向に丁寧にミガキ調整が行われている。胎土には石英が少量含まれている。22 は口唇の平端面と角に半截竹管状の工具で刺突を施すものである。文様帯は肥厚しており、この段で区画している。縄線文は 2 条 1 対である。やや大きめの石英粒が含まれてい

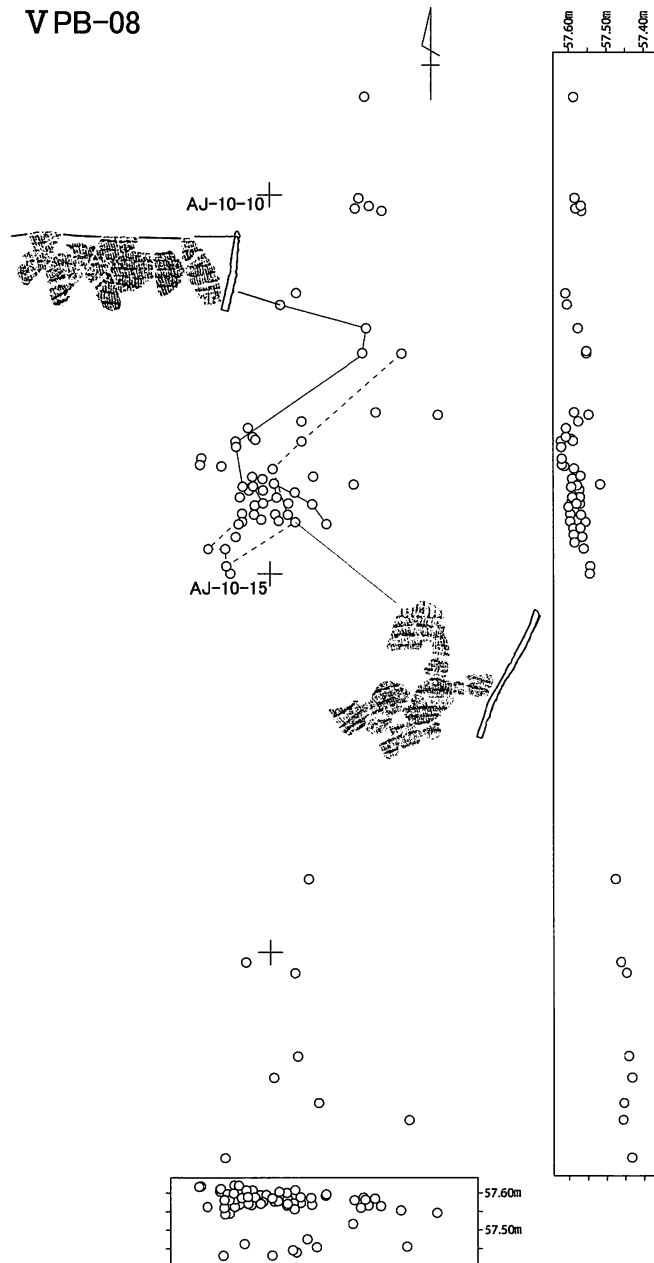
VPB-05



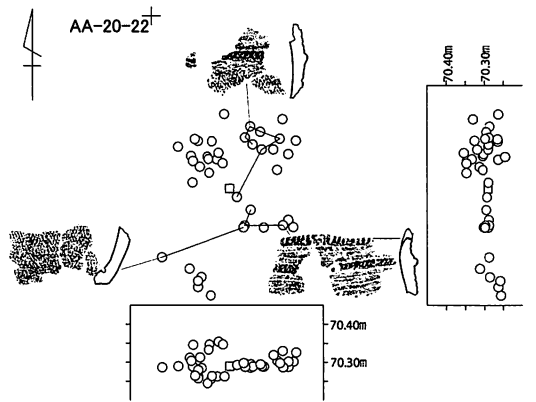
VPB-09



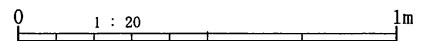
VPB-08



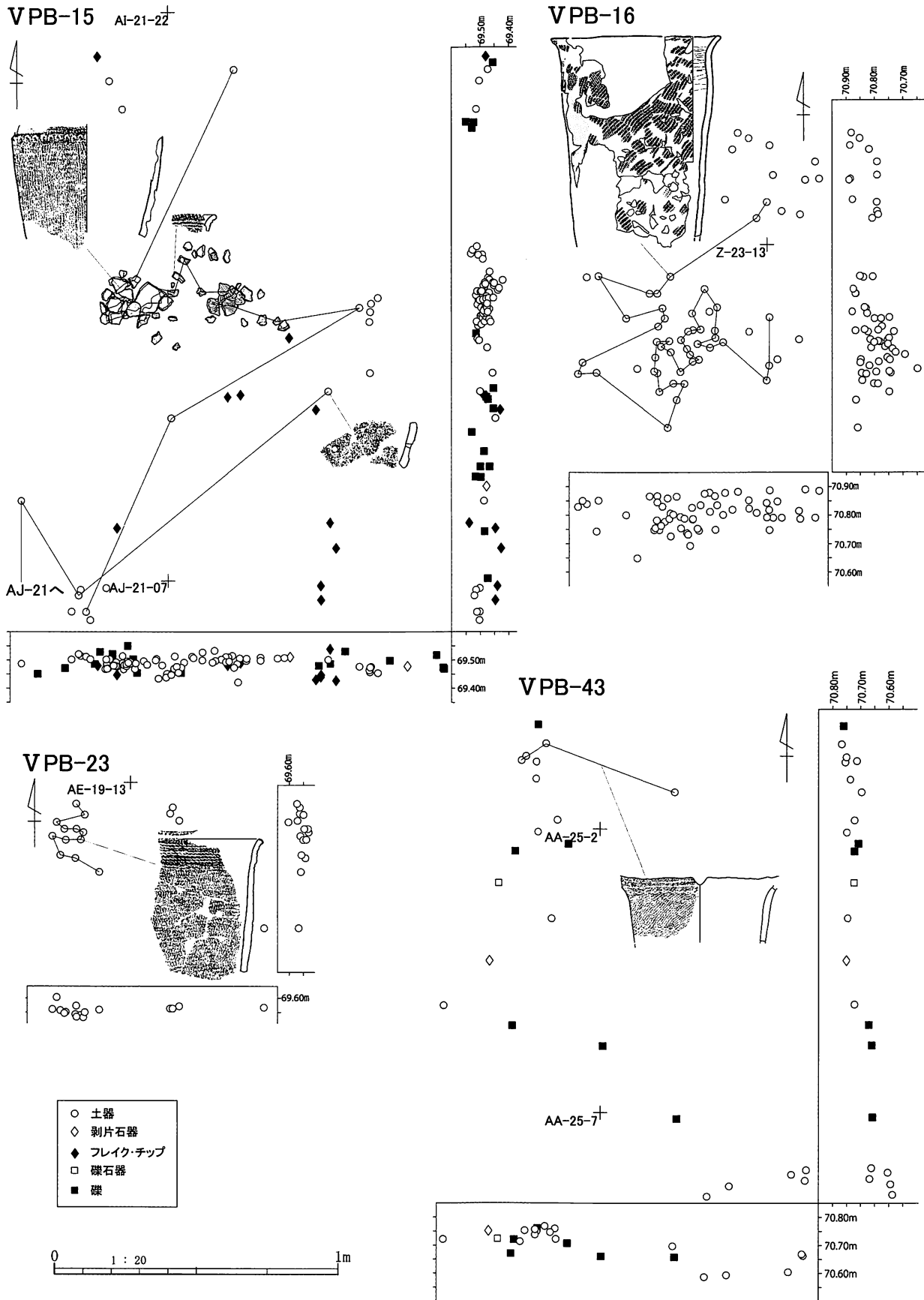
VPB-14



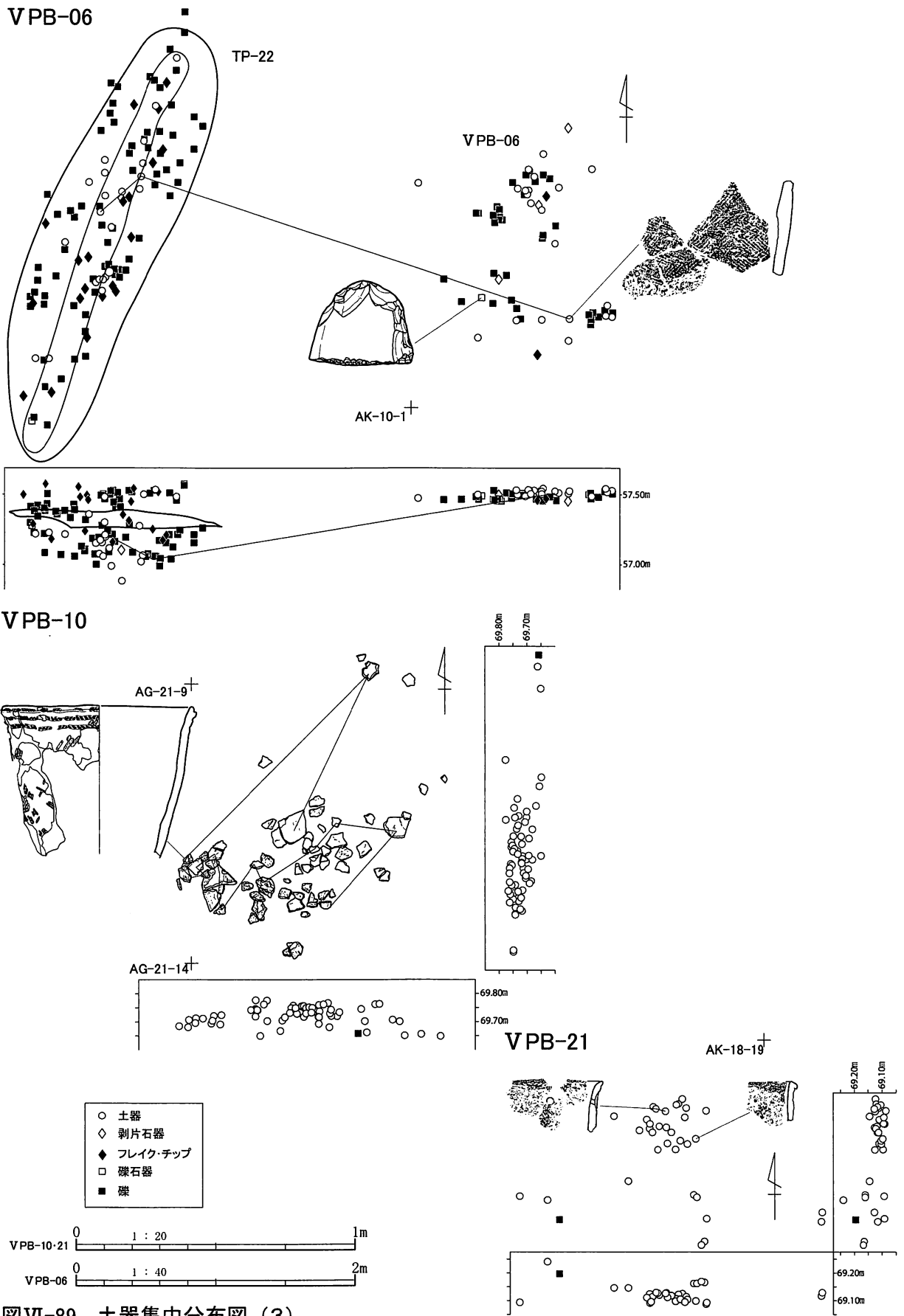
- 土器
- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- 礫



図VI-87 土器集中分布図(1)

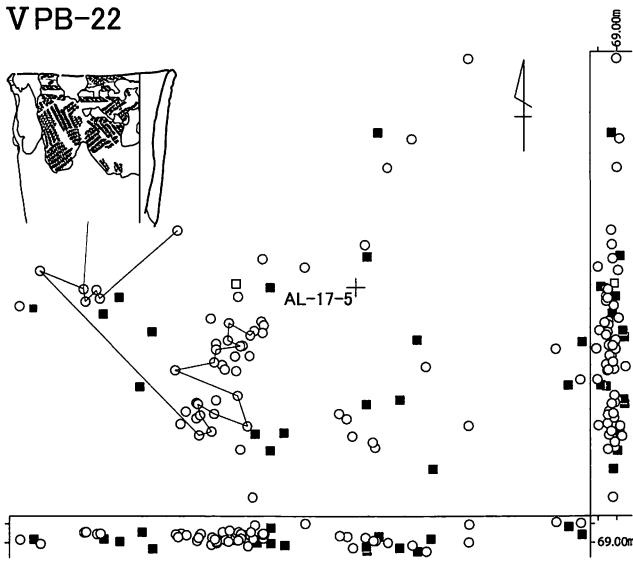


図VI-88 土器集中分布図 (2)

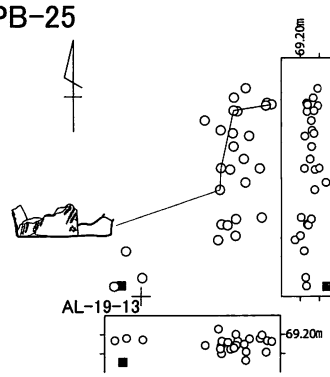


図VI-89 土器集中分布図 (3)

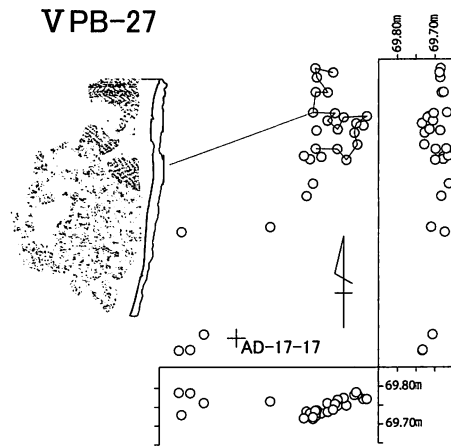
VPB-22



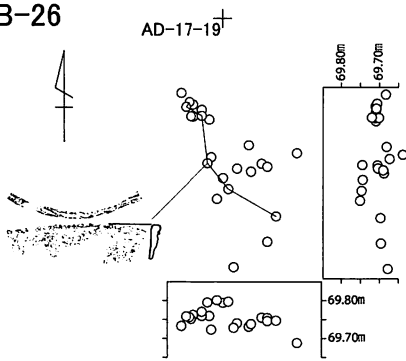
VPB-25



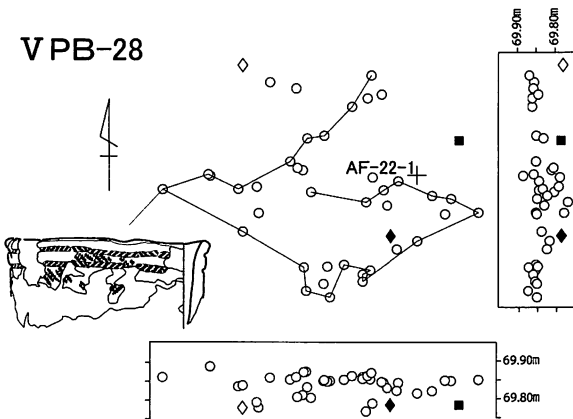
VPB-27



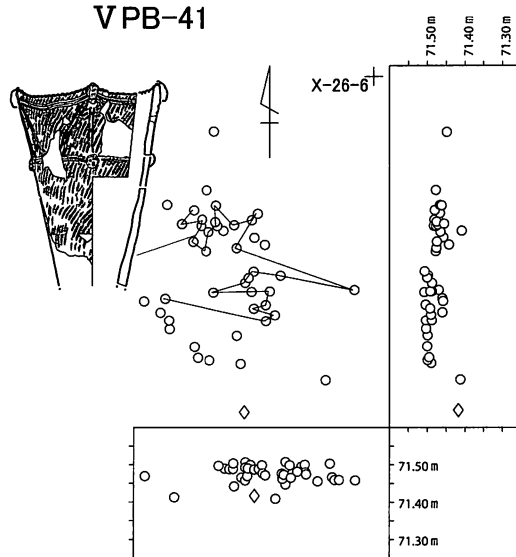
VPB-26



VPB-28



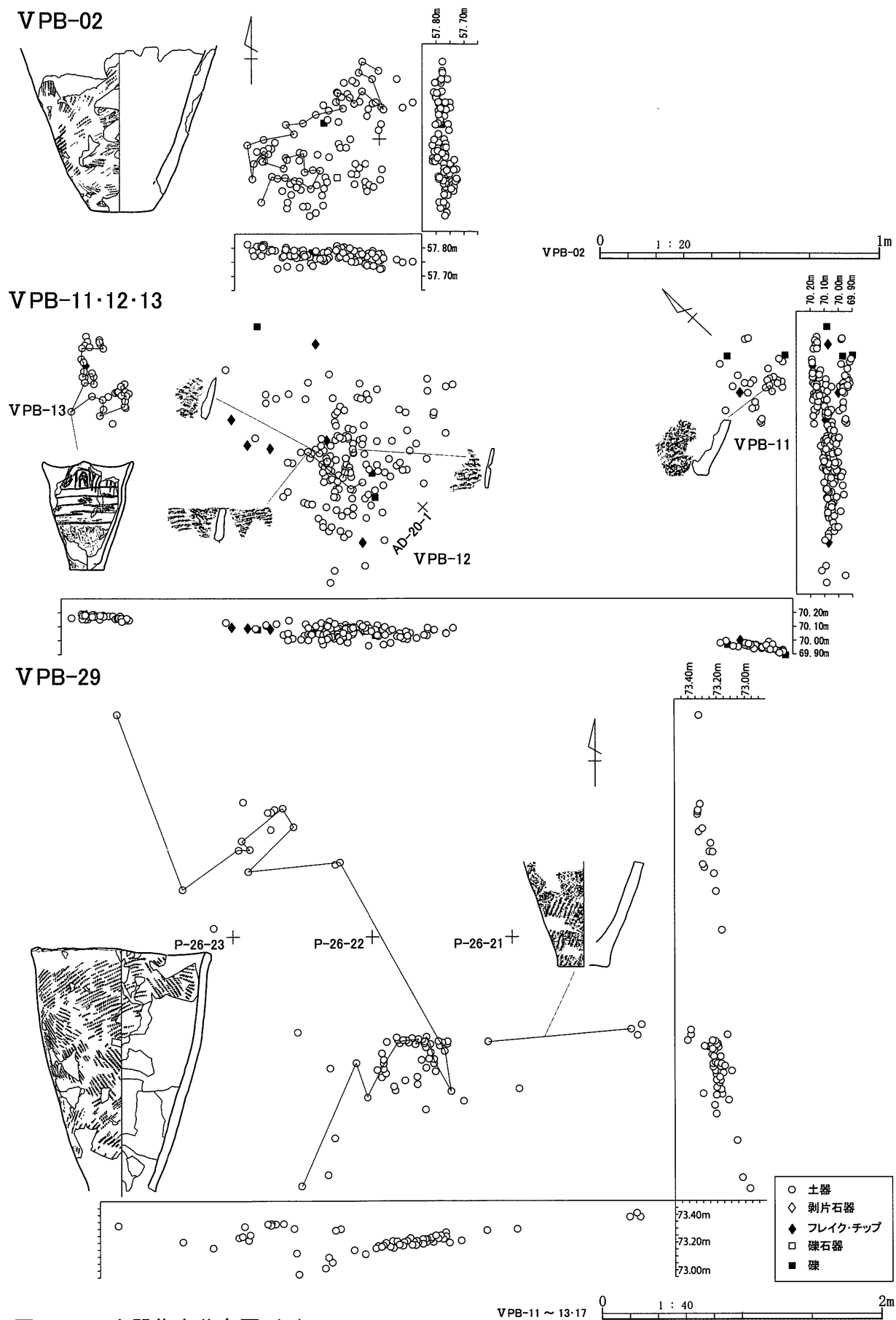
VPB-41



- 土器
- ◇ 剥片石器
- ◆ フレイク・チップ
- 礫石器
- 礫

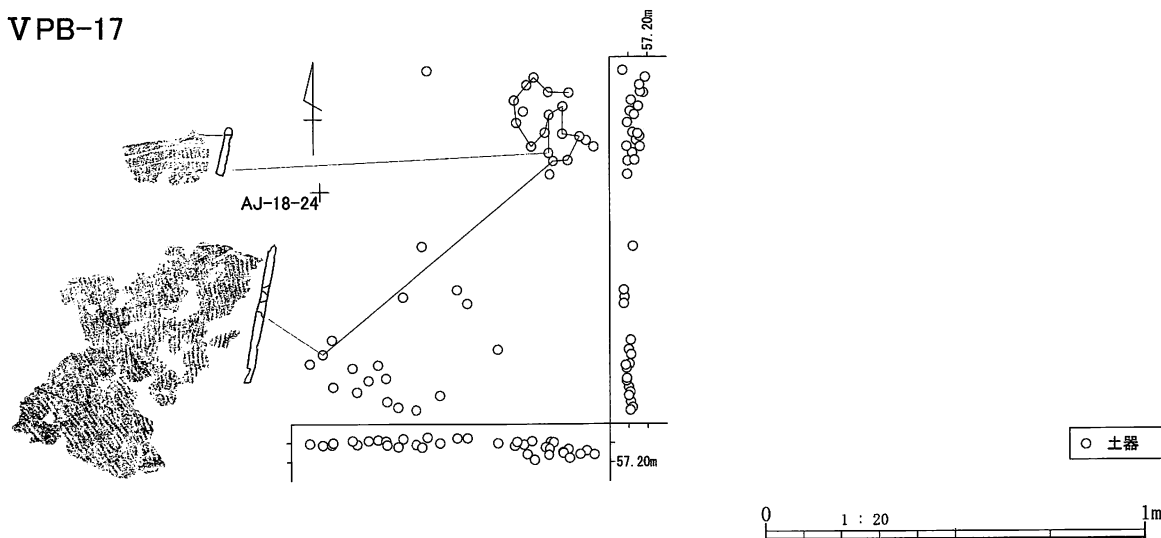
0 1 : 20 1m

図VI-90 土器集中分布図(4)



図VI-91 土器集中分布図 (5)

VPB-17



図VI-92 土器集中分布図 (6)

る。23は2個1対の突起を2カ所確認しているが、欠損のため全体は不明である。但し、正面図左側には貼付文の剥がれが見られることから、突起下に施されていたと思われる。口唇は尖り状で肥厚している。肥厚部にはLRの斜行縄文施文後に縄線文を施している。内面のミガキ調整は丁寧で、胎土には石英を含む。

II群 B2b類 (VPB-06・10・21・22・25～28)

8カ所の集中はT₁面で1カ所 (VPB-06) 検出している他はT₃面の段丘南側に分布する。すべてVb層中位で出土している。VPB-06はTP-22の東側で検出しており、TP覆土のものと接合している。また、北海道式石冠の未成品が同集中内から出土している。VPB-21・25～27は大きい土器片が割れた状態の集中であり、1個体分の破片の集中ではない。24・25は同一個体片である。口唇の断面形状は隅丸角状で、口唇の中央付近に、同一条異原体の縄線文が施されている。胴部文様は羽状縄文である。26は北海道式石冠の未成品である。把握部は未整形であるが、礫の破断面を敲打により平坦にしている。27は口唇の断面形状が丸状で、直下は肥厚している。口縁部の縄線文は同一条異原体である。28は口唇部が無文である。29は口唇部が丸状で、口縁部の縄線文は同一条異原体である。30は口唇が外削ぎの切り出し状でRLとLRの斜行縄文を施す。口縁部の2条の縄線文は同一条異原体である。31は底部片で、ほぼ直立に立ち上がる。32は口唇に縄文を施した後にナデ調整を行っているようである。33は口唇と口縁部に同一条異原体の縄線文を施している。34はやや歪なつくりのもので、口唇の断面形は丸状であるが、一部ナデ調整を施し平坦な部分もある。口唇には文様は施していない。口縁部の縄線文は同一条異原体である。

III群 B1類 (VPB-41)

T₃面で1カ所検出している。土器片の大半はVb層上位で取り上げている。横に倒れて潰れた状態で検出している。35は4カ所の突起をもち、突起部には縦位の棒状貼付文が施されている。この貼付文から2条1対の沈線文を垂下させ、その端部に円形の貼付文がある。棒状の貼付文には正面に縄の圧痕、側面に半截竹管状の工具で刺突を施している。円形の貼付文には同工具で刺突を施すものと、全く施していないものがある。地文はやや縦走気味に施されている。

IVB1・IVc1類 (VPB-02・11～13・29)

T₁面でIVB1類が1カ所 (VPB-02)、T₃面で3カ所、IVC1類が1カ所検出している。検出層位は

VPB-05



VPB-07



VPB-08



VPB-09



VPB-14



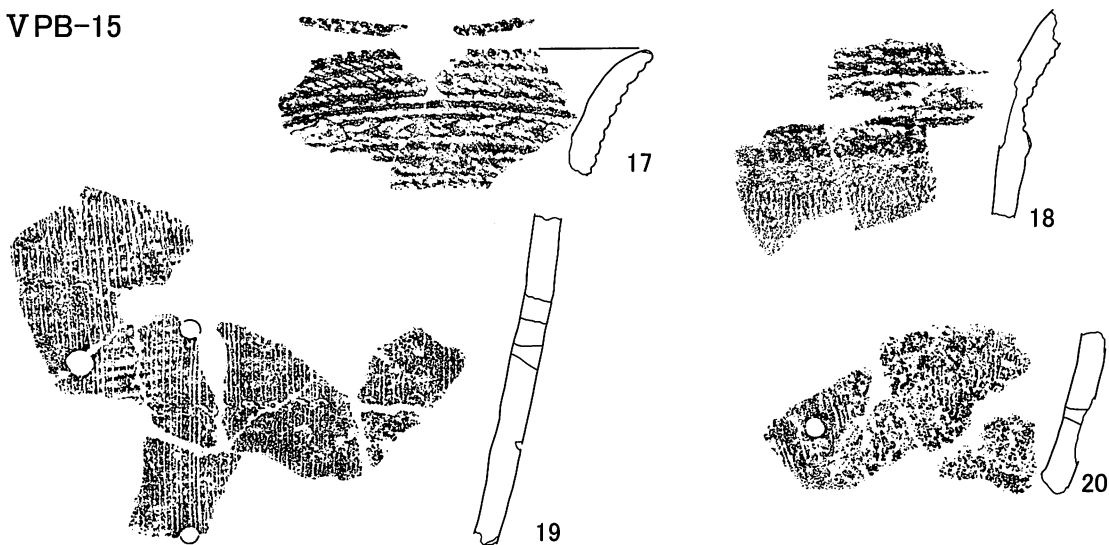
VPB-15



0 1 3 5 10cm

図VI-93 土器集中出土遺物(1)

VPB-15



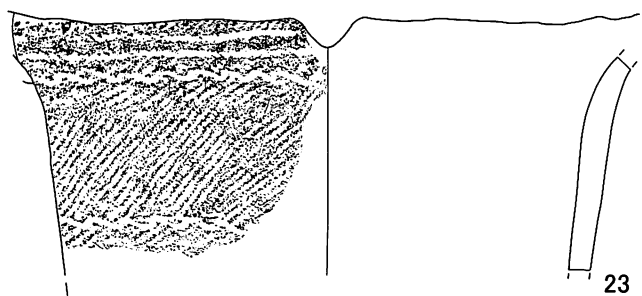
VPB-16



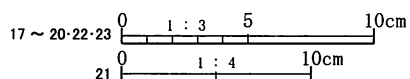
VPB-23

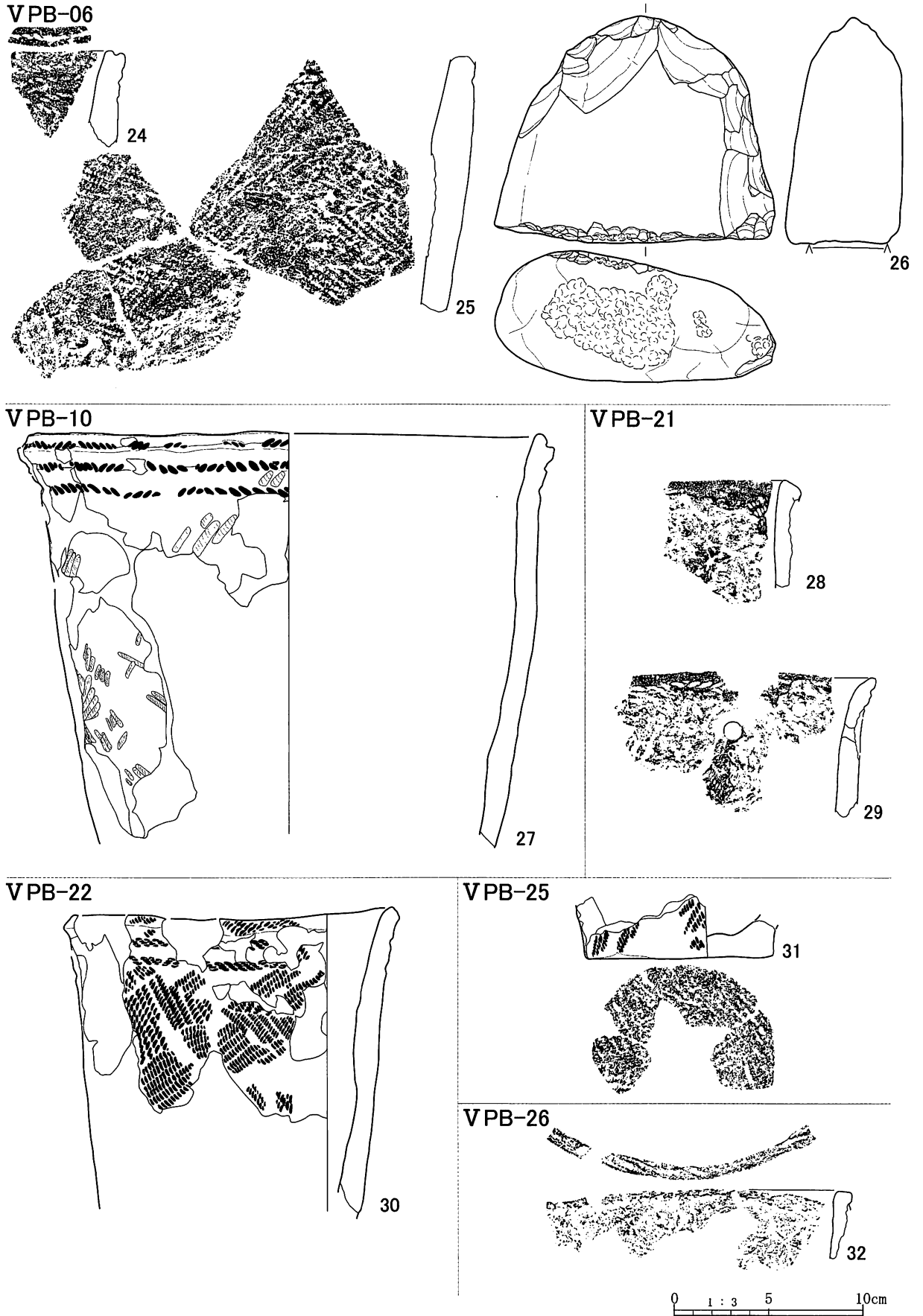


VPB-43



図VI-94 土器集中出土遺物(2)





図VI-95 土器集中出土遺物(3)

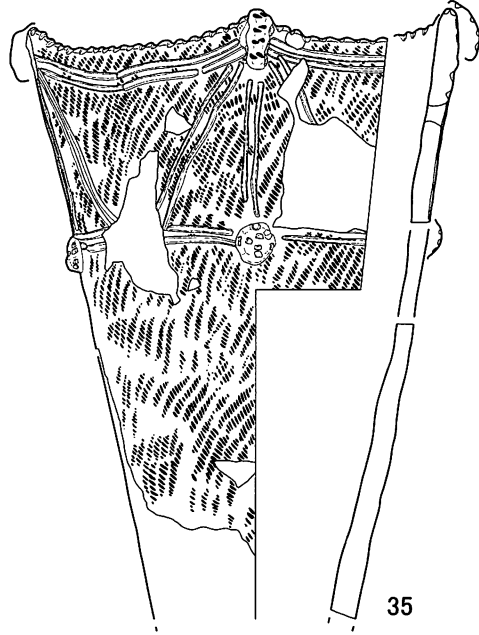
VPB-27



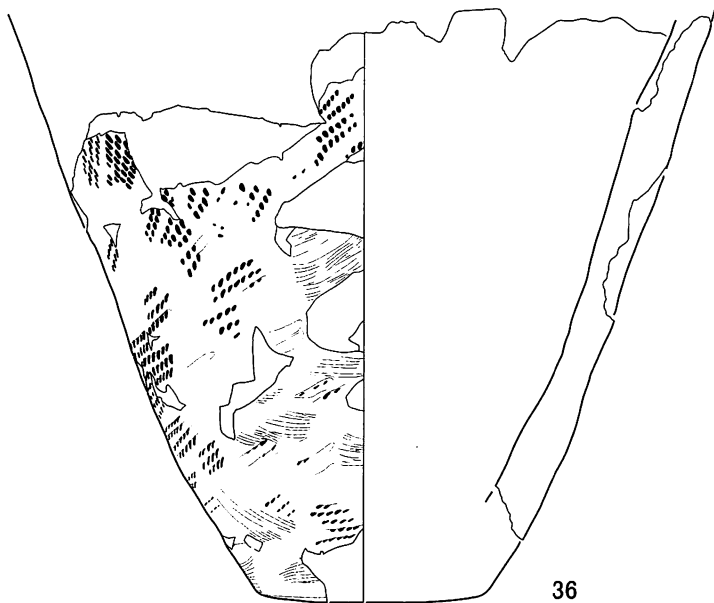
VPB-28



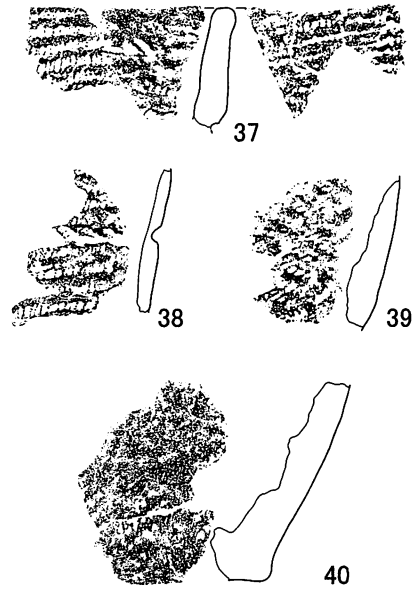
VPB-41



VPB-02



VPB-11・12



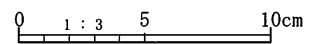
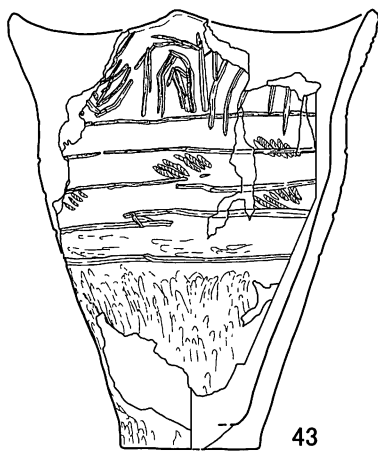
0 1 3 5 10cm

図VI-96 土器集中出土遺物(4)

VPB-29



VPB-13



図VI-97 土器集中出土遺物(5)

VPB-17



図VI-98 土器集中出土遺物(6)

VPB-12を除きVb層上位が殆どである。VPB-12は土器片の垂直分布を見るとレンズ状に分布していることから、窪みに廃棄されていたものと考えられる。そのため遺物取り上げ時にVb層下位で取り上げたと考えられる。VPB-11～13は近接している。当初これらは近接しており、ほぼ同一面で検出したため同時期のものと想定した。整理作業段階で、VPB-11と12はIVB1類の同一個体で、VPB-13はIVC1類で、時間差のあるものと判った。VPB-29は前期後半の竪穴住居跡廃絶後の窪みで検出している。36は大型土器の底部片である。縄文施文後にナデ調整が施されることや胎土の特徴よりタプコプ式と考えられるが、口縁部は欠損のため細分は困難であるが、周囲の出土土器よりIVB1類とした。37～40は同一個体片である。口縁に縄線文を施すものである。地文はLRの原体を縦と横方向に回転し羽状構成にしている。41・42は近接して出土しているが、別個体である。41は口縁部が無文帯となっているもので、胴部はLRの原体を横と縦方向に回転するものである。42はRLとLRの斜行縄文を施し、羽状縄文としている。43はIVC1類としたウサクマイC式である。縄文施文後に横走る沈線文を施し、その後で口縁部に沈線文を施す。胴部下半のミガキ調整は顕著である。

V群B1類 (VPB-17)

T₃面のVa層で検出している。やや大きな破片が散在して、潰れた状態で検出している。44・45は同一個体である。口唇の断面形は角状で、縄線文が施されている。口縁部には横走沈線文を3条施し、その下に蛇行沈線文を施す。RL原体を縦走気味に施す。

表VI-42 土器集中出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名 / グランド	層位	点数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点-底面	口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
VI-93-1	136-2-10	JP033A	I B3	VPB-05 AM-11	Vc VI	6 4	口縁~ 胴部上半	波状・直立-尖状/やや外傾	微隆起線文・短縄文	φ 1mm ↓ 砂粒多量混入			
VI-93-2	136-2-11	JP033B	I B3	VPB-05 AM-9	Vc VI	4	底側面	外傾-丸・平底	微隆起線文・短縄文	φ 1mm ↓ 砂粒多量混入			
VI-93-3	136-2-12	JP019A	I B3	VPB-05 AL-9	Vc VI	1 4	口縁~ 胴部下半	平縁・直立-尖状/外傾	無文	φ 1~2mm 砂・石英多量混入		富良野 盆地系	
VI-93-4	136-2-13	JP023A	I B3	VPB-07	VI	1	胴部	やや外傾	微隆起線文 + 斜位短刻文・LR斜行縄文	φ 1mm ↓ 砂粒少量混入		風化で磨耗	
VI-93-5	136-2-14	JP023B	I B3	VPB-07	VI	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	微隆起線文 + 斜位短刻文・LR斜行縄文	φ 1mm ↓ 砂粒少量混入		風化で磨耗	
VI-93-6	136-2-15	JP022A	I B3	VPB-07	VI	1	胴部	外傾	微隆起線文・結条体圧痕文	φ 1mm ↓ 砂粒少量混入		風化で磨耗	
VI-93-7	136-2-16	JP022B	I B3	VPB-07	VI	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	結条体圧痕文	φ 1mm ↓ 砂粒少量混入		風化で磨耗	
VI-93-8	136-2-17	JP017A	I B3	VPB-08	VI	17	口縁~胴部上半	小波状・内湾-尖状/やや外傾	微隆起線文・短縄文	φ 1mm ↓ 砂粒少量混入			
VI-93-9	136-2-18	JP017B	I B3	VPB-08	VI	13	胴部下半	外反	微隆起線文・短縄文	φ 1mm ↓ 砂粒少量混入			
VI-93-10	136-2-19	JP016A	I B3	VPB-09	VI	1	口縁部	平縁・やや外傾-尖状	2段異原体羽状縄文・微隆起線文 + 刻み	φ 1mm ↓ 砂粒少量混入			
VI-93-11	136-2-20	JP016B	I B3	VPB-09	VI	4	胴部下半	外傾	2段異原体羽状縄文・微隆起線文 + 刻み	φ 1mm ↓ 砂粒少量混入			
VI-93-12	137-1	JP042A	II B2a	VPB-14	VbL	3	口縁部	突起・やや内側-丸状	縄の圧痕-隆帯2 + 縄の圧痕・縄線文	φ 1mm ↓ 砂粒微量、 繊維多量混入		内面 :横ミガキ	
VI-93-13	137-2	JP042B	II B2a	VPB-14 AB-20	VbL VbL	6 1	口縁下半 ~胴上半	やや内傾/やや外傾	隆帯2 + 縄の圧痕・縄線文/結節回転文・捺糸文(多軸絡条体)	φ 1mm ↓ 砂粒微量、 繊維多量混入		内面:ミガキ	
VI-93-14	137-3	JP042C	II B2a	VPB-14	VbL	3	胴部下半 ~底部	やや外傾/外傾 -隅丸角状-平底	捺糸文(多軸絡条体)	φ 1mm ↓ 砂粒微量、 繊維多量混入		底側面・底面 :ミガキ強	
VI-93-15	137-4	JP062A	II B2a	VPB-15	VbL	1	口縁部	平縁・外反-丸状	縄の圧痕・縄線文	繊維少量混入		内面:口縁 横ミガキ	
VI-93-16	137-5	JP062B	II B2a	VPB-15 AI-21 AI-21	VbL V VbL	33 1 3	口縁下半 ~胴下半	直立/外傾	縄線文・縄の圧痕/捺痕(櫛状工具) + 捺糸文(多軸絡条体)	繊維少量混入		内面:口縁 横ミガキ	
VI-94-17	137-6	JP044A	II B2a	VPB-15 AL-20 AN-20	V Va Va	1 1 1	口縁部	平縁・外反-尖状	縄の圧痕・縄線文	φ 1~2mm 石英・砂粒少量、 繊維微量混入		内面:口縁 横ミガキ強	
VI-94-18	137-7	JP044B	II B2a	AL-21 AM-20	VbU VbL	1 3	口縁下半 ~胴部上半	外反/やや外傾	隆帯1 + 縄の圧痕?・縄線文/ 結節回転文・捺痕(櫛状工具) + 捺糸文(多軸絡条体)	φ 1~2mm 石英・砂粒少量、 繊維微量混入		内面:口縁 横ミガキ強	
VI-94-19	137-8	JP044C	II B2a	AI-19 AI-21 AL-21 AM-20	VbL V V VbL	1 1 1 4 3	胴部	やや外傾	捺痕(櫛状工具) + 捺糸文(多軸絡条体)	φ 1~2mm 石英・砂粒少量、 繊維微量混入		内面:胴部 横ミガキ	

表VI-42 土器集中出土土器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名 /グリッド	層位	点数	部位	器形等		文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面			
VI-94-20	137-9	JP044D	II B2a	VPB-15 AJ-21	VbL VbL	3 1	胴部下半	やや外傾	条痕(櫛状工具)+撚糸文(多軸絡条体)	φ1~2mm石英・砂粒少量、 繊維微量混入	内面:胴部 横ミガキ	
VI-94-21	137-10	JP064	II B2a	VPB-16 Z-23	VbL V	53 8 4	口縁~ 胴部下半	平縁・外反-隅丸角状/外傾	LR斜行縄文-LR斜行縄文/LR斜行縄文	φ1~2mm礫・繊維少量混入	内面横ミガキ	
VI-94-22	137-11	JP034	II B2a	VPB-23	VbL	16	口縁~ 胴部下半	平縁・やや外反-外削 隅丸角状 / やや外傾	半截竹管刺突文-縄線文+肥厚 /撚糸文(多軸絡条体)	φ1~2mm石英粒多量、 繊維微量混入	内面:口縁横 ミガキ、胴部 斜めミガキ強	
VI-94-23	138-1	JP251A	II B2a	VPB-43 AA-25	VbL VbL	7 9	口縁部~胴部	突起・外傾-尖状+肥厚 /やや外傾	縄線文・LR斜行 縄文/LR斜行線文・ 結節回転文	φ1~3mm 石英混入	内面:ヨコミガ キ強	
VI-95-24	138-2	JP068A	II B2b	VPB-06	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-隅丸角状	縄線文(同一条異原体)-縄線文(同一条 異原体)/RL斜行縄文	φ1~2mm砂粒・繊維多量 混入	風化著しい	
VI-95-25	138-3	JP068B	II B2b	VPB-06 TP-22	VbL I	1 2	口縁下半~ 胴部上半	やや外傾-外傾	縄線文(同一条異原体)/2段異原体羽状 縄文	φ1~2mm砂粒・繊維多量 混入	風化著しい	
VI-95-27	138-5	JP085A	II B2b	VPB-10	VbL	27	口縁~ 胴部下半	平縁-外傾-丸状/ やや外傾-外傾	縄線文(同一条異原体)・異原体羽状縄文 /異原体羽状縄文	繊維極多量混入	表面剥落著	
VI-95-28	138-6	JP066A	II B2b	VPB-21	VbL	1	口縁部	平縁・直立-外削隅丸角状	LR斜行縄文	繊維・砂粒少量混入	表面剥落著	
VI-95-29	138-7	JP069A	II B2b	VPB-21 AJ-17	VbL VbL	2 1	口縁~ 胴部下半	平縁・外反-丸状/やや外傾	縄線文(同一条異原体)/RL斜行縄文	φ1~2mm砂粒・繊維多量 混入	内面:横ナデ 調整痕、	
VI-95-30	138-8	JP087	II B2b	VPB-22	VbL	22	口縁~ 胴部上半	平縁・外傾 -外削切出し状/直立	LR・RL縄文-縄線文(同一条異原体) /2段異原体羽状縄文	繊維極多量混入	表面剥落著	
VI-95-31	138-9	JP089	II B2b	VPB-25	VbL	5	底部	やや外傾-直立-平底	LR斜行縄文-LR・RL縄文	繊維・砂粒多量混入	表面剥落著	
VI-95-32	138-10	JP078A	II B2b	VPB-26	VbL	6	口縁部	平縁・やや外傾-隅丸角状	LR斜行縄文-縄線文(同一条異原体)	繊維多量混入	表面剥落著	
VI-96-33	139-1	JP076B	II B2b	VPB-27	VbL	18	口縁~ 胴部下半	平縁・やや外傾-外削角状 /直立・やや外傾	縄線文(同一条異原体)-縄線文・(同一条 異原体)/2段異原体羽状縄文	繊維多量、砂粒少量混入	剥落著	
VI-96-34	139-2	JP090A	II B2b	VPB-28	VbL	24	口縁~ 胴部上半	平縁・直立-丸状/やや外傾	縄線文(同一条異原体)・異原体羽状縄文 /異原体羽状縄文	繊維多量、砂粒少量混入	表面剥落著	
VI-96-35	139-3	JP214A	III B1	VPB-41 X-20 X-25 X-26 Y-27	Vbu VbL Vbu VbL Va Va	23 3 1 1 3 3	口縁部~ 胴部下半	突起・やや外傾- 隅丸角状/やや外傾	刺突文-棒状貼付文+刺突文 +縄の圧痕・円形貼付帯+刺突文 ・沈線文・LR斜行縄文/LR斜行縄文	砂粒少量、繊維微量 混入		
VI-96-36	139-4	JP007	IV B1	VPB-02	Vbu	39	胴部下半~底部	外傾/外傾-角状-平底	LR斜行縄文	φ1~3mm礫・砂粒極多量 混入	施文後 ナデ調整	

表VI-42 土器集中出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名 / グリッド	層位	点数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 / 底側面-変換点-底面	平縁・直立-隅丸角状 / やや外傾 / 突起・外反-隅丸角状-外傾 / 外傾-角状-平底	口縁-内面/胴部-内面 / 底側面-底面-内面	LR縄文-LR横走縄文-LR横走縄文 / LR横走縄文・横位縄線文 / LR斜行縄文(縦位回転)		
VI-96-37	139-5	JP015A	IVB1	VPB-12	V VbL	2 1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	LR縄文-LR横走縄文	φ1~3mm礫・砂粒多量混入	施文後 ナデ調整		
VI-96-38	139-6	JP015C	IVB1	VPB-12	VbU	2	胴部上半	やや外傾	LR横走縄文・横位縄線文	φ1~3mm礫・砂粒多量混入	施文後		
VI-96-39	139-7	JP015D	IVB1	VPB-12	VbU	2	胴部下半	突起・外反-隅丸角状-外傾 / 外傾-角状-平底	LR斜行縄文(縦位回転)	φ1~3mm礫・砂粒多量混入	施文後 ナデ調整		
VI-96-40	139-8	JP015B	IVB1	VPB-11	VbU	2	底部	外傾-やや張り出し-平底	LR斜行縄文	φ1~3mm礫・砂粒多量混入	施文後 ナデ調整		
				VBB-03	Vc	1							
				VPB-29A	VbU	14							
				VPB-29B	VbU	9							
				VPB-35	VbU	4							
				VH-02	I	1							
VI-97-41	140-1	JP297A	IVB1	VH-03	Va VbU VbL	10 4 4	口縁部~ 胴部下半	平縁・やや外傾- 隅丸角状/やや外傾	LR縄文-無文帯/LR斜行縄文 (縦・横回転)	φ1~5mm砂礫多量、 パミス少量混入	内面:LR斜行 縄文		
				O-25	VbL	12							
				P-25	VbL	2							
				P-26	Va	1							
				VH-03	Va VbU	8 1							
VI-97-42	140-2	JP298A	IVB1	VH-04 VPB-29 O-25 W-25	VbL VbU VbL VbU	11 1 3 1	胴部下半~ 底部	外傾-隅丸角状-平底	2段異原体羽状縄文	φ1~5mm砂礫・パミス 多量混入			
VI-97-43	140-3	JP005	IVB1	VPB-13	VbU	24	口縁~ 胴部下半	突起・外反-隅丸角状-外傾 / 外傾-角状-平底	沈線文-沈線文・R?斜行縄文	φ1~2mm砂粒多量混入			
VI-97-44	140-4	JP001A	VB1	VPB-17	VaU	2	口縁部	突起・やや外傾-角状	縄線文-横走沈線文・蛇行沈線文・ RL縦走縄文	砂粒少量混入			
VI-97-45	140-5	JP001B	VB1	VPB-17	VaU	15	口縁部下半 ~胴部下半	やや外傾-外傾	横走沈線文・蛇行沈線文・RL縦走縄文 /RL縦走縄文	砂粒少量混入			

表VI-43 縄文時代土器集中出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-95-26	138-4	-	1652	すり石	IV	VbL	VPB-06	-	148.1	119.7	60.2	1477	Sa.	被熟、 未製品

剥片石器集中 (図VI-99~106 図版 94・141)

剥片石器集中は3カ所(VFTB-01~03)検出している。T₁面で1カ所(VFTB-01)、T₃面で2カ所(VFTB-02・03)である。VFTB-01・02は両面調整石器、VFTB-03は両面調整石器と素材剥片と考えられるフレイクで構成されている。出土状態よりVFTB-01・02は袋状の物に入れられたもの、VFTB-03は埋納されたものと思われる。時期については共伴する土器がないことから明確ではないが、遺跡の主体を占める前期後葉と思われる。以下遺構ごとに記載する。

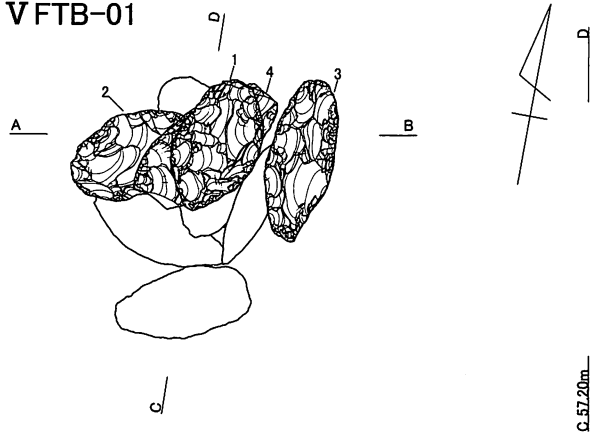
VFTB-01 (図VI-99・100)

AM-9区で検出した。Vb層上位で両面調整石器が1点出土し、その周囲で4点黒曜石製石器の一部を検出した。剥片石器の集中と捉え、掘り込み等がないか確認するために、トレンチ調査を先行したところ、剥片集中の基底面はVb層下位であり、掘り込み等は確認できなかった。本集中は、両面調整石器9点で構成していることが判り、出土状態の微細図と断面図の作成を並行して行った。出土状態は石器が重なり合っただけで傾いて出土しているものもある。このような状態から、埋納したものというよりも、袋のようなものにいられていた状態ではないかと考えられる。時期は土器の共伴関係等はなく明確ではないが、検出層位及び遺跡内の出土石器の傾向から前期後葉頃かと思われる。1~9は黒曜石製の両面調整石器である。木葉形を基調とするものが多い。いずれも側縁の稜は直線的ではなく、刃部として利用はされていないと考えられる。また、1・2・6は両側縁で潰れている範囲が広い。両面の剥離の稜が明瞭に潰れているものや、磨耗により丸くなったと思われるものがあり、7が顕著で2・3・5・8でも確認できる。これらは肉眼による観察では複数の原産地が想定できる。この剥片石器集中の性格を想定する上で、原産地を明らかにすることは重要と考え、3~5・8・9の5点について原産地分析の委託業務を行っている。その結果は3・9上土幌系、8赤井川系、4・5丸瀬布系?である。

VFTB-02 (図VI-101~103 図版 94・142・143)

0-23区で検出した。Vb層上位で両面調整石器4点を検出した。剥片石器の集中と捉え、掘り込み等がないか確認するために、トレンチ調査を先行したところ、剥片集中の基底面はVb層下位であり、掘り込み等は確認できなかった。集中全体を検出したところ、15点の両面調整石器で構成していることが判った。出土状態の記録を行い、遺物を取り上げている。図化していないが、この集中の中に、扁平な楕円礫が共に出土している。出土状態はVFTB-01と同様であり、同じく袋のようなものにいられていた状態ではないかと考えられる。時期についてもVFTB-01と同じ理由により前期後葉と思われる。1~15は黒曜石製の両面調整石器である。3・13は片面に大きな一次剥離面を残すものであるが、木葉形であること等から、両面調整石器に含めて分類している。木葉形を基調とするものが殆どであるが、14・15は菱形形状である。10の平面形は石槍に近い形状である。先端部・基部が厚いことや、調整の状態から石槍の未成品と思われる。長軸長の平均は約82mmである。両側縁は直線的ではない。また5・8・9・13・15は側縁の潰れている範囲が広い。VFTB-01と同様に両面の剥離の稜が明瞭に潰れているものや、磨耗により丸くなったと思われるものがある。8が顕著で、1

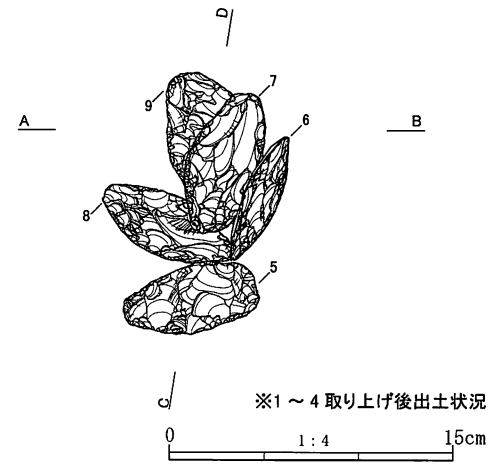
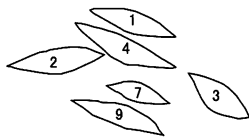
VFTB-01



A 69.20m

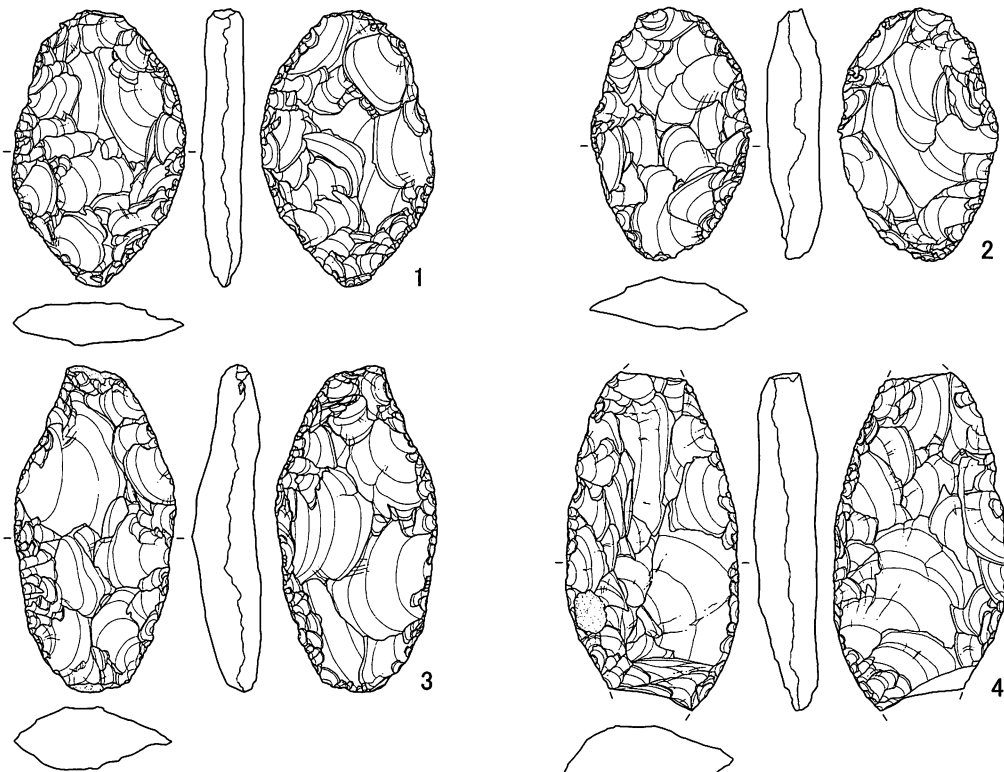
B

AM-09-20



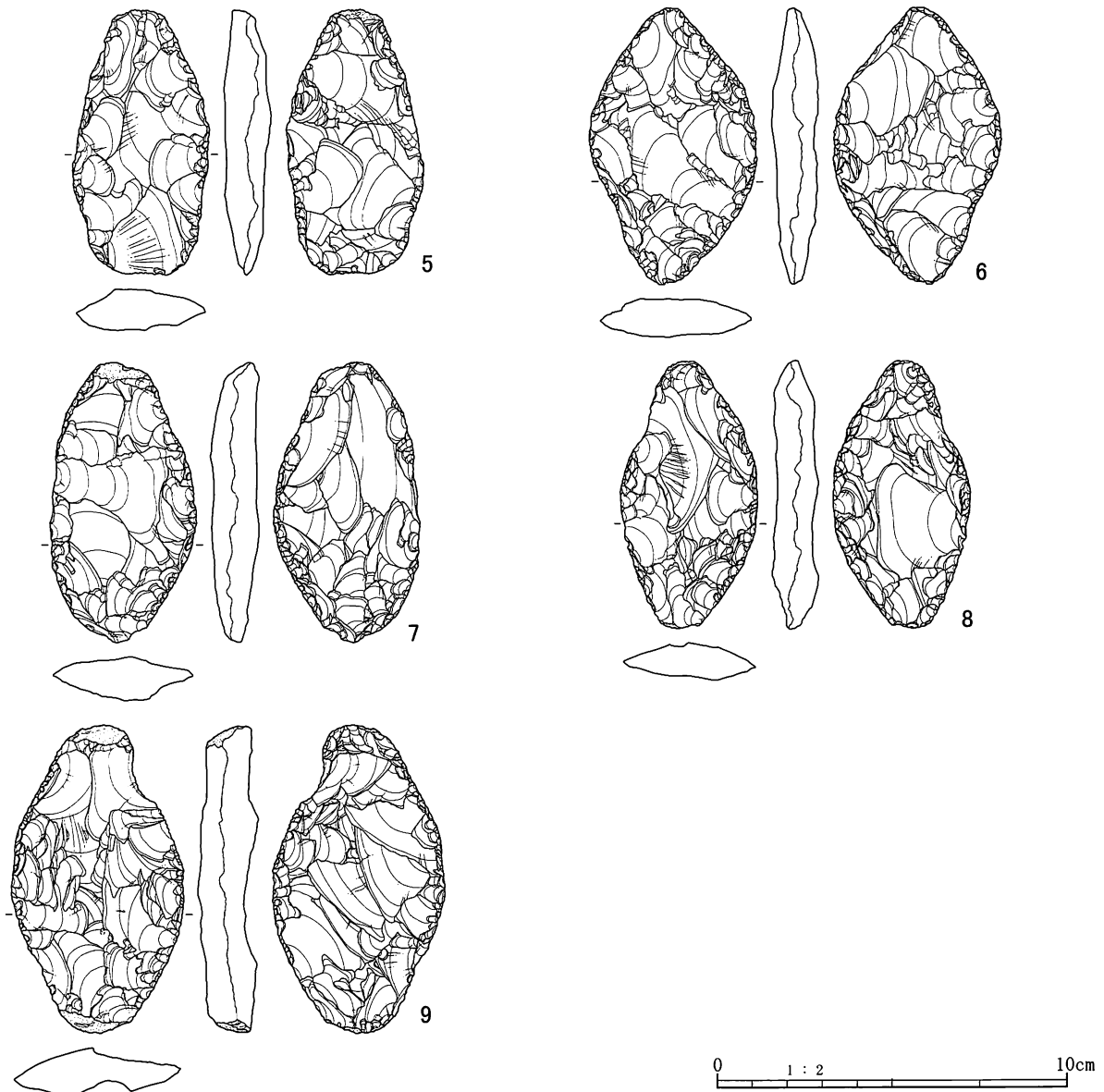
※1～4 取り上げ後出土状況

0 1:4 15cm



図VI-99 縄文時代剥片石器集中(1)

0 1:2 10cm



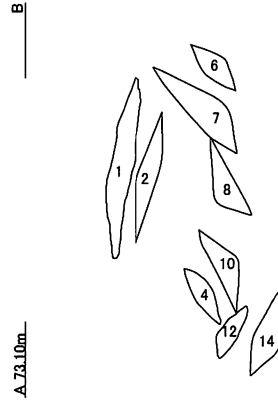
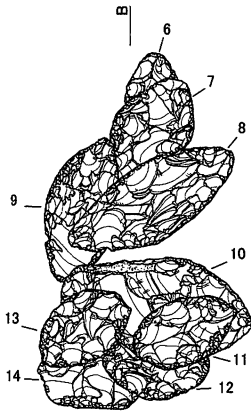
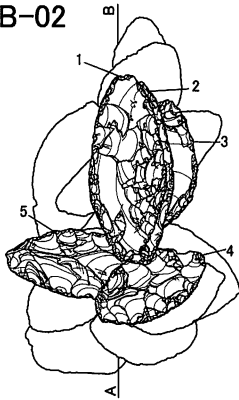
図VI-100 縄文時代剥片石器集中(2)

～3、4・11・12・14・15 も確認できる。原産地分析の委託業務を行っており、1・9・10 は所山 I、13 は赤井川である。

VFTB-03 (図IV-104～106 図版 94・144～146)

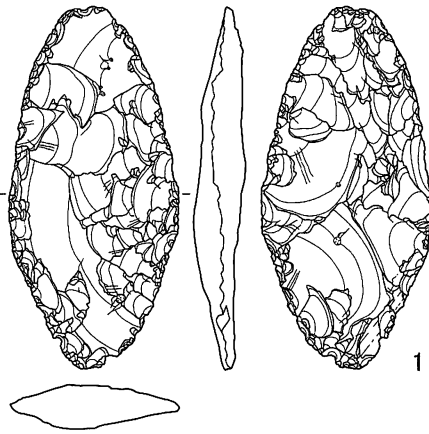
Z-24 区の Vb 層下位調査中に 220×160 cm の範囲で黒曜石のまとまりが認められ、VFCB-21 を付番した。Vc 上面まで調査を進めた段階で、フレイク・チップは出土していないが、不整形な黒色土の落ち込みと、その上で 3 点の剥片石器及びフレイクを検出した。この 3 点を取り上げて精査した後、VI 層上面でやはり不整形な黒色土の落ち込みを確認し、この黒色土中の剥片石器の一部を検出した。この時点で、剥片石器の集中と捉え、掘り込み等がないか確認するために、トレンチ調査を先行した。明瞭な掘り込みを確認は出来なかった。集中遺物の出土状態は、楕円形状に分布し、各遺物は重なり合っており、いずれも集中範囲の中央に向かって低く傾いている。このような出土状態から、明瞭な掘り込みは確認できなかったが、遺物は掘り込みの底面に接していた可能性がある。窪みの図化は行っていないが、断面形は皿状であった。このような状態から、集中遺物は埋納され

VFTB-02

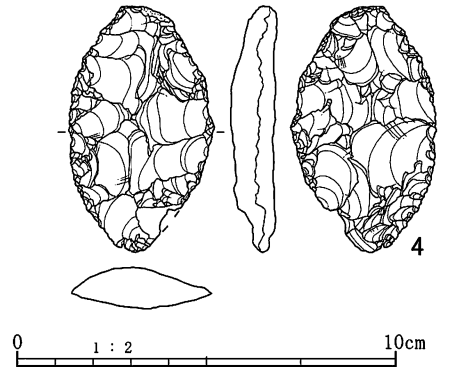
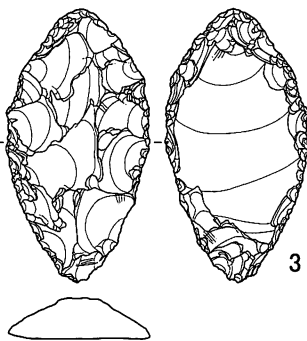
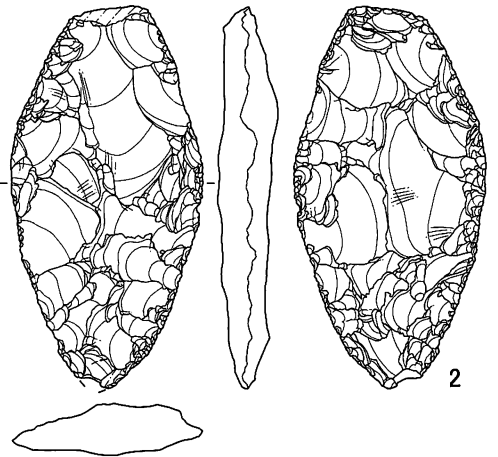


A. 73.10m

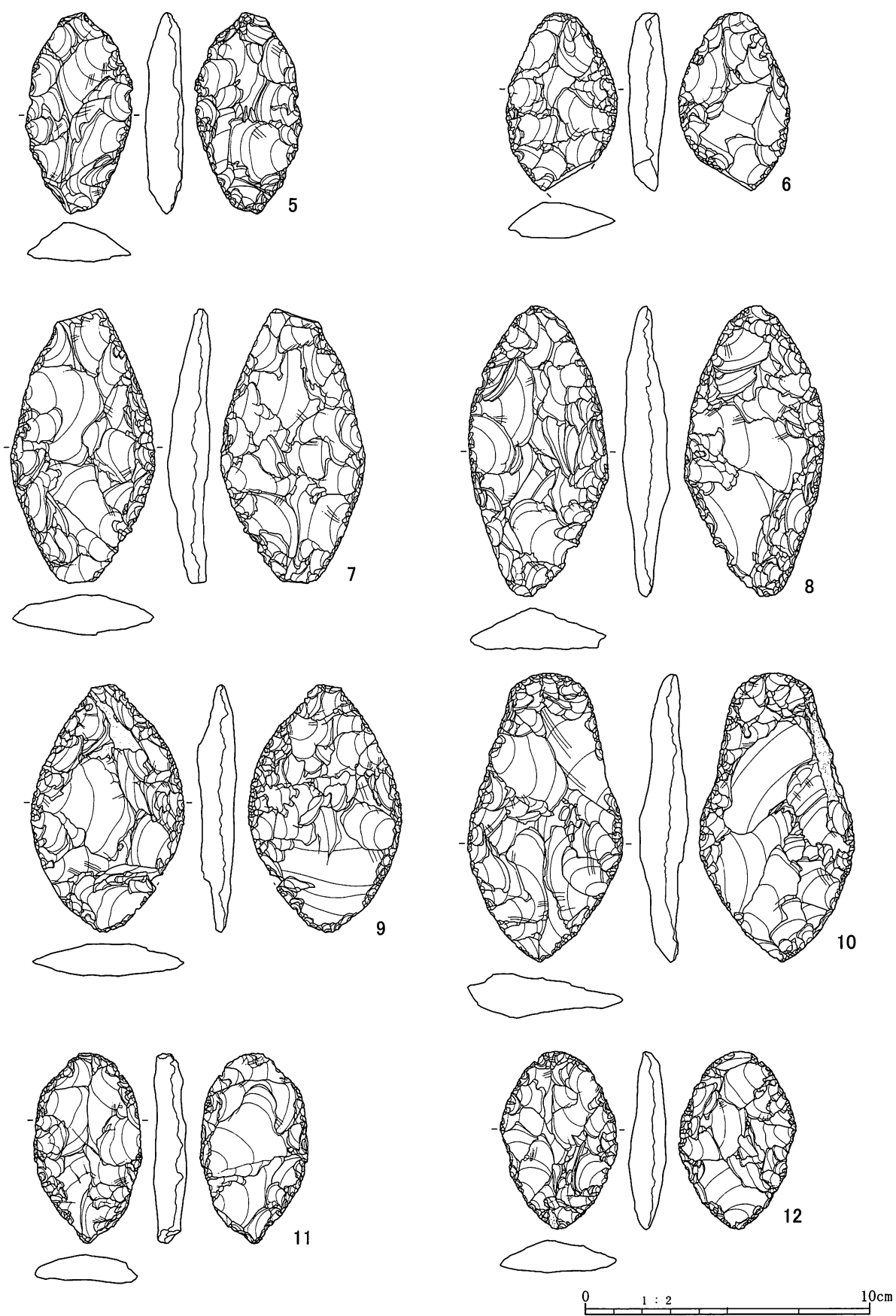
※1～5 取り上げ後出土状況



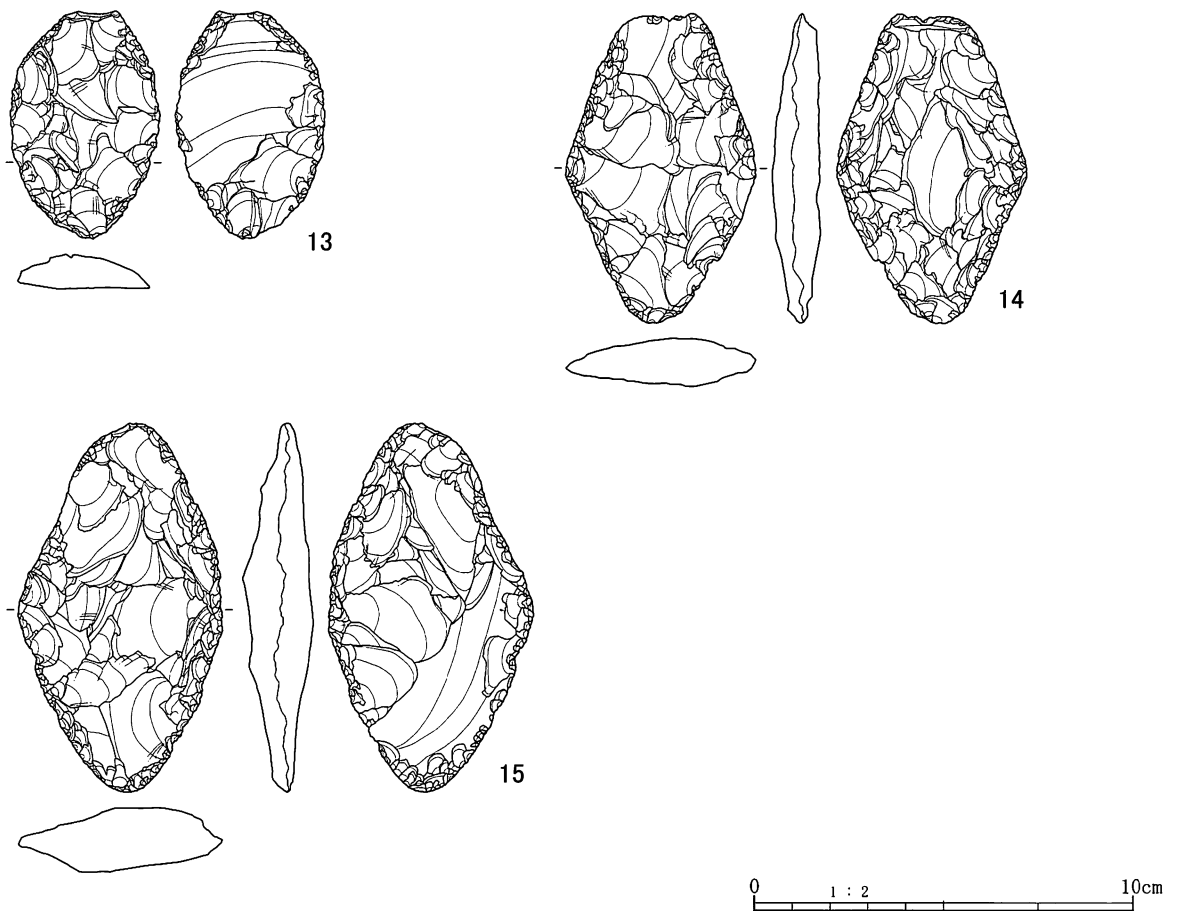
0 1:4 15cm



図VI-101 縄文時代剥片石器集中(3)



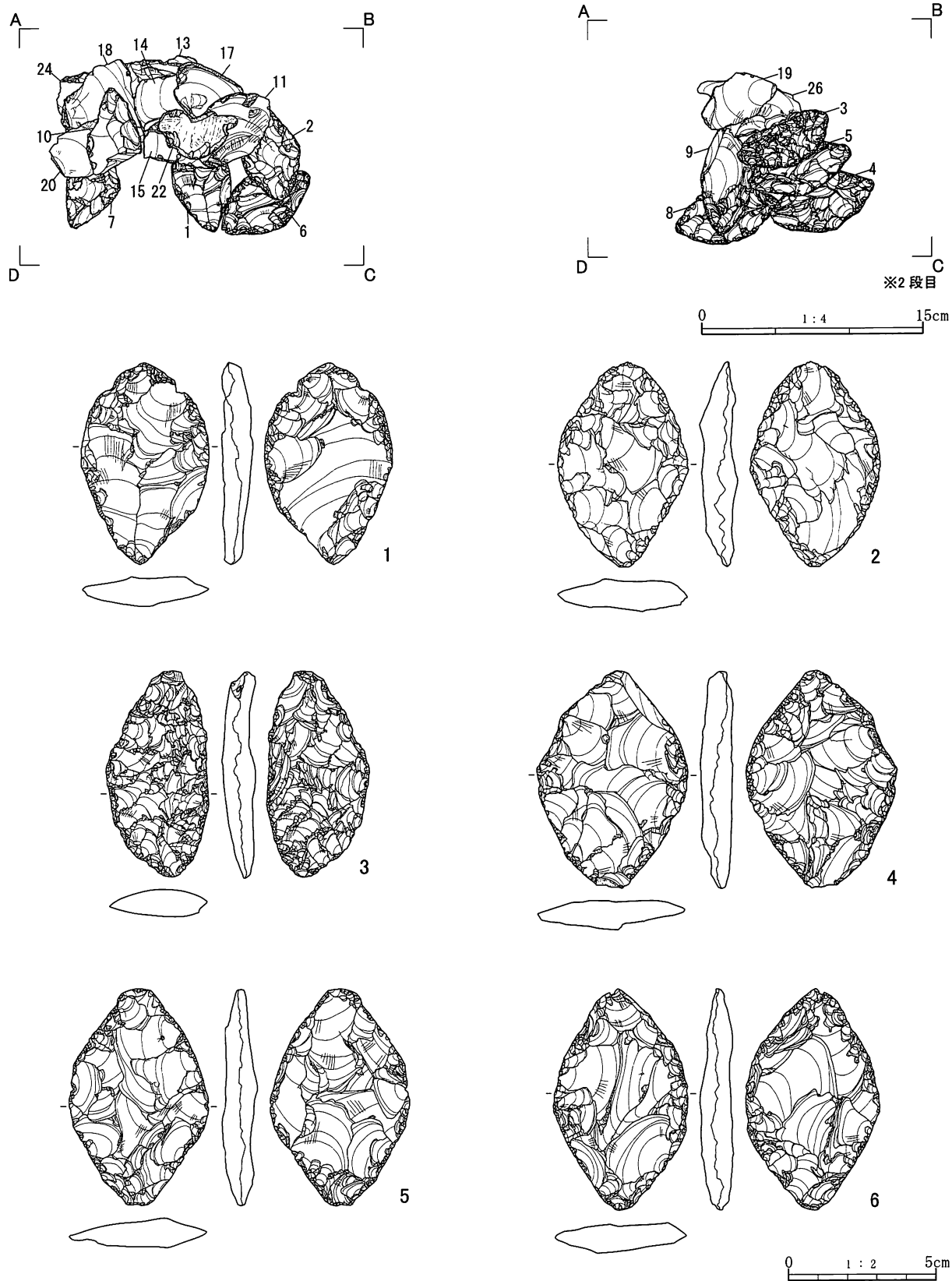
図VI-102 縄文時代剥片石器集中(4)



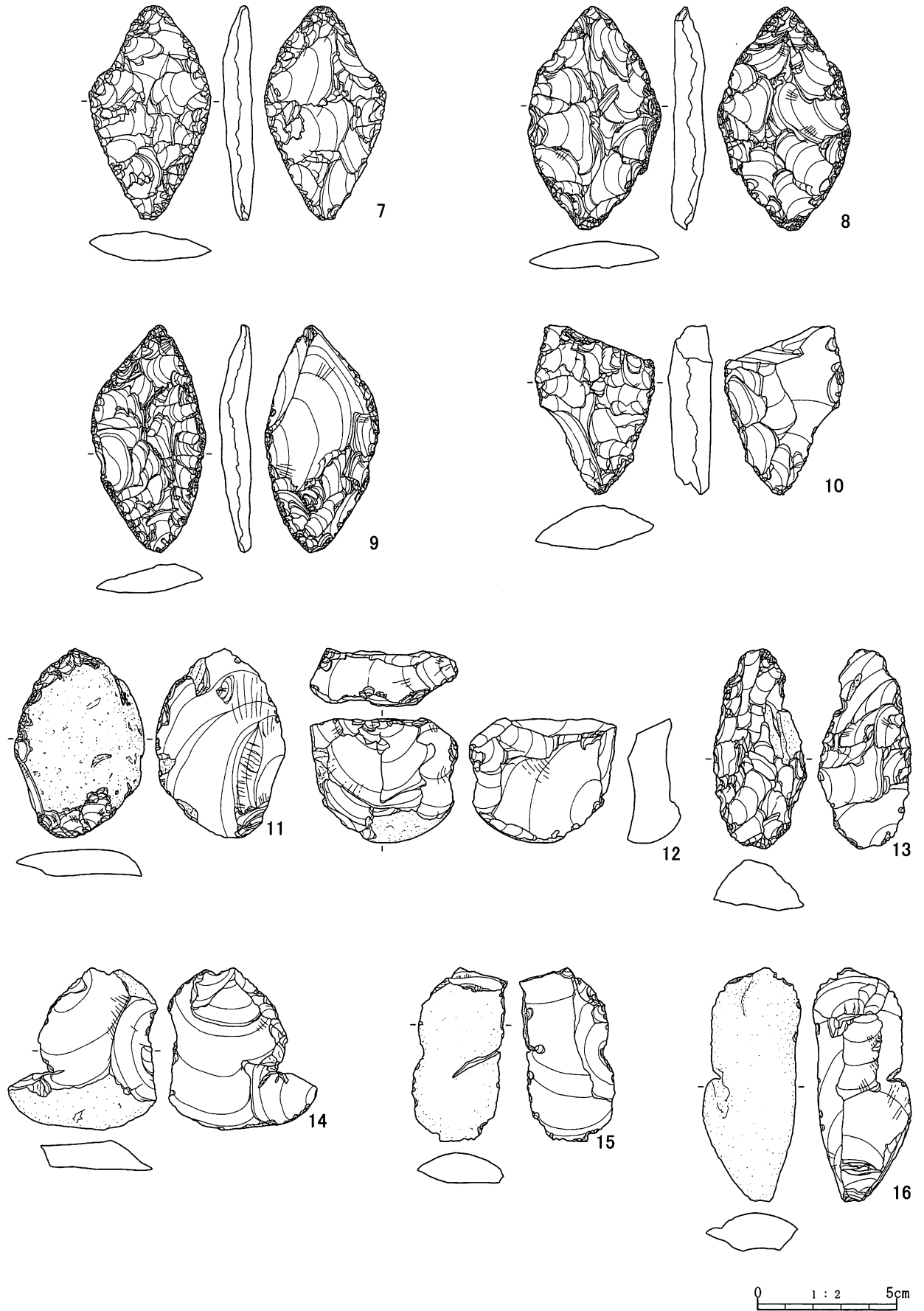
図VI-103 縄文時代剥片石器集中(5)

ていたものと思われる。整理作業の段階で、VbL 層中のフレイク・チップはVFCB-21、不整形な落ち込み中の剥片石器及びフレイクをVFTB-03とした。VFCB-21は一括で取り上げており、この中からは土器の細片1点、剥片石器2点、フレイク・チップ121点が出土している。VFCB-21とVFTB-03の関係は不明である。時期は土器の共伴関係等はなく明確ではないが、遺跡内の出土土器の傾向から前期後葉頃かと思われる。1~10は黒曜石製の両面調整石器である。1・2・4~9は木葉形を基調としており、両側縁は直線的ではなく、大半のものは潰れている部分があることから刃部としては実用的ではないと思われる。また、VFTB-01・02で見られたような面で剥離の稜が明瞭に潰れているものや、磨耗により丸くなったものは見られない。3は他のものに比べ剥離調整が丁寧で、形状も若干異なる。但し側縁は他のもの同様に、直線的ではなく、潰れている部分がある。10は欠損後に破断面側から調整が行われている。11は円磨の進んだ転礫面を大きく残すもので、側縁に連続した調整を施すことからスクレイパーと分類している。12は石核で転礫を利用している。13は片面が全面加工されているものである。周縁は直線的ではなく、部分的に潰れている部分も確認できたことから、刃部は形成されていないものと考えR・Fに分類している。14~26はフレイクで、大きさや出土状態から素材剥片と考えられる。14~17は円磨の進んだ転礫を素材としており、14~16は縦長で、17は横長である。18~26は岩屑面を残すものである。18~21は縦長、22~26は横長である。岩屑面の特徴や石質より複数の産地が想定される。原産地の委託分析を行っており、1・3・7・20・23は赤井川、11・16は丸瀬布、12は厚和48林班である。

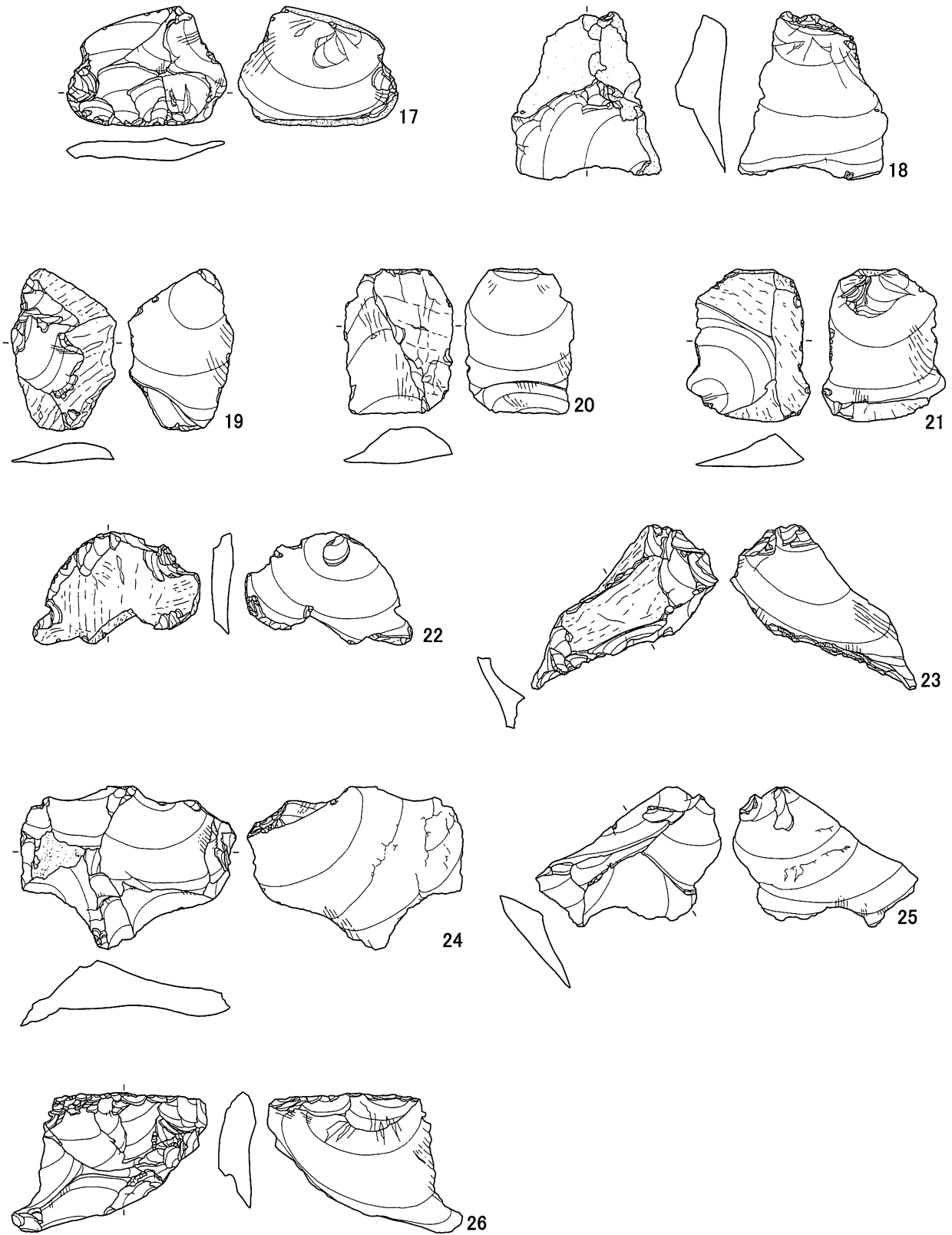
VFTB-03



図VI-104 縄文時代剥片石器集中(6)



図VI-105 縄文時代剥片石器集中(7)



図VI-106 縄文時代剥片石器集中(8)

表VI-44 VFTB-01出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-99-1	141-1-1	-	VFTB-01-1	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	73.1	47.0	11.3	36.1	Obs.	
VI-99-2	141-1-2	-	VFTB-01-2	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	66.6	41.8	13.0	35.2	Obs.	
VI-99-3	141-1-3	-	VFTB-01-3	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	87.0	43.5	16.1	55.4	Obs.	●
VI-99-4	141-1-4	-	VFTB-01-4	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	(91.3)	45.2	16.6	64.1	Obs.	●
VI-100-5	141-1-5	-	VFTB-01-5	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	76.4	37.8	12.7	35.6	Obs.	●
VI-100-6	141-1-6	-	VFTB-01-6	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	78.1	46.9	13.4	41.1	Obs.	
VI-100-7	141-1-7	-	VFTB-01-7	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	80.4	43.8	13.1	42.0	Obs.	
VI-100-8	141-1-8	-	VFTB-01-8	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	76.5	40.1	11.2	31.8	Obs.	●
VI-100-9	141-1-9	-	VFTB-01-9	両面調整石器	-	VbL	VFTB-01	-	87.3	49.0	17.3	54.0	Obs.	●

●は黒曜石原産地分析試料

表VI-45 VFTB-02出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-101-1	142-1	-	31045	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	96.3	45.0	12.0	45.2	Obs.	●
VI-101-2	142-2	-	31044	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	101.0	50.2	14.0	66.4	Obs.	
VI-101-3	142-3	-	31048	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	72.5	38.2	13.2	30.4	Obs.	
VI-101-4	142-4	-	31049	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	66.0	38.1	10.8	25.0	Obs.	
VI-102-5	142-5	-	31050	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	70.9	37.3	12.6	30.4	Obs.	
VI-102-6	142-6	-	31058	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	(63.0)	39.2	10.6	28.6	Obs.	
VI-102-7	142-7	-	31057	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	97.3	50.2	14.8	56.7	Obs.	
VI-102-8	142-8	-	31055	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	102.2	49.5	15.2	59.9	Obs.	
VI-102-9	143-1	-	31056	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	87.3	54.0	13.4	42.5	Obs.	●
VI-102-10	143-2	-	31053	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	101.8	54.4	16.6	65.4	Obs.	●
VI-102-11	143-3	-	31052	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	67.4	37.8	11.8	28.1	Obs.	
VI-102-12	143-4	-	31054	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	63.0	40.8	12.6	26.9	Obs.	
VI-103-13	143-5	-	31051	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	60.6	39.5	9.6	23.0	Obs.	●
VI-103-14	143-6	-	31060	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	82.0	50.0	11.5	42.7	Obs.	
VI-103-15	143-7	-	31059	両面調整石器	-	VbL	VFTB-02	-	97.3	54.1	16.0	66.5	Obs.	

●は黒曜石原産地分析試料

表VI-46 VFTB-03 出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-104-1	144-1	-	31343	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	68.7	43.4	10.3	27.4	Obs.	●
VI-104-2	144-2	-	31334	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	69.6	44.4	10.5	30.2	Obs.	
VI-104-3	144-3	-	31421	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	70.5	34.6	10.1	23.5	Obs.	●
VI-104-4	144-4	-	31418	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	73.8	51.2	9.9	35.8	Obs.	
VI-104-5	144-5	-	31422	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	74.3	74.2	10.6	31.0	Obs.	
VI-104-6	144-6	-	31344	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	75.7	45.4	10.1	32.1	Obs.	
VI-105-7	144-7	-	31342	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	76.9	43.4	9.8	28.3	Obs.	
VI-105-8	144-8	-	31417	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	80.0	47.7	11.2	36.6	Obs.	
VI-105-9	144-9	-	31416	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	81.8	40.7	11.3	28.3	Obs.	●
VI-105-10	144-10	-	31336	両面調整石器	-	VbL	VFTB-03	-	60.3	43.0	13.7	33.4	Obs.	
VI-105-11	145-1	-	31330	スクレイパー	-	VbL	VFTB-03	-	67.8	45.3	12.2	37.0	Obs.	●
VI-105-12	145-2	-	30803	石核	-	VbL	VFTB-03	-	46.0	53.5	16.6	49.0	Obs.	●
VI-105-13	145-3	-	31339	R.F	-	VbL	VFTB-03	-	71.3	33.2	17.2	33.7	Obs.	
VI-105-14	145-4	-	31335	FC	-	VbL	VFTB-03	-	58.7	53.0	11.8	31.9	Obs.	
VI-105-15	145-5	-	31331	FC	-	VbL	VFTB-03	-	62.7	30.5	10.7	21.6	Obs.	
VI-105-16	145-6	-	30802	FC	-	VbL	VFTB-03	-	84.3	33.0	16.0	42.8	Obs.	●
VI-106-17	145-7	-	31333	FC	-	VbL	VFTB-03	-	40.3	54.7	10.9	21.9	Obs.	
VI-106-18	145-8	-	31338	FC	-	VbL	VFTB-03	-	57.1	54.1	15.9	27.1	Obs.	
VI-106-19	145-9	-	31419	FC	-	VbL	VFTB-03	-	42.0	48.7	12.1	16.7	Obs.	
VI-106-20	145-10	-	31337	FC	-	VbL	VFTB-03	-	49.8	38.1	11.8	25.8	Obs.	●
VI-106-21	146-1-1	-	30801	FC	-	VbL	VFTB-03	-	53.9	42.6	15.8	26.5	Obs.	
VI-106-22	146-1-2	-	31329	FC	-	VbL	VFTB-03	-	60.8	36.1	9.0	16.8	Obs.	
VI-106-23	146-1-3	-	31332	FC	-	VbL	VFTB-03	-	75.9	34.3	12.8	20.5	Obs.	●
VI-106-24	146-1-4	-	31340	FC	-	VbL	VFTB-03	-	74.6	56.9	18.8	45.9	Sh.	
VI-106-25	146-1-5	-	31341	FC	-	VbL	VFTB-03	-	63.5	40.2	9.1	16.2	Sh.	
VI-106-26	146-1-6	-	31420	FC	-	VbL	VFTB-03	-	77.6	45.4	11.2	24.4	Sh.	

●は黒曜石原産地分析試料

剥片集中 (図VI-107・108 図版 95・146・147)

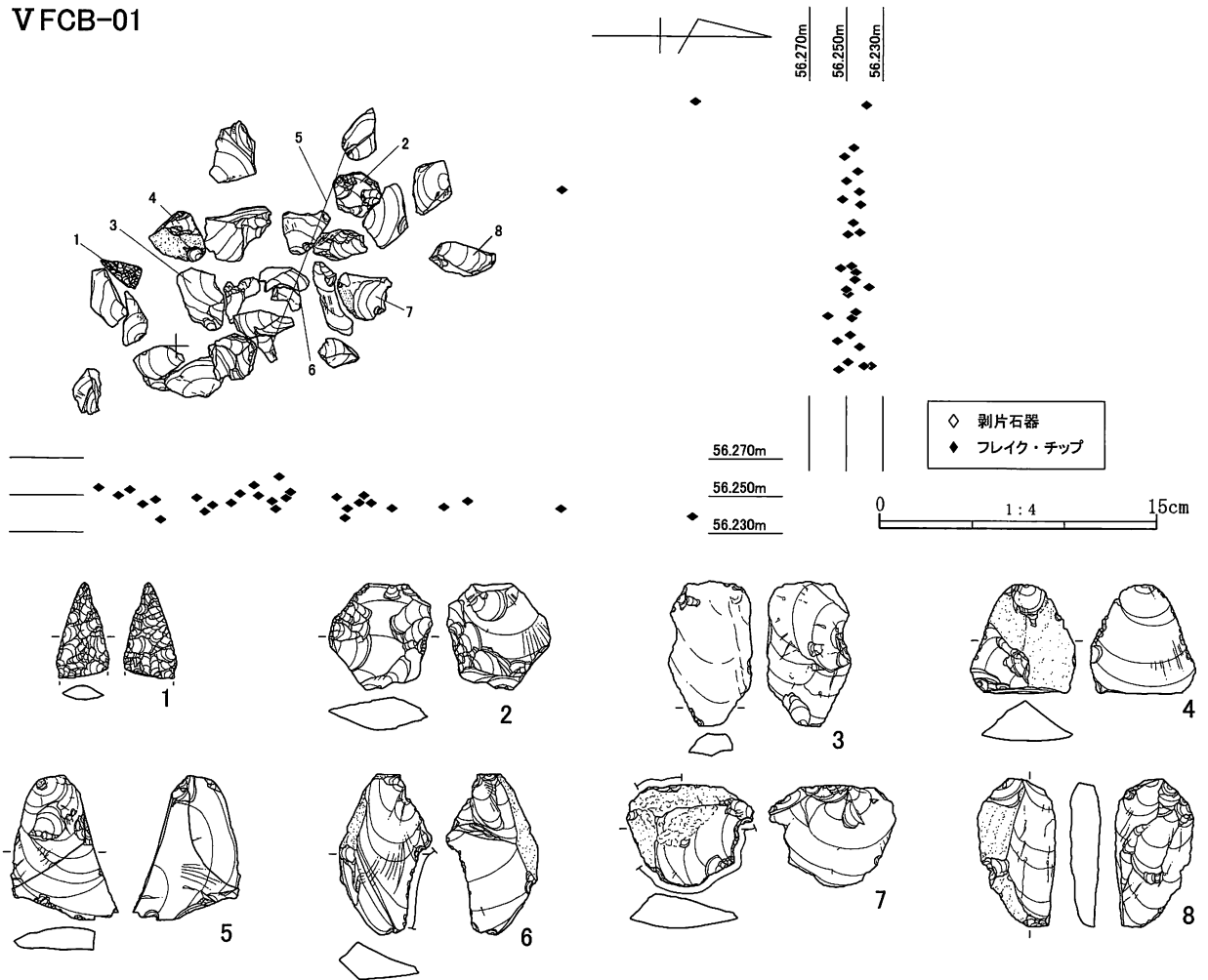
剥片集中は15カ所検出している。T₁面で4カ所 (VFCB-01~04)、T₃面で11カ所 (VFCB-05・07・10~12・14~17・20・21) である。T₃面における分布は特に偏りは見られない。以下段丘区分毎に概要を記載する。特筆すべきものを除き、図化は行っていない。

T₁面ではVFCB-01~04が出土している。VFCB-01はVc層で29点の黒曜石の剥片石器及びフレイクが出土している。内訳は石鏃1点、Rフレイク2点、Uフレイク21点、フレイク5点である。Uフレイクとしたものは剥片の縁片の一部に微細な剥離のあるものを分類している。これらはほぼ水平に出土している。この周囲でチップ等は数点のみの出土であり、別の場所で剥離を行ったものと思われる。検出層位より早期後葉と考えられる。VFCB-02~04は近接して出土している。VFCB-02・03は近接しているが、VFCB-02はVc層主体で、VFCB-03はVb層下位が主体である。またVFCB-02は崖裾の平坦面に分布しているが、VFCB-03は斜面下位から広がっている。また、VFCB-03はII B2a類の土器片が同じように分布していることから、前期後葉にT₃面からの廃棄もしくは流れ込みと思われる。VFCB-02は主体となる出土層位より早期後葉と考えられる。VFCB-04はVFCB-03の範囲と重なるものだが、出土層位は明確に分かれる。この範囲ではVc層とVI層の間に斜面の崩落等による薄い礫層があり、この下のVI層よりVFCB-04は出土している。この範囲中にはI B3類の古手中茶路式が出土しており、早期後葉のものと考えられる。また、早期に特徴的な薄手の石鏃が出土している。

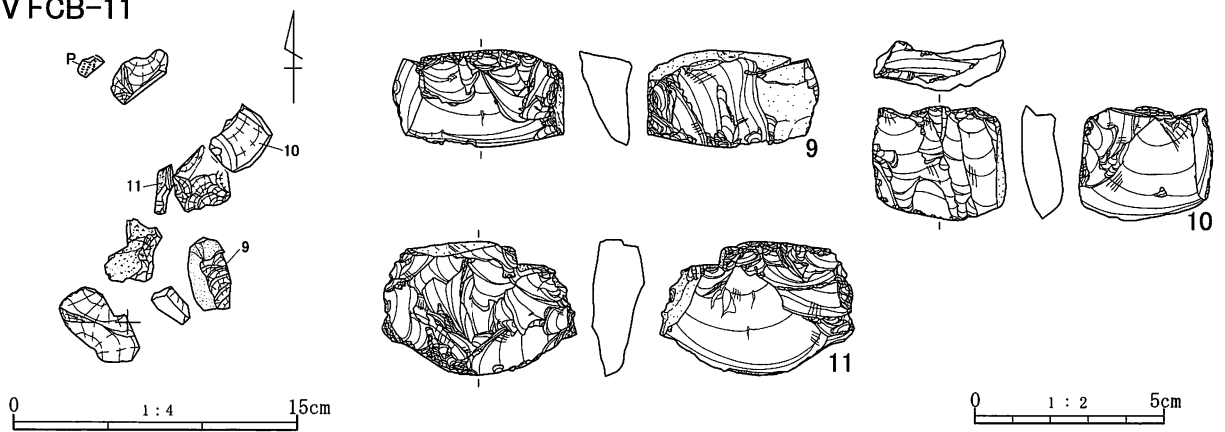
T₃面ではVFCB-05・07・10~12・14~17・20・21が出土している。他の遺構と関連のあるものはVFCB-10・12・14・15がある。VFCB-10はVH-01、VFCB-14はVH-03周囲の掘り上げ土上面で検出しており、住居跡より新しいものである。VFCB-15は覆土上層で小範囲にまとまって出土したものである。VFCB-12はVH-04の掘り上げ土と重複する風倒木痕と重なって検出している。この風倒木痕はIII層堆積時のものであり、III層調査中から多量のフレイクを確認していた。風倒木痕中でのフレイクの出土状態より、掘り上げ土の上で形成されたフレイク・チップ集中と思われる。VFCB-07はVC層上面で径5cmほどの黒色土の落ち込みを確認し、この黒色土中からフレイク・チップが出土することからトレンチを設けて半截を行った。落ち込みは途中で横に延びることから、根痕と判断した。この根穴からは多量のフレイク・チップが出土しており、場所によっては土よりもフレイク・チップが多い部分もある。VFCB-11は現場段階でフレイク・チップ集中として扱ったが、整理作業段階で残核7点とRフレイク・フレイク各1点で構成されていることが判った。整理作業段階で、剥片石器集中に変更せずにそのままここで掲載を行っている。9点中8点は肉眼では岩層面の特徴等から同一母岩のものと思われ、周囲で出土したフレイク・チップを合わせて接合作業を行ったが、接合に至ったものはない。出土状態は水平ではなく、レベル差がある。

出土遺物 (図IV-107・108) : 1は基部が欠損した石鏃である。2は左側縁で部分的に連続した調整が行われている事から、Rフレイクに分類している。3~8はUフレイクで、縁片に微細な剥離が見られることから分類した。3・7・8は層状に白色の球顆が入るものである。9~11は残核である。いずれも岩層面を残す。12~15は石鏃である。12~14は薄手のもので、12は先端部が欠損しているが、14と同じ柳葉形と思われる。13は無茎であるが、基部の調整が新しく、急角度で粗いことから、欠損後に再加工を行ったものかもしれない。12は欠損したポイント類と分類を行ったが、やや左右非対称であることから、別器種かもしれない。16は石槍の基部片である。17は刃部が著しく内湾する

VFCB-01

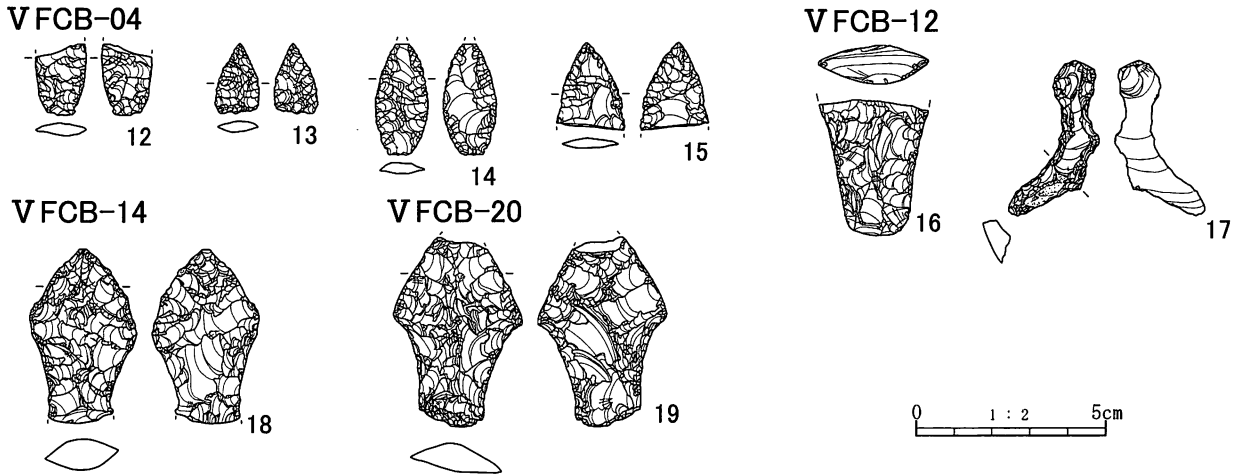


VFCB-11



図VI-107 縄文時代剥片集中(1)

ものである。両側縁とも急角度である。18・19は石槍で18は基部、19は先端部が欠損している。2・7・13・15は出土状態等からいずれも早期後葉と考えられるもので、原産地分析の委託を行っている。結果は2・7・13が赤井川、15が上土幌系である。



図VI-108 縄文時代剥片集中(2)

表VI-47 フレイク・チップ集中属性表

挿図番号	図版番号	遺構名	グリッド	層位	平面形	規模(cm)		フレイク・チップ		関連遺構	備考
						長軸	短軸	石材	点数		
VI-107	-	VFCB-01	AO-09	Vc	不整形	38	15	Obs.	30		
-	-	VFCB-02	AF・AG-09	VbL~VI	不整形	304	200	Obs.	365		
-	-	VFCB-03	AE-09AF-09・10	VbL~VI	不整形	608	240	Obs.	737		
-	-	VFCB-04	AE・AF-09	VbL~VI	不整形	200	176	Obs.	630		
-	-	VFCB-05	AL-21	VbU	不整形	216	136	Obs.	134		
-	-	VFCB-07	AC-19	Vc	楕円形	32	24	Obs.	2063		
-	-	VFCB-10	AM-19	VbL	不整形	147	63	Obs.	138		
VI-107	-	VFCB-11	AE-17	VbL	不整形	165	120	Obs.	9		
-	-	VFCB-12	O-28・29	V~VI・KR	不整形	1023	(401)	Obs.	7211		
-	-	VFCB-14	Q-27	VbU~VbL	不整形	86	80	Obs.	54		
-	-	VFCB-15	Q-25	VbL	不整形	29	28	Obs.	175		
-	-	VFCB-16	V・W-24	VbU	不整形	329	270	Obs.	233		
-	-	VFCB-17	R・S-21・22	VbL	不整形	84	51	Obs.	134		
-	-	VFCB-20	N・O-26	VbL	不整形	93	66	Obs.	104		
-	-	VFCB-21	Z-24	VbL	不整形	220	160	Obs.	119	VFTB-03	
								Sh.	2		

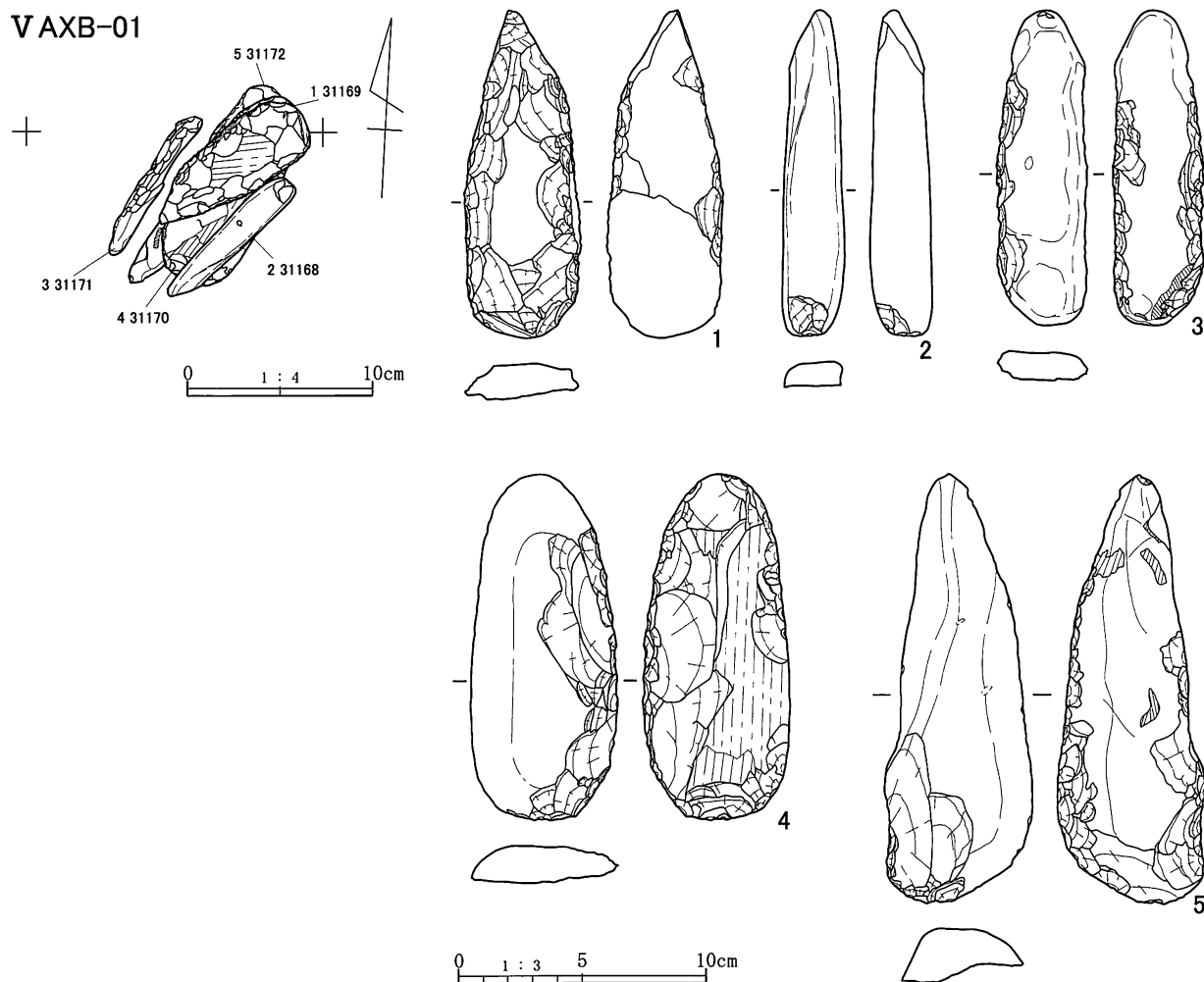
表VI-48 フレイク・チップ集中出土石器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	遺物番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
IV-107-1	146-2-7	-	590	ポイント類	-	Vc	VFCB-01	-	(26.5)	14.4	4.3	1.2	Obs.	
IV-107-2	146-2-8	-	611	R.F	-	Vc	VFCB-01	-	30.3	27.7	8.2	6.2	Obs.	●
IV-107-3	146-2-9	-	597	U.F	-	Vc	VFCB-01	-	39.5	22.6	12.5	9.4	Obs.	
IV-107-4	146-2-10	-	598	U.F	-	Vc	VFCB-01	-	29.5	28.3	11.2	6.5	Obs.	
IV-107-5	146-2-11	VFT-01	601	U.F	-	Vc	VFCB-01	-	41.0	28.3	10.1	8.1	Obs.	
IV-107-6	146-2-12	-	603	U.F	-	Vc	VFCB-01	-	43.4	24.6	10.8	7.6	Obs.	
IV-107-7	146-2-13	-	607	U.F	-	Vc	VFCB-01	-	34.4	28.6	10.0	6.7	Obs.	●
IV-107-8	146-2-14	-	613	U.F	-	Vc	VFCB-01	-	40.3	21.3	12.0	8.1	Obs.	
IV-107-9	147-1-1	-	15004	石核	-	VbL	VFCB-11	-	28.7	45.0	13.1	18.6	Obs.	
IV-107-10	147-2-2	-	15006	石核	-	VbL	VFCB-11	-	27.8	36.1	9.3	13.5	Obs.	
IV-107-11	147-3-3	-	15008	石核	-	VbL	VFCB-11	-	34.6	50.9	14.2	25.3	Obs.	
IV-108-12	146-2-15	-	VFCB-04-9	ポイント類	A1	VI	VFCB-04	-	(19.4)	13.5	4.0	0.8	Obs.	
IV-108-13	146-2-16	-	VFCB-04-8	ポイント類	A1	VI	VFCB-04	-	19.2	11.8	3.2	0.6	Obs.	●
IV-108-14	146-2-17	-	VFCB-04-6	ポイント類	A1	VI	VFCB-04	-	(30.0)	14.1	3.2	1.1	Obs.	
IV-108-15	146-2-18	-	VFCB-04-7	ポイント類	C	VI	VFCB-04	-	(24.0)	18.2	2.9	1.1	Obs.	●
IV-108-16	147-1-4	-	35359	石槍	B1b	Va	VFCB-12	-	(35.2)	29.1	10.4	9.2	Obs.	
IV-108-17	147-1-5	-	35363	スクレイパー	C3a	Va	VFCB-12	-	34.5	11.3	5.5	2.6	Obs.	
IV-108-18	147-1-6	-	21649	石槍	B1a	VbL	VFCB-14	-	45.8	28.1	9.0	10.8	Obs.	
IV-108-19	147-1-7	-	35333	石槍	B1b	VbL	VFCB-20	-	(49.9)	33.9	9.6	13.1	Obs.	

●は黒曜石原産地分析試料

石斧集中 (図VI-109 図版 96・147)

AA-24 区の Vb 層下位で石斧の素材と思われる礫を含む石斧 5 点を検出した。トレンチ調査を先行し掘り込み等の確認を行ったが、認められない。5 点はいずれも長軸方向を同じくしており、1・2・4・5 は重なっている。3 は長軸方向が垂直に立った状態で出土している。このような出土状態から、袋のようなものに入れていたか、紐で縛られていたような状態で埋没したと想定される。1・3~5 は周縁を打ち欠いた石斧の未成品と考えられ、3・5 は一部であるが研磨も施されている。2 は下端に打ち欠きが見られるが、整形とまではいえないと思われることから、石斧の素材と捉えた。また形状より石のみのための素材の可能性も考えられる。



図VI-109 VAXB 平面図及び出土遺物

表VI-49 VAXB-01出土石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-109-1	147-2-8	-	31269	石斧	B	VbL	VAXB-01	-	132.0	47.0	15.0	125.0	Gr-Mud.	
VI-109-2	147--29	-	31268	石斧素材礫	-	VbL	VAXB-01	-	(132.6)	26.0	11.0	60.0	Gr-Mud.	
VI-109-3	147-2-10	-	31271	石斧	C	VbL	VAXB-01	-	127.0	37.0	12.0	110.0	Gr-Mud.	
VI-109-4	147-2-11	-	31270	石斧	C	VbL	VAXB-01	-	140.0	60.0	15.0	225.0	Gr-Mud.	
VI-109-5	147-2-12	-	31272	石斧	C	VbL	VAXB-01	-	173.0	60.0	22.0	260.0	Gr-Mud.	

礫石器集中 (図VI-110～112 図版 96・148)

礫石器集中としたものは2カ所 (VSTB-01・02) がある。共に、800 cm以内の範囲に10個程の石皿が検出したものである。周囲ではその他の遺物が殆ど出土していないことも共通する特徴である。

T₁面で1カ所 (VSTB-01)、T₃面で1カ所 (VSTB-02) である。以下、遺構毎に記載する。

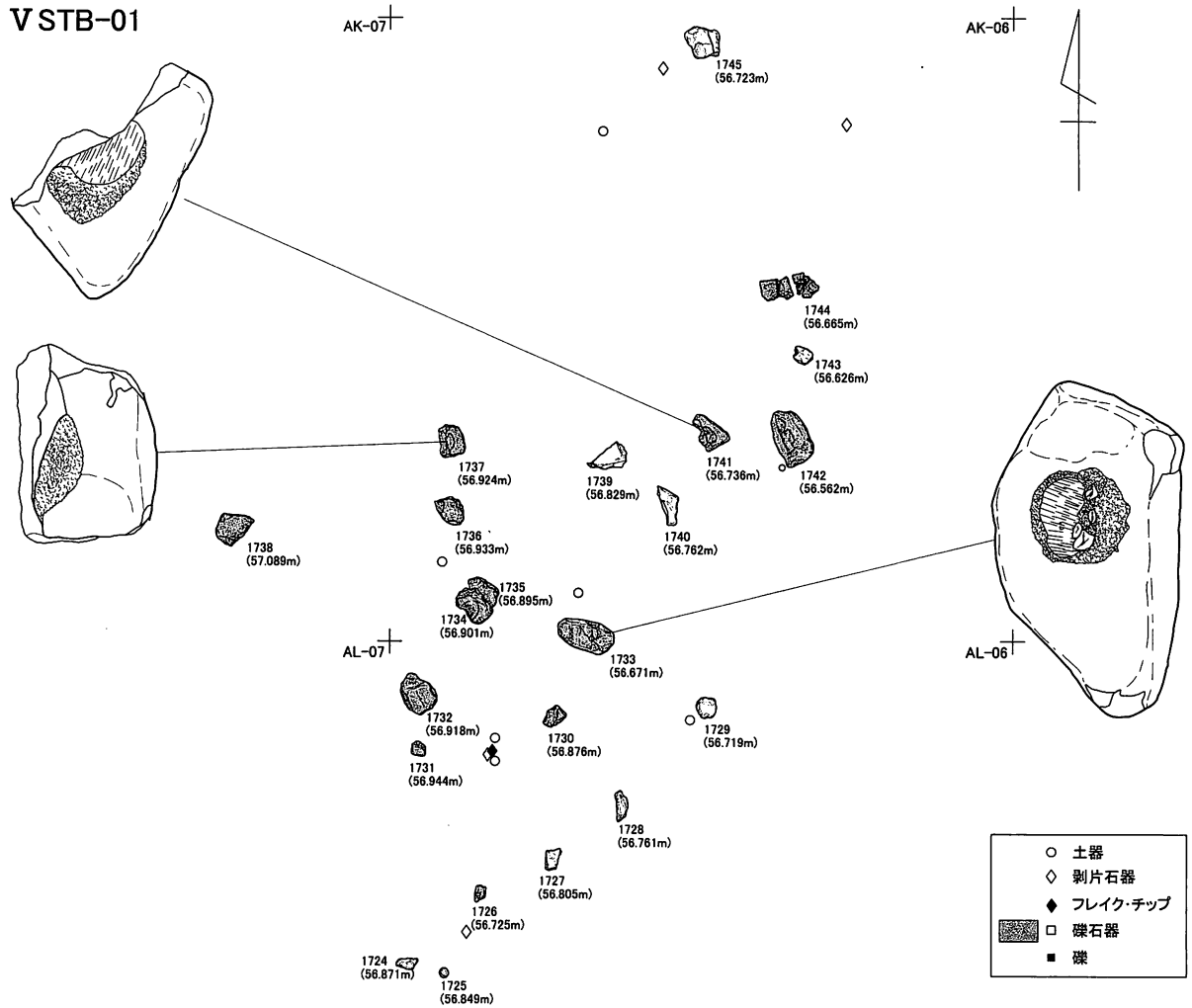
VSTB-01

T₁面の平坦面縁辺に位置する。785×425 cmの範囲に8点の石皿と3点の礫石器が出土している。前述したように、集中範囲内にその他の遺物出土分布は希薄である。石皿は2点を除き大きく欠損しているものである。個々の出土状態は使用面を上に向けているものが多いが、横もしくは下にしてのものもある。出土遺物は1～3で1・2は石皿、3は台石である。1は完形品で、敲打整形で円形に粗面を作り出し、その中にすり面が形成されている。また、この中に4カ所の深い窪みがある。窪みは深いもので1.5 cm程である。この窪みは用途・機能は不明で、どのように作出したのか判断としない。3は敲打された部分も欠損しており全体が不明である。すり面が観察できなかったことから、台石として分類を行ったが、敲打の範囲は大きく窪むことから、1・2のような石皿の可能性もある。時期は本遺跡の主体となる時期が前期後葉であることと、前期後葉に多く見られる石皿の形態であることから、同時期の所産と思われる。本集中の性格は、欠損品が多いことから廃棄されたものと思われる。但し、生活の場の主体は、T₃面であり、そこで使用していたものを、この場に運んできて廃棄した積極的な捨て場とは考えにくい。出土状態等も考慮すると、この場で作業を行い、大型の石皿を残した結果と思われる。

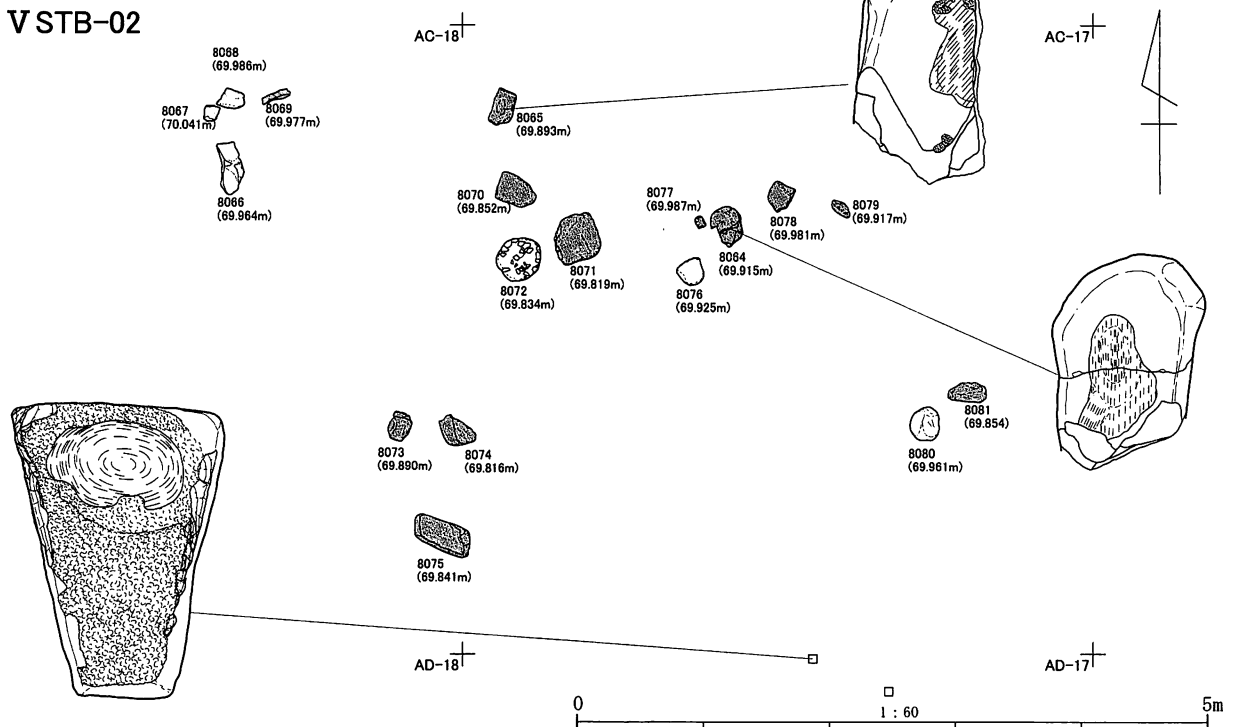
VSTB-02

T₃面の平坦面の縁辺付近に位置する。660×360 cmの範囲に9点の石皿と5点の礫石器が出土している。石皿は5点が欠損している。個々の出土状態は使用面が上を向くものが多かったが、風化等により現場では確認できなかったものもある。出土遺物は4～6で石皿である。4は表面全面が敲打されているもので、一部楕円形状に窪んでいる。この窪みの中にはすり面が形成されている。また、縁辺の一部は表面側から打ち欠きが認められる。5は敲打による粗面の整形は見られない。すり面は一部窪んでおり、すり窪みの範囲は幅が4 cmに満たない。この幅より北海道式石冠の使用は考えにくい。時期は、VSTB-01と同様の理由により前期後葉と考えられる。遺構の性格もVSTB-01と同様に作業場跡と思われる。

V STB-01

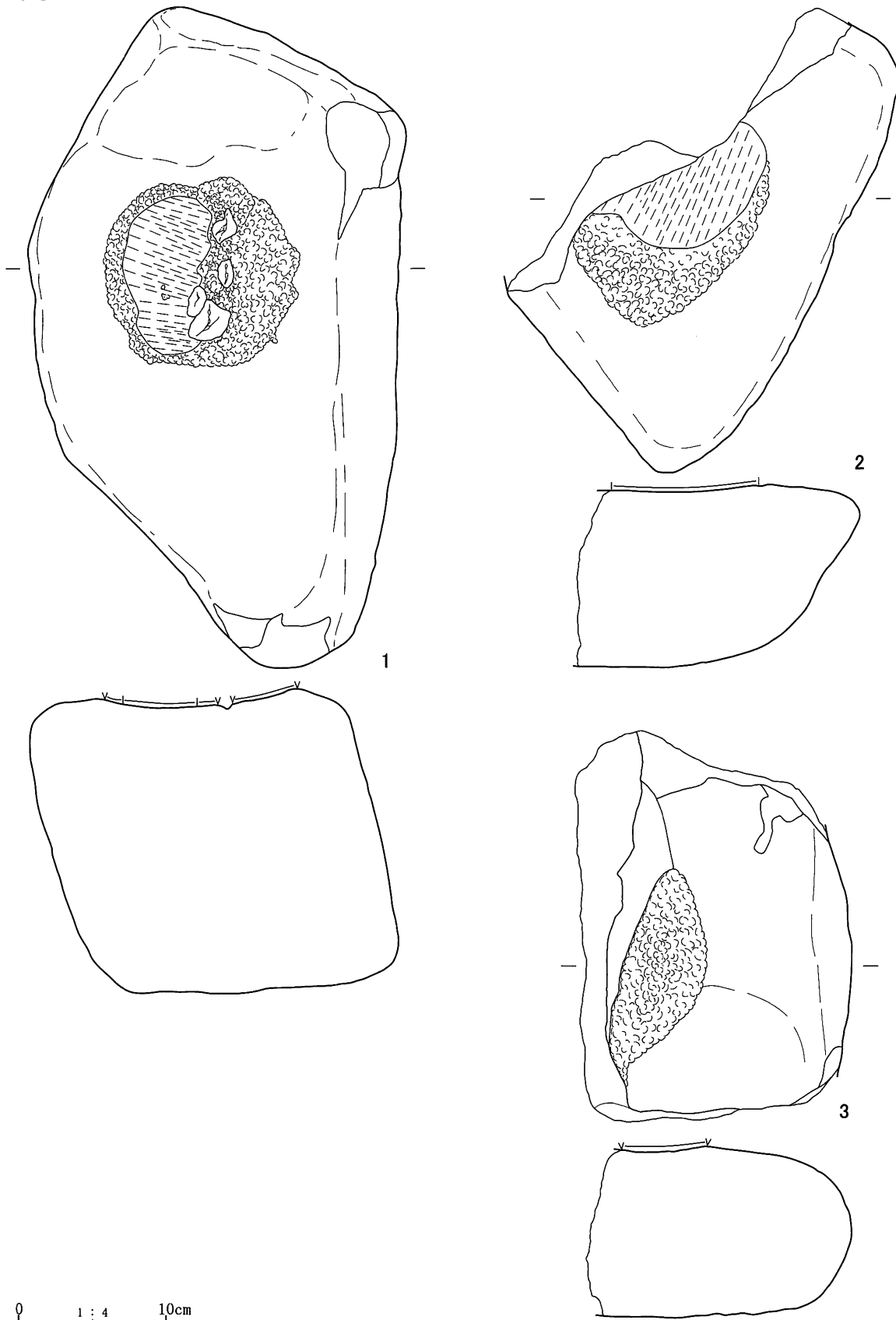


V STB-02



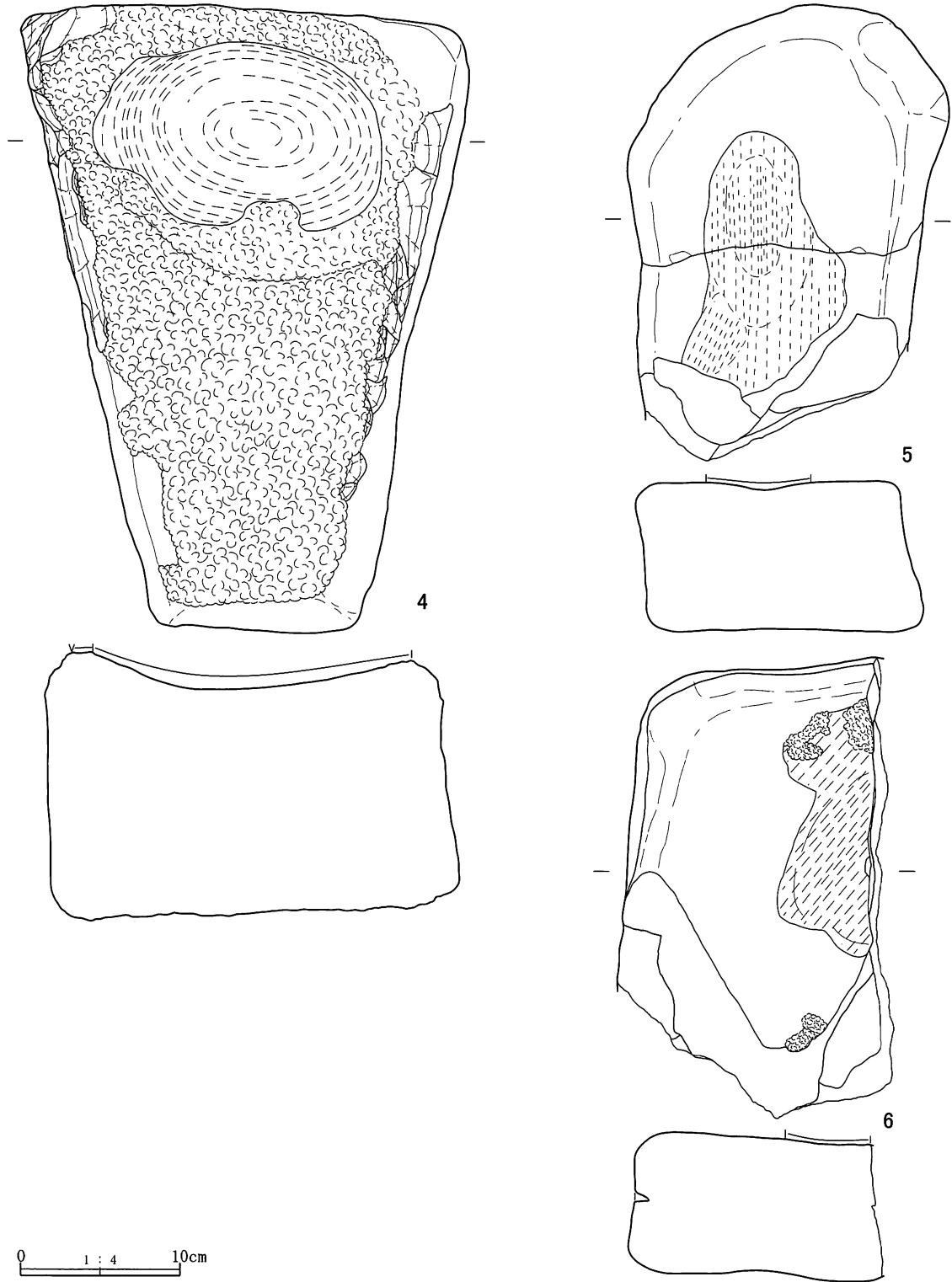
図VI-110 V STB 平面図

VSTB-01



図VI-111 VSTB 出土遺物(1)

VSTB-02



図VI-112 VSTB 出土遺物(2)

表VI-50 VSTB出土石器属性表

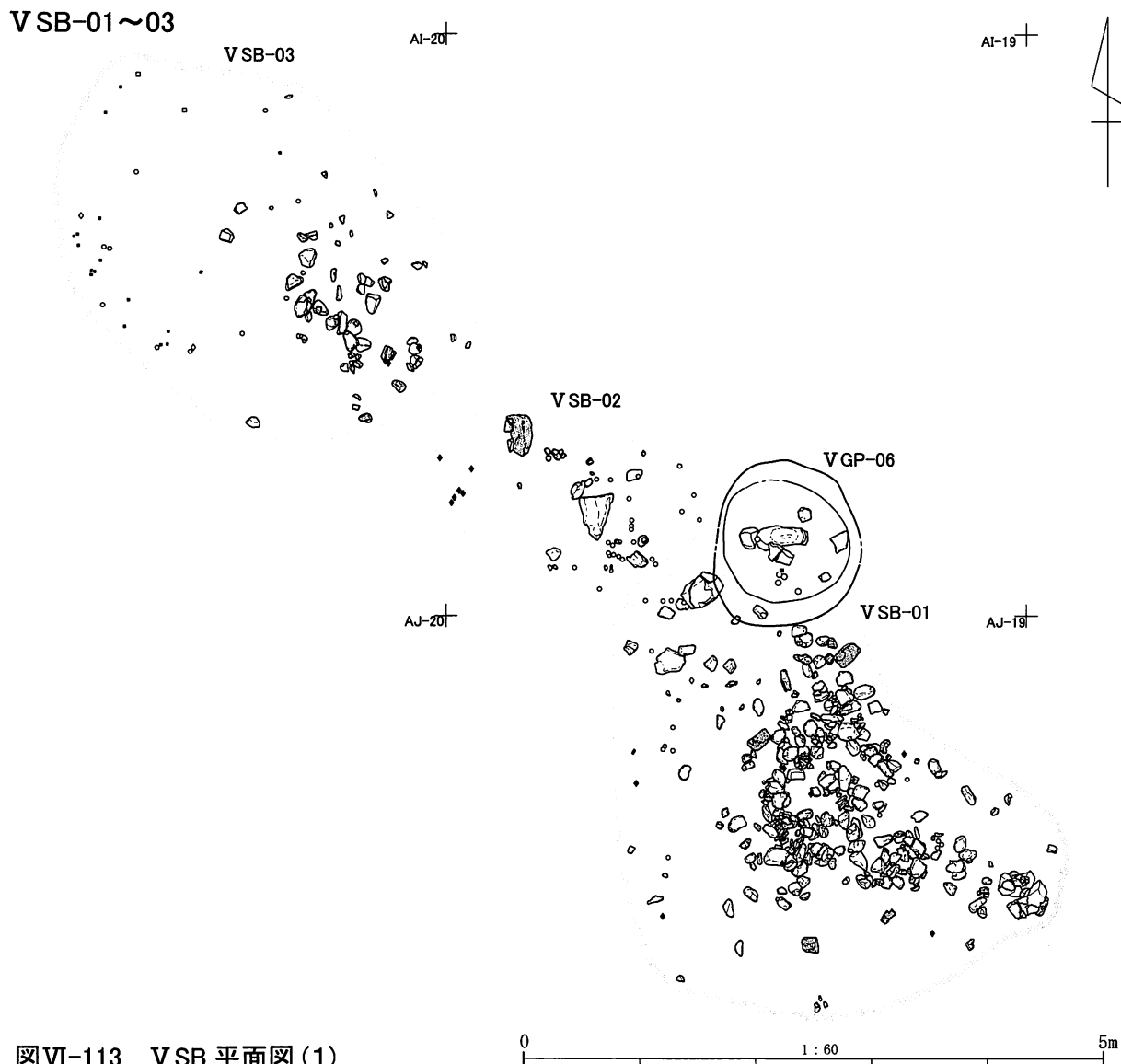
挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-111-1	148-1	-	1733	石皿	-	VbL	VSTB-01	-	449.0	257.8	205.4	30460	Sa.	
VI-111-2	148-2	-	1741	石皿	-	VbL	VSTB-01	-	(316.9)	(263.6)	120.3	8640	Sa.	
VI-111-3	148-3	-	1737	台石	-	VbL	VSTB-01	-	(268.4)	(186.6)	118.3	7790	Sa.	
VI-112-4	148-4	-	12331	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	395.4	276.9	169.9	28380	Sa.	
VI-112-5	148-5	-	8064	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	(287.2)	203.4	93.8	8240	Sa.	
VI-112-6	148-6	-	8065	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	(288.8)	(170.3)	88.7	6780	Sa.	
-	-	-	1726	たたき石	IV	VbL	VSTB-01	-	(120.1)	82.7	41.1	462	Sa.	
-	-	-	1730	石皿	-	VbL	VSTB-01	-	(182.0)	(163.0)	(67.0)	1150	Sa.	
-	-	-	1732	石皿	-	VbL	VSTB-01	-	(310.0)	(200.0)	(190.0)	1450	Sa.	
-	-	VST-510	1734	石皿	-	VbL	VSTB-01	-	-	-	-	-	Sa.	
-	-	-	1736	石皿	-	VbL	VSTB-01	-	(213.0)	(186.0)	107.0	-	Sa.	
-	-	-	1742	石皿	-	VbL	VSTB-01	-	440.0	270.0	230.0	35900	Sa.	
-	-	-	1744	石皿	-	VbL	VSTB-01	-	(239.0)	(201.0)	49.0	-	Sa.	
-	-	-	1731	加工痕のある礫	-	VbL	VSTB-01	-	101.2	(97.6)	71.8	540	Sa.	
-	-	-	8077	たたき石	I A1	VbL	VSTB-02	-	(88.4)	62.6	33.5	235	Sa.	
-	-	-	8070	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	(320.0)	210.0	130.0	11660	Sa.	
-	-	-	8071	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	330.0	320.0	100.0	16260	Sa.	
-	-	-	8073	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	(180.0)	(110.0)	(133.0)	3460	Sa.	
-	-	-	8074	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	315.0	180.0	156.0	9780	Sa.	
-	-	-	8081	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	300.0	160.0	120.0	6960	Sa.	
-	-	-	12332	石皿	-	VbL	VSTB-02	-	-	-	-	2980	Sa.	風化
-	-	-	8075	台石	-	VbL	VSTB-02	-	490.0	210.0	115.0	18620	Sa.	
-	-	-	8078	台石	-	VbL	VSTB-02	-	(224.0)	(195.0)	104.0	4730	Sa.	
-	-	-	8079	台石	-	VbL	VSTB-02	-	(168.0)	104.0	84.0	1515	Sa.	
-	-	-	8069	加工痕のある礫	-	VbL	VSTB-02	-	(230.0)	(53.0)	58.0	740	Sa.	

礫集中 (図VI-113~117 図版97)

礫集中はT₃面で5カ所検出している。VSB-01~03は近接しており、まとまりで3カ所に分けたが一連のものであるかもしれない。以下、遺構毎に記載する。

VSB-01~03

これらはAI-19・20、AJ-19区で帯状に検出している。途切れると思われる部分を確認し、別々の遺構名を付したが、一連のもの可能性もある。VSB-01は421×329cmの範囲に、礫は破片のものも含め338点が出土している。完形・略完形のは83点ある。集中内で接合して完形の礫になったものも16点含まれる。全てVb層下位で取り上げているが、出土レベルにやや差がある。木の根の影響で押し込まれているもの等も確認しており、埋没後に自然営力等により移動したものもあると思われるが、礫が重なり合っている部分も多くあり当時の状態を反映しているものと思われる。構成礫は拳大よりも大きいものが多く、形状は楕円形等を呈するものは殆どなく、不整形なものが多い。石材は厚真川で容易に採取できる砂岩が多く、泥岩等も見られる。色調の変化やハジケの痕跡を残すものはないことから被熱していないようである。VSB-02は174×120cmの範囲で礫が19点出土している。完形品は3点である。破片も含め被熱しているものはない。VSB-03は250×210cmの範囲に礫が70点出土している。完形は18点である。構成礫はVSB-01と同様に拳大よりもやや大きいものが多く、形状は不整形のものが多い。また被熱を受けているものは2点のみである。出土遺物は1・2で、1は大麻V式土器である。本集中の時期は1が明確に伴うものかは不明であるが、出土層位等を考慮すると前期後葉と思われる。性格について現場段階では、この集中の東側で焼土のグループAが位置しており、この焼土でいわゆる石焼が行われ、廃棄されたものと想定していたが、整理作業時に被熱の痕跡が確認できた礫はほとんどない。このため性格については現段階では不明である。



図VI-113 VSB 平面図(1)

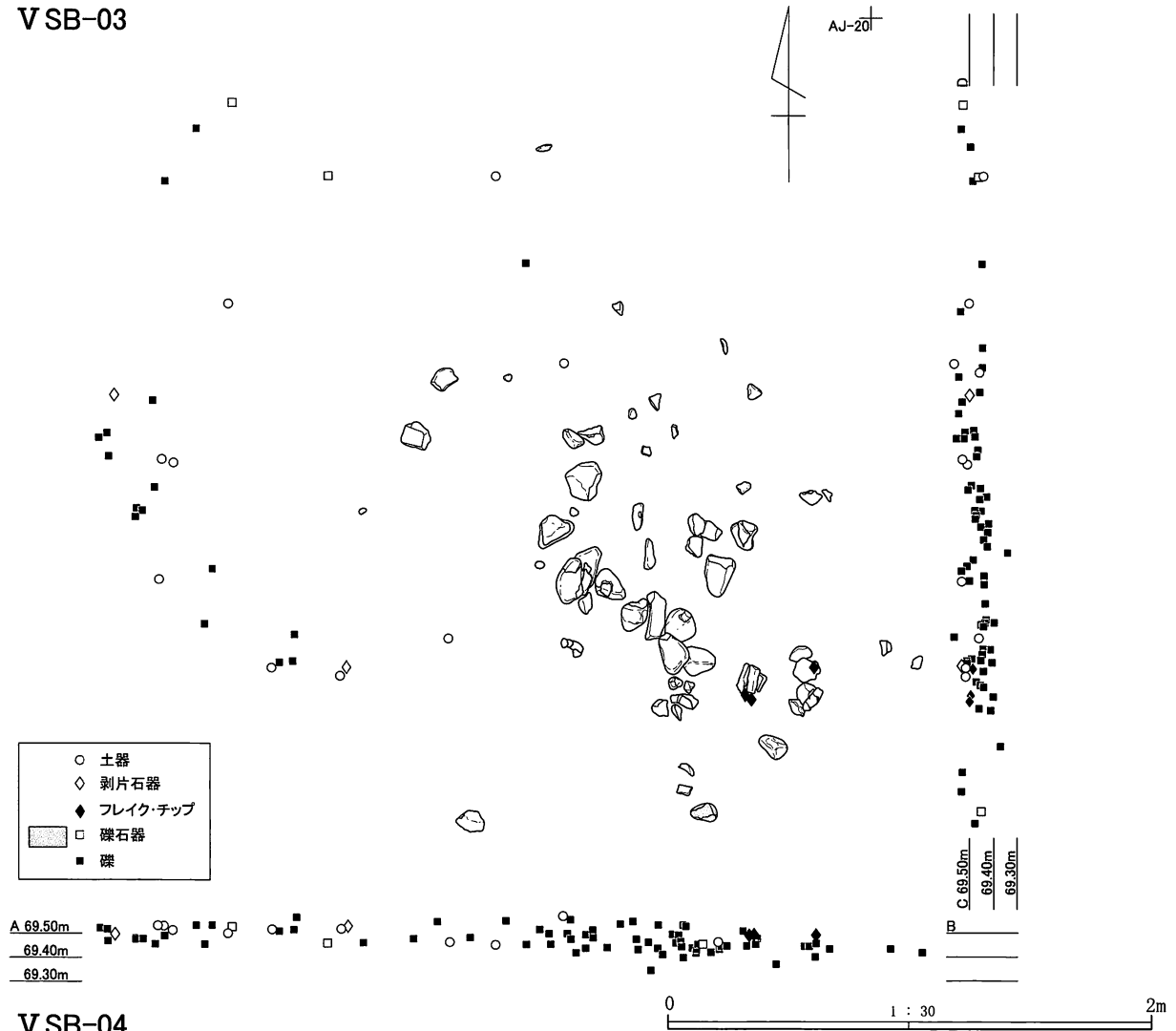
VSB-04

AD-16・17 区のVb層下位で検出した。規模は510×240 cmの範囲で95点の礫が出土している。この内26点は被熱により、赤色・黒色化している。完形礫は6点と少ない。完形では扁平な楕円礫であるが、構成礫の主体は破片等を確認すると、VSB-01のような礫が主体であったと思われる。集石と共にⅡB2b類の土器の集中を1ヵ所(VPB-18)検出している。検出層位が同じであり、伴うものと考えられる。また、近接してVPB-26・27のⅡB2b類の土器集中が検出している。出土遺物は3～6である。3は口唇の断面形が角状で、無文である。口縁部には異なる原体で2条縄線文が施されている。胴部の地文は横方向に撚糸文を施す。胎土は繊維をあまり含まず、角閃石を多く含む砂粒が多い。4は口唇の断面形状が隅丸角状で、縄線文が施されている。口縁部にも2条縄線文が、胴部の地文には斜行縄線文が施されている。胎土は3と類似するが、砂粒はやや少ない。5は大麻V式

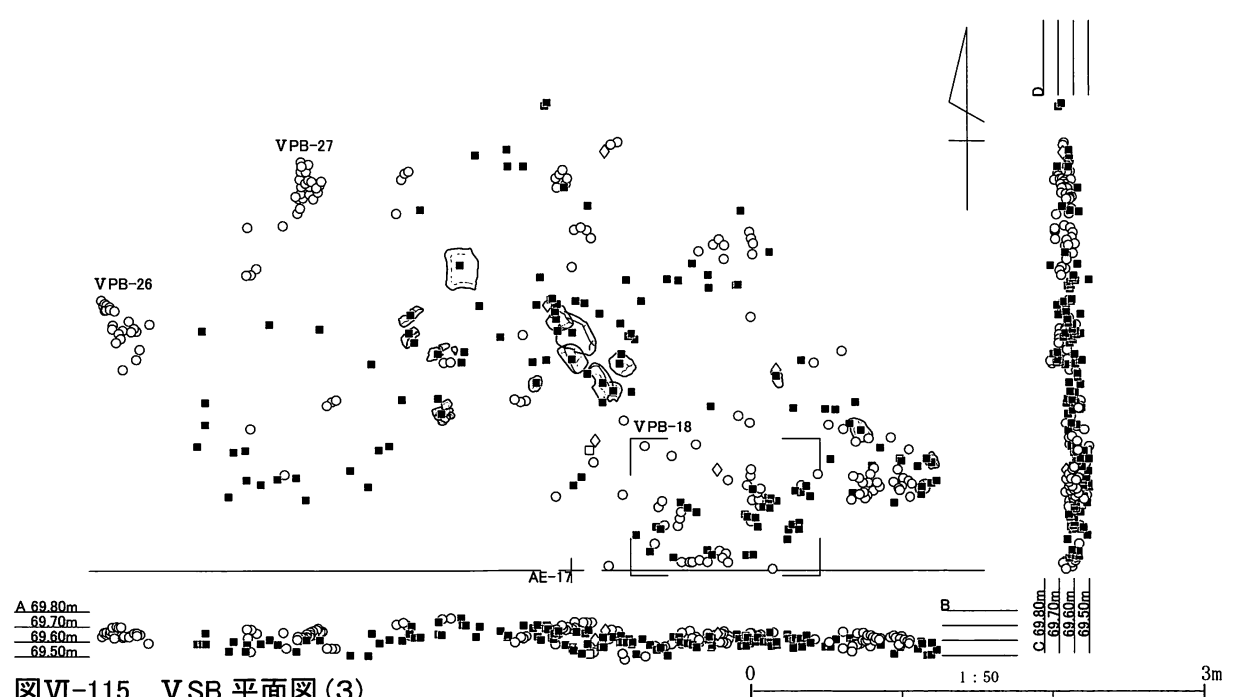


図VI-114 VSB 平面図(2)

V SB-03

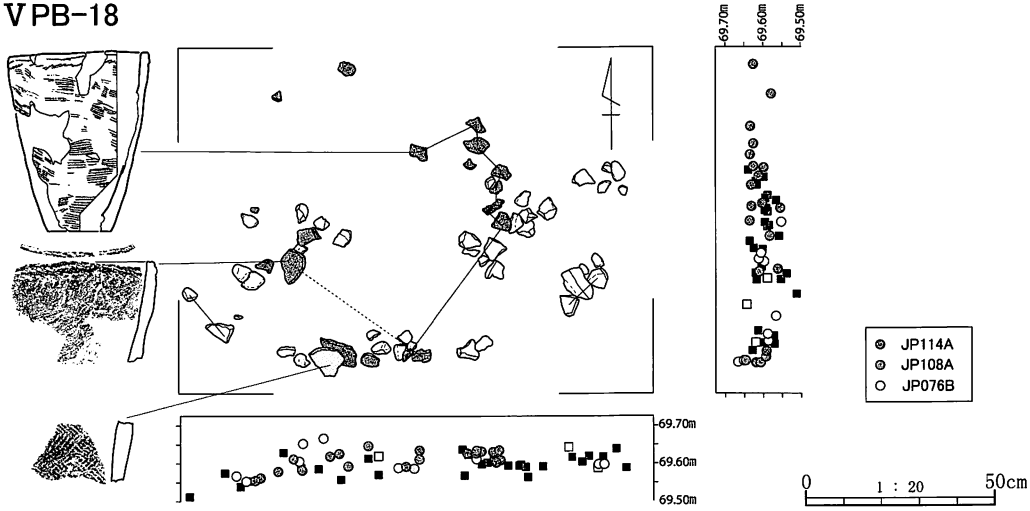


V SB-04

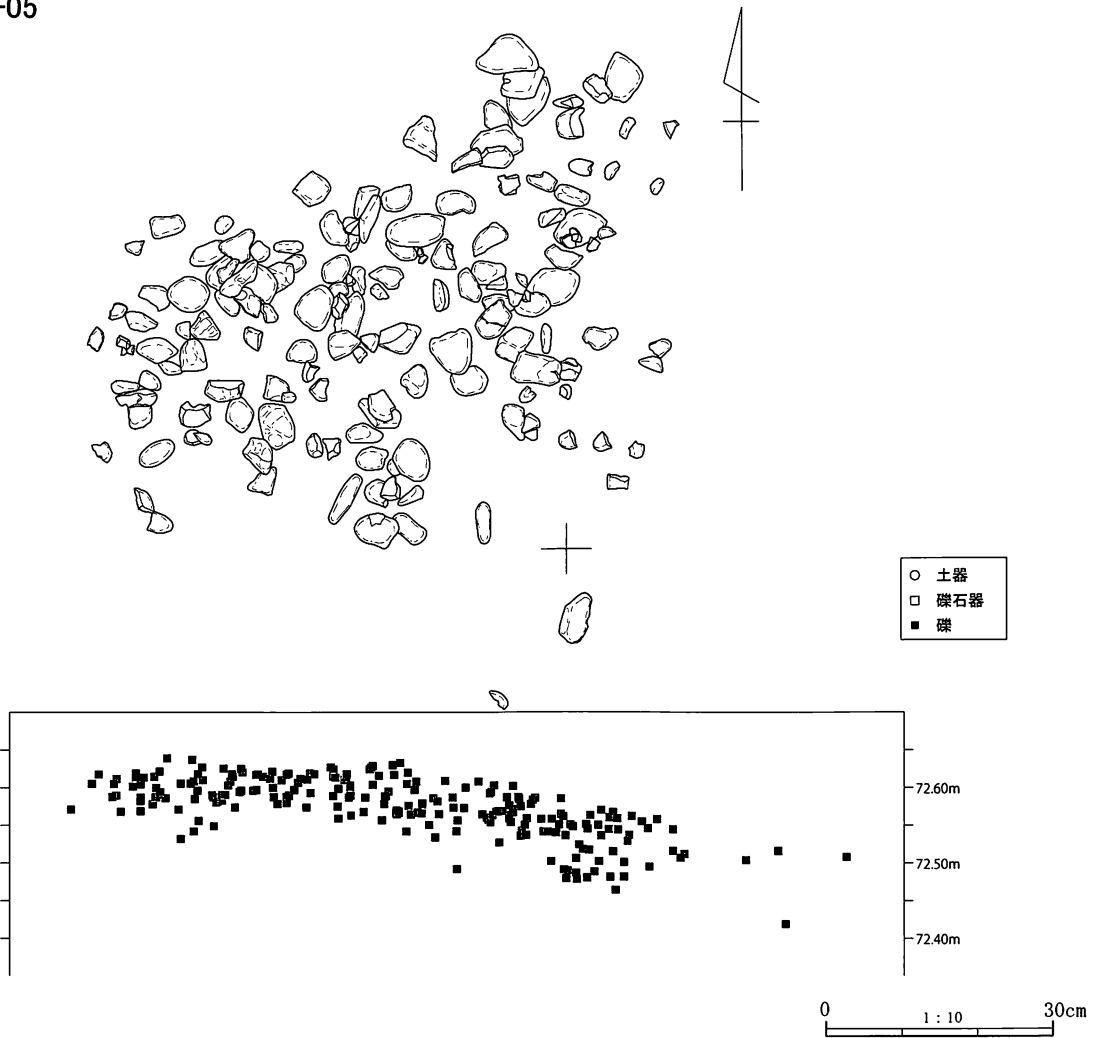


図VI-115 V SB 平面図(3)

VPB-18

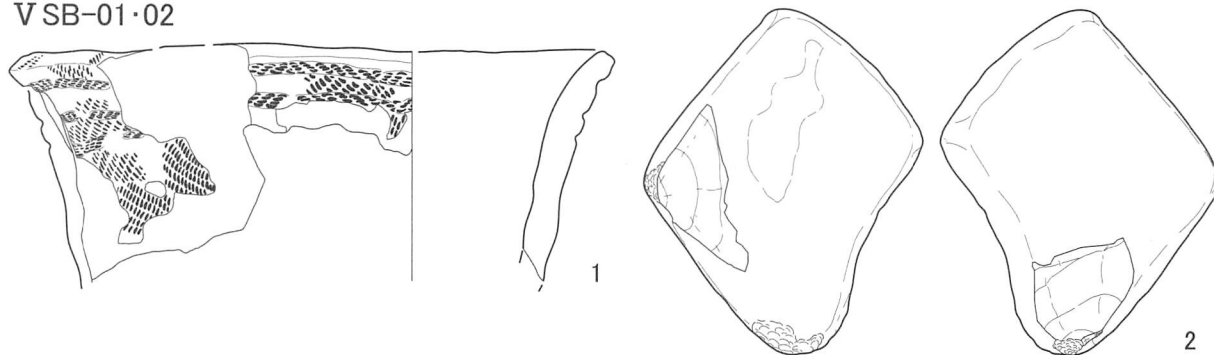


VSB-05

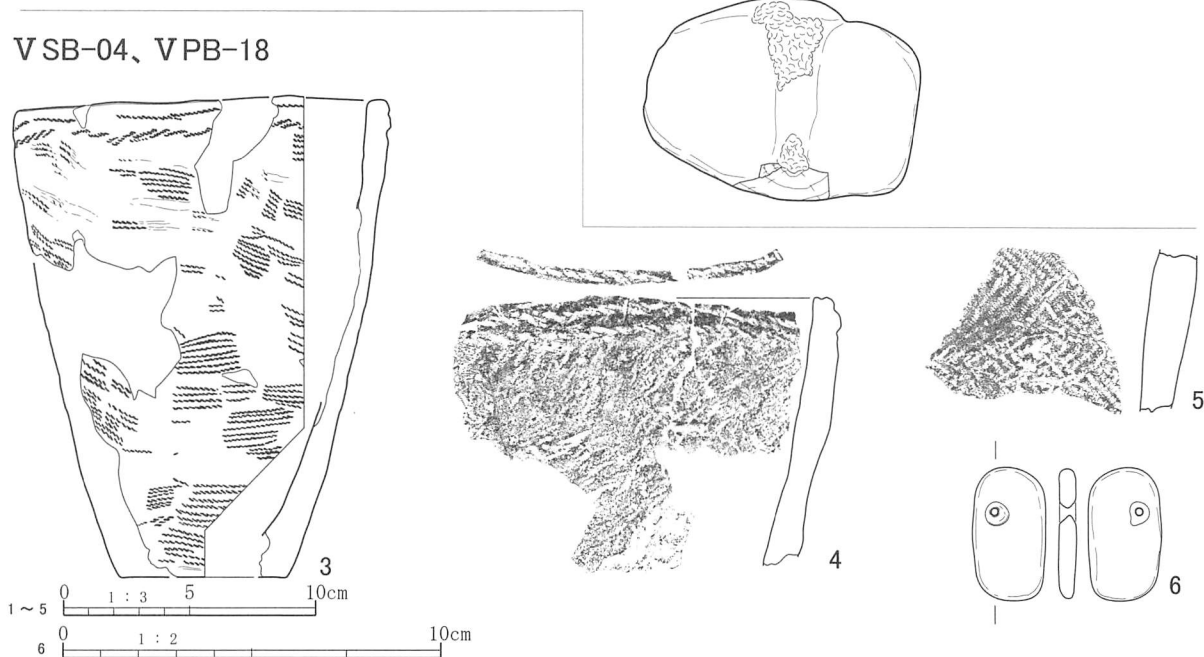


図VI-116 VSB 関連土器集中

V SB-01・02



V SB-04、VPB-18



図VI-117 V SB 出土遺物

土器の胴部片である。6は泥岩製の垂飾で、貫通孔は両面からの穿孔である。本集中の時期はVPB-18との関係により前期後葉と考えられる。性格は被熱礫の割合は約3割である。

V SB-05

0-21区のVb層下位で検出し、一部Vc層でも取り上げている。規模は88×72cmの範囲で242点が出土している。一覧表は掲載していないが、完形で、長軸長は50~80mmのものが多い。被熱しているものは2点のみである。時期は検出層位と、周辺の出土遺物より前期後葉と思われる。

表VI-51 VSB-01属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	11258	VbL	完形	31.6	-103.7	30.0	-67.8	14.8	-46.4	1.1	-0.3	16.7	-	Sa.	
-	-	-	11757	VbL	完形	40.3	-95.0	31.2	-66.6	8.9	-52.3	1.3	-0.1	16.1	-	Sa.	
-	-	-	11295	VbL	完形	44.9	-90.4	34.4	-63.4	13.1	-48.1	1.3	-0.1	2.4	-	Sa.	
-	-	-	11248	VbL	完形	46.3	-89.0	30.1	-67.7	14.5	-46.7	1.5	0.1	18.6	-	Sa.	
-	-	-	11255	VbL	完形	81.8	-53.5	54.0	-43.8	22.8	-38.4	1.5	0.1	143.0	-	Sa.	
-	-	-	11216	VbL	完形	93.1	-42.2	85.6	-12.2	59.3	-1.9	1.1	-0.3	605.0	-	Sa.	
-	-	-	11464	VbL	完形	98.5	-36.8	96.1	-1.7	85.3	24.1	1.0	-0.4	1200.0	-	Sa.	
-	-	-	11307	VbL	完形	102.1	-33.2	97.3	-0.5	87.8	26.6	1.0	-0.4	1310.0	-	Sa.	
-	-	-	11341	VbL	完形	105.7	-29.6	80.7	-17.1	64.2	3.0	1.3	-0.1	705.0	-	Sa.	
-	-	-	11218	VbL	完形	106.4	-28.9	69.1	-28.7	69.1	7.9	1.5	0.1	710.0	-	Sa.	
-	-	-	11318	VbL	完形	107.0	-28.3	89.8	-8.0	76.0	14.8	1.2	-0.2	995.0	-	Sa.	
-	-	-	11571	VbL	完形	107.1	-28.2	107.4	9.6	70.1	8.9	1.0	-0.4	930.0	-	Sa.	
-	-	VS529	11593	VbL	完形	109.0	-26.3	103.4	5.6	89.6	28.4	1.1	-0.3	1010.0	-	Sa.	
-	-	-	11236	VbL	完形	110.5	-24.8	82.9	-14.9	56.5	-4.7	1.3	-0.1	570.0	-	Sa.	
-	-	-	11340	VbL	完形	110.8	-24.5	109.6	11.8	87.3	26.1	1.0	-0.4	1865.0	-	Sa.	
-	-	-	11512	VbL	完形	110.8	-24.5	109.2	11.4	51.6	-9.6	1.0	-0.4	640.0	-	Sa.	
-	-	-	11280	VbL	完形	112.3	-23.0	103.3	5.5	42.3	-18.9	1.1	-0.3	600.0	-	Sa.	
-	-	-	11283	VbL	完形	117.0	-18.3	90.4	-7.4	53.9	-7.3	1.3	-0.1	855.0	-	Sa.	
-	-	-	11259	VbL	完形	117.9	-17.4	107.6	9.8	58.2	-3.0	1.1	-0.3	790.0	-	Sa.	
-	-	VS507	11545	VbL	完形	120.4	-14.9	94.5	-3.3	63.5	2.3	1.3	-0.1	1075.0	-	Sa.	
-	-	-	11241	VbL	完形	120.6	-14.7	89.2	-8.6	54.4	-6.8	1.4	0.0	825.0	-	Sa.	
-	-	VS527	11252	VbL	完形	121.2	-14.1	110.4	12.6	59.0	-2.2	1.1	-0.3	1018.0	-	Sa.	
-	-	-	11217	VbL	完形	122.0	-13.3	115.5	17.7	62.9	1.7	1.1	-0.3	615.0	-	Sa.	
-	-	-	11264	VbL	完形	122.5	-12.8	99.7	1.9	43.7	-17.5	1.2	-0.2	820.0	-	Sa.	
-	-	VS513	11584	VbL	完形	123.9	-11.4	109.1	11.3	60.6	-0.6	1.1	-0.3	1215.0	-	Sa.	
-	-	-	11338	VbL	完形	126.3	-9.0	102.7	4.9	65.8	4.6	1.2	-0.2	965.0	-	Sa.	
-	-	-	11317	VbL	完形	126.4	-8.9	115.2	17.4	92.2	31.0	1.1	-0.3	1265.0	-	Sa.	
-	-	-	11535	VbL	完形	126.4	-8.9	94.9	-2.9	55.9	-5.3	1.3	-0.1	965.0	-	Sa.	
-	-	-	11564	VbL	完形	127.1	-8.2	87.9	-9.9	59.5	-1.7	1.4	0.0	785.0	-	Sa.	
-	-	-	11522	VbL	完形	127.6	-7.7	91.6	-6.2	81.9	20.7	1.4	0.0	860.0	-	Sa.	
-	-	-	11221	VbL	完形	127.8	-7.5	109.1	11.3	81.6	20.4	1.2	-0.2	1050.0	-	Sa.	
-	-	-	11520	VbL	完形	130.9	-4.4	109.9	12.1	40.7	-20.5	1.2	-0.2	770.0	-	Sa.	
-	-	-	11227	VbL	完形	131.3	-4.0	73.0	-24.8	68.7	7.5	1.8	0.4	1010.0	-	Sa.	
-	-	VS533	11519	VbL	完形	131.8	-3.5	77.8	-20.0	39.6	-21.6	1.7	0.3	515.0	-	Sa.	
-	-	-	11269	VbL	完形	131.8	-3.5	105.1	7.3	79.7	18.5	1.3	-0.1	1140.0	-	Sa.	
-	-	-	11187	VbL	完形	133.5	-1.8	98.9	1.1	54.3	-6.9	1.3	-0.1	972.0	-	Sa.	
-	-	-	11469	VbL	完形	137.1	1.8	112.7	14.9	59.1	-2.1	1.2	-0.2	1225.0	-	Sa.	
-	-	-	11289	VbL	完形	137.1	1.8	124.9	27.1	56.4	-4.8	1.1	-0.3	1192.0	-	Sa.	
-	-	-	11480	VbL	完形	137.3	2.0	85.5	-12.3	66.7	5.5	1.6	0.2	715.0	-	Sa.	
-	-	-	11577	VbL	完形	137.9	2.6	83.7	-14.1	43.9	-17.3	1.6	0.2	555.0	-	Sa.	
-	-	-	11578	VbL	完形	139.6	4.3	53.1	-44.7	28.7	-32.5	2.6	1.2	235.0	-	Sa.	
-	-	-	11574	VbL	完形	140.0	4.7	68.1	-29.7	34.6	-26.6	2.1	0.7	445.0	-	Sa.	
-	-	-	11275	VbL	完形	140.4	5.1	129.1	31.3	62.5	1.3	1.1	-0.3	1520.0	-	Sa.	
-	-	VS528	11513	VbL	完形	140.6	5.3	95.6	-2.2	105.0	43.8	1.5	0.1	925.0	-	Sa.	
-	-	-	11543	VbL	完形	141.1	5.8	104.6	6.8	102.0	40.8	1.3	-0.1	1670.0	-	Sa.	
-	-	VS516	11598	VbL	完形	141.6	6.3	105.8	8.0	86.5	25.3	1.3	-0.1	1320.0	-	Sa.	
-	-	-	11315	VbL	完形	143.1	7.8	124.1	26.3	74.6	13.4	1.2	-0.2	1650.0	-	Sa.	
-	-	-	11276	VbL	完形	145.0	9.7	123.3	25.5	62.6	1.4	1.2	-0.2	1070.0	-	Sa.	
-	-	-	11196	VbL	完形	145.0	9.7	84.6	-13.2	81.5	20.3	1.7	0.3	1430.0	-	Sa.	
-	-	VS512	11465	VbL	完形	145.7	10.4	116.8	19.0	58.2	-3.0	1.2	-0.2	1240.0	-	Sa.	
-	-	-	11270	VbL	完形	145.7	10.4	79.5	-18.3	60.4	-0.8	1.8	0.4	975.0	-	Sa.	
-	-	-	11253	VbL	完形	147.9	12.6	88.2	-9.6	66.0	4.8	1.7	0.3	1045.0	-	Sa.	
-	-	-	11192	VbL	完形	149.6	14.3	97.9	0.1	75.4	14.2	1.5	0.1	1300.0	-	Sa.	
-	-	VS522	11528	VbL	完形	149.6	14.3	96.3	-1.5	50.7	-10.5	1.6	0.2	910.0	-	Sa.	
-	-	VS539	11483	VbL	完形	150.2	14.9	93.3	-4.5	60.0	-1.2	1.6	0.2	980.0	-	Sa.	
-	-	-	11511	VbL	完形	150.3	15.0	107.7	9.9	36.9	-24.3	1.4	0.0	769.0	-	Sa.	
-	-	-	11542	VbL	完形	150.3	15.0	140.2	42.4	68.4	7.2	1.1	-0.3	1020.0	-	Sa.	
-	-	-	11556	VbL	完形	150.4	15.1	72.0	-25.8	63.3	2.1	2.1	0.7	815.0	-	Sa.	
-	-	-	11274	VbL	完形	150.7	15.4	101.7	3.9	52.7	-8.5	1.5	0.1	1025.0	-	Sa.	
-	-	-	11265	VbL	完形	150.7	15.4	82.1	-15.7	34.5	-26.7	1.8	0.4	390.0	-	Sa.	
-	-	VS523	11529	VbL	完形	150.7	15.4	94.5	-3.3	63.6	2.4	1.6	0.2	920.0	-	Sa.	

表VI-51 VSB-01属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	VS511	11476	VbL	完形	150.8	15.5	133.9	36.1	68.4	7.2	1.1	-0.3	1903.0	-	Sa.	
-	-	-	11300	VbL	完形	151.3	16.0	101.6	3.8	52.9	-8.3	1.5	0.1	1230.0	-	Sa.	
-	-	VS540	11191	VbL	完形	152.2	16.9	102.4	4.6	53.8	-7.4	1.5	0.1	1010.0	-	Sa.	
-	-	-	11526	VbL	完形	154.2	18.9	123.2	25.4	65.0	3.8	1.3	-0.1	1500.0	-	Sa.	
-	-	-	11575	VbL	完形	154.4	19.1	81.3	-16.5	41.3	-19.9	1.9	0.5	657.0	-	Sa.	
-	-	-	11505	VbL	完形	157.7	22.4	140.9	43.1	66.9	5.7	1.1	-0.3	2060.0	-	Sa.	
-	-	-	11530	VbL	完形	159.0	23.7	92.9	-4.9	37.6	-23.6	1.7	0.3	755.0	-	Sa.	
-	-	-	11562	VbL	完形	159.3	24.0	119.8	22.0	87.1	25.9	1.3	-0.1	2520.0	-	Sa.	
-	-	VS509	11321	VbL	完形	160.0	24.7	96.4	-1.4	72.9	11.7	1.7	0.3	990.0	-	Sa.	
-	-	VS532	11325	VbL	完形	160.2	24.9	88.0	-9.8	82.3	21.1	1.8	0.4	1657.0	-	Sa.	
-	-	-	11588	VbL	完形	160.3	25.0	88.2	-9.6	87.4	26.2	1.8	0.4	1305.0	-	Sa.	
-	-	-	11188	VbL	完形	160.3	25.0	160.3	62.5	44.5	-16.7	1.0	-0.4	1025.0	-	Sa.	
-	-	VS521	11538	VbL	完形	161.5	26.2	100.7	2.9	71.7	10.5	1.6	0.2	140.0	-	Sa.	
-	-	VS510	11251	VbL	完形	164.0	28.7	116.4	18.6	100.6	39.4	1.4	0.0	1935.0	-	Sa.	
-	-	-	11550	VbL	完形	170.0	34.7	84.4	-13.4	47.8	-13.4	2.0	0.6	690.0	-	Sa.	
-	-	-	11586	VbL	完形	170.0	34.7	93.9	-3.9	48.0	-13.2	1.8	0.4	1305.0	-	Sa.	
-	-	VS524	11537	VbL	完形	176.0	40.7	130.6	32.8	73.3	12.1	1.3	-0.1	1850.0	-	Sa.	
-	-	-	11277	VbL	完形	180.4	45.1	111.5	13.7	77.1	15.9	1.6	0.2	1645.0	-	Sa.	
-	-	-	11284	VbL	完形	190.6	55.3	160.4	62.6	55.9	-5.3	1.2	-0.2	2080.0	-	Sa.	
-	-	-	11234	VbL	完形	199.0	63.7	98.9	1.1	86.6	25.4	2.0	0.6	1600.0	-	Sa.	
-	-	-	11589	VbL	完形	206.0	70.7	141.0	43.2	62.9	1.7	1.5	0.1	320.0	-	Sa.	
-	-	-	11288	VbL	完形	214.0	78.7	90.1	-7.7	49.6	-11.6	2.4	1.0	1850.0	-	Sa.	
						135.3		97.8		61.2		1.4		1014.6			
						完形83点											

表VI-52 VSB-02属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	11376	VbL	完形	35.3	-87.2	29.4	-44.5	1.6	-46.5	1.2	-0.4	935.0	-	Sa.	
-	-	-	11370	VbL	完形	147.2	24.7	86.8	12.9	83.9	35.8	1.7	0.1	1045.0	-	Sa.	
-	-	-	11372	VbL	完形	185.0	62.5	105.4	31.5	58.8	10.7	1.8	0.2	1450.0	-	Sa.	
						122.5		73.9		48.1		1.6		1143.3			
						完形3点											

表VI-53 VSB-03属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比	長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備 考
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	11424	VbL	完形	38.0	-87.3	29.5	-55.8	10.6	-43.6	1.3	-0.2	13.6	-	Sa.	
-	-	-	11421	VbL	完形	40.1	-85.2	26.9	-58.4	18.8	-35.4	1.5	0.0	22.0	-	Sa.	
-	-	-	11418	VbL	完形	41.1	-84.2	40.6	-44.7	28.6	-25.6	1.0	-0.5	39.8	-	Sa.	
-	-	-	11437	VbL	完形	45.4	-79.9	35.2	-50.1	9.6	-44.6	1.3	-0.2	19.2	-	Sa.	
-	-	-	11440	VbL	完形	64.8	-60.5	57.9	-27.4	23.1	-31.1	1.1	-0.4	78.1	-	Sa.	
-	-	-	11618	VbL	完形	87.2	-38.1	34.0	-51.3	18.9	-35.3	2.6	1.1	55.4	-	Mud.	
-	-	-	11390	VbL	完形	131.7	6.4	118.0	32.7	84.4	30.2	1.1	-0.4	1460.0	-	Sa.	
-	-	VS535	11442	VbL	完形	141.9	16.6	139.7	54.4	72.5	18.3	1.0	-0.5	1400.0	-	Sa.	
-	-	-	11428	VbL	完形	142.1	16.8	111.8	26.5	51.1	-3.1	1.3	-0.2	840.0	-	Sa.	
-	-	VS534	11425	VbL	完形	144.1	18.8	46.9	-38.4	44.0	-10.2	3.1	1.6	630.0	-	Mud.	
-	-	-	11625	VbL	完形	152.1	26.8	96.8	11.5	54.8	0.6	1.6	0.1	1660.0	-	Sa.	
-	-	-	11408	VbL	完形	160.0	34.7	121.9	36.6	87.1	32.9	1.3	-0.2	1280.0	-	Sa.	
-	-	-	11422	VbL	完形	166.6	41.3	130.1	44.8	50.1	-4.1	1.3	-0.2	1245.0	-	Sa.	
-	-	-	11417	VbL	完形	169.8	44.5	109.3	24.0	79.1	24.9	1.6	0.1	1880.0	-	Sa.	
-	-	-	11407	VbL	完形	170.0	44.7	113.2	27.9	73.5	19.3	1.5	0.0	1450.0	-	Sa.	
-	-	-	11410	VbL	完形	180.2	54.9	106.6	21.3	102.6	48.4	1.7	0.2	2460.0	-	Sa.	
-	-	-	11430	VbL	完形	180.7	55.4	127.3	42.0	94.1	39.9	1.4	-0.1	1600.0	-	Sa.	
-	-	-	11411	VbL	完形	200.3	75.0	90.3	5.0	73.3	19.1	2.2	0.7	1600.0	-	Sa.	
						125.3		85.3		54.2		1.5		985.2			
						完形18点											

表VI-54 VSB-04属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	層位	状態	計測値(mm)						長短比 標準 偏差	重量 (g)	被 熱	材質	備考	
						長軸	標準 偏差	短軸	標準 偏差	厚さ	標準 偏差						
-	-	-	12199	VbL	完形	37.2	-42.7	22.6	-38.5	19.6	-4.0	1.6	0.3	26.9	-	Sa.	
-	-	-	12148	VbL	完形	43.8	-36.1	40.8	-20.3	12.9	-10.7	1.1	-0.2	27.4	-	Sa.	
-	-	-	12142	VbL	完形	73.1	-6.8	62.1	1.0	22.3	-1.3	1.2	-0.1	127.9	-	Sa.	
-	-	-	12283	VbL	完形	83.6	3.7	66.8	5.7	20.3	-3.3	1.3	0.0	185.1	-	Sa.	
-	-	-	12153	VbL	完形	95.9	16.0	76.1	15.0	20.8	-2.8	1.3	0.0	215.0	-	Sa.	
-	-	-	12284	VbL	完形	146.0	66.1	98.2	37.1	45.7	22.1	1.5	0.2	615.0	-	Sa.	
						79.9		61.1		23.6			1.3			199.6	
																完形6点	

表VI-55 VSB出土土器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名/ グリッド	層位	点 数	部位	器形等	文 様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/ 底側面-変換点 -底面	口唇-口縁-内面/ 胴部-内面/ 底側面-底面-内面		
VI-117-1	149-1-1	JP086	II B2b	VSB-01	VbL	7	口縁 ~ 胴部 上半	平縁・外傾 -外削ぎ角状/や や外傾	縄文-縄線文(同一 異原体)・異原体羽状 縄文/異原体羽状縄 文	繊維極多量 混入	表面剥 落著
				VSB-02	VbL	5					
				AI-19	VbL	1					
VI-117-3	149-1-3	JP114	II B2b	VPB-18	VbL	12	口縁 ~ 底部	平縁・内反-角状 /直立-外傾/外傾 -角状-平底	縄線文(L・RR原体) ・撚糸文(横走) /撚糸文(横走)	砂粒多量 繊維少量 混入	
				VSB-04	VbL	2					
				AD-16	VbL	1					
VI-117-4	149-1-4	JP108	II B2b	VPB-18	VbL	3	口縁 ~ 胴部 下半	平縁・やや内反 -隅丸角状/直立 ・やや外傾	縄線文/縄線文 ・LL斜行縄文 /LL斜行縄文	繊維砂粒 少量混入	
VI-117-5	149-1-5	JP075B	II B2b	VPB-18	VbL	1	胴部	やや外傾	異原体羽状縄文	繊維多量 混入	内面: 横ナデ 調整痕

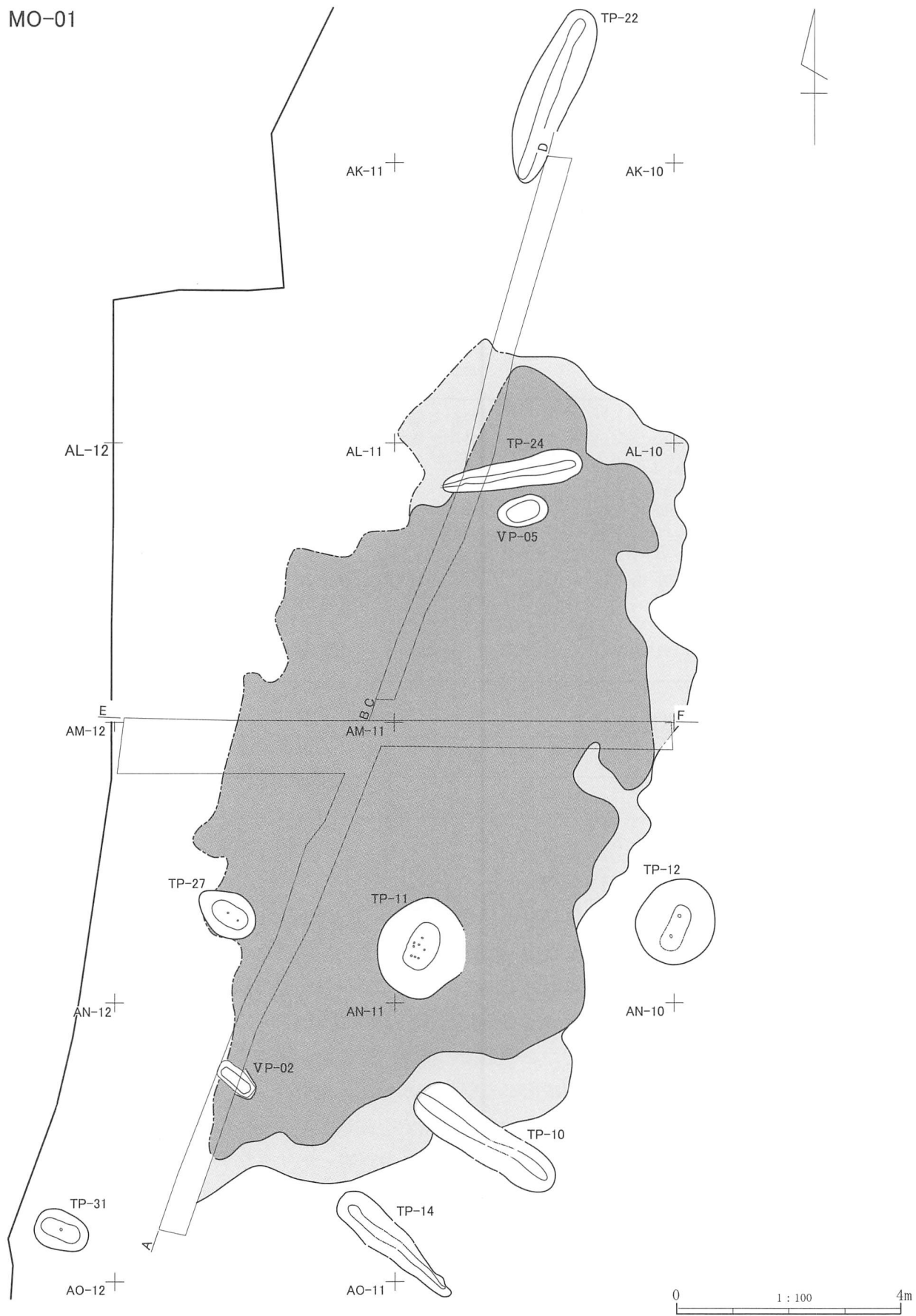
表VI-56 VSB出土遺物属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-117-2	149-1-2	-	11508	たつき石	II B2	VbL	VSB-01	-	136.3	109.3	79.8	1003	Sa.	
VI-117-6	149-1-6	-	13043	石製品	-	VbL	VSB-04	-	34.8	19.0	4.9	4.5	Mud.	

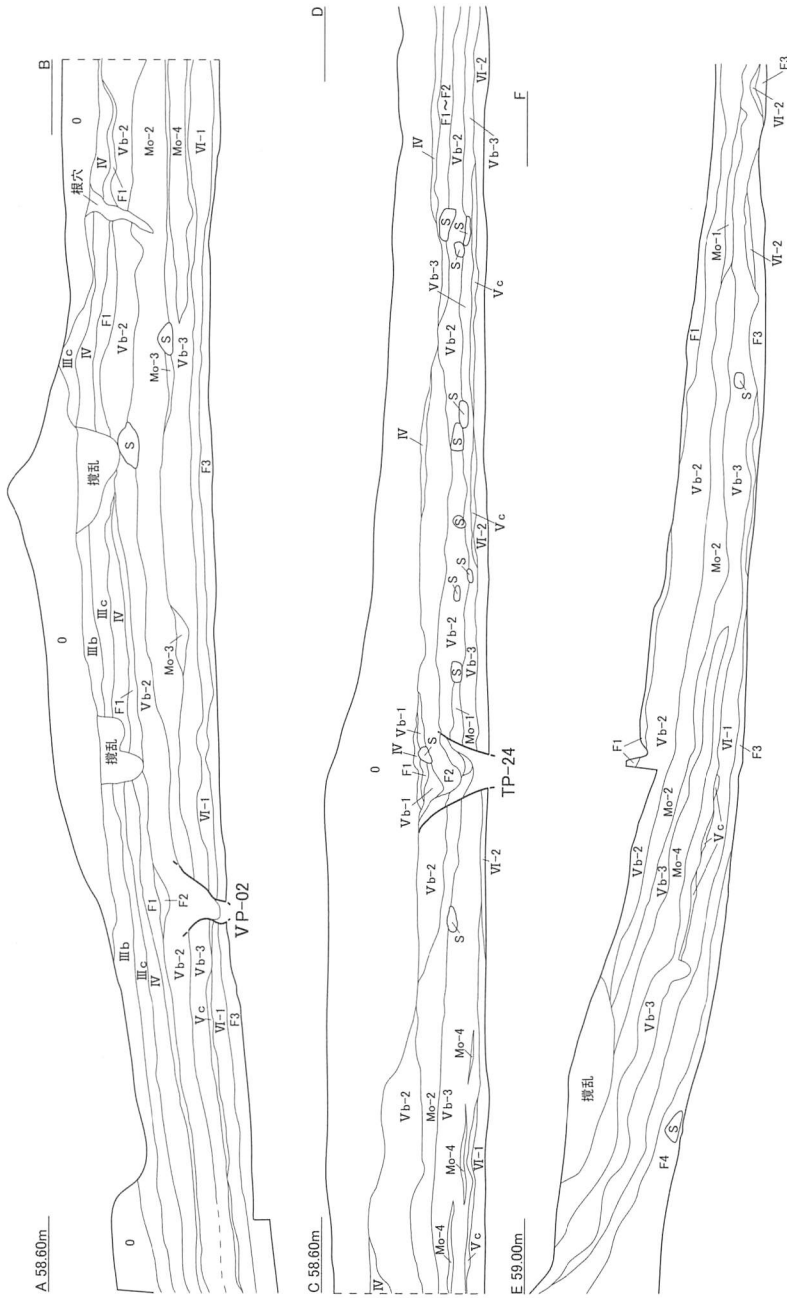
第8節 段丘崖崩落土 (図VI-118 図版 98)

ここで段丘崖崩落土として扱うのは、AK-9・10、AL・AM-9~11、AN-10・11の広範囲で確認した、Ta-d2パミス主体の土層及びTa-d2パミスを含むVb層の二次堆積土についてである。T₁面のT₃-T₁段丘崖の裾に位置しており、調査の結果は人為的なものではなく、自然営力によるものと考えられた。

確認・調査：平成20年度のT₁面のVb-2層調査中に、段丘崖裾でTa-d2主体の土層を確認した。二次堆積土であることが判明したので、この上面の検出に努めた。精査の結果、この範囲は上り斜面側は削平されていたが、下り斜面側に広がる扇状であった。規模は1644×756cmである。この時点でトレンチ調査を行っている。上下二枚の二次堆積土を確認しており、少なくとも2度にわたりTa-d2を含む土層の移動がこの場所で起こっていることが判明した。またトレンチ調査の結果、T₁面では基本的にTa-d2が堆積していないことから、T₃面及びT₃-T₁段丘崖から供給された土層である。この二次堆積土中には遺物はほとんど含まれていないが、これを挟む黒色土中(Vb層)からは少量の遺物が出土している。20年度の調査はここで終了しており、この段階では人為的なものであるかの判断は保留し、次年度以降この上部に位置するT₃面の調査を行った。平成21・22年度の調査で、この二次堆積土上部のT₃面の調査を行った。この部分の調査では、二次堆積土はTa-d2を

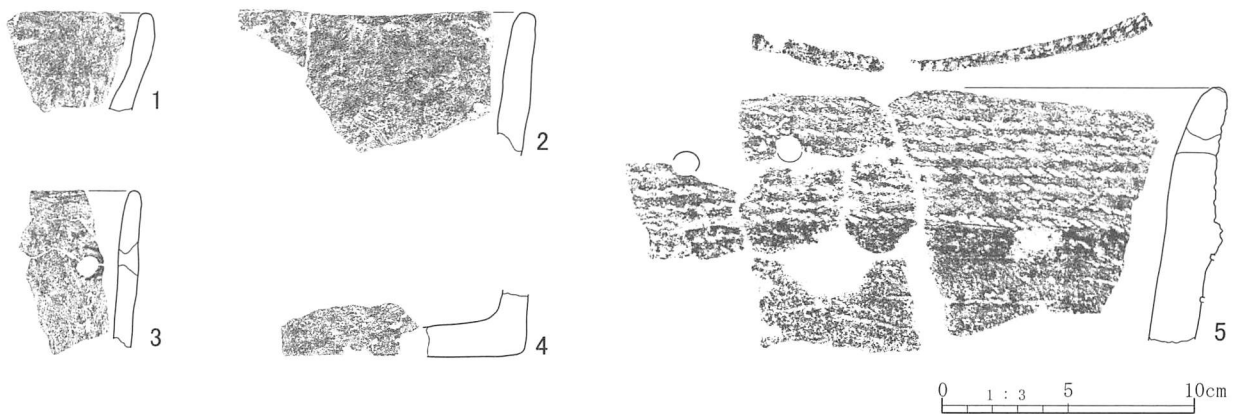


図VI-118 段丘崖崩落土と出土遺物



MO-01

F1	10YR4/1	褐灰色	砂質シルト
Vb-1	10YR3/3	暗褐色	Vb+粘質シルト
F2	10YR5/1	褐灰色	粘質シルト
Vb-2	10YR2/3	黒褐色	Vb=Ta-d2p・シルト岩
Mo-1	10YR2/2	黒褐色	Vb-Ta-d2p
Mo-2	10YR2/2	黒褐色	Vb+Ta-d2p・シルト岩
Mo-3	5YR5/8	明赤褐色	Ta-d2p=Vb
Vb-3	10YR1.7/1	黒色	Vb≡Ta-d2p
Mo-4	10YR2/2	黒褐色	Vb=Ta-d2p
Vc	10YR3/2	黒褐色	
VI-1	7.5YR3/2	黒褐色	V=Ta-d2L
VI-2	2.5YR3/1	黒褐色	F3との漸移層
F3	2.5Y3/3	オリーブ褐色	シルト
F4	2.5YR4/2	暗灰黄色	砂質シルト



主体としている事から、Ta-d2 を人為的に削平した痕跡が確認できないか平面及びトレンチによる土層断面の確認を行っている。段丘先端部に位置するためか、Ta-d2 層は他の場所に比べて薄い堆積ではあったが、Ta-d2 ローム・Ta-d2 パミスの順で自然堆積しており、人為的な削平跡等は確認できなかった。この様な結果から、未調査部分の T₃-T₁ 段丘崖から供給された可能性が最も高いと考えられた。T₃面に位置する遺構の掘り上げ土の可能性も考慮したが、二次堆積土は広範囲にある程度の厚さをもって堆積しており、短期間に大量の土が供給されている事から、遺構起源とは考えられない。このような状態から、現時点では、斜面の崩落によるものと想定した。今後工事立会を行う予定であり、結果によっては再検討を要する。

堆積状態：Mo-1～3 が一連のもので1枚目の、Mo-4 が2枚目の二次堆積土である。また、これらの下に堆積するVI-1 も Ta-d2 を含むことから、上部から流れこんだ二次堆積土の可能性はある。

重複：重複しているものは TP-10・11・24・27 と VP-02・05 がある。TP-11 は二次堆積土上部の Vb-1 層の上面で検出している。TP-24、VP-02 は土層断面で二次堆積土を切っていることを確認している。TP-10・27、VP-05 について新旧関係は把握していない。

出土遺物：1～3 は II B2b 類とした無文の口縁部片である。4 は同じく底部片である。非常に浅く縄文が施しており、やや判然としないが、RR 原体の斜行縄文と考えられる。5 は Mo 層の直上で出土した、II B2a 類の口縁部片である。また、T₃面出土のものと接合している。

時期：後期前葉の TP-11 に切られていることから、これより古いことは確実である。Mo-1～3 の上下で土器が出土しており、下では II B2b 類、上では II B2b・II B2a 類の破片が出土している。これらは崩落土と共に流れ込んだ可能性もあるため時期の決定は行えない。周囲の遺物出土状態から Vc 及び VI 層が早期後葉の遺物包含層であり、Vb 層は前期以降の遺物包含層と考えられることから、これらの崩落土は前期～後期前葉のイベントによるものと考えられる。

表VI-57 段丘崖崩落土属性表

挿図番号	図版番号	グリッド	確認層位	平面形	規模 (cm)			遺構重複	備考
					長軸	短軸	厚さ		
VI-118	-	AK～AM-9～11、AN-10・11	VbL	不整形	1643	744	9	VP-02・05、TP-10・11・24・27	

表VI-58 MO-01出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名/グリッド	層位	点数	部位	器形等	文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部/底側面-変換点-底面	口唇-口縁-内面/胴部-内面/底側面-底面-内面		
VI-118-1	-	JP092	II B2b	AL-10	VbL (MO下)	1	口縁部～胴部	平縁・直立-丸状/外傾	無文	繊維少量・φ2～4mm 礫微量混入	
VI-118-2	-	JP096	II B2b	AL-10	VbL (MO上)	2	口縁部	平縁・直立-丸状	無文	繊維多量混入	
VI-118-3	-	JP101	II B2b	AM-10	VbL (MO上)	1	口縁～胴部上半	平縁・直立-丸状/やや外傾	無文	繊維・砂粒微量混入	
VI-118-4	-	JP091	II B2b	AL-10	VbL (MO下)	1	底部	直立-隅丸角状-平底	無文?	砂粒多量、繊維微量混入	
VI-118-5	-	JP046A	II B2a	AI-21	VbU	1	口縁～胴部上半	平縁・やや外傾-隅丸角状/外傾	絡条体圧痕文? -隆帯1+縄線文・縄線文(水平構成)/重複撚糸文	φ2～4mm 石英多量・φ1～2mm 砂少量・繊維少量混入	内面：口縁横ミガキ・胴部縦ミガキ
					VbL (MO上)	1					
					MO	1					
				AM-9	VbL	3					

第9節 包含層出土遺物

土器

土器は遺構出土のものを含め、16,137点出土している。時期は縄文時代早期～晩期まで各時期のものが出土しているが、中期・晩期は1～2個体出土しているのみである。早期のものは T_1 面で主体的に出土しており、 T_3 面では1個体が出土している。後期のものは、 T_1 ・ T_3 の両面で十数個体の土器が出土している。前期のものが本遺跡の主体を占めている。

各分類の記載は概略に留めており、掲載土器の個別の記載については一覧表で行っている。

包含層出土土器（図VI-119～125 図版149-154）

I群B3類（2～10）

早期後半の中茶路式に相当するものである。分布はすべて T_1 面からの出土である。1～10はすべて深鉢形土器の破片と思われる。口唇の形状は2・7の尖状のもの、8の隅丸角状のものがある。底部の形状は、3はやや張り出しがあり、5・6は角がやや丸い。2・3は幅も太く、高さのある隆起線文が施され、4～8・10は幅も狭く、高さの低い微隆起線文が施される。文様は縄端圧痕文（2）、短縄文（2・3・6）、斜行縄文（4・5・8）、羽状縄文（7）、絡条体圧痕文（9）、結束回転文（10）がある。2・3・6は短縄文が微隆起線文の上から微隆起線文間にかけて短縄文が施されるもので、古手のものと思われる。

I群B4類（11～16）

早期後半の東釧路IV式に相当するものである。分布は T_1 ・ T_3 の両面で出土している。口唇の形状は11の尖状のものがある。文様はいずれも撚り糸文が施されており、12・15は羽状構成である。13・14は自縄自巻によるものである。

II群B2類b（17～71）

植苗式・大麻V式に相当するものである。口縁部の文様で①縄線文を施すもの（同一の状に異原体を施すものが多い）、②円形刺突文を施すもの、③縄線文や円形刺突文を施さないものの大きく3つのグループに分けられる。①の縄線文を施すものは17～43である。口唇の断面形状は角状（17・18・21）、隅丸角状（20・22～25・27・29～31・42・43）、外削ぎ隅丸角状（19・26・28・32・33）、尖状（34～41）がある。また、口唇の文様には縄文、縄線文、縄文と縄線文を重ねて施しているものがある。口唇の文様と断面形状を併せて見ていくと、角状のものはすべて縄文が施されている。隅丸角状のものは、各文様が見られるが縄文を施すものが多い。外削隅丸角状のものは、縄線文を施すものが多い。尖状のものは口唇に文様を施すものは見られないが、直下に縄線文と肥厚帯のあるもの（34・35）や縄線文が施されるものが殆どである。このような状況から、口唇の型式的な変遷が追えそうであり、第VIII章のまとめで記載している。43は44と同一個体であり、刺突文の施された隆帯で区画された口縁部文様帯があるもので、II群B2類aの特徴をもつものであるが、同一条に異原体で施す縄線文はII群B2類aには1点もないことや、胎土及び焼成がII群B2類bのものと同じであることから、円筒下層式の影響を受けたと考えられ本群に分類した。②の円形刺突文を施すものは45～47である。いずれも深鉢形と思われる。45は口縁部に幅が広く、浅い窪みが施されて無文となっており、この上に円形刺突文が施されている。46・47は口縁部に沈線が施され、その上から円形刺突

文が施されている。いずれも口唇に縄文を施しており、45・46 は内面にも縄文を施している。これらの土器は胎土に石英や細礫を含むもので、①や③と異なるものである。これらの特徴から、第6節で前述しているように、搬入された土器で、宮本式土器に相当するものだと思われる。③の縄線文や円形刺突文を施さないものは48～54である。48は口唇の直下に断面三角形の幅が太く、高さの高い隆帯が施されている。49・50は地文以外に文様は施されておらず、51～54は無文である。口唇形状や器形はバラエティーがある。55～63は胴部片、64～71は胴部片である。59・68は胎土より②の胴部と考えられる。69～71の強く張り出す底部は無文であることや、胎土より③のものと考えられる。これら以外のものは①か③のもので、大半は①と思われる。

Ⅱ群 B2 類 a (72～107)

円筒下層 c・d 式に相当するものである。口唇の形状より大きく分類すると、①口唇の断面形が尖り状、丸状、隅丸角状を呈するもの。②口唇から幅の狭い文様帯にかけて肥厚するもの。③口唇の断面形が三角形を呈するものがある。②口唇から幅の狭い文様帯にかけて肥厚するものは72～74である。72・73は文様帯に縄線文が施されており、74は半截竹管で押引文が施されている。72・73は胴部に撚糸文が施されている。また、共に胎土には繊維が多量に施されており、他のⅡB2a類とは胎土が異なる。①口唇の断面形が尖り状、丸状、隅丸角状を呈するものは75～80・84～94である。78・79は同一個体。75～80は隆帯で文様帯が区画されている。文様帯内は縄線文が施されており、口唇は縄端の圧痕文(75)、縄の圧痕文(76)、刻み(77～80)を施すものがある。隆帯には縄の圧痕文(75)、刺突文(76・77・79)、円形刺突文(80)を施すものがある。84～86は文様帯が隆帯で区画されていないものである。88～94は隆帯の有無が確認できないものである。94は2条1対の縄線文間に、C字状の撚糸による圧痕文が施されるもので、Ⅲ群 A1 類に含まれる可能性もある。③口唇の断面形が三角形を呈するものは95～100である。96～98は図VI-78-7と、99は100と同一個体の可能性がある。95は文様帯がなく、地文のみのものである。96～98と99・100は断面三角形の口唇に縄線文が施されるもので、文様構成も含め、フフゴッペ貝塚式と考えられる。胎土に白色の岩片を多量に含むもので、本地域出土の土器とは大きく異なるものである。余市町フゴッペ貝塚遺跡(北海道埋蔵文化財センター1989)の資料を実見したが、胎土や器表面の風化の状態等非常に類似しており、搬入された可能性がある。101～106は胴部片である。101・102は撚糸文を施すもので、72・73と同様に胎土に繊維を多量に含むものである。107は底部片である。

Ⅱ群 B2 類 c (108～110)

シュブノツナイ式に相当するものである。108～110は同一個体片で深鉢形土器である。108は口縁部器表面側の破片で、口唇は横方向から、器表面は下から上に刺突している。109は頸部片と思われる、横方向から刺突されている。110は下から上に刺突している。これらの胎土は大粒の石英を多量含むものであり、いわゆる「仮称富良野盆地系土器」(厚真町教育委員会 2006a)と考えられる。また、道内のシュブノツナイ式土器の分布状況から考えても、富良野方面から搬入された可能性が高いと思われる。

Ⅱ群 B2 類 d (111・112)

胎土に蛇紋岩を含む土器である。これまで「特殊胎土を有する土器」(皆川洋一 1991)をはじめ、

朝日町1遺跡(滝川市教育委員会 1997)、ニタツプナイ遺跡(厚真町教育委員会 2009b)で胎土に含まれる滑石に注目され、縄文時代前期の複数型式の土器で報告されている。

本遺跡出土のものも下記のような同様な特徴をもつものである。

- ①肉眼の観察では灰褐色～黒褐色の色調を呈するもので、胎土には蛇紋岩・滑石片等の礫片を多量に含むものである。
- ②触感はヌメリがあり、比較的軽いものである。
- ④ 土器片は器面の剥落や碎片化が著しいものである。

本報告では、多量に含まれる蛇紋岩片に注目し、蛇紋岩の風化した粘土状鉱物を混和剤、もしくは粘土の素地として利用していると考え、蛇紋岩の風化粘土状鉱物と土器片の自然科学分析を行っている。(第VII章 第5節(2))その結果、上述した可能性が高いことが判り、胎土に蛇紋岩を含む土器と呼称し、報告を行う。

本来であれば型式的特徴によって分類しなければならないが、上記のように碎片化等が著しいため、胎土による特徴から一括して、本群で掲載している。そのため、本分類には複数の型式を含んでいる可能性があるが、本遺跡の他の土器の出土状況や1号住居跡覆土上層捨て場跡でII群B2類aと共伴していることから、前期後葉に位置づけられると考えられる。

111・112は口縁部片で、やや内湾するものである。器表面等に施文されているが、判然としない。

III群 B1 類 (113)

萩ヶ岡1・2式、天神山式に相当するものである。113は胴部片で、半截竹管による沈線文が施されている。

III群 B2 類 (114)

柏木川式に相当するものである。114は口唇に半截竹管による刺突が施されている。

IV群 A2 類 (115～118)

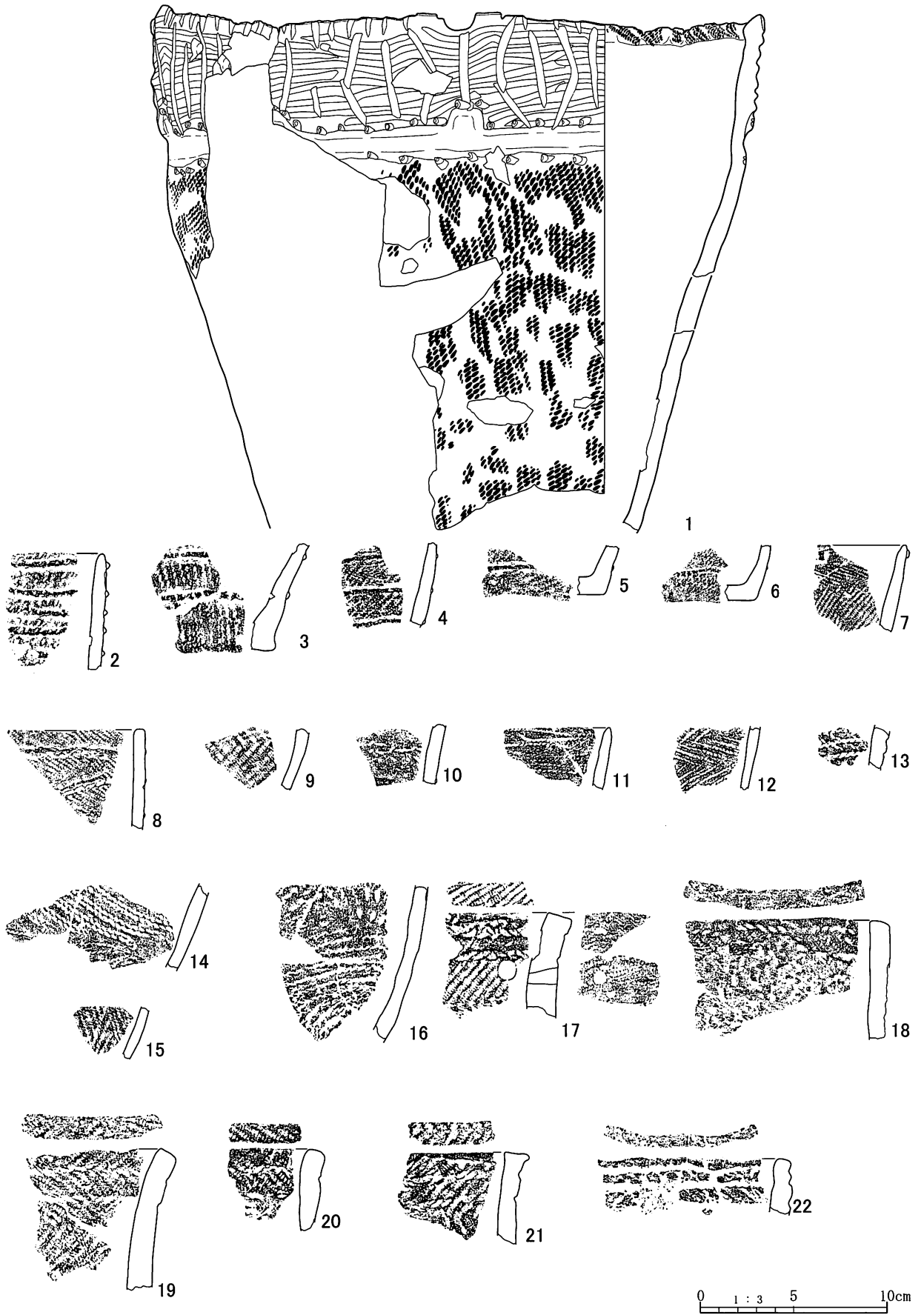
115～117は口縁部片で、隅丸角状の口唇にも施文されている。いずれも刺突文が施されており、117は縄で施されている。118は胴部片で貼付帯が施されている。

IV群 B1 類 (119～124)

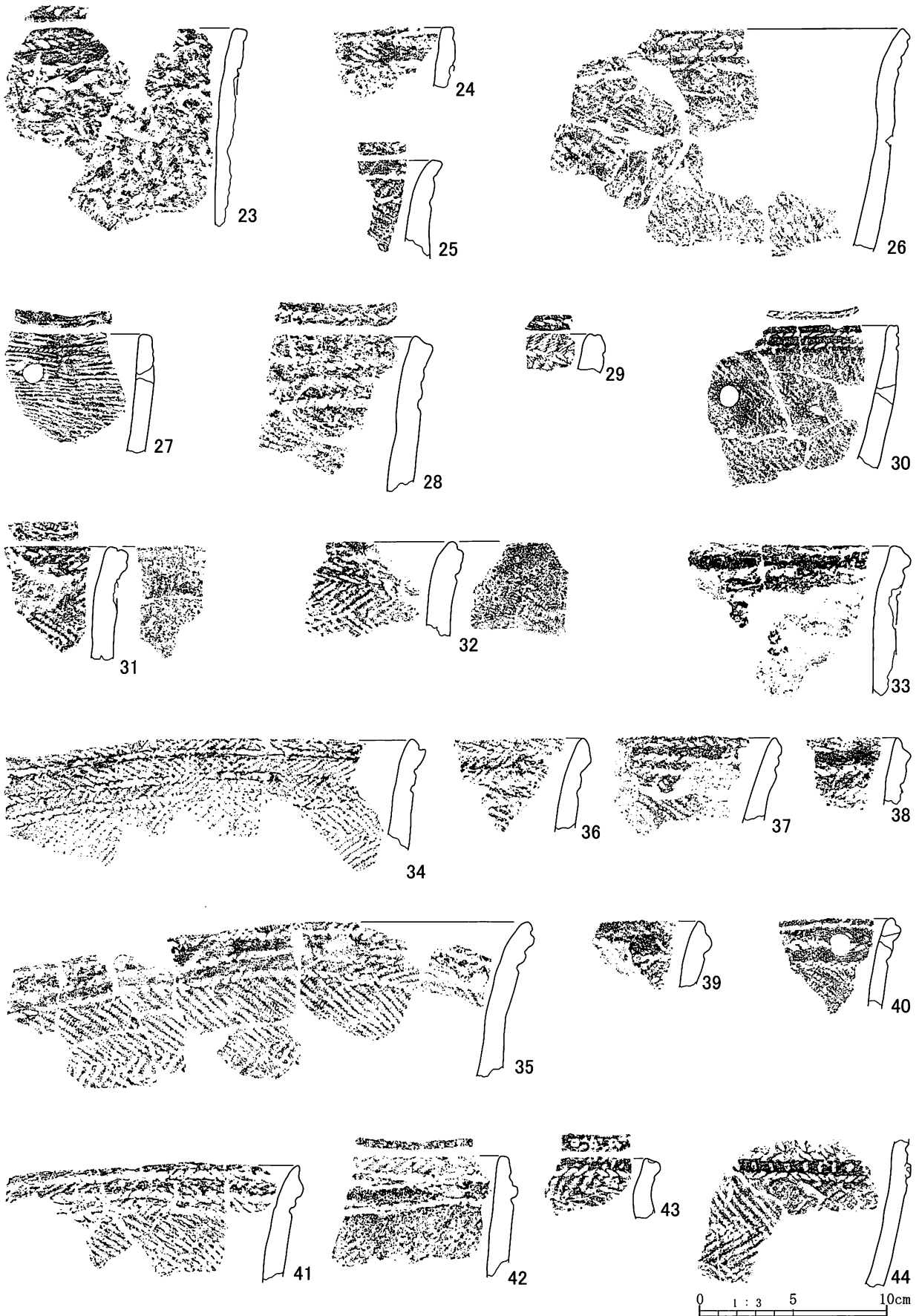
119・120は口縁部片である。119は突起があるもので、口縁には縄線文が施されている。120は口唇直下が無文帯となっている。121～123は胴部片で、いずれも縄文施文後に器表面はナデ調整が施されている。124は底部片である。

V群 B1 類 (1)

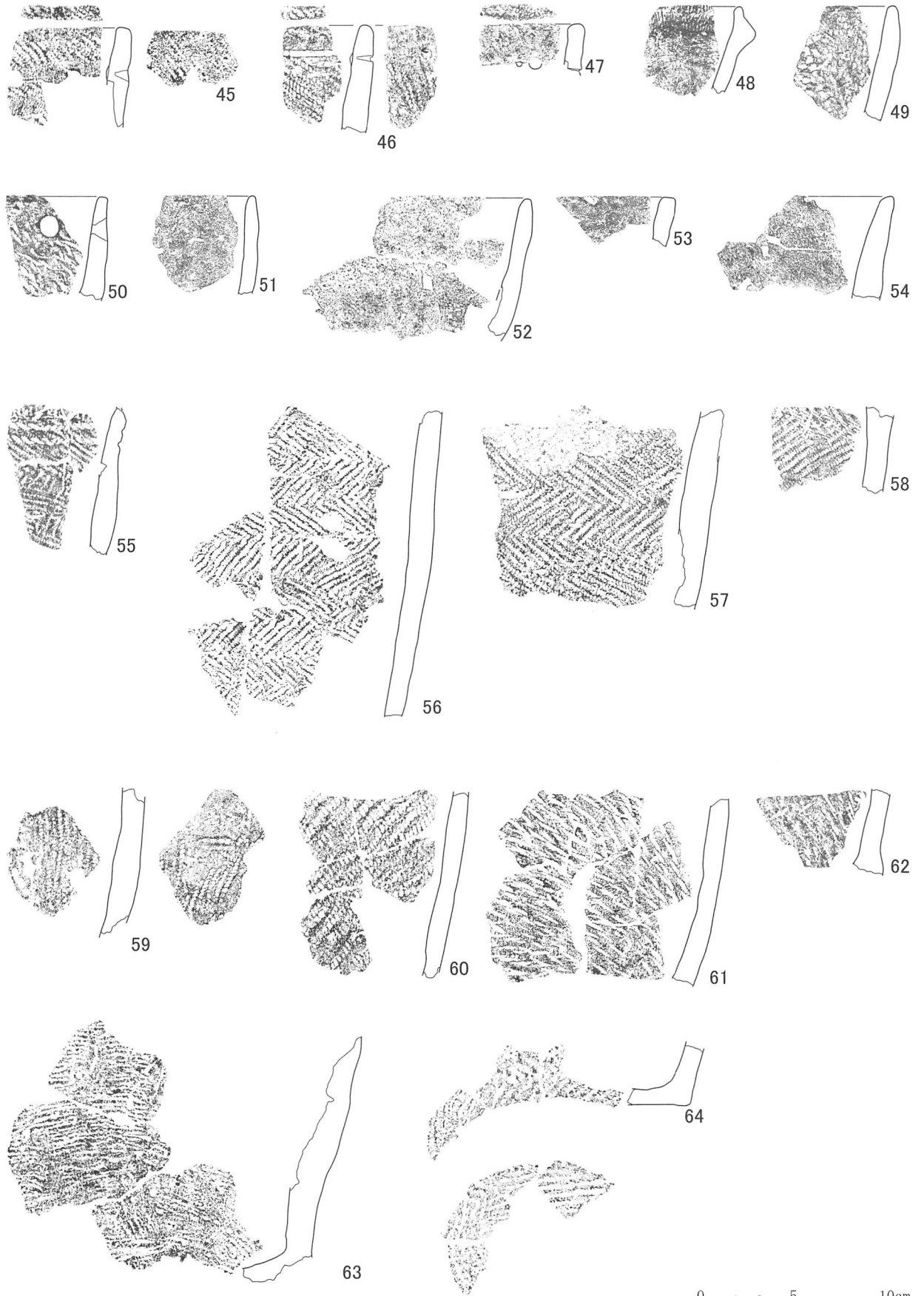
1個体のみ出土である。口縁部は幅の広い指頭様の沈線文で文様帯を区画しており、口縁部は横位の平行沈線文の上に縦位の沈線文と円弧文を施している。胴部には縦走気味に縄文が施されている。



図VI-119 縄文時代包含層出土土器(1)



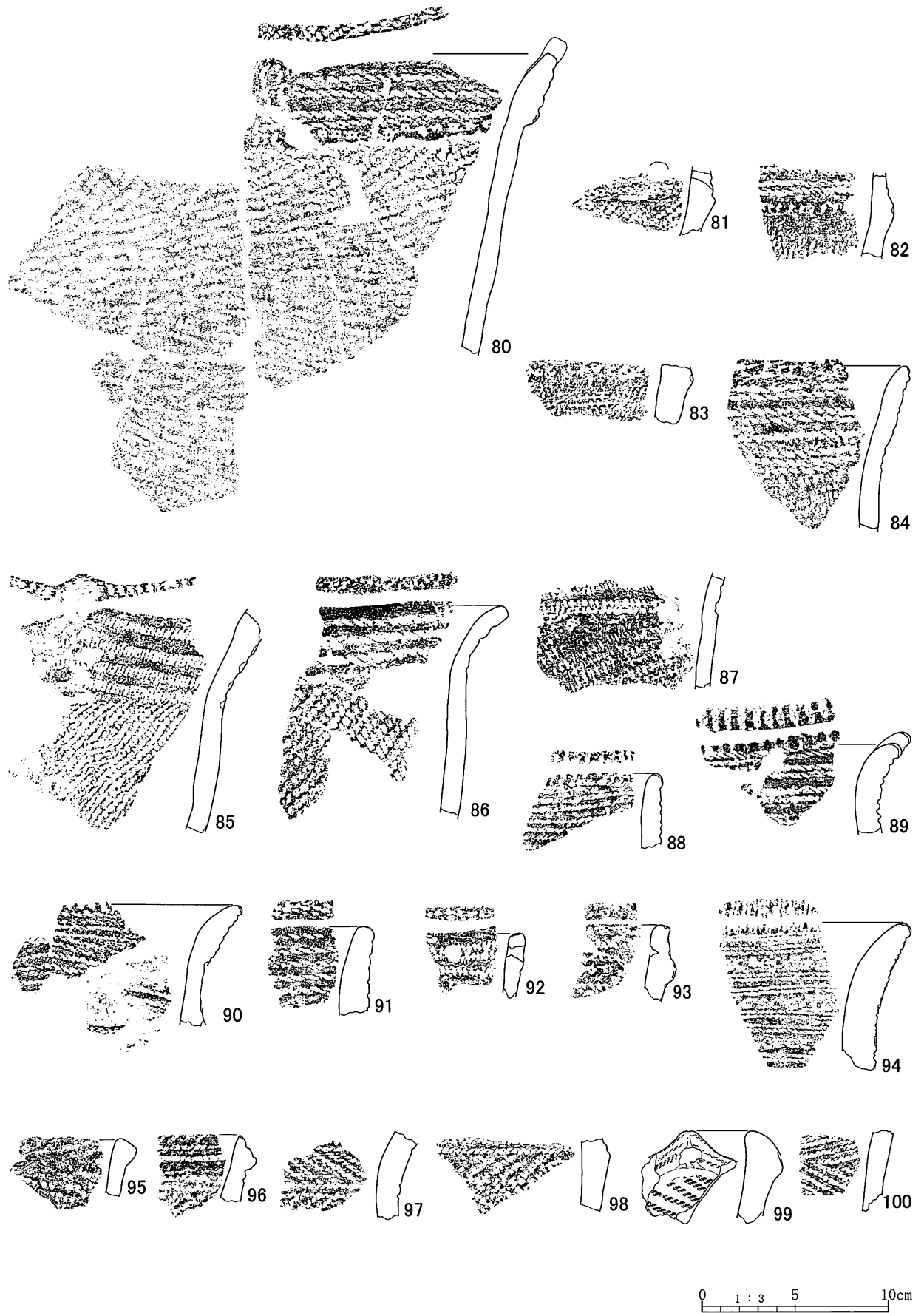
図VI-120 縄文時代包含層出土土器(2)



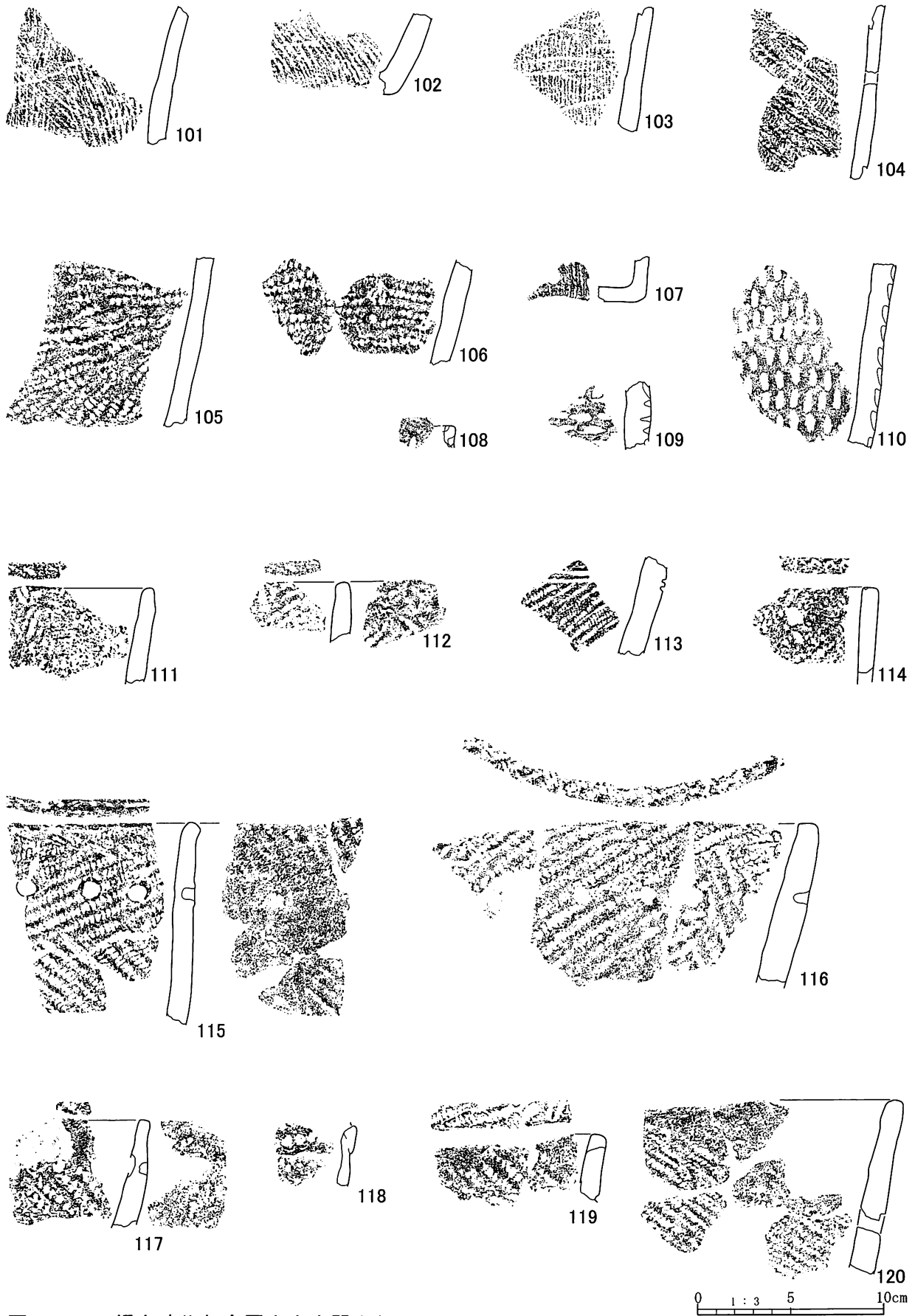
図VI-121 縄文時代包含層出土土器(3)



図VI-122 縄文時代包含層出土土器(4)



図VI-123 縄文時代包含層出土土器(5)



図VI-124 縄文時代包含層出土土器(6)

表VI-59 縄文時代包含層出土土器属性表

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名 グリップ	層位	点数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点-底面	突起・内湾-内削切出し状 /やや外傾-外傾	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	刻文・凹弧文・平行沈線文・刺突文・指頭 様沈線文-RL斜行縄文/RL縦走縄文		
VI-119-1	149-2-7	JP002	VB1	AN-20	VaU	22	口縁部～ 胴部下半	突起・内湾-内削切出し状 /やや外傾-外傾	刻文・凹弧文・平行沈線文・刺突文・指頭 様沈線文-RL斜行縄文/RL縦走縄文	砂粒少量混入			
VI-119-2	150-1	JP018A	IB3	VFCB-03	VbL	2	口縁部	平縁・直立-尖状	隆起線文・繩端庄痕文・短縄文	φ1mm以下砂粒極微量混入			
VI-119-3	150-2	JP018B	IB3	VFCB-04	Vc	2	底部	外傾-張り出し-平底	隆起線文・短縄文	φ1mm以下砂粒極微量混入			
VI-119-4	150-3	JP024A	IB3	AI-9	Vc	1	胴部	外傾	微隆起線文・LR斜行縄文	φ1mm以下砂粒少量混入	風化で磨耗		
VI-119-5	150-4	JP024B	IB3	AI-9	Vc	1	底部	外傾-角状-平底	微隆起線文・LR斜行縄文	φ1mm以下砂粒少量混入			
VI-119-6	150-5	JP025	IB3	AI-?	-	1	底部	外傾-角状-平底	微隆起線文・短縄文	φ1mm以下砂粒少量混入			
VI-119-7	150-6	JP026	IB3	AL-11	-	2	口縁部	平縁・直立-尖状	微隆起線文・2段異原体羽状縄文	φ1mm以下砂粒少量混入			
VI-119-8	150-7	JP020	IB3	AM-11	VI	1	口縁部	平縁?・内湾?-隅丸角状	微隆起線文+斜位短刻文・RL斜行縄文	φ1mm以下砂粒少量混入			
VI-119-9	150-8	JP021	IB3	AL-10	VI	1	胴部	外傾	絡条体庄痕文(羽状構成)	φ1mm以下砂粒・石英粒多 量混入			
VI-119-10	150-9	JP030	IB3	AG-10	VI	1	胴部	やや外傾	結束回転文	φ1mm以下砂粒混入			
VI-119-11	150-10	JP027	IB4	AM-10	VI	1	口縁部	平縁・直立-尖状	捺糸文	φ1mm以下砂粒多量混入	風化で磨耗		
VI-119-12	150-11	JP028	IB4	AH-9	VbL	1	胴部	やや外傾	捺糸文(羽状構成)	φ1mm以下砂粒多量混入			
VI-119-13	150-12	JP020A	IB4	K-28	VI	1	胴部	直立	捺糸文(自縄自巻)	砂粒少量混入			
VI-119-14	150-13	JP020B	IB4	K-28	VbU Vc	1 2	胴部	外傾	捺糸文(自縄自巻)	砂粒少量混入			
VI-119-15	150-14	JP029	IB4	AL-10	VI	1	胴部下半	外傾	捺糸文(羽状構成)	φ1mm以下砂粒多量混入			
VI-119-16	150-15	JP020A	IB4	K-29	VI	4	胴部	外傾	捺糸文	砂粒少量混入			
VI-119-17	150-16	JP079A	IB2b	AJ-20	Va	4	口縁部～ 胴部上半	平縁・やや外傾-角状/直立	LR斜行縄文-縄線文(同一条異原体) ・LR,RR羽状縄文-LR,RR羽状縄文	繊維・砂粒少量混入			
VI-119-18	150-17	JP081A	IB2b	AM-20	Va	1	口縁部	平縁・直立-角状	RL縄文-縄線文(同一条異原体) ・RL斜行縄文	繊維・φ1~2mm砂粒少量混 入			
VI-119-19	150-18	JP235A	IB2b	Y-23	VbL	2	口縁部～ 胴部上半	平縁・外傾-外削隅丸角状 /直立	RL・LR縄文-縄線文(同一条異原体) /2段異原体羽状縄文	繊維混入			
VI-119-20	150-19	JP070A	IB2b	AE-18	VbL	1	口縁部	平縁(肥厚)/やや外傾 /隅丸角状	RL縄文-縄線文(同一条異原体) ・2段異原体羽状縄文	繊維極多量混入			
VI-119-21	150-20	JP082A	IB2b	AL-21	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-角状	異原体羽状縄文-縄線文(同一条異原体) ・2段異原体羽状縄文	繊維少量、φ1~2mm砂粒少 量混入			
VI-119-22	150-21	JP248A	IB2b	AE-17	VbL Vc	2 1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	縄線文(同一条異原体)-RL斜行縄文	繊維・砂粒少量混入			
VI-120-23	150-22	JP067A	IB2b	AJ-18	VbL	3	口縁部～ 胴部上半	平縁・直立-隅丸角状/直立	LR斜行縄文-縄線文	繊維極多、砂粒少量混入	内面:ヨコナ デ剥落著		
VI-120-24	150-23	JP242A	IB2b	AJ-17	VbU	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	縄線文(同一条異原体)/R斜行縄文	繊維少量、砂粒微量混入			
VI-120-25	150-24	JP239A	IB2b	W-23	VbL	1	口縁部～ 胴部上半	平縁・やや外傾-隅丸角状 /直立	RL縄文-縄線文(同一条異原体)/ 2段異原体羽状縄文	繊維・砂粒混入			
VI-120-26	150-25	JP074A	IB2b	AG-21 AI-23	VbL VbU	3 5	口縁部～ 胴部上半	平縁・やや外傾-外削角状 /直立	縄線文(同一条異原体)/R?RL?斜行縄文	繊維多量混入			
VI-120-27	150-26	JP105A	IB2b	AE-21	VI	1	口縁部～ 胴部上半	平縁・内湾-隅丸角状/やや外 傾	捺糸文-縄線文・捺糸文 /捺糸文	繊維微量、砂粒少量混入			

表VI-59 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名 / グリッド	層位	点数	部位	器形等		文様	胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 / 底側面-変換点-底面	口縁-口唇-内面/胴部-内面 / 底側面-底面-内面			
V1-120-28	150-27	JP236A	II B2b	AE-16	VbL	2	口縁部～胴部上半	平縁・やや外傾-外削隅丸角状	縄線文(同一条異原体)・縄線文(同一条異原体)/RL斜行縄文	繊維多量、砂粒少量混入		
V1-120-29	150-28	JP072A	II B2b	AC-18	VbL	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	縄線文・縄線文・LL?縦走縄文	繊維多量混入		
V1-120-30	150-29	JP107	II B2b	AB-22	VbU VbL	5 1	口縁部～胴部上半	平縁・やや内湾-隅丸角状 / やや外傾	縄線文・縄線文・R斜行縄文	繊維多量、砂粒微量混入		
V1-120-31	150-30	JP071A	II B2b	AG-21	VbU	2	口縁部～胴部上半	平縁・やや外傾-隅丸角状 / 直立	RL縄文 + 縄線文 - 縄線文(同一条異原体)-RL横走縄文 ・LR縦走縄文/2段異原体羽状縄文	繊維多量混入		
V1-120-32	150-31	JP113A	II B2b	AD-15	VbL	1	口縁部～胴部上半	平縁・やや外傾-外削角状 / 直立	縄線文・縄線文-2段異原体羽状縄文(縦回転)/2段異原体羽状縄文	繊維少量混入		
V1-120-33	150-32	JP250A	II B2b	AF-17	VbU VbL	4 2	口縁部	平縁・外傾-外削隅丸角状	縄線文(同一条異原体)・縄線文(同一条異原体)/LR?斜行縄文	繊維・砂粒混入		
V1-120-34	150-33	JP077A	II B2b	AI-21	VbL	9	口縁部～胴部上半	平縁・外傾-尖状/直立	肥厚帯・縄線文(同一条異原体)・LR、RL斜行縄文-縄線文(同一条異原体)・2段異原体羽状縄文/2段異原体羽状縄文	繊維多量混入		
V1-120-35	151-1	JP116A	II B2b	AD-17 AE-20 AE-21 AG-19	VbL VbL KR VbL	1 1 2 1	口縁部～胴部上半	平縁・外傾-尖状/やや外傾	縄線文(同一条異原体) ・2段異原体羽状縄文 縄線文(同一条異原体) ・2段異原体羽状縄文 縄線文(同一条異原体)・L斜行縄文 縄線文(同一条異原体)・L斜行縄文	繊維少量混入	内面:コナ 子調整痕 有り	
V1-120-36	151-2	JP244A	II B2b	AE-12	VbU	1	口縁部	平縁・やや外傾-尖状	縄線文(同一条異原体) ・2段異原体羽状縄文	繊維・砂粒少量混入		
V1-120-37	151-3	JP246A	II B2b	Z-24	VbU	1	口縁部	平縁・やや外傾-丸状	縄線文(同一条異原体) ・2段異原体羽状縄文	繊維・砂粒少量混入		
V1-120-38	151-4	JP243A	II B2b	AK-15	VI	1	口縁部	平縁・やや外傾-尖状	縄線文(同一条異原体)・L斜行縄文	繊維・砂粒少量混入		
V1-120-39	151-5	JP249A	II B2b	X-23	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-尖状	縄線文(同一条異原体)・L斜行縄文	繊維・砂粒混入		
V1-120-40	151-6	JP240A	II B2b	U-23	VbU	2	口縁部～胴部上半	平縁・やや外傾-丸状/直立	縄線文(同一条異原体)/RL斜行縄文	繊維・砂粒微量混入	補修孔有り	
V1-120-41	151-7	JP233A	II B2b	U-23	VbL	4	口縁部～胴部上半	平縁・やや外傾-尖状 / やや外傾	縄線文(同一条異原体)/R斜行縄文	繊維少量、砂粒微量混入		
V1-120-42	151-8	JP241A	II B2b	V-24	VbL	1	口縁部～胴部上半	平縁・やや外傾-隅丸角状 / 直立	LR縄文・縄線文(同一条異原体)/2段異原体斜行縄文	繊維少量、砂粒微量混入		
V1-120-43	151-9	JP080A	II B2b	AK-10	VbL	1	口縁部	平縁・外傾-隅丸角状	利突文・縄線文(同一条異原体) ・2段異原体羽状縄文	繊維少量混入		
V1-120-44	151-10	JP080B	II B2b	VPB- AJ-10	VbL VbL	1 1	口縁部下半～胴部上半	直立/外傾	隆帯1+利突文・縄線文(同一条異原体) /2段異原体羽状縄文(菱形構成)	繊維少量混入		
V1-121-45	151-11	JP217	II B2b	AI-16 表探	VbL I I	1 1 1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	RL縄文-RL斜行縄文・円形利突文+沈線文	φ1~5mm石英、砂粒少量混入		
V1-121-46	151-12	JP009A	II B2b	AH-21	VbU	1	口縁部	平縁・やや外傾-丸状	RL斜行縄文-沈線文+円形利突文 ・RL斜行縄文-RL斜行縄文(縦走気味)	細礫多量混入・φ2~3mm石英粒多量混入		

表VI-59 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名 / グリッド	層位	点数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 / 底側面-変換点-底面	口縁-口唇-内面/胴部-内面 / 底側面-底面-内面				
V1-121-47	151-13	JP010	II B2b	AF-19	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-丸状	RL斜行縄文-沈線文+凹形刺突文・RL斜行縄文	細礫多量混入・φ1~2mm石英粒混入			
V1-121-48	151-14	JP112A	II B2b	AF-22	VbL	1	口縁部	平縁・内湾-尖状/外傾	隆帯1・燃糸文	砂粒・繊維微量混入			
V1-121-49	151-15	JP104	II B2b	AH-10	VbL	1	口縁部~胴部上半	平縁・内湾-丸状/外傾	?斜行縄文	繊維微量混入			
V1-121-50	151-16	JP102	II B2b	AM-15	VbL	1	口縁部~胴部上半	直立-丸状/やや外傾	RR斜行縄文	繊維・砂粒微量混入			
V1-121-51	151-17	JP093	II B2b	AH-16	IIIb	1	口縁部	平縁・やや外傾-丸状	無文	繊維少量φ2~4礫微量混入			
V1-121-52	151-18	JP097	II B2b	VSB- AI-20	VbL VbL	3 1	口縁部~胴部	平縁・直立-丸状/やや外傾	無文	繊維多量砂粒少量混入			
V1-121-53	151-19	JP094	II B2b	VH-01	VbL	1	口縁部	平縁・外傾-隅丸角状	無文	繊維少量混入			
V1-121-54	151-20	JP103	II B2b	AL-17	VbM VbL	1 1	口縁部~胴部上半	平縁・やや外傾-隅丸角状	無文	繊維少量砂粒多量混入			
V1-121-55	151-21	JP083A	II B2b	AG-22	VbL	1	口縁部~胴部下半	平縁・やや外傾-尖状/直立・外傾	縄線文(同一条異原体)・2段異原体羽状縄文	繊維少量・φ1~2mm砂粒少量混入			
V1-121-56	151-22	JP116B	II B2b	AF-20 AF-22	KR VbL VbL	1 4 1	胴部上半 ~下半	直立・外傾	2段異原体羽状紋	繊維多量混入			
V1-121-57	151-23	JP237B	II B2b	Q-24	VbL	1	胴部	外傾	2段異原体羽状縄文	繊維多量・砂粒少量混入			
V1-121-58	151-24	JP079B	II B2b	AI-18	Va	1	胴部	やや外傾	LR,RR羽状縄文	繊維・砂粒少量混入			
V1-121-59	151-25	JP011	II B2b	AM-17	Va	1	胴部	やや外傾	RL縦走縄文/RL横走縄文 /RL斜行縄文(縦走気味)	φ2~8mm礫多量混入・φ2~3mm石英粒混入			
V1-121-60	151-26	JP247A	II B2b	U-27	VbL	6	胴部	やや外傾	LR斜行縄文	繊維・砂粒少量混入			
V1-121-61	151-27	JP111A	II B2b	AB-22	VbL	7	胴部下半	やや外傾	RR斜行縄文	砂粒・繊維微量混入			
V1-121-62	151-28	JP109	II B2b	AC-21	Vc	1	胴部下半	外傾	RR斜行縄文	繊維微量混入			
V1-121-63	152-1	JP230A	II B2b	AL-14	VbL VI	2 2	胴部	外傾	燃糸文(横回転)	φ5mm以下礫・砂粒少量・繊維微量混入			
V1-121-64	152-2	JP245A	II B2b	W-23	VbL	4	底部	やや外傾-隅丸角状-平底	2段異原体羽状縄文-RL・LR縄文	繊維・砂粒少量混入			
V1-122-65	152-3	JP073C	II B2b	AA-23	VbU VbL	1 3	底部	直立-角状-平底	2段異原体羽状縄文-2段異原体羽状縄文	繊維多量混入			
V1-122-66	152-4	JP083B	II B2b	AB-22 AI-22 AI-23	VbL - VbL	1 1 1	胴部下半 ~底部	外傾/外傾-角状-平底	2段異原体羽状縄文(菱形構成)	繊維少量・φ1~2mm砂粒少量混入			
V1-122-67	152-5	JP110A	II B	AC-17 AC-19	VbU VbL	2 4	胴部下半 ~底部	外傾-角状-平底	RR?斜行縄文/RR?横走縄文	砂粒・繊維微量混入			
V1-122-68	152-6	JP211	II B2b	AJ-16	VbL	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	無文	φ1~3mm石英・φ1~10mm礫・砂粒混入			
V1-122-69	152-7	JP247B	II B2b	U-27	VbL	1	底部	外傾-張り出し-平底	無文	繊維・砂粒少量混入			

表VI-59 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

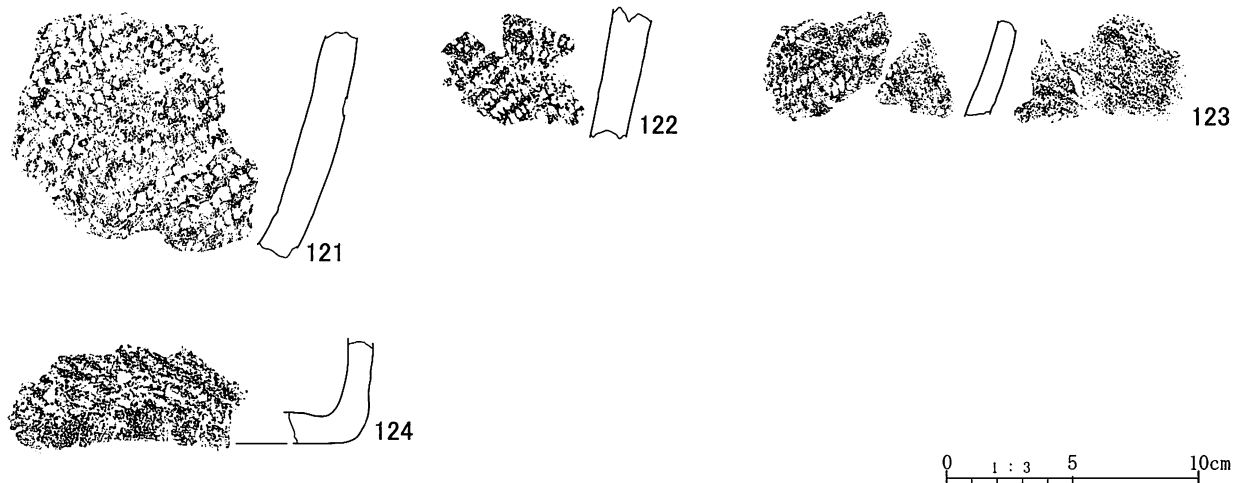
挿図番号	個体名称	分類	遺構名 グランド	層位	点数	部位	器形等		文様		胎土	備考
							口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点-底面	口縁-張り出し-平底	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面			
VI-122-70	152-8 JP099A	II B2b	AB-22	VbL	7	底部	外傾-張り出し-平底	無文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	繊維多量混入		
VI-122-71	152-9 JP100	II B2b	AC-21	Vc	1	底部	外傾-張り出し-平底	無文		繊維多量混入		
VI-122-72	152-10 JP038	II B2a	AC-19 AI-21	VbU VbL	2 1	口縁部~ 胴部上半	平縁・やや外傾-?/やや外傾	隆帯1+縄線文/縄線文・捺糸文		φ2mm以下砂粒少量・繊維多量混入	内面:ヨコミガキ	
VI-122-73	152-11 JP036	II B2a	AI-23	VbU	2	口縁部~ 胴部上半	突起?直立-丸状/やや外傾	刺突文-隆帯1・縄線文/縄線文・捺糸文		φ1mm以下砂粒少量・繊維多量混入	内面:ヨコミガキ弱	
VI-122-74	152-12 JP279A	II B2a	AA-27	VbL	1	口縁部~ 胴部上半	平縁・やや外傾-丸状/直立	半截竹管(内)押引文-半截竹管(内) 押引文/LR斜行縄文		φ1~2mm石英少量混入	内面:ヨコミガキ	
VI-122-75	152-13 JP054A	II B2a	AH-20	VbU	1	口縁部~ 胴部上半	平縁・やや外傾-丸状/直立	縄端圧痕文?・隆帯1+縄の圧痕文?・縄線文/捺糸文		φ2~4mm石英多量・繊維少量混入	内面:ヨコミガキ強	
VI-122-76	152-14 JP262A	II B2a	S-26	VbL	2	口縁部	平縁・外反-尖状	縄の圧痕文-縄線文・隆帯+刺突文		φ1~3mm石英・砂粒混入	内面:ヨコミガキ強	
VI-122-77	152-15 JP041A	II B2a	AI-23 AO-11	VbU VbL	1 1	口縁部~ 胴部上半	突起・やや外反-丸/やや外傾	刻み-隆帯1+刺突文・縄線文/縄線文・重複捺糸文		φ1mm以下砂粒少量φ1~2mm石英多量繊維少量混入	内面:ヨコミガキ強	
VI-122-78	152-16 JP254A	II B2a	W-26	Vc	1	口縁部	突起・やや外傾-隅丸角状/直立	刻み-縄線文		φ1mm石英・砂粒少量・繊維微量混入	内面:ヨコミガキ強	
VI-122-79	152-17 JP254B	II B2a	X-25	VbU	17	口縁部~胴部	突起・やや外傾-隅丸角状/直立	刻み-縄線文・隆帯1+刺突文/捺糸文(多軸絡条体)		φ1mm石英・砂粒少量・繊維微量混入	内面:ヨコミガキ強	
VI-123-80	152-18 JP063A	II B2a	AA-22	VbU VbL	5 1	口縁部~ 胴部上半	突起・外傾-角状/やや外傾	LR縄文-隆帯1+円形刺突文+肥厚帯+縄線文/LR斜行縄文・LR横走縄文		φ1~4mm石英多量混入・繊維微量混入	内面:口縁ヨコミガキ強・胴部(上位)ナナメミガキ	
VI-123-81	152-19 JP281A	II B2a	AA-26	VbU	1	口縁部下半 ~胴部上半	内傾/外傾	縄線文・隆帯/LR斜行縄文		繊維少量混入	内面:ミガキ弱	
VI-123-82	152-20 JP280A	II B2a	R-26	VbL	1	口縁部上半 ~胴部上半	直立/直立	縄線文・刺突文+隆帯1/捺糸文(多軸絡条体)		繊維・砂粒少量混入	内面:ミガキ弱	
VI-123-83	152-21 JP045	II B2a	AM-9	Vc	1	口縁部下半 ~胴部上半	直立/やや外傾	隆帯1+刺突文?/捺糸文(多軸絡条体)		φ1~2mm石英・砂粒多量・繊維少量混入	風化著しい	
VI-123-84	152-22 JP266	II B2a	AF-16	VbU	1	口縁部~ 胴部上半	平縁・やや外傾-丸状/直立	半截竹管(内)押引文-縄線文/捺糸文(多軸絡条体)		φ1~2mm石英・砂粒・繊維少量混入		
VI-123-85	152-23 JP256	II B2a	AA-27	VbL	2	口縁部~ 胴部上半	突起?・外傾-丸状/直立	絡条体圧痕文-絡条体圧痕文・刺突文/LR斜行縄文		φ1~2mm石英・砂粒少量・繊維微量混入	内面:ヨコミガキ強	
VI-123-86	153-1 JP261	II B2a	W-20	VbL	4	口縁部~ 胴部上半	平縁?・外反-外削隅丸角状/やや外傾	LR縄文?・縄線文/LR斜行縄文		φ1~3mm石英・砂粒混入	内面:ヨコミガキ	
VI-123-87	153-2 JP267	II B2a	AF-16	VbU	1	口縁部下半 ~胴部上半	直立/直立	絡条体圧痕文・隆帯/LR斜行縄文		φ1~3mm石英・砂粒多量混入	内面:ヨコミガキ弱	
VI-123-88	153-3 JP053	II B2a	AK-10	VbU	1	口縁部	直立	縄の圧痕文-縄線文		φ2~4mm石英多量・繊維少量混入	内面:ヨコミガキ	

表VI-59 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図番号	図版番号	個体名称	分類	遺構名 グランド	層位	点数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点-底面	突起・外反-丸状 平縁・外反-丸状 平縁・直立-隅丸角状 突起?・やや外傾-隅丸角状 平縁・直立・外反-丸状 平縁・外反-丸状	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	縄の圧痕文-縄線文 縄の圧痕文-縄線文 絡条体圧痕文-縄線文 絡条体圧痕文-絡条体圧痕文 円形刺突文-隆帯2?+円形刺突文 ・絡条体圧痕文 縄の圧痕文-縄線文・C字状捺糸圧痕文 LR斜行縄文-LR横走縄文 縄の圧痕文-肥厚帯+縄線文・縄線文 縄線文 隆帯1・縄線文/第1種結束羽状線文 縄線文 縄線文 捺糸文 捺糸文 重複捺糸文 重複捺糸文 LR斜行縄文+LR横走縄文		
VI-123-89	153-4	JP048	II B2a	AB-23	VbL	1	口縁部	突起・外反-丸状	縄の圧痕文-縄線文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ1~2mm石英・砂粒微量混入・繊維少量混入	内面:口縁ヨ コミガキ	
VI-123-90	153-5	JP276A	II B2a	L-29 N-24 N-25	VbU Vc VbU	1 1 3	口縁部	平縁・外反-丸状	縄の圧痕文-縄線文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	繊維・砂粒微量混入	内面:ミガキ 弱	
VI-123-91	153-6	JP047A	II B2a	AD-15	Va	1	口縁部	平縁・直立-隅丸角状	絡条体圧痕文-縄線文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ2~4mm石英多量・φ1~2mm砂少量・繊維少量混入	内面:口縁ヨ コミガキ強	
VI-123-92	153-7	JP269A	II B2a	AH-14	MO4	1	口縁部	突起?・やや外傾-隅丸角状	絡条体圧痕文-絡条体圧痕文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ1~2mm石英・繊維少量混入	内面:ミガキ 弱・補修孔 有り	
VI-123-93	153-8	JP057	II B2a	AE-22 AF-22	Vc VbL	1 1	口縁部	平縁・直立・外反-丸状	円形刺突文-隆帯2?+円形刺突文 ・絡条体圧痕文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ1~2mm石英・砂粒多量混入・繊維少量混入	内面:ヨコミ ガキ	
VI-123-94	153-9	JP051	II B2a	AG-18	VbL	3	口縁部	平縁・外反-丸状	縄の圧痕文-縄線文・C字状捺糸圧痕文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ1~3mm石英多量・繊維微量混入	内面:口縁ヨ コミガキ強	
VI-123-95	153-10	JP056A	II B2a	AE-20	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-三角形	LR斜行縄文-LR横走縄文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ2~4mm石英・礫微量・繊維微量混入	内面:ヨコミ ガキ強	
VI-123-96	153-11	JP221?	II B2a	AI-19	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-三角形	縄の圧痕文-肥厚帯+縄線文・縄線文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ10mm ↓ 白色岩片多量混入	風化	
VI-123-97	153-12	JP221?	II B2a	AF-10	VbL	1	口縁部	外反	縄線文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ10mm ↓ 白色岩片多量混入	内面:ヨコミ ガキ強	
VI-123-98	153-13	JP221?	II B2a	AL-20	VbL	1	口縁部下半~ 胴部上半	内傾/外傾	隆帯1・縄線文/第1種結束羽状線文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ10mm ↓ 白色岩片多量混入	内面:ヨコミ ガキ	
VI-123-99	153-14	JP258	II B2a	U-27 AA-37	Vc VbU	1 1	口縁部	突起・外半-三角形	縄線文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ5mm凝灰岩片多量混入	内面:ヨコミ ガキ強	
VI-123-100	153-15	JP258?	II B2a	AB-22	VbL	1	口縁部	直立	縄線文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ5mm凝灰岩片多量混入	内面:ヨコミ ガキ強	
VI-124-101	153-16	JP040	II B2a	AH-18	VbU	2	胴部	外傾	捺糸文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ1mm以下砂粒少量・繊維多量混入	内面:胴部ヨ コミガキ	
VI-124-102	153-17	JP039	II B2a	AI-22	VbL	1	底部	外傾-隅丸角状-平底	捺糸文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ1mm以下砂粒少量・繊維多量混入	内面:ヨコミ ガキ強	
VI-124-103	153-18	JP054B	II B2a	AI-19	VbL	1	胴部	やや外傾	重複捺糸文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ2~4mm石英多量・繊維少量混入	内面:ヨコミ ガキ強	
VI-124-104	153-19	JP041B	II B2a	AI-23	VbU	1	胴部	直立	重複捺糸文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ1mm以下砂粒少量 φ1~2mm石英多量繊維少量混入	内面:胴部 ナナメミガキ 強	
VI-124-105	153-20	JP063B	II B2a	AA-23	VbU VbL	1 1	胴部上半	やや外傾	LR斜行縄文+LR横走縄文	口唇-口縁-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面	φ1~4mm石英多量混入・繊維微量混入	内面:胴部 (上位)ナナメ ミガキ(下位) タデミガキ	

表VI-59 縄文時代包含層出土土器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	分類	遺構名 / グランド	層位	点 数	部位	器形等		文様		胎土	備考
								口縁-口唇/胴部 /底側面-変換点-底面	口縁-口唇-内面/胴部-内面/ 底側面-底面-内面				
VI-124-106	153-21	JP056B	II B2a	AE-20	VbL	2	胴部	外傾	LR横走縄文		φ2~4mm石英・礫微量・繊維微量混入	内面:ヨコミ ガキ強	
VI-124-107	153-22	JP037	II B2a	AI-22	VbL	1	底部	やや外傾-隅丸角状-平底	燃糸文		φ1mm以下砂粒少量・繊維 多量混入	内面:底部ミ ガキ強	
VI-124-108	153-23	JP117A	II B2c	AG-23	VbL	1	口縁部	平縁・直立-角状?	刺突文		φ2~3mm石英極多量混入・ φ1~4mm砂礫多量混入		
VI-124-109	153-24	JP117B	II B2c	AB-21	VbL	1	口縁部下位	直立	刺突文		φ2~3mm石英極多量混入・ φ1~4mm砂礫多量混入		
VI-124-110	153-25	JP117C	II B2c	AE-21	VbL	2	胴部	やや外傾	刺突文		φ2~3mm石英極多量混入・ φ1~4mm砂礫多量混入		
VI-124-111	153-26	JP128A	II B2d	AF-10	VbL	1	口縁部	平縁・内湾-角状	RL?縄文-RL?縄文		φ2~6mm滑石多量混入	表面剥落著	
VI-124-112	153-27	JP127A	II B2d	AJ-20	VbL	1	口縁部	平縁・内湾-角状	LR?縄文-LR斜行縄文(縦、横回転)		φ2~6mm滑石多量混入		
VI-124-113	153-28	JP032	III B1	AG-10	VbL	1	胴部上半	外傾	半截竹管(内)沈線文・LR斜行縄文		φ2~3mm礫少量混入・繊維 微量混入		
VI-124-114	153-29	JP215	III B2	Z-26	VbL	1	口縁部	平縁・やや外傾-隅丸角状	半截竹管刺突文-LR斜行縄文		繊維・砂礫少量混入		
VI-124-115	153-30	JP003	IVA2	VH-01	Va	4	口縁部~ 胴部上半	平縁・やや外傾-外削隅丸角 状/やや外傾	LR?斜行縄文-刺突文-LR?斜行縄文 /LR縄文(羽状構成)-LR斜行縄文?		砂粒多量混入φ1mm礫極微 量混入		
VI-124-116	153-31	JP288A	IVA2	AI-14	VbU	3	口縁部	平縁・外傾-隅丸角状	LR縄文-刺突文・LR・RL斜行縄文		φ1~3mmパミス・砂礫多量混 入		
VI-124-117	153-32	JP285A	IVA2	N-26	VbU	1	口縁部	平縁・やや外傾-隅丸角状	RL縄文-無文帯・刺突文(縦)・RL斜行縄 文		φ1~5mmパミス・砂礫多量混 入		
VI-124-118	153-33	JP283A	IVA2	AF-14	VbL	1	胴部	直立	貼付帯+LR斜行縄文・LR斜行縄文		φ1~3mm砂礫多量混入		
VI-124-119	154-1-1	JP284A	IVB1	VH-02	VbU	2	口縁部	突起・やや外傾-内削隅丸角状	RL縄文-RL斜行縄文・縄縁文		φ1~5mm砂礫多量混入		
VI-124-120	154-1-2	JP287A	IVB1	AH-17	VbU VbL	2 3	口縁部~ 胴部上半	突起・外傾-隅丸角状/やや 外傾	LR縄文-LR斜行縄文(縦回転)		φ1~10mmパミス・砂礫混入		
VI-125-121	154-1-3	JP013A	IVB1	AL-19	KR	1	胴部下半	外傾	LR斜行縄文		φ2~3mm礫多量混入	縄文施文後 ナデ調整	
VI-125-122	154-1-4	JP014A	IVB1	AD-15	Va	1	胴部	外傾	LR斜行縄文		φ1~3mm砂礫多量混入	縄文施文後 ナデ調整	
VI-125-123	154-1-5	JP004	IVB1	VH-01	Va VbU	1 1	胴部下半	外傾	LR斜行縄文		φ2~4mm礫多量混入	縄文施文後 ナデ調整	
VI-125-124	154-1-6	JP286A	IVB1	U-26	Vc	1	底部	直立-隅丸角状-平底	RL斜行縄文		φ2~4mm礫多量混入		



図VI-125 縄文時代包含層出土土器(7)

剥片石器

剥片石器は遺構出土のものを含め、1,905点が出土している。本遺跡の主体は縄文時代前期後葉であり、剥片石器の大半もこの時期のものと思われる。器種は石鏃、石槍、石錐、つまみ付きナイフ、スクレイパー類、両面調整石器、RF・UF、石核が見られる。RF・UFを除く定型的なものの中で、石槍は約70%を占めており、非常に割合が高い。本遺跡はシカ塚等も検出しており、シカ猟の割合が高かったと考えられ、剥片石器の組成からも肯定できる。石材はつまみ付きナイフ以外のものはほぼ黒曜石を利用している。つまみ付きナイフは半数以上が頁岩製であり偏りが見られる。

包含層出土剥片石器 (図VI-126～130 図版154～158)

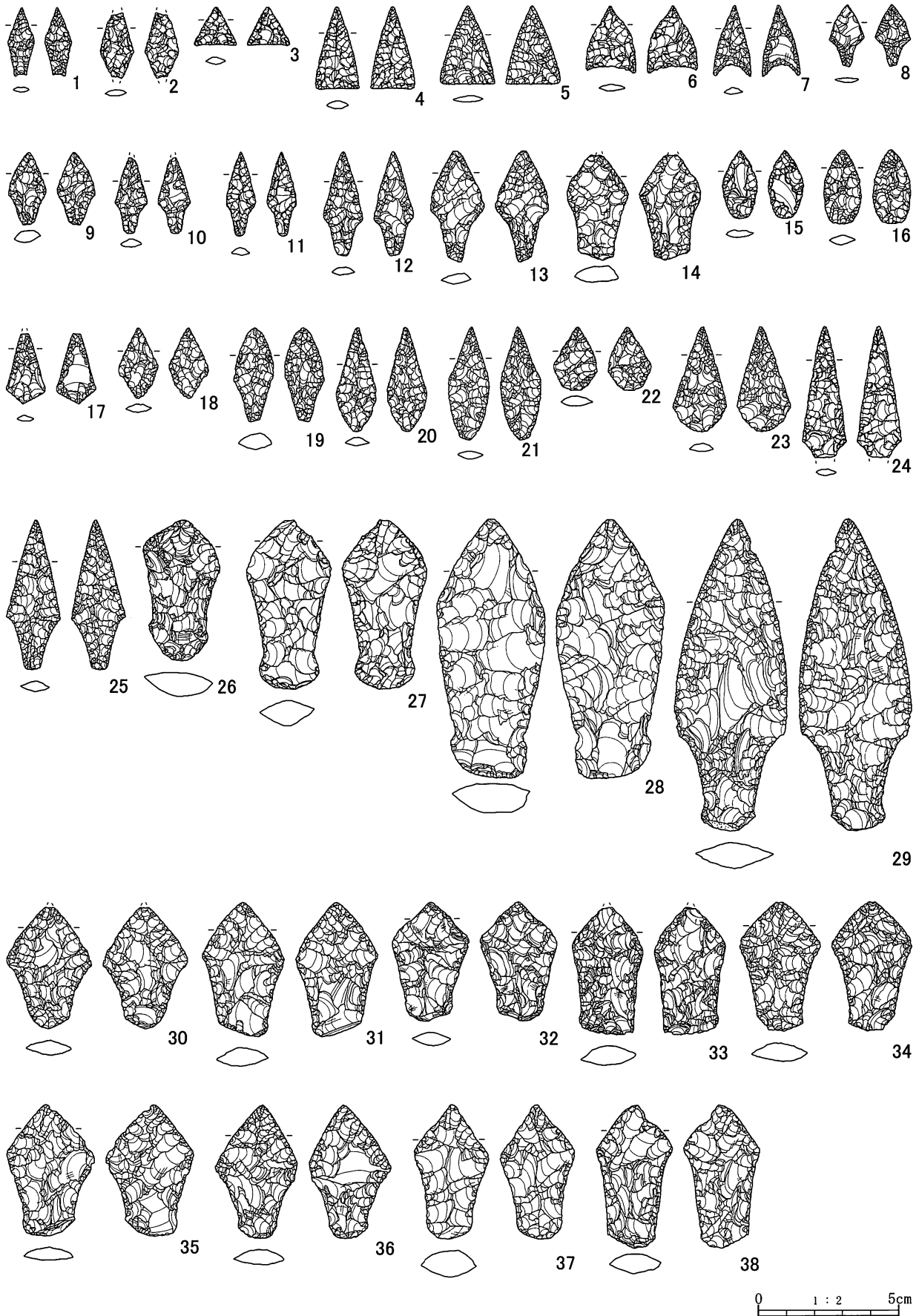
ポイント類

石鏃 (1～23)

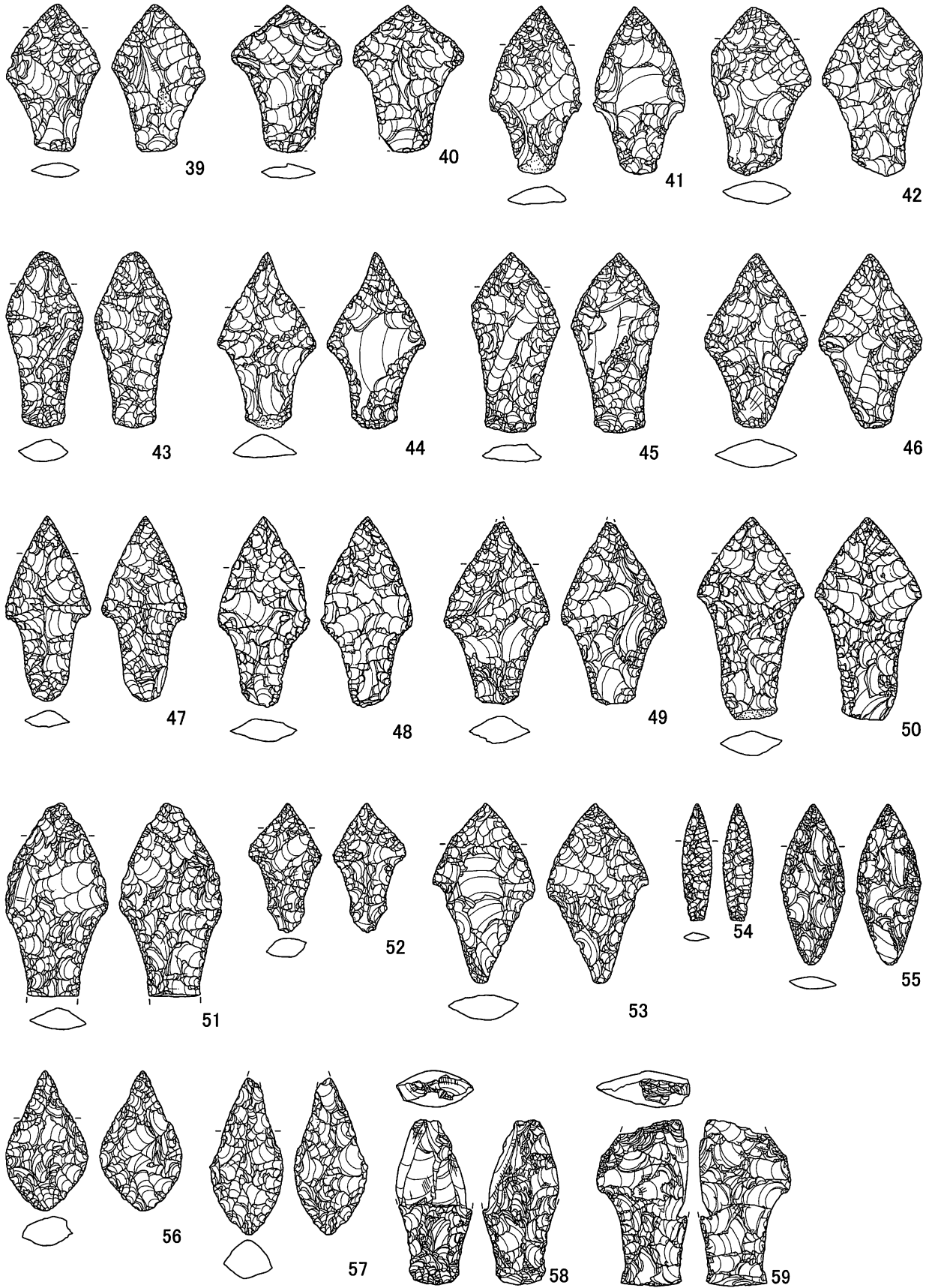
1・2はA1類の細身で薄手のもので、1は五角形を呈する。形状より縄文時代早期に伴うものである。2は両端が欠損しており全体の形状は不明である。4～7はA2類の無茎のものである。4・5は基部が直線的な平基である。6・7は基部が大きく内湾する凹基である。8～14はA3類の明瞭な基部をもつものである。14は鏃身部に比べて、基部が太いもので、先端部を欠損した石槍を再加工したものと思われる。15～23はA4類の不明瞭な基部をもつものである。15・16は木の葉形である。17・18は菱形である。20・21は両端が薄く、鋭いことから、どちらも鏃身部の可能性が考えられたが、より丁寧な調整が施されている方を鏃身部とした。22・23は基部が半円状のものである。

石槍 (24～69)

26～29はB1c類で明瞭な基部をもち、基部の両側縁の対向する位置に抉れのあるものである。縄文時代前期の特徴的な形態のものである。25・30～50はB1a類で明瞭な基部をもち、基部下端が平坦なものである。25は石鏃と石槍の細分類基準を便宜的に4cmとしているため、ここに分類しているが、基部の大きさ等から石鏃の可能性もある。31～35・37・38・40は基部に比べ鏃身部が小さいものである。また、いずれも基部に比べ鏃身部が薄く、鏃身部の調整加工が基部よりも新しい等の特徴がある。これらは先端部が欠損したものを再加工した可能性がある。52・53はB1b類で明瞭な茎

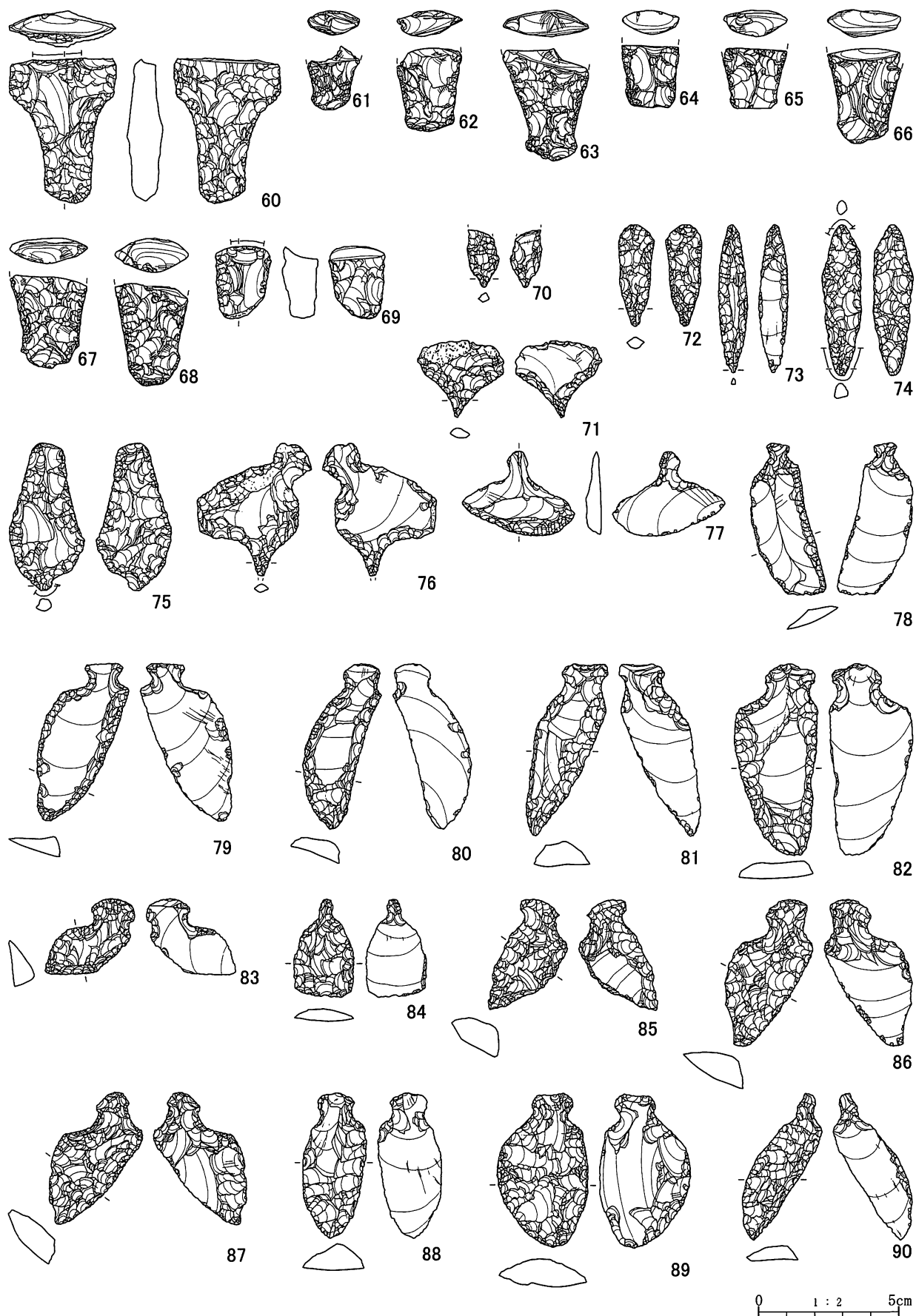


図VI-126 縄文時代包含層出土剥片石器 (1)

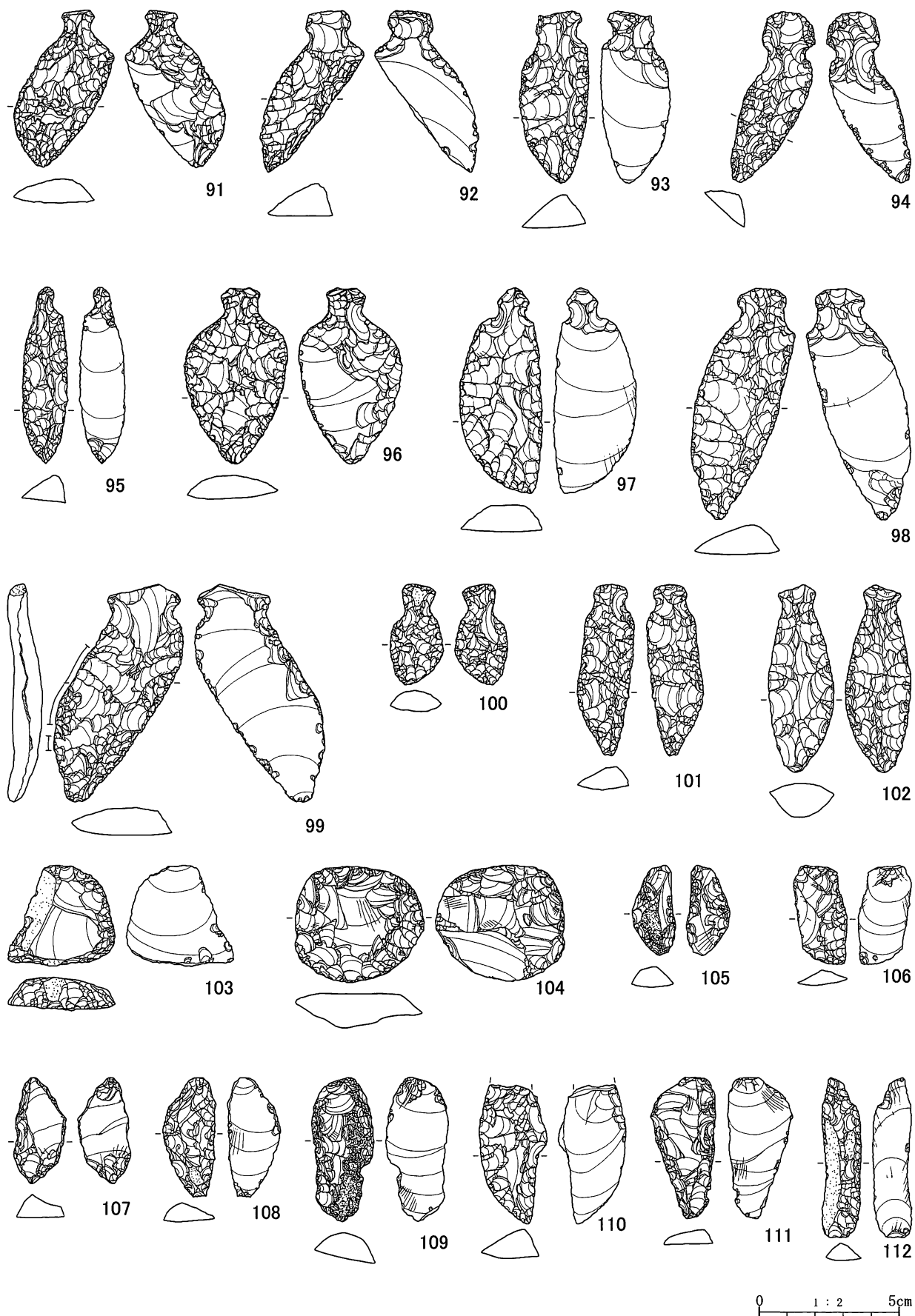


0 1 : 2 5cm

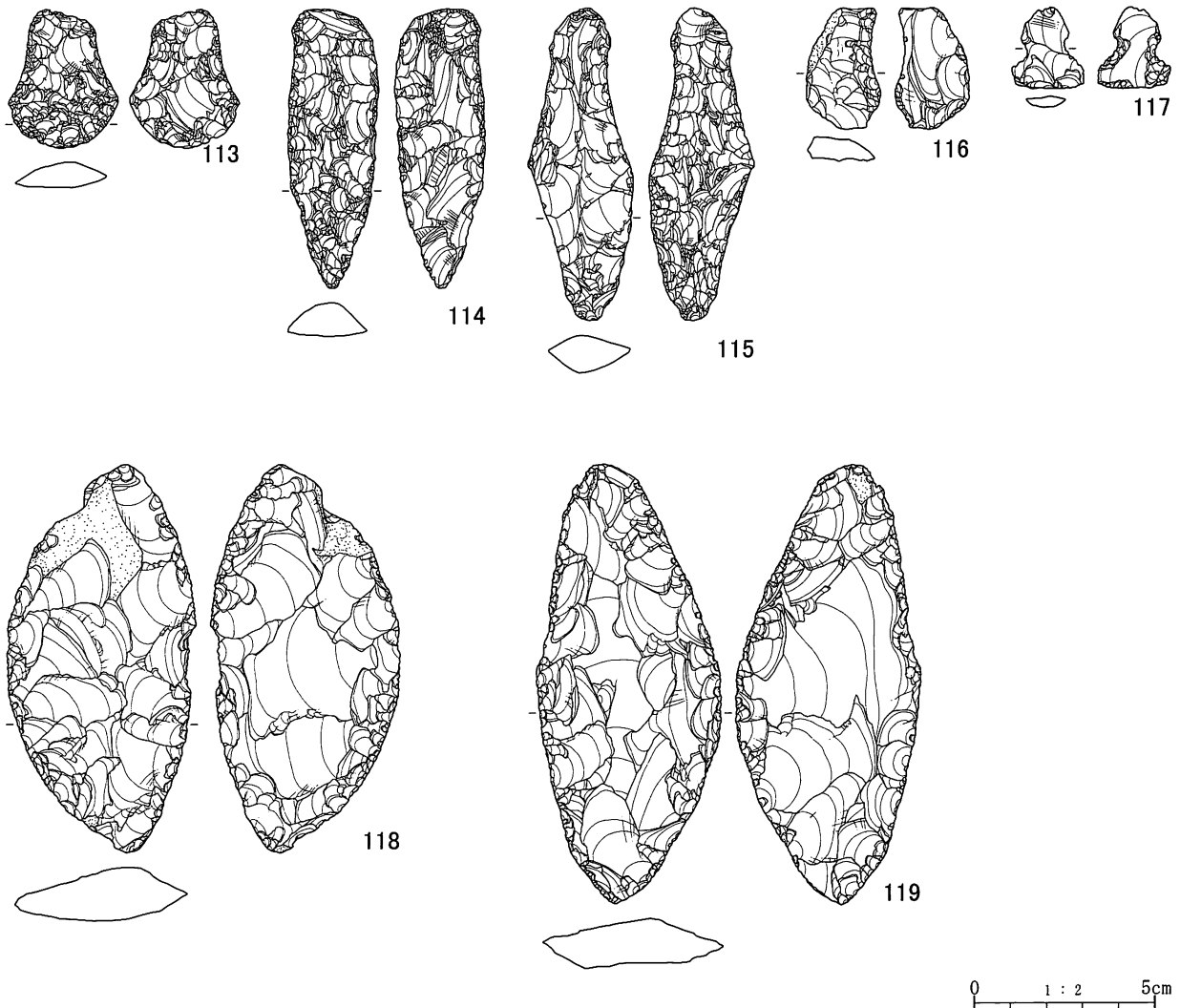
図VI-127 縄文時代包含層出土剥片石器 (2)



図VI-128 縄文時代包含層出土剥片石器 (3)



図VI-129 縄文時代包含層出土剥片石器 (4)



図VI-130 縄文時代包含層出土剥片石器 (5)

形で非常に薄いものである。形態から石鏃のA1類と同様のものであり、縄文時代早期のものと考えられる、55は菱形である。56・57は20・21と大きさが異なるが、形状が類似するものである。58・59は先端部側から延びる階段状の剥離が複数枚確認できる。60は先端部欠損後、破断面に再加工を施している。61～68は基部片である。69は基部片で、破断面側から再加工が施されている。

石錐 (70～76)

70～72はB類で柄と機能部の区別が明瞭なものである。72は両面全面加工が施されている。73・74はD類で、柄と機能部の区別が不明瞭な棒状のものである。74は両端に機能部があり、共に著しく摩滅している。75・76はE類で他石器からの転用品である。75は石槍、76はつまみ付きナイフからの転用である。75の機能部の摩滅は著しい。

ナイフスクレイパー類

つまみ付きナイフ (77~102)

77~82 は A1 類の素材側縁にのみ加工が施されるものである。77 はつまみに対して刃部が直行する横型である。83~99 は A2 類で片面全面加工のものである。99 は黒曜石のもので、左側縁の一部は摩滅して丸くり、稜がなくなっている。調整加工等から主要刃部は右側縁と考えられることから、左側縁の摩滅は使用によるものではなく、刃潰しのための加工と思われる。100~102 は A3 類で両面加工のものである。100 は長軸が 36 mm と小型のものである。

スクレイパー類 (77~102)

103・113 は B2 類のエンドスクレイパーで、下端部に急角度の刃部がある。113 は篋状で両面全面加工のものである。縄文時代後期に特徴的な形態のものである。104 は B1 類のラウンドスクレイパーである。105~112・114・115 は C1 類のサイドスクレイパーである。105~112 は片面全面もしくは側縁を加工するものである。114 は両面全面加工のものである。113 は形状より石槍の転用と思われ、左側縁に調整が施されている。116 は C2 類のコンケイブスクレイパーで右側縁が大きく内湾している。117 は C3 類の抉入石器で両側縁の対向する位置に抉れが作られている。

両面調整石器 (118・119)

118・119 は共に黒曜石製で、木葉形を基調とし、両側縁は直線的ではない。118 は転礫面を残すものである。

表 VI-60 縄文時代包含層出土剥片石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-126-1	154-2-7	-	AA-27-3-21	ポイント類	A1	VbL	-	AA-27	24.3	9.4	2.4	0.4	Obs.	
VI-126-2	154-2-8	-	AI-8-4-32	ポイント類	A1	Vc	-	AI-8	(23.4)	11.8	2.2	0.6	Obs.	
VI-126-3	154-2-9	-	AE-8-4-18	ポイント類	A2	VbL	-	AE-8	13.3	14.7	3.0	0.4	Obs.	
VI-126-4	154-2-10	-	AN-11-4-17	ポイント類	A2	Vc	-	AN-11	29.3	15.3	3.2	1.1	Obs.	
VI-126-5	154-2-11	-	S-25-2-35	ポイント類	A2	VI	-	S-25	27.9	18.9	3.1	1.1	Obs.	
VI-126-6	154-2-12	-	AH-9-2	ポイント類	A2	VbL	-	AH-9	23.8	17.8	3.3	1.1	Obs.	
VI-126-7	154-2-13	-	N-29-4-11	ポイント類	A2	VbU	-	N-29	24.9	13.3	2.7	0.6	Obs.	
VI-126-8	154-2-14	-	W-27-3-20	ポイント類	A3	Va	-	W-27	21.9	12.0	2.2	0.4	Obs.	
VI-126-9	154-2-15	-	Z-19-3-10	ポイント類	A3	Vc	-	Z-19	26.1	13.1	4.6	1.3	Sh.	
VI-126-10	154-2-16	-	AE-18-3-71	ポイント類	A3	VbL	-	AE-18	27.0	11.5	3.7	0.7	Obs.	
VI-126-11	154-2-17	-	AB-19-4-7	ポイント類	A3	VbL	-	AB-19	29.2	10.1	3.0	0.7	Obs.	
VI-126-12	154-2-18	-	V-22-2-2	ポイント類	A3	Vc	-	V-22	36.7	13.6	3.6	1.2	Obs.	
VI-126-13	154-2-19	-	W-25-1-4	ポイント類	A3	Vc	-	W-25	39.6	18.6	4.8	2.7	Obs.	
VI-126-14	154-2-20	-	AC-23-1-9	ポイント類	A3	VbL	-	AC-23	(37.3)	21.8	7.8	5.4	Obs.	
VI-126-15	154-2-21	-	AK-7-1-14	ポイント類	A4	VI	-	AK-7	24.1	12.2	2.7	0.7	Obs.	
VI-126-16	154-2-22	-	N-29-4-310	ポイント類	A4	VbL	-	N-29	26.1	13.4	3.9	1.3	Obs.	
VI-126-17	154-2-23	-	AG-16-2-16	ポイント類	A4	VbU	-	AG-16	24.7	13.5	2.8	0.7	Obs.	
VI-126-18	154-2-24	-	AK-18-3-320	ポイント類	A4	VbL	-	AK-18	25.2	14.1	3.7	0.8	Obs.	
VI-126-19	154-2-25	-	Z-21-1-8	ポイント類	A4	VbL	-	Z-21	33.0	13.6	5.7	1.9	Obs.	
VI-126-20	154-2-26	-	AE-9-4-20	ポイント類	A4	VbL	-	AE-9	(36.9)	14.3	3.3	1.2	Obs.	
VI-126-21	154-2-27	-	T-23-3-4	ポイント類	A4	VI	-	T-23	40.0	14.2	3.6	1.5	Obs.	
VI-126-22	154-2-28	-	AC-22-4-8	ポイント類	A4	VbU	-	AC-22	22.6	15.4	4.0	1.1	Obs.	
VI-126-23	154-2-29	-	V-26-4-10	ポイント類	A4	VbL	-	V-26	36.9	18.7	4.7	2.1	Obs.	
VI-126-24	154-2-30	-	AJ-23-1-20	ポイント類	B1	VbU	-	AJ-23	(46.8)	15.2	4.5	2.2	Obs.	
VI-126-25	154-2-31	-	Z-27-3-17	ポイント類	B1a	VbL	-	Z-27	53.4	19.1	5.1	3.3	Obs.	
VI-126-26	154-2-32	-	N-26-1-15	ポイント類	B1c	VbU	-	N-26	50.2	27.8	10.1	12.5	Obs.	
VI-126-27	154-2-33	-	AN-9-3-16	ポイント類	B1c	Vc	-	AN-9	60.0	30.0	10.6	17.6	Obs.	
VI-126-28	154-2-34	-	MO-01-775	ポイント類	B1c	VbL	-	AJ-10	92.9	39.5	13.8	52.9	Sh.	
VI-126-29	154-2-35	-	Z-21-2-10	ポイント類	B1c	VI	-	Z-21	110.8	39.7	13.8	41.8	Obs.	
VI-126-30	154-2-36	-	AE-17-2-293	ポイント類	B1a	Vc	-	AE-17	43.4	30.3	7.8	8.1	Obs.	
VI-126-31	154-2-37	-	AG-15-4-7	ポイント類	B1a	VbU	-	AG-15	48.0	29.1	9.6	11.5	Obs.	

表VI-60 縄文時代包含層出土剥片石器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-126-32	154-2-38	-	AI-18-3-608	ポイント類	B1a	VI	-	AI-18	42.7	27.1	9.7	9.0	Obs.	
VI-126-33	154-2-39	-	X-27-3-5	ポイント類	B1a	VbU	-	X-27	45.3	25.2	9.4	9.9	Obs.	
VI-126-34	154-2-40	-	Y-27-3-29	ポイント類	B1a	Va	-	Y-27	46.0	28.4	8.2	8.7	Obs.	
VI-126-35	154-2-41	-	Y-27-1-23	ポイント類	B1a	VbL	-	Y-27	47.3	31.3	9.4	10.9	Obs.	
VI-126-36	155-1	-	AK-15-4-95	ポイント類	B1a	VbL	-	AK-15	47.9	29.0	9.5	9.2	Obs.	
VI-126-37	155-2	-	X-27-3-4	ポイント類	B1a	VbU	-	X-27	48.5	26.4	10.1	10.3	Qu.	
VI-126-38	155-3	-	AG-22-1-25	ポイント類	B1a	VbL	-	AG-22	51.4	27.2	13.1	14.3	Obs.	
VI-127-39	155-4	-	AH-16-1-11	ポイント類	B1a	VbU	-	AH-16	52.0	32.5	9.4	11.8	Obs.	
VI-127-40	155-5	-	AG-21-3-49	ポイント類	B1a	Va	-	AG-21	52.1	38.5	10.1	13.6	Obs.	
VI-127-41	155-6	-	AF-17-2-168	ポイント類	B1a	VI	-	AF-17	59.5	32.2	7.9	12.1	Obs.	
VI-127-42	155-7	-	AH-20-2-106	ポイント類	B1a	VbL	-	AH-20	59.9	55.8	13.2	21.0	Obs.	
VI-127-43	155-8	-	N-28-3-16	ポイント類	B1a	VbL	-	N-28	62.2	27.1	12.4	14.8	Obs.	
VI-127-44	155-9	-	AD-15-3-114	ポイント類	B1a	Vc	-	AD-15	61.8	34.3	9.9	14.5	Obs.	
VI-127-45	155-10	-	AG-14-3-24	ポイント類	B1a	VbL	-	AG-14	63.3	31.5	8.1	13.9	Obs.	
VI-127-46	155-11	-	N-26-4-17	ポイント類	B1a	VbU	-	N-26	61.8	36.0	10.4	15.8	Obs.	
VI-127-47	155-12	-	Y-20-4-15	ポイント類	B1a	VbL	-	Y-20	65.3	30.0	9.4	10.0	不明	
VI-127-48	155-13	-	AB-18-4-6	ポイント類	B1a	VbL	-	AB-18	66.6	31.9	9.2	14.1	Obs.	
VI-127-49	155-14	-	V-27-4-28	ポイント類	B1a	VbL	-	V-27	64.5	76.8	10.1	17.9	Obs.	
VI-127-50	155-15	-	AE-10-3-8	ポイント類	B1a	VbU	-	AE-10	71.2	36.9	11.8	23.6	Obs.	
VI-127-51	155-16	-	T-27-2-17	ポイント類	B1	Va	-	T-27	68.3	36.1	13.4	26.8	Obs.	
VI-127-52	155-17	-	AD-20-2-19	ポイント類	B1b	VbU	-	AD-20	45.7	25.5	8.8	7.6	Obs.	
VI-127-53	155-18	-	AG-15-3-9	ポイント類	B1b	VbL	-	AG-15	63.8	36.1	12.5	19.0	Obs.	
VI-127-54	155-19	-	AG-8-4-30	ポイント類	B2	VI	-	AG-8	41.5	10.3	2.8	1.1	Obs.	
VI-127-55	155-20	-	AI-15-3-21	ポイント類	B2	IIIc	-	AI-15	57.0	23.0	5.6	5.9	Obs.	
VI-127-56	155-21	-	AM-19-4-143	ポイント類	B2	Va	-	AM-19	50.0	28.7	11.3	12.0	Obs.	
VI-127-57	155-22	-	AO-12-3-4	ポイント類	B2	VbL	-	AO-12	55.5	25.8	14.3	16.3	Age.	
VI-127-58	155-23	-	22768	ポイント類	B1c	VbU	-	S-24	(59.0)	28.0	12.4	17.8	Obs.	
VI-127-59	155-24	-	V-22-3-1	ポイント類	B1a	VbU	-	V-22	(58.3)	33.4	13.0	23.7	Obs.	
VI-128-60	155-25	-	AJ-09-2-8	ポイント類	B1a	VbU	-	AJ-09	(51.5)	38.6	13.7	19.2	Obs.	
VI-128-61	156-1	-	P-24-2-2	ポイント類	B1c	Va	-	P-24	(23.2)	18.9	8.7	2.7	Obs.	
VI-128-62	156-2	-	18807	ポイント類	B1c	V	-	O-23	(29.7)	23.5	9.9	5.1	Obs.	
VI-128-63	156-3	-	L-26-4-3	ポイント類	B1c	Va	-	L-26	40.7	31.0	9.2	9.7	Obs.	
VI-128-64	156-4	-	AK-16-1-207	ポイント類	B1a	VbL	-	AK-16	22.2	20.5	7.9	4.6	Obs.	
VI-128-65	156-5	-	Z-27-3-16	ポイント類	B1a	Vc	-	Z-27	21.5	23.2	9.3	4.8	Obs.	
VI-128-66	156-6	-	Y-27-1-25	ポイント類	B1a	VbL	-	Y-27	(33.3)	26.1	9.5	8.1	Obs.	
VI-128-67	156-7	-	P-21-2-30	ポイント類	B1a	VbU	-	P-21	(33.1)	27.5	8.9	7.8	Obs.	
VI-128-68	156-8	-	Y-26-4-30	ポイント類	B1a	VbL	-	Y-26	(35.8)	26.4	11.9	9.1	Obs.	
VI-128-69	156-9	-	AJ-18-2-374	ポイント類	B1a	VbL	-	AJ-18	(26.3)	20.1	13.3	6.7	Obs.	
VI-128-70	156-10	-	AG-10-2-57	石錐	B	VbL	-	AG-10	20.6	11.1	5.8	1.1	Obs.	
VI-128-71	156-11	-	AE-14-2-71	石錐	B	VbL	-	AE-14	27.2	27.2	30.5	7.7	Obs.	
VI-128-72	156-12	-	X-26-4-30	石錐	B	VbL	-	X-26	36.6	12.6	6.1	2.4	Obs.	
VI-128-73	156-13	-	AD-15-1-99	石錐	D	Vc	-	AD-15	52.8	10.0	6.4	3.6	Sh.	
VI-128-74	156-14	-	AD-16-4-127	石錐	D	VbL	-	AD-16	53.9	14.6	10.4	7.9	Obs.	
VI-128-75	156-15	-	AK-20-5793	石錐	E	Va	-	AK-20	52.8	26.6	8.1	10.2	Obs.	
VI-128-76	156-16	-	AF-9-3-34	石錐	E	VI	-	AF-9	45.8	30.0	8.5	11.9	Obs.	被熱
VI-128-77	156-17	-	MO-01-830	ナイフ・スクレイパー類	A1	VbL	-	AM-10	29.1	40.4	4.6	3.9	Obs.	被熱
VI-128-78	156-18	-	P-21-4-32	ナイフ・スクレイパー類	A1	VbU	-	P-21	56.3	20.2	6.8	6.0	Sh.	
VI-128-79	156-19	-	18767	ナイフ・スクレイパー類	A1	V	-	O-24	61.8	25.2	6.7	9.3	Sh.	
VI-128-80	156-20	-	X-23-4-47	ナイフ・スクレイパー類	A1	VbU	-	X-23	60.6	20.4	7.0	9.0	Sh.	
VI-128-81	156-21	-	AG-20-1-233	ナイフ・スクレイパー類	A1	VbL	-	AG-20	60.4	21.2	8.8	12.9	Sh.	
VI-128-82	156-22	-	AN-19-1-52	ナイフ・スクレイパー類	A1	VbL	-	AN-19	60.8	30.1	7.0	14.5	Sh.	
VI-128-83	156-23	-	Z-25-1-16	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	Z-25	38.5	18.1	7.4	5.0	Sh.	
VI-128-84	156-24	-	K-28-3-17	ナイフ・スクレイパー類	A2	V	-	K-28	34.6	21.8	5.2	3.2	Age.	
VI-128-85	156-25	-	V-27-2-30	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	V-27	43.2	20.7	11.1	8.3	Obs.	
VI-128-86	156-26	-	21873	ナイフ・スクレイパー類	A2	V	-	R-26	56.3	25.0	10.3	12.3	Obs.	
VI-128-87	156-27	-	V-21-2-7	ナイフ・スクレイパー類	A2	Va	-	V-21	51.8	24.6	9.8	10.8	Obs.	
VI-128-88	156-28	-	AL-20-3-251	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	AL-20	52.2	22.8	9.7	10.6	Age-Sh.	
VI-128-89	156-29	-	Z-25-1-15	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	Z-25	55.5	32.3	8.2	13.9	Obs.	
VI-128-90	156-30	-	AG-7-2-34	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	AG-7	55.8	10.9	5.9	5.2	Che.	
VI-129-91	156-31	-	AL-10-4-52	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	AL-10	58.7	28.3	9.2	13.7	Obs.	
VI-129-92	156-32	-	AN-8-4-6	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	AN-8	62.6	35.3	11.3	15.0	Sh.	

表VI-60 縄文時代包含層出土剥片石器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-129-93	156-33	-	AK-16-2-212	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	AK-16	52.1	14.5	11.0	16.8	Sh.	
VI-129-94	157-1	-	U-24-2-17	ナイフ・スクレイパー類	A2	Va	-	U-24	63.4	21.8	8.8	11.8	Obs.	
VI-129-95	157-2	-	AI-18-1-602	ナイフ・スクレイパー類	A2	VI	-	AI-18	62.7	15.9	9.6	9.6	Sh.	
VI-129-96	157-3	-	AF-9-3-35	ナイフ・スクレイパー類	A2	KR	-	AF-9	63.0	36.0	9.0	18.5	Obs.	
VI-129-97	157-4	-	AJ-21-4-41	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbU	-	AJ-21	73.5	29.3	10.2	21.1	Sh.	
VI-129-98	157-5	-	AH-19-4-95	ナイフ・スクレイパー類	A2	VbL	-	AH-19	84.3	29.3	11.6	28.5	Sh.	
VI-129-99	157-6	-	AG-22-1-22	ナイフ・スクレイパー類	A2	Vc	-	AG-22	82.8	32.8	10.5	26.5	Obs.	
VI-129-100	157-7	-	AD-19-4-18	ナイフ・スクレイパー類	A3	Vc	-	AD-19	36.0	18.5	7.4	4.4	Obs.	
VI-129-101	157-8	-	X-21-4-9	ナイフ・スクレイパー類	A3	VbU	-	X-21	61.1	18.4	8.0	9.2	Obs.	被熱
VI-129-102	157-9	-	V-21-2-2	ナイフ・スクレイパー類	A3	VbU	-	V-21	66.8	23.1	11.4	17.3	Sh.	
VI-129-103	157-10	-	AE-21-3-9	ナイフ・スクレイパー類	B2	VbU	-	AE-21	37.6	41.6	10.0	13.7	Obs.	
VI-129-104	157-11	-	AE-15-1-151	ナイフ・スクレイパー類	B1	V	-	AE-15	45.9	42.0	12.4	25.2	Obs.	
VI-129-105	157-12	-	AE-17-2-295	ナイフ・スクレイパー類	C1	V	-	AE-17	32.1	15.7	7.3	3.1	Obs.	
VI-129-106	157-13	-	AL-10-4-108	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbU	-	AL-10	37.2	17.4	5.0	2.8	Obs.	
VI-129-107	157-14	-	AI-18-1-614	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbL	-	AI-18	38.2	18.1	8.7	6.2	Sh.	
VI-129-108	157-15	-	AN-8-4-7	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbL	-	AN-8	42.6	19.0	7.2	5.8	Obs.	
VI-129-109	157-16	-	AI-15-1-20	ナイフ・スクレイパー類	C1	V	-	AI-15	52.0	22.8	12.3	10.6	Obs.	
VI-129-110	157-17	-	AJ-23-1-19	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbU	-	AJ-23	51.7	24.0	12.4	13.0	Sh.	
VI-129-111	157-18	-	AL-16-3-37	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbU	-	AL-16	50.8	23.3	6.0	5.6	Obs.	
VI-129-112	157-19	-	AN-10-2-19	ナイフ・スクレイパー類	C1	VI	-	AN-10	57.6	13.5	6.6	4.6	Obs.	
VI-130-113	157-20	-	W-27-3-16	ナイフ・スクレイパー類	B2	V	-	W-27	38.9	30.6	8.0	8.6	Obs.	
VI-130-114	157-21	-	AI-18-1-601	ナイフ・スクレイパー類	C1	VI	-	AI-18	77.5	24.1	10.4	21.8	Obs.	
VI-130-115	157-22	-	AI-18-3-613	ナイフ・スクレイパー類	C1	VbL	-	AI-18	86.6	29.5	12.5	27.9	Sh.	
VI-130-116	157-23	-	AG-18-2-106	ナイフ・スクレイパー類	C2	Va	-	AG-18	21.9	33.2	8.1	4.9	Obs.	
VI-130-117	157-24	-	AF-8-2-85	ナイフ・スクレイパー類	C3	Vc	-	AF-8	22.5	20.1	3.1	1.1	Obs.	
VI-130-118	158-1	-	5970	両面調整加工石器	-	Va	-	AI-20	107.0	50.3	13.8	77.8	Obs.	
VI-130-119	158-2	-	5969	両面調整加工石器	-	Va	-	AI-20	121.0	50.7	15.6	79.8	Obs.	

包含層出土礫石器 (図VI-131~139 図版 159~162)

石斧 (1~11)

1~6は完形及び略完形のものである。1・5は砂岩製である。1は小型のものである。共に、打ち欠きと研磨によって整形を行っている。礫皮から円磨の進んだ扁平な礫を素材としていることがわかる。2~4は緑色泥岩製のものである。6は青色片岩製のもので、両刃の円刃である。7は蛇紋岩製の基部片、8は緑色泥岩製の刃部が欠損したものである。共に側面に擦り切り痕を残す。9は刃部の幅に比べて器体が長いもので、石のみと考えられる。また、両端に片刃の刃部をもつものである。10・11は緑色泥岩製の未成品である。

たたき石 (12~40)

12~15はI A1類である。両面もしくは片面に窪む敲打痕をもつものである。14・15は敲打痕が連続するもので窪みは浅く、12・13は窪み状の敲打痕が単位ごとに分かれており、窪みは深い。16はI A2類である。側縁の一部と下端部に敲打痕をもつものである。17~21はI A3類である。18は両面に平坦面の敲打痕を切る研磨面がある。また、端部の敲打痕に係わる剥離も平坦面の敲打痕を切る。20は大型のものである。22~24はI B1類である。22は平端面の中央に敲打痕をもつものである。26はII A2類、25・27はII A3類である。28・29はII B1類である。30・31はII B2類で、周縁のほぼ全周に敲打痕をもつものである。33はII B3類である。36はIII A類、37はIII B類である。38~41はV類である。複数の敲打痕と擦痕を併せもつもので新旧関係を捉えることができず、複合して使用されたものと考えられる。35は擦り切り痕をもつもので、擦り切り残片を素材としているものであ

る。両面の中央に敲打痕をもつものである。36～38 の下端部は擦痕により、石斧の刃部のように鋭利になっている。使用の結果、このような形状になったのか、刃部として使用する目的で作出したのかは不明であるが、この部分に刃こぼれや使用による線条痕は見られない。いずれも 1～数カ所の窪み状の敲打痕をもつ。39 はほぼ全面に擦痕があり、複数の単位が確認できる。また、中央に窪み状の敲打痕をもつ。40 は一端が欠損している。

扁平打製石器 (41～43)

41～43 は扁平打製石器で、扁平な礫を素材とし、周縁を打ち欠いて整形している。いずれも使用面には明瞭な擦痕は確認できず、敲打痕が見られる。41 は砥石からの転用品である。また、使用面がやや内湾している。

擦石 (44～55)

44・45 は A 類で、断面三角形の礫の稜に擦り面をもつものである。共に T1 面からの出土で、出土層位等からも縄文時代早期のものと考えられる。46～55 は D 類の北海道式石冠である。45～49・51・52 は全面を敲打し把握部を整形しているものである。48・49 は擦面中央に敲打痕をもつもので、48 は深い窪みとなっている。50 は擦面側からの欠損後、被熱を受けており、その後破断面等を敲打整形して溝を再加工している。53・54 は把握部を敲打により整形しているが、一部に礫皮面を残すものである。54 は小型のものである。溝は全周しておらず、使用面にも擦痕が見られないことから未成品と思われる。

石鋸 (56・57)

56・57 は砂岩製の石鋸である。56 の使用面は外湾しており、断面形は「V」字状である。57 は 3 カ所の側縁に使用面をもつもので、断面形はいずれも U 字状である。

砥石 (58～63)

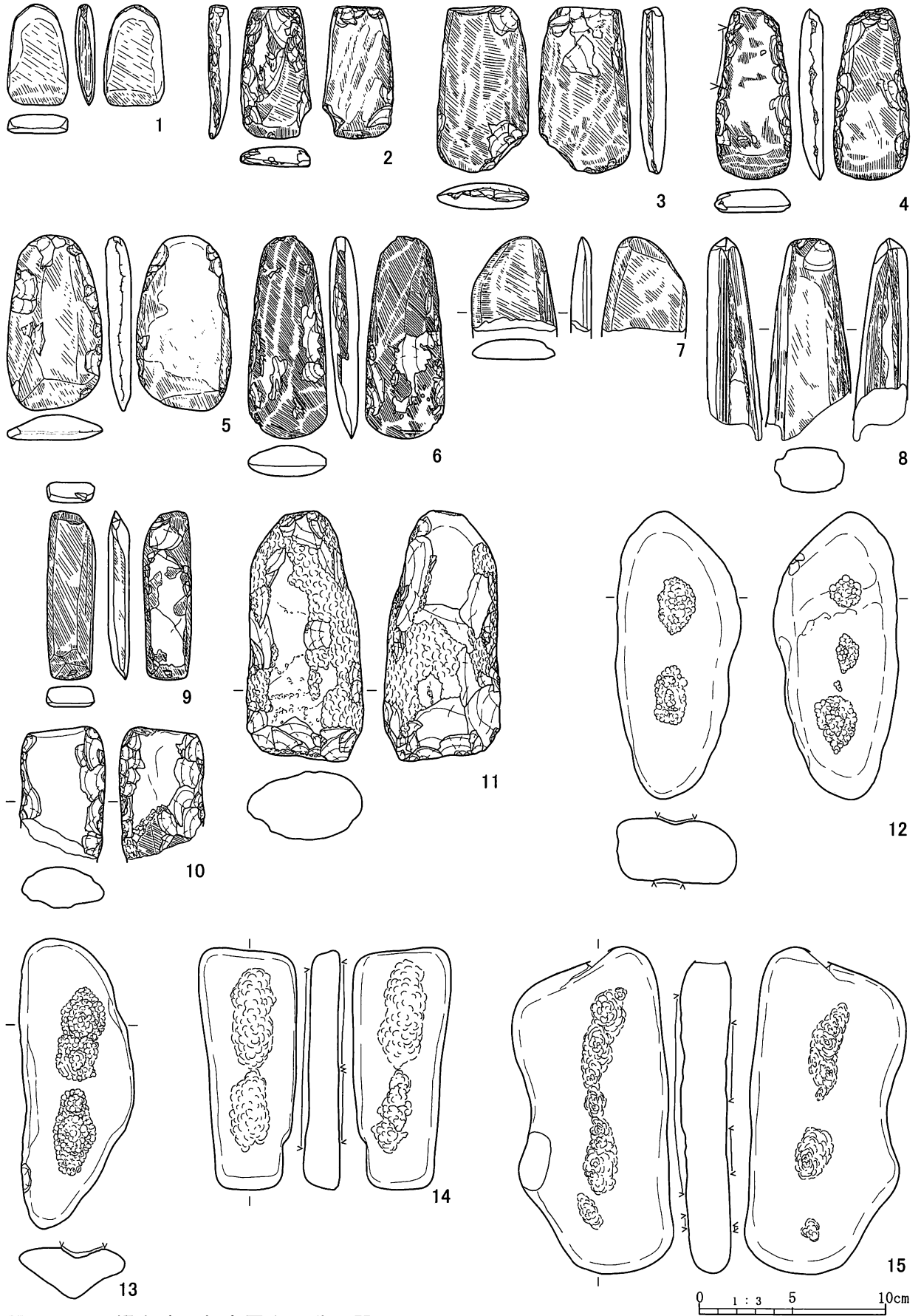
58 は大型の砥石で、4 面に研磨面があるもので、いわゆる四面砥石である。その内の 1 面には溝状の研磨面が数条見られる。61 は 3 面に研磨面がある。62 は両面に使用面をもつもので、すり面の中央は使用が進み薄くなっていたものと思われる。

石錘 (64)

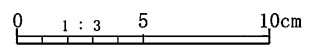
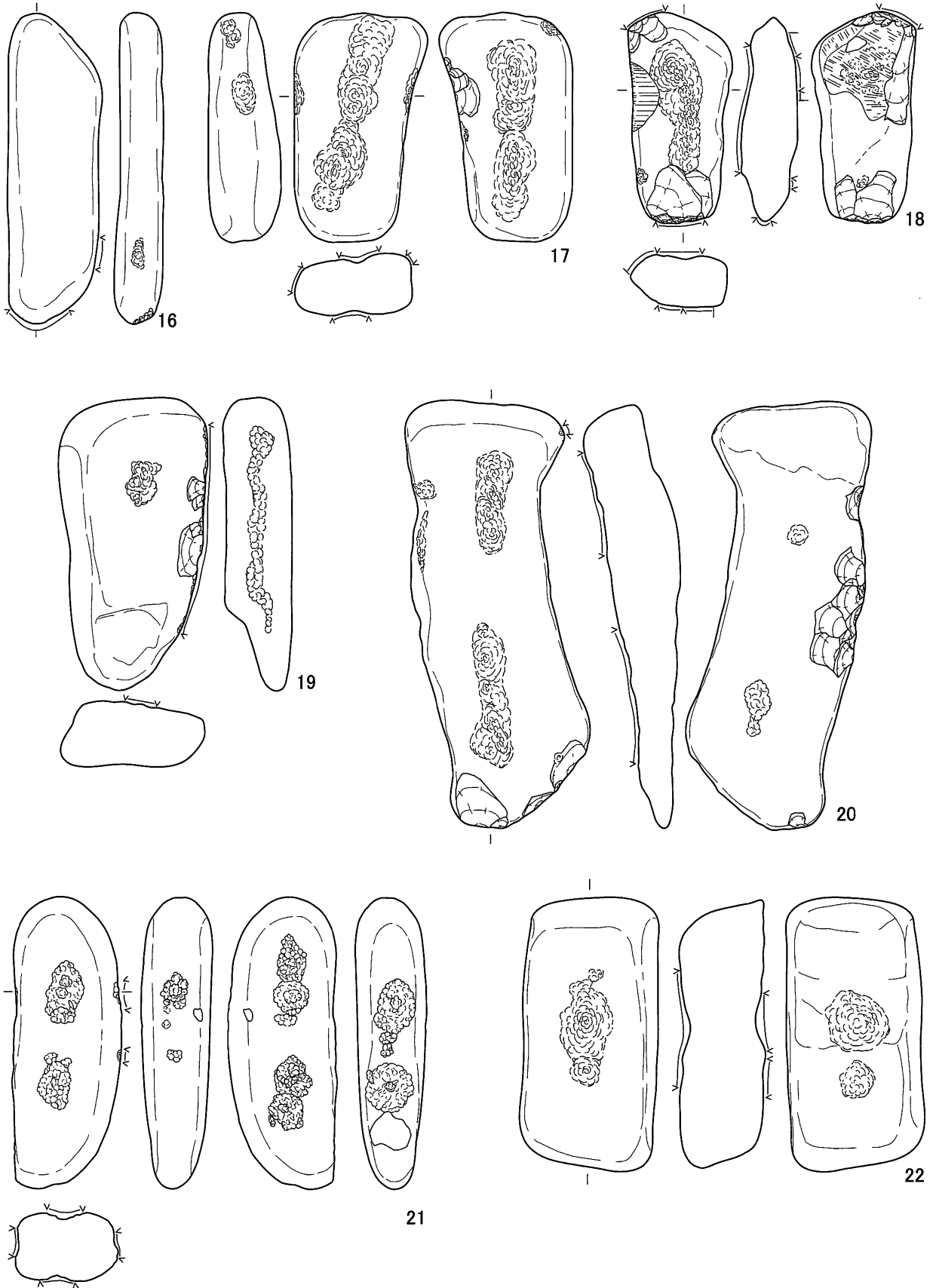
64 は扁平な円礫の両端に、両面からの打ち欠きで抉れが作出された石錘である。打ち欠きによる稜は敲打によって潰れている。

台石 (65・66)

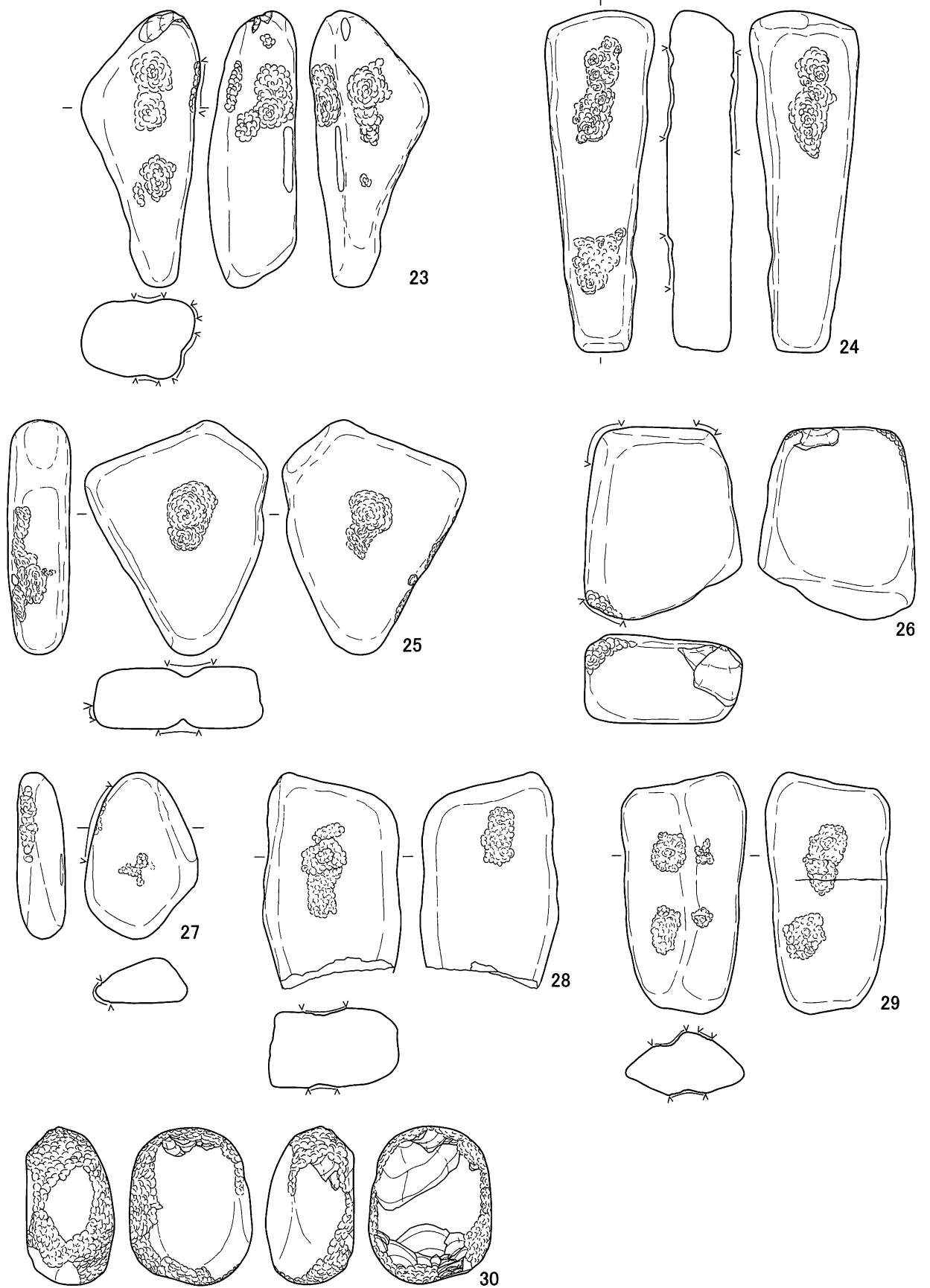
65 は平坦面に広い敲打痕をもつものである。使用面は大きく窪んでいる。本遺跡出土の石皿の中には、敲打によって粗面を作出してから使用しているものがあることから、石皿の未製品の可能性もある。



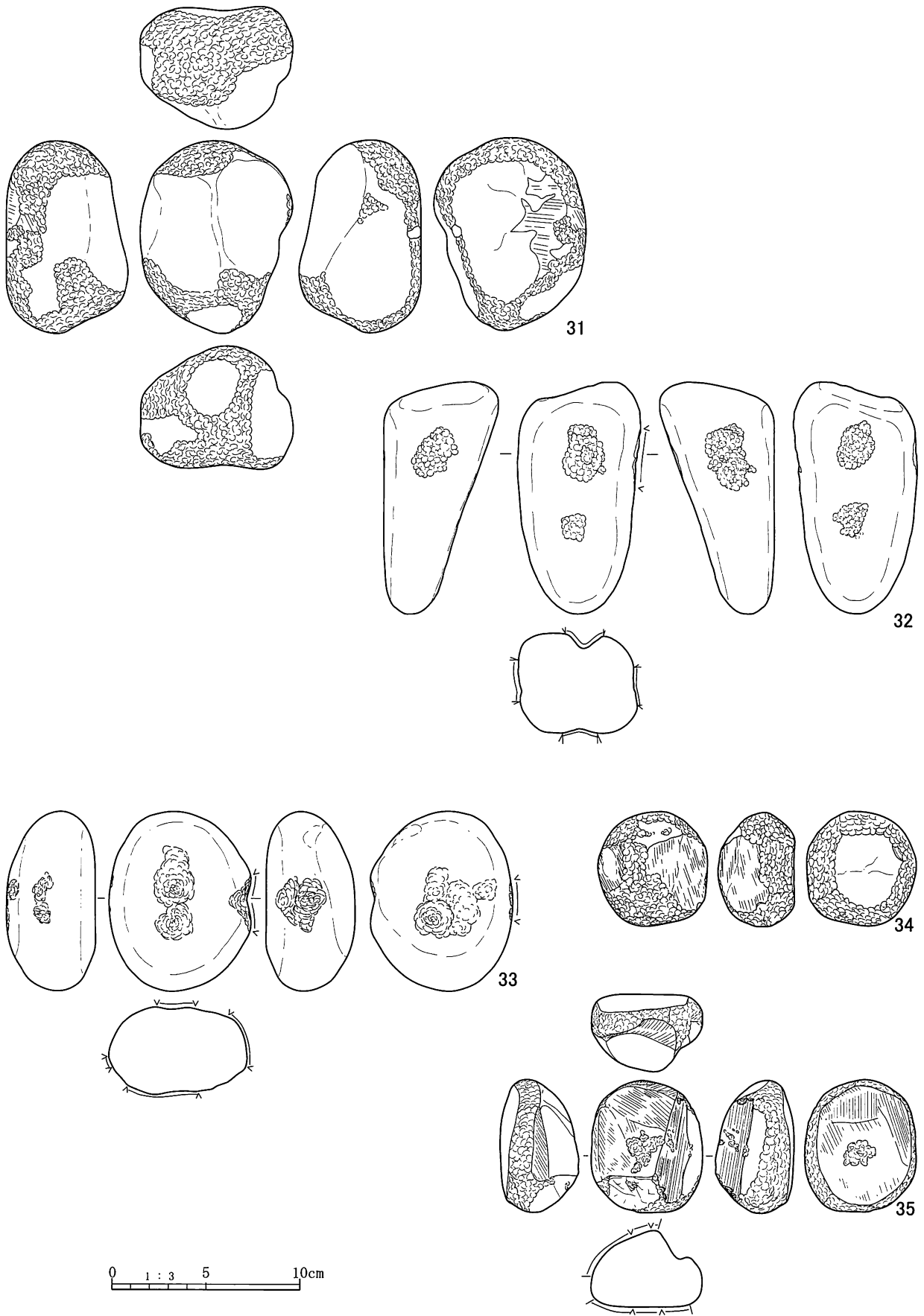
図VI-131 縄文時代包含層出土礫石器(1)



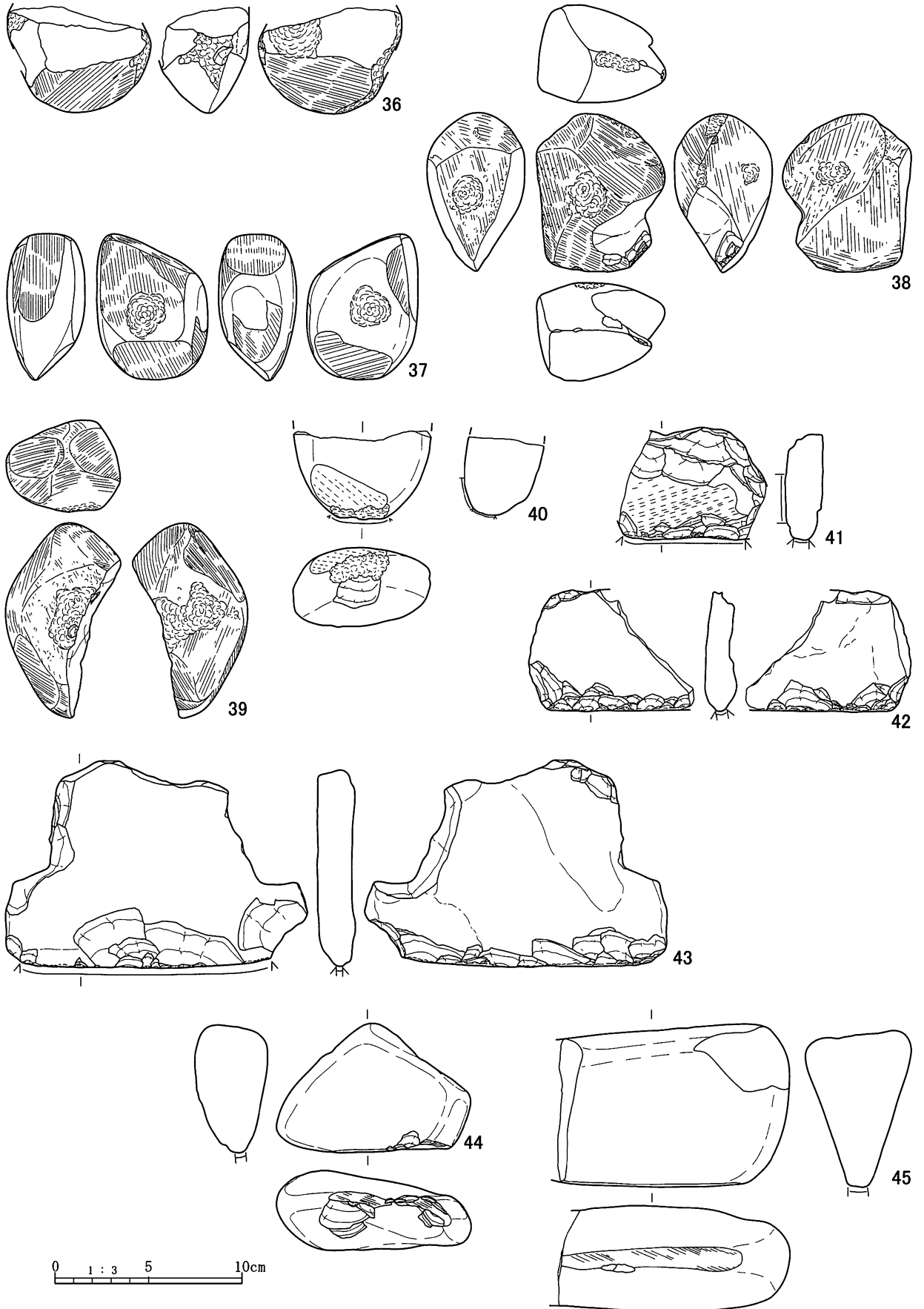
図VI-132 縄文時代包含層出土礫石器(2)



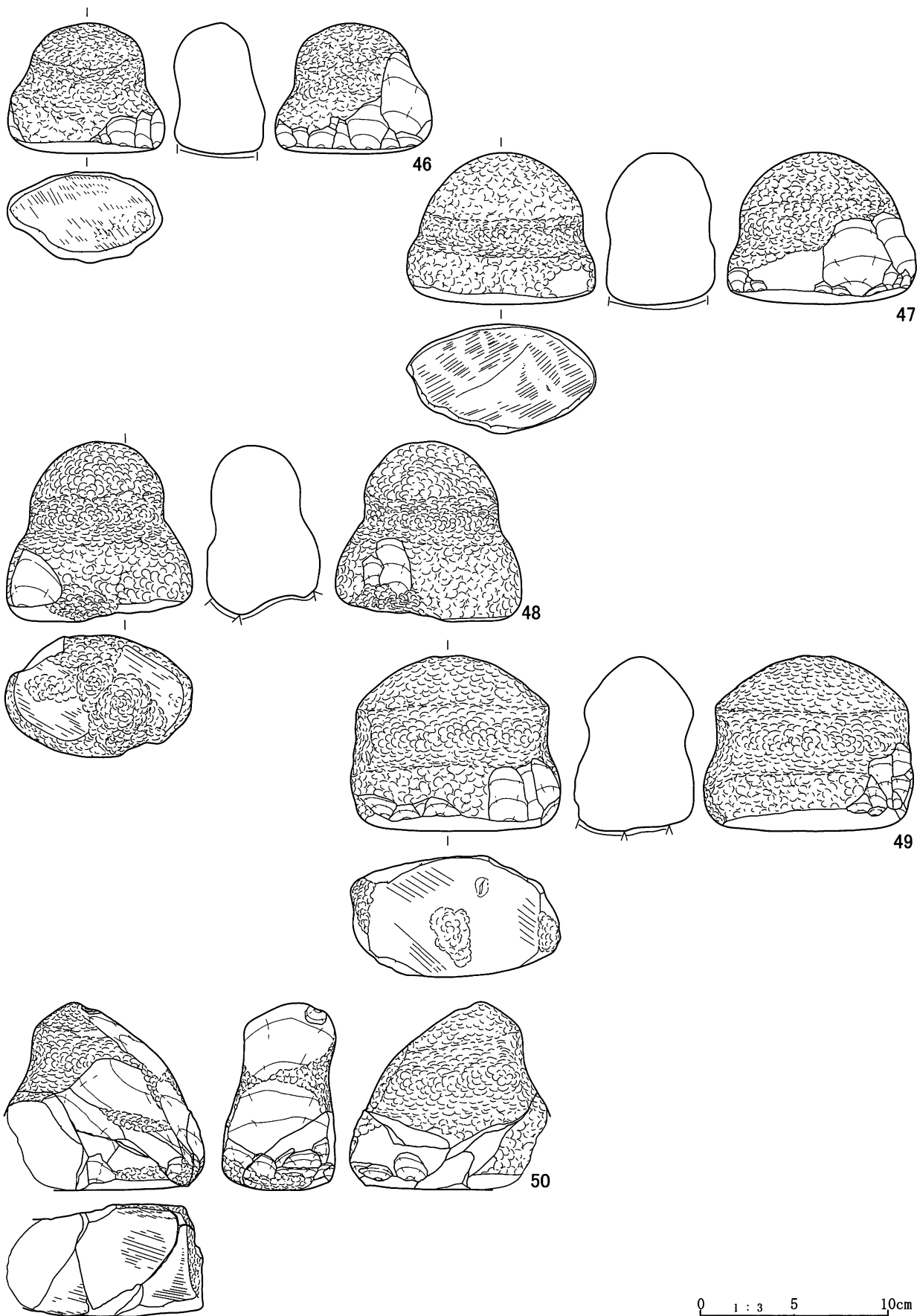
図VI-133 縄文時代包含層出土礫石器(3)



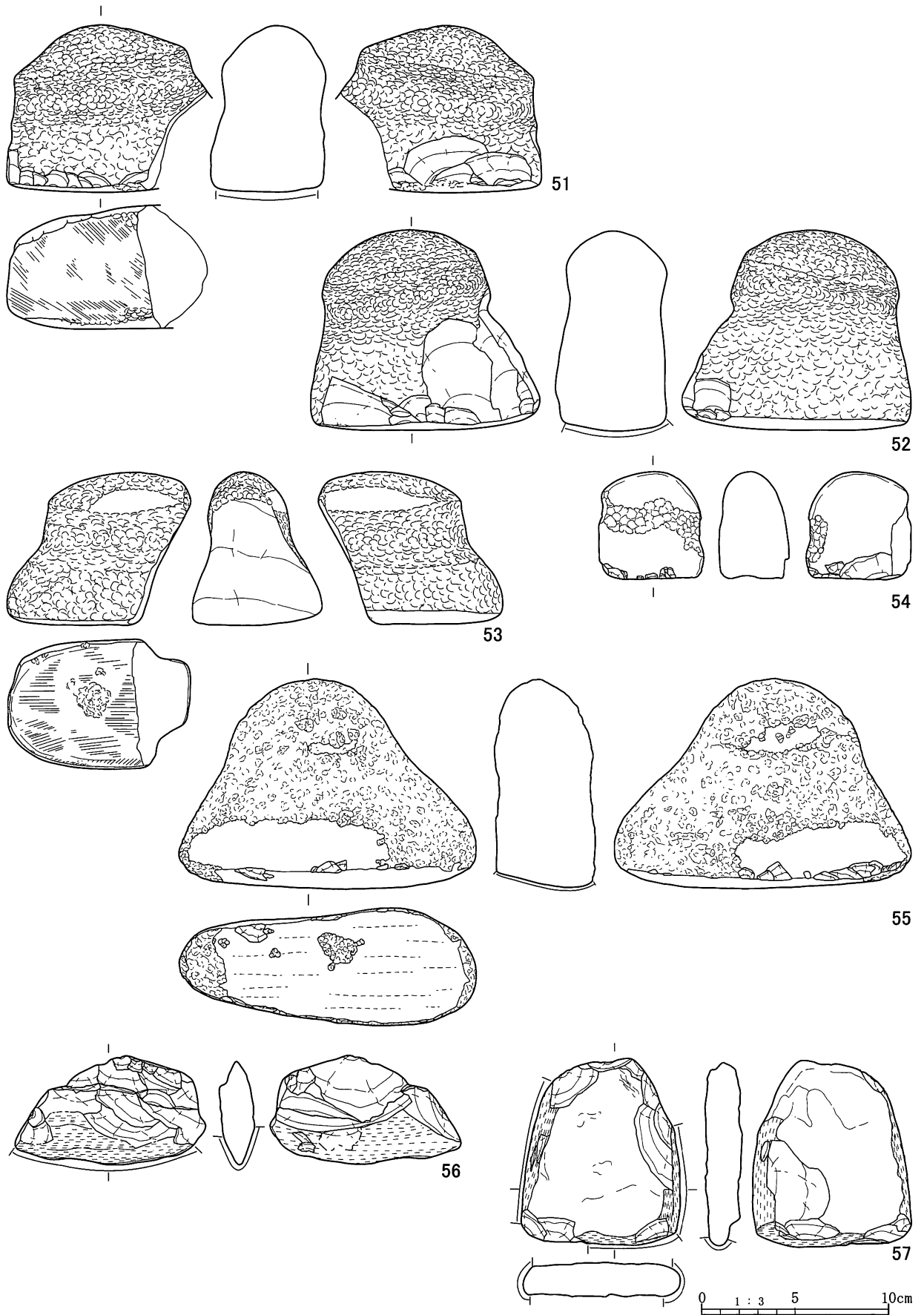
図VI-134 縄文時代包含層出土礫石器(4)



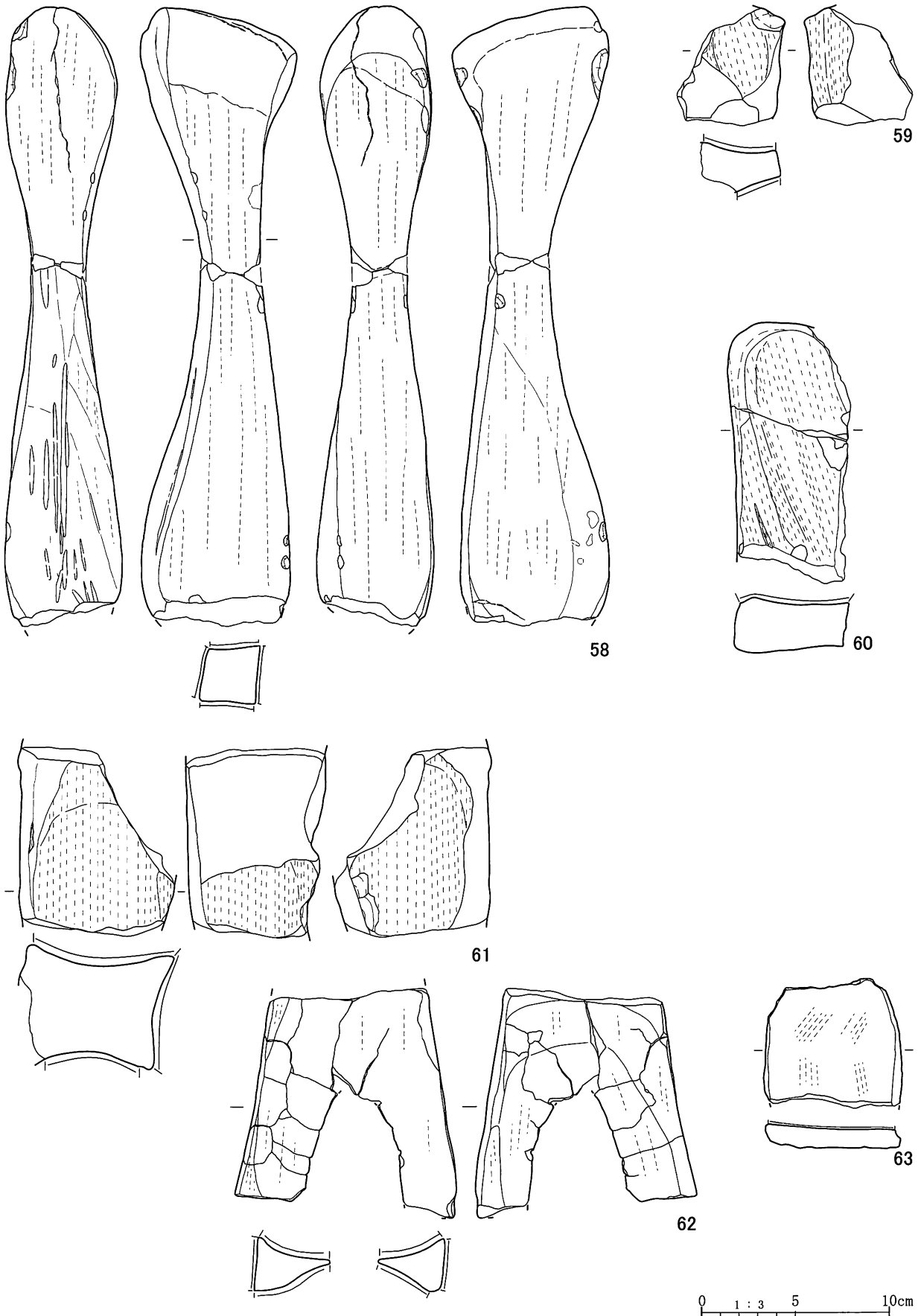
図VI-135 縄文時代包含層出土礫石器(5)



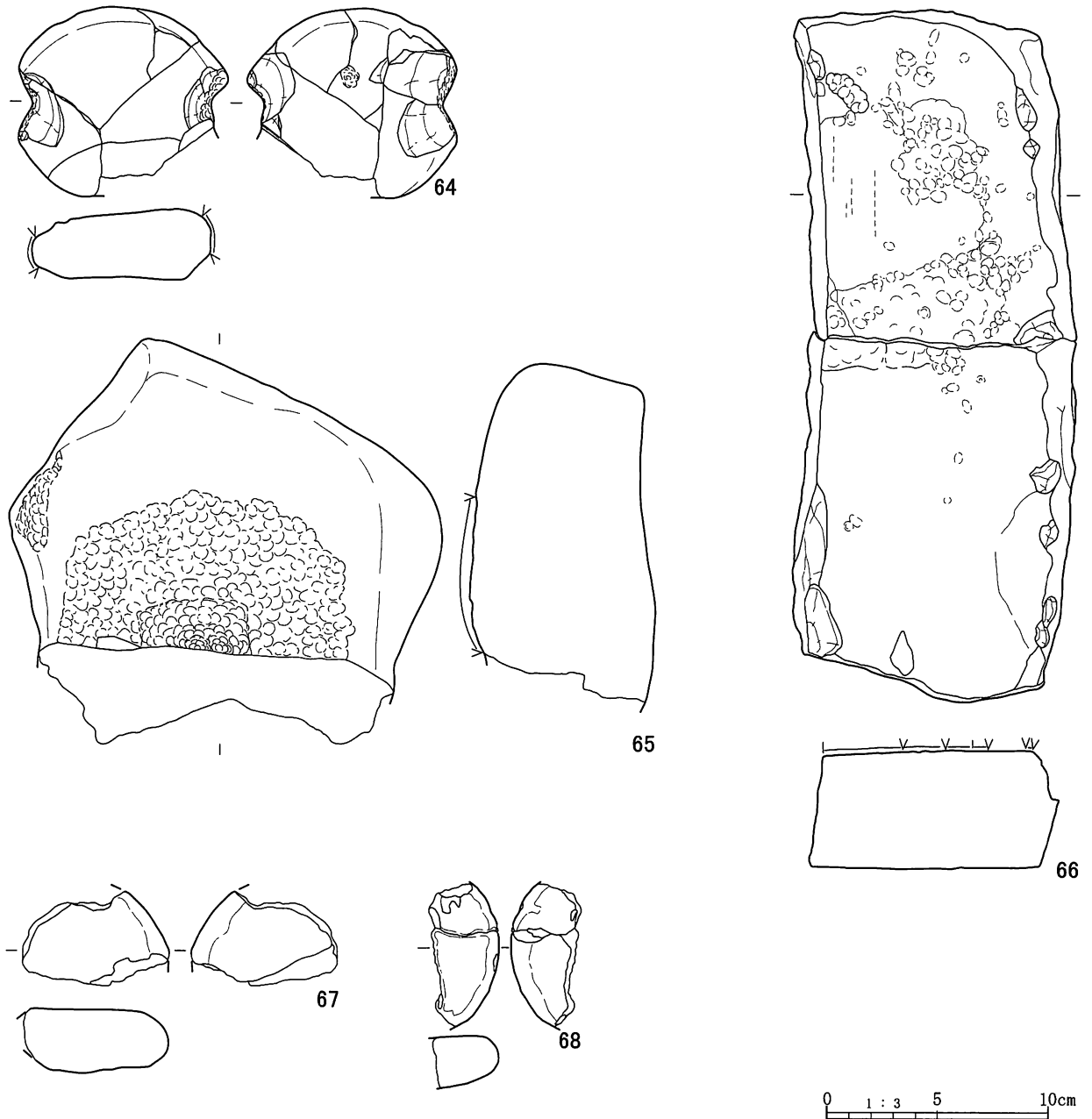
図VI-136 縄文時代包含層出土礫石器(6)



図VI-137 縄文時代包含層出土礫石器(7)



図VI-138 縄文時代包含層出土礫石器(8)



図VI-139 縄文時代包含層出土礫石器(9)及び土製品

包含層出土土製品 (図VI-139 図版162)

土製品 (67・68)

67・68 は土製品で、いわゆるサツマアゲ状土製品である。完形品のものはない。また、風化が著しく破断面は磨滅している。

表Ⅵ-61 縄文時代包含層出土礫石器属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-131-1	159-1-1	-	AB-23-1-264	石斧	A	Vc	-	AB-23	34.0	32.0	10.0	23.1	Sa.	
VI-131-2	159-1-2	-	AJ-21-1-43	石斧	A	VbL	-	AJ-21	72.0	38.0	11.0	49.0	Gr-Mud.	
VI-131-3	159-1-3	-	AL-8-3-29	石斧	A	VbL	-	AL-8	90.0	49.0	14.0	102.6	Gr-Mud.	
VI-131-4	159-1-4	-	AE-21-3-12	石斧	A	VbL	-	AE-21	90.0	40.0	13.0	75.0	Gr-Mud.	
VI-131-5	159-1-5	-	AF-8-3-27	石斧	A	VbL	-	AF-8	93.0	51.0	13.0	69.1	Sa.	
VI-131-6	159-1-6	-	AD-18-1-1	石斧	A	VbU	-	AD-18	109.0	42.0	16.0	110.0	Bl-Sch.	
VI-131-7	159-1-7	-	AK-7-2-16	石斧	A	VbL	-	AK-7	(51.0)	45.0	11.0	35.9	Ser.	被熱
VI-131-8	159-1-8	-	AH-7-1-35	石斧	A	VbL	-	AH-7	(109.0)	45.0	29.0	169.6	Gr-Mud.	
VI-131-9	159-1-9	-	AM-16-1-73	石斧	A	VbL	-	AM-16	89.8	25.0	11.0	47.8	Gr-Mud.	
VI-131-10	159-1-10	-	AG-22-2-35	石斧	B	VbU	-	AG-22	71.0	46.0	22.0	105.0	Gr-Mud.	
VI-131-11	159-1-11	-	AB-19-2-8	石斧	B	VbU	-	AB-19	134.1	62.9	36.2	475.0	Gr-Mud.	
VI-131-12	159-1-12	-	O-24-3-423	たたき石	I A1	VI	-	O-24	155.0	68.0	36.0	470.0	Sa.	
VI-131-13	159-1-13	-	M-27-3-5	たたき石	I A1	Vc	-	M-27	156.0	60.0	24.8	315.0	Sa.	
VI-131-14	159-1-14	-	AG-23-1-15	たたき石	I A1	VbU	-	AG-23	130.0	53.0	19.0	200.0	Sa.	
VI-131-15	159-1-15	-	AH-9-1-55	たたき石	I A1	Vc	-	AH-9	176.0	86.0	27.0	600.0	Sa.	
VI-132-16	159-1-16	-	AH-22-1-32	たたき石	I A2	VbL	-	AH-22	164.0	49.0	26.0	355.0	Sa.	
VI-132-17	159-1-17	-	AC-18-2-22	たたき石	I A3	VbL	-	AC-18	121.0	70.0	38.0	395.0	Sa.	
VI-132-18	159-1-18	-	AK-8-2-17	たたき石	I A3	VbL	-	AK-8	111.0	54.0	34.0	225.0	Sa.	
VI-132-19	159-1-19	-	AE-8-4-21	たたき石	I A3	VI	-	AE-8	154.0	78.0	36.0	550.0	Sa.	
VI-132-20	159-1-20	-	AL-19-4-133	たたき石	I A3	VbL	-	AL-19	225.0	83.7	38.4	870.0	Sa.	
VI-132-21	159-1-21	-	M-28-1-36	たたき石	I A3	Vc	-	M-28	159.0	58.0	36.0	440.0	Sa.	
VI-132-22	159-1-22	-	AI-9-1-71	たたき石	I B1	VbL	-	AI-9	144.0	72.0	46.0	780.0	Sa.	
VI-133-23	160-1-1	-	AB-21-3-25	たたき石	I B1	VbL	-	AB-21	148.0	63.0	48.0	345.0	Sa.	
VI-133-24	160-1-2	-	AK-21-3-18	たたき石	I B1	VbU	-	AK-21	182.0	58.0	36.0	530.0	Sa.	
VI-133-25	160-1-3	-	AJ-19-2-100	たたき石	II A3	VbL	-	AJ-19	125.1	96.7	32.0	490.0	Sa.	
VI-133-26	160-1-4	-	AA-23-3-51	たたき石	II A2	VbL	-	AA-23	102.0	74.0	47.0	615.0	Sa.	
VI-133-27	160-1-5	-	N-22-2-9	たたき石	II A3	VbU	-	N-22	88.3	61.3	24.3	165.0	Sa.	
VI-133-28	160-1-6	-	AE-13-2-39	たたき石	II B1	VbL	-	AE-13	(115.0)	79.0	43.0	555.0	Sa.	
VI-133-29	160-1-7	-	O-27-3-17	たたき石	II B1	VI	-	O-27	126.0	67.0	31.0	345.0	Sa.	
VI-133-30	160-1-8	-	AM-7-3-15	たたき石	II B2	VbU	-	AM-7	83.9	64.7	47.2	447.0	Gr-Mud.	被熱
VI-134-31	160-1-9	-	AA-23-1-50	たたき石	II B2	Vc	-	AA-23	102.0	81.0	65.0	730.0	Gr-Mud.	
VI-134-32	160-1-10	-	N-26-2-78	たたき石	II B3	VbU	-	N-26	71.0	50.0	21.0	560.0	Sa.	
VI-134-33	160-1-11	-	AM-10-3-107	たたき石	III A	VI	-	AM-10	95.0	76.0	47.0	400.0	Sa.	
VI-134-34	160-1-12	-	AB-19-1-9	たたき石	III B	VbL	-	AB-19	61.0	58.0	41.0	210.0	Sa.	
VI-134-35	160-1-13	-	AI-18-2-30	たたき石	V	VbL	-	AI-18	69.2	58.7	41.1	280.0	Gr-Mud.	
VI-135-36	160-1-14	-	AK-23-1-9	たたき石	V	VbU	-	AL-21	85.0	79.0	52.0	370.0	Gni.	
VI-135-37	160-1-15	-	AG-23-1-16	たたき石	V	VbL	-	AG-23	84.0	63.0	42.0	300.0	Gni.	
VI-135-38	160-1-16	-	AL-21-1-42	たたき石	V	VbL	-	AK-23	77.0	57.0	42.0	299.0	Gr-Mud.	
VI-135-39	160-1-17	-	AM-21-2-22	たたき石	V	VbU	-	AM-21	105.0	58.0	47.0	315.0	Gr-Mud.	
VI-135-40	160-1-18	-	AH-18-1-414	たたき石	V	VbL	-	AH-18	(41.6)	73.2	43.4	147.0	Gr-Mud.	
VI-135-41	160-1-19	-	AM-22-1-4	扁平打製石器	-	VbU	-	AM-22	78.0	60.0	21.0	120.0	Sa.	
VI-135-42	160-1-20	-	AB-20-1-19	扁平打製石器	-	VbL	-	AB-20	88.0	65.0	17.0	90.0	Sa.	
VI-135-43	160-1-21	-	AM-11-1-55	扁平打製石器	-	VbL	-	AM-11	161.0	110.0	21.0	470.0	Sa.	
VI-135-44	160-1-22	-	AH-9-1-59	すり石	A	Vc	-	AH-9	104.0	70.0	44.0	270.0	Sa.	
VI-135-45	160-1-23	-	AM-10-2-105	すり石	A	VI	-	AM-10	124.0	87.0	57.0	860.0	Sa.	
VI-136-46	161-1-1	-	AC-22-4-9	すり石	D	Vc	-	AC-22	83.0	70.0	49.0	335.0	Sa.	
VI-136-47	161-1-2	-	AN-11-4-20	すり石	D	VbL	-	AN-11	101.0	81.0	53.0	590.0	Sa.	
VI-136-48	161-1-3	-	AG-21-4-53	すり石	D	VbL	-	AG-21	96.9	97.8	59.5	705.0	Sa.	
VI-136-49	161-1-4	-	AL-8-3-25	すり石	D	-	-	AL-8	93.5	112.3	63.8	940.0	Sa.	
VI-136-50	161-1-5	-	AC-21-2-17	すり石	D	VbU	-	AC-21	100.0	105.0	60.0	729.0	Sa.	被熱
VI-137-51	161-1-6	-	AL-23-1-3	すり石	D	VbU	-	AL-23	107.0	89.0	66.0	809.0	Sa.	被熱
VI-137-52	161-1-7	-	AE-22-2-13	すり石	D	VbL	-	AE-22	(105.8)	122.4	58.6	1065.0	Sa.	
VI-137-53	161-1-8	-	AK-22-4-21	すり石	D	Vc	-	AK-22	87.2	77.0	66.0	700.0	Sa.	
VI-137-54	161-1-9	-	Y-21-4-42	すり石	D	VI	-	Y-21	123.0	118.0	30.0	152.0	Sa.	
VI-137-55	161-1-10	-	W-27-3-99	すり石	D	VbL	-	W-27	157.5	1300.0	Sa.	1300.0	Sa.	
VI-137-56	161-1-11	-	AD-21-1-74	石鋸	-	VbU	-	AD-21	102.0	58.0	22.0	99.0	Sa.	
VI-137-57	161-1-12	-	AE-20-1-62	石鋸	-	VbL	-	AE-20	99.8	84.0	19.4	215.0	Sa.	
VI-138-58	161-1-13	VST19	-	砥石	-	VbL	-	AK-15	(327.5)	79.2	62.4	1520.0	Sa.	
VI-138-59	161-1-14	-	Z-20-3-1	砥石	-	VbU	-	Z-20	(62.0)	57.0	26.0	65.0	Sa.	被熱
VI-138-60	161-1-15	-	AA-22-3-111	砥石	-	VbL	-	AA-22	(139.0)	(66.0)	30.0	375.0	Sa.	
VI-138-61	161-1-16	-	AM-9-3-64	砥石	-	VbL	-	AM-9	(101.0)	83.0	75.0	640.0	Sa.	
VI-138-62	161-1-19	-	W-21-1-42	砥石	-	Vc	-	W-21	(123.0)	118.0	30.0	266.0	Sa.	

表VI-61 縄文時代包含層出土礫石器属性表(続き)

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-138-63	161-1-17	-	L-24-22	砥石	-	KR	-	L-24	(69.0)	74.0	14.0	92.0	Sa.	被熱
VI-139-64	161-1-18	-	AM-20-2-62	石錘	-	Va	-	AM-20	83.1	98.8	34.7	285.0	Sa.	
VI-139-65	162-1-1	-	AA-20-4	台石	-	Va	-	AA-20	(196.0)	183.0	84.0	3600.0	Sa.	
VI-139-66	162-1-2	VST29	-	台石	-	VbU	-	Y-26	313.0	123.0	53.0	3854.0	Sa.	

表VI-62 縄文時代包含層出土土製品属性表

挿図 番号	図版 番号	個体 名称	遺物 番号	遺物名	分類	層位	遺構名	グリッド	計測値(mm)			重量(g)	材質	備考
									長軸	短軸	厚さ			
VI-139-67	162-2-3	-	AJ-17-2-461	土製品	-	VbL	-	AJ-17	(67.0)	(42.9)	28.2	13.0	Cray.	
VI-139-68	162-2-4	-	AK-16-3-145	土製品	-	VbL	-	AK-16	(64.5)	(31.0)	22.9	7.0	Cray.	

報告書抄録

ふりがな	あつまちょう をちやらせないちやしあと・をちやらせないいせき(1)
書名	厚真町 ヲチャラセナイチャシ跡・ヲチャラセナイ遺跡(1)
副書名	厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査報告書
巻次	5
シリーズ名	厚幌ダム建設事業に伴う発掘調査報告書
シリーズ番号	5
編著者名	天方博章・乾哲也
編集機関	厚真町教育委員会
所在地	〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町165番地の1
発行機関	厚真町教育委員会
発行年月日	2013年3月25日
ふりがな	をちやらせないちやしあと、をちやらせないいせき
収録遺跡	ヲチャラセナイチャシ跡、ヲチャラセナイ遺跡
所在地	ヲチャラセナイチャシ跡：北海道勇払郡厚真町字幌内114 ヲチャラセナイ遺跡：北海道勇払郡厚真町字幌内112-1、114、124
市町村コード	1581
遺跡番号	ヲチャラセナイチャシ跡：100 ヲチャラセナイ遺跡：101
北緯	ヲチャラセナイチャシ跡：42° 45' 59" ヲチャラセナイ遺跡：42° 46' 1"
東経	ヲチャラセナイチャシ跡：142° 0' 1" ヲチャラセナイ遺跡：141° 59' 59"
調査期間	ヲチャラセナイチャシ跡：2008年度：7月8日～10月31日 2010年度：6月1日～11月17日 ヲチャラセナイ遺跡：2008年度：7月8日～10月31日 2009年度：5月14日～7月31日 2010年度：6月1日～11月17日
調査面積	ヲチャラセナイ遺跡：2008年度：4,239㎡(ヲチャラセナイチャシ跡含む) 2009年度：1,003㎡ 2010年度：3,470㎡
調査原因	厚幌ダム建設
種別	ヲチャラセナイチャシ跡：チャシ跡 ヲチャラセナイ遺跡：集落跡 墳墓
主な時代	ヲチャラセナイチャシ跡：アイヌ文化期 ヲチャラセナイ遺跡：縄文時代・擦文文化期・アイヌ文化期
主な遺構	ヲチャラセナイチャシ跡：チャシ跡(アイヌ文化期) ヲチャラセナイ遺跡：竪穴式住居跡・土坑墓・土坑・Tピット・焼土・シカ塚 ・剥片石器集中・剥片集中・礫石器集中・集石(縄文時代)、 土坑・焼土(擦文文化期)、 平地式住居跡・建物跡・土坑墓・獣骨集中(アイヌ文化期)
主な遺物	ヲチャラセナイチャシ跡：鉄斧・鉄鍬(アイヌ文化期) ヲチャラセナイ遺跡：中茶路式・東釧路Ⅳ式・大麻Ⅴ式・円筒下層d式・ シュブノツナイ式・蛇紋岩を含む土器・タブコブ式土器、 石器類(縄文時代)、擦文土器(擦文文化期)、鮫皮着せ腰刀・ 漆器皿・鉄鍋・刀剣類・鉄斧・礫石器(アイヌ文化期)
要約	
ヲチャラセナイチャシ跡は河岸段丘の先端部に立地する丘先式のチャシ跡である。チャシ跡全面は1667年降灰の樽前b火山灰に覆われており、この火山灰を除去後黒色土を3～4cm掘り下げたところで構築面を確認しており、中世段階のものと考えられる。ヲチャラセナイ遺跡のアイヌ文化期の調査では、チャシ跡と同時期と考えられる集落の調査を行っている。縄文時代の調査では、縄文時代前期後半の大型竪穴住居跡や、同時期のシカ塚の調査を行っている。また、集落の構造が明らかになってきており、居住区・墓域・捨て場跡などを区分して土地を利用している様子が伺える。	

厚真町 フチャラセナイチャシ跡
・フチャラセナイ遺跡

—厚幌ダム建設事業に係わる埋蔵文化財発掘調査報告書 5—

発行日 平成 25 年 3 月 25 日

編集・発行 厚真町教育委員会

〒059-1601 北海道勇払郡厚真町京町 165 番地 1

TEL (0145)-27-2321(代)

印刷

ひまわり印刷株式会社

北海道苫小牧市永福町 2 丁目 1-2

TEL 0144-74-4500